

文化学セミナー（言語科学）

Seminar in Cultural Study (Linguistic Science)

学期 後期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 2

年次 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 ○服部範子、綾野誠紀、杉崎鉦司、澤田治、吉田悦子、井口靖

授業の概要 本セミナーでは、あまりにも身近過ぎる我々のことばが、実は不思議に満ち溢れていることについて、言語研究の諸分野の研究に基づいて紹介します。本セミナーを受講することにより、ことばの研究には、どのような課題があり、また、どのように研究を行うのか、その一端を知ることができま

す。幅広い教養、専門知識・技術、課題探求力、批判的思考力、情報受発信力、実践外国語力

予め履修が望ましい科目 【履修にあたってのガイドライン】このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、文化学必修科目「言語科学概論A」及び「言語科学概論B」の単位を取得していることが望ましい。

学習の目的 ことばの科学研究にはどのような課題があり、その課題にどのような方法で取り組んでいるのかに関して、基本的な知識を身につける。

教科書 各担当教員が準備する資料を用います。

成績評価方法と基準 6名の教員がそれぞれの授業の最後に小テストを実施するか、レポート課題を出します。各20点×6=120点、100点満点に換算して評価します。

学習の到達目標 ことばの科学研究における課題と研究方法の基本を理解し、自ら課題を見つけ、その課題に取り組む方法を考えることができるようになる。

オフィスアワー 各担当者のオフィスアワーは授業時に指示があります。セミナー全体に関する質問は、代表（服部）が受け付けます（水曜10：30－11：30）。

本学教育目標との関連 感性、主体的学習力、

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回：導入、音声学における研究課題と研究方法 1 [服部範子]
- 第2回：音声学における研究課題と研究方法 2
- 第3回：音声学における研究課題と研究方法 3
- 第4回：言語獲得における研究課題と研究方法 1 [杉崎鉦司]
- 第5回：言語獲得における研究課題と研究方法 2
- 第6回：言語獲得における研究課題と研究方法 3
- 第7回：言語獲得における研究課題と研究方法 4
- 第8回：意味論・語用論における研究課題と研究方法 1 [澤田治]

- 第9回：意味論・語用論における研究課題と研究方法 2
- 第10回：意味論・語用論における研究課題と研究方法 3
- 第11回：意味論・語用論における研究課題と研究方法 4 [吉田悦子]
- 第12回：意味論・語用論における研究課題と研究方法 5
- 第13回：意味論・語用論における研究課題と研究方法 6
- 第14回：言語とコミュニケーションに関する研究課題と研究方法 [井口靖]
- 第15回：言語と情報に関する研究課題と研究方法

文化学セミナー（中国語学・中国文学）

Seminar in Cultural Study (Chinese Language & Chinese Literature)

学期 後期 開講時間 月9,10 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 2

年次 授業の方法 講義

担当教員 湯浅陽子（人文学部）、○福田和展（人文学部）、花尻奈緒子（人文学部特任講師）

授業の概要 中国の古典文学、中国の現代文学、東南アジアの華人文学、中国の言語・文字、東アジアの言語・文字について、3人の担当教員がリレー方式で講義する。

学習の目的 今後、中国や東アジア、東南アジアの言語や文学、またはその背景にある歴史や社会について専門的に学んでゆくための基礎知識を養う。

学習の到達目標 中国やアジアの文学・言語にまつわる様々な問題について認識し、考察の手段を身につける。

本学教育目標との関連 モチベーション、専門知識・技術、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、「文学概論I～L」及び「言語科学概論C～D」の中から2単位以上を取得していることが望ましい。また、「中国の文学」或いは「中国の言語」等の集中講義の履修や中国語の学習が求められる。

発展科目 中国語の文学、中国の言語、中国語学演習、中国文学演習

教科書 授業で指示

成績評価方法と基準 出席回数、レポートで判断する。

オフィスアワー 月～金の授業、会議時間以外。

授業計画・学習の内容

学習内容

花尻先生担当分

①中国現代文学史（五四期から民国）

②中国現代文学史（中華人民共和国成立以降）

③中国現代文学の主要テーマ

④現代文学と政治・社会

⑤台湾文学

湯浅先生担当分

中国の古典詩の持つ性格について、その制作される場所、あるいは主要なテーマを切り口に考える。

①詩の作られる場（1）宴

②詩の作られる場（2）日常生活

③詩のテーマ（1）自然物

④詩のテーマ（2）時間

⑤詩のテーマ（3）社会

福田先生担当分

①中国基礎知識

②中国の言語

③漢字と漢字の文化圏

④漢字文化と東アジアの文字文化1（韓国、台湾）

⑤漢字文化と東アジアの文字文化2（ベトナム、日本）

文化学セミナー（西洋史・東洋史・美術史）

Seminar in Cultural Study (Western History, Eastern History, Art History)

学期 後期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 2

年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村耕一、森脇由美子、酒井恵子、○藤田伸也（いずれも人文学部）

授業の概要

文化学科学学生が2年次後期に履修する文化学セミナーの一つ。

西洋史・東洋史・美術史の各分野において専門研究が始められるように、各分野の基礎知識や研究方法を学ぶ研究入門セミナー。

学習の目的 歴史学の一分野である西洋史学・東洋史学・美術史学のそれぞれにおける学問的基礎知識を修得し、研究方法を理解する。

学習の到達目標 西洋史・東洋史・美術史の各分野において、基礎知識を得て研究方法を学んだことにより、専門研究が始められるようになる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション,

主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 2年次前期末までに、またはこのセミナーと並行して、文化学必修科目（基礎）「歴史学概論A～F」から2単位と、文化学必修科目（発展）「比較史学」、「美術史A～D」、「美術理論A～B」から2単位程度を取得していることが望ましい。

教科書 適宜プリントを配布します。

成績評価方法と基準 各教員毎の評価を総合します。

オフィスアワー 各教員の担当授業科目シラバスで確認して下さい。

授業計画・学習の内容

学習内容

4名の教員（西洋史2、東洋史1、美術史1）によるセミナーです。

初回に取りまとめ役の藤田がセミナー全体の説明を行い、次いで担当科目の美術史について話をします。その後は西洋史、東洋史の順です。

第1回 藤田 (1) セミナー全体の説明（進め方、評価方法）／美術史1 美術史とは

第2回 藤田 (2) 美術史2 絵の見方

第3回 藤田 (3) 美術史3 世界と日本の美術館

第4回 野村 (1) 西洋史（ヨーロッパ史）1 メタヒストリー、あるいは歴史と向き合うということ

第5回 野村 (2) 西洋史（ヨーロッパ史）2 メタヒストリー、あるいは歴史と向き合うということ

第6回 野村 (3) 西洋史（ヨーロッパ史）3 メタヒストリー、あるいは歴史と向き合うということ

第7回 野村 (4) 西洋史（ヨーロッパ史）4 メタヒストリー、あるいは歴史と向き合うということ

第8回 森脇 (1) 西洋史（アメリカ史）1

第9回 森脇 (2) 西洋史（アメリカ史）2

第10回 森脇 (3) 西洋史（アメリカ史）3

第11回 東洋史1

第12回 東洋史2

第13回 東洋史3

第14回 東洋史4

第15回 藤田 (4) 美術史4／全体のまとめ

※授業の順番等が変更される場合もあります。初回の授業時に説明します。

文化学セミナー（東洋哲学・東洋思想）

Seminar in Cultural Study (Oriental Philosophy & Oriental Thought)

学期 後期 開講時間 月9,10 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 2

年次 授業の方法 演習

担当教員 〇片倉 望、遠山 敦、久間泰賢（人文学部文化学科）

授業の概要 テキストの講読に基づいて、東洋の哲学・思想における基礎的な概念や考え方を理解するとともに、研究の進め方についてその基本を身につける。

学習の目的 東洋の思想とは何か、という問いに答えられるようになる。

学習の到達目標 東洋の学問を進めていく方法がわかるようになる。

本学教育目標との関連 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力

予め履修が望ましい科目 このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、またはこのセミナーと並行して、文化学必修科目「哲学概論A～B、倫理学概論A～D、比較思想、生命倫理論A～B」の中から4単位程度を取得することが望ましい。

教科書 適宜、プリントにて配布。

成績評価方法と基準 受講態度・質問への受け答え：50% レポート50%

オフィスアワー 講義終了後1時間程度

授業計画・学習の内容

学習内容

◆日本思想研究法入門～『歎異抄』を手がかりに～

第1回：浄土教に関する基本的理解

第2回：『歎異抄』を読む①

第3回：『歎異抄』を読む②

第4回：『歎異抄』を読む③

第5回：『歎異抄』を読む④

◆中国思想研究法入門

第6回：漢文入門

第7回：原典批判の方法

第8回：清朝考証学とは何か

第9回：追体験の歴史と思想

第10回：空間的歴史軸からみた思想

◆インド思想研究法入門

第11回：導入：インド哲学・仏教学の方法論（講義）

第12回：『般若心経』を読む（1）：仏教の基本概念（文献講読）

第13回：『般若心経』を読む（2）：「空」思想とは何か（文献講読）

第14回：『般若心経』を読む（3）：「悟り」は実在するのか（文献講読）

第15回：総括：仏教における言語と真理（討議を含む）

文化学セミナー（文化人類学・文化社会学）

Seminar in Cultural Study (Cultural Anthropology and Cultural Sociology)

学期 後期 **開講時間** 月 9, 10 **単位** 2 **対象** 2012年度以降入学生用(文化) **年次** 学部(学士課程): 2

年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 ○村上直樹（人文学部），立川陽仁（人文学部），ティエリー・グットマン（人文学部），深田淳太郎（人文学部）

授業の概要 世界各地域の民族と文化を、文化人類学及び文化社会学の視点から研究していくために必要な諸概念、諸理論を学ぶためのセミナーである。

学習の目的 文化人類学及び文化社会学における諸概念、諸理論を理解し、それらを用いて自分が選択したテーマに関する研究を進めることができる。

学習の到達目標 文化人類学及び文化社会学における諸概念、諸理論を理解する。

本学教育目標との関連 主体的学習力、論理的思考力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、文化学必修科目「文化人類学概論A～B、社会

学概論A～B、比較文化論、比較社会論」の中から最低限4単位を取得していることが望ましい。また、このセミナーと並行して、「文化人類学概論B、社会学概論B、比較文化論」の中から2単位を履修することが望ましい（ただし、未履修の場合）。

教科書 第1回目の授業の時に報告用の文献を指示する。

成績評価方法と基準 平常点、報告、レポートなど

オフィスアワー 火曜日の午後（くわしい時間帯については、開講時に指示する）

その他 第1回目の授業の時に、報告用の文献を指示し、各学生の報告日等を決めます。必ず第1回目から受講すること。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：イントロダクション、セミナーの進め方の説明、報告分担の決定

第2～3回：文化接触

第4～6回：シティズンシップ

第7～9回：家族・親族

第10～12回：伝統の創造、宗教シンボリズム

ム、予言の自己成就

第13～14回：身体技法、暗黙知

第15回：まとめ

*これらのトピックにおける諸概念、諸理論を、各担当教員の講義と学生による報告を通して学んでいく。

文化学セミナー（地理学）

Seminar in Cultural Study (Geography)

学期 後期 **開講時間** 火 1, 2 **単位** 2 **対象** 2012年度以降入学生用(文化) **年次** 学部(学士課程): 2年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle
担当教員 ○中川正・安食和宏・谷口智雅・森正人・北川真也

授業の概要 文化と環境の地理学的アプローチを学ぶ。

学習の目的 この授業を通して、学生は、文化と環境に対して、地理学的にアプローチできるようにする。

学習の到達目標 授業が終了した時点で、学生は、文化・社会現象に、地域的な視点、環境的な視点、景観的な視点から見る習慣を獲得することができる。また、それらの視点からパターンを発見し、要因を説明し、意味を解釈し、応用する習慣を獲得することができる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術、課題探求力

予め履修が望ましい科目 2年次前期末まで

授業計画・学習の内容

学習内容

テーマは以下のとおりである。

第1回～3回 地理学の方法（中川）

第4回～6回 地理的観察法（安食）

第7回～9回 自然環境分析法（谷口）

に、「地理学概論、環境学概論、地域環境論、文化環境論、自然環境論」の中から最低限2単位を取得していることが望ましい。

発展科目 日本の風土と地誌A～B、アジアオセアニアの風土と地誌A～D、ヨーロッパの風土と地誌A～B、アメリカの風土と地誌A～B

教科書 必要な資料は授業で配布する。

成績評価方法と基準 5つのテーマごとに課題が出され、その課題の総合点が、評価となる。地理学方法論20%、観察法20%、自然環境分析20%、地図の利用法20%、文字データ分析20%

オフィスアワー 金曜日16:30～17:30 共通教育2号館3階 中川研究室

その他 課題の提出は出席を前提とする。

第10回～12回 地図分析法（森）

第13回～15回 文字データ分析法（北川）

それぞれの回で、講義、ワークショップ、授業内課題の提出を行う。

2012年度以降入学生用(文化)言語科学概論A Introduction to Language Science A 2011年度以前入学生用(文化)言語科学概論A Introduction to Language Science A

学期 前期 開講時間 火 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 服部範子 (開講責任者)、綾野誠紀、

授業の概要 言語学の基礎を学ぶ。

学習の目的 この講義では、言語学(ことばの「科学」)の基礎を学びます。言語学関連の講義・演習科目を受講するにあたって必要不可欠な基礎知識を、講義と練習問題を通して身につけることを目指します。

学習の到達目標 言語学関連の講義・演習科目を受講するために必要不可欠な基礎知識を身につけます。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力

発展科目 英語学演習、言語科学演習

教科書 各担当教員が準備する資料を用います。

成績評価方法と基準 担当者別の筆記試験と授業への参加度を総合し、60%以上の得点で合格とします。

オフィスアワー 各講義担当者のオフィスアワーは授業時に指示があります。講義全体に関する質問は開講責任者(服部)が受け付けます(水曜10:30-11:30)。

その他

言語学を学びたい学生諸君や、英語の教員免許の取得を希望する学生諸君、また、人文科学の諸分野との関わりで言語学の基礎を学びたいという学生諸君には必須の講義です。前後期を通しての履修を推奨。

言語学関連の講義・演習科目を履修する際には、本講義の履修が前提になります。

授業計画・学習の内容

学習内容

講義スケジュール：

[前期]

第1回-6回：ことばの音について[服部範子]

第7回：服部担当分試験

第8回-13回：単語の構造について[綾野誠紀]

第14回：綾野担当分試験

第15回：まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **言語科学概論B Introduction to Language Science B**
2011年度以前入学生用(文化) **言語科学概論B Introduction to Language Science B**

学期 後期 開講時間 火 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 吉田悦子、杉崎鉦司

授業の概要 言語学の基礎を学ぶ。とくに文法と意味の側面に注目して、ことばの働きを学ぶ。

[テキスト] 各担当教員が準備する資料を用いる。

[参考書] 各担当教員が講義時に指定する。

学習の目的 文法的知識や文法構造について、文法用語や樹形図を利用して説明することができる。また、ことばの意味の役割や意味構造についての知識を得て、コミュニケーションのしくみを説明することができる。

成績評価方法と基準 担当者別の筆記試験と授業への参加度を総合し、60%以上の得点で合格とします。

オフィスアワー 各講義担当者のオフィスアワーは授業時に指示があります。講義全体に関する質問は開講責任者(吉田)が受け付けます。(吉田:木曜5・6限)

学習の到達目標 この講義では、言語学(ことばの「科学」)の基礎を学びます。言語学関連の講義・演習科目を受講するにあたって必要不可欠な基礎知識を、講義と練習問題を通して身につけることを目指します。

その他

言語学を学びたい学生諸君や、英語の教員免許の取得を希望する学生諸君、また、人文科学の諸分野との関わりで言語学の基礎を学びたいという学生諸君には必須の講義です。前後期を通しての履修を推奨。

言語学関連の講義・演習科目を履修する際には、本講義の履修が前提になります。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書

授業計画・学習の内容

学習内容

講義スケジュール:

[後期]

第1回オリエンテーション

第2回-7回: 文の構造について[杉崎鉦司]

第8回: 杉崎担当分復習テスト

第9回-14回: ことばの意味と使用について
[吉田悦子]

第15回: 吉田担当分復習テスト

2012年度以降入学生用(文化)
2011年度以前入学生用(文化)

言語科学概論C

言語科学概論C

language science C

language science C

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 福田 和展 (人文学部)

授業の概要 現代中国語の音声、文法、語彙、文字を科学的に分析する。

文法・講読

学習の目的 中国語学基礎知識の習得。

発展科目 中国語関連科目

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 プリントを使用。

成績評価方法と基準 出席、授業態度、レポート等力などから総合的に判断。

予め履修が望ましい科目 共通教育中国語Ⅰ

オフィスアワー 月～金までの授業、会議時間以外。

授業計画・学習の内容

学習内容

以下のテーマについて15回の授業を行う。

1 中国語とは

2 中国語音声学と音韻学

3 中国の文字

4 中国語の文法

5 日中語彙比較

2012年度以降入学生用(文化)**考古学・文化財学概論A**
Introduction to Archaeology and Cultural Properties A
2011年度以前入学生用(文化)**考古学・文化財学概論A**
Introduction to Archaeology and Cultural Properties A

学期 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **対象** 博物館学芸員資格取得必修科目「博物館概論 2単位」
の読み替え科目として履修する場合は受講対象学生に制限は設けない。 **年次** 学部(学士課程): 1
年次, 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 小澤 毅(人文学部)

授業の概要 考古学・文化財学の基礎について学習する。

予め履修が望ましい科目 日本史をはじめとする歴史系の基礎的授業科目

学習の目的 考古学・文化財学の基礎や対象となる資料の特性を理解し、研究および公開・利用の方法を考える。

発展科目 日本考古学特講A～H、日本考古学演習A・B、日本考古学実技演習A・B

学習の到達目標 学芸員や発掘調査担当者として必要な考古学・文化財学に関する基礎的知識を修得する。

教科書 泉拓良・上原真人編『考古学—その方法と現状—』放送大学教育振興会、2009年

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術

成績評価方法と基準 試験60%、授業時の小テスト40%

オフィスアワー 火曜日15:00～16:00

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回～第3回 考古学・文化財学とは何か

第4回～第5回 発掘調査の歴史と実際

第6回～第8回 考古学があつかう年代

第9回～第11回 年代の理化学的測定法

第12回～第14回 層位学と年代

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**考古学・文化財学概論B**
Introduction to Archaeology and Cultural Properties B
2011年度以前入学生用(文化)**考古学・文化財学概論B**
Introduction to Archaeology and Cultural Properties B

学期 後期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **対象** 博物館学芸員資格取得必修科目「博物館資料論2単位」の読み替え科目として履修する場合は、受講対象学生に制限は設けない。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 小澤 毅(人文学部)

授業の概要 考古学・文化財学の基礎について学習する。

予め履修が望ましい科目 日本史をはじめとする歴史系の基礎的授業科目

学習の目的 考古学・文化財学の基礎や対象となる資料の特性を理解し、研究および公開・利用の方法を考える。

発展科目 日本考古学特講A～H、日本考古学演習A・B、日本考古学実技演習A・B

学習の到達目標 学芸員や発掘調査担当者として必要な考古学・文化財学に関する基礎的知識を修得する。

教科書 泉拓良・上原真人編『考古学—その方法と現状—』放送大学教育振興会、2009年

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術

成績評価方法と基準 試験60%、授業時の小テスト40%

オフィスアワー 火曜日15:00～16:00

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回～第3回 型式学と年代
第4回～第5回 セリエーションとは何か
第6回～第8回 遺物の機能をさぐる

第9回～第10回 使用痕分析と実験考古学
第11回～第12回 民具と考古学
第13回～第15回 考古学と分布

2012年度以降入学生用(文化)

社会学概論A

Sociology A

2011年度以前入学生用(文化)

社会学概論A

Sociology A

学期 前期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 永谷 健 (人文学部)

授業の概要 近現代の社会に立ち現れる様々な問題に関して、社会学という学問分野はどのような視点で研究を行い、また、どのような知見をもたらしてきたのか。この講義では、具体的な社会問題や日常的な話題（人間関係、家族、集団などに関わるもの）を取り上げながら、社会学の分析視角や社会学理論のなかでも著名なもの、独自のものについて概説する。

学習の目的 社会学の分析視角や社会学理論が持つユニークな特色、そして、それらが様々な社会問題を観察し分析するのに有効である点について理解を深める。

学習の到達目標 社会問題に関するいくつかの基本的なトピックを、社会的な視点や社

会学理論をもとに説明できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 とくになし。

予め履修が望ましい科目 とくになし。

発展科目 日本社会演習

教科書 授業の中で指示する。

成績評価方法と基準 筆記試験50%、レポート50%、計100%。

オフィスアワー 毎週月曜日16:20～17:00

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 社会的な視点とは？：個人を拘束する社会・文化
- 第2回 社会と個人の関係性
- 第3回 日常世界における「社会」の存在
- 第4回 役割と自己
- 第5回 交換と人間関係
- 第6回 家族の社会学
- 第7回 近代家族の成立と変容

- 第8回 ジェンダー論
- 第9回 中間まとめ
- 第10回 組織と集団の社会学
- 第11回 組織集団と非組織集団
- 第12回 官僚制論とその展開
- 第13回 コンティンジェンシー理論
- 第14回 新しい組織論の展開
- 第15回 試験に向けた総括

2012年度以降入学生用(文化)

社会学概論B

Sociology B

2011年度以前入学生用(文化)

社会学概論B

Sociology B

学期 後期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 永谷 健 (人文学部)

授業の概要 近現代の社会に立ち現れる様々な問題に関して、社会学という学問分野はどのような視点で研究を行い、また、どのような知見をもたらしてきたのか。この講義では、具体的な社会問題や日常的な話題（とくにメディア・情報・地域・消費社会に関わるもの）を取り上げながら、社会学の分析視角や社会学理論のなかでも著名なものについて概説する。

学習の目的 社会学の分析視角や社会学理論が持つユニークな特色、そして、それらが様々な社会問題を観察し分析するのに有効である点について理解を深める。

学習の到達目標 社会問題に関するいくつかの基本的なトピックを、社会的な視点や社

会学理論をもとに説明できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 とくになし。

予め履修が望ましい科目 とくになし。

発展科目 日本社会演習

教科書 授業のなかで指示する。

成績評価方法と基準 筆記テスト50%、レポート50%、計100%。

オフィスアワー 月曜日16:30~17:30

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 社会変容と社会学の視点
- 第2回 情報メディアの変容と生活世界
- 第3回 1960年代までのメディア論
- 第4回 1970年代以降のメディア論
- 第5回 映像文化論とその行方
- 第6回 IT化の進展と組織内コミュニケーション
- 第7回 メディアの変遷と社会的性格

- 第8回 中間まとめ
- 第9回 地域を研究する社会学の視点
- 第10回 都市社会学の伝統的分析視角
- 第11回 郊外化とジェントリフィケーション
- 第12回 消費社会とメディア
- 第13回 消費文化論
- 第14回 消費記号論
- 第15回 試験に向けた総括

2012年度以降入学生用(文化)**文化人類学概論A**

General Topics of Cultural Anthropology A

2011年度以前入学生用(文化)**文化人類学A**

Cultural Anthropology A

学期 前期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 立川 陽仁 (人文学部)

授業の概要 文化人類学において生まれた諸理論について理解する。

学習の目的 ・文化人類学で生まれた諸理論(方法論)の大筋を理解できる。

学習の到達目標

- ・文化人類学で生まれた諸理論の長所と問題点を理解できる。
- ・近代やグローバリズムに潜む問題点の理解に達することができる。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力, 感じる力, 考え

る力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 共通教育の〈教養文化人類学〉、文化人類学(概論)のその他の枝番

発展科目 「〇〇の民族と文化」関連の講義と演習

成績評価方法と基準 授業時間内のレポートあるいは小テストを実施予定。出席はとらない。

オフィスアワー 木曜7限以後。ただし電気がついているときには基本的に来室できる。

授業計画・学習の内容

学習内容

本講義では第1回のオリエンテーションの後、第2回目以後は、以下の理論について解説する。

- ・社会進化論
- ・文化伝播論
- ・機能主義
- ・構造機能主義
- ・心理人類学、パーソナリティ論

- ・新進化論
- ・象徴論
- ・マルクス主義
- ・構造主義
- ・世界システム、グローバリズム
- ・解釈人類学
- ・アクターズ・ネットワーク論

このうちいくつかのものは、2週にわたると思われる。

2012年度以降入学生用(文化)文化人類学概論B

General Topics of Cultural Anthropology B

2011年度以前入学生用(文化)文化人類学B

Cultural Anthropology B

学期 後期 開講時間 水 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 立川 陽仁 (人文学部文化学科)

授業の概要

* 本講義は、共通教育の教養文化人類学の発展系と位置づけられる。

民族誌（フィールドワークの成果報告）をふまえ、各民族の文化のあり方を理解する。

学習の目的

・各民族が共有する生活習慣の理解が深められる。

・反対に、文化の個別性、多様性の理解にも近づける。

学習の到達目標

・一見して一枚岩的にみえる諸文化が実際には多様で、多層的であることが理解できる。

・（たとえば共通教育のレベルで）「正しい」とされたことが、実際には抱えているよ

うな、複雑な問題系を提起し、検討する。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、専門知識・技術、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 共通教育の〈教養文化人類学〉、文化人類学A、文化人類学概論A

発展科目 「〇〇の民族と文化」的な講義、演習。

成績評価方法と基準 小テストとレポートで100%（予定）

オフィスアワー 木曜午後など、研究室に電気がついている時間。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1) オリエンテーション
- 2-3) 文化の定義
- 4-5) 文化相対主義
- 6-7) PCと民族名称（政治的正しさ）
- 8-9) 伝統
- 10) 言説

11-12) 近代、グローバリズム

13) 生業、経済活動

14) 暗黙知、ワザ

15) 儀礼

* 2-15回までの間に小テスト、授業時間内レポートが課される。

2012年度以降入学生用(文化)**地理学概論**
2011年度以前入学生用(文化)**比較地域論**

Geography
Geography

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle

担当教員 森正人

授業の概要 場所、風景、空間がどのように権力に巻き込まれながら構成されるのか、それをとらえるためにどのような理論的アプローチが可能か考える。

学習の目的 地理学の基本的な視点である場所、風景、空間と権力について理解する。

学習の到達目標 場所や風景、そして空間がどのように権力と関わっているのか、批判的にとらえることができ、それを文章化することができる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 指導力・協調性

受講要件 とくになし。ただし授業に意欲を持って取り組むことができること。

発展科目 日本の風土と地誌A・B

成績評価方法と基準 レポート2回 (50%)、小レポート (50%)

オフィスアワー 毎週火曜日12:00~13:00 (事前にアポイントを取ることに)

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1 ガイダンス
- 2 社会統治の方法としてのディズニーランド
- 3 記号としての地理
- 4 空間のモダニティ
- 5 風景の誕生
- 6 国家と文化
- 7 視線と権力

- 8 オリエンタリズムと異文化へのまなざし
- 9 (ポスト) コロニアリズムと場所表象
- 10 場所とグローバル化
- 11 消費の空間
- 12 消費と文化
- 13 ハイブリッド空間
- 14 共に投げ込まれる空間のために
- 15 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)

言語科学論A

Language Science A

2011年度以前入学生用(文化)

言語コミュニケーション論

Language Communication

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 吉田 悦子 (人文学部文化学科)

授業の概要 ことばによるコミュニケーションのしくみを理解し、ことばが伝える意味の多様性について考察する。ことばの運用面にかかわる基本的な内容をとりあげ、言語学関係の発展科目や、英語学演習などの科目履修に向けての基礎を学習する。

学習の目的

ことばによるコミュニケーションの方法とその解釈について考察する力を養う。

意味の多様性について言語的知識を深める。

言語学の基本的な用語を用いて、英語と日本語を対照させて考える方法を学ぶ。

学習の到達目標 ことばによって伝わる意味について、言語知識と言語運用の点から、適切な専門用語を用いて、説明することができる。ことばによるコミュニケーションのしくみを会話の原則に基づいて理解し、話し手の意図と聞き手の解釈における相互作用について、身近な用例を参考にしながら、分析したり、考察することができる。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力,

授業計画・学習の内容

学習内容

講義スケジュール:

第1回: オリエンテーション

第2-4回: ことばの意味とは(語の意味、文の意味、発話の意味)

第5回-6回: 意味の構造 (辞書の意味から認知

課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 比較言語論, 言語科学概論, 英語学演習

教科書

教科書:

コースブック意味論 (第2版)

James R.Hurford (著), Brendan Heasley (著),

Michael B.Smith (著)2014

ひつじ書房

成績評価方法と基準 宿題、授業への参加および発表50%。期末試験50%

オフィスアワー 水曜1-2

その他 授業はテキストの購入を前提として、テキストを基本とし、パワーポイントを要点の確認として使用します。

的意味へ)

第7-9回:対人的意味 (発話行為)

第10-12回:直接的な発話と間接的な発話

第13-14回: 会話の原則と発話解釈

第15回: 復習小テスト

2012年度以降入学生用(文化)

言語科学論B

2011年度以前入学生用(文化)

比較言語論

Language Science B

Comparative Linguistics

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 PBL

担当教員 綾野誠紀

授業の概要 人間であれば誰でも持っている言語に関する知識とはいかなるものかについて、英語の日本語データ比較検討することにより明らかにする。そのことにより、ことばを科学する際の分析手法や議論の組み立て方を学ぶ。

学習の目的 ことばを科学する際の分析手法や議論の組み立て方に関する知識を得る。

学習の到達目標 ことばの分析方法と議論の組み立て方を学ぶことにより、論理的な思考方法を身につけることができる。

受講要件 特になし

授業計画・学習の内容

学習内容

日本語と英語のデータを中心に比較対照することにより、背景にある共通性について検討します。

第1回～3回 導入（ヒトの言語の普遍的な特性について）

第4回～7回 日本語と英語の基本的な構造について

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 英語学演習、言語科学概論、言語科学演習・講義

教科書

[テキスト] 講義時に配布するより詳細なシラバスを参照のこと

[参考書] 講義時に配布するより詳細なシラバスを参照のこと

成績評価方法と基準 試験80%、授業参加20%

オフィスアワー 講義時に配布するより詳細なシラバスを参照のこと

第8回～11回 具体例な事象に基づく比較言語演習#1

第12回～15回 具体的な事象に基づく比較言語演習#2

なお、具体的な講義計画等については、初回の講義で配布する詳細なシラバスでお知らせします。

文学概論 C

Introduction to Literature C

学期 前期 開講時間 月 3, 4 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 市民開放授業
担当教員 大河内 朋子 (人文学部文化学科)

授業の概要

この講義では「前衛的芸術」をテーマとします。

20世紀に入って、ヨーロッパではそれまでの伝統的な芸術観を激しく否定する人びとが出現して、いくつもの新しい方向性をもったさまざまな芸術作品が生み出されました。現在までに至るそうした芸術の潮流を、文学作品や演劇、映画、絵画、音楽などをとおして概観します。

学習の目的 20世紀以降のヨーロッパにおける前衛的・実験的な芸術の流れについて知識を得る。

学習の到達目標 20世紀以降のヨーロッパにおける芸術的潮流に関する基礎的な知識を得ている。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力

発展科目 「ドイツの文学」「ドイツ文学論」「文学概論D」

成績評価方法と基準 授業への積極的参加 [20%]、レポート[80%]、計100%

オフィスアワー 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室 (人文校舎2階) にて

授業計画・学習の内容

学習内容

(第1~10回) 20世紀前半の前衛的・実験的芸術

1. 未来派 (宣言、音楽)
2. 表現主義 (文学と映画と絵画)
3. ダダ (新しい文学ジャンル、パフォーマンス、偶然やモンタージュという手法)
4. シュルレアリズム (文学と映画)

5. カフカと幻想小説

6. プレヒトの叙事的演劇など

(第11~15回) 20世紀後半の実験的芸術

1. 不条理劇
2. 具象詩
3. 現代の実験的映画など

2012年度以降入学生用(文化)**美術史A**
2011年度以前入学生用(文化)**美術史A**

Art History A
Art History A

学期 前期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 藤田伸也

授業の概要

古代から近世までの東アジアの絵画史について考察する。

中国・朝鮮・日本の水墨画の発達と代表的画家および作品を紹介する。

日本絵画の源流と日本的特質について考える。

学習の目的

水墨画を軸とした東洋絵画史について基本的知識を習得する。

日本絵画の見方と名品について理解する。

美術作品を通して文化を理解することを学ぶ。

学習の到達目標

東洋絵画史について体系的に理解する。

絵画の機能と価値について説明することができる。

文化における美術の重要性について説明できるようになる。

国宝指定の絵画について知識を得る。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 美術史B

教科書 特になし。

成績評価方法と基準 授業での発表・積極性など30%、テスト30%、レポート40%。

オフィスアワー 毎週月曜日12:00~14:30、火曜日10:30~12:30/藤田研究室(教養教育2号館2階)

その他

機会があれば、展覧会の見学を休日に日帰り圏内で行う。

その際の交通費・入館料等は各自の負担となる。学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

授業計画・学習の内容

学習内容

古代から近世までの東アジアの絵画を水墨画を中心に考察する。はじめに中国絵画の概要を説明し、その後日本絵画史を学ぶ。作品の画像をできるだけ多く紹介する。

第1回 授業の概要(日本絵画の源流としての中国・朝鮮)

第2回 中国絵画略史1(原始~漢)

第3回 中国絵画略史2(六朝~唐)

第4回 水墨画と宋代絵画

第5回 日本所在の中国絵画の名品1

第6回 日本所在の中国絵画の名品2

第7回 日本絵画略史

第8回 初期水墨画と室町將軍家

第9回 雪舟とその入明

第10回 狩野元信・永徳と狩野派

第11回 長谷川等伯と松林図

第12回 俵屋宗達と尾形光琳

第13回 池大雅と与謝蕪村

第14回 フェノロサと日本美術

第15回 まとめ

第16回 試験

2011年度以前入学生用(文化)

美術史B

Art History B

2011年度以前入学生用(文化)

美術史B

Art History B

学期 後期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤田伸也

授業の概要

『絵の言葉』をテキストにして、ゼミ形式で輪読する。
西洋絵画における画像の意味について、日本美術と比較しながら考察する。

学習の目的

西洋絵画における画像の意味について基本的知識を習得する。
絵画の歴史について概要を把握することができるようになる。
西洋と日本・東洋の絵画の相違について理解を深める。

学習の到達目標

西洋絵画の画像の持つ象徴的意味を体系的に理解する。
絵画の本質的価値について説明することができる。
西洋絵画と日本・東洋の絵画との相違から文化の相違を説明できるようになる。

授業計画・学習の内容

学習内容

『絵の言葉』をテキストとして、絵画の意味について考察する。講義授業科目ではあるが、ゼミ形式に分担者を決めて読み進めていくことによって受講者の関心と理解を深める。

第1回 授業の概要説明（テキストと見学について）
第2回 絵画とは何か
第3回 1-1 絵主文従と文主絵従の角逐
第4回 1-2 絵を読むということ
第5回 1-3 アイコノロジーの諸相
第6回 1-4 絵の機能ー普遍と特殊・プラスとマイナス
第7回 1-5 言葉のイメージと絵のイメージ
第8回 1-6 絵はインターナショナルではないと

本学教育目標との関連 感性、共感、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 『絵の言葉』（小松左京・高階秀爾著、講談社学術文庫74 または 青土社刊単行本）

成績評価方法と基準 授業での発表・積極性など40%、テスト30%、レポート30%。

オフィスアワー 毎週月曜日12:00～14:30、火曜日10:30～12:30／藤田研究室（共通教育2号館2階）

その他

機会があれば、展覧会の見学を休日に日帰り圏内で行う。
その際の交通費・入館料等は各自の負担となる。学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

いうこと

第9回 2-1 西洋絵画に特有の約束事「アレゴリー」の発達
第10回 2-2 自然言語的イメージ文法ー地域別・時代別の絵の文法
第11回 2-3 イメージの一般文法および疑似国際語
第12回 2-4 説得の技術としての造形ーバロック美術その他
第13回 2-5 イメージ・コミュニケーションの論理操作ー遠近法・抽象絵画・標識他
第14回 2-6 イメージ文化の地域性ー流行・誤解・選択受容・風土その他
第15回 まとめ
第16回 試験

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 三根 慎二(人文学部)

授業の概要

インターネットの急速な拡大およびウェブ技術の進展により、様々な学術情報がインターネット上、あるいは各種メディアによって検索できるようになった。本授業では、必要な学術情報を効率的かつ効果的に検索するための検索技術のほか、情報検索を取り巻く環境について、演習を交えながら総合的に学習する。

本講義は、図書館司書科目の一環として開設されているが、それ以外の学生も受講を歓迎する。レポートや卒論を執筆する際に役に立つ基本的情報源や検索スキルを身につけることができるはずである。

学習の目的 基本的な学術情報の特性の理解を基礎として、各種情報を検索するシステムの特徴・利用方法に関する知識および実践的なスキルを身に付ける

学習の到達目標

本授業を通じて、以下のことを達成してほしい。

- 1) 情報検索の概念を理解する。
 - 2) 情報検索の基礎的技術を身につける。
 - 3) 各種情報資源の特徴と検索方法を理解する。
- ・ 図書情報の検索

- ・ 雑誌記事情報の検索
- ・ 新聞記事情報の検索
- ・ インターネット上の情報源の検索

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 情報サービス論・情報サービス演習

教科書 特にありません

成績評価方法と基準

以下の各項目を評価し、総合点で最終的な成績評価とします。

- 1) 出席
- 2) 授業内課題
- 3) 小レポート課題
- 4) 最終レポート課題

オフィスアワー 第1回目の授業で指示する。

その他 第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、履修を希望する者は、必ず出席すること。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス
2. 情報検索の基礎
3. OPAC の検索 (単館目録・総合目録)
4. 書誌ユーティリティを利用した検索
5. 図書の検索
6. 雑誌の検索 その1 (書誌検索と所蔵検索)
7. 雑誌の検索 その2 (記事検索)
8. 雑誌の検索 その3 (電子ジャーナル)

9. 雑誌の検索 その4 (電子ジャーナル (英語))
10. ディスカバリーサービス ※小レポート課題
11. 検索エンジン
12. 新聞の検索 ※小レポート課題
13. その他の情報源の検索 (辞書・百科事典など) ※小レポート課題
14. 授業内総合課題 (日本語)
15. 授業内総合課題 (検索問題の作成)

2012年度以降入学生用(文化)

学術情報論B

Scholarly Information B

2011年度以前入学生用(文化)

学術情報論B

Scholarly Information B

学期 後期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 三根 慎二(人文学部)

授業の概要 学術情報は、一般的な情報と異なる形で生産、流通、利用される特性を持っています。本講義では、研究者の科学研究活動が、学術情報の生産、流通、利用を通していかに実現するのかを検討します。学術コミュニケーションの電子化は、現在グローバルな現象として大きな関心を集めています。それは電子化が、これまでの学術コミュニケーションのあり方を根本から変容させる可能性があるからです。伝統的な学術コミュニケーションおよびその電子化がもたらす社会的変化を、国内外の最新の事例や調査結果とともに検討します。

学習の目的

本授業終了時に、以下の知識をそれぞれ関係づけながら体系的に理解することを目的とする。

- 1) 研究者の科学研究活動および利用行動
- 2) 学術情報メディア（学術雑誌および学術雑誌論文）の特性
- 3) 大学図書館の機能・役割

学習の到達目標 学術情報が持つ情報メディアとしての独自の特性を理解するとともに、その背景にある研究者の科学研究活動、大学図書館の役割、学術情報政策などの社会制度などもあわせて理解することを期待します。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス
2. 科学者集団と学術コミュニケーション
- 3-4. フォーマルコミュニケーションとインフォーマルコミュニケーション
5. 学術雑誌と大学図書館
6. 国際商業出版社と大学図書館
7. 科学論文の構造と形式

知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 図書館・情報学概論A

発展科目 学術情報論演習

教科書 上田修一、倉田敬子編著. 図書館情報学. 勁草書房, 2013.

成績評価方法と基準

成績は、以下の各項目を評価し、総合点を最終的な成績評価とします。

- 1) 授業内容に関する質問&コメント(5%+α)
- 2) 授業内容の理解確認小テスト(15%)
- 3) 小レポート課題(20%)
- 4) 期末試験 (60%)

オフィスアワー 第1回目の授業で指示する。

その他

第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、履修を希望する者は、必ず出席すること。

講義で使用したスライドや講義関連の連絡は全てMoodleで行うで、受講生はオリエンテーションでの配布資料に基づいて必ず登録を行うこと。

本科目は、図書館司書科目の選択科目です。

8. 学術コミュニケーションの電子化の沿革
- 9-10. 電子ジャーナルの現状と利用実態
- 11-12. 電子ジャーナルの提供と図書館コンソーシアム
13. オープンアクセス運動の契機と実現手段
14. オープンアクセスと学術情報流通の今後
15. 科学と社会

比較思想

2012年度以降入学生用(文化)

2011年度以前入学生用(文化)

比較思想

Comperative Philosophy

Comperative Philosophy

学期 前期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 片倉 望 (人文学部)

授業の概要 エジプトの『アニのパピルス』、旧約聖書、新約聖書の『ナグ・ハマディ写本』、涅槃系の仏典、『莊子』等を資料とし、世界の思想の根底にある人間観、死生観を概観し、その比較、考察を行う。

学習の目的 適当な概説書を、これまた適当にコピーしてネット上に展開されている根拠のない東西思想、東西宗教の解説のいい加減さを見破る。

学習の到達目標 資料からものを考えていく

力を身につける。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

教科書 適宜、資料をプリントにて配付する。

成績評価方法と基準 授業態度40%、定期試験60%

オフィスアワー 講義終了後、一時間程度。

授業計画・学習の内容

学習内容

世界の「四大思想」という言い方がある。四大文明から連想された言葉とも思われるが、そこでは、エジプト、メソポタミアは除かれていて、代わりにユダヤとギリシアが含まれている。そもそも、四大文明という呼称には、それ自体問題があり、エジプト、メソポタミアと他の二者との間には、ざっと2000年ものタイムラグがある。従って、ギリシア、ユダヤ、インド、中国の思想を並列に扱うという研究の立場は、ほぼ同時代にそれぞれの文明が排出した思想家、文献を考慮に入れるなら、それなりに納得できないものではない。とは言え、ギリシア、ユダヤの思想には、実はそれ以前に隆盛を極めたエジプトの思想が多くの影響を与えているのであり、また、ギリシア、ユダヤの思想が融合的に展開したものとしては、グノーシス派のキリスト教の思想がある。近年、エジプトの死生観を知る好個の資料として『アニのパピルス』が、また、グノーシス派の思想を知る資料としては、『ナグ・ハマディ写本』『ユダの福音書』等が出土し、既に多くの研究者の手によってその研究成果と本文の注釈、及び、全文の写真、翻訳等が上梓されている。そこで本講義では、これらの一次資料と研究成果と踏まえ、世界の四大思想の人間観、及び死生観を概観してみることにしたい。

第一回 比較思想イントロ 四大文明と四大思想
第二回 エジプトの死生観・心身観 (1) ピラミッド・テキストとコフィン・テキスト
第三回 エジプトの死生観・心身観 (2) 『死者の書』とは何か
第四回 エジプトの死生観・心身観 (3) アニのパピルス
第五回 ユダヤの死生観・心身観 (1) 旧約『聖書』の文献学
第六回 ユダヤの死生観・心身観 (2) ノアの箱舟と「ギルガメッシュ叙事詩」
第七回 ユダヤの死生観・心身観 (3) 「出エジプト記」の真実
第八回 原始キリスト教の死生観・心身観 (1) 新約『聖書』の文献学
第九回 原始キリスト教の死生観・心身観 (2) 「ナグ・ハマディ写本」を資料として
第十回 原始キリスト教の死生観・心身観 (3) 「マグダラのマリア福音書」と「ユダの福音書」
第十一回 原始仏教の死生観・心身観 (1) 仏陀の生涯とその思想
第十二回 原始仏教の死生観・心身観 (2) 『サンユッタ・ニカーヤ』の悪魔と新約『聖書』の悪魔
第十三回 古代中国思想の死生観・心身観 (1) 儒家
第十四回 古代中国思想の死生観・心身観 (2)

道家『莊子』を中心として
第十五回 四大思想の死生観と心身観とを通観

して

2012年度以降入学生用(文化)**現代社会論B**
2011年度以前入学生用(文化)**現代社会論B**

Current Issues in Sociology B
Current Issues in Sociology B

学期 後期 **開講時間** 火3,4 **単位** 2 **対象** 法律経済学科の学生も履修できる **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 江成 幸 (人文学部文化学科)

授業の概要 グローバル化とともに移民現象が拡大し、多様化する傾向にある。この授業では、移民と受け入れ社会の関係を理解することを旨とする。

学習の目的

- ・日本・アジア地域と、欧米の事例を紹介しながら、エスニシティ、トランスナショナル、ディアスポラといった概念で移民現象を分析する。
- ・地域の国際化にともなう多文化共生のあり方、子どもの教育支援などについて、現状と課題を理解することができる。

学習の到達目標

- ・グローバル化によるヒトの移動に関する知

識を深めるとともに、地域の国際化をめぐる課題への応用力を身につける。

- ・多文化社会の現状および影響について、学生それぞれの専門分野と関連づけて分析することができる。

本学教育目標との関連 共感, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力

成績評価方法と基準 期末レポート70%、授業中のコメントカード等を通じた理解度・関心の深まり30%、計100%

オフィスアワー 木曜日7～8限。

その他 2014年度入学生より、2年次から履修できます。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1-2回 グローバル化と移民現象
- 第3-4回 移民とエスニシティ - 日本・アジア・欧米の事例 -
- 第5-7回 トランスナショナル現象・ディアスポラ現象

- 第8-9回 日本への移民
- 第10-11回 グローバルな現象と地域の変化
- 第12-13回 外国出身の子どもへの学習・進学支援
- 第14-15回 地域における国際化への対応
- 第16回 期末レポート

授業の概要 日本の古代・中世に関わる代表的な文献を数点選定し、具体的な詞章に即しつつ、また関連する資料にも言及しながら、問題点について解説を加えてゆく。

を通じて、文芸の持つ意義について基本的な理解を得ることができる。

学習の目的 『古事記』上巻の世界観やそこに現れた倫理観を理解することができる。また『古今和歌集』や歌徳説話、さらには謡曲を通じて、文芸に表れた神観念や自然観について基本的な理解を得ることができる。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

教科書 相良亨編『日本思想史入門』(ペリカン社)

成績評価方法と基準 期末筆記試験; 80%, 中間レポート; 20%

学習の到達目標 『古事記』上巻の内容について、基本的な知識を得ることができる。また『古今和歌集』や歌徳説話、さらには謡曲

オフィスアワー 金曜日7～8限(その他応需)

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス (第1回)
2. 神話と歴史 (第2～8回)
 - a) 『古事記』の世界～その世界観と時間意識～
 - b) 『愚管抄』『神皇正統記』～中世の歴史意

識～

3. 文芸の意義 (第9回～第14回)
 - a) 『古今和歌集』～その自然観～
 - b) 『謡曲』～歌徳の諸相～
4. まとめ (第15回)

2012年度以降入学生用(文化)

日本の思想B

Japanese Thought B

2011年度以前入学生用(文化)

日本の思想B

Japanese Thought B

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 遠山 敦 (人文学部)

授業の概要 日本の古代・中世に著された代表的な文献を数点選定し、具体的な詞章に即しつつ、また関連する資料にも言及しながら、問題点について解説を加えてゆく。

学習の目的 日本において仏教がどのように受容され、展開していったか、またそこでは何が問われていたのかについて基本的な理解を得ることができる。とりわけ浄土教の展開について、念仏の意味の変遷がどのような思想的問題をはらむのかについて理解できるようになる。

学習の到達目標 日本仏教の受容と展開につ

いて、基本的な知識を得ることができる。

本学教育目標との関連 倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、批判的思考力

教科書 相良亨編『日本思想史入門』（ペリかん社）

成績評価方法と基準 期末筆記試験；80%、中間レポート；20%

オフィスアワー 毎週金曜日7-8限（その他応需）

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス（第1回）
2. 仏教の受容とその展開
 - a) 『元興寺縁起』に見られる仏教の受容（第2～3回）
 - b) 『日本霊異記』の仏教理解（第4～5回）
 - c) 最澄『願文』と大乘菩薩戒の意味（第6～7回）

- d) 空海『三教指帰』の仏教理解（第8回）
 - e) 源信『往生要集』における念仏の理解（第9～10回）
 - f) 法然『選択本願念仏集』における念仏観の展開（第11～12回）
 - g) 親鸞『歎異抄』における信の様態（第13～14回）
3. まとめ（第15回）

2012年度以降入学生用(文化) **日本の歴史E**

Japanese History E

2011年度以前入学生用(文化) **日本の歴史E**

Japanese History E

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 山田 雄司 (人文学部)

授業の概要 熊野信仰が盛んであった古代から近世初頭にかけての状況を明らかにし、信仰の変化やそれにもなう参詣者の変化について、具体的史料に基づいて述べていく。そして、数ある聖地の中でなぜ熊野が「日本第一大霊験所」とされるような霊験あらたかな地とされたのが解明していく。

学習の目的 熊野という地はどのような特性をもっているのか、熊野三山とはどのような神社なのか、信仰の変遷について理解できるようにする。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：熊野の地理的特性
- 第3回：熊野の神話
- 第4～5回：海と熊野
- 第6回：那智の滝

学習の到達目標 熊野信仰について認識を深めることにより、聖地とは何かまた日本文化の特性について考えていけるようにする。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

成績評価方法と基準 小テスト20%、期末試験80%、計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 毎週火曜日14:40～16:10、場所山田研究室

第7～8回：熊野三山

第9～10回：熊野詣

第11～13回：時宗と熊野

第14～15回：熊野参詣曼荼羅と熊野観心十界図

2012年度以降入学生用(文化)**文学概論G**
2011年度以前入学生用(文化)**日本文学概論C**

Introduction to Literature G
Introduction to Japanese Literature G

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 吉丸 雄哉 (人文学部)

授業の概要 江戸時代の文芸を講読する。文芸の性質として「教訓」と「滑稽」を主題に読み解く。散文を中心に扱う。適宜和本を見せ、当時の人の意識にそった鑑賞法を伝授する。毎回の授業に読書課題とレポートおよび小テストがある。

学習の目的 日本古典文学のなかで、近世文学がどのような特色をもつのか学ぶ。近世文学のひとつのジャンルの作品を読む。

学習の到達目標 近世小説の代表的な話型とその特性を覚える。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術

受講要件 日本古典文法の知識を有すること。

予め履修が望ましい科目 江戸時代史の授業。

教科書 鈴木健一編『江戸の詩歌と小説を知る本』（笠間書院、平成18）。

成績評価方法と基準 読書レポートと小テストで六割。期末レポートがテストで四割。読書レポートとは本を読んで、その梗概と感想をMoodleに記す宿題のこと。小テストは実際に読んだか、内容を問う。ほぼ毎回課す。期末をレポートにするかテストにするかは、諸君の学習状況をみて判断する。

オフィスアワー 火曜日の昼休み。長い時間が必要なものはメールにて相談のこと。木曜日の午後がたいてい空いている。

その他 江戸時代に書かれた小説のため、現代の人権意識にそぐわない表現が出てくるのが珍しくない。また、遊里や性愛を描く場面がある。以上を了解したうえで受講のこと。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 一回 江戸文芸の概説
- 二・三回 仮名草子
- 四～六回 浮世草子
- 七回 前期読本
- 八回 談義本

- 九回 洒落本
- 十・十一回 滑稽本
- 十二回 人情本
- 十三回 黄表紙
- 十四回 合巻
- 十五回 後期読本

2012年度以降入学生用(文化)**日本の文学K**
2011年度以前入学生用(文化)**日本の文学K**

Japanese literature K

Japanese literature K

学期 前期 開講時間 水 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 坂 堅太

授業の概要 日本近代文学の論争を取り上げ、その文学史的意義と現代との関係について考察する。

学習の目的

日本近代文学を研究するための基本的な知識を方法を修得する。

文学作品の理論的背景を理解する。

学習の到達目標 論争を通じどのような「文学」の姿が争われたかを知り、現代における文学の意義を再検討する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 没理想論争の概要と検討
- 第3回 人生相渉論争の概要と検討
- 第4回 内容的価値論争の概要と検討①
- 第5回 内容的価値論争の概要と検討②
- 第6回 小説の筋論争の概要と検討①
- 第7回 小説の筋論争の概要と検討②
- 第8回 「宣言一つ」論争の概要と検討①

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準 授業への意欲30%、期末テスト70%。毎回リフレクションシートを配付し、授業の理解度を測定する。

オフィスアワー 火曜日12~13時、場所：研究室

- 第9回 「宣言一つ」論争の概要と検討②
- 第10回 芸術大衆化論争の概要と検討①
- 第11回 芸術大衆化論争の概要と検討②
- 第12回 文学者の戦争責任論争の概要と検討①
- 第13回 文学者の戦争責任論争の概要と検討②
- 第14回 純文学変質論争の概要と検討①
- 第15回 純文学変質論争の概要と検討②、まとめ

2012年度以降入学生用(文化)
2011年度以前入学生用(文化)

文学概論H

日本文学概論D

Introduction to Literature H

Introduction to Japanese Literature H

学期 後期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 吉丸 雄哉 (人文学部)

授業の概要 江戸時代の文芸を講読する。文芸の性質として「雅」と「俗」を主題に読み解く。韻文を中心に扱う。適宜和本を見せ、当時の人の意識にそった鑑賞法を伝授する。

学習の目的 日本古典文学のなかで、近世の和文・狂文や詩歌がどのような価値を持つのか学ぶ。読書課題を通じて代表的な近世詩歌を覚える。

学習の到達目標 江戸文芸の各分野の特徴を理解する。江戸人と同等に作品を楽しめるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力

受講要件 日本古典文法の知識を有すること。漢文法の基礎知識を有すること。

予め履修が望ましい科目 文学概論Gを履修していることが強く望ましい。

教科書 鈴木健一編『江戸の詩歌と小説を知る本』（笠間書院、平成18）

成績評価方法と基準 読書レポートと小テストで六割。期末レポートかテストで四割。読書レポートとは本を読んで、その感想をMoodleに記す宿題のこと。小テストは実際に読んだか、内容を問う。ほぼ毎回課す。期末をレポートにするかテストにするかは、諸君の学習状況をみて判断する。

オフィスアワー 火曜日の昼休み。長い時間が必要な者には別に時間を設けるのでメールで相談のこと。木曜日の午後がたいてい空いている。

その他 江戸時代に書かれた小説のため、現代の人権意識にそぐわない表現が出てくることもある。また、遊里や性愛を描く場面がある。以上を了解したうえで受講のこと。

授業計画・学習の内容

学習内容

一回 江戸の詩歌の概説
二～九回 近世俳諧史
十・十一回 川柳

十二回 和歌
十三回 狂歌
十四回 漢詩
十五回 狂詩

2012年度以降入学生用(文化)

日本の社会A

Japanese Society A

2011年度以前入学生用(文化)

日本の社会A

Japanese Society A

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 永谷 健 (人文学部文化学科)

授業の概要 近現代日本の職業社会や競争社会の変容に関して、社会学はどのような視点で研究を行い、また、どのような知見をもたらしてきたのかについて、身近なトピックをもとに検討する。さらに、近代以降の日本における産業社会や文化に関する理解を深める。

学習の目的 近現代日本の職業社会・競争社会が抱える諸問題を、社会学の視点から考察する。

学習の到達目標 近現代日本の職業社会・競争社会に内在する問題点はどのようなものかを、社会学の諸理論をもとに説明できるようになる。

授業計画・学習の内容

学習内容

授業内容

- 第1回 格差社会とは何か？〔第一部の概説〕
- 第2回 近代化と競争社会の到来
- 第3回 職業社会と階層（「社会的再生産論」を中心に）
- 第4回 現代の格差論議
- 第5回 中流幻想と格差の是正
- 第6回 若者層と職業：「ニート」論争〔第二部の概説〕

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、批判的思考力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 とくになし。

予め履修が望ましい科目 とくになし。

発展科目 日本社会演習

教科書 授業の中で指示する。

成績評価方法と基準 筆記テスト50%、レポート50%、計100%。

オフィスアワー 月曜日16：30～17：30

第7回 近代日本における「成功」の意味

第8回 競争社会に内在する矛盾

第9回 「トーナメント型移動」の功罪

第10回 失敗の社会学1

第11回 失敗の社会学2

第12回 年功主義と成果主義〔第三部の概説〕

第13回 人材管理の諸戦略

第14回 人材管理に見る文化的特質

第15回 試験に向けた総括

2012年度以降入学生用(文化)

日本の社会B

Japanese Society B

2011年度以前入学生用(文化)

日本の社会B

Japanese Society B

学期 後期 開講時間 火 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 永谷 健 (人文学部文化学科)

授業の概要 現代日本における格差状況の歴史的な背景については、意外に知られていない。本講義では、近代以降の日本社会の変化を、歴史社会学の観点から検討する。とくに、階層社会の成立と変容のプロセスとはどのようなものか、また、そうしたプロセスに対して各時代の人々はいかに適応してきたのかについて、具体的なトピックや統計データをもとに考える。

学習の目的 現代日本の格差状況の歴史的な背景を、社会学理論や社会学の研究手法を用いて考察する。

学習の到達目標 近代以降の日本社会の変化を、社会的な視点で捉えることができるよ

うになる。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 とくになし。

予め履修が望ましい科目 とくになし。

発展科目 日本社会演習

教科書 なし。

成績評価方法と基準 レポート50%、筆記試験50%、計100%。

オフィスアワー 火曜日12:00~13:00

授業計画・学習の内容

学習内容

授業内容

第1回 現代日本と二つの近代化

第2回 近代化と日本社会（産業化と西洋化の関連で）

第3回 近代化と若年層の野心（立身出世主義との関連で）

第4回 冒険的企業家の輩出と階層社会

第5回 近代化と家族国家観1

第6回 近代化と家族国家観2

第7回 高級文化と大衆文化1

第8回 高級文化と大衆文化2

第9回 メディアと近代日本1

第10回 メディアと近代日本2

第11回 時代の閉塞感と野心の行方

第12回 戦前の“超格差社会”とその行きづまり

第13回 戦後日本社会における富と文化の平準化

第14回 戦後中流社会の変容

第15回 試験に向けた総括

2012年度以降入学生用(文化) **日本の風土と地誌A**

Geographical study on Japan A

2011年度以前入学生用(文化) **日本の風土と地誌A**

Geographical study on Japan A

学期 前期 **開講時間** 火 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 森正人

授業の概要 地域や空間への思考を実践/思考するとはどのようなことなのか。この授業は、日本における都市の状況を講義し、また現地に実際に足を運んで見聞きした後、受講生が自らの関心を持つ地域や都市を選び、それについて調べて発表を行う。

学習の目的 地誌を実地調査をととして記すための調査方法、視角を学ぶ

学習の到達目標 本講義を内容を通じて、人間と文化と自然と土地との関わりを学ぶ。またその調査の仕方を学ぶ。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力

受講要件 学外での授業を土曜日に行くことがある。これらに参加することができること。

予め履修が望ましい科目 地理学概論 (比較地域論)

発展科目 日本地誌演習。担当教員のゼミを選択する場合にはこの科目の取得が前提となっている。

教科書 中川正ほか『文化地理学ガイダンス』ナカニシヤ

成績評価方法と基準 レポート (60%)、予習 (40%)

オフィスアワー

火曜日：12：00～13：00 (森研究室)

ただし事前にアポイントを取ること

その他 学外での巡検の交通費等は各自が負担する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1 ガイダンス
- 2～3 古い都市の形
- 4～5 松阪市巡検
- 6～7 門前町の形態

- 8～9 伊勢市巡検
- 10～11 近代都市
- 12-14 地誌を作成するための技法
- 15 授業のまとめ

2012年度以降入学生用(文化) **日本の風土と地誌B**

Geographical study on JapanB

2011年度以前入学生用(文化) **日本の風土と地誌B**

Geographical study on JapanB

学期 後期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 実習 **授業の特徴** PBL, Moodle

担当教員 森 正人

授業の概要 物質性、視覚性、地理的想像力との関係性を理解する

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 問題解決力

学習の目的 近代以降の日本において、どのような視覚的イメージがどのような過程で生産されてきたのか、それが特定の場所のイメージとどのように結びついているのか理解する

受講要件 積極的に授業に臨むこと。

予め履修が望ましい科目 地理学概論

発展科目 日本地誌演習

成績評価方法と基準 レポート50%、小テスト50%

学習の到達目標 視覚イメージと場所のイメージとの関係性を検討する力を得る。

オフィスアワー 毎週火曜日12:00-13:00

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1 ガイダンス
- 2 近代国民国家と地誌・地図編纂事業
- 3 国家を見せる
- 4 北の辺境を撮る
- 5 戦争と自己イメージ
- 6 松浦武四郎記念館での調査で代替
- 7 近代観光と視覚

- 8 戦後の観光と風景美
- 9 沖縄への想像力
- 10 各自で関宿の調査
- 11 都市への視線
- 12 視覚化される「西洋」と合理的生活
- 13 戦後日本のライフスタイル表象
- 14 身体空間への視線
- 15 公害と身体

授業の概要 『日本霊異記』を読み、そこに現れた人間観や倫理観について理解を深める。

学習の目的 文章を精読する経験を通じて、日本思想史の諸概念やその意味内容を理解する能力を養成することができる。またテキストとの対峙の中から自らの現存の意味を問いかける姿勢を養うことができる。

学習の到達目標 日本古代の仏教受容のあり方について、基本的な理解を得ることができる。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力,

幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 中田祝夫訳注『日本霊異記』(上・中・下) (講談社学術文庫)

成績評価方法と基準 発表及び授業への参加度; 80%, 期末レポート; 20%

オフィスアワー 金曜日7~8限(その他応需)

その他 履修希望者が多数となった場合は、日本思想ゼミ生を優先し、他は履修制限を行う場合があります。

授業計画・学習の内容

学習内容

『日本霊異記(上・中・下)』の読解を行う。

第1~5回: 『日本霊異記』上巻の読解

第6~10回: 『日本霊異記』中巻の読解

第11~15回: 『日本霊異記』下巻の読解

授業は、毎時間リポーター1名を定め、その発

表をめぐる出席者全員の討議を中心に進行する予定である。またリポーター以外にも課題(質問票の作成)を課す。

※参加者は、古典文に対する基礎的な読解力が求められるので、履修の際には留意すること。

2012年度以降入学生用(文化) **日本思想演習B** Seminar in Japanese Thought B
2011年度以前入学生用(文化) **日本思想演習B** Seminar in Japanese Thought B
学期 後期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習
担当教員 遠山敦 (人文学部)

授業の概要 いくつかの代表的『謡曲』を読み、そこに現れた人間観や倫理観、世界観について理解を深める。

学習の目的 文章を精読する経験を通じて、日本思想史の諸概念やその意味内容を理解する能力を養成することができる。またテキストとの対峙の中から自らの現存の意味を問いかける姿勢を養うことができる。

学習の到達目標 謡曲について基本的な理解を得ることができる。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力,

幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 コピー資料を配付する。

成績評価方法と基準 発表及び授業への参加度; 80%, 期末レポート; 20%

オフィスアワー 金曜日7~8限(その他応需)

その他 履修希望者が多数となった場合は、日本思想ゼミ生を優先し、他は履修制限を行う場合があります。

授業計画・学習の内容

学習内容

いくつかの代表的『謡曲』を取り上げ、その読解を行う。

第1回: ガイダンス

第2~7回: 二番目物の読解

第8~11回: 3番目物・4番目物の読解

第12~15回: 一番目物・五番目物の読解

授業は、毎時間リポーター1名を定め、その発表をめぐる出席者全員の討議を中心に進行する予定である。またリポーター以外にも課題(質問票の作成)を課す。

2011年度以前入学生用(文化)**日本思想演習E** Seminar in Japanese Thought E
2012年度以降入学生用(文化)**日本思想演習E** Seminar in Japanese Thought E
学期 前期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習
担当教員 遠山敦 (人文学部)

授業の概要 日本思想に関するテキストの読解を、発表形式で行う。

学習の目的 日本思想の領域で卒業論文を書くための基礎的な能力を養うことができる。

学習の到達目標 卒業論文作成に向け、テキストを読解していく力を深めることができる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

成績評価方法と基準 発表50%、授業への参加度50%。

オフィスアワー 毎週金曜日7-8限

授業計画・学習の内容

学習内容

毎週一人のリポーターを定め、日本思想を学ぶ上での基礎的文献の読解を行う。

第1回; ガイダンス

第2~15回: 文献の読解

*日本思想領域で卒業論文を書く学生を主たる対象とするので、受講の際は注意すること。

2011年度以前入学生用(文化)**日本思想演習F**

Seminar in Japanese Thought F

2012年度以降入学生用(文化)**日本思想演習F**

Seminar in Japanese Thought F

学期 後期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

担当教員 遠山 敦 (人文学部)

授業の概要 日本思想に関するテキストの読解を、発表形式で行う。

学習の目的 日本思想の領域で卒業論文を書くための基礎的な能力を養うことができる。

学習の到達目標 卒業論文作成に向け、テキストを読解していく力を深めることができる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

成績評価方法と基準 発表50%、授業への参加度50%。

オフィスアワー 毎週金曜日7-8限

授業計画・学習の内容

学習内容

毎週一人のリポーターを定め、日本思想を学ぶ上での基礎的文献の読解を行う。

第1回; ガイダンス

第2~15回: 文献の読解

*日本思想領域で卒業論文を書く学生を主たる対象とするので、受講の際は注意すること。

2012年度以降入学生用(文化) **日本歴史演習E**

Japanese History Seminar E

2011年度以前入学生用(文化) **日本歴史演習E**

Japanese History Seminar E

学期 前期 **開講時間** 火3,4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

担当教員 山田 雄司 (人文学部)

授業の概要 北野社家日記の精緻な読解を通して、中世の北野社の祭祀、神社組織と運営、朝廷・幕府との関係等を検討していく。

学習の目的 中世古文書・古記録の読み方、調べ方の基礎を学ぶ。

学習の到達目標 日本中世史で卒業論文を書けるようになるための基礎的技術を習得する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

発展科目 日本歴史演習F

教科書 『北野社家日記』1～8 (続群書類従完成会、八木書店)

成績評価方法と基準 授業態度30%、発表70%、計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 火曜日午後、場所山田研究室

その他 前・後期通じて受講してください。授業で使用する論文・史料はこちらで用意します。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：北野社についての解説
第2回：資料の調べ方について

第3回：卒業論文関係論文読み
第4回～第15回 『北野社家日記』輪読

2012年度以降入学生用(文化) **日本歴史演習F**

Japanese History Seminar F

2011年度以前入学生用(文化) **日本歴史演習F**

Japanese History Seminar F

学期 後期 **開講時間** 火3,4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

担当教員 山田 雄司 (人文学部)

授業の概要 北野社家日記の精緻な読解を通して、中世の北野社の祭祀、神社組織と運営、朝廷・幕府との関係等を検討していく。

学習の目的 中世古文書・古記録の読み方、調べ方の基礎を学ぶ。

学習の到達目標 日本中世史で卒業論文を書けるようになるための基礎的技術を習得する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 情報受発信力, 社会人としての態度

予め履修が望ましい科目 日本歴史演習E

教科書 『北野社家日記』1～8 (続群書類従完成会、八木書店)

成績評価方法と基準 授業態度30%、発表70%、計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 火曜日午後 山田研究室

その他 前・後期通じて受講してください。授業で使用する論文・史料はこちらで用意します。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：北野社について

第2回～第5回：『北野社家日記』輪読 書き下しについて

第6回～第9回：『北野社家日記』輪読 語句について

第10回～第15回：『北野社家日記』輪読 現代語訳

2012年度以降入学生用(文化) **日本歴史総合演習A**

Seminar of the Japanese History

2011年度以前入学生用(文化) **日本歴史総合演習A**

Seminar of the Japanese History

学期 前期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 4年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴**

能動的要素を加えた授業

担当教員 塚本 明(人文学部)

山田雄司(人文学部)

小澤 毅(人文学部)

授業の概要 卒業論文継続指導

受講要件 日本史・考古学専攻で卒業研究に取り組む者。

学習の目的 卒業論文作成のための方法と知識を学ぶ。

予め履修が望ましい科目 日本の歴史、考古学の関連授業

学習の到達目標 卒業論文作成のための方法と知識を習得する。

成績評価方法と基準 受講態度および発表内容100%

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受信能力

オフィスアワー 随時

授業計画・学習の内容

学習内容

考古学・日本史の基本問題を発表形式で学習する。

考古学・日本史で卒業論文を書く4年生を対象

とする。

1回：オリエンテーション、今後の予定の決定

2～8回：各自第1回目の報告

9～15回：各自第2回目の報告

2012年度以降入学生用(文化) **日本歴史総合演習B**

Seminar of the Japanese History

2011年度以前入学生用(文化) **日本歴史総合演習B**

Seminar of the Japanese History

学期 後期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 4年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴**

能動的要素を加えた授業

担当教員 塚本 明(人文学部)

山田雄司(人文学部)

小澤 毅(人文学部)

授業の概要 卒業論文継続指導

信力

学習の目的 卒業論文作成のための方法と知識を学ぶ。

受講要件 日本歴史総合演習Aを履修済であること。

学習の到達目標 卒業論文作成のための方法と知識を習得する。

成績評価方法と基準 受講態度および発表内容100%

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発

オフィスアワー 随時

授業計画・学習の内容

学習内容

考古学・日本史の基本問題を発表形式で学習する。

考古学・日本史で卒業論文を書く4年生を対象

とする。

1回：オリエンテーション、今後の予定の決定

2～8回：各自第1回目の報告

9～15回：各自第2回目の報告

2012年度以降入学生用(文化) **日本文学演習G** Seminar in Japanese Literature G
2011年度以前入学生用(文化) **日本文学演習G** Seminar in Japanese Literature G

学期 前期 開講時間 火 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習
担当教員 吉丸 雄哉 (人文学部)

授業の概要 津坂東陽の漢文体笑話小説『訳準笑話』を扱います。漢文初学者のために作られた教科書で、平易な漢文で書かれています。一話が三、四行程度の短話を集めた本なので、分担して、注釈と読み下しと現代語訳をしてもらいます。

学習の目的

江戸時代の文学作品について、基礎的な語釈の技術、発表の技術を身につけます。漢文の読解に習熟する。

学習の到達目標

返点にしたがって基本的な読みくだしができるようになる。

江戸時代の笑話の特性とその類型について学ぶ。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術

受講要件 日本古典文法の知識。漢文読解の基礎を知っていること。

予め履修が望ましい科目 日本近世文学の授業、江戸時代史の授業。中国古典文学の授業。

教科書 授業内で影印を配布する。

成績評価方法と基準 演習での発表で七割。期末レポートで三割。

オフィスアワー 火曜日の昼休み。長い時間が必要なものはメールにて相談のこと。おおよそ、木曜日の午後が空いています。

その他 時代背景のため、差別的な表現が出てくることがある。また、遊里や性愛に関する噺があることを了解したうえで受講のこと。

授業計画・学習の内容

学習内容

第一回 津坂東陽『訳準笑話』とは
第二回から第十五回まで、噺を分担して、そ

の注釈と書き下し文の作成、現代語訳をしてもらう。

2012年度以降入学生用(文化)**日本文学演習H** Seminar in Japanese Literature H
2011年度以前入学生用(文化)**日本文学演習H** Seminar in Japanese Literature H

学期 後期前半 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習

担当教員 吉丸 雄哉 (人文学部)

授業の概要 日本文学演習Eに引き続き、津坂東陽の漢文体笑話小説『訳準笑話』を扱います。漢文初学者のために作られた教科書で、平易な漢文で書かれています。分担して、注釈と読み下しと現代語訳をしてもらいます。一話が三、四行程度の短話を集めた本なので、後期から履修しても問題ありません。

学習の目的

江戸時代の文学作品について、基礎的な語釈の技術、発表の技術を身につけます。漢文の読解に習熟する。

学習の到達目標

返点にしたがって基本的な読みくだしができるようになる。
江戸時代の笑話の特性とその類型について学ぶ。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い

授業計画・学習の内容

学習内容

第一回 津坂東陽『訳準笑話』とは
第二回から第十五回まで、噺を分担して、そ

教養, 専門知識・技術

受講要件 日本古典文法の知識。漢文読解の基礎を知っていること。

予め履修が望ましい科目 日本近世文学の授業、江戸時代史の授業。日本文学演習E。中国古典文学の授業。

教科書 授業内で影印を配布する。

成績評価方法と基準 演習での発表で七割。期末レポートで三割。

オフィスアワー 火曜日の昼休み。長い時間が必要なものはメールにて相談のこと。おおよそ、木曜日の午後が空いています。

その他 時代背景のため、差別的な表現が出てくることがある。また、遊里や性愛に関する噺があることを了解したうえで受講のこと。

の注釈と書き下し文の作成、現代語訳をしてもらう。

nil 日本文学演習J

nil 日本文学演習J

The seminar of Japanese literature J

The seminar of Japanese literature J

学期 後期 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

担当教員 坂堅太

授業の概要 日本近現代文学に描かれた「仕事」の諸相を通じ、各時代における価値体系を考察する。

学習の目的 日本近代文学を研究するための基本的な手法と知識を修得する。

学習の到達目標

文学作品の読解を通じ、日本社会における「仕事」観の変容を理解する。
日本近現代文学を研究するための基本的な知識と手法を習得する。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 討

論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 日本文学演習Iと通年で履修することが望ましい。

教科書 飯田祐子, 日高佳紀, 日比嘉高編『文学で考える〈仕事〉の百年』(双文社出版、2010年)

成績評価方法と基準 レポート 40%、報告 40%、発言など授業への積極的な参加態度 20%

オフィスアワー 火曜日12～13時、場所：研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 イントロダクション(発表分担の決定、レジュメの作り方、文献収集法など)
第2回 近代における「仕事」「労働」観について①
第3回 近代における「仕事」「労働」観について②
第4回 受講者による研究発表(泉鏡花「海城発電」)
第5回 受講者による研究発表(樋口一葉「にごりえ」)
第6回 受講者による研究発表(正宗白鳥「塵埃」)
第7回 受講者による研究発表(吉屋信子「ヒヤシンス」)

第8回 受講者による研究発表(葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」)
第9回 受講者による研究発表(浅原六朗「或る自殺階級者」)
第10回 受講者による研究発表(井伏鱒二「遥拝隊長」)
第11回 坂口安吾「続戦争と一人の女」)
第12回 受講者による研究発表(庄野潤三「プールサイド小景」)
第13回 受講者による研究発表(黒井千次「聖産業週間」)
第14回 受講者による研究発表(津村記久子「ポトスライムの舟」)
第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **日本社会演習A** Seminar on the Japanese Society A
2011年度以前入学生用(文化) **日本社会演習A** Seminar on the Japanese Society A

学期 前期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 永谷 健 (人文学部)

授業の概要 近代以降の日本社会が含む諸問題を社会学はいかに扱ってきたのか、そして、社会的に研究するとはどのようなことなのかについて理解を深めるため、基本文献や方法論に関するテキストを輪読する。扱うテーマは、日本の近代化・格差・社会階層・メディアにかかわるものとする。また、後半では、近現代日本に関するいくつかの設定テーマについてグループや個人でリサーチし、結果を報告する。

学習の目的 先行研究の読み込み、および、テーマ・方法をやや限定したリサーチを通じて、社会的な研究を行なうための前提となる学問的関心を高め、かつ、方法論についての理解を深める。

学習の到達目標 近現代日本の社会階層やメディアにかかわる諸問題についての幅広い知

識を得るとともに、社会的な研究の方法論について概要を知る。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 社会学概論A、社会学概論B、日本の社会A、日本の社会B

教科書 授業の中で指示する。

成績評価方法と基準 発表、その要約の提出（受講者数を考慮し、妥当な方法を授業内で指示する）、ディスカッションへの参加によって総合的に評価する。

オフィスアワー 火曜日12:00~13:00

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 問題の提起、および、演習の形式に関する打ち合わせ
第2回~第6回 近現代の日本社会の諸問題にかかわる文献の講読

第7回~第11回 社会学の方法論にかかわる文献の講読
第12回~第14回 リサーチ結果の報告
第15回 総括

2012年度以降入学生用(文化) **日本社会演習B** Seminar on the Japanese Society B
2011年度以前入学生用(文化) **日本社会演習B** Seminar on the Japanese Society B

学期 後期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 永谷 健 (人文学部)

授業の概要 近代以降の日本社会が含む諸問題を社会学はいかに扱ってきたのか、そして、社会的に研究するとはどのようなことなのかについて理解を深めるため、専門的な先行研究を読み込む。また、各自が定めた研究のテーマについて自由報告を行なう。扱うテーマは、日本の近代化・格差・社会階層・メディアにかかわるものとする。

学習の目的 先行研究の読み込み、および、独自のリサーチを通じて社会学的研究に関する理解を深めるとともに、本格的な研究のための準備を行なう。

学習の到達目標 近現代日本の社会的な問題領域に関する専門的な知識を得るとともに、各自が設定した社会的な研究にとって

実施可能な方法論について理解を深める。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 社会学概論A、社会学概論B、日本の社会A、日本の社会B

教科書 授業の中で指示する。

成績評価方法と基準 発表、その要約の提出 (受講者数を勘案し、妥当な方法を授業内で指示する)、ディスカッションへの参加により総合的に評価する。

オフィスアワー 火曜日12:00~13:00

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 問題の提起と進め方についての打ち合わせ
第2回~第9回 近現代の日本社会の諸問題に関する先行研究の報告

第10回 中間的なディスカッション (ディベート形式をとる場合もある)
第11回~第14回 文献報告、あるいは各自の研究報告
第15回 総括

2012年度以降入学生用(文化) **日本地誌演習C**

Seminar for Geographical studies in Japan

2011年度以前入学生用(文化) **日本地誌演習C Seminar for Geographical studies in Japan C**

学期 前期 開講時間 火 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業

担当教員 森正人

授業の概要 この授業では卒業論文執筆のための問題発見、解決能力を養う。関連文献の講読、発表を中心とする

学習の目的 文化、政治、経済とは何か、わたしたちの日常生活はどのような諸関係によって構成されているのか、書物や論文の読解を通して考える。

学習の到達目標 一定水準以上の卒業論文を仕上げる、あるいはそのための方法論と理論を十分に理解する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度

受講要件 授業に意欲を持って取り組むこと

ができること。

予め履修が望ましい科目 人文学部「比較地域論」と「日本の風土と地誌A・B」をすでに履修済みであるか今年度に履修予定であることを、本科目履修の要件とする。

教科書 受講生と相談して決定する

成績評価方法と基準 出席状況・発表状況・議論への参加状況などを勘案して総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週火曜日12:00～13:00 (事前にアポイントを取る)

その他 前期と後期をセットで履修すること。どちらか一方だけの履修は認めない

授業計画・学習の内容

学習内容

本演習では、眼前に広がるさまざまな文化現象にどのようにアプローチできるか、文献の精読を通して検討する。

3年生はどのように文化を理論的に捉えられるか、自分の関心を持つ文化現象に、どのような方法論が可能か理解する。4年生は、過去1

年に養った文化現象への視覚を、どのように生かすことができるか卒論作成を通して展開する。

第1～15回 発表と討議

なお、本演習は法則プラザと接続しており、卒論作成の学生は法則フェスタで発表することとする。

2012年度以降入学生用(文化) **日本地誌演習D**

Seminar for geographical study in Japan

2011年度以前入学生用(文化) **日本地誌演習D** Seminar for geographical study in Japan D

学期 後期 **開講時間** 火 7, 8 **単位** 2 **対象** 受講生は必ず日本地誌演習Aを受講すること **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** PBL

担当教員 森 正人

授業の概要 文化、政治、経済とは何か、わたしたちの日常生活はどのような諸関係によって構成されているのか、書物や論文の読解を通して考える。

学習の目的 卒業論文執筆に向けた知識を得ることができる。

学習の到達目標 一定水準以上の卒業論文を仕上げる、あるいはそのための方法論と理論を十分に理解する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 社会人としての態度

受講要件 授業に意欲を持って取り組むことができること。日本地誌演習Cを必ず受講していること。

授業計画・学習の内容

学習内容

本演習では、眼前に広がるさまざまな文化現象にどのようにアプローチできるか、文献の精読を通して検討する。

3年生はどのように文化を理論的に捉えられるか、自分の関心を持つ文化現象に、どのような方法論が可能か理解する。4年生は、過去1

予め履修が望ましい科目 「比較地域論」と「日本の風土と地誌A・B」はすでに履修済みであるか、今年度に履修予定であることを履修の要件とする。

教科書

[参考書]

中川正・森正人・神田孝治 (2006) 『文化地理学ガイダンス』

成績評価方法と基準 出席状況・発表状況・議論への参加状況などを勘案して総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週火曜日12:00～13:00 (事前にアポイントを取ること)

その他 日本地誌演習Cと同時に履修すること。

年に養った文化現象への視覚を、どのように生かすことができるか卒論作成を通して展開する。

第1～15回 発表と討議

なお、本演習はアカデミックフェアと接続しており、卒論作成の学生は法則フェスタで発表することとする。

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの思想A**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの思想A**

学期 前期 開講時間 水1,2 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次 授業の方法 講義

担当教員 久間泰賢

授業の概要 アジア地域の思想と文化に広く影響を及ぼした仏教について学習する

コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 仏教思想の基本概念の習得

教科書 授業の中でコピーを配布する

学習の到達目標 初期仏教思想についての基礎知識の習得を目指す

成績評価方法と基準 レポート70%+平常点30%

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力、

オフィスアワー 授業に関する詳細な質問等は、「木曜日5～6限」の間に「久間教室(共通教育2号館2階)」にて受け付ける。

授業計画・学習の内容

学習内容

インドにおいて成立し、東アジア世界に大きな影響を及ぼした仏教とは本来どのような特質を有しているのか。東洋思想を学ぶ際に避けることのできない仏教についての基本的知識を獲得してもらうために、いくつかの根本概念を取り上げて、その思想史的な展開をたどりつつ概説する。前期は特に初期仏教の基本教理と、それらが部派仏教においてどのように展開したか、という点に焦点を当てる。授業では、「三法印(諸行無常・諸法無我・涅槃寂静)」「三宝(仏・法・僧)」「三蔵(経・律・論)」という基本的概念を軸に解

説を進める予定である。また、部派仏教における諸学説の展開については、特に「刹那滅論」と「仏身論」を中心に扱うこととした。

第1回 導入：三法印、三宝、三蔵について

第2～3回 三法印：諸行無常と刹那滅論

第4～5回 三法印：諸法無我と空性思想

第6～7回 三法印：涅槃寂静と仏身論

第8～9回 三宝：仏について

第10～11回 三宝：法について(仏説の分類法を中心に)

第12～13回 三宝：僧について

第14～15回 三蔵：経・律・論について

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの思想B**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの思想B**

学期 後期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 久間泰賢

授業の概要 アジア地域の思想と文化に広く影響を及ぼした仏教について学習する

学習の目的 大乘仏教の根本的諸概念とその思想史的展開について概観する

学習の到達目標 仏教思想, 特に大乘の教理についての基礎知識の習得を目指す

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力、

授業計画・学習の内容

学習内容

インドにおいて成立し、東アジア世界に大きな影響を及ぼした仏教とは本来どのような特質を有しているのか。東洋思想を学ぶ際に避けることのできない仏教についての基本的知識を獲得してもらうために、いくつかの根本概念を取り上げて、その思想史的な展開をたどりつつ概説する。

後期は、前期の授業内容を踏まえ、大乘仏教の教理について概説を行う。また、以上の学説の説明をひととおり終えた後に、後期インド仏教において様々な仏教学説の総合化・体系化がどのように行われたのかという点についても、最新の研究を紹介しながら論ずる予定である。

初期仏教の教理に関する基礎的知識が必要と

コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 アジア・オセアニアの思想A (前期開講)

教科書 授業の中でコピーを配布する

成績評価方法と基準 レポート70%+平常点30%

オフィスアワー 授業に関する詳細な質問等は、「木曜日5～6限」の間に「久間教室(共通教育2号館2階)」にて受け付ける。

なるため、前期・後期続けての受講が望ましい。

第1回 導入：「大乘」という概念

第2～3回 大乘仏教の起源：教理史的方法論について

第4～5回 大乘仏教の起源：教団史的方法論について

第6～7回 大乘仏教の起源：最近の研究動向

第8～9回 中観思想：言語と真理との関係

第10～11回 唯識思想：外界の実在性はどのように否定されるのか

第12～13回 密教思想：密教思想はなぜ優れているのか

第14～15回 総括：後期インド仏教における仏教学説の総合化について

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの思想E (前期2単位)**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの思想E (前期2単位)**

学期 前期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 片倉望 (人文学部文化学科)

授業の概要 中国古代思想史の流れを理解し、いわゆる定説というものを疑う目を養う。

学習の目的 現代日本で使われている言葉が、いかにいい加減なものであるかを知り、現代社会の問題点を探る能力が身に付く。

学習の到達目標 近年の出土資料を分析し、神話と政治思想との接点を探る。

本学教育目標との関連 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力

教科書

[テキスト] 適宜、プリントにて配布する。

[参考書] 講義の中で指示する。

成績評価方法と基準 授業態度・講義中の質問40%、レポート60%

オフィスアワー 随時質問に応じる

授業計画・学習の内容

学習内容

1998年、郭店楚墓より出土した竹簡『老子』を含む多くの古書が写真と共に発表され、先秦思想研究者の間に衝撃が走った。何故なら、一つには、それが1970年代に殆ど『老子』の原本に近いと思われる帛書『老子』を出土した馬王堆漢墓より遡ることさらに200年の戦国時代の墓からの出土文献だったからである。しかしながら、それ以上に重要な点は、共に出土した儒家系の文献にあり、それらの中には馬王堆漢墓から出土し、孟子若年時代の著作であることがほぼ明らかとなった帛書「五行篇」や、これまで漢代の著作ではないかと思われてきた『礼記』の幾つかの篇が含まれていた。これらの出土文献は、これまでの先秦思想史を塗り替える可能性を秘めたものであると言える。とりわけ、従来、儒家のアンチ・テーゼとして出発したものとして理解されてきた道家の思想が、実は、儒家の思想と極めて類似した性格を持つものであり、それ以上に、儒家独自のものと思われてきた礼楽の思想が、意外にも『老子』を起源としたものであることが明らかになりつつある。

さらにまた、2001年11月には、『上海博物館蔵戦国楚竹書(1)』が出版されたが、恐らくは盗掘によって上海の市場に流出したと思われるこの資料は、郭店楚墓竹簡と出入すると

ころが多く、双方の比較によって、さらなる研究の深化が期待される状況となった。

本講義ではこれらの出土文献とこれまでの先秦思想研究の成果を踏まえて、先秦における道家思想の意義と、儒家思想との関係を明らかにして行きたい。なお、中心として扱うテーマは先秦の本性論であり、出土文献のなかでは、「性情論」の思想的な位置づけを考察することが第一の目的となる。

第一回 「自然」とはなにか。その欺瞞性を暴く。

第二回 道家の「自然」(1) 『老子』(1)

第三回 道家の「自然」(1) 『老子』(2)

第四回 道家の「自然」(1) 『老子』(3)

第五回 道家の「自然」(2) 『莊子』(1)

第六回 道家の「自然」(2) 『莊子』(2)

第七回 道家の「自然」(2) 『莊子』(3)

第八回 道家の「自然」(2) 『莊子』(4)

第九回 道家の「自然」(3) 『列子』(1)

第十回 道家の「自然」(3) 『列子』(2)

第十一回 道家の「自然」(3) 『列子』(3)

第十二回 道家の「自然」(3) 『列子』(4)

第十三回 道家の「自然」(4) 『管子』(1)

第十四回 道家の「自然」(4) 『管子』(2)

第十五回 『淮南子』以前の道家の「自然」とは

は

学習課題(予習・復習)

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの思想F (後期2単位)**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの思想F (後期2単位)**

学期 後期 **開講時間** 月3,4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

担当教員 片倉望 (人文学部文化学科)

授業の概要 先秦から漢代に至るまでの文献に出現する「自然」概念の展開を考察する。

学習の目的 現代人の勝手な概念で古代を見ることがなくなる。

学習の到達目標 簡単に「自然はいいものだ」などと言えなくなる。

教科書

[テキスト] 適宜、プリントにて配布する。

[参考書] 講義の中で指示する。

成績評価方法と基準 授業態度・講義内での質問40%、レポート60%

オフィスアワー 随時質問に応じる

授業計画・学習の内容

学習内容

『老子』に出発する「自然」の語は、当初、「自分自身でそうする。」という程度の意味の言葉であり、思想的意義や価値を持つ言葉ではなく、まして、明治期の日本において、natureの翻訳語として使われた「自然」とは殆ど意味の連関を持たない言葉であった。その「自然」が、前漢の『淮南子』を経て思想的意義を持つようになり、さらに、後漢の王充が著した『論衡』においては、「自然篇」という一篇を形成するようになる過程をトレースし、さらに、六朝時代、仏教との接触によってその意味を大きく変質させるに至るまでの流れを慎重に検討して行く。

本講義では、常に現代の「自然」の語とキャッチ・ボールをしながら、古代の「自然」について考察を加える、という手続きをとる。例えば、コマーシャルなどで、「自然はいいなあ!」とある俳優が呟くとする。しかし、彼が「いい」とする「自然」とは何なのか。もし、人間の手の加わらないものを「自然」と呼ぶのであれば、人間が汗水流して耕作をする田舎の田園風景は、そもそも「自然」ではないことになる。

我々は、ともすれば言葉の持ついい加減なイメージに騙されて、勝手な「自然」をつ

くり、それにまた勝手な恋をする。そこまでは、まだ許せるとしても、それが時には政治的暴力や圧力ともなることを、「自然」の語の変遷を精査しながら考察して行く、というのが本講義の目的である。

なお、本年は後漢の思想家王充の『論衡』自然篇、及び、その他の篇に示される「自然」を主なる材料とする。

第一回 「自然」とはなにか。その欺瞞性を暴く。

第二回 道家の「自然」 (5) 『淮南子』(1)

第三回 道家の「自然」 (5) 『淮南子』(2)

第四回 道家の「自然」 (5) 『淮南子』(3)

第五回 道家の「自然」 (5) 『淮南子』(4)

第六回 儒家の「自然」 (1) 『荀子』

第七回 儒家の「自然」 (2) 『春秋繁露』

第八回 儒家の「自然」 (3) 『淮南子』

第九回 法家の「自然」 (1) 『韓非子』

第十回 法家の「自然」 (2) 『淮南子』

第十一回 仏教流入直前の「自然」 『論衡』「自然篇」

第十二回 仏教流入直前の「自然」 『論衡』「自然篇」以外

第十三回 史書における「自然」 (1) 『史記』

第十四回 史書における「自然」 (2) 『漢書』

第十五回 仏教流入以前の「自然」を通して

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの言語A**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの言語A**

学期 前期集中 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

担当教員 塚本 晃久 (非常勤講師)

授業の概要 アジア・オセアニアの言語に関する概括的な知識の習得

識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 アジア・オセアニアの言語に関する概括的な知識の習得

教科書 プリント配布

学習の到達目標 アジア・オセアニアの言語に関する知識を深める

成績評価方法と基準 レポート (80%) 授業への積極的参加 (20%)

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知

オフィスアワー 授業の後に適宜応じる。

授業計画・学習の内容

学習内容

アジア・オセアニアを含む広大な地域には膨大な数の言語がひしめき合っている。多くの地域では、古くから行われてきた言語と新たに到来した言語が混ざり合うようにして分布している。そのために、アジア・オセアニアではいくつもの異なる系統の言語が話されているばかりでなく、今日では系統的な由来を確かめることができない言語も多く存在する。本講義では、アジア・オセアニアの言語の系統的分類、主な類型の特徴、文化との関

わりから興味深いと思われる現象、社会的情勢・使用状況等を紹介する。また、アジア・オセアニアの文字についても触れる。

第1～3回：世界の言語情勢

第4～5回：オーストラリア・ニューギニアの諸言語

第6回：東南アジアの島嶼部・太平洋諸島の諸言語

第7～11回：アジアの諸言語

第12～13回：アジア・オセアニアの文字

第14～15回：言語と文化

2012年度以降入学生用(文化)**アジア・オセアニアの言語B**

2011年度以前入学生用(文化)**アジア・オセアニアの言語B**

学期 後期 **開講時間** 水 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

担当教員 塚本 晃久 (非常勤講師)

授業の概要 アウストロネシア諸語の歴史と比較言語学の方法に関する知識の習得

識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 アウストロネシア諸語の歴史と比較言語学の方法に関する知識の習得

教科書 プリント配布

学習の到達目標 言語史の再構方法を学ぶ(アウストロネシア諸語を例とする)

成績評価方法と基準 レポート (80%) 授業への積極的参加 (20%)

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識

オフィスアワー 授業の後に適宜応じる。

授業計画・学習の内容

学習内容

アウストロネシア諸語は系統的にみて互いに関係のある言語の集まりで、いわゆる語族を形成する。この語族は世界でも最も大きな語族のひとつで、それに属する言語は1000前後あると言われ、地理的には北は台湾、南はニュージーランド、東はイースター（ラパヌイ島（チリ領））、西はマダガスカルに至る広大な地域に分布している。本講義では、まず、言語の歴史研究の方法を学んでから、アウストロネシア諸語の歴史を取り扱った主な研究を検討し、これらの言語がどのように成立したかを学ぶ。その後、まだ十分に解明さ

れていない問題にも触れる。講義の前半で学ぶ歴史研究の方法はアウストロネシア諸語ばかりでなく、どのような言語の歴史研究にも適用することができる一般的なものである。

第1～5回：歴史言語学の方法

第6～8回：アウストロネシア諸語の歴史研究の始まり

第9～10回：Otto Dempwolffの研究

第11回：小川尚義とIsidore Dyenの研究

第12～13回：今日までのアウストロネシア諸語の研究のまとめ

第14～15回：今後の問題

2012年度以降入学生用(文化)**中国の言語B**
2011年度以前入学生用(文化)**中国の言語B**

Chinese Language B
Chinese Language B

学期 後期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 福田和展 (人文学部文化学科)

授業の概要 中国語学の基礎的な事項を理解する。「普通話」の成立過程や中国の言語政策を見ることによって、言語や文字に投影される民族意識、或いは言語と国家の関係について理解する。

学習の目的 ことばの背景にある中国の社会を理解する。ことばと国家の関係を理解する。

学習の到達目標 ことばと国家、中国と日本について言葉という切り口から理解し、考える力を持つ。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力、考える力、

コミュニケーション力を総合した力

受講要件 共通教育中国語Ⅰを4単位履修済の学生。

予め履修が望ましい科目 共通教育中国語Ⅰ 講読、中国語Ⅰ文法、中国語Ⅱ会話、中国語Ⅱ作文

教科書 授業中に指示。

成績評価方法と基準 出席、授業態度、レポートで判断。

オフィスアワー 月～金の授業・会議時間以外。

授業計画・学習の内容

学習内容

以下のことを中心に15回の講義を進める。

第1回～6回：漢中国の少数民族に対する言語政策

字第7回～10回：第7回～9回中国の言語政策

第11回～15回：日本、韓国、ベトナムの言語政策と漢字・漢語

2012年度以降入学生用(文化)**中国の言語C**
2011年度以前入学生用(文化)**中国の言語C**

Chinese Language C
Chinese Language C

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 曾若涵 (ソウ ジャクカン)

授業の概要 台湾の言語状況、特に中国語と台湾閩南語を焦点として紹介する。または大陸中国語と台湾中国語との差異、政治、文化、歴史、流行について言及する。なお、この授業では台湾で使用されている「注音符号」と繁体字で中国語を学び、台湾教育部押し広めている「台湾閩南語羅馬字ピンイン方案」で台湾方言を学ぶ。後期の授業は台湾と日本の関係も授業とする。

学習の目的 台湾や海外の華人社会で今も使用続けている繁体字で書かれた中国語に親しみ、台湾事情についていろいろの知識を得る。

学習の到達目標 「注音符号」・「繁体字」・「台湾閩南語羅馬字ピンイン」を基本的に読めること。中国語でコミュニケーション能力を上達すること。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思

考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 共通教育中国語Ⅰを4単位履修済みの学生。

予め履修が望ましい科目 共通教育中国語Ⅰ 文法、中国語Ⅰ講読、中国語Ⅱ会話、中国語Ⅱ講読。

発展科目

中国の文学、中国語学演習、中国の言語B

教科書 プリントにて配布する。

成績評価方法と基準 受講態度・毎回の質問・不定期宿題50%、小テスト20%、レポート30%。

オフィスアワー 随時質問に応じる。Emailで質問することも歓迎。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。
- 第2回 台湾の言語と中国の言語、概要
- 第3回 注音符号：基本知識
- 第4回 注音符号：講読練習
- 第5回 台湾の言語政策：日治時期。台湾（閩南）語ピンイン（1）
- 第6回 台湾（閩南）語ピンイン（2）
- 第7回 台湾（閩南）語ピンイン（3）

- 第8回 台湾民謡。台湾（閩南）語ピンイン練習
- 第9回 小川尚義の言語学貢献
- 第10回 生活台湾（閩南）語会話（1）
- 第11回 生活台湾（閩南）語会話（2）
- 第12回 生活台湾（閩南）語会話（3）
- 第13回 台湾映画鑑賞、台湾語字幕討論（1）
- 第14回 台湾映画鑑賞、台湾語字幕討論（2）
- 第15回 まとめ
- 第16回 レポート提出

2012年度以降入学生用(文化)**中国の言語D**

2011年度以前入学生用(文化)**中国の言語D**

Chinese Language D

Chinese Language D

学期 後期 **開講時間** 火5,6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 曾若涵 (ソウ ジャクカン)

授業の概要 前期授業の台湾の言語状況を基ついで、大陸中国語と台湾中国語との差異を除き、台湾方言をもっと深く学び、台湾と日本の関係をいくつかのテーマを利用して紹介する。

学習の目的 台湾や海外の華人社会で今も使用続けている繁体字で書かれた中国語に親しみ、台湾事情と日台関係についていろいろの知識を得る。

学習の到達目標 「注音符号」・「繁体字」・「台湾閩南語羅馬字ピンイン」を基本的に読めること。中国語でコミュニケーション能力を上達すること。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力、

考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 共通教育中国語Ⅰを4単位履修済みの学生。

予め履修が望ましい科目 共通教育中国語Ⅰ 文法、中国語Ⅰ講読、中国語Ⅱ会話、中国語Ⅱ講読。

発展科目 中国の文学、中国語学演習Ⅰ

教科書 プリントにて配布する。

成績評価方法と基準 受講態度・毎回の質問・不定期宿題50%、小テスト20%、レポート30%。

オフィスアワー 随時質問に応じる。Emailで質問することも歓迎。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。閩南語ピンイン復習。
- 第2回 台湾博覧会：台湾歴史上最大の博覧会 (1)
- 第3回 台湾博覧会：台湾歴史上最大の博覧会 (2)
- 第4回 台湾語会話練習 (2)
- 第5回 銅像：どこにもある政治的意識 (1)
- 第6回 銅像：どこにもある政治的意識 (2)
- 第7回 台湾語会話練習 (2)

- 第8回 日治時期の修学旅行 (1)
- 第9回 日治時期の修学旅行 (2)
- 第10回 台湾語会話練習 (3)
- 第11回 日本に影響された台湾野球：KANO嘉農野球チーム (1)
- 第12回 日本に影響された台湾野球：KANO嘉農野球チーム (2)
- 第13回 台湾映画鑑賞：KANO (1)
- 第14回 台湾映画鑑賞：KANO (2)
- 第15回 まとめ
- 第16回 レポート提出

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの文学B**

Literature in Asia and Oceania B

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの文学B**

Literature in Asia and Oceania B

学期 後期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 川口洋史

授業の概要 19世紀以降のタイ文学について学んでいく。近世末期から近代・現代の歴史の流れのなかでタイ文学を捉えていくことで、文学とその当時の政治や社会、思想との関係について考えていく。

学習の目的 タイ近現代の文学史について学ぶことを通して、19世紀以降のタイの文学と歴史の関わりについて理解することを目標とする。また同時代の他のアジア・オセアニア地域の文学と比較できる基礎をつくることを目指す。

学習の到達目標 タイ近現代の文学について概要を説明できるようになること。また同時代の他のアジア・オセアニア地域の文学と比較できるようになること。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, モチベーション, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 アジア・オセアニアの文学A

教科書 使用しない。

成績評価方法と基準 小レポートと学期末のレポートによって評価する。

オフィスアワー 授業終了後に対応します。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 『布施太子本生経』とタイの伝統的世界観の復習1
- 第3回 『布施太子本生経』とタイの伝統的世界観の復習2
- 第4回 『クンチャー・クンペーン』と新たな文学1
- 第5回 『クンチャー・クンペーン』と新たな文学2
- 第6回 『キッチャーヌキット』と西洋近代との接触1

- 第7回 『キッチャーヌキット』と西洋近代との接触2
- 第8回 タイ近代文学の幕開け
- 第9回 ナショナリズムと文学
- 第10回 『メナムの残照』に見るタイと日本の関係1
- 第11回 『メナムの残照』に見るタイと日本の関係2
- 第12回 現代タイ文学1
- 第13回 現代タイ文学2
- 第14回 現代タイ文学3
- 第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**中国の文学A**
2011年度以前入学生用(文化)**中国の文学A**

Chinese Literature A
Chinese Literature A

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 対象 人文学部 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次

授業の方法 講義

担当教員 湯浅陽子 (人文学部文化学科)

授業の概要

この授業では、北宋期(960～1126)の詩文を資料として、その表現や内容の変化の過程をたどりつつ、各々の時期の文学作品の持つ特色について考える。

学習の目的 中国の古典詩文に親しむ。

学習の到達目標 北宋期を中心とした中国の古典文化に対する理解を深める。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 この授業は、国語科教員免許の漢文学に該当する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- ① 宋代の社会と文化について
- ②～⑤ 北宋初期の文学

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 文学概論J 中国文学演習AB

教科書 必要に応じて授業中に資料を配布する。

成績評価方法と基準 授業に対する積極的な態度30%、期末試験等70%

オフィスアワー 金曜日12:00～13:00 場所: 湯浅研究室 (共通教育4号館4階)

その他

2004年度以前入学生は、通年での履修となります。

この科目は、教育学部の「漢文学講義I」として、教育学部の学生も履修します。開講は人文学部の日程に添って行います。

- ⑥～⑫ 北宋中期の文学
- ⑬～⑮ 北宋末期の文学
- ⑯ 定期試験

文学概論J

An Introduction to Literature J

【学期】後期 【開講時間】金 3, 4 【単位】2 【対象】2012年度以降入学生用(文化) 【年次】学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 【授業の方法】講義
【担当教員】湯浅陽子 (人文学部文化学科)

授業の概要

この授業では、全15回を前半・後半に分け、「I 古典的中国における書物の文化史」と題する前半(第1～8回)では、中国古典文献学(文学・史学・哲学の各分野を含む)を学ぶ基礎として、近代以前の中国における知的文化のあり方について、特に各時代の書物をめぐる状況を中心に概説する。

また、「II 中国古典文学の諸ジャンル」と題する後半(第9～15回)では、古典文学の各ジャンル・文体の特色について、時代を追った変容を視野に入れつつ概説する。

学習の目的 中国の古典文学を学ぶための基礎知識を修得する。

学習の到達目標 中国の古典詩文ならびに古典文献学の基礎知識を修得する。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課

題探求力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 この授業は、国語科教員免許の漢文学に該当する。

予め履修が望ましい科目 中国の文学A

発展科目 中国文学演習AB

教科書 必要に応じて授業中に資料を配付する。

成績評価方法と基準 授業に対する積極的な態度30%、期末試験等70%。

オフィスアワー 金曜日12:00～13:00 場所：湯浅研究室(共通教育4号館4階)

その他 この科目は、教育学部の「漢文学講義II」として、教育学部の学生も履修します。開講は人文学部の日程にそって行います。

授業計画・学習の内容

学習内容

I 古典的中国における書物の文化史

第1回：先秦

第2回：秦

第3回：前漢

第4回：後漢

第5回：三国・西晋

第6回：南北朝期

第7回：唐

第8回：宋(～清)

II 中国古典文学の諸ジャンル

第9回：『詩』とその注釈

第10回：辞賦

第11回：駢文

第12回：古文

第13回：詩(古体詩)

第14回：詩(新体詩)

第15回：詞

定期試験

2012年度以降入学生用(文化)**アジア・オセアニアの風土と地誌A**
Regional Geography of Asia and Oceania A
2011年度以前入学生用(文化)**アジア・オセアニアの風土と地誌A**
Regional Geography of Asia and Oceania A

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 安食 和宏

授業の概要 東南アジアの自然環境、農林漁業、環境問題などを学習して、東南アジアの村落の成り立ちと、そこで暮らす人々の生活実態を理解する。フィリピン・ベトナム・タイ・マレーシア・インドネシアなどを対象とする。また、東南アジアと日本との関わりについても考える。

学習の目的 東南アジア地域の特徴に関する地理学的な知識を身につける。そして、現実にもみられる諸問題とその解決策について論理的に説明することができる。

学習の到達目標 東南アジアの村落の現実を理解して、現代社会を批判的にとらえることができる。そして、「先進国・豊かな国」といわれる日本と、「途上国・貧しい国」とされる東南アジア諸国との国際協力のあり方を

考える。

本学教育目標との関連 専門知識・技術、論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 教科書は使わない。必要に応じて資料を配布する。

成績評価方法と基準 小レポート (3割) と試験 (7割)

オフィスアワー 質問は随時受け付ける

その他 この授業の内容は、2013年度・2014年度前期の「アジア・オセアニアの風土と地誌B」と重なる部分が多い。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 東南アジアの全体像

第2回 発展途上国のとらえ方・・・理論的検討

第3～4回 東南アジアの自然環境・・・地形・気候・植生の特色

第5～9回 東南アジアの農業と農村生活・・・伝統的農業スタイル、農村生活の成り立ち、稲作の変化 (緑の革命)、農業の商業化 (ア

グリビジネス)、東南アジアと日本を結ぶモノ

第10～11回 東南アジア山地部の林業と環境問題・・・森林の利用と破壊、村落生活の変化

第12～15回 東南アジア海岸部の林業・漁業と環境問題・・・マングローブ林の利用と破壊、エビ養殖の発展、マングローブの植林事業

2012年度以降入学生用(文化)**アジア・オセアニアの風土と地誌B**
Regional Geography of Asia and Oceania B
2011年度以前入学生用(文化)**アジア・オセアニアの風土と地誌B**
Regional Geography of Asia and Oceania B

学期 後期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 安食 和宏

授業の概要 東南アジアの都市構造、都市の生活、商工業などを学習して、東南アジア地域の特徴とそこで暮らす人々の生活実態を理解する。フィリピン・ベトナム・タイ・マレーシア・シンガポール・インドネシアなどを対象とする。また、東南アジアと日本との関わりについても考える。

学習の目的 東南アジアの特徴に関する地理的な知識を身につける。そして、現実に見られる諸問題とその解決策について論理的に説明することができる。

学習の到達目標 東南アジアの現実を理解して、現代社会を批判的にとらえることができる。そして、「先進国・豊かな国」といわれ

る日本と、「途上国・貧しい国」とされる東南アジア諸国との国際協力のあり方を考える。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 教科書は用いない。必要に応じて資料を配付する。

成績評価方法と基準 小レポート (3割) と試験 (7割)

オフィスアワー 質問は随時受け付ける。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 東南アジアの全体像
- 第2～4回 東南アジアの産業・・・産業の仕組み、工業発展、東南アジアと日本との関係
- 第5～7回 東南アジアの都市の歴史・・・植民地以降の発展史、民族問題 (例として、ベトナムのサイゴン (ホーチミン))
- 第8～10回 過剰都市化と都市問題・・・都市化、労働力移動、インフォーマルセクター

- (例として、フィリピンのマニラ、インドネシアのジャカルタ)
- 第11～12回 都市政策と都市計画・・・都市整備計画、美観都市 (例として、シンガポール)
- 第13～15回 グローバル化する大都市・・・都市中間層、小売業の発展、国際労働力移動 (例として、マレーシアのクアラルンプル、タイのバンコク)

2012年度以降入学生用(文化)**中国語会話A**

Chinese Conversation A

2011年度以前入学生用(文化)**中国語会話A**

学期 前期 **開講時間** 金 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 曾若涵 (ソウ ジャクカン)

授業の概要 授業は基本的に中国語で行われる。中国語の丁寧な書き言葉を練習しながら、中国や台湾・香港についての現代華人社会と文化を紹介し、自分の意見の発表を中心に練習する。なお、文章を大量読み、中国語検定の3級や2級のレベルに対応する単語を身に着けるように目標とする。

学習の目的 中国語の簡体字と発音を覚えるとともに、文法を利用して一文を完全な話せるようになれる。中国語での質問に対して自然に応答できる。華人の考え方ややり方を認識させる。

学習の到達目標 中国語での質問や会話場面に対して自然に既習な言葉を利用して応答できる。固い文書も自力でよめるよになる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 批判的思考力, 討論・対話力,

実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語Ⅱ文法と中国語Ⅱ講読を履修済みであること。或は、中検の4級レベルを受かた者。

予め履修が望ましい科目 中国語Ⅱ会話と中国語Ⅱ講読、中国の言語ABCD

発展科目 中国語作文AB、中国の文学、中国語学演習Ⅰ、中国の言語ABCD

教科書 プリントにて配布する。

成績評価方法と基準 1.練習問題と小テスト30%。2.質問と授業態度30%。3.期末テスト40%。

オフィスアワー 毎週水曜日13:00~15:00
共通教育4号棟4階曾研究室。Emailで質問することも歓迎。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。

第2回 我的愿望

第3回 我的家乡

第4回 日本与邻近国家的关系1

第5回 日本与邻近国家的关系2

第6回 骂人的艺术

第7回 中国語検定2級听力, 語汇練習

第8回 中国語検定2級阅读, 翻译練習

第9回 电影欣赏1 (理解力訓練、聞き取り練習)

習)

第10回 电影欣赏2 (理解力訓練、感想書く練習)

第11回 环保议题1

第12回 环保议题2

第13回 中日饮食文化比较1

第14回 中日饮食文化比较2

第15回 听力、阅读总复习

第16回 定期試験

授業の概要 授業は基本的に中国語で行われる。中国語の丁寧な書き言葉を練習しながら、現代華人社会と文化を紹介し、感想や作文を書く。なお、文章を大量読み、中国語検定の3級や2級のレベルに対応する単語を身に着けるように目標とする。作文を書くとともに、文章を日本語訳・中国語訳する練習もある。

学習の目的 中国語の文章を読んで、文章の枠組みを分析し、自分の作文の中に利用される。中国語での質問に対して自然に応答できる。華人の考え方ややり方を認識させる。翻訳の能力を上達する。

学習の到達目標 中国語での質問や会話場面に対して自然に既習な言葉を利用して応答できる。固い文書も自力でよめるようになる。大量の翻訳練習。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。
- 第2回 自我介绍 (写作练习1)
- 第3回 我的好朋友 (翻译练习1)
- 第4回 见面礼仪 (写作练习2)
- 第5回 我的家人 (翻译练习2)
- 第6回 购物 (写作练习3)
- 第7回 讲价 (翻译练习3)
- 第8回 中国語検定2級練習

習力, 専門知識・技術, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語Ⅱ文法と中国語Ⅱ講読を履修済みであること。或は、中検の4級レベルを受けた者。

予め履修が望ましい科目 中国語Ⅱ会話と中国語Ⅱ講読 中国の言語ABDC

発展科目 中国語会話AB、中国の文学、中国語学演習Ⅰ 中国の言語ABCD

教科書 プリントにて配布する。

成績評価方法と基準 1.練習問題と小テスト30%。2.質問と授業態度30%。3.期末テスト40%。

オフィスアワー 毎週水曜日13:00~15:00 共通教育4号棟4階曾研究室。Emailで質問することも歓迎。

第9回 中国語电影欣赏1

第10回 中国語电影欣赏2

第11回 方位 (写作练习4)

第12回 交通工具 (翻译练习4)

第13回 烹饪 (写作练习5)

第14回 用餐习惯 (翻译练习5)

第15回 总复习

第16回 定期試験

2012年度以降入学生用(文化)**中国語作文B**
2011年度以前入学生用(文化)**中国語作文B**

Chinese Composition B

学期 後期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習
授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 曾若涵 (ソウ ジャクカン)

授業の概要 授業は基本的に中国語で行われる。中国語の丁寧な書き言葉を練習しながら、現代華人社会と文化を紹介し、感想や作文を書く。なお、文章を大量読み、中国語検定の3級や2級のレベルに対応する単語を身に着けるように目標とする。作文を書くとともに、文章を日本語訳・中国語訳する練習もある。

学習の目的 中国語の文章を読んで、文章の枠組みを分析し、自分の作文の中に利用される。中国語での質問に対して自然に応答できる。華人の考え方ややり方を認識させる。翻訳の能力を上達する。

学習の到達目標 中国語での質問や会話場面に対して自然に既習な言葉を利用して応答できる。固い文書も自力でよめるようになる。大量の翻訳練習。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。
第2回 饮茶文化 (写作练习1)
第3回 性別平等 (翻译练习1)
第4回 親子关系 (写作练习2)
第5回 選挙文化 (翻译练习2)
第6回 经济衰退 (写作练习3)
第7回 空气污染 (翻译练习3)
第8回 中国語検定2級練習

習力, 専門知識・技術, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語Ⅱ文法と中国語Ⅱ講読を履修済みであること。或は、中検の4級レベルを受けた者。

予め履修が望ましい科目 中国語Ⅱ会話と中国語Ⅱ講読 中国の言語ABDC

発展科目 中国語会話AB、中国の文学、中国語学演習Ⅰ 中国の言語ABCD

教科書 プリントにて配布する。

成績評価方法と基準 1.練習問題と小テスト30%。2.質問と授業態度30%。3.期末テスト40%。

オフィスアワー 毎週水曜日13:00~15:00 共通教育4号棟4階曾研究室。Emailで質問することも歓迎。

第9回 中国語电影欣赏1

第10回 中国語电影欣赏2

第11回 传统艺术 (写作练习4)

第12回 致命传染病 (翻译练习4)

第13回 宗教 (写作练习5)

第14回 气功和瑜伽 (翻译练习5)

第15回 总复习

第16回 定期試験

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習C**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習C**

学期 前期 **開講時間** 木 1, 2 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

担当教員 久間泰賢

授業の概要 インド文化の一側面である神話について、英語文献を通じて学習する

発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 関連文献を講読し、ヒンドゥー教の女神について考察する

教科書

授業の中でコピーを配布する

学習の到達目標 インド神話についての基本的な知識の習得を目指す

成績評価方法と基準 平常点100%

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受

オフィスアワー 授業に関する詳細な質問等は、「木曜日5～6限」の間に「久間教官室（共通教育2号館2階）にて受け付ける。

授業計画・学習の内容

学習内容

インドの女神に関する文献を扱う。講読する文献としては、David Kinsley 著 Tantric Visions of the Divine Feminineなどを予定している。演習では毎回参加者全員の輪読形式によって英文を読み進めてゆく。また、重要な概念に

ついては、その都度担当者を決めてレポート発表してもらうこととする。

第1回 導入：インドの女神神話について

第2回～第14回 文献講読（輪読形式）

第15回 総括

※使用文献のコピーは初回に配布する。

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習D**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習D**

学期 後期 **開講時間** 木 1, 2 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

担当教員 久間泰賢

授業の概要 インド文化の一側面である神話について、英語文献を通じて学習する

コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 関連文献を講読し、ヒンドゥー教の女神について考察する

予め履修が望ましい科目 アジア・オセアニア思想演習C (前期開講)

学習の到達目標 インド神話についての基本的な知識の習得を目指す

教科書 授業の中で配布する

成績評価方法と基準 平常点100%

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力、

オフィスアワー 授業に関する詳細な質問等は、「木曜日5～6限」の間に「久間教官室（共通教育2号館2階）にて受け付ける。

授業計画・学習の内容

学習内容

インドの女神に関する文献を扱う。講読する文献としては、David Kinsley 著 *Tantric Visions of the Divine Feminine* などを予定している。演習では毎回参加者全員の輪読形式によって英文を読み進めてゆく。また、重要な概念に

ついては、その都度担当者を決めてレポート発表してもらうこととする。

第1回 導入：インドの女神神話について

第2回～第14回 文献講読（輪読形式）

第15回 総括

※使用文献のコピーは初回に配布する。

2012年度以降入学生用(文化)**アジア・オセアニア思想演習E**

2011年度以前入学生用(文化)**アジア・オセアニア思想演習E**

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習

担当教員 久間泰賢

授業の概要 インド文化の基底をなす古典語, サンスクリット語を学習する

学習の目的 サンスクリット語の文法を学び, 基礎的な文献の読解を行う

学習の到達目標 サンスクリット語の基本的文献の読解を目指す

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受

発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 ゴンダ著・鎧淳訳『サンスクリット語初等文法』春秋社

成績評価方法と基準 期末試験100%

オフィスアワー 授業に関する詳細な質問等は, 「木曜日5～6限」の間に「久間教官室(共通教育2号館2階)」にて受け付ける。

授業計画・学習の内容

学習内容

サンスクリット語(Sanskrit)はインドの古典語である。インド・ヨーロッパにおける諸言語の源流にあたるのみならず, アジア・オセアニアの文化に対しても甚大な影響力を及ぼしてきた。この授業では, J.Gondaによる平易な教科書を用いつつ, サンスクリット語文法の基本的理解を目指すとともに, 例文プリントを用いて, 読解力を養う。あわせて, サンスクリット語で用いられているデーヴァナガリー文字の読み書きができるようになることも目指す。サンスクリット語に対する体系的理解のためには, 前期・後期続けての受講が望ましい。

なお, 前年度サンスクリット文法を履修済みで, 引き続きサンスクリット語文献の講読を希望する者は, この講義を受講されたい。授業内容は初等文法の習得が中心となるが, 同時に文法既習者用のプリントを用意しつつ授業を進めていく予定である。

第1回～第2回 デーヴァナガリー文字の読み書き

第3回～第5回 音声変化の規則について

第6回～第15回 名詞・形容詞の曲用と動詞の活用

※練習問題のプリントを授業中に配布する。また, 適宜小テストを実施する。

2012年度以降入学生用(文化)**アジア・オセアニア思想演習F**

2011年度以前入学生用(文化)**アジア・オセアニア思想演習F**

学期 後期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習

担当教員 久間泰賢

授業の概要 インド文化の基底をなす古典語, サンスクリット語を学習する

学習の目的 サンスクリット語の文法を学び, 基礎的な文献の読解を行う

学習の到達目標 サンスクリット語の基本的文献の読解を目指す。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、

コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 アジア・オセアニア思想演習E (前期開講)

教科書 ゴンダ著・鎧淳訳『サンスクリット語初等文法』春秋社

成績評価方法と基準 期末試験100%

オフィスアワー 授業に関する詳細な質問等は、「木曜日5～6限」の間に「久間教室室（共通教育2号館2階）にて受け付ける。

授業計画・学習の内容

学習内容

サンスクリット語(Sanskrit)はインドの古典語である。インド・ヨーロッパにおける諸言語の源流にあたるのみならず、アジア・オセアニアの文化に対しても甚大な影響力を及ぼしてきた。この授業では、J.Gondaによる平易な教科書を用いつつ、サンスクリット語文法の基本的理解を目指すとともに、例文プリントを用いて、読解力を養う。あわせて、サンスクリット語で用いられているデーヴァナガリー文字の読み書きができるようになることも目指す。サンスクリット語に対する体系的理解のためには、前期・後期続けての受講が

望ましい。

なお、前年度サンスクリット文法を履修済みで、引き続きサンスクリット語文献の講読を希望する者は、この講義を受講されたい。授業内容は初等文法の習得が中心となるが、同時に文法既習者用のプリントを用意しつつ授業を進めていく予定である。

第1回～第2回 前期の授業内容の復習

第3回～第15回 名詞・形容詞の曲用と動詞の活用

※練習問題のプリントを授業中に配布する。
また、適宜小テストを実施する。

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習U (前期2単位)**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習U (前期2単位)**

学期 前期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習
担当教員 片倉望 (人文学部文化学科)

授業の概要 ある程度の漢文読解力を養う。

[テキスト] 適宜、プリントにて配布する。

学習の目的 大学入試や教員採用試験に出る程度の漢文なら、片目で読めるようになる。

[参考書] 講義の中で指示する。

学習の到達目標 漢文に親しむ。

成績評価方法と基準 授業態度・毎回の質問
50%、レポート50%

教科書

オフィスアワー 随時質問に応じる。

授業計画・学習の内容

学習内容

古典漢文の代表的な文章を選び、毎回、初めの30分を使い、独力で訓読、解釈してもらい、残りの60分で演習形式の答え合わせと、思想的背景等の解説を行う。ただし、本演習では、あまり深い思索を進めるのではなく、幅広い漢文の知識を修得することを目的とするため、漢文の初心者でも参加することは可能である。

第一回 演習の進め方

第二回 故事成語 (1)

第三回 故事成語 (2)

第四回 故事成語 (3)

第五回 故事成語 (4)

第六回 故事成語 (5)

第七回 諸子の思想 (1)

第八回 諸子の思想 (2)

第九回 諸子の思想 (3)

第十回 正史の文章 (1)

第十一回 正史の文章 (2)

第十二回 正史の文章 (3)

第十三回 正史の文章 (4)

第十四回 正史の文章 (5)

第十五回 総括

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習V (後期2単位)**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習V (後期2単位)**

学期 後期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

担当教員 片倉望 (人文学部文化学科)

授業の概要 漢文を読むことを通して、正しい日本語を書く能力を身につける。

学習の目的 ポキャブラリーが豊富になり、明治時代に書かれた本もスラスラ読めるようになる。

学習の到達目標 漢文に親しむ。

教科書

[テキスト] 適宜、プリントにて配布する。

[参考書] 講義の中で指示する。

成績評価方法と基準 授業態度・毎回の質問50%、レポート50%

オフィスアワー 随時質問に応じる。

授業計画・学習の内容

学習内容

古典漢文の代表的な文章を選び、毎回、初めの30分を使い、独力で訓読、解釈してもらい、残りの60分で演習形式の答え合わせと、思想的背景等の解説を行う。ただし、本演習では、あまり深い思索を進めるのではなく、幅広い漢文の知識を修得することを目的とするため、漢文の初心者でも参加することは可能である。

第一回 演習の進め方

第二回 故事成語 (1)

第三回 故事成語 (2)

第四回 故事成語 (3)

第五回 故事成語 (4)

第六回 故事成語 (5)

第七回 諸子の思想 (1)

第八回 諸子の思想 (2)

第九回 諸子の思想 (3)

第十回 正史の文章 (1)

第十一回 正史の文章 (2)

第十二回 正史の文章 (3)

第十三回 正史の文章 (4)

第十四回 正史の文章 (5)

第十五回 総括

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習W (前期2単位)**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習W (前期2単位)**

学期 前期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

担当教員 片倉望 (人文学部文化学科)

授業の概要 些か本格的に漢文を読み、中国
古代思想を研究するための技術を養う。

学習の目的 些か本格的に漢文が読めるよう
になる。

学習の到達目標 一つの文献を精読し、思想
の再構成に必要な力を養う。

教科書

[テキスト] 適宜、プリントにて配布する。

[参考書] 講義の中で指示する。

成績評価方法と基準 受講態度・毎回の質問
50%、レポート50%

オフィスアワー 随時質問に応じる。

授業計画・学習の内容

学習内容

秦漢思想を理解する上で、極めて重要な意味を持『春秋繁露』『論衡』『淮南子』『史記』『漢書』『三国志』を、とりわけ、その思想的脈絡に注目して精読する。

尚、月に一度は思想関係の論文を一篇、題材として選び、様々な角度から分析を加え、合評、討議を行う予定である。

第一回 演習の進め方

第二回 『春秋繁露』精読 (1)

第三回 『春秋繁露』精読 (2)

第四回 『論衡』精読 (1)

第五回 『論衡』精読 (2)

第六回 『淮南子』精読 (1)

第七回 『淮南子』精読 (2)

第八回 『史記』精読 (1)

第九回 『史記』精読 (2)

第十回 『漢書』精読 (1)

第十一回 『漢書』精読 (2)

第十二回 『三国志』精読 (1)

第十三回 『三国志』精読 (2)

第十四回 『三国志』魏志 東夷伝 倭の項目 (通称『魏志倭人伝』) 精読

第十五回 総括

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習X (後期2単位)**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア思想演習X (後期2単位)**

学期 後期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

担当教員 片倉望 (人文学部文化学科)

授業の概要 中国古代の思想文献を、些か本格的に読解するための漢文力を養う。

学習の目的 些か本格的に漢文が読めるようになる。

学習の到達目標 一つの文献を精読し、思想の再構成に必要な力を養う。

教科書

[テキスト] 適宜、プリントにて配布する。

[参考書] 講義の中で指示する。

成績評価方法と基準

受講態度・毎回の質問50%、レポート50%

オフィスアワー 随時質問に応じる。

授業計画・学習の内容

学習内容

秦漢思想を理解する上で、その成立時期が明らかで、ただに極めて重要な意味を持つ『呂氏春秋』と『史記』を、とりわけ、その思想的脈絡に注目して精読する。また、後半は経書と読み方を伝授する。尚、月に一度は思想関係の論文を一篇、題材として選び、様々な角度から分析を加え、合評、討議を行う予定である。

第一回 演習の進め方

第二回 『呂氏春秋』精読 (1)

第三回 『呂氏春秋』精読 (2)

第四回 『呂氏春秋』精読 (3)

第五回 『呂氏春秋』精読 (4)

第六回 『資治通鑑』と『史記』の比較、及び

精読 (1)

第七回 『資治通鑑』と『史記』の比較、及び

精読 (2)

第八回 『資治通鑑』と『史記』の比較、及び

精読 (3)

第九回 『資治通鑑』と『史記』の比較、及び

精読 (4)

第十回 『資治通鑑』と『史記』の比較、及び

精読 (5)

第十一回 『周易注疏』精読 (1)

第十二回 『周易注疏』精読 (2)

第十三回 『毛詩注疏』精読 (1)

第十四回 『毛詩注疏』精読 (2)

第十五回 総括

2012年度以降入学生用(文化)中国語学演習B

2011年度以前入学生用(文化)中国語学演習B

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

担当教員 福田和展 (人文学部)

授業の概要 中国、台湾の言語、文字、言語政策に関する原書を読み進めながら、中国語の文法事項を整理し、同時に中国語の読解力をレベルアップする。また、授業で取り上げられたテーマについて調査し、問題点を確認する。

学習の目的 中国語学に関する知識だけでなく、言葉の背景にある中国や台湾の歴史、文化、社会について理解を深める。また、中国語学とそれに付随するテーマについて問題意識を持ち、それについて調査、発表をする能力を養う。

学習の到達目標 中国語学とそれに付随する知識を得る。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1 中華人民共和国の言語政策
「普通話」の成立と漢字音注音の変遷
- 2 少数民族政策と言語政策
中華人民共和国の少数民族言語政策 成果と問

力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語Ⅰ文法、講読4単位取得者、中国語検定試験4級取得者。

予め履修が望ましい科目 中国語Ⅰ文法、中国語Ⅰ講読

発展科目 中国語学演習EF、中国の言語BCD

教科書 プリントを配布。

成績評価方法と基準 おおよそ授業での発表60%、授業態度40%

オフィスアワー 月～金の授業、会議時間以外。

その他 福田ゼミの学生は必ず履修。

題点

- 3 中華民国の言語政策
遷台以前と遷台以降
前期開講の「中国語学演習C」には期続き上記3つのテーマについて、15回の授業を行う。

授業の概要

主に唐代(618~907)の散文(古文)を題材として、中国古典学の基礎となる漢文資料を読解する練習をするなかで、中国の古典詩文に対する理解を深める。

授業では返り点などのない白文を使用し、現代中国語による音読と日本語による訓読、さらに現代日本語による訳を求める。

学習の目的 中国の古典詩文に対する理解を深める。

学習の到達目標 漢文を読みこなす力をつける。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総

合した力

受講要件 この授業は国語科教員免許の漢文学に該当する。

予め履修が望ましい科目 中国語Ⅰ以上

発展科目 中国の文学A 中国の文学B 中国文学演習B

教科書 必要に応じて授業中に資料を配布する。

成績評価方法と基準 日常の授業での担当による。

オフィスアワー 金曜日 12:00~13:00 場所: 湯浅研究室 (共通教育4号館4階)

その他 2004年度以前入学生は、通年での履修となります。

授業計画・学習の内容

学習内容

① ガイダンス

②~⑭ 担当者を指名して唐代の散文を読む。

⑮ まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**中国文学演習B** Seminar in Chinese Literature B
2011年度以前入学生用(文化)**中国文学演習B** Seminar in Chinese Literature B
学期 後期 **開講時間** 金 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習
担当教員 湯浅陽子 (人文学部文化学科)

授業の概要

おもに宋代(960~1279)の散文(古文)を題材として、中国古典学の基礎となる漢文資料を読解する練習をするなかで、中国の古典詩文に対する理解を深める。

授業では返り点などのない白文を使用し、現代中国語による音読と日本語による訓読、さらに現代日本語による訳を求める。

学習の目的 中国の古典詩文に対する理解を深める。

学習の到達目標 漢文を読みこなす力をつける。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総

合した力

受講要件 この授業は国語科教員免許の漢文学に該当する。

予め履修が望ましい科目 中国語Ⅰ以上、中国文学演習A

発展科目 中国の文学A 中国の文学B

教科書 必要に応じて授業中に資料を配布する。

成績評価方法と基準 日常の授業での担当による。

オフィスアワー 金曜日 12:00~13:00 場所: 湯浅研究室 (共通教育4号館4階)

その他 2004年度以前入学生は、通年での履修となります。

授業計画・学習の内容

学習内容

① ガイダンス

②~⑭ 担当者を指名して宋代の散文を読む。

⑮ まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア地誌演習A**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア地誌演習A**

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 安食 和宏

授業の概要 現代アジア（主に東南アジア）を対象として、この地域の地理的特徴（自然環境、産業、生活文化、地域問題など）を的確に把握し理解するためのアプローチの方法を学習する。また調べたことをレポートにまとめ上げる手順について学ぶ。

学習の目的 東南アジアの実情を色々な側面から理解する。テーマ設定からレポート作成までの手順を身につける。また、人前できちんと発表すること、他人の発表に関して討論することができるようになる。

学習の到達目標 東南アジアの人々の生活の成り立ちについて、興味をもって考えられる。あるテーマに関するレポートの作成方法を理解する。そして、発表と討論の経験を積む。

授業計画・学習の内容

学習内容

前期・演習では、「東南アジアの農業と農村生活」をテーマにする。東南アジア各国の農業生産や農村生活の変化を具体的に述べた文献を取り上げて、担当部分を紹介してもらい、議論を深める。そして、受講生が興味あるテーマを決めて、レポートにまとめるまで

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 アジア・オセアニアの風土と地誌

教科書 主に以下の本を取り上げて、読み進める予定。必要部分をコピーして配布する。
重富真一編（2007）：「グローバル化と途上国の小農」（アジア経済研究所）。高根 務編（2003）：「アフリカとアジアの農産物流通」（アジア経済研究所）。

成績評価方法と基準 発表・討論内容（6割）とレポート（4割）の総合評価

オフィスアワー 質問は随時受け付ける

のプロセスを学ぶ。

第1回 全体的な説明

第2回 参考文献や新聞記事の検索作業

第3回～13回 文献の内容紹介、質疑応答

第14回 レポートの書き方について

第15回 レポートの発表

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア地誌演習B**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア地誌演習B**

学期 後期 開講時間 月5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次,4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 安食 和宏

授業の概要 現代東南アジアを対象として、この地域の地理的特徴（自然環境、産業、生活文化、地域問題など）を的確に把握し理解するためのアプローチの方法を学習する。また調べたことをレポートにまとめ上げる手順について学ぶ。

学習の目的 東南アジアの実情を、統計データと文献から理解する。統計データをまとめて（図表化して）、その特徴を読み取ることができる。また、人前できちんと発表すること、他人の発表に関して討論することができるようになる。

学習の到達目標 東南アジアの特徴に関する

統計データの扱い方、分析の方法を理解する。文献をもとに要約することができる。そして、発表と討論の経験を積む。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 アジア・オセアニアの風土と地誌

成績評価方法と基準 発表・討論内容（6割）とレポート（4割）の総合評価

オフィスアワー 質問は随時受け付ける

授業計画・学習の内容

学習内容

後期・演習のテーマは「統計書と文献で理解する東南アジア」。東南アジア諸国の公式統計資料を用いた作業を行い、その国の産業や人々の生活等に関するデータを読み解いて、学習する。そして、各自が、関連する文献を読んで内容を紹介する。最終的には、小論文

（レポート）にまとめる。

第1回 全体的な説明

第2回～3回 パソコンの作業（図表の作成）

第4回～8回 作業結果の発表と質疑応答

第9回～14回 関連文献の紹介と質疑応答

第15回 レポートの発表

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の歴史A**

European History A

2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の歴史A**

European History A

学期 前期 **開講時間** 金 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一

授業の概要 歴史学という学問の有様とその変容を考察する。

学習の目的 歴史的な分析力を身につける。

学習の到達目標 歴史的な分析力を感得する。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回以降 歴史学という学問のあり方や、近年におけるその変容について、文献を題材に共に学ぶ。

指名したプレゼンテーション担当者による研究発表と討論が授業の枢要である。

高等学校の教科としての日本史や世界史とは異なる、歴史学という学問に関心を抱いていること。
専門的文献を読み込むための労力を惜しまないこと。

予め履修が望ましい科目 共通教育及び人文学部の歴史学、社会学、政治学、法学の諸科目など。

発展科目 人文学部の歴史学諸科目。

教科書 別途指示する。

成績評価方法と基準 プレゼンテーション点5割、その他5割(発言、試験、レポートなど)

指定した文献については必ず入手すること。
各回のプレゼンテーション担当者は入念な準備の上、レジュメを作成して参加者に配布すること。
プレゼンテーション担当者以外も予習は必須である。

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の歴史B**

European History B

2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の歴史B**

European History B

学期 前期 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一

授業の概要 「歴史」というものへの向き合い方について考える。

専門的文献を読む英語力が求められます。

学習の目的 歴史的思考力を身につける。

予め履修が望ましい科目 共通教育及び人文学部の歴史学、社会学、政治学、法学の諸科目など。

学習の到達目標 歴史というものを論理的に把握する感覚を体得する。

発展科目 人文学部の歴史学諸科目。

本学教育目標との関連 感性、倫理観、主体的学習力、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、実践外国語力

教科書 Margaret MacMillan, *The Uses and Abuses of History*, 2010、等

受講要件

歴史的思考への知的関心。

成績評価方法と基準 プレゼンテーション点5割、その他5割（発言、試験、レポートなど）

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

指定した文献については必ず入手すること。

第2回以降 歴史というものの有様や、それに対する向き合い方について、次に示す視点等を踏まえつつ、主に英語文献を題材に、共に考える。

毎回、1名以上を指名し、指定した事項についてプレゼンテーションを行ってもらう。

各回のプレゼンテーション担当者は入念な準備の上、レジュメ等を作成して参加者に配布すること。

- (1) 歴史の「効用」と「悪用」
- (2) イデオロギーと歴史
- (3) 歴史をめぐるプロパガンダ

予習と復習は必須である。

大学レベルの学習に見合った英和辞典を使用し、持参すること。

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の歴史C**

European and Mediterranean History C

2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の歴史C**

European and Mediterranean History C

学期 後期 **開講時間** 水 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

担当教員 岸本 廣大 (非常勤講師)

授業の概要 古代の地中海を舞台に広く活動したギリシア人の歴史について、先史時代からローマ時代までを対象に解説し、近年の研究成果とそこで提示された問題点を考える。

学習の目的 古代の地中海で活動したギリシア人の歴史について、近年の研究成果を踏まえた知見を習得し、その歴史的意義を理解することで、歴史学の問題を論理的・批判的に考えることができる。

学習の到達目標 古代の地中海で活動したギリシア人の歴史について、最新の研究成果を踏まえた知見を習得し、その歴史的意義を理

解することで、古代地中海におけるギリシア人の歴史に関する問題について論理的・批判的に考えることができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力

教科書 プリントを適宜配布する。

成績評価方法と基準 授業内の小レポート(約40%) + 期末筆記試験(約60%) = 合計100%

オフィスアワー 授業内容に関する質問は随時受け付ける。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2～3回：ギリシア史概観・先史時代
 - ・ギリシア史における古代史の位置づけ／
 - ・エーゲ海文明(ミノア文化、ミュケナイ文化)／
 - ・ギリシア世界の「暗黒時代」
- 第4～5回：アルカイック期
 - ・ギリシア人の植民活動／
 - ・ポリス社会の成立／
 - ・アルカイック期のポリス
- 第6～9回：「古典期」
 - ・ペルシア戦争／
 - ・デロス同盟とアテナイの

発展

- ・ペロポネソス戦争／
 - ・前4世紀のギリシア世界
 - 第10～13回：ヘレニズム時代
 - ・マケドニア王国の興隆とギリシア支配／
 - ・アレクサンドロス大王以降のギリシア世界
 - ・ヘレニズム諸王国／
 - ・ローマの東方進出
 - 第14回：ローマ支配下のギリシア世界
 - 第15回：まとめ
 - 第16回：期末筆記試験
- (なお以上の計画は、状況に応じて内容を変更する場合があります)

2012年度以降入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海の歴史D**
European and Mediterranean History D
2011年度以前入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海の歴史D**
European and Mediterranean History D

学期 後期 開講時間 水 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 岸本 廣大 (非常勤講師)

授業の概要

古代ギリシアおよび地中海の歴史についての英書を講読し、それに関連する研究や史料について学ぶ。

学習の目的

古代ギリシアおよび地中海の歴史について、英語のテキストを読解し、内容を理解することができる。その上で、関連する研究や史料を踏まえて古代ギリシアおよび地中海の歴史について主体的に考えることができる。

学習の到達目標

古代ギリシアおよび地中海の歴史について、英語のテキストを読解し、内容を説明することができる。また、古代ギリシアおよび地中海の歴史について、古代ギリシアを事例に考えることができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思

考力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 予習・復習を必ずしてくること。

教科書 講読に用いるテキスト及び資料はコピーを配布する。

成績評価方法と基準

毎回の予習状況とテキストの内容理解 (約50%) + 小レポート (約20%) + 期末筆記試験 (約30%) = 合計100%

オフィスアワー 授業内容に関する質問は随時受け付ける。

その他

初回の授業でテキストのコピーを配布するので、受講希望者は必ず出席してください。(基本的に、第2回以降の授業で再配布はしません。) また、授業には毎回英和辞典を持参してください。

授業計画・学習の内容

学習内容

■第1回：ガイダンス

■第2～15回：古代ギリシアおよび地中海の歴史についての英語のテキストを読み進め、その内容および関連する研究や史料について学

ぶ。

■第16回：期末筆記試験

(なお進度については、受講生の状況により適宜調整する場合があります)

2012年度以降入学生用(文化)

英米の言語 A

2011年度以前入学生用(文化)

英米の言語 A

English Language A

English Language A

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 澤田 治 (人文学部)

授業の概要 本授業では、英語の様々な言語現象を通して、言葉の「意味」について考える。具体的には、「定冠詞・不定冠詞」、「スコープ」、「モダリティ」、「量化詞」、「時制」、「アスペクト」等に焦点を当て、文の意味を解釈する際にはどのような概念やプロセスが関わっているのかという問題について考察する。また、授業では、日本語や他の言語との比較・対照も行い、より広い視野から英語の言語的特性について考える。

学習の目的 英語の様々な現象について言語学（意味論）の観点から考察し、言葉の意味解釈メカニズムについて学ぶ。

学習の到達目標 身近な言語現象を論理的に分析できるようになることを目指す。また、授業を通して、英語についての理解を深めることを目指す。

授業計画・学習の内容

学習内容

Week 1: Introduction: what is meaning?

Week 2-Week 3: First order logic, predicates and arguments

Week 4-Week 5: Type theory and the lambda calculus

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 言語学、言語哲学関係の講義・演習

教科書

Kearns, Kate.2011.Semantics (second edition). Palgrave Macmillan.

関連文献等については、適宜授業中に指示する。

成績評価方法と基準 課題60%、期末レポート40%

オフィスアワー オフィスアワーの時間帯については、最初の授業で決める。

Week 6-Week 7: Modality

Week 8-Week 9: Natural language quantifiers

Week 10-Week 11: Definite descriptions

Week 12-Week 13: Indefinite descriptions, plurals, generic and mass NP

Week 14-Week 15: Tense and aspect

2012年度以降入学生用(文化)

英米の言語 B

English Language B

2011年度以前入学生用(文化)

英米の言語 B

English Language B

学期 後期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 澤田 治 (人文学部)

授業の概要 本授業では、英語の様々な現象を通して、語用論の基本的な考え方を学ぶ。具体的には、直示、前提、発話行為、推意といったコンテキストと関わった「意味」に焦点を当て、我々がどのようにして文の背後にある発話者の意図や前提を理解しているのかという問題を考察する。

学習の目的 英語の現象を通して、言語使用に関するメカニズムについて学ぶ。

学習の到達目標 身近な言語現象を語用論の理論を用いて分析できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情

報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

発展科目 言語学、言語哲学関係の講義・演習

教科書

George Yule.1996.Pragmatics.Oxford: Oxford University Press.

関連文献等については、適宜授業中に指示する。

成績評価方法と基準 課題・発表：60% 期末レポート：40%

オフィスアワー オフィスアワーの時間帯に関しては、最初の授業で決める。

授業計画・学習の内容

学習内容

Week 1: Introduction to pragmatics: definitions and background

Week 2-Week 3: Deixis and distance

Week 4-Week 5: Presupposition

Week 6-Week 7: Cooperation and conversa-

tional implicature

Week 8-Week 9: Conventional implicature

Week 10-Week 11: Speech act

Week 12-Week 13: Politeness and grammar

Week 14-Week 15: Dynamic semantics and the representation of discourse

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツの言語C**

German Language C

2011年度以前入学生用(文化)**ドイツの言語C**

German Language C

学期 前期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle **市民開放授業**

担当教員 井口 靖 (教養教育機構・人文学部兼任)

授業の概要 ドイツ語で書かれた言語学入門のテキストを読みながら、言語、言語学に関する基本的知識を習得します。平行してさまざまなドイツ語や日本語の具体的な現象を紹介し、それを観察することにより、実践的な分析力を身につけることを目指します。ここで学ぶ言語に対する見方は単なる言語学にとどまらずさまざまな分野でのものの見方に役立つことでしょう。

学習の目的 自らドイツ語の言語現象をとらえ、そのメカニズムを説明できるようになるために、ドイツ語の言語学に関する文章を読み、その内容を理解し、基本的な言語学の概念について説明できるようになることを目的とする。

学習の到達目標

平易なドイツ語の言語学に関する文章を読み、正しく日本語に翻訳することができるようになる。

言語学の用語について説明できるようになる。

言語学の基本的な概念を実際の例に当てはめて分析できるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力

受講要件 毎回少しずつテキストを読んでもらいますので、基礎的なドイツ語の文法の知識が必要です。中級程度の文法は解説しません。

予め履修が望ましい科目

言語学、英語学関係の科目をあらかじめ履修しているか、平行して履修することをお勧めします。

あらかじめ言語学の知識は必要ありませんが、言語に興味のある人を歓迎します。

発展科目 ドイツの言語D、ドイツ語学演習

教科書 Albert Busch/Oliver Stenschke: Germanistische Linguistik. Gunter Narr Verlag. (入手方法については授業で指示します。)

成績評価方法と基準 期末試験60% (持ち込み可)、授業中の翻訳20%、確認テスト(Moodle上)20%、計100% (合計60%以上で合格)

オフィスアワー 毎週火曜日3・4限 場所: 人文学部専門校舎2F研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 授業の紹介、言語学・ドイツ語学について

第2回～第3回 言語学とは何か、言語とは何か

第4回～第5回 コミュニケーションと言語

第6回～第7回 記号論

第8回～第10回 音声学・音韻論

第11回～第12回 形態論

第13回～第15回 統語論

第16回 テスト (受講者の理解度を見ながら進めますので、上記進度は変更することがあります。)

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツの文学E**

German Literature E

2011年度以前入学生用(文化)**ドイツの文学E**

German Literature E

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 山崎 明日香

授業の概要 19世紀から20世紀のドイツ語圏とこの地域に影響を及ぼした周辺諸国の演劇・演技論について紹介します。

門知識・技術

発展科目 文学、文化学など

学習の目的 19世紀から20世紀のドイツ語圏とこの地域に影響を及ぼした周辺諸国の演劇・演技論を対象に、演劇と社会との関わりや、新しい演出方法や演技論について紹介します。また、映像資料を受講者全員で鑑賞する時間を適宜設けます。

教科書 プリント配布

成績評価方法と基準

※ 期末テスト、その他課題や資料の提出など。

※ 簡単な発表をしていただく場合があります。

※ 授業では日本語翻訳の一次資料の他に、英独仏の言語で書かれた資料を配布する場合があります。その一部の要約をしていただく場合があります。

学習の到達目標 19世紀から20世紀のドイツ語圏とこの地域に影響を及ぼした周辺諸国の演劇・演技論について紹介します。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 専

授業計画・学習の内容

学習内容

講義のおおまかな流れは以下の通りです（変更の可能性を含みます）。

1回 導入

2回 ドイツとロシアの芸術事情

3回 20世紀ロシア 俳優論

4回 20世紀ロシア 演出論

5回 ドイツと東欧圏の演劇（DVD鑑賞）

6回 20世紀ドイツ 演技論

7～8回 19世紀ドイツ ヴァーグナーの演劇論

9～10回 19世紀ドイツ G.W.F.ヘーゲルの演技論

11～12回 19世紀ドイツ ハイน์リッヒ・ラウベの演技論

13～14回 20世紀フランス 演技論・俳優論

15回 20世紀アメリカ 演技論・俳優論

2011年度以前入学生用(文化)

フランスの言語 A

French Language A

2012年度以降入学生用(文化)

フランスの言語 A

French Language A

学期 前期 開講時間 月 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習

担当教員 山本 寛

授業の概要

共通教育フランス語Ⅰ文法（現在の異文化理解Ⅰ基礎フランス語）から中級文法へ向かっての橋渡しとなる授業です。

授業は講義（説明）とそれに関連する練習問題で構成されます。

学習の目的

話し言葉と書き言葉で日常的に用いられる文法一般を学びます。仏検3級から2級にかけてのレベルの文法の概要を学ぶことができます。

学習の到達目標

受講者の能力と努力によって到達度は大きく異なるので一概に言えませんが、仏検3級から2級にかけて必要なフランス語文法の基本的な知識が得られます。

本学教育目標との関連

幅広い教養, 専門知

識・技術, 実践外国語力

受講要件

フランス語Ⅰ文法と講読（現在の異文化理解Ⅰ基礎と演習）を履修した学生、または仏検4級程度の実力がある学生のみ履修可

予め履修が望ましい科目

受講要件参照のこと

発展科目

フランスの言語 B

教科書

第1回授業で説明します

成績評価方法と基準

平常点60%、期末テスト40%、計100%

オフィスアワー

毎週月・火・木昼休み、それ以外も研究室在室であればできるだけ対応します。メールは随時。

授業計画・学習の内容

学習内容

受講者の知識と能力に応じて以下の内容は変更されます。

01-04回 直説法大過去をはじめとする様々な過去の時制

05-06回 直説法前未来

07-11回 条件法現在および過去

12-14回 接続法現在および過去

15回 まとめ

16回 定期試験

2011年度以前入学生用(文化)**フランスの言語 B**

2012年度以降入学生用(文化)**フランスの言語 B**

French Language B

French Language B

学期 後期 開講時間 月 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習

担当教員 山本 寛

授業の概要

共通教育フランス語Ⅰ文法（現在の異文化理解Ⅰ基礎フランス語）から中級文法へ向かっての橋渡しとなる授業です。

授業は講義（説明）とそれに関連する練習問題で構成されます。

学習の目的 話し言葉と書き言葉で日常的に用いられる文法一般を学びます。仏検3級から2級にかけてのレベルの文法の概要を学ぶことができます。

学習の到達目標 受講者の能力と努力によって到達度は大きく異なるので一概に言えませんが、仏検3級から2級にかけて必要なフランス語文法の基本的な知識が得られます。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知

識・技術, 実践外国語力

受講要件 2015年度前期のフランスの言語Aを履修済みであること。または2014年度以前にフランス語Ⅱ講読を前後期履修済みであること。または仏検3級程度の実力があること。

予め履修が望ましい科目 受講要件参照のこと

教科書 第1回授業で説明します

成績評価方法と基準 平常点60%、期末テスト40%、計100%

オフィスアワー 毎週月・火・木昼休み、それ以外も研究室在室であればできるだけ対応します。メールは随時。

授業計画・学習の内容

学習内容

受講者の知識と能力に応じて以下の内容は変更されます。

01-03回 様々な代名詞と名詞の用法

04-06回 疑問文の様々な構文

07-09回 条件とその帰結の様々な表し方

10-11回 接続法の様々な用法

12-14回 その他の動詞の形と用法（分詞、不定詞など）

15回 まとめ

16回 定期試験

2011年度以前入学生用(文化)

フランスの文学 A

French Literature A

2012年度以降入学生用(文化)

フランスの文学 A

French Literature A

学期 前期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 山本 寛

授業の概要 文学の概念を拡げて映画のシナリオ(会話部分)の抜粋を読みます。語彙と文法の面から内容を理解した後、該当する場面を見て、実際にどのように話されているか学びます。『Le Fabuleux Destin d'Amélie Poulain』(邦題『アメリー』)を扱います。

本授業はテキストを学んでから音声と画面に入りますので、扱う映画は異なりますが、逆の方向で映画にアプローチする「フランス文学演習A」(受講要件に注意)と同時に履修すると、知識と実践のより深い学習が可能になります。

学習の目的 話し言葉を中心に文法と語彙の知識を深めます。日常的な会話における発音の聞き取りを初歩的な音声学の知識もまじえて学びます。フランス人の心情の機微に触れます。

学習の到達目標 受講者のレベルによって到達度は異なるので一概に言えませんが、文の構造、動詞の時制と法、語彙などを分析的に

理解しながら、フランス語のニュアンスを味わう力と聞き取る力を伸ばします。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 フランス語Ⅰ文法と講読(現在の異文化理解Ⅰ基礎と演習)を履修した学生、または仏検4級程度の実力がある学生のみ履修可

予め履修が望ましい科目 受講要件を参照のこと

発展科目 フランスの文学 B

教科書 プリントを配ります。

成績評価方法と基準 平常点60%、期末試験40%、合計100%

オフィスアワー 授業期間中の月火木昼休み、メールは随時

授業計画・学習の内容

学習内容 映画『Le Fabuleux Destin d'Amélie Poulain』の前半部分からシナリオの会話部分のみ。抜粋部分の量と進度は、開講後に受講生の実力を考慮して設定し、進歩に応じて

調整します。発音と聞き取りの実力を増すためにフランス語の音韻の初歩的な指導もします。

2011年度以前入学生用(文化)

フランスの文学 B

French Literature B

2012年度以降入学生用(文化)

フランスの文学 B

French Literature B

学期 後期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 山本 寛

授業の概要 文学の概念を拡げて映画のシナリオ(会話部分)の抜粋を読みます。語彙と文法の面から内容を理解した後、該当する場面を見て、実際にどのように話されているか学びます。『Le Fabuleux Destin d'Amélie Poulain』(邦題『アメリー』)を扱います。本授業はテキストを学んでから音声と画面に入りますので、扱う映画は異なりますが、逆の方向で映画にアプローチする「フランス文学演習B」(受講要件に注意)と同時に履修すると、知識と実践のより深い学習が可能になります。

学習の目的 話し言葉を中心に文法と語彙の知識を深めます。日常的な会話における発音の聞き取りを初歩的な音声学の知識もまじえて学びます。フランス人の心情の機微に触れます。

学習の到達目標 受講者のレベルによって到達度は異なるので一概に言えませんが、文の

構造、動詞の時制と法、語彙などを分析的に理解しながら、フランス語のニュアンスを味わう力と聞き取る力を伸ばします。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 フランス語Ⅰ文法と講読(現在の異文化理解Ⅰ基礎と演習)を履修した学生、または仏検4級程度の実力がある学生のみ履修可

予め履修が望ましい科目 受講要件を参照のこと

教科書 プリントを配ります。

成績評価方法と基準 平常点60%、期末試験40%、合計100%

オフィスアワー 授業期間中の月火木昼休み、メールは随時

授業計画・学習の内容

学習内容 映画『Le Fabuleux Destin d'Amélie Poulain』の後半部分からシナリオの会話部分のみ。抜粋部分の量と進度は、開講後に受講生の実力を考慮して設定し、進歩に応じて

調整します。発音と聞き取りの実力を増すためにフランス語の音韻の初歩的な指導もします。

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の社会A**

European and Mediterranean Society

2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の社会A**

European and Mediterranean Society

学期 前期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義
担当教員 村上直樹 (人文学部文化学科)

授業の概要 西欧の近・現代社会を階層論、家族論、身体論の観点から検討する。

シオン力を総合した力

学習の目的 受講学生が、西欧の近・現代社会に関して、階層論、家族論、身体論の観点から、自分の見解を展開できるようにする。

受講要件 ヨーロッパ社会に関する強い関心を持っていること。

学習の到達目標 受講学生が、西欧の近・現代社会における階層構造、家族構造、ボディ・ポリティックスの概要を理解できるようにする。

予め履修が望ましい科目 ヨーロッパ・地中海の民族と文化A、B

発展科目 ヨーロッパ・地中海社会演習A、B

教科書 教科書は特に定めない。

本学教育目標との関連 倫理観, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケー

成績評価方法と基準 レポートと筆記試験

オフィスアワー オフィスアワーは、火曜と水曜の午後にもうけます。時間等については、開講時に連絡します。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回～第4回：階層と社会移動

第5回～第10回：西ヨーロッパの家族

第11回～第14回：ヨーロッパ近代社会における〈身体〉

第15回：まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の社会B**

European and Mediterranean Society

2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の社会B**

European and Mediterranean Society

学期 後期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義
担当教員 村上直樹 (人文学部文化学科)

授業の概要 西ヨーロッパ近代社会の形成過程並びに変容過程を様々な観点から検討する。

学習の目的 受講学生が、西ヨーロッパ近代社会の形成過程並びに変容過程に関して、自分の見解を展開できるようにする。

学習の到達目標 受講学生が、西ヨーロッパ近代社会の形成過程並びに変容過程に関する広範で基本的な知識を習得できるようにする。

本学教育目標との関連 倫理観, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケー

ション力を総合した力

受講要件 ヨーロッパ社会に関する強い関心を持っていること。

予め履修が望ましい科目 ヨーロッパ・地中海の社会A、ヨーロッパ・地中海の民族と文化A、B

発展科目 ヨーロッパ・地中海社会演習A、B

教科書 教科書は特に定めない。

成績評価方法と基準 レポートと筆記試験

オフィスアワー オフィスアワーは、火曜と水曜の午後にもうけます。時間等については、開講時に連絡します。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回～第4回：西ヨーロッパにおける近代社会・近代的人間の形成
第5回～第8回：非西欧世界との関係

第9回～第12回：地域・民族運動
第13回～第14回：西ヨーロッパの脱呪術化
第15回：まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海の民族と文化A**
European and Mediterranean Ethnos and Culture
2011年度以前入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海の民族と文化A**
European and Mediterranean Ethnos and Culture

学期 前期 **開講時間** 火 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義
担当教員 村上直樹 (人文学部文化学科)

授業の概要 日本ではいまだ馴染みのうすい西ヨーロッパの民衆文化・民俗文化に関する理解を深めることが本講義の目的である。

学習の目的 受講学生が、西ヨーロッパの民衆文化・民俗文化に関する基本的な知識を習得し、それをふまえて、西ヨーロッパの文化に関する自分の見解を展開できるようにする。

学習の到達目標 受講学生が、西ヨーロッパにおける「祝祭」、「民話」、「夢解釈の文化史」、「奇蹟に対する信仰」についての基本的な知識を習得できるようにする。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力,

感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ヨーロッパの民衆文化・民俗文化に関する強い関心を持っていること。

予め履修が望ましい科目 ヨーロッパ・地中海の社会A、B

発展科目 ヨーロッパ・地中海社会演習A、B

教科書 教科書は特に定めない。

成績評価方法と基準 レポートと筆記試験

オフィスアワー オフィスアワーは、火曜と水曜の午後にもうけます。時間等については、開講時に連絡します。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回～第5回：カーニヴァル
第6回～第9回：民話

第10回～第12回：王と奇蹟
第13回～第14回：夢解釈の文化史
第15回：まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海の民族と文化B**
European and Mediterranean Ethnos and Culture
2011年度以前入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海の民族と文化B**
European and Mediterranean Ethnos and Culture

学期 後期 **開講時間** 火 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義
担当教員 村上直樹 (人文学部文化学科)

授業の概要 日本ではいまだ馴染みのうすい西ヨーロッパの民衆文化・民俗文化に関する理解を深めることが本講義の目的である。

学習の目的 受講学生が、西ヨーロッパの民衆文化、民俗文化に関する基本的な知識を習得し、それをふまえて、西ヨーロッパの文化に関する自分の見解を展開できるようにする。

学習の到達目標 受講学生が、西ヨーロッパにおける「民間信仰」、「聖人・聖母信仰」、「ケルト文化」についての基本的な知識を習得できるようにする。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力,

感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 西ヨーロッパの民衆文化・民俗文化に関する強い関心を持っていること。

予め履修が望ましい科目 ヨーロッパ・地中海の民族と文化A、ヨーロッパ・地中海の社会A、B

発展科目 ヨーロッパ・地中海社会演習A、B

教科書 教科書は特に定めない。

成績評価方法と基準 レポートと筆記試験

オフィスアワー オフィスアワーは、火曜と水曜の午後にもうけます。時間等については、開講時に連絡します。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回～第6回：西欧の民間信仰
第7回～第12回：ケルト

第13回～第14回：聖母の出現
第15回：まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**英語会話中級A Intermediate English Conversation A**
2011年度以前入学生用(文化)**英語会話中級A Intermediate English Conversation A**

学期 前期 **開講時間** 月 3, 4 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 インドウ・ジュネジャ

授業の概要 The main objective is to develop students' English communication strategies to allow them to have longer and more natural conversations.

学習の目的 English Communication for Practical Purposes

学習の到達目標 The students will be able to share, explain and give reasons for their opinions as well as listen and respond to classmates' ideas. It will also help them to engage in discussions.

本学教育目標との関連 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 Students who have passed 「英語

I (共通教育)」. Otherwise, no special requirement, but students should have a positive attitude and motivation to learn.

発展科目 英語会話上級A・B

教科書 No text book. The teacher will provide the necessary materials.

成績評価方法と基準 Students will be evaluated on class participation, effort, attitude and presentations.

その他 Try to be regular and do all the necessary preparations for each class. Ask questions and give your opinions without being afraid of making mistakes. Always attend the class with a dictionary. Try to read some English articles on a regular basis.

授業計画・学習の内容

学習内容 Giving Opinions and the Reasons for the Opinions, Music, Personality Traits, Money Matters, Talking about Personal Experiences and Discussing Future Plans and Pos-

sibilities. Some handouts on current topics will also be provided as and when required. Some videos will also be shown as a part of the course.

2012年度以降入学生用(文化)**英語会話中級A Intermediate English Conversation A**
2011年度以前入学生用(文化)**英語会話中級A Intermediate English Conversation A**

学期 前期 **開講時間** 月 5, 6 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 インドウ・ジュネジャ

授業の概要 The main objective is to develop students' English communication strategies to allow them to have longer and more natural conversations.

学習の目的 English Communication for Practical Purposes

学習の到達目標 The students will be able to share, explain and give reasons for their opinions as well as listen and respond to classmates' ideas. It will also help them to engage in discussions.

本学教育目標との関連 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 Students who have passed 「英語

I (共通教育)」. Otherwise, no special requirement, but students should have a positive attitude and motivation to learn.

発展科目 英語会話上級A・B

教科書 No text book. The teacher will provide the necessary materials.

成績評価方法と基準 Students will be evaluated on class participation, effort, attitude and presentations.

その他 Try to be regular and do all the necessary preparations for each class. Ask questions and give your opinions without being afraid of making mistakes. Always attend the class with a dictionary. Try to read some English articles on a regular basis.

授業計画・学習の内容

学習内容 Giving Opinions and the Reasons for the Opinions, Music, Personality Traits, Money Matters, Talking about Personal Experiences and Discussing Future Plans and Pos-

sibilities. Some handouts on current topics will also be provided as and when required. Some videos will also be shown as a part of the course.

2012年度以降入学生用(文化)**英語会話中級B Intermediate English Conversation B**
2011年度以前入学生用(文化)**英語会話中級B Intermediate English Conversation B**

学期 後期 **開講時間** 月 3, 4 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 インドウ・ジュネジャ

授業の概要 The main objective is to develop students' English communication strategies to allow them to have longer and more natural conversations.

学習の目的 English Communication for Practical Purposes

学習の到達目標 The students will be able to share, explain and give reasons for their opinions as well as listen and respond to classmates' ideas. It will also help them to engage in discussions.

本学教育目標との関連 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 Students who have passed 「英語

I (共通教育)」. Otherwise, no special requirement, but students should have a positive attitude and motivation to learn.

発展科目 英語会話上級A・B

教科書 No text book. The teacher will provide the necessary materials.

成績評価方法と基準 Students will be evaluated on class participation, effort, attitude and presentations.

その他 Try to be regular and do all the necessary preparations for each class. Ask questions and give your opinions without being afraid of making mistakes. Always attend the class with a dictionary. Try to read some English articles on a regular basis.

授業計画・学習の内容

学習内容 Fashion, Family, Culture, Jobs, Shopping, Environment and so on. Some handouts on current topics will also be pro-

vided as and when required. Some videos will also be shown as a part of the course.

2012年度以降入学生用(文化) **英語会話中級B Intermediate English Conversation B**
2011年度以前入学生用(文化) **英語会話中級B Intermediate English Conversation B**

学期 後期 **開講時間** 月 5, 6 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 インドウ・ジュネジャ

授業の概要 The main objective is to develop students' English communication strategies to allow them to have longer and more natural conversations.

学習の目的 English Communication for Practical Purposes

学習の到達目標 The students will be able to share, explain and give reasons for their opinions as well as listen and respond to classmates' ideas. It will also help them to engage in discussions.

本学教育目標との関連 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 Students who have passed 「英語

I (共通教育)」. Otherwise, no special requirement, but students should have a positive attitude and motivation to learn.

発展科目 英語会話上級A・B

教科書 No text book. The teacher will provide the necessary materials.

成績評価方法と基準 Students will be evaluated on class participation, effort, attitude and presentations.

その他 Try to be regular and do all the necessary preparations for each class. Ask questions and give your opinions without being afraid of making mistakes. Always attend the class with a dictionary. Try to read some English articles on a regular basis.

授業計画・学習の内容

学習内容 Fashion, Family, Culture, Jobs, Shopping, Environment and so on. Some handouts on current topics will also be pro-

vided as and when required. Some videos will also be shown as a part of the course.

2012年度以降入学生用(文化)**英語会話上級A** **Advanced English Conversation A**
2011年度以前入学生用(文化)**英語会話上級A** **Advanced English Conversation A**

学期 前期 開講時間 火 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習

担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 This course teaches advanced expressions and usage of English for conversation.

学習の目的 Students will develop the skills and fluency necessary to participate in more advanced conversations in English over a broad range of topics.

学習の到達目標 Students will develop conversation skills and learn techniques to improve their fluency, such as utilizing contextual clues to understand unfamiliar words or phrases.

本学教育目標との関連 幅広い教養, 情報受発

信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 実践外国語力

教科書

Thomson, Graeme and Silvia Maglioni.(2005). LifeLike.Black Cat Publishing. ISBN 978-8853003270

成績評価方法と基準 Assessment is by in-class participation, class preparation, and a final in-class speaking exam.

オフィスアワー By appointment

その他 All readings and classroom instruction are in English.Students are expected to use English in class, even with each other.

授業計画・学習の内容

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2: Music I

Session 3: Music II

Session 4: Movies

Session 5: Art

Session 6: Eating habits

Session 7: Multicultural cooking

Session 8: Junk food and bad diet

Session 9: Social issues with food

Session 10: Family structures

Session 11: Immigration and multiculturalism

Session 12: Types of homes

Session 13: House-hunting

Session 14: Homelessness

Session 15: Unemployment and underemployment

2012年度以降入学生用(文化)**英語会話上級A** **Advanced English Conversation A**
2011年度以前入学生用(文化)**英語会話上級A** **Advanced English Conversation A**

学期 前期 開講時間 水 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習

担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 This course teaches advanced expressions and usage of English for conversation.

学習の目的 Students will develop the skills and fluency necessary to participate in more advanced conversations in English over a broad range of topics.

学習の到達目標 Students will develop conversation skills and learn techniques to improve their fluency, such as utilizing contextual clues to understand unfamiliar words or phrases.

本学教育目標との関連 幅広い教養, 情報受発

信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 実践外国語力

教科書

Thomson, Graeme and Silvia Maglioni.(2005). LifeLike.Black Cat Publishing. ISBN 978-8853003270

成績評価方法と基準 Assessment is by in-class participation, class preparation, and a final in-class speaking exam.

オフィスアワー By appointment

その他 All readings and classroom instruction are in English.Students are expected to use English in class, even with each other.

授業計画・学習の内容

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2: Music I

Session 3: Music II

Session 4: Movies

Session 5: Art

Session 6: Eating habits

Session 7: Multicultural cooking

Session 8: Junk food and bad diet

Session 9: Social issues with food

Session 10: Family structures

Session 11: Immigration and multiculturalism

Session 12: Types of homes

Session 13: House-hunting

Session 14: Homelessness

Session 15: Unemployment and underemployment

2012年度以降入学生用(文化)

英語会話上級B

Advanced English Conversation B

2011年度以前入学生用(文化)

英語会話上級B

Advanced English Conversation B

学期 後期 開講時間 火 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習

担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 This course teaches advanced expressions and usage of English for conversation.

信力, 討論・対話力, 実践外国語力

学習の目的 Students will develop the skills and fluency necessary to participate in more advanced conversations in English, over a broad range of topics.

教科書

Thomson, Graeme and Silvia Maglioni.(2005). LifeLike.Black Cat Publishing. ISBN 978-8853003270

学習の到達目標 Students will develop conversation skills and learn techniques to improve their fluency, such as utilizing contextual clues to understand unfamiliar words or phrases.

成績評価方法と基準 Assessment is by in-class participation, class preparation, and a final in-class speaking exam.

本学教育目標との関連 幅広い教養, 情報受発

オフィスアワー By appointment

その他 All readings and classroom instruction are in English.Students are expected to use English in class, even with each other.

授業計画・学習の内容

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2: What type of traveller are you?

Session 3: Get out and see the world

Session 4: Global tourism

Session 5: It's a nomad world

Session 6: It may not be cool but it's school

Session 7: You got a problem with that?

Session 8: The need to know

Session 9: A school of life

Session 10: Higher ground

Session 11: Time to kill

Session 12: Time out

Session 13: Going to extremes

Session 14: TV eye

Session 15: The state of play

2012年度以降入学生用(文化)**英語会話上級B** **Advanced English Conversation B**
2011年度以前入学生用(文化)**英語会話上級B** **Advanced English Conversation B**

学期 後期 開講時間 水 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習

担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 This course teaches advanced expressions and usage of English for conversation.

学習の目的 Students will develop the skills and fluency necessary to participate in more advanced conversations in English, over a broad range of topics.

学習の到達目標 Students will develop conversation skills and learn techniques to improve their fluency, such as utilizing contextual clues to understand unfamiliar words or phrases.

本学教育目標との関連 幅広い教養, 情報受発

信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 実践外国語力

教科書

Thomson, Graeme and Silvia Maglioni.(2005). LifeLike.Black Cat Publishing. ISBN 978-8853003270

成績評価方法と基準 Assessment is by in-class participation, class preparation, and a final in-class speaking exam.

オフィスアワー By appointment

その他 All readings and classroom instruction are in English.Students are expected to use English in class, even with each other.

授業計画・学習の内容

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2: What type of traveller are you?

Session 3: Get out and see the world

Session 4: Global tourism

Session 5: It's a nomad world

Session 6: It may not be cool but it's school

Session 7: You got a problem with that?

Session 8: The need to know

Session 9: A school of life

Session 10: Higher ground

Session 11: Time to kill

Session 12: Time out

Session 13: Going to extremes

Session 14: TV eye

Session 15: The state of play

2012年度以降入学生用(文化)

英作文中級A

Intermediate English Composition A

2011年度以前入学生用(文化)

英作文中級A

Intermediate English Composition A

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 This course teaches intermediate English composition skills and techniques.

学習の目的 This course builds on basic writing skills to develop intermediate students towards the advanced level. The course will focus on skills for organization and synthesizing smaller units of writing into larger ones, from sentences to paragraphs and then from paragraphs to compositions.

学習の到達目標 Students will learn to gather ideas, plan and organize a structure for presenting them, and finally compose the ideas into a composition.

本学教育目標との関連 論理的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

教科書 Hogue, Ann.(2008).Introduction to Academic Writing.New York: Longman.2nd edition.ISBN 9780132414883.

成績評価方法と基準 Evaluation is by class preparation, in-class participation, and final compositions.

オフィスアワー By appointment

その他 All readings and classroom instruction are conducted in English.

授業計画・学習の内容

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2: Paragraph format and the writing process

Session 3: Structure: from sentence to paragraph

Session 4: Outlining

Session 5: Editing and revising I

Session 6: Topic sentences

Session 7: Supporting sentences

Session 8: Narrative paragraphs

Session 9: Transitions and coordinations/conjunctions

Session 10: Concluding sentences

Session 11: Process paragraphs

Session 12: Complex sentences

Session 13: Logical division of ideas

Session 14: Descriptive paragraphs

Session 15: Editing and revising II

2012年度以降入学生用(文化)

英作文中級A

Intermediate English Composition A

2011年度以前入学生用(文化)

英作文中級A

Intermediate English Composition A

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 This course teaches intermediate English composition skills and techniques.

学習の目的 This course builds on basic writing skills to develop intermediate students towards the advanced level. The course will focus on skills for organization and synthesizing smaller units of writing into larger ones, from sentences to paragraphs and then from paragraphs to compositions.

学習の到達目標 Students will learn to gather ideas, plan and organize a structure for presenting them, and finally compose the ideas into a composition.

本学教育目標との関連 論理的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

教科書 Hogue, Ann.(2008).Introduction to Academic Writing.New York: Longman.2nd edition.ISBN 9780132414883.

成績評価方法と基準 Evaluation is by class preparation, in-class participation, and final compositions.

オフィスアワー By appointment

その他 All readings and classroom instruction are conducted in English.

授業計画・学習の内容

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2: Paragraph format and the writing process

Session 3: Structure: from sentence to paragraph

Session 4: Outlining

Session 5: Editing and revising I

Session 6: Topic sentences

Session 7: Supporting sentences

Session 8: Narrative paragraphs

Session 9: Transitions and coordinations/conjunctions

Session 10: Concluding sentences

Session 11: Process paragraphs

Session 12: Complex sentences

Session 13: Logical division of ideas

Session 14: Descriptive paragraphs

Session 15: Editing and revising II

2012年度以降入学生用(文化)**英作文中級B** Intermediate English Composition B
2011年度以前入学生用(文化)**英作文中級B** Intermediate English Composition B

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習
担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 This course teaches intermediate English composition skills and techniques.

学習の目的 This course builds on basic writing skills to develop intermediate students towards the advanced level. The course will focus on skills for organization and synthesizing smaller units of writing into larger ones, from sentences to paragraphs and then from paragraphs to compositions.

学習の到達目標 Students will learn to gather ideas, plan and organize a structure for presenting them, and finally compose the ideas into a composition.

本学教育目標との関連 論理的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

教科書 Hogue, Ann.(2008).Introduction to Academic Writing.New York: Longman.2nd edition.ISBN 9780132414883.

成績評価方法と基準 Evaluation is by class preparation, in-class participation, and final compositions.

オフィスアワー By appointment

その他 All readings and classroom instruction are conducted in English.

授業計画・学習の内容

学習内容

- Session 1: Orientation
- Session 2: Essay structure I
- Session 3: Prepositions and adjectives
- Session 4: Advanced outlining
- Session 5: Comparison/contrast paragraphs
- Session 6: Giving examples
- Session 7: Cause and effect sentences
- Session 8: Essay structure II

- Session 9: Definition paragraphs
- Session 10: Relative clauses
- Session 11: Essay structure III
- Session 12: Opinion essays
- Session 13: Effective arguments and persuasion techniques
- Session 14: Supporting facts and statistics
- Session 15: Quotations

2012年度以降入学生用(文化)**英作文中級B** Intermediate English Composition B
2011年度以前入学生用(文化)**英作文中級B** Intermediate English Composition B

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習
担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 This course teaches intermediate English composition skills and techniques.

学習の目的 This course builds on basic writing skills to develop intermediate students towards the advanced level. The course will focus on skills for organization and synthesizing smaller units of writing into larger ones, from sentences to paragraphs and then from paragraphs to compositions.

学習の到達目標 Students will learn to gather ideas, plan and organize a structure for presenting them, and finally compose the ideas into a composition.

本学教育目標との関連 論理的思考力, 情報受
発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

教科書 Hogue, Ann.(2008).Introduction to Academic Writing.New York: Longman.2nd edition.ISBN 9780132414883.

成績評価方法と基準 Evaluation is by class preparation, in-class participation, and final compositions.

オフィスアワー By appointment

その他 All readings and classroom instruction are conducted in English.

授業計画・学習の内容

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2: Essay structure I

Session 3: Prepositions and adjectives

Session 4: Advanced outlining

Session 5: Comparison/contrast paragraphs

Session 6: Giving examples

Session 7: Cause and effect sentences

Session 8: Essay structure II

Session 9: Definition paragraphs

Session 10: Relative clauses

Session 11: Essay structure III

Session 12: Opinion essays

Session 13: Effective arguments and persuasion techniques

Session 14: Supporting facts and statistics

Session 15: Quotations

2012年度以降入学生用(文化)
2011年度以前入学生用(文化)

英作文上級A

英作文上級A

Advanced English Conversation A

Advanced English Conversation A

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 ジョン・ダイクス

授業の概要 This is an advanced level course focused on the process of writing, and on the linguistic skills needed to describe, to narrate, to persuade and to explain things in writing. Written English differs from the spoken language - it is not spontaneous and needs to be edited, reviewed, revised, and reconsidered.

学習の到達目標 Students will get lots of practice in composing thoughts into comprehensible English in different types of writing; formal and informal, descriptive and narrative and also in peer editing, reviewing and creating a final composition from a first draft.

本学教育目標との関連 実践外国語力

受講要件 Composing written work is largely a solitary occupation so students will need to

have a mature, responsible attitude and be capable of working alone and completing assigned work on time and in an acceptable form.

教科書

Words In Motion by David Olsher. Oxford University Press.

ISBN 978 0 19 434452 4

成績評価方法と基準 Final grades will depend on students' work in class and on final versions of their compositions. Regular attendance is essential!

その他 THIS COURSE IS ENTIRELY IN ENGLISH! Students will need to work together and should communicate using only English.

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1 Introduction and orientation.
- 2 What is a paragraph?
- 3 Process writing. Pre-writing.
- 4 Brainstorming. Lists. Notes. Idea maps.
- 5 Descriptive writing – field study.
- 6 Peer-editing. Reviewing.
- 7 Common writing errors and problems. Final draft.
- 8 Interim review. Discussion of first writing

project.

- 9 Narrative writing – tell a story, First draft.
- 10 Peer editing. Reviewing. Final draft.
- 11 Formal/Informal letters and emails. First draft.
- 12 More common problems. Final draft.
- 13 Write about a hobby, sport or pastime.
- 14 Peer editing and reviewing.
- 15 Final class. Final draft.

2012年度以降入学生用(文化)
2011年度以前入学生用(文化)

英作文上級B

英作文上級B

Advanced English Conversation B

Advanced English Conversation B

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 ジョン・ダイクス

授業の概要 This is an advanced level course focused on the process of writing, and on the linguistic skills needed to describe, to narrate, to persuade and to explain things in writing. Written English differs from the spoken language - it is not spontaneous and needs to be edited, reviewed, revised, and reconsidered.

学習の到達目標 Students will get lots of practice in composing thoughts into comprehensible English in different types of writing; formal and informal, descriptive and narrative and also in peer editing, reviewing and creating a final composition from a first draft.

本学教育目標との関連 実践外国語力

受講要件 Composing written work is largely a solitary occupation so students will need to

have a mature, responsible attitude and be capable of working alone and completing assigned work on time and in an acceptable form.

教科書

Words In Motion by David Olsher. Oxford University Press.

ISBN 978 0 19 434452 4

成績評価方法と基準 Final grades will depend on students' work in class and on final versions of their compositions. Regular attendance is essential!

その他 THIS COURSE IS ENTIRELY IN ENGLISH! Students will need to work together and should communicate using only English.

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1 Introduction and orientation.
- 2 What is a paragraph?
- 3 Process writing. Pre-writing.
- 4 Brainstorming. Lists. Notes. Idea maps.
- 5 Descriptive writing – field study.
- 6 Peer-editing. Reviewing.
- 7 Common writing errors and problems. Final draft.
- 8 Interim review. Discussion of first writing

project.

- 9 Narrative writing – tell a story, First draft.
- 10 Peer editing. Reviewing. Final draft.
- 11 Formal/Informal letters and emails. First draft.
- 12 More common problems. Final draft.
- 13 Write about a hobby, sport or pastime.
- 14 Peer editing and reviewing.
- 15 Final class. Final draft.

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツ語会話 A**

German Conversation A

2011年度以前入学生用(文化)**ドイツ語会話 A**

German Conversation A

学期 前期 **開講時間** 水 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒャエラ (非常勤講師)

授業の概要 基本的な文法を習得することにより、自分のことを表現できるようにします。

い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 聞くことや話すことを中心にした練習を行い、ドイツ語で簡単な会話ができるようになる。併せて、ドイツ事情について学ぶ。

受講要件 この授業を履修できるのは、ドイツ語会話を初めて学習する学生です。

発展科目 「ドイツ語会話B」

学習の到達目標 ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を習得し、平易な日常的コミュニケーションができる。

教科書 プリント配布

成績評価方法と基準 平常点70%、期末試験30%

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広

オフィスアワー 授業中に案内します。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 「アルファベットと発音」

第2～3回 「人と知り合う (自己紹介する)」

第4～5回 「趣味 (好きなこと、嫌いなこと)」

第6回 「ドイツ人と日本人の余暇活動」

第7～9回 「家族と職業」

第10～11回 「町で」

第12～13回 「買い物」

第14～15回 「食事 (一日の食事)」

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツ語会話B**

German Conversation B

2011年度以前入学生用(文化)**ドイツ語会話B**

German Conversation B

学期 後期 **開講時間** 水7,8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒヤエラ (非常勤講師)

授業の概要 基本的な文法を習得することにより、自分のことを表現できるようにします。

語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 聞くことや話すことを中心とした練習によって、ドイツ語で簡単な会話ができるようになる。併せて、ドイツ事情について知識を得る。

受講要件 この授業を履修できるのは、ドイツ語会話を初めて学習する学生です。

予め履修が望ましい科目 「ドイツ語会話A」

発展科目 「ドイツ語会話C」「ドイツ語会話D」「ドイツ語会話E」「ドイツ語会話F」

学習の到達目標 ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を固めることにより、平易な日常のコミュニケーションができる。

教科書 プリント配布

成績評価方法と基準 平常点70%、期末試験30%

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国

オフィスアワー 授業中に案内します。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 「時刻」

第2～3回 「一日の生活」

第4～5回 「一週間の予定」

第6～7回 「持ち物 (品物と感想、買い物)」

第8～9回 「休日の計画 (ドイツで人気のある休暇先)」

第10～12回 「週末の後 (過去のできごと)」

第13回 「経験を話す」

第14～15回 「メールの書き方」

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツ語会話E**

German Conversation E

2011年度以前入学生用(文化)**ドイツ語会話E**

German Conversation E

学期 前期 **開講時間** 水 9, 10 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒャエラ (非常勤講師)

授業の概要 ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を確かなものにし、さらに運用力を伸ばす。

受講要件 この授業を履修できるのは、ドイツ語会話をすでに1年間学習した学生だけです。

学習の目的 ドイツ語の聴解・発音・表現能力を向上させる。

予め履修が望ましい科目 「ドイツ語会話A」「ドイツ語会話B」

学習の到達目標 ドイツ語で日常的コミュニケーションができ、さらに簡単な学問的テーマについて話せる。

発展科目 「ドイツ語会話F」

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 プリント使用

成績評価方法と基準 平常点70%、期末試験30%

オフィスアワー 授業中に案内します。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回: DVD教材の紹介
- 第2回: Mein Tag
- 第3回: Einkaufen
- 第4回: Wohnen /Zu Hause

- 第5回: Schule
- 第6回: Arbeit und Jobsuche
- 第7回: Unterwegs in der Stadt
- 第8~15回: extra (Jugendserie)

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツ語会話F**
2011年度以前入学生用(文化)**ドイツ語会話F**

German Conversation F

German Conversation F

学期 後期 **開講時間** 水 9, 10 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒヤエラ (非常勤講師)

授業の概要 ドイツ語の聴解・発音・表現能力を向上させます。

学習の目的

聞き取り力を向上させて、習得語彙数を増やします。

自然な発音と日常表現を習得します。

ドイツ事情について学びます。

学習の到達目標 日常表現を聞き取ったり、自分の意見が言える。

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 情報受信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：導入（ドイツ映画）

第2回：映画の上映（映画は未定）

第3～15回：単語リストや問題集を参考にしな

受講要件 この授業を履修できるのは、ドイツ語会話をすでに1年間学習した学生だけです。

予め履修が望ましい科目 「ドイツ語会話A」「ドイツ語会話B」「ドイツ語会話D」

発展科目 「ドイツ語作文A」「ドイツ語作文B」

教科書 プリント配布

成績評価方法と基準 平常点60%、期末試験40%

オフィスアワー 授業中に案内します。

がら、映画を15分程度観ます。場面を聞き取る練習や内容について、ディスカッションを行います。

2012年度以降入学生用(文化)

ドイツ語作文 C

German Writing C

2011年度以前入学生用(文化)

ドイツ語作文 A

German Writing A

学期 前期 開講時間 火 9, 10 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒャエラ (非常勤講師)

授業の概要 ドイツ語の文章を書き、読むことにより、ドイツ語の基本的な文法、よく使われる表現のアクティブな習得を目指します。

学習の目的 すでに習得した文法知識を用いて、幅広く高度な作文能力を養う。

学習の到達目標 文法的に間違いがないだけでなく、自然なドイツ語を書く能力がある。

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い

い教養, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 この授業を履修できるのは、ドイツ語をすでに2年以上学習した学生だけです。

発展科目 「ドイツ語作文D」

教科書 プリント配布

成績評価方法と基準 平常点50%、課題50%

オフィスアワー 授業中に案内します。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：導入 (E.O.Plauen: Vater und Sohn - Bildergeschichten.)

第2～4回：作文1

第5～7回：作文2

第8～10回：作文3

第11～13回：作文4

第14～15回：作文5

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツ語作文 D**
2011年度以前入学生用(文化)**ドイツ語作文 B**

German Writing D
German Writing B

学期 後期 開講時間 火 9, 10 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒャエラ (非常勤講師)

授業の概要 ドイツ語の文章を書き、読むことにより、ドイツ語の基本的な文法、よく使われる表現のアクティブな習得を目指す。

学習の目的 すでに習得した文法知識を用いて、幅広く高度な作文能力を身につける。

学習の到達目標 文法的に間違いがないだけでなく、自然なドイツ語を書く能力を持っている。

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い

い教養, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 この授業を履修できるのは、ドイツ語をすでに2年以上学習した学生だけです。

予め履修が望ましい科目 「ドイツ語作文C」

教科書 プリント配布

成績評価方法と基準 平常点50%、課題50%

オフィスアワー 授業中に案内します。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：導入（ドイツやオーストリアのドイツ語能力試験）

第2回～4回：私的な手紙やメール

第5回～7回：オフィシャルな手紙やメール

第8回～10回：エッセイ

第11回～13回：報告文

第14回～15回：関心のあるテーマについて小論を書く

2012年度以降入学生用(文化)**フランス語会話 A**

French Conversation A

2011年度以前入学生用(文化)**フランス語会話 A**

French Conversation A

学期 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 1 **対象** 年次に関して「受講要件」を参照してください **年次**

学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 ダメモ ジャン・フランソワ

授業の概要 ビデオ教材を用いつつ、ネイティブスピーカーの指導のもとにフランス語会話の練習を行う

または仏検3級程度の実力がある学生のみ履修可。

学習の目的 フランス語によるコミュニケーション能力の向上

予め履修が望ましい科目 受講要件参照のこと

学習の到達目標 具体的な到達レベルは、各受講者が受講開始時にすでに修得してある知識や能力などによって異なります

発展科目 フランス語会話 B

教科書 プリントを用います

本学教育目標との関連 共感, 幅広い教養, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

成績評価方法と基準 平常点 (授業への積極的な参加が求められる) 100%

受講要件 フランス語 II 講読と会話 (現在の異文化理解 II 総合と演習) を履修した学生、

オフィスアワー

授業の前後

急ぎの場合は山本覚 (kakusan@human.mie-u.ac.jp) が窓口になります

授業計画・学習の内容

学習内容

受講生のレベル等に応じて適宜変更されません。

01-02回 対人関係と情報の交換

03-04回 対人関係と様々な挨拶

05-06回 情報を求める、空間の表現、感情の表現

07-08回 意見を伝える、褒めることと批判すること

09-10回 意見を伝える、好悪の感情

11-12回 計画を立てる、承諾と拒否

13-14回 提案する、理由を述べる、賛否を表明する

15-16回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **フランス語会話 B**

French Conversation B

2011年度以前入学生用(文化) **フランス語会話 B**

French Conversation B

学期 後期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 1 **対象** 年次に関して「受講要件」を参照してください **年次**

学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 ダメム ジャン・フランソワ

授業の概要 ビデオ教材を用いつつ、ネイティブスピーカーの指導のもとにフランス語会話の練習を行う

生、または仏検3級程度の実力がある学生のみ履修可。

学習の目的 フランス語によるコミュニケーション能力の向上

予め履修が望ましい科目 受講要件参照のこと

学習の到達目標 具体的な到達レベルは、各受講者が受講開始時にすでに修得してある知識や能力などによって異なります

教科書 プリントを用います

成績評価方法と基準 平常点（授業への積極的な参加が求められる）100%

本学教育目標との関連 共感, 幅広い教養, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

オフィスアワー

授業の前後

急ぎの場合は山本覚 (kakusan@human.mie-u.ac.jp) が窓口になります

受講要件 「フランス語会話A」を履修した学

授業計画・学習の内容

学習内容

受講生のレベル等に応じて適宜変更されます。

01-02回 人を招く、招かれる

03-04回 批判と非難、謝罪

05-06回 人を手伝う、助言を求める

07-08回 意図や希望を伝える

09-10回 手伝いを頼む

11-12回 思い出、過去を語る

13-16回 後期および1年間のまとめ

2012年度以降入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海倫理思想演習C**
Seminar in European Ethics C
2011年度以前入学生用(文化)**生命倫理論演習C**
Seminar in Bioethics C

学期 前期 開講時間 火 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 相澤 康隆 (人文学部)

授業の概要 アリストテレスの『政治学』に関する英語論文を読む。 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 特になし。

学習の目的

- ・アリストテレスの政治思想および倫理思想の基礎知識を身につける。
- ・英文読解力を向上させる。

予め履修が望ましい科目 特になし。

教科書 論文のコピーを配布する。

学習の到達目標 古代ギリシアの政治思想と倫理思想に関する知識を得る。

成績評価方法と基準 平常点（発表の内容と授業への貢献度）で評価する。

本学教育目標との関連 倫理観, 幅広い教養,

オフィスアワー 毎週金曜日の7・8限 相澤研究室 (人文学部校舎3階)

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：ガイダンス（成績評価の説明と各回の担当者の決定）

第2回～第14回：担当者が作成したレジュメを用いて全員で討論する。

第15回：まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海倫理思想演習D**

Seminar in European Ethics D

2011年度以前入学生用(文化) **生命倫理論演習D**

Seminar in Bioethics D

学期 後期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 相澤 康隆 (人文学部)

授業の概要 アリストテレスの『政治学』に関する英語論文を読む。

論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

学習の目的

- ・アリストテレスの政治思想および倫理思想の基礎知識を身につける。
- ・英文読解力を向上させる。

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

教科書 論文のコピーを配布する。

学習の到達目標 古代ギリシアの政治思想と倫理思想に関する知識を得る。

成績評価方法と基準 平常点（発表の内容と授業への貢献度）で評価する。

本学教育目標との関連 倫理観, 幅広い教養,

オフィスアワー 毎週金曜日の7・8限 相澤研究室 (人文学部校舎3階)

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：ガイダンス（成績評価の説明と各回の担当者の決定）

第2回～第14回：担当者が作成したレジュメを用いて全員で討論する。

第15回：まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海史演習A**

Seminar on European History A

2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海史演習A**

Seminar on European History A

学期 前期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一

授業の概要

歴史学の研究に際しては、史料の読解などの技術的な事柄や、史実を分析するための様々な理論を習得しておくことは大切であるが、その背景あるいは根底にある歴史観や歴史意識といったことについて認識しておくことも不可欠である。

本演習では、歴史というものにどう向き合うのかということを、碩学の思想に触れつつ共に考えたい。

学習の目的 歴史学の背景には、歴史観や歴史意識というものが顕在あるいは伏在していることを認識する。

学習の到達目標

専門的な文献を正確に読解する。

収集した情報を的確に整理し、聞き手が理解できるようにプレゼンテーションする。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 人文学部及び共通教育における歴史学関係の諸科目

教科書 別途指示する。

成績評価方法と基準 プレゼンテーション点6割、発言点4割。プレゼンテーションの内容が不十分な場合には追加的にレポートを課す。

その他 担当教員の3年次指導学生は必ず本演習を受講して下さい。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回～第15回 研究発表とディスカッション
研究発表担当者と司会者を各回毎に指名する。

30-40分程度の研究発表後、司会者を進行役としてディスカッションを行う。

欧州及び日本における歴史思想などについて、いくつかの文献を題材に、共に考える。

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海史演習B**

Seminar on European History B

2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海史演習B**

Seminar on European History B

学期 後期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一

授業の概要

歴史学の研究に際しては、史料の読解などの技術的な事柄や、史実を分析するための様々な理論を習得しておくことは大切であるが、その背景あるいは根底にある歴史観や歴史意識といったことについて認識しておくことも不可欠である。

本演習では、歴史というものにどう向き合うのかということ、碩学の思想に触れつつ共に考えたい。

学習の目的 歴史学の背景には、歴史観や歴史意識というものがあるいは伏在していることを認識する。

学習の到達目標

専門的な文献を正確に読解する。

収集した情報を的確に整理し、聞き手が理解できるようにプレゼンテーションする。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 原則として本年度前期月7-8限のヨーロッパ・地中海史演習Aを履修していること。

予め履修が望ましい科目 人文学部及び共通教育における歴史学関係の諸科目

教科書 別途指示する。

成績評価方法と基準 プレゼンテーション点6割、発言点4割。プレゼンテーションの内容が不十分な場合には追加的にレポートを課す。

その他 担当教員の3年次指導学生は必ず本演習を受講して下さい。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回～第15回 研究発表とディスカッション

研究発表担当者と司会者を各回毎に指名する。

30-40分程度の研究発表後、司会者を進行役としてディスカッションを行う。

欧州及び日本における歴史思想などについて、いくつかの文献を題材に、共に考える。

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海史演習E**

Seminar on European History E

2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海史演習E**

Seminar on European History E

学期 前期 **開講時間** 金 9, 10 **単位** 2 **対象** 担当教員の4年次指導学生は必修である。3年次指導学生は特別に許可した者に限り受講を認める。指導学生でない者は受講できない。 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村耕一

授業の概要 本演習は担当教員の指導学生が、文献・史料収集、レポート作成、研究発表等を通じて研究テーマを固め、その作業をヨーロッパ史に関する論文作成へと結実させることを目指す。

学習の目的 各自の研究テーマを論文の作成へと結実させる。

学習の到達目標

研究テーマについての調査力を身につける。
文献・史料を正確に読解する。
高いプレゼンテーション能力を習得する。
論理的な文章を書く力を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力

受講要件 担当教員の指導学生のみ受講可。担当教員の4年次指導学生においては必修科目です。

予め履修が望ましい科目 ヨーロッパ・地中海の歴史など歴史学関係の諸科目

教科書 演習のなかで指示する。

成績評価方法と基準 研究発表とレポートを総合して評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 研究テーマ及び参考文献リストに関するレ

ポートの提出

2. 研究報告 (各自2回程度)

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海史演習F**

Seminar on European History F

2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海史演習F**

Seminar on European History F

学期 後期 **開講時間** 金 9, 10 **単位** 2 **対象** 担当教員の4年次指導学生は必修である。3年次指導学生は、特別に許可した者に限り受講を認める。指導学生でない者は受講できない。 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 野村耕一

授業の概要 本演習は担当教員の指導学生が、文献・史料収集、レポート作成、研究発表等を通じて研究テーマを固め、その作業をヨーロッパ史に関する論文作成へと結実させることを目指す。

学習の目的 各自の研究テーマを論文の作成へと結実させる。

学習の到達目標

研究テーマについての調査力を身につける。
文献・史料を正確に読解する。
高いプレゼンテーション能力を習得する。
論理的な文章を書く力を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力

受講要件 担当教員の指導学生のみ受講可。担当教員の4年次指導学生においては必修科目です。

予め履修が望ましい科目 ヨーロッパ・地中海の歴史など歴史学関係の諸科目

教科書 演習のなかで指示する。

成績評価方法と基準 研究発表とレポートを総合して評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 研究中間報告
2. 論文題目の確定

3. 研究最終報告
4. 論文草稿の提出

2012年度以降入学生用(文化) **英語学演習M**

2011年度以前入学生用(文化) **英語学演習M**

Seminar on English Linguistics M

Seminar on English Linguistics M

学期 前期 開講時間 月5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 杉崎 鉦司 (教養教育機構)

授業の概要 ヒトの子どもは特別な訓練なしに誰でも母語を身につけることができますが、それはなぜでしょうか? 生成文法理論と呼ばれる言語理論は、「ヒトには遺伝により生まれつき与えられている言語獲得のための仕組みが存在する」と仮定しています。この授業では、生成文法理論の基本的仮説を解説するとともに、幼児による英語・日本語の獲得からこのような仕組みの存在を支持する様々な証拠を取り上げ、議論していきます。科学とは何か、科学の方法論とはどのようなものか、言語研究と言語教育はどのように関わりうるか、などのトピックも取り上げます。言語学に関する予備知識は必要ありません。演習ですので、積極的な発言を求めます。

学習の目的

- [1] 言語獲得に関する主要な仮説についての知識を得る。
- [2] 「ヒトには遺伝により生まれつき与えられている言語獲得のための仕組みが存在する」と考える根拠、およびその証拠に関する知識を得る。
- [3] 言語獲得研究と、ヒトの「こころ・脳」に関する研究がどのように結びついているかを理解できるようになる。

学習の到達目標

- [1] 言語の獲得に関するどのような事実が、「ヒトには遺伝により生まれつき与えられて

いる言語獲得のための仕組みが存在する」という仮説を支持するのかを理解できるようになる。

[2] 言語獲得研究で行われる心理実験の簡単なデザインを、自分で作り上げることができるようになる。

[3] 言語学が何を指す学問分野であるのかが理解できるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 できる限り前期・後期あわせて受講してください。

予め履修が望ましい科目

文化学セミナー (言語科学)

言語科学概論A・B

発展科目 他の「英語学演習」「言語科学演習」

教科書 教科書は使用しません。

成績評価方法と基準

- (1) Discussion課題 50%
 - (2) 学期末試験 50%
- 計100% (合計が60%以上の場合、単位が与えられます。)

オフィスアワー 毎週月曜日・火曜日 12:10～12:50 杉崎研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第01回 言語学の目標と主要な研究課題

第02回 言語学と言語教育との関係について

第03回 言語獲得の論理的問題

第04回 言語の普遍性と「普遍文法(UG)」

第05回 UG原理の早期発現[01]: 文の階層性(1) (「こと」に対する制約)

第06回 UG原理の早期発現[02]: 文の階層性(2)

(格助詞の脱落)

第07回 UG原理の早期発現[03]: Wh疑問文に対する制約(1) (島の制約)

第08回 UG原理の早期発現[04]: Wh疑問文に対する制約(2) (「なぜ」に対する制約)

第09回 UG原理の早期発現[05]: 削除に対する構造的制約

第10回 UG原理の早期発現[06]: 構造依存性(1)

(Yes/No疑問文)

第11回 UG原理の早期発現[07]：構造依存性(2)

(格助詞と後置詞)

第12回 UG原理の早期発現[08]：縮約に対する
制約

第13回 UG原理の早期発現[09]：照応形に対する
構造的制約

第14回 UG原理の早期発現[10]：代名詞に対する
構造的制約

第15回 UGと言語獲得：まとめ

2012年度以降入学生用(文化)

英語学演習N

Seminar on English Linguistics N

2011年度以前入学生用(文化)

英語学演習N

Seminar on English Linguistics N

学期 後期 開講時間 月5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 杉崎 鉦司 (教養教育機構)

授業の概要 世界の言語は、一見大きく異なっているように見えますが、詳細に調べていくと、その異なり方にも一定の「決まり」があることが分かります。例えば、世界の言語はneedに相当する他動詞やhaveに相当する他動詞を持つか否かにおいて異なりますが、needに相当する他動詞を持つ言語は必ずhaveに相当する他動詞も持っています。生成文法と呼ばれる言語理論は、「ヒトには遺伝により生まれつき与えられている言語獲得のための仕組みが存在する」と仮定し、その仕組みの中に、言語がどのように異なりうるかを定めた制約が含まれていると主張します。この演習では、言語の可能な異なり方を定めた生得的制約が存在するという仮説についてわかりやすく解説し、さらに、幼児による英語・日本語の獲得から様々な証拠を取り上げ、仮説の妥当性について議論します。言語の進化(発生)などのトピックも取り上げます。演習ですので、積極的な発言を求めます。

学習の目的

- [1] 言語の異なり方に関する主要なパターンについての知識を得る。
- [2] 「ヒトには遺伝により生まれつき与えられている言語獲得のための仕組みが存在する」と考える根拠、およびそれに対する言語の異なり方からの証拠に関する知識を得る。
- [3] 言語獲得研究の方法が理解できるようになる。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第01回 言語獲得の科学的研究：その基本的考え方
- 第02回 普遍文法(UG)に関する「原理とパラメータ」の理論
- 第03回 パラメータと言語獲得[01]：空主語現象
- 第04回 パラメータと言語獲得[02]：Medial Wh

学習の到達目標

- [1] 日本語と英語がどのような違いを持ち、どのような共通性を持つのかに関する知識を得る。
- [2] 言語の異なり方に関する規則性から、言語獲得に対する予測を導くことができるようになる。
- [3] 与えられた幼児発話データを分析できるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 できる限り前期・後期あわせて受講してください。

予め履修が望ましい科目

文化学セミナー (言語科学)
言語科学概論A・B

発展科目 他の「英語学演習」「言語科学演習」

教科書 教科書は使用しません。

成績評価方法と基準

- (1) Discussion課題 50%
 - (2) 学期末試験 50%
- 計100% (合計が60%以上の場合、単位が与えられます。)

オフィスアワー 毎週月曜日・火曜日 12:10～12:50 杉崎研究室

- 第05回 パラメータと言語獲得[03]：Whyの構造的な位置
- 第06回 パラメータと言語獲得[04]：日英語の関係節
- 第07回 パラメータと言語獲得[05]：複合語形成
- 第08回 パラメータと言語獲得[06]：項削除(1) (目的語の削除)

第09回 パラメータと言語獲得[07]：項削除(2)
(動詞句削除との比較)

第10回 パラメータと言語獲得[08]：項削除(3)
(Wh句の削除)

第11回 パラメータと言語獲得[09]：前置詞残留(1)

第12回 パラメータと言語獲得[10]：前置詞残

留(2)

第13回 パラメータと言語獲得[11]：他動詞
HAVEとNEED

第14回 パラメータと言語獲得[12]：英語
の”or”と日本語の「か」

第15回 普遍文法(UG)と言語の進化・発生

2012年度以降入学生用(文化) **英語学演習 Q**

2011年度以前入学生用(文化) **英語学演習 Q**

Seminar in English Linguistics Q

Seminar in English Linguistics Q

学期 前期 開講時間 火 5, 6 単位 2 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 綾野 誠紀

授業の概要 言語現象の記述・分析法及び議論の組み立て方について学ぶ

科学概論、言語科学演習

学習の目的 言語現象の記述・分析法及び議論の組み立て方が分かるようになる。

教科書

[テキスト] 初回の授業で配布する詳しいシラバスを参照のこと

学習の到達目標 言語現象の記述・分析法及び議論の組み立て方を修得する。

[参考書] 初回の授業で配布する詳しいシラバスを参照のこと

受講要件 言語科学概論を受講済みか、本演習と同時に受講すること。

成績評価方法と基準 レポート80%、授業での発言及び発表20%

予め履修が望ましい科目 受講要件参照のこと

オフィスアワー 初回の授業で配布する詳しいシラバスを参照のこと

発展科目 他の英語学演習の授業の他、言語

その他 特になし

授業計画・学習の内容

学習内容

この演習で取り扱う内容は以下の通りです。特に明示的に教えられることなく、人間であれば4-5歳までには母語を獲得します。このことから、人間には言語を獲得することができる能力が生まれつき備わっているのではないかという仮説が生み出されました。生得的な言語知識を前提とした文法のモデルを紹介

し、それに基づくと日本語や英語の言語データがいかに分析できるのか、また分析への証拠についても取り上げます。演習ですので、受講者との議論に基づいて進めていきます。具体的に取り扱うトピックについては、授業でより詳細なシラバスを配布します。

授業の概要 言語現象の記述・分析法及び議論の組み立て方について学ぶ

科学概論、言語科学演習

学習の目的 言語現象の記述・分析法及び議論の組み立て方が分かるようになる。

教科書

[テキスト] 初回の授業で配布する詳しいシラバスを参照のこと

学習の到達目標 言語現象の記述・分析法及び議論の組み立て方を修得する。

[参考書] 初回の授業で配布する詳しいシラバスを参照のこと

受講要件 言語科学概論を受講済みか、本演習と同時に受講すること。

成績評価方法と基準 レポート80%、授業での発言及び発表20%

予め履修が望ましい科目 受講要件参照のこと

オフィスアワー 初回の授業で配布する詳しいシラバスを参照のこと

発展科目 他の英語学演習の授業の他、言語

その他 特になし

授業計画・学習の内容

学習内容

この演習で取り扱う内容は以下の通りです。特に明示的に教えられることなく、人間であれば4-5歳までには母語を獲得します。このことから、人間には言語を獲得することができる能力が生まれつき備わっているのではないかという仮説が生み出されました。生得的な言語知識を前提とした文法のモデルを紹介

し、それに基づく日本語や英語の言語データがいかに分析できるのか、また分析への証拠についても取り上げます。演習ですので、受講者との議論に基づいて進めていきます。具体的に取り扱うトピックについては、授業でより詳細なシラバスを配布します。

2012年度以降入学生用(文化)**言語科学演習C**

2011年度以前入学生用(文化)**言語科学演習C**

Language Science Seminar C

Language Science Seminar C

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 吉田悦子

授業の概要 意味論、語用論、談話分析、認知言語学の分野における意味と文法、発話解釈の問題を議論する。

学習の目的 文法と意味の関係について、発話による言語データを利用して説明したり、分析する方法を学ぶことができる。

学習の到達目標

人間のことばの意味とコミュニケーションのしくみについて

理解する方法を学ぶことができる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 課題探求力, 討論・対話力

受講要件 言語科学概論B

予め履修が望ましい科目 言語科学概論B、比

較言語論、言語コミュニケーション論

教科書 なし

成績評価方法と基準

授業参加・発表 50%

moodleによる課題提出 25%

まとめの課題提出 25%

オフィスアワー 原則として水曜日1・2限(個別に相談応)

その他

前後期とも、具体例の分析や生の言語データを利用して、言語研究の方法について学びます。

英語で書かれた言語学のテキスト、および演習用テキストを中心に利用します。

授業計画・学習の内容

学習内容

講義スケジュール：

[前期]第1回：オリエンテーション

第2回：Theory, Data and Analysis

第3-5回：Dependency Relations

第 6 - 8 回： Noun Phrases and Non-configurationality

第9-11回:Constructions

第12-14回：Grammaticality

第15回：復習テスト

2012年度以降入学生用(文化)**言語科学演習D**

2011年度以前入学生用(文化)**言語科学演習D**

Language Science Seminar D

Language Science Seminar D

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 吉田悦子

授業の概要 意味論、語用論、談話分析、認知言語学の分野における意味と文法、発話解釈の問題を議論する。

学習の目的

人間のことばの意味とコミュニケーションのしくみについて理解する方法を学ぶことができる。

学習の到達目標 人間のことばの意味とコミュニケーションのしくみについて概観し、説明するための基本的方法を学び、さまざまな言語現象を事例にしてそこに働いていることばの伝達や解釈のしかたを説明することができる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考

える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 言語科学概論B

予め履修が望ましい科目 言語科学概論B、比較言語論、言語コミュニケーション論

教科書 なし

成績評価方法と基準

授業参加・発表50%

PPTによる研究課題の発表 25%

研究課題ペーパーの提出 25%

オフィスアワー 原則として水曜日1・2限(個別に相談応)

その他 参考書については、授業内容に応じて必要な章や演習問題をプリントで配布します。

授業計画・学習の内容

学習内容

講義スケジュール：

[後期]

第1-3回：Usage-based model

第4-6回：Grammar and Semantics: The 'get' passive

第7-9回：Grammar and Semantics: 'wh'

word

第10-12回：Grammar and Semantics: Parts of Speech

第13-14回：Grammar and Semantics: Thematic Roles

第15回：発表会・research paper の書き方について

2012年度以降入学生用(文化)

英語学演習 K

Seminar in English Linguistics K

2011年度以前入学生用(文化)

英語学演習 K

Seminar in English Linguistics K

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 服部範子

授業の概要 英語および日本語の母語話者が無意識のうちにもっている音声に関する言語知識を明らかにする。

学習の目的 言語音声の記述・分析方法を身につけ、日常使っている話しことばに対する意識を高め、自ら音声現象を科学的に分析できるようにすることを目指す。分析手段の一つとして、ソフトウェアによる音響音声学的分析の基礎を身につける。

学習の到達目標 英語の音声特徴について調音の仕組みが理解できるようになり、かつ聴覚印象を補う基本的な音響学的分析ができるようになる。理論だけでなく英語の発音・リスニングについても自信がもてるようになる。

授業計画・学習の内容

学習内容

この演習では現代英語の音声面を扱います。授業では音声学の理論のほかに、発音・リスニングの練習、そして音声分析ソフトウェアPraatを用いた音声分析も行います。日本語音声との比較も交え、英語の分節音の特徴と強勢(音の強弱)、リズム、イントネーション(音調)といった音声の韻律的特徴について学びます。

[演習で取り扱う主な項目]

言語音声の構成要素(調音音声学からの視

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力

予め履修が望ましい科目 言語科学概論Aを履修済み、もしくは平行して履修していることが望ましい。

教科書 服部範子『入門英語音声学』研究社出版, 2012年。

成績評価方法と基準 授業時の発表(40%)、レポート(40%)、試験(20%)。合計60%以上で合格。

オフィスアワー オフィスアワー: 水曜日 10:30~11:30

点、音響音声学からの視点)、音節とモーラ、リズム、言葉と音楽の接点

前年度までに英語音声学の基本的概念を習得し、音声分析ソフトウェアの使用方法も習得している学生は、別途、発展的な課題に取り組み、音声現象について自ら観察・記述・分析する道筋を体験してもらいます。また、音声・音韻をテーマに卒論を書く学生は、定期的に授業において進捗状況を報告することが求められます。

2012年度以降入学生用(文化)

英語学演習 L

Seminar in English Linguistics L

2011年度以前入学生用(文化)

英語学演習 L

Seminar in English Linguistics L

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 服部範子

授業の概要 英語および日本語の母語話者が無意識のうちにもっている音声に関する言語知識を明らかにする。

学習の目的 言語音声の記述・分析方法を身につけ、日常使っている話しことばに対する意識を高め、自ら音声現象を科学的に分析できるようにすることを目指す。分析手段の一つとして、ソフトウェアPraatによる音響音声学的分析の基礎を身につける。

学習の到達目標 英語の音声特徴について調音の仕組みが理解できるようになり、かつ聴覚印象を補う基本的な音響学的分析ができるようになる。理論だけでなく英語の発音・リスニングについても自信がもてるようになる。

授業計画・学習の内容

学習内容

この演習では現代英語の音声面を扱います。授業では音声学の理論のほかに、発音・リスニングの練習、そして音声分析ソフトウェアを用いた音声の分析も行います。日本語音声との比較も交え、英語の分節音の特徴と強勢(音の強弱)、リズム、イントネーション(音調)といった音声の韻律的特徴について学びます。

[演習で取り扱う主な項目]

言語音声の構成要素(調音音声学からの視

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力

予め履修が望ましい科目 言語科学概論Aを履修済み、もしくは平行して履修していることが望ましい。

教科書 服部範子『入門英語音声学』研究社出版, 2012年。

成績評価方法と基準 授業時の発表(40%)、レポート(40%)、試験(20%)。合計60%以上で合格。

オフィスアワー オフィスアワー: 水曜日 10:30~11:30

点、音響音声学からの視点)、音節とモーラ、リズム、言葉と音楽の接点

前年度までに英語音声学の基本的概念を習得し、音声分析ソフトウェアの使用方法も習得している学生は、別途、発展的な課題に取り組み、音声現象について自ら観察・記述・分析する道筋を体験してもらいます。また、音声・音韻をテーマに卒論を書く学生は、定期的に授業において進捗状況を報告することが求められます。

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツ語学演習D Seminar in German Language D**
2011年度以前入学生用(文化)**ドイツ語学演習D Seminar in German Language D**

学期 後期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 井口 靖 (教養教育機構・人文学部兼任)

授業の概要 ドイツ語の副詞に関する文献を読みながら、ドイツ語と日本語の副詞の機能を考察します。

学習の目的 ドイツ語の副詞の全体像を知ることにより、言語の基本的機能を理解する。

学習の到達目標 ドイツ語と日本語の副詞を分析し、その違いを把握することにより、ドイツ語の副詞を的確に使用できるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ドイツ語の基本的な読解能力が必要です。

予め履修が望ましい科目 「ドイツ語の言

語」をあらかじめ履修しているか、平行して履修すること。「ドイツ語学演習C」をあらかじめ履修していること。また、他の言語学・英語学関係の授業をあらかじめ履修しているか、平行して履修することをお勧めします。

教科書

Lexikon deutscher Modalwoerter.Langenscheidt.

Modalpartikeln (Kurze Einfuehrungen in die Germanistische Linguistik) . Universitaetsverlag Winter.

(入手方法については授業で指示します)

成績評価方法と基準 レポート70%, 授業での翻訳30%

オフィスアワー 毎週火曜日3・4限 場所：人文学部専門校舎2F研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 ドイツ語の副詞について
- 第2～3回 命題内機能を持つ副詞
- 第4回 命題外機能を持つ副詞

- 第5～8回 Modalwort
- 第9～12回 Modalpartikel
- 第13～15回 ドイツ語の副詞と日本語の副詞

2012年度以降入学生用(文化) **ドイツ文学演習 J Seminar in German Literature J**
2011年度以前入学生用(文化) **ドイツ文学演習 J Seminar in German Literature J**

学期 後期 **開講時間** 火 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 大河内 朋子 (人文学部文化学科)

授業の概要 フランツ・カフカの短編を読みます。

判的思考力, 討論・対話力

学習の目的 カフカの短編と寓話的な文体に親しむ。

教科書 プリント使用

学習の到達目標 カフカの短編について、根拠のある解釈ができる。

成績評価方法と基準 授業への積極的参加 [50%]、発表とレポート [50%]、計100%

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 批

オフィスアワー 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室 (人文校舎2階) にて

授業計画・学習の内容

学習内容

フランツ・カフカの短編を精読します。

授業では、毎回の担当者の発表箇所を中心に、受講生全員で議論します。

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツ文学演習K Seminar on German Literature K**
2011年度以前入学生用(文化)**ドイツ文学演習K Seminar on German Literature K**

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 菅 利恵 (人文学部)

授業の概要 ミヒャエル・エンデ Michael Ende (1929-1995) の『はてしない物語 Die unendliche Geschichte 1979』をドイツ語で読む。

学習の目的 ドイツ語の読解力を高める。ファンタジー小説というジャンルについての知識を得る。

学習の到達目標 辞書を用いて、複雑なドイツ語の文章を訳すことができる。ファンタジー小説というジャンルの特徴について論じることができる。

授業計画・学習の内容

学習内容 ミヒャエル・エンデ Michael Ende (1929-1995) の『はてしない物語 Die unendliche Geschichte 1979』をドイツ語で読みます。作品と作者に関連する文献や、ファンタジー小説についての文献も読みながら、ファンタジー小説というジャンルについて考察を深めます。随時文法説明や文法練習も行います。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

受講要件 共通教育のドイツ語Iを修得していること。

予め履修が望ましい科目 共通教育ドイツ語I

教科書 プリント配布。

成績評価方法と基準 授業への積極的な取り組みを評価する。

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツ文学演習A Seminar on German Literature A**
2011年度以前入学生用(文化)**ドイツ文学演習A Seminar on German Literature A**

学期 後期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習
担当教員 山崎 明日香

授業の概要 ペーター・ビクセルの短編作品およびドイツのクリスマスに関する物語を読みます。

学習の目的 演習の前半では、スイスの現代作家ペーター・ビクセルの短編作品『テーブルはテーブル』を扱います。後半では、ドイツのクリスマスに関する簡単なファンタジー小説に取り組むことで、ドイツ語の基礎的な読解力を養います。

学習の到達目標 演習の前半では、スイスの現代作家ペーター・ビクセルの短編作品『テーブルはテーブル』を扱います。後半では、ドイツのクリスマスに関する簡単なファンタジー小説に取り組むことで、ドイツ語の

基礎的な読解力を養います。

本学教育目標との関連 感性、モチベーション、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 初級修了程度のドイツ語の知識を有すること。

発展科目 文学、文化学など

教科書 プリント配布

成績評価方法と基準

※ 期末テスト、その他課題の提出など。

※ 担当箇所についての毎回の事前準備、課題の遂行、意見の表明など。

授業計画・学習の内容

学習内容 演習の前半では、スイスの現代作家ペーター・ビクセルの短編作品『テーブルはテーブル』を精読し、日常生活にひそむ笑いやユーモア、人間の狂気などを探ります。

後半では、ドイツのクリスマスに関する簡単なメルヘンかファンタジー小説に取り組むことで、ドイツの文化的行事に親しみながら、ドイツ語の基礎的な読解力を養います。

2012年度以降入学生用(文化) **フランス語学演習 A**

Practice in French Language A

2011年度以前入学生用(文化) **フランス語学演習 A**

Practice in French Language A

学期 前期 **開講時間** 月 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 ダメム ジャン・フランソワ

授業の概要 基本的な文法と語彙を用いた会話の基礎から始めて、実践的な語学力を養成します。月曜日1・2限「フランスの言語A」で扱う文法項目も取り入れるようします。

学習の目的 聞いて相手を理解する力、話して自分を表現する力の向上を目指します

学習の到達目標 具体的な到達目標は受講者一人一人がすでに修得している知識と能力などによって異なるので一概には言えませんが、部分的には仏検準2級程度の会話を目標とします。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 フランス語Ⅱ講読と会話（現在の異文化理解Ⅱ総合と演習）を履修した学生、または仏検3級程度の実力がある学生のみ履修可。

予め履修が望ましい科目 受講要件参照のこと

発展科目 フランス語学演習 B

教科書 プリントを配布します

成績評価方法と基準 平常点（授業への積極的な参加が求められる）100%

オフィスアワー

授業の前後

急ぎの場合は山本覚 (kakusan@human.mie-u.ac.jp) が窓口になります

授業計画・学習の内容

学習内容

以下のトピックに関しての会話を扱います。進める速さは受講者と内容に合わせて緩急を調節します。

初対面の人と

部屋の様子について話す

果物について話す

サンドイッチについて話す

住んでいる場所について話す

料理のための買い物について話す

風邪と体調について話す

図書館で

服を買う

誕生日パーティー

2012年度以降入学生用(文化) **フランス語学演習 B**

Practice in French Language B

2011年度以前入学生用(文化) **フランス語学演習 B**

Practice in French Language B

学期 後期 **開講時間** 月 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 ダメモ ジャン・フランソワ

授業の概要 基本的な文法と語彙を用いた会話の基礎から始めて、実践的な語学力を養成します。月曜日1・2限「フランスの言語B」で扱う文法項目も取り入れるようします。

学習の目的 聞いて相手を理解する力、話して自分を表現する力の向上を目指します

学習の到達目標 具体的な到達目標は受講者一人一人がすでに修得している知識と能力などによって異なるので一概には言えませんが、部分的には仏検準2級程度の会話を目標とします。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、専門知識・技術、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 前期に「フランス語学演習A」を履修した学生、または仏検3級程度の実力がある学生のみ履修可。

予め履修が望ましい科目 受講要件参照のこと

教科書 プリントを配布します

成績評価方法と基準 平常点（授業への積極的な参加が求められる）100%

オフィスアワー

授業の前後

急ぎの場合は山本覚 (kakusan@human.mie-u.ac.jp) が窓口になります

授業計画・学習の内容

学習内容

以下のトピックに関しての会話を扱います。進める速さは受講者と内容に合わせて緩急を調節します。
旅行について話す
郵便を送る
映画について話す

思い出について話す
美術館について話す
落し物について相談する
将来の仕事の夢について話す
引っ越しについて話す
家に呼ばれて
日本に来ることを勧める

2012年度以降入学生用(文化) **フランス文学演習A**

Seminar in French Literature A

2011年度以前入学生用(文化) **フランス文学演習A**

Seminar in French Literature A

学期 前期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業 **市民開放授業**

担当教員 グットマン ティエリー

授業の概要

フランス映画を観ながら聴解能力を向上させ、口語的表現を身に付けます。

本授業は映画の聴解からテキストの再現を行いますので、扱う映画は異なりますが、逆の方向で映画にアプローチする「フランスの文学A」と同時に履修すると、知識と実践両面からのより深い学習が可能になります。

学習の目的 話し言葉を中心に聞き取り、発音、表現能力の向上を目指します。また、フランス人の心情の機微に触れます。

学習の到達目標 フランスの映画等を字幕なしである程度理解できるようになること。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 専門知識・技術, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケー

ション力を総合した力

受講要件 フランス語Ⅱを履修した学生、または仏検3級程度の実力がある学生のみ履修可。

予め履修が望ましい科目 異文化理解Ⅱ 総合(フランス語)、異文化理解Ⅱ 演習(フランス語)

発展科目 フランス文学演習B

教科書 なし

成績評価方法と基準 平常点(授業への積極的な参加が求められる)60%、フランス語聴解能力等のテスト40%、計100%

オフィスアワー 大体毎日研究室に来ています(人文学部校舎3階)

授業計画・学習の内容

学習内容

[授業計画]

映画「Nikita(ニキータ)」(リュック・ベッソン監督)を扱います。

毎回、単語リストを参考にしながら映画の一場面を聞き取る訓練(字幕なし)と発音練習をし、そのあとで受講者自身による場面の再現を試みます。最終回は各場面の復習です。

2012年度以降入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海社会演習A**
Seminar on European and Mediterranean Society
2011年度以前入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海社会演習A**
Seminar on European and Mediterranean Society

学期 前期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 村上直樹 (人文学部文化学科)

授業の概要 近代化以前から現代にかけて、西ヨーロッパにおける家族のあり方はどのように変化してきたのかを、日本の場合と比較しつつ考察する。

学習の目的 受講学生が、西ヨーロッパにおける家族社会史に関する基本的な知識を習得し、それをふまえて、現代の西ヨーロッパの家族と日本の家族についての自分の見解を展開できるようにする。また、数多くの文献(本、論文等)から情報を抽出し、それをもとに議論を展開する能力を身につけることができるようにする。

学習の到達目標 受講学生が、西ヨーロッパにおける家族社会史に関する基本的な知識を習得できるようにする。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：導入

第2回～第8回：西ヨーロッパにおける家族の変遷

第9回～第12回：日本における家族の変遷

受講要件

全回出席すること。
積極的に発言する学生の受講を前提としています。

予め履修が望ましい科目

ヨーロッパ・地中海の社会A、B
ヨーロッパ・地中海の民族と文化A、B

教科書 使用する文献に関しては、開講時に指示する。

成績評価方法と基準 演習への参加度、報告内容、レポート(論文形式)

オフィスアワー オフィスアワーは、火曜と水曜の午後にもうけます。時間等については、開講時に連絡します。

その他

全回出席が原則
受講生は3年生を想定しています。

第13回～第14回：西ヨーロッパと日本の比較

第15回：まとめ

*くわしい内容・スケジュール等に関しては開講時に説明する。

2012年度以降入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海社会演習B**
Seminar on European and Mediterranean Society
2011年度以前入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海社会演習B**
Seminar on European and Mediterranean Society

学期 後期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 村上直樹 (人文学部文化学科)

授業の概要

西ヨーロッパ宗教社会史に関する基本的文献を読む。

西ヨーロッパの移民労働者問題に関する基本的文献を読む。

論文の作成の仕方の基礎を学ぶ。

学習の目的

受講学生が、西ヨーロッパ宗教社会史及び西ヨーロッパの移民労働者問題に関する基本的な知識を習得し、それをふまえて、西ヨーロッパ宗教社会史及び西ヨーロッパの移民労働者問題に関する自分の見解を展開できるようにする。

また、論文の作成の仕方の基礎を身につけ、実際に学術的な論文を書けるようにする。

学習の到達目標 受講学生が、西ヨーロッパ宗教社会史及び西ヨーロッパの移民労働者問題に関する基本的な知識を習得する。また、論文の作成の仕方の基礎を身につける。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対

話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

全回出席すること。

積極的に発言する学生の受講を前提としています。

予め履修が望ましい科目

ヨーロッパ・地中海社会演習A (必ず履修しておくこと)

ヨーロッパ・地中海の社会A、B

ヨーロッパ・地中海の民族と文化A、B

教科書 使用する文献に関しては、開講時に指示する。

成績評価方法と基準 演習への参加度、報告内容、レポート(論文形式)

オフィスアワー オフィスアワーは、火曜と水曜の午後にもうけます。時間等については、開講時に連絡します。

その他

全回出席が原則

受講生は3年生を想定しています。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：導入

第2回～第7回：西ヨーロッパ宗教社会史

第8回～第12回：西ヨーロッパの移民労働者問

題

第13回～第15回：論文の作成の仕方

*くわしい内容・スケジュール等に関しては開講時に説明する。

2012年度以降入学生用(文化)

アメリカの思想A

American Philosophy A

2011年度以前入学生用(文化)

アメリカの思想A

American Philosophy A

学期 前期 開講時間 水 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 薄井 尚樹 (人文学部)

授業の概要 「心」は哲学の伝統的な主題のひとつです。本講義では、そのなかでもとくに「他者の心 Problem of other minds」という問題に哲学がどう取り組んできたかについて、感情移入 empathy という考えを軸に考察していきます。

学習の目的 他者の心の問題についての哲学的な議論を理解する

学習の到達目標

1. 多様な哲学的立場を概観することで、複数の立場を系統立てて比較できる。
2. 言語表現を分析する技術を身につける。
3. コンセプトマップを作成することで、自身の知識を整理・表現する方法を獲得する。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：イントロダクション

第2回：「他者の心」の問題とはなにか (1)

第3回：「他者の心」の問題とはなにか (2)

第4回：「他者の心」の問題とはなにか (3)

第5回：理論説 (1)

第6回：理論説 (2)

第7回：コンセプトマップの作成

第8回：前半のまとめ

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

予め履修が望ましい科目 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

発展科目 アメリカ思想演習

教科書 レジュメを配布します。

成績評価方法と基準 期末試験70%、レスポンスペーパー30%

オフィスアワー

毎週水曜日 12:00~13:00

薄井研究室 (人文学部)

第9回：シミュレーション説 (1)

第10回：シミュレーション説 (2)

第11回：シミュレーション説 (3)

第12回：素朴心理学の行方 (1)

第13回：素朴心理学の行方 (2)

第14回：コンセプトマップの作成

第15回：講義全体のまとめ

※ただし受講者の関心や理解度に応じて内容を部分的に変更することがあります。

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの思想B**

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの思想B**

American Philosophy B

American Philosophy B

学期 後期 開講時間 水 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 薄井 尚樹 (人文学部)

授業の概要 道徳心理学 moral psychology は、道徳にまつわる人間の心理的側面を主題とする学問であり、哲学と心理学が交差する、いまでもアツい分野のひとつです。本講義では、道徳心理学がどのような問題を扱うのか、またそこにはどのような立場が存在するのか、哲学と心理学というふたつの学問がここでどのように交わるのかをご紹介します。

学習の目的 1.道徳心理学の基本問題を理解する

学習の到達目標

- 1.あるトピックについての論争を考察することで、相手の主張を批判的に吟味できる。
- 2.多様な立場を概観することで、複数の立場を系統立てて比較できる。
- 3.コンセプトマップを作成することで、自身の知識を整理・表現する方法を獲得する。

本学教育目標との関連 倫理観, 専門知識・技

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回：道徳心理学と哲学 (1)
- 第2回：道徳心理学と哲学 (2)
- 第3回：道徳心理学と哲学 (3)
- 第4回：道徳的な動機 (1)
- 第5回：道徳的な動機 (2)
- 第6回：道徳的な動機 (3)
- 第7回：コンセプトマップの作成
- 第8回：前半のまとめ

術, 論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

予め履修が望ましい科目 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

発展科目 アメリカ思想演習

教科書 レジュメを配布します。

成績評価方法と基準 期末試験70%、レスポンスペーパー30%

オフィスアワー

毎週水曜日 12:00~13:00
薄井研究室 (人文学部)

その他 講義は Tiberius, V., Moral Psychology. Routledge, 2014. をベースにしておこないません。ただし講義中に用いることはありませんし、受講者が読んでおく必要もありません。講義と配布するレジュメだけで完結します。

第9回：道徳的な責任 (1)

第10回：道徳的な責任 (2)

第11回：道徳的な責任 (3)

第12回：なぜ道徳的であるべきなのか (1)

第13回：なぜ道徳的であるべきなのか (2)

第14回：コンセプトマップの作成

第15回：講義全体のまとめ

※ただし受講者の関心や理解度に応じて内容を部分的に変更することがあります。

2012年度以降入学生用(文化)**アメリカの歴史A**

American History A

2011年度以前入学生用(文化)**アメリカの歴史A**

American History A

学期 前期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 森脇由美子 (人文学部文化学科)

授業の概要 現代社会においてアメリカと日本は深いかわりを持っており、われわれにとってアメリカを理解することは国際社会で生きる上できわめて重要である。アメリカ社会の本質を理解するには、現在だけでなく過去への理解が不可欠となる。本講義では、アメリカ史研究における課題と現状について学んでいく。先住民の世界から19世紀半ばまでを取り上げ、アメリカ社会の歴史的発展の過程を理解していく。

学習の目的 南北戦争より以前のアメリカの歩んだ課程をたどる中で、アメリカ社会の特性を歴史的に理解できるようになる。過去の人々の価値観や行動への洞察力を養い、アメリカのみならず、近現代社会全般への批判的な考察力を持つことができる。

学習の到達目標 19世紀半ばまでのアメリカ史の基礎的知識を獲得し、アメリカ社会に根ざす基本的理念の形成とその変化について学び、アメリカ社会の特徴を歴史的に理解でき

ようになる。歴史的思考を身に着けることによって、社会のさまざまな現象を、皮相的な事柄だけでなく、社会内部に潜んだ問題から捉え、自分自身で考察していくことができるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 アメリカの歴史B, D アメリカ史演習A~H

教科書 和田光弘編著『大学で学ぶアメリカ史』〈ミネルヴァ書房、2014年〉

成績評価方法と基準 平常点 (40%) と期末テスト (60%)。

オフィスアワー 木14:40~15:40

授業計画・学習の内容

学習内容

テキスト『大学で学ぶアメリカ史』を利用して、アメリカ史に対する基礎的知識を学び、アメリカ社会の現在と過去への洞察力を深める。前期は南北戦争以前について取り上げる。

授業は以下のように進める。

1. 授業内容の説明
2. アメリカの基礎知識
3. アメリカの基礎知識
4. 先住民の世界①

5. 先住民の世界②
6. 植民地時代①
7. 植民地時代②
8. 独立革命①
9. 独立革命②
10. 新共和国の建設①
11. 新共和国の建設②
12. 領土拡大と市場革命①
13. 領土拡大と市場革命②
14. デイスカッション
15. まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの歴史B**

American History B

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの歴史B**

American History B

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 森脇由美子 (人文学部文化学科)

授業の概要 現代社会においてアメリカと日本は深いかわりを持っており、われわれにとってアメリカを理解することは国際社会で生きる上できわめて重要である。アメリカ社会の本質を理解するには、現在だけでなく過去への理解が不可欠となる。本講義では、アメリカ史研究における課題と現状について学んでいく。南北戦争から現代までを取り上げ、アメリカ社会の歴史的発展の過程を理解していく。

学習の目的 南北戦争より以降現代までのアメリカの歩んだ課程をたどる中で、アメリカ社会の特性を歴史的に理解できるようになる。過去の人々の価値観や行動への洞察力を養い、アメリカのみならず、近現代社会全般への批判的な考察力を持つことができる。

学習の到達目標 19世紀半ばまでのアメリカ史の基礎的知識を獲得し、アメリカ社会に根ざす基本的理念の形成とその変化について学

び、アメリカ社会の特徴を歴史的に理解できるようになる。歴史的思考を身に着けることによって、社会のさまざまな現象を、皮相的な事柄だけでなく、社会内部に潜んだ問題から捉え、自分自身で考察していくことができるようになる。

本学教育目標との関連 感性、専門知識・技術、批判的思考力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 アメリカの歴史A

発展科目 アメリカ史演習A〜H

教科書 和田光弘編著『大学で学ぶアメリカ史』（ミネルヴァ書房。2014年）

成績評価方法と基準 平常点（40%）と期末試験（60%）。

オフィスアワー 木曜日14:40～15:40

授業計画・学習の内容

学習内容

テキスト『大学で学ぶアメリカ史』を利用し、アメリカ史に対する基礎的知識を学び、アメリカ社会の現在と過去への洞察力を深める。後期は南北戦争以降現代までについて取り上げる。

授業は以下のように進める。

1. 授業内容の説明
2. アメリカの基礎知識①
3. アメリカの基礎知識②
4. 南北戦争と「再建時代」①
5. 南北戦争と「再建時代」②
6. 金ぴか時代から革新主義へ①
7. 金ぴか時代から革新主義へ②
8. 第一次世界大戦と黄金の1920年代①
9. 第一次世界大戦と黄金の1920年代②
10. ニューディールと第二次世界大戦①
11. ニューディールと第二次世界大戦②
12. 第二次世界大戦後から1970年代までの内政と社会①
13. 第二次世界大戦後から1970年代までの内政と社会②
14. ディスカッション
15. まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの社会A** Lecture on American Society A
2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの社会A** Lecture on American Society A

学期 前期 開講時間 月5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 江成幸 (人文学部文化学科)

授業の概要 アメリカの現状と変化をトピック別に検討し、アメリカ社会の構造と人々の価値観について理解を深める。

・日米関係が密接な時代において、アメリカの社会意識を学ぶことにより、豊かな人的交流の基礎にする。

学習の目的

- ・アメリカにおける世論の動向について、背景を含めて理解することができる。
- ・アメリカ社会の成立のプロセスと、現在の社会的特徴や価値観との関連について認識を深める。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 情報受発信力

発展科目

アメリカの社会B
アメリカ地域研究に関する他の講義、演習

学習の到達目標

- ・アメリカ合衆国における人々の生活、および社会関係を理解する。
- ・アメリカの社会制度についての基本的知識を身につける。

教科書 開講時に指示する。

成績評価方法と基準 期末レポート90%、授業での質問・コメント等10%、計100%

オフィスアワー 月曜日7・8限。江成研究室。

授業計画・学習の内容

学習内容

[第1-4回 アメリカの社会構造] 政府、政党、利益団体、市民団体について日本と比較する。

[第5-8回 アメリカの階層構造] 経済格差の問題を平等主義、競争原理など価値観と関連づけて論じる。

[第9-12回 アメリカの世論] マスメディアが注目する国政選挙、外交問題、災害、犯罪などを通して、世論とその背景を考える。

[第13-15回 アメリカのライフスタイル] 消費行動、健康管理などのトピックを扱う。

[第16回 期末レポート課題]

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの社会B** Lecture on American Society B 2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの社会B** Lecture on American Society B

学期 後期 開講時間 月5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 江成 幸 (人文学部文化学科)

授業の概要 アメリカ合衆国の現状と変化を検討し、とりわけ多民族・多文化社会の側面に注目する。移民史の概観、文化的特徴、適応プロセス、差別・格差の是正策などについて論じる。

学習の目的

- ・アメリカ合衆国について、人々の生活および社会関係の側面から理解する。
- ・多民族社会アメリカの歴史的背景と現状について知識を得る。
- ・日米関係が密接な時代において、アメリカ社会で重視される価値観や人々の意識を学ぶことにより、豊かな人的交流の基礎にする。

学習の到達目標

- ・文化比較の観点から、主体的に探求したいテーマを見だし、アメリカの特徴をとらえる。

授業計画・学習の内容

学習内容

- [第1-3回 移民政策と移民史]
- [第4-5回 エスニック・マイノリティの差別と是正策]
- [第6回 アメリカ社会の多様性と今後]
- [第7-8回 アメリカ文化に関するテーマ学習の

・日本社会とも共通するグローバルな課題を発見し、異文化間の交流の手がかりとする。また、今後に必要な政策、社会的活動への関心を深める。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 アメリカの社会A

発展科目 アメリカ地域に関する他の講義、演習

成績評価方法と基準 テーマ学習による期末レポート70%、授業への参加・コメント30%、計100%

オフィスアワー 月曜日7・8限。江成研究室。

方法]

- [第9-10回 テーマ学習の内容検討および構成]
- [第11-13回 グループ学習による発表の準備]
- [第14-15回 研究発表]
- [第16回 テーマ学習の成果提出]

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの風土と地誌A**

Geography of America A

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの風土と地誌A**

Geography of America A

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 中川 正(人文学部)

授業の概要 本講義はアメリカ研究の入門として、アメリカにおける自然的基盤、および歴史地理を概説する。

学習の目的 アメリカの全体像を理解し、アメリカが超大国へと発展していく過程を歴史地理学的に概説する。

学習の到達目標 学生は、アメリカの全体像を把握し、アメリカの歴史地理の概略を理解し、研究テーマの候補を考えることができるようになる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 課題探求力, 討論・対話力

受講要件 前後期(アメリカの風土と地誌AとB)を合わせて履修すると、より深く学ぶこと

ができる。

予め履修が望ましい科目 地理学関係・アメリカ研究関係の科目

発展科目 アメリカ地誌演習

教科書 [テキスト] 指定しない。毎回授業で資料を配布する。

成績評価方法と基準 毎回授業の冒頭で行う小テストですべての評価を行う。

オフィスアワー 金曜日16:30~17:30

その他 毎回授業の冒頭で行う小テストで評価を行うので、遅刻をしないよう注意すること。

授業計画・学習の内容

学習内容

第一回 ガイダンス・概要説明、アメリカ合衆国とはどんな国?

第二回 アメリカ合衆国の地域

第三回 アメリカ合衆国の自然(地形)

第四回 アメリカ合衆国の自然(気候)

第五回 アメリカ合衆国の自然(植生・土壌)

第六回 アメリカ合衆国の歴史地理(初期のアメリカ人)

第七回 アメリカ合衆国の歴史地理(新大陸の発見と探検)

第八回 アメリカ合衆国の歴史地理(植民地時代)

第九回 アメリカ合衆国の歴史地理(独立後)

第十回 アメリカ合衆国の歴史地理(南北戦争後)

第十一回 アメリカ合衆国の歴史地理(世紀転換期)

第十二回 アメリカ合衆国の歴史地理(二つの大戦間)

第十三回 アメリカ合衆国の歴史地理(第二次世界大戦後)

第十四回 アメリカ合衆国の歴史地理(1960年以降)

第十五回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの風土と地誌B**

Geography of America B

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの風土と地誌B**

Geography of America B

学期 後期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 中川 正 (人文学部)

授業の概要 アメリカ研究を行うためのプロセスを、政治、経済、文化など具体的な課題を卒業論文にまで結びつけ事例をもとに実践的に学習する。

学習の目的 アメリカの政治的、経済的、文化的なトピックから具体的な疑問を喚起し、学問の課題として設定して、自ら研究できる能力を獲得する。

学習の到達目標 アメリカの政治的、経済的、文化的なトピックから具体的な疑問を持ち、課題を設定して、文献やその他の情報を探索し、研究を行う基礎的な技法を獲得することができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力

受講要件 前後期（アメリカの風土と地誌AとB）をセットで履修すると理解の深化につながり望ましいが、履修にあたる必須条件ではない。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：授業の概要説明

第2回：アメリカ合衆国の研究法

第3～5回：政治的トピックの研究法

予め履修が望ましい科目 地理学関係・アメリカ研究関係の授業

発展科目 アメリカ地誌演習

教科書 [テキスト] 特に指定しない。

成績評価方法と基準 毎回Moodleに課題を提出する。すべてその合計点で評価する。出席を前提とするので、欠席をした場合には、課題を提出しても点数とはならないことを原則とする。

オフィスアワー 金曜日16:30～17:30

その他 毎回ムードルに課題を提出することとなり、その合計点が成績となる。ただし、出席が前提なので、欠席をする場合には、原則として課題は採点対象とはならない。リーディング資料もムードルに掲載するので、各自ダウンロードして学ぶことが必要となる。受業生からの積極的な質問・意見を期待する。

第6～8回：経済的トピックの研究法

第9～11回：宗教的トピックの研究法

第12～14回：文化的トピックの研究法

第15回：まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの民族と文化A**

Americas' peoples and cultures A

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの民族と文化A** Americas' peoples and cultures A

学期 前期 **開講時間** 火 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義
担当教員 立川陽仁 (人文学部文化学科)

授業の概要 南北アメリカが多民族国家になった背景としての歴史と現状を理解する。

学習の目的 南北アメリカの民族の概況を歴史的に理解する。

学習の到達目標

- ・ラテンアメリカ、アメリカ合衆国、カナダという3つの地域ごとに、民族の歴史と現状が違う点、および共通する点を理解する。
- ・上記の相違点および共通点の理由である植民地主義について理解を深めることができる。
- ・民族集団が一枚岩的ではなく、じつは内実が複雑な構成になっていることを理解する。
- ・文化と呼ばれるものの不安定さ、操作性を理解する。

授業計画・学習の内容

学習内容

講義は

- 1) ラテンアメリカ
- 2) カナダ

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 とくになし。

予め履修が望ましい科目 共通教育の〈教養文化人類学〉、専門科目の〈文化人類学〉のいずれか。

発展科目 アメリカの民族と文化演習 (A～D)

成績評価方法と基準 授業時間内に小テストないしレポートを課す予定。

オフィスアワー 木曜7から8時限以後。他の時間も電気がついていれば基本的に構いません。

3) アメリカ (各5回程度)

の順に、歴史と現代の民族状況、文化について概説。

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの民族と文化B**

Americas' peoples and cultures B

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの民族と文化B** Americas' peoples and cultures B

学期 後期 開講時間 火 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 立川 陽仁 (人文学部文化学科)

授業の概要 北米の先住民の歴史、現代の生活を文献と講師のフィールドワークの成果から包括的に理解する。フィールドワークの成果を使用するので、北西海岸（カナダ太平洋沿岸）の先住民が中心となる。

学習の目的 北米の先住民の歴史と現代の生活の概要を知ることができる。

学習の到達目標

北米の先住民が直面している困難と、それに対する先住民のたくましい対応が理解できる。

メディアで語られることと「真実」とが必ずしも一致しないこと、また、メディアで語られた「嘘」がときに「真実」に組み替えられてしまう現状を地域に関係なく理解できる。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 専門知

識・技術, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 とくになし。

予め履修が望ましい科目 共通教育の〈教養文化人類学〉、〈アメリカの民族と文化A〉

発展科目 アメリカの民族と文化演習 (A～D)

教科書 とくになし。

成績評価方法と基準 期末のテストをおこなうか、レポート（授業時間内）を課す予定。出席はとらない。

オフィスアワー 木曜日の7限以後、および研究室に電気がついている時間。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回のオリエンテーションの後、第2回以後はだいたい以下の内容を概説していきます。

- ・北米における先住民族集団の分布
- ・先住民族集団の名称について
- ・先住民の歴史*
- ・伝統的な物質文化（何を食べて、何を着て、どこに住むのか）*

- ・伝統的なポトラッチ
 - ・現代のポトラッチ
 - ・戦略的本質主義
 - ・先住民の現代の日常生活*
 - ・先住民の現代の経済活動（どう現金を稼ぐのか）*
 - ・近代化、グローバリズムと先住民*
- *印のものは、2時間かかる予定。

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ思想演習A**

Seminar in American Philosophy A

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ思想演習A**

Seminar in American Philosophy A

学期 前期 **開講時間** 木 7,8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 薄井 尚樹 (人文学部)

授業の概要 現代哲学においてめざましい展開をみせた分野のひとつに「言語哲学」と呼ばれるものがあります。その名前が示すように、主題となるのは言語です。私たちがふだん当たり前のように使っている言語ですが、よくよく考えてみると、言語現象にはとてもミステリアスな側面があります。なぜただの記号や音声のつらなりが意味を持つのだろうか。そもそも「意味」とはなんだろうか。はじめて目にする文であっても、その意味をすぐに把握できるのはなぜだろうか...本講義では、この言語哲学に関わるテキストをみなさんと一緒に読んでいきます。

学習の目的 テキストの読解を通じて言語哲学の主要問題についての知識を獲得し、また質疑応答において相手と適切に議論できるようになる。

学習の到達目標

1.学術的なテキストを読解する能力を身につける。

2.質疑応答をこなすことで、批判に適切に応答する能力を養う。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 討論・対話力

受講要件 演習は受講する皆さんで作るものですから、授業への主体的な参加が求められます。考えたこと、疑問に思ったことは、積極的に発言していくようにしましょう。

予め履修が望ましい科目 予備知識は必要ありません。

教科書 第1回・第2回の授業で受講者のみなさんと相談したうえで決定します。

成績評価方法と基準 授業への貢献度50%、期末レポート50%

オフィスアワー

毎週水曜日 12:00~13:00
薄井研究室 (人文学部)

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回の授業では、授業の進めかたを説明したうえで、みなさんに担当してもらう順番を決めます。第2回の授業では、授業の見取り図として、言語哲学の主要トピックを簡単に説明します。第3回から第14回までは、担当者に課題テキストの内容について説明してもらい、みなさんに質疑応答をしてもらいます。第15

回では、レポートの課題について説明し、授業を通じた質問を受け付けます。

第1回：イントロダクション

第2回：授業の見取り図

第3回~第14回：言語哲学における諸問題

第15回：まとめ

※ただし受講者の関心や理解度に応じて内容を部分的に変更することがあります。

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ思想演習B**

Seminar in American Philosophy B

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ思想演習B**

Seminar in American Philosophy B

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 薄井 尚樹 (人文学部)

授業の概要 文章を適切に要約するスキル、相手の議論を批判的に検討するスキル、自身の考えを論理的に説明するスキル...これらはどれも、みなさんが社会に出たときにとても大事になるものです。本演習では、哲学という「ツール」を用いながら、これらのスキルの向上を目指します。あわせて論文を執筆するにあたっての約束事についても学びます。

学習の目的 自身の主張を論理的に説明し、質疑応答において相手と適切に議論できるようになる。

学習の到達目標

- 1.学術的なテキストを読解する能力を身につける。
- 2.質疑応答をこなすことで、批判に適切に応答する能力を養う。
- 3.自分の主張を論理的に説明する能力を身につける。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回の授業では、授業の進めかたを説明したうえで、みなさんに担当してもらう順番を決めます。第2回の授業では、授業の見取り図を説明します。第3回から第14回までは、担当者に課題テキストの内容について説明してもらい、みなさんに質疑応答をしてもらいます。第15回では、レポートの課題について説

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 演習は受講する皆さんで作るものですから、授業への主体的な参加が求められます。考えたこと、疑問に思ったことは、積極的に発言していくようにしましょう。

予め履修が望ましい科目 予備知識は必要ありません。

教科書 第1回・第2回の授業で受講者の皆さんと相談したうえで決定します。

成績評価方法と基準 授業への貢献度50%、期末レポート50%

オフィスアワー

毎週水曜日 12:00~13:00
薄井研究室 (人文学部)

明し、授業を通じた質問を受け付けます。

第1回：イントロダクション

第2回：授業の見取り図

第3回~第14回：担当者による発表

第15回：まとめ

※ただし受講者の関心や理解度に応じて内容を部分的に変更することがあります。

2012年度以降入学生用(文化)**アメリカ史演習A** American History Seminar A
2011年度以前入学生用(文化)**アメリカ史演習A** American History Seminar A

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次,4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 森脇由美子 (人文学部)

授業の概要 アメリカ史の研究方法を学ぶ。授業の中では、英語文献を使用する。

学習の目的 アメリカ史に関する英語文献を輪読し、研究の基本的な方法や思考法などを身につけていく。授業ではテキストで扱っている内容自体を学習すると同時に、英語文献を十分に読みこなす能力を獲得する。

学習の到達目標 援護文献を読んで内容を理解できる語学力を身につける。あまり家臣関する文献の読解を通して、アメリカの歴史的な歩みを知り、当時の人々の考え方や行動、文化や社会の多様性を知る。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目

アメリカ史演習B

アメリカ史演習E~H

教科書 授業中にプリントで配布する。

成績評価方法と基準 平常点およびレポート。

オフィスアワー 木曜日14:40~15:40

授業計画・学習の内容

学習内容

アメリカ史に関する英語文献を輪読し、研究の基本的な方法や思考法などを身につけていく。授業ではテキストで扱っている内容自体を学習すると同時に、英語文献を十分に読みこなす能力を身につけることも目的とする。毎回必ず十分に予習することが求められる。

この授業で使用するテキストは、Frederick M. Binder、David M.Reimers 編の We Loved: Essays and Document in American Social History, (Fifth Edition), Vol.1, 2 を用いる(適宜プリントで配布)。この本は、アメリカ社会史における主要なトピックスを取り上げた叙述と関係史

料から構成されている。歴史文書に触れながらアメリカ社会がたどってきた歴史を学ぶ。

なお、授業は基本的に輪読方式で行うが、テキストの内容と関連するテーマについて、受講者が報告およびディスカッションもおこなひ、アメリカ史への理解をさらに深める。具体的には、以下の通りに進める。

1. はじめに(テキストの紹介・学習方法の説明)

2~6 テキストの輪読

7 中間報告

7~14 テキストの輪読

15 最終報告とまとめ

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ史演習B** American History Seminar D 2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ史演習B** American History Seminar B

学期 後期 開講時間 火5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 森脇由美子 (人文学部)

授業の概要 アメリカ史の研究方法を学ぶ。授業の中では、英語文献を使用する。

学習の目的 アメリカ史に関する英語文献を輪読し、研究の基本的な方法や思考法などを身につけていく。授業ではテキストで扱っている内容自体を学習すると同時に、英語文献を十分に読みこなす能力を獲得する。

学習の到達目標 援護文献を読んで内容を理解できる語学力を身につける。あまり家臣に関する文献の読解を通して、アメリカの歴史的な歩みを知り、当時の人々の考え方や行動、文化や社会の多様性を知る。

授業計画・学習の内容

学習内容

アメリカ史に関する英語文献を輪読し、研究の基本的な方法や思考法などを身につけていく。授業ではテキストで扱っている内容自体を学習すると同時に、英語文献を十分に読みこなす能力を身につけることも目的とする。毎回必ず十分に予習することが求められる。

この授業で使用するテキストは、Frederick M. Binder、David M.Reimers 編の We Loved: Essays and Document in American Social History, (Fifth Edition), Vol.1, 2 を用いる(適宜プリントで配布)。この本は、アメリカ社会史における

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 アメリカ史演習E~H

教科書 授業中にプリントで配布する。

成績評価方法と基準 平常点による。

オフィスアワー 木曜日14:20~15:20

主要なトピックスを取り上げた叙述と関係史料から構成されている。歴史文書に触れながらアメリカ社会がたどってきた歴史を学ぶ。

なお、授業は基本的に輪読方式で行うが、テキストの内容と関連するテーマについて、受講者が報告およびディスカッションもおこない、アメリカ史への理解をさらに深める。具体的には、以下の通りに進める。

1. テキストの紹介・学習方法の説明
- 2~6 テキストの輪読
- 7 中間報告
- 7~14 テキストの輪読
- 15 最終報告とまとめ

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ史演習E** American History Seminar E
2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ史演習E** American History Seminar E

学期 前期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 森脇由美子 (人文学部)

授業の概要 アメリカ史研究の諸問題

討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 アメリカ史の研究における課題と方法を学び、論文作成の方法を習得する。

受講要件 特になし。

学習の到達目標 アメリカ史研究の基本的課題を学び、自らの問題関心から課題を発展させていく能力を養う。課題の発見をもとに自学する力、学んだことを整理して発表する力、さらにディスカッションを通して柔軟に思考する力を身につける。

発展科目

アメリカ史演習F

教科書 授業中に指示する。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力,

成績評価方法と基準 平常点およびレポート。

オフィスアワー 木曜日14:40~15:40

授業計画・学習の内容

学習内容

アメリカ史の諸問題に対する研究方法を、様々な課題を取り上げながら習得する。授業では受講生が自らの関心を抱くテーマに関連する素材を毎回交代で取り上げ、報告と討論を通して理解を深めていく。4年生については、卒業論文のテーマの設定や史料・文献収集、問題点の絞込みなど、卒業論文作成に向けて各自途中経過を数回報告してもらい、論文完成へとつなげていく。卒論執筆の学生は

必修のこと。

授業は以下のように進める。

- 1 授業方法についての説明
- 2~6 学生の報告
- 7 文献調査の方法について
- 8~12 学生の報告
- 13 卒業論文の作成方法について
- 14 まとめと今後の課題
- 15 まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ史演習F** American History Seminar F
2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ史演習F** American History Seminar F

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 森脇由美子 (人文学部)

授業の概要 アメリカ史研究の諸問題

討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 アメリカ史の研究における課題と方法を学び、論文作成の方法を習得する。

受講要件 特になし。

学習の到達目標 アメリカ史研究の基本的課題を学び、自らの問題関心から課題を発展させていく能力を養う。課題の発見をもとに自学する力、学んだことを整理して発表する力、さらにディスカッションを通して柔軟に思考する力を身につける。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 アメリカ史演習E

教科書 授業中に指示する。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力,

成績評価方法と基準 平常点およびレポート。

オフィスアワー 木曜日14:40~15:40

授業計画・学習の内容

学習内容

アメリカ史の諸問題に対する研究方法を、具体的な課題を取り上げながら習得する。授業では受講生が自らの関心を抱くテーマに関連する素材を毎回交代で取り上げ、報告と討論を通してアメリカ史研究への理解を深めていく。4年生については、卒業論文のテーマの設定や史料・文献収集、問題点の絞込みなど、卒業論文作成に向けて各自途中経過を数回報告してもらい、論文完成へとつなげていく。

アメリカ史で卒業論文を執筆する予定の学生は必ず履修すること。

授業階下のように進める。

1 授業方法の説明

2~6 学生の報告

7 論文執筆の方法について

8~12 学生の報告

13~14 アメリカ史研究の方法について

15 まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの文学 C**

American Literature C

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの文学 C**

American Literature C

学期 前期 **開講時間** 水3,4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 井上 稔浩 (人文学部)

授業の概要 Charlotte Perkins Gilmanの小説について研究する。

学習の目的 Charlotte Perkins Gilmanの短編小説の特長を知る。

学習の到達目標 Charlotte Perkins Gilmanの作品に関する批評論文等を参考にしながら彼女の短編小説を読解し、作品内容と作品が書かれた時代の特質との関連を理解することを目標とする。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書

初回講義時に指示する。
The Yellow Wall-Paper (1890)
Five Girls (1894)
One Way Out (1894)
If I were a Man (1914)
Girls and Land (1915)
その他

成績評価方法と基準 レポート60%、授業中課題発表40%

オフィスアワー 毎週木曜12:00~13:00

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 講義のオリエンテーション、Charlotte Perkins Gilman概説
第2回 各作品の精読と論考
第3回 各作品の精読と論考
第4回 各作品の精読と論考
第5回 各作品の精読と論考
第6回 各作品の精読と論考
第7回 各作品の精読と論考

第8回 各作品の精読と論考
第9回 各作品の精読と論考
第10回 各作品の精読と論考
第11回 各作品の精読と論考
第12回 各作品の精読と論考
第13回 各作品の精読と論考
第14回 各作品の精読と論考
第15回 各作品の精読と論考

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの文学 D**

American Literature d

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの文学 D**

American Literature D

学期 後期 **開講時間** 水3,4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 井上 稔浩 (人文学部)

授業の概要 Charlotte Perkins Gilmanの小説について研究する。

学習の目的 Charlotte Perkins Gilmanの小説の特長を知る。

学習の到達目標 Charlotte Perkins Gilmanの作品に関する批評論文等を参考にしながら彼女の短編小説を読解し、作品内容と作品が書かれた時代の特質との関連を理解することを目標とする。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書

初回講義時に指示する。
The Yellow Wall-Paper (1890)
Five Girls (1894)
One Way Out (1894)
If I were a Man (1914)
Girls and Land (1915)
その他

成績評価方法と基準 レポート60%、授業中課題発表40%

オフィスアワー 毎週木曜12:00~13:00

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 講義のオリエンテーション、Charlotte Perkins Gilman概説
第2回 各作品の精読と論考
第3回 各作品の精読と論考
第4回 各作品の精読と論考
第5回 各作品の精読と論考
第6回 各作品の精読と論考
第7回 各作品の精読と論考

第8回 各作品の精読と論考
第9回 各作品の精読と論考
第10回 各作品の精読と論考
第11回 各作品の精読と論考
第12回 各作品の精読と論考
第13回 各作品の精読と論考
第14回 各作品の精読と論考
第15回 各作品の精読と論考

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ社会演習A Seminar on American Society A** 2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ社会演習A Seminar on American Society A**

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 江成 幸 (人文学部文化学科)

授業の概要 北米社会に関するテーマを社会階層、人種・エスニシティ、ジェンダーなど社会的な切り口から分析する。

学習の目的

アメリカ研究を中心とする卒業論文の準備を進める。

学生が卒業論文の研究テーマについて発表し、授業での質疑を通じて構成力、分析力を身につけることを目指す。

研究テーマに関する社会学分野の論文および時事英語に親しむ。

学習の到達目標

アメリカ社会に関する日本語文献の講読、レジュメの作成、報告のしかたなどを身につける。

卒業論文のテーマや内容について情報収集し、分析する力をつける。

授業計画・学習の内容

学習内容

学期を通じて、アメリカ社会に関する文献購読を行う。日本語および時事英語のテキストを用い、北米諸国の社会構造を理解する。

これと平行して、学生が卒論テーマに関わるレジュメ作成および中間報告を行い、全員で討論する。

アメリカ研究に役立つ英語知識を確認できる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

予め履修が望ましい科目 アメリカ研究の選択必修科目

発展科目 アメリカ社会演習B, C, D

教科書 開講時に指示する。

成績評価方法と基準 出席、研究報告、議論への参加、期末レポートにより、総合的に行う。

オフィスアワー 木曜日7～8限。

〔第1回〕 授業の進め方とテキスト紹介

〔第2～4回〕 テキストの講読

〔第5～10回〕 テキスト講読、4年生の中間報告、討論

〔第11回～15回〕 テキスト講読、3年生の中間報告、討論

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ社会演習B**

Seminar on American Society B
Seminar on American Society B

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ社会演習B**

学期 後期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 江成 幸 (人文学部文化学科)

授業の概要 北米社会に関するテーマを社会階層、人種・エスニシティ、ジェンダーなど社会的な切り口から分析する。

学習の目的 学生が卒業論文の研究テーマについて発表し、授業での質疑を通じて構成力、分析力を身につけることを目指す。

学習の到達目標

アメリカ社会に関する文献の講読、レジュメの作成、報告のしかたなどを身につける。また、卒業論文のテーマについて情報収集し、分析する力をつける。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体

授業計画・学習の内容

学習内容

学期を通じて、日本語文献ないし英語を和訳し、北米諸国の社会構造を理解する。これと平行して、学生が卒論テーマに関わるレジュメ作成および中間報告を行い、全員で

的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力

予め履修が望ましい科目

アメリカ研究の地域必修科目
アメリカ社会演習A

発展科目 アメリカ社会演習C, D

教科書 開講時に指示する。

成績評価方法と基準 出席、研究報告、議論への参加、期末レポートにより、総合的に行う。

オフィスアワー 木曜日7~8限。

討論する。

〔第1~2回〕 授業の進め方、テキスト講読

〔第3~14回〕 テキスト講読、卒論の中間報告、討論

〔第15回〕 4年生の卒論要旨報告

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ地誌演習C**

Seminar of American Geography C

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ地誌演習C**

Seminar of American Geography C

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 PBL, Moodle

担当教員 中川 正

授業の概要 アメリカの現代的課題に関するトピックを取り上げ、PBL形式で、政治、経済、社会、宗教などの基礎知識を学習するとともに、自ら卒論のための研究課題を設定し、研究する素養を身につける。

学習の目的 学生は、自らのアメリカ地域に関する関心を、社会科学的手法を用いてオリジナルな研究にするきっかけをつかむことができる。

学習の到達目標

この授業を履修することにより、学生は以下のことができるようになる。

- ①アメリカの現代的課題を通して、アメリカ社会の仕組みを自ら学習することができる。
- ②政治、経済、社会、宗教など、アメリカの基本的な知識を獲得することができる。
- ③グループで課題を設定し、解決することができる。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回～3回 課題の発見

第4回～5回 課題のためのデータ収集

本学教育目標との関連 主体的学習力, 課題探求力, 討論・対話力

受講要件 前後期 (アメリカ地誌演習AとB) をセットで履修することがのぞましい。

予め履修が望ましい科目 アメリカの風土と地誌、文化環境論

発展科目 文化環境論

教科書 『大学生のためのレポート作成ハンドブック』三重大学共通教育センター

成績評価方法と基準 毎回のムードル投稿 40点 グループ発表成果 30点 各自の学習課題評価 30点

オフィスアワー 金16:30～17:30

その他 小グループのグループワークをすることで、無断欠席や遅刻はしないように。

第6回～10回 課題のための分析

第11回～13回 批判的検討とレポート作成

第14回～15回 課題のプレゼンテーションとリフレクション

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ地誌演習D**

Seminar of American Geography D

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ地誌演習D**

Seminar of American Geography D

学期 後期 **開講時間** 金 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 中川 正

授業の概要 各自卒業論文につながるテーマを発見し、途中経過を報告しながら、卒業論文の基礎調査を行う。

学習の目的 学生は、自らのアメリカ地域に関する関心を、社会科学的手法を用いてオリジナルな研究にするきっかけをつかむことができる。

学習の到達目標

卒業論文につながる課題を発見することができる。

課題に基づいたデータを収集することができるようになる。

データに基づいて説明や解釈をすることができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力

受講要件 前後期 (アメリカ地誌演習CとD) をセットで履修することが望ましい。

予め履修が望ましい科目 アメリカの風土と地誌、文化環境論

発展科目 文化環境論

教科書 特になし。必要な資料を授業内で配付する。

成績評価方法と基準 小課題30%、研究過程のディスカッション40%、最終レポート30%

オフィスアワー 金曜16:30~17:30

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 卒業論文の作成法

第2回 問題の発見とデータ収集法

第3回~第14回 学生による発表とディスカッション

第15回 卒業論文構想発表と振り返り

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの民族と文化演習A**

Seminar of Americas' peoples and cultures A

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの民族と文化演習A**

Seminar of Americas' peoples and cultures A

学期 前期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **履修の方法** 演習

担当教員 立川 陽仁 (人文学部)

授業の概要 何かしらアメリカ(南北アメリカ)に関係するトピックを選び、文献調査をもとに発表をおこなう。原則各人が期間中に1回発表をおこない、他の学生の発表時には質問やコメントをだす。

学習の目的 ・よりいっそう深いアメリカの社会的な事情をケーススタディから理解できる。

学習の到達目標

- ・ケーススタディによる特定テーマの探求が可能になる。
- ・発表およびディスカッション能力がつく。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力,

授業計画・学習の内容

学習内容

南北アメリカの民族の現在の文化現象に関する指定文献の内容を発表してもらう。内容の理解、および後期のプレゼンに向けてのスキル向上がおもな目的。文献はゼミの最初の時間に紹介。

専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 アメリカの民族と文化、アメリカの歴史、アメリカの社会など。

成績評価方法と基準 受講者数によって回数は変わるかもしれないが、基本的に半期1回のプレゼンテーションで評価。

オフィスアワー 木曜7限以後、あるいは研究室に電気がついている時間。

教員として私はほとんど口を挟まないつもりなので、受講者諸君による活発な議論を求める。

第1回：オリエンテーションと発表日程きめ

第2～15回：各自の発表

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカの民族と文化演習B**
Seminar of Americas' peoples and cultures B
2011年度以前入学生用(文化) **アメリカの民族と文化演習B**
Seminar of Americas' peoples and cultures B

学期 後期 開講時間 火 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 履修の方法 演習
担当教員 立川 陽仁 (人文学部文化学科)

授業の概要 アメリカに関することについて自分自身で調べ、また発表すること。原則半期に1回。

学習の目的 アメリカに関する社会的な現象に関してケーススタディを通して深い理解に達する。

学習の到達目標

- ・アメリカの民族、文化に関連するなにかしらのテーマに関する深い理解に達する。
- ・またプレゼンをする能力、ディベートをする能力を開発する。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発

信力, 社会人としての態度, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 「アメリカの民族と文化」の講義はもちろん、アメリカの歴史、アメリカの社会など。

成績評価方法と基準 半期1回の発表、および発表担当でない日には、発表者に対する質問かコメントをすること。

オフィスアワー 研究室に電気がついている時間。とくに木曜午後。

その他 アメリカに関連していれば、テーマは自由なので、できるだけ好きなことを発表テーマに選んでほしい。

授業計画・学習の内容

学習内容

履修者に発表の順番をわりあて、毎回1人に発表をしてもらう。
発表の担当者以外は、発表後に発表者に対し

て質問かコメントをしてもらう。

- 第1回：オリエンテーションと発表者の日程きめ
- 第2～15回：各自の発表

2012年度以降入学生用(文化)**言語科学演習 I**

Language Science Seminar I

2011年度以前入学生用(文化)**言語科学演習 I**

Language Science Seminar I

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 澤田 治

授業の概要

本演習では、命題内容には関わらない意味(non-at-issue meanings)の意味解釈メカニズムについて考察する。具体的には、感情表出表現(e.g. bastard)、評価副詞(e.g. unfortunately)、談話標識(discourse particles)の意味・機能に焦点を当て、(i)それらの意味はどのように理論的に分析することができるのか、(ii)それらはどのような統語環境・コンテクストで使われうるのか、(iii)命題内容に関わらない意味の談話レベルでの役割とは何かといった問題を統語論、意味論、語用論、および言語哲学の観点から考察する。

学習の目的 様々な言語現象について詳しく観察し、意味解釈に関する原理や法則性・体系性を理解する。

学習の到達目標 身近な言語現象を言語理論

を使って分析できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 言語学、英語学関係の科目を履修しておくことが望ましい。

教科書 教科書は使用しません。

成績評価方法と基準

授業参加、発表、課題：60%

期末レポート:40%

オフィスアワー オフィスアワーの時間帯に關しては、最初の授業で決める。

授業計画・学習の内容

学習内容

Week 1-2: Introduction: non-at-issue meanings and discourse structure
Week 3-5: Expressives
Week 6-8: Evaluative adverbs

Week 9-11: Presupposition and conventional implicature

Week 12-14: The role of non-at-issue content in discourse context

Week 15: Presentations

2012年度以降入学生用(文化) **言語科学演習 J**

Language Science Seminar J

2011年度以前入学生用(文化) **言語科学演習 J**

Language Sceicne Seminar J

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 澤田 治

授業の概要

本演習では、モダリティの意味について考察する。具体的には、証拠性(evidentiality)、可能性(possibility)、感嘆性(exclamativity)等が関わったモダリティ表現に焦点を当て、我々は現実世界・心的世界をどのように言語化しているのか、モダリティの意味の多様性はどのように捉えることができるのか、モダリティの程度性に関する意味はどのように分析することができるのか、モダリティの談話構造における役割とは何か、といった問題について、統語論、意味論、語用論、および言語哲学の観点から考察する。

学習の目的 様々な言語現象を基に、言葉の意味解釈に関する原理や法則性・体系性を理解する。

授業計画・学習の内容

学習内容

Week 1: Introduction
Week 2-Week 4: Evidentiality
Week 5-Week 7: Epistemic modality
Week 8-Week 10: Modal particles

学習の到達目標 身近な言語現象を言語理論を用いて分析できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 言語学関係の科目を履修しておくことが望ましい。

教科書 教科書は使用しません。

成績評価方法と基準 授業参加・発表60%、レポート40%

オフィスアワー オフィスアワーの時間帯に關しては最初の授業で決めます。

Week 11-Week 12: Exclamativity
Week 13-Week 14: Modality and information update
Week 15: Presentations

2012年度以降入学生用(文化) **美術理論・美術史演習C**

Seminar C in Art History

2011年度以前入学生用(文化) **美術理論・美術史演習C**

Seminar C in Art History

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤田伸也

授業の概要

ケネス・クラーク著『絵画の見かた』を精読し、名品を通して西洋絵画について考察する。

美術史の入門編として初学者を対象とし、美術史研究の手法を学ぶ。

学習の目的

美術を通して西洋文化の基礎知識を得る。

歴史・文学・思想と絵画との関わりを理解するようになる。

美術史の研究方法を学び、美術作品を理解し鑑賞する態度を身につける。

学習の到達目標

西洋の伝統的絵画の主題を理解し、正確な知識を得る。

社会・文化における絵画および美術の価値について説明できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人とし

授業計画・学習の内容

学習内容

テキストは「選ばれた名作16点について、その作品の与えてくれる感覚的な喜び、作品を生み出した画家の精神、さらには作品の歴史的な意義などを縦横に説き明かした、絵画鑑賞法の手引書」と出版社HPで紹介されている。内容は豊富で、十分に理解するためには予習復習が必須である。

〔授業計画〕

第1回 授業の概要、美術史研究入門

第2回 ケネス・クラークとその業績（著作とTV番組）

第3回 テキスト講読 (1) ティツィアーノ『キリストの埋葬』

第4回 テキスト講読 (2) 同

第5回 テキスト講読 (3) ベラスケス『宮廷の

ての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

土・日・休日に日帰りで行う見学に参加可能なこと。

その際の交通費・入館料等は各自の負担となる。学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

予め履修が望ましい科目 美術理論A・B、美術史A～D

発展科目 後期開講の美術理論・美術史演習D

教科書 『絵画の見かた』（白水Uブックス、新書）ケネス・クラーク著／高階秀爾訳、白水社、2003年、998円

成績評価方法と基準 発表および関心・積極性70%、レポート30%。

オフィスアワー 毎週月曜日12:00～14:30、火曜日10:30～12:30／藤田研究室（共通教育2号館2階）

侍女たち』

第6回 テキスト講読 (4) 同

第7回 テキスト講読 (5) ファン・デル・ウェイデン『十字架降下』

第8回 テキスト講読 (6) 同

第9回 テキスト講読 (7) ドラクローワ『十字軍のコンスタンティノープル入城』

第10回 テキスト講読 (8) 同

第11回 テキスト講読 (9) ラファエロ『漁獲の奇跡』

第12回 テキスト講読 (10) 同

第13回 テキスト講読 (11) ヴァトー『ジェルサンの看板』

第14回 テキスト講読 (12) 同 【レポート提出】

第15回 西洋の美術館／レポート返却とまとめ

2012年度以降入学生用(文化) **美術理論・美術史演習D**

Seminar D in Art History

2011年度以前入学生用(文化) **美術理論・美術史演習D**

Seminar D in Art History

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤田伸也

授業の概要

日本・東洋絵画の伝統的画題について考察する。

画題とは絵画のテーマであり、代表的な画題である「寒山拾得」「瀟湘八景」「四君子」などを取り上げ、その由来や作例を探っていく。

美術史の入門編として初学者を対象とし、大阪・京都・奈良など近隣に所在する美術館博物館や寺社等の見学も行う。

学習の目的

美術を通して日本・東洋の伝統文化の基礎知識を得る。

文学・思想と絵画との関わりを理解するようになる。

美術史の研究方法を学び、美術作品を理解し鑑賞する態度を身につける。

学習の到達目標

日本・東洋の伝統的絵画の画題を体系的に理解し、正確な知識を得る。

日本文化における絵画の重要性について説明できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

土・日・休日に日帰りで行う見学に参加可能なこと。

その際の交通費・入館料等は各自の負担となる。また学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

予め履修が望ましい科目

前期開講の美術理論・美術史演習A

美術理論A・B、美術史A～D

教科書 適宜資料を配布する。

成績評価方法と基準 発表および関心・積極性70%、レポート30%。

オフィスアワー 毎週月曜日12:00～14:30、火曜日10:30～12:30／藤田研究室（共通教育2号館2階）

授業計画・学習の内容

学習内容

画題から日本・東洋の絵画を理解していく。

まず画題とは何かを学び、次いで主要な画題について基礎知識を得た上で、受講者は画題を選び順次発表する。

見学日および対象は受講者の人数や興味を考慮して決める。

[授業計画]

第1回 授業の概要、画題とは何か

第2回 人物画の画題「伯夷叔齊」を例に

第3回 花鳥画の画題 吉祥図について

第4回 山水画の画題「瀟湘八景」を例に

第5回 学生発表 (1)

第6回 学生発表 (2)

第7回 学生発表 (3)

第8回 学生発表 (4)

第9回 学生発表 (5)

第10回 学生発表 (6)

第11回 学生発表 (7)

第12回 学生発表 (8)

第13回 学生発表 (9)

第14回 学生発表 (10)

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **美術理論・美術史演習G**

Seminar G in Art History

2011年度以前入学生用(文化) **美術理論・美術史演習G**

Seminar G in Art History

学期 前期 **開講時間** 金 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤田伸也

授業の概要

美術史を専攻し卒論を書く3・4年生のための演習である。

卒論を書くために必要な知識と技術を学習する。受講生は各自の興味に応じてテーマや作品を選び、順次発表する。

学習の目的

美術史専攻で卒論を書く基本的能力を習得する。

テーマの設定、資料検索、文献調査、作文技術、写真撮影など、卒業論文作成のために必要な能力を得る。

学習の到達目標

美術史研究の方法と専門的知識を得る。

研究テーマの設定、資料検索、文献調査、作文技術、写真撮影など、論文作成のために必要な能力と知識を自分のものとする。

本学教育目標との関連 感性、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論

授業計画・学習の内容

学習内容

美術史を専門として卒論を書くために必要な技術、すなわち文章表現法、論文の書き方、デジタルカメラによる図版の複写方法、パソコンの実践的使用法などを学ぶ。

卒論を念頭に置いて各自が選んだテーマを、演習A～Dより専門的かつ総合的に調査研究し発表する。

また美術館の展覧会や古社寺の見学を適宜行う。

2泊3日程度の見学旅行も実施し、美術作品を

理的思考力、課題探求力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 美術史で卒論を書く学生。

予め履修が望ましい科目 美術史、美術理論、美術理論・美術史演習A・B

発展科目 美術理論・美術史演習H

教科書 適宜資料を配付する。

成績評価方法と基準 発表と積極性70%、レポート30%。

オフィスアワー 毎週月曜日12:00～14:30、火曜日10:30～12:30／藤田研究室（共通教育2号館2階）

その他 見学の際の交通費・入館料等は各自の負担となる。学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

実際に見ることの重要性について理解を深める。

[授業計画]

第1回 授業の概要

第2～4回 デジカメ、スキャナ、PCの使い方とプレゼンテーション

第5～6回 文章表現入門としゃべり方

第7～8回 論文の書き方

第9～14回 学生発表

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **美術理論・美術史演習H**

Seminar H in Art History

2011年度以前入学生用(文化) **美術理論・美術史演習H**

Seminar H in Art History

学期 後期 **開講時間** 金 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤田伸也

授業の概要

美術史を専攻し卒論を書く3・4年生のための演習である。

卒論を書くために必要な知識と技術を学習する。受講生は各自の興味に応じてテーマや作品を選び、順次発表する。

学習の目的

美術史専攻で卒論を書く基本的能力を習得する。

テーマの設定、資料検索、文献調査、作文技術、写真撮影など、卒業論文作成のために必要な能力を得る。

学習の到達目標

美術史研究の方法と専門的知識を得る。

研究テーマの設定、資料検索、文献調査、作文技術、写真撮影など、論文作成のために必要な能力と知識を自分のものとする。

本学教育目標との関連 感性、モチベーション、

主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 美術史で卒論を書く学生。

予め履修が望ましい科目 美術史、美術理論、美術理論・美術史演習

教科書 適宜資料を配付する。

成績評価方法と基準 発表と積極性70%、レポート30%

オフィスアワー 毎週月曜日12:00～14:30、火曜日10:30～12:30／藤田研究室（共通教育2号館2階）

その他 見学の際の交通費・入館料等は各自の負担となる。また学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

授業計画・学習の内容

学習内容

前期の演習Gに引き続いて、美術史を専門として卒論を書くために必要な技術、すなわち文章表現法、論文の書き方、デジタルカメラによる図版の複写方法、パソコンの実践的使用法などを学ぶ。

卒論を念頭に置いて各自が選んだテーマを、演習A～Dより専門的かつ総合的に調査研究し発表する。

また美術館の展覧会や古社寺の見学を適宜行い、美術作品を実際に見ることの重要性につ

いて理解を深める。

[授業計画]

第1回 授業の概要

第2～3回 デジカメ、スキャナ、PCの使い方（発展）

第4回 プレゼンテーション・しゃべり方（発展）

第5～6回 文章表現・論文の書き方（発展）

第7～14回 学生発表

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **学術情報論演習C** Scholarly Information Seminar C

2011年度以前入学生用(文化) **学術情報論演習C** Scholarly Information Seminar C
学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 講義, 演習
授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle
担当教員 三根 慎二(人文学部)

授業の概要 図書館および図書館を取り巻くさまざまな環境について、関連文献の調査と収集、文献の読み方、まとめ方の指導を通じて、理解を深める。

学習の目的

図書館・情報学に関連するテーマについて

- 1) 自ら調査テーマを決定
- 2) それについての網羅的な文献探索および文献の批判的な読み
- 3) 調査の計画・実施・分析
- 4) 論理的な文章の執筆
- 5) プレゼンテーション能力を修得できるようにする

学習の到達目標 図書館・情報学に関連する課題の発見から検討、まとめという一連の過程を通して、図書館・情報学研究の方法・アプローチを学ぶ。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門

知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 後期科目：学術情報論演習Dと併せて受講可能なもののみが受講すること。

教科書 授業で指示する

成績評価方法と基準 出席を前提として、授業への取り組み、発表、レポートなどにより、総合的に評価する

オフィスアワー 第1回目の授業で指示する

その他

本授業は、図書館情報学ゼミに所属している学生を対象として実施します。

第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、必ず出席すること。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 オリエンテーション

第2-15回

・各回で担当者を決め、事前に指定した文献の報告を行う。

・報告の内容について、皆で議論を行い、その文献で扱っているテーマ、問題点、課題等を検討する。

・関連文献の調査・収集を行い、話題の発展を図る。

2012年度以降入学生用(文化) **学術情報論演習D**

Scholarly Information Seminar D

2011年度以前入学生用(文化) **学術情報論演習D**

Scholarly Information Seminar D

学期 後期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 三根 慎二(人文学部)

授業の概要 図書館・情報学に関連するテーマについて、前期の授業内容を継続するかたちで設定した調査テーマについて、調査と収集、分析の方法、まとめ方（発表およびレポート）の指導を通じて、理解を深めるとともに、研究・調査法を理解する。

学習の目的

図書館・情報学に関連するテーマについて

- 1) 自ら調査テーマを決定
- 2) それについての網羅的な文献探索および文献の批判的な読み
- 3) 調査の計画・実施・分析
- 4) 論理的な文章の執筆
- 5) プレゼンテーション能力を修得できるようにする

学習の到達目標

図書館・情報学に関連する課題の発見から検討、まとめという一連の過程をとおして、図書館情報学研究の方法を学ぶ。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モ

チバージョン, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 前期科目：学術情報論演習Aと併せて受講すること。図書館・情報学研究室の所属学生であることを前提として授業を行います。

教科書 授業で指示する

成績評価方法と基準 出席を前提として、授業への取り組み、発表、レポートなどにより、総合的に評価する

オフィスアワー 第1回目の授業で指示する

その他 第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、履修を希望する者は、必ず出席すること。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 オリエンテーション

第2-15回

・グループごとにテーマを設定し、文献調査をはじめ、情報の収集、分析等を行い、報告する。

・報告の内容について、皆で議論を行い、問題点、課題等を検討する。

・教員の指導のもと、関連文献、情報の調査・収集を行い、話題の発展を図る。

・改めて報告を行うとともに、ゼミ論文集にまとめる。

2012年度以降入学生用(文化)**現代社会論A**
2011年度以前入学生用(文化)**現代社会論A**

Current Issues in Sociology A
Current Issues in Sociology A

学期 前期 **開講時間** 火3,4 **単位** 2 **対象** 法律経済学科の学生も履修できる **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 江成 幸 (人文学部文化学科)

授業の概要

社会学の最近の動向を紹介し、注目されている概念やテーマについて概説する。
社会学質的・量的データを扱う際の研究方法について解説する。

学習の目的 社会学理論、社会学の方法論、現代的なテーマを扱う社会学の分野について知識を得る。

学習の到達目標 現代社会における諸問題を社会的に理解、分析することを通して、問題解決に向けた思考力を養う。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1-2回 社会学と現代社会
第3-4回 近代化と個人
第5-6回 帰属意識と社会集団
第7-8回 価値観の多様化

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 現代社会論B

成績評価方法と基準 期末レポート70%、授業中のコメントカード等を通じた理解度・関心の深まり30%、計100%。

オフィスアワー 木曜日7~8限。江成研究室。

その他 2014年度入学生より、2年次から履修できます。

第9-11回 社会集団と国家の関係
第12-13回 グローバル化による社会の変化
第14-15回 マイノリティと社会運動
第16回 期末レポート

2012年度以降入学生用(文化)生涯学習概論

2011年度以前入学生用(文化)生涯学習概論

学期 後期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 畔柳 和枝(非常勤講師)

授業の概要 生涯学習の基礎知識(生涯学習の理念、家庭・学校・社会教育との関連、学習施設と専門職員の役割、行政・民間による学習支援等)を理解した上で、国内外の実践事例や現代的課題を学びながら、学習を通じた個人の生き方や社会との関わり方について理解を深める。

学習の目的 自分の生き方、地域社会の問題、国際化の中での交流等に問題意識を広げながら自己の学習目的や意義を明確にし、個性や能力を生かしながら人生を送るための学びを理解する。

学習の到達目標

生涯学習の概要、公教育としての学習権を保障する生涯学習のための学びの内容や方法、社会システムについての理解を深めながら、生涯にわたる学習を自ら実践していくための力量形成を図ることを目標とする。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.はじめに一学びとは何か: 社会教育を中心とした学びの意味や意義について考える
- 2.生涯学習とは何か: 生涯学習の概念と歴史的背景について学ぶ
- 3.3つの生涯教育論: 生涯学習の理念となった生涯教育論について学ぶ
- 4.生涯学習と学校教育: 社会教育と関連させながら生涯学習における学校教育の役割について学ぶ
- 5.生涯学習の現状 ①日本: 国内外の生涯学習活動の現状を通して、生涯学習振興の施策と推進と社会教育行政の意義や役割について学ぶ
- 6.生涯学習の現状 ②アメリカ:
- 7.生涯学習の現状 ③韓国:
- 8.生涯学習の現状 ④南米:

本学教育目標との関連 感性、共感、主体的学習力、幅広い教養、課題探求力、批判的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 2年生以上

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 毎回配布するプリントをテキストとして使用する。

成績評価方法と基準 テストと授業内課題により評価する。

オフィスアワー 授業前後の時間に対応する。

その他 新聞をじっくり読む習慣を身につけ、社会的関心を持つように心がけてほしい。また社会教育施設の見学、実践への参加を強く推奨する。

- 9.生涯学習施設を利用した学び ①図書館: 情報からの学習ー図書館の生涯学習支援と図書館司書の役割について学ぶ
- 10.生涯学習施設を利用した学び ②博物館: ものからの学習ー博物館の生涯学習支援と学芸員の役割について学ぶ
- 11.私と生涯学習: 自己の人生と生涯学習との関わりについて意識を深める
- 12.生涯学習の現代的意義①: 人権問題と生涯学習について考える
- 13.生涯学習の現代的意義②: 多文化社会における生涯学習の役割について考える
- 14.生涯学習の現代的意義③: 人間形成と生涯学習について考える
- 15.まとめー生涯学習の展望と課題: 生涯学習の展望と今後の課題について考える

2012年度以降入学生用(文化) **図書館・情報学概論A**

Introduction to Library and Information Science A

2011年度以前入学生用(文化) **図書館情報学概論A**

Introduction to Library and Information Science A

学期 前期 **開講時間** 火, 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 三根 慎二 (人文学部)

授業の概要 現代社会における図書館の意義とその役割を確認し、高度情報化社会における生涯学習の視点から、さまざまな課題等について考究する。

学習の目的 実際に社会において機能している各種の図書館に係わる諸事象を、多角的・原理的に考察することを通じて、実学としての図書館・情報学の基礎を学ぶ。

学習の到達目標 総合的な視点から、図書館の役割と機能について検討し、高度情報化社会といわれる現代の生涯学習社会において、図書館の持つ意義・目的・使命について概括的な理解を深める。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 大学図書館以外に、公共図書館等その他の図書館での多角的な利用体験を有すること。

授業計画・学習の内容

学習内容 扱うトピックは、1) オリエンテーション①, 2) 図書館の社会的意義②~⑥, 3) 図書館の歴史⑦~⑧, 4) 図書館に関する法律と行政⑨, 5) 館種別図書館と利用者二

予め履修が望ましい科目 生涯学習概論

発展科目 図書館制度・経営論

教科書 上田修一, 倉田敬子編著. 図書館情報学. 勁草書房. 2013.

成績評価方法と基準 講義内容に対するコメント・質問, 授業内小レポート, 期末試験により、総合的に評価する。

オフィスアワー 特に決まった時間は設けていないが、希望する場合は随時対応するので、事前連絡をすること。

その他

この科目は、司書科目全体の導入となる科目であるため、できる限り2年生のうちに履修することが望ましい。

第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、履修を希望する者は、必ず出席すること。

講義で使用したスライドや講義関連の連絡は全てMoodleで行うで、受講生はオリエンテーションでの配布資料に基づいて必ず登録を行うこと。

ズ⑩~⑫, 6) 図書館職員の役割と資格⑬, 7) 図書館学、図書館・情報学⑭, 8) まとめ⑮です。各トピックを複数回にわたって行います。詳細は、Moodleを確認してください。

2012年度以降入学生用(文化)**図書館・情報学概論B**
Introduction to Library and Information Science B
2011年度以前入学生用(文化)**図書館情報学概論B**
Introduction to Library and Information Science B

学期 後期 開講時間 火 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 Moodle

担当教員 三根 慎二 (人文学部)

授業の概要 図書館が扱う情報メディアの種類と特性に始まり、それらがどのように社会において出版され流通しているのか、さらに図書館における蔵書構築と資料選択の概念やプロセスについて概説する。特に、近年進展の著しい電子化の影響を大きく受けている大学図書館における図書館資料の特性や蔵書構築について説明する。

学習の目的 図書館が扱う代表的な情報メディアの特性、それらの情報メディアの図書館内での扱われ方および社会における生産と流通について知り、理解することができるようになることを目的とする

学習の到達目標 図書館は利用者に情報を提供するサービス機関であるが、そこで扱う図書館資料は、図書館サービスの核となる重要な要素の1つである。本授業では、図書館資料について、その1)種類と特徴、2)生産と流通、3)図書館における資料選択・収集、コレクション構築、提供、保存にいたるまでを総合的に学習する。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門

知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 図書館・情報学概論A

教科書 上田修一、倉田敬子編著.図書館情報学.勁草書房.2013.

成績評価方法と基準 ①講義内容に対する質問・コメント (10%)、②授業中に課す課題 (30%)、③期末試験 (60%) で評価します

オフィスアワー 第1回目の授業で指示する。

その他

第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、履修を希望する者は、必ず出席すること。講義で使用したスライドや講義関連の連絡は全てMoodleで行うで、受講生はオリエンテーションでの配布資料に基づいて必ず登録を行うこと。

授業計画・学習の内容

学習内容

ガイダンス

I.

図書

電子書籍

雑誌一般・新聞

学術雑誌・電子ジャーナル

その他のメディア

II.

出版流通制度 (流通経路)

出版流通制度 (再販制・委託販売制)

III.

図書館の資料収集と受入れ

図書館の選書理論

公共図書館における選書と蔵書構築

大学図書館における選書と蔵書構築

分担収集・分担保存

図書館の自由

まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **日本語と日本社会A**

Japanese Language and Society A

2011年度以前入学生用(文化) **日本語と日本社会A**

Japanese Language and Society A

学期 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤本久司(人文学部文化学科)

授業の概要 日本の社会システム、文化背景、日本人の思考や行動様式、ルールや習慣などの理解を深めるための教材を選んで読み、討論し、考えを書き、発表する。

学習の目的 日本語が母語でない留学生が、授業を受け、大学生として十分な知識を得、意思や意見を伝達するため、必要にして十分な日本語理解力と日本語での伝達能力を高める。

学習の到達目標 日本語や日本社会についての知識を増やし認識を深め、日本語運用能力を高める。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、批判的思考力、

情報受発信力、討論・対話力、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

留学生を対象とする。

「日本語コミュニケーションA」との同時受講はできない。

教科書

[テキスト] なし

[参考書] 授業で適時コピーを配布する。

成績評価方法と基準 授業態度20%、授業での課題・発表内容80%、計100%（合計が60%以上で合格）

オフィスアワー 基本的に授業時間以外、訪問、質問等は自由とする。

授業計画・学習の内容

学習内容 1~15回 日本の言語、社会、文化、習慣などに関する記事、解説、レポートなど

を読み、討論、作文、発表等を行う。

2012年度以降入学生用(文化) **日本語と日本社会B**

Japanese Language and Society B

2011年度以前入学生用(文化) **日本語と日本社会B**

Japanese Language and Society B

学期 後期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤本久司(人文学部文化学科)

授業の概要 日本の社会システム、文化背景、日本人の思考や行動様式、ルールや習慣などの理解を深めるための教材を選んで読み、討論し、考えを書き、発表する。

学習の目的 日本語が母語でない留学生が、学部授業に必要な日本語理解力、日本語での意思伝達能力を高めるため、日本語力の能力向上を図る。

学習の到達目標 日本語や日本社会についての知識を増やし認識を深め、日本語運用能力を高める。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、実践外国語力、感

じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

留学生を対象とする。

「日本語コミュニケーションB」との同時受講はできない。

教科書

[テキスト] なし

[参考書] 授業で適時コピーを配布する。

成績評価方法と基準 授業態度20%、授業での課題・発表内容80%、計100%（合計が60%以上で合格）

オフィスアワー 基本的に授業時間以外、訪問、質問等は自由とする。

授業計画・学習の内容

学習内容 1~15回 記事、解説、レポートなど使われている様々な表現から、現代日本語

と社会背景を考え、討論、作文、発表等を行う。

2012年度以降入学生用(文化) **日本語コミュニケーションA**

Japanese Communication A

2011年度以前入学生用(文化) **日本語コミュニケーションA Japanese Communication A**

学期 前期 開講時間金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 藤本久司 (人文学部文化学科)

授業の概要 毎回のテーマにそった講義の後、練習問題等の応答がある。また、授業時間中に課題文の作成や小テストを行う。

学習の目的 日本語表現と背景の文化から、日本語上級レベルの留学生、及びネイティブである日本人学生双方が、日本語の再発見、再認識を進める。

学習の到達目標 留学生、日本人学生双方が日本語表現について学び、日本語運用能力を高めるとともに、背景の日本社会と文化への認識を高めることができる。また、異文化の視点からも日本語表現への造詣を深めることができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、課題探求力、情報受発信力、討論・対話力、社会人とし

での態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

留学生以外も受講対象。

「日本語と日本社会A」との同時受講はできない。

教科書

[テキスト] なし

[参考書] 授業で適時コピーを配布する。

成績評価方法と基準

授業態度1: 授業での課題作品(数回分)2の割合で評価、計100%(合計60%以上で合格)なお、課題作品にはレポートを含む場合もある。

オフィスアワー 基本的に授業時間以外、訪問等は自由とする。

授業計画・学習の内容

学習内容

テキスト、新聞、雑誌など、様々な種類の文章を教材にして、日本語表現とその背景にある文化を考える。また、ジャンル別に多様なタイプの文章を書き分けることで表現力のレベルアップを目指す。

1~15回

- ・現在仮名遣いと表記のルール
- ・日本の表現

- ・言語表現の基本的な心構え
- ・言語行動と非言語行動
- ・最適な用語、漢字の書き分け
- ・句読点、首尾一貫した文章
- ・文章の書き分け
- ・事実を書く
- ・考えを書く
- ・気持ちを書く
- ・用件を書く

2012年度以降入学生用(文化) **日本語コミュニケーションB**

Japanese Communication B

2011年度以前入学生用(文化) **日本語コミュニケーションB Japanese Communication B**

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 藤本久司 (人文学部文化学科)

授業の概要 毎回のテーマにそった講義の後、練習問題の応答がある。また、授業時間中に課題文の作成や小テストを行う。

学習の目的 日本語表現と背景の文化から、日本語上級レベルの留学生、及びネイティブである日本人学生双方が、日本語の再発見、再認識を進める。

学習の到達目標 留学生、日本人学生双方が日本語表現について学び、日本語運用能力を高めるとともに、背景の日本社会と文化への認識を高めることができる。また、異文化の視点からも日本語表現への造詣を深めることができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、課題探求

力、情報受発信力、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

留学生以外も受講対象。

「日本語と日本社会B」との同時受講はできない。

教科書

[テキスト] なし

[参考書] 授業で適時コピーを配布する。

成績評価方法と基準 授業態度1：授業での課題作品（数回分）2の割合で評価、計100%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー 基本的に授業時間以外、訪問等は自由とする。

授業計画・学習の内容

学習内容

日本語の様々な場面での具体的なコミュニケーションを取り上げ、日本語上級レベルの留学生、及びネイティブである日本人学生双方が、日本語の再発見、再認識を通じて、表現力の向上を目指す。

1~15回

- ・敬語表現
- ・依頼の表現
- ・勧めの表現
- ・断りの表現
- ・感謝の表現
- ・謝罪の表現

海外中国語文化研修

Chinese Culture Program Abroad

学期 前期集中 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 1年次

授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 福田和展

授業の概要 夏休み中の約2週間、台湾にある国立高雄師範大学語文教育センターにおいて、現代中国語と台湾文化の研修を行う。この堅守に先立って、参加者は学内で行われる4回の事前研修と帰国後に行われる1回の事後研修に参加する。現地では、教室での授業だけでなく、多くの見学旅行を実施し、この見学先について、レポートをまとめる。国立高雄師範大学語文教育センターの授業では、学生の中国語レベルによってクラス分けを行い、履修学生のレベルに応じた授業を行う。

学習の目的

- 1より高い中国語能力を獲得する。
- 2現地での生活、経験を通し、台湾の社会や人を理解する。
- 3台湾と日本の関係史、中国と台湾の歴史、社会を知る。

学習の到達目標

- 1中国語検定各級合格
- 2台湾社会の理解
- 2大陸中国との差異を実感する

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思

考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 1年生: 異文化理解Ⅰ基礎、演習履修中の者。2年生: 中国語Ⅰ履修済みのもの、中国語Ⅱ履修中の者。3年生: 中国語Ⅱ、Ⅲ履修中か履修済みの者。

予め履修が望ましい科目 上記「受講要件」参照。

発展科目 異文化理解Ⅱ、異文化理解Ⅲの各科目

教科書 授業中に指定。

成績評価方法と基準 3回の事前研修と事後研修(1回)の出席と課題提出。現地での授業出席、生活態度など総括的に勘案して単位認定。また、帰国後11月の中国語検定試験の各級(参加者のレベルによって、取得すべき級は異なる)の取得。詳細は説明会にて。

オフィスアワー 共通教育4号館4回福田研究室。要メールでの事前連絡。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 説明会 (5月中旬ごろ)
- 1回 事前研修 (台湾の基礎知識)
 - 2回 事前研修 (研究計画立案指導)

- 3回 事前研修 (現地調査のテーマ発表)
- 4回~29回 国立高雄師範大学での語学研修と現地調査
- 30回 事後研修 (現地研修での調査報告会)

特殊講義（海外中国語文化研修） Chinese Culture Program Abroad

学期 前期集中 **単位** 2 **対象** 2011年度以前入学生用(文化) **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 **担当教員** 福田和展

授業の概要 夏休み中の約2週間、台湾にある国立高雄師範大学語文教育センターにおいて、現代中国語と台湾文化の研修を行う。この堅守に先立って、参加者は学内で行われる4回の事前研修と帰国後に行われる1回の事後研修に参加する。現地では、教室での授業だけでなく、多くの見学旅行を実施し、この見学先について、レポートをまとめる。国立高雄師範大学語文教育センターの授業では、学生の中国語レベルによってクラス分けを行い、履修学生のレベルに応じた授業を行う。2年次以上の学生はこの科目を申告すること。

学習の目的

- 1より高い中国語能力を獲得する。
- 2現地での生活、経験を通し、台湾の社会や人を理解する。
- 3台湾と日本の関係史、中国と台湾の歴史、社会を知る。

学習の到達目標

- 1中国語検定各級合格
- 2台湾社会の理解
- 2大陸中国との差異を実感する

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベー

授業計画・学習の内容

学習内容

- 説明会 (5月中旬ころ)
- 1回 事前研修 (台湾の基礎知識)
 - 2回 事前研修 (研究計画立案指導)

ション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 1年生: 異文化理解Ⅰ基礎、演習履修中の者。2年生: 中国語Ⅰ履修済みのもの、中国語Ⅱ履修中の者。3年生: 中国語Ⅱ、Ⅲ履修中か履修済みの者。

予め履修が望ましい科目 上記「受講用件」参照。

発展科目 異文化理解Ⅱ、異文化理解Ⅲの各科目

教科書 授業中に指定。

成績評価方法と基準 3回の事前研修と事後研修(1回)の出席と課題提出。現地での授業出席、生活態度など絵尾総合的に勘案して単位認定。また、帰国後11月の中国語検定試験の各級(参加者のレベルによって、取得すべき級は異なる)の取得。詳細は説明会にて。

オフィスアワー 共通教育4号館4回福田研究室。要メールでの事前連絡。

- 3回 事前研修 (現地調査のテーマ発表)
- 4回~29回 国立高雄師範大学での語学研修と現地調査
- 30回 事後研修 (現地研修での調査報告会)

2012年度以降入学生用(文化) **特殊講義「ドイツにおける排外主義の克服」**

2011年度以前入学生用(文化) **特殊講義「ドイツにおける排外主義の克服」**

学期 前期 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 大河内 朋子 (人文学部)

授業の概要

移民問題は、現在のドイツがかかえる大きな問題の一つです。トルコ系移民の問題を中心に、その概要を学びます。

また、ナチ時代のユダヤ人迫害・絶滅政策について、その背景と克服への取り組みについて学びます。

学習の目的

トルコ系移民の問題を中心に、ドイツにおける移民問題の概要を把握します。

ナチ時代におけるユダヤ人迫害・絶滅政策の背景と、人種差別主義克服への取り組みにつ

いて学びます。

学習の到達目標

ドイツにおける移民問題の概要を説明できる。

ナチ時代におけるユダヤ人迫害・絶滅政策の背景を説明できる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 批判的思考力, 討論・対話力

成績評価方法と基準 平常点とレポート

オフィスアワー 月曜または火曜のお昼休み、大河内研究室 (人文学部2階)

授業計画・学習の内容

学習内容

事前研修 (金曜78限)

(1) 移民 (とりわけトルコ系移民) 問題の現状を理解する。

(2) ナチのユダヤ政策を理解する。

ドイツでのフィールドスタディー (9月下旬)

(1) ボーフム大学教員による講義、イスラム教のモスクや州政府の移民センターの訪問、

中等学校での取り組みの視察、ボーフム大学学生との意見交換などにより、ドイツにおける移民問題の複雑さを理解する。

(2) ユダヤ民族に対する加害の場 (ヴァンゼー会議の館) と被害の場 (ザクセンハウゼン強制収容所跡) を訪れ、学芸員から説明を受けて、人種差別主義の暴力性について理解する。

2012年度以降入学生用(文化) **特殊講義（日本・アジア近現代美術史）**

Art History(Japanese and Asian Modern and Contemporary Art)

2011年度以前入学生用(文化) **特殊講義（日本・アジア近現代美術史）**

Art History(Japanese and Asian Modern and Contemporary Art)

学期 後期 **開講時間** 火7,8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義
担当教員 原舞子

授業の概要 日本およびアジア諸地域の近現代美術史（19世紀半ばから現在まで）

学習の目的 19世紀半ば以降の日本およびアジア諸地域の美術の展開をたどりながら、近現代という時代への理解を深める。作品はそれを制作する美術家だけでなく、受容する人々や背後にある社会、時代との関わりの中で生み出されることを知り、絵画・彫刻・工芸・建築などの作品を見ながら、社会や時代との関連を考察できるようにする。

学習の到達目標 講義で見せられた画像や映像により、近現代の日本およびアジア諸地域でどのような美術作品が作られてきたのかを知る。また美術を通して、日本とアジア諸地域との関係や、それぞれの場所で育まれてきた文化の多様性について興味を持って考えられるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学

習力, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 美術、美術史、文化史等に関心のある者。

教科書 特になし。

成績評価方法と基準 美術館等見学レポート（期末）50%、平常点（授業中に記述するコメントカード）50%

オフィスアワー 授業終了時など適宜。担当窓口教員は藤田伸也（共通教育2号館2階）

その他 授業中に近隣で開かれている展覧会情報などを伝えるので、積極的に展覧会に足を運ぶことを心掛けてほしい。また、授業を別の日の美術館見学に振り替える場合がある。見学に要する交通費、観覧料は自費となる。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 ガイダンス（講義の進め方、評価方法など）
- 第2回 「アジア」という広がり
- 第3回 伝統とモダニズム（1）
- 第4回 伝統とモダニズム（2）
- 第5回 モダニズムとローカリズム（1）
- 第6回 モダニズムとローカリズム（2）
- 第7回 「アジアはひとつ」 岡倉天心の思想と中国、インド

- 第8回 東アジアの官展 ソウル、台北、長春、東京
- 第9回 第二次世界大戦と美術
- 第10回 独立運動と美術
- 第11回 アジアの国際展（1）日本
- 第12回 アジアの国際展（2）東アジア
- 第13回 アジアの国際展（3）東南アジア、南アジア
- 第14回 アジアの女性アーティスト
- 第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **特殊講義「マレーシア領ボルネオの植民地時代と近代化」**

The Colonialism and the Modernization of Malaysian Borneo
2011年度以前入学生用(文化) **特殊講義「マレーシア領ボルネオの植民地時代と近代化」**
The Colonialism and the Modernization of Malaysian Borneo

学期 後期 開講時間 水7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 石井眞夫(非常勤講師)

授業の概要 豊かな自然と天然資源に恵まれたボルネオ、中でもマレーシア領ボルネオは近年東南アジアの中でももっとも近代化に成功し繁栄しつつある地域と見られている。二十世紀初頭まで首狩族が住む未開地と考えられていたボルネオは植民地時代以降大きく変化した。植民地政府の経済政策により開発と都市化、貨幣経済の浸透が進み、また国家と民族意識や地域性・地域政治など現代社会固有の諸問題も課題となっている。また、こうした社会変化とともに、主としてキリスト教の布教により宗教意識や信仰形態など人々の世界観・価値意識も大きく変化してきた。この講義では、マレーシア領ボルネオの事例を通じて、近代社会の在り方と現代社会共通の価値意識について考えて行く。

学習の目的 アジア諸社会は植民地時代以降大きく変貌したが、この変化は20世紀以降の経済発展を通じての繁栄であり、ひと言で言えば「近代化」である。この講義ではボルネオの変貌を通じ、古くからのボルネオ社会、同時にアジア社会の原像を理解し、その中で「近代」とは何だったのか、植民地時代を通じて形成された「民族」とは何か、都市化と都市の機能とは何か、キリスト教布教が果たした役割とは何だったか、人々の価値意識は

どのように変化し今日の社会を形成するにいたったか、などの諸点についての理解を深めることを目的としている。

学習の到達目標 ボルネオ民族誌の理解を通じて、古くからのアジア社会の特質を理解し、これと対照しながら現代社会の特質について考え理解を深める。また、マレーシアという多民族国家の実情を理解するとともに、今日にいたる現代社会の形成について植民地支配やキリスト教布教がどのような意義を持っていたか、そしてその結果としての「近代化」とは何かについて理解を深め、考察する基本知識と洞察力を習得する。

本学教育目標との関連 感性、共感、専門知識・技術、課題探求力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 文化人類学、アジア・オセアニアの社会

発展科目 アジア・オセアニアの民族と文化演習、アメリカの民族と文化演習など

教科書 教科書は使用しない

成績評価方法と基準 平常の提出物による成績 35%、期末試験65%

授業計画・学習の内容

学習内容

講義は以下のように進める予定

- 1.はじめに：東南アジア社会とボルネオの伝統文化
- 2.ボルネオの植民地化
- 3.英領マラヤと蘭領インドネシア
- 4.ブルック王朝の成立と植民地経営
- 5.ブルック朝サラワクの拡大と「首狩族」
- 6.「首狩族」の馴化とサラワク諸民族の形成
- 7.サバ・サラワクの近代化・発展とカリマンタ

ン

- 8.ボルネオの石油資源と日本軍の占領
- 9.太平洋戦争と東南アジア社会の形成
- 10.マラヤ連邦とサバ・サラワク
- 11.インドネシアとマレーシア
- 12.キリスト教布教とブルックの宗教政策
- 13.マレーシア成立とキリスト教会の発展
- 14.イスラムとキリスト教会について考える
- 15.まとめ：ボルネオの近代化再考

2012年度以降入学生用(文化) **特殊講義 (翻訳論)**

Special Lecture (Translation Theory)

2011年度以前入学生用(文化) **特殊講義(翻訳論)**

Special Lecture (Translation Theory)

学期 前期 **開講時間** 火 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 The course introduces to the theories and practice of translation. Students will practice translating between Japanese and English while learning about the translation theories that guide professional translators.

学習の目的 This course will provide an understanding of translation as an everyday practice as well as the theories that are the basis for translation studies.

学習の到達目標 Students will learn practical translation skills as well as the major theories of translation studies. Students will also learn how to think critically about translation as well as intercultural communication in general.

授業計画・学習の内容

学習内容 This class will cover both theory and practice. The class will cover the practical skills and tools (such as CAT tools) used in translation today. It will also cover the main theories of translation, including equivalence

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

教科書 The Routledge Course in Japanese Translation by Yoko Hasegawa

成績評価方法と基準 Assessment will be based on in-class participation, translation assignments, and a translation project.

オフィスアワー By appointment

その他 All readings and classroom instruction will be in English.

as well as functional theories. Finally, the class will introduce concepts in new forms of translation, such as audiovisual translation, localization, and collaborative translation.

2012年度以降入学生用(文化) **特殊講義 (メディア論)**

Special Lecture (Media Studies)

2011年度以前入学生用(文化) **特殊講義(メディア論)**

Special Lecture (Media Studies)

学期 後期 **開講時間** 火 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習
担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 The course introduces the key concepts in film and media studies.

思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

学習の目的 The purpose of this course is to provide a fundamental understanding of how film style and film form combine to create coherent audio/visual narratives.

教科書 Extracts from Film Art by David Bordwell and Kristen Thompson.

学習の到達目標 Students will develop the skills necessary to analyze and think critically about film and other visual media.

成績評価方法と基準 Assessment will be based on in-class participation, class preparation, and a final paper.

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的

オフィスアワー By appointment

その他 All readings and classroom instruction will be in English.

授業計画・学習の内容

学習内容 Topics to be covered include the elements of film style (mise-en-scene, editing, cinematography, and sound) and film form

(narrative, stylistic structure, genre, and modes of production).

2012年度以降入学生用(文化) **特殊講義 (就職支援講座)**

2011年度以前入学生用(文化) **特殊講義 (就職支援講座)**

学期 後期 **開講時間** 水 5, 6, 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 代表 森久綱 (人文学部)

授業の概要 就職活動に直接必要な情報に加えて、自らのライフプランを考えていくために必要となる知識の習得を目指す。

学習の目的 就職活動を始める前に役立つ情報に接し、就職後に必要な知識を得る。

学習の到達目標 現代の産業構造や企業・会社の位置関係を理解し、あわせて必要最低限の法律や経済、および社会的知識を身につける。

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,幅広い教養,専門知識・技術,情報受発信力,討論・対話力,社会人としての態度,感じる力,考える力,コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 特に指定しない(法律経済学科の関連科目)

教科書 講義中に指示

成績評価方法と基準 出席(40%)、レポート(20%×3回)

オフィスアワー 講義担当教員の専門科目のオフィスアワーの時間帯

その他 時間割・時限は水曜日5～8限であるが、変則開講(第2、第5水曜日には講義なし)であり、講義内・掲示等で開講スケジュールを案内するので、開講日・時限に注意すること。本講義はすべてのコース、すべてのプログラムに属します。

授業計画・学習の内容

学習内容

学習内容

講義は隔週開講2コマ連続を予定している。

開講スケジュールについては第1回講義日に提示する。また第1回開講日については掲示にて案内する。

民間企業だけでなく公務員志望者も履修することが望ましい。

第1回 科目のねらいと就職活動の状況&キャリア形成について

第2回 現代社会総論・現代日本の企業社会および地域社会の概況

第3回 現代社会と私たちの進路・卒業生からみた現代社会

第4回 企業社会の現状と人事政策

第5回 企業とは何か・労働とは何か・卒業生からみた現代社会

第6回 企業研究その1

第7回 企業研究その2

第8回 企業研究その3

第9回 企業研究その4

第10回 現代企業社会と法

第11回 会社の犯罪と企業内の犯罪

第12回 企業社会の現状と福利厚生制度

第13回 男女共同参画社会・働く女性の現状(結婚子育て)

第14回 2015年春の就職戦線と経済動向分析・現4年生からのメッセージ

第15回 本講義のまとめ・現4年生からのメッセージ

2012年度以降入学生用(文化) **地域環境論A**

2011年度以前入学生用(文化) **地域環境論A**

学期 前期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義
担当教員 安食 和宏

授業の概要 日本の山村地域（過疎地域）の伝統文化、社会経済、および問題点について、地理学的視点より学習して、現代日本の地域構造と地域問題について理解を深める。

学習の目的 山村・過疎地域で育まれてきた伝統文化と現在の社会経済の特徴に関する地理学的知識を身につける。そして、日本の地域問題について、論理的に説明できるようになる。

学習の到達目標 山村・過疎地域の実情を学び、社会を読み解く目を豊かにする。都市的な発想とは異なるムラからの視点を理解する。

授業計画・学習の内容

学習内容

山村の伝統文化、戦後の山村の変貌、現代山村の問題点について学習する。

第1回 全体の説明、山村を捉える視点

第2～3回 日本の山地自然と基層文化・・・地形、植生、森林文化

第4回 山村の成立と歴史

第5～8回 山村の伝統的生業・・・狩猟、焼

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 地域環境論B（後期に開講）

教科書 教科書は用いない。資料を配付する。

成績評価方法と基準 小レポート（3割）と試験（7割）

オフィスアワー 質問は随時受け付ける

畑、畜産など

第9～10回 戦後の山村の変貌・・・いわゆる「過疎化」

第11回 ダム建設と山村

第12～15回 現代山村の就業・経済構造・・・農業、林業、工業、観光など、およびその地域問題

2012年度以降入学生用(文化)**文化環境論B**

2011年度以前入学生用(文化)**文化環境論B**

Cultural Geography B
Cultural Geography B

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 中川正

授業の概要 文化地理学的視点とその視点の現実生活への適用を概説する。

学習の目的 学生は、身近な現象の中から、地域的、環境的、景観の側面を浮かび上げらせ、そのパターンの発見、要因の説明、意味の解釈し、応用をする思考習慣を得るようになる。

学習の到達目標 本授業を受講することにより、学生は、身近な現象に地理的な側面から光を当てる感受性、発見した現象を説明・解釈する思考力、試行の結果を応用する実践力、を身につけることができる。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 情

報受発信力

教科書 中川正・森正人・神田孝治『文化地理学ガイダンス』ナカニシヤ出版、2006年。

成績評価方法と基準 毎回Moodle上に提出するリーディングと振り返り等の課題提出の評価で100%。したがって、課題提出の期限が遅れた場合、欠席の場合には減点となる。

オフィスアワー 金16:30～17:30

その他

グループディスカッションを毎回行う。無断欠席や遅刻は減点となる。

教養教育科目（地理学B）として、他学部にも開放する。

授業計画・学習の内容

学習内容

身近な生活の中から、地理学的な地域、環境、景観という視点から光を当てて課題を浮かび上がらせて、パターンを発見し、要因を説明し、意味を解釈し、応用する方法を学ぶ

1. 文化地理学の視点
2. 文化地理学研究の手順
3. 視点としての地域
4. 視点としての環境
5. 視点としての景観

6. 言語の文化地理
7. 政治の文化地理
8. 都市の文化地理
9. 宗教の文化地理
10. 民俗の文化地理
11. 生業の文化地理
12. 観光の文化地理
13. ジェンダーの文化地理
14. 文化地理学の応用
15. 振り返り

2012年度以降入学生用(文化) **フランス文学演習B**

Seminar in French Literature B

2011年度以前入学生用(文化) **フランス文学演習B**

Seminar in French Literature B

学期 後期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業 **市民開放授業**

担当教員 グットマンティエリー

授業の概要 フランス映画を観ながら聴解能力を向上させ、口語的表現を身に付けます。本授業は映画の聴解からテキストの再現を行いますので、扱う映画は異なりますが、逆の方向で映画にアプローチする「フランスの文学B」と同時に履修すると、知識と実践両面からのより深い学習が可能になります。

学習の目的 話し言葉を中心に聞き取り、発音、表現能力の向上を目指します。また、フランス人の心情の機微に触れます。

学習の到達目標 フランスの映画等を字幕なしである程度理解できるようになること。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、専門知識・技術、情報受発信力、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケー

ション力を総合した力

受講要件 フランス語Ⅱを履修した学生、または仏検3級程度の実力がある学生のみ履修可。

予め履修が望ましい科目 異文化理解Ⅱ総合(フランス語)、異文化理解Ⅱ演習(フランス語)、フランス文学演習A

発展科目 なし

教科書 なし

成績評価方法と基準 平常点(授業への積極的な参加が求められる)60%、フランス語聴解等の能力テスト40%、計100%

オフィスアワー 大体毎日研究室に来ています(人文学部校舎3階)

授業計画・学習の内容

学習内容

[授業計画]

映画「OSS117 Rio ne répond plus (フレンチ大作戦 灼熱リオ、応答せよ)」(ミシェル・アザナヴィシウス監督)を扱います。

毎回、単語リストを参考にしながら映画の一場面を聞き取る訓練(字幕なし)と発音練習をし、そのあとで受講者自身による場面の再現を試みます。最終回は各場面の復習です。

2012年度以降入学生用(文化) **ドイツの文学 C**

German Literature C

2011年度以前入学生用(文化) **ドイツの文学 C**

German Literature C

学期 後期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

市民開放授業

担当教員 大河内 朋子 (人文学部文化学科)

授業の概要

「20世紀前半における文学・写真・キャバレー」をテーマにして、文学的表現方法の拡大について、次の二つの観点から考えてみます。

(1) 文学テキストは写真をどのように取り込めるのだろうか？(写真を挿入しているさまざまな文学作品を紹介します。)

(2) 文学的なパフォーマンスの可能性(文学は読まれただけではなく、「文学的キャバレー」で朗読されたり、歌われました。)

学習の目的

メディア横断的な文学的表現の可能性について学びます。

20世紀前半のヨーロッパ文化について、基礎

的な知識を身につけます。

学習の到達目標

メディア横断的な文学表現の可能性について、自分の意見を述べることができる。

20世紀前半のヨーロッパ文化について、基礎的な知識を持っている。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 批判的思考力

発展科目 「ドイツ文学論」

成績評価方法と基準 授業への積極的参加 [30%]、レポート[70%]、計100%

オフィスアワー 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室(人文校舎2階)にて

授業計画・学習の内容

学習内容

第1～7回【文学と写真(以下は扱う予定のテーマ)】

- ・記録媒体としての写真
- ・写真と絵画の関係
- ・フォト・ジャーナリズム
- ・アンドレ・ブルトン『ナジャ』
- ・クルト・トゥホルスキ／ジョン・ハート

フィールド『世界に冠たるドイツ』

- ・ベルトルト・ブレヒト『戦争読本』

第8～15回【文学的キャバレー(以下は扱う予定のテーマ)】

- ・風刺の系譜
- ・1900年前後の文学的キャバレー
- ・1920年代の文学的キャバレー

2012年度以降入学生用(文化) **特殊講義 (地域社会論)**

sociology of local community
sociology of local community

2011年度以前入学生用(文化) **特殊講義 (地域社会論)**

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 川又俊則 (鈴鹿短期大学)

授業の概要 社会学の立場から地域社会を読み解く。都市・近郊・農山漁村という3区分で現況、歴史を理解し、地域社会の問題を解決する視点を養う。

学習の目的 都市・近郊・農山漁村という3区分で現況、歴史を理解し、地域社会の問題を解決する視点を養う。その方法として、写真観察法、インタビュー、アクションリサーチという質的調査法を学ぶ。

学習の到達目標 各回の授業の内容を理解すること、それぞれの問題点を抽出できること、質的調査を行い、問題解決の方法を（それが決定打とならずとも）自らで提出できる

こと、レポートをまとめることで理解力を示すことなど。

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 なし

教科書 なし

成績評価方法と基準 毎回の出欠（ミニレポートあり、50%）、写真観察法orインタビューのレポート（50%）

オフィスアワー なし。授業前後に質疑応答の時間を設ける。

授業計画・学習の内容

学習内容

各回のテーマは以下の通り。

第01回 ガイダンスー地域社会と社会学ー

第02回 都市の諸問題 (1) 写真観察法で見る現代都市

第03回 都市の諸問題 (2) 東京の「下町」と「山手」

第04回 都市の諸問題 (3) 京都・大阪・名古屋の変遷

第05回 インタビューで探る地域社会：生活史を中心に

第06回 近郊の諸問題 (1) 都市近郊と「買物難民」

第07回 近郊の諸問題 (2) 「祭り」と地域と

人口変動

第08回 農山漁村の諸問題 (1) 海女・海士、寝屋制度

第09回 農山漁村の諸問題 (2) 農村の変化と民俗

第10回 農山漁村の諸問題 (3) 「限界集落」を支える

第11回 アクションリサーチと地域復興

第12回 三重県という地域 (1) 各地域の特色と「地元学」

第13回 三重県という地域 (2) 食の地域性

第14回 三重県という地域 (3) 三重テラスと三重ブランド

第15回 まとめ (レポート返却等)

歴史学概論E

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 対象 2011年度以前入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 森脇由美子 (人文学部文化学科)

授業の概要 歴史学は一般に過去を研究する学問だと考えられるが、「過去」を扱うのは歴史学だけとは限らない。まず、歴史学的なものの方とはどのようなものかを見た上で、主に西洋史の研究方法を検討していき、現在の歴史学の諸問題を考えていく。

学習の到達目標 歴史学的なものの方とはどのようなものか。歴史学の方法論を史学史的に辿る。

授業計画・学習の内容

学習内容

授業は以下のように進め、それぞれ単元を数回ずつ講述する。

1. 序 (第1回)

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 特になし。

教科書 特に使用しない。

成績評価方法と基準 期末試験80%、平常点20%

オフィスアワー 火15:00～16:00

2. 時間軸を意識しよう (第2～4回)
3. 歴史学とは何か (第5～7回)
4. 時代区分と歴史観 (第8～10回)
5. 西洋史研究の新潮流 (第11～15回)

2012年度以降入学生用(文化) **地域環境論B**

2011年度以前入学生用(文化) **地域環境論B**

学期 後期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 安食 和宏

授業の概要 日本の山村地域・過疎地域（あるいは中山間地域）の現状を踏まえ、その活性化論について学ぶ。これまでの政策の流れ、および今後の方向性などを学習する。特に、三重県の事例を中心に考える。

学習の目的 山村・過疎地域（特に三重県の事例）が置かれた状況とこれまでの政策について理解する。そして、今後の地域活性化（村おこし、まちづくり）の方策について、具体的・論理的に考えて、説明することができる。

学習の到達目標 現代の山村・過疎地域に関する政策を理解する。そして、いなか・ムラの意義を再評価して今後の展開につなげる発想を得る。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的

思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 地域環境論A（前期に開講）・・・必修ではない

発展科目 特になし

教科書 テキストは用いない。資料を配付する。

成績評価方法と基準 レポート（6割）と参加態度・討論内容（4割）

オフィスアワー 質問は随時受け付ける

その他 野外実習では交通費等（数千円）の負担が求められる。三重県南部の熊野古道を歩いて現地の施設等を見学する予定。

授業計画・学習の内容

学習内容

過疎地域問題に対する政策、村おこし・活性化に向けた取り組みについて学習し、特に東紀州（三重県南部）地域を対象とした活性化策について考察する。以下のように授業を進める。

第1回 全体の説明

第2回～3回 全国総合開発計画の流れ

第4回～5回 三重県における農山村活性化への取り組み

第6回～8回 三重県・各市町の取り組みに関するレポート発表（全員）と討論

第9回～10回 東紀州の特性と活性化への取り組み

――11月または12月に東紀州地域での野外実習を行う予定――

第11回～13回 東紀州地域の活性化に関するレポート発表（全員）と討論

（第14回と15回分は野外実習で代替する）

2012年度以降入学生用(文化) **ドイツ文学演習Ⅰ** Seminar in German Literature I
2011年度以前入学生用(文化) **ドイツ文学演習Ⅰ** Seminar in German Literature I

学期 前期 開講時間 火7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 大河内 朋子 (人文学部文化学科)

授業の概要

クルト・シュヴィッタースの散文作品を取り上げて、精読します。

シュヴィッタースは20世紀前半のドイツを代表する前衛的アーティストかつパフォーマーで、革新的な美術作品を創作しただけではなく、ナンセンスな話やぞっとする話もたくさん書いています。比較的短い作品が多く、文章もとても平易です。いくつかを読んで、その特徴について考察します。

併せて、中級程度のテキストを読む力を養成します。

学習の目的

クルト・シュヴィッタースの散文作品の特徴について知見を得る。

併せて、中級程度のテキストを読む力をつける。

学習の到達目標

クルト・シュヴィッタースの散文作品の特徴について、自分の意見が言える。

中級程度のテキストを読む力を持っている。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 実践外国語力

受講要件 初級程度のドイツ語文法の知識をすでに持っていること

発展科目 「文学概論C」

教科書 プリント配布

成績評価方法と基準 授業への積極的参加 [50%]、筆記試験[50%]、計100%

オフィスアワー 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室 (人文校舎2階) にて

授業計画・学習の内容

学習内容 クルト・シュヴィッタースの散文作品 (主として1920年代の作品) を精読する。

授業の概要

江戸時代は陸海の道の整備が急速に進んだ時代であった。これらの道を誰がどのように利用したのか、また道沿いの地域社会はいかなる影響を受けたのかを、史料に即して検討する。
伊勢参宮街道と伊勢湾の舟運を中心に取り上げる。

学習の目的

江戸時代における伊勢の地域社会や参宮文化の特質を理解する。
江戸時代の史料(版本の崩し字など)の初歩的な解読能力を習得する。

学習の到達目標

江戸時代における伊勢の地域社会や参宮文化の特質を理解できるようになる。

江戸時代の初歩的な史料(版本の崩し字など)が解読できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力

発展科目 日本の歴史D、日本歴史演習

教科書 授業中に随時指定。

成績評価方法と基準

授業中のコメントカード20%、史料読み20%、試験ないしはレポート60%
*試験かレポートかは、受講生の選択制とする。詳細は最初の授業(オリエンテーション)において説明する。

オフィスアワー 授業終了後の昼休み及び木曜日4コマ目。人文学部資料室。

授業計画・学習の内容**学習内容**

予定している主な内容は以下の通り。ただし、受講生の理解・習熟度に応じて変更することがある。

- 1、イントロダクション：街道と舟運の持つ意味。五街道の整備。伊勢参宮と内海船。伊勢湾岸の諸港
- 2、東海道から伊勢参宮街道へ：桑名への舟渡し
- 3、北勢地方の諸街道と日永追分

- 4、街道沿いの旅籠屋・茶屋と運送業者たち
- 5、御師と上方旅籠屋手代たち
- 6、川渡しと岸辺の村々
- 7、伊勢湾の舟と造船
- 8、白子廻船と大黒屋光太夫
- 9、街道沿いの娯楽
- 10、伊勢参宮と遊覧
- 11～13、古市遊郭と街道沿いの遊女
- 14～15、駈け落ちと心中事件
- 16、試験

授業の概要

江戸時代は陸海の道の整備が急速に進んだ時代であった。これらの道を誰がどのように利用したのか、また道沿いの地域社会はいかなる影響を受けたのかを、史料に即して検討する。

熊野街道と紀伊半島(熊野灘)の舟運の特質を検討する。

学習の目的

江戸時代における熊野の地域社会の特質を理解する。

江戸時代の古文書(崩し字)の基礎的な解読能力を習得する。

学習の到達目標

江戸時代における熊野の地域社会の特質を理解できるようになる。

江戸時代の基礎的な古文書(崩し字)を解読できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 前期で日本の歴史Cを受講しておくことが望ましい。

発展科目 日本歴史演習など。

教科書 授業中に随時指定。

成績評価方法と基準

授業中のコメントカード20%、史料読み20%、試験ないしはレポート60%

*試験かレポートかは、受講生の選択制とする。詳細は最初の授業(オリエンテーション)において説明する。

オフィスアワー 授業終了後の休憩時間及び木曜日4コマ目。資料室。

授業計画・学習の内容

学習内容

予定している主な内容は以下の通り。ただし、受講生の理解・習熟度に応じて変更することがある。

1~2、オリエンテーション：(熊野地域の概況、熊野街道の特質、東西の物資運送手段、廻船。関連資料と崩し字の解読法)

3、西国巡礼と札打・納経

4、峠道と旅籠屋・木賃宿・善根宿

5、善根宿納札

6、「海の熊野街道」と渡し船、遊覧船

7、紀伊半島の難船とその処理

8~9、波切騒動始末

10、漂流と異国船

11、行き来する旅人：道中日記と村文書から

12~13、旅人の救済Ⅰ~Ⅱ

14~15、宿場の遊女・港の遊女

16、試験

2012年度以降入学生用(文化)**日本歴史演習C**

Practice of Japanese history

2011年度以前入学生用(文化)**日本歴史演習C**

Practice of Japanese history

学期 前期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 塚本明 (人文学部)

授業の概要

古文書史料を解説しながら、江戸時代の浦村・山村の生活について、多様な観点から検討する。

関係する博物館や現地見学会、古文書の調査等を行う。

学習の目的 歴史資料の読み方と先行研究の理解の仕方を習得することで、歴史研究の基礎能力を身に付ける。自ら問題を発見し、解決する能力を養う。

学習の到達目標 歴史資料の読み方と先行研究の理解の仕方を習得し、歴史研究の基礎が身に付けられるようになる。自ら問題を発見し、解決できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導

力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 十分な準備を必要とする。授業外でも自ら調べ、学ぶ意欲が必須。

予め履修が望ましい科目 共通教育日本史など。

発展科目 日本の歴史、他。

教科書 授業中に随時指定する。

成績評価方法と基準 授業中の報告70%、討論への参加30%

オフィスアワー 木曜日の昼休み、7・8時限

その他 原則として通年で受講すること。また、秋に予定している熊野市での古文書調査に参加すること。

授業計画・学習の内容

学習内容

1～15

*史料(崩し字)読みと研究史との検討とを織り交ぜて行う。

*史料読みは、解説だけではなく、内容の解

釈や背景なども合わせて検討する。

*紀州藩領の尾鷲組や奥熊野の山村、鳥羽藩領の漁村の史料(古文書)を用いて分析を行う。古文書の内容を把握し、面白い論点を見出す訓練をする。

2012年度以降入学生用(文化) **日本歴史演習D** Practice of Japanese history D
2011年度以前入学生用(文化) **日本歴史演習D** Practice of Japanese history D

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 塚本明

授業の概要

古文書史料を解説しながら、江戸時代の浦村・山村の生活について、多様な観点から検討する。

関係する博物館や現地見学会、古文書の調査等を行う。

学習の目的 歴史資料の読み方と先行研究の理解の仕方を習得することで、歴史研究の基礎能力を身に付ける。自ら問題を発見し、解決する能力を養う。

学習の到達目標 歴史資料の読み方と先行研究の理解の仕方を習得し、歴史研究の基礎が身に付けられるようになる。自ら問題を発見し、解決できるようになる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力,

情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 原則として前期に日本歴史演習Cを履修しておくこと。日本歴史演習Dのみの履修を希望する場合は、事前に連絡すること。

予め履修が望ましい科目 共通教育日本史など。

発展科目 日本の歴史、他。

教科書 授業中に随時指定する。

成績評価方法と基準 授業中の報告70%、討論への参加30%

オフィスアワー 木曜日の昼休み、7・8時限

その他 原則として通年で受講すること。

授業計画・学習の内容

学習内容

1~15

*紀州藩領の尾鷲組や奥熊野の山村、鳥羽藩領の漁村の史料(古文書)を用いて、江戸時

代の浦村・山村の地域的な特質に関して検討を加える。

*グループごとにテーマを選択し、史料(崩し字)に基づく分析報告を行う。

2012年度以降入学生用(文化)**日本語学演習A**

Japanese Linguistics Seminar A

2011年度以前入学生用(文化)**日本語学演習A**

Japanese Linguistics Seminar A

学期 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

担当教員 川口 敦子 (人文学部)

授業の概要 中世日本語資料としてのキリシタン資料を読解し、その記述から、日本語の諸問題について考察する。

学習の目的

キリシタン資料を読解する力（ローマ字、中世の日本語文法、ヨーロッパ的語学観等）を身につける。中世日本語の諸問題について、多角的に考察することが出来る。質疑応答を含む研究発表に必要な資料作成の知識および基本的姿勢を身につける。

学習の到達目標

キリシタン資料のローマ字を漢字仮名交じり文に翻字することができる。
適切な辞書を用いて語句に適切な註釈を付けることができる。
テキスト本文から問題点をを探してテーマを設定し、論理的な思考力によって解決することができる。
適切な発表資料を作成し、それに基づいた口

頭発表ができる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 「日本の言語」、共通教育科目「日本語学」のいずれか

発展科目 日本語学演習B

教科書 初回に受講生と相談の上、決定する。

成績評価方法と基準 発表内容とレポート（70%）、授業への貢献度（30%）で総合的に判断する。

オフィスアワー 随時（必ず事前にメール等でアポイントメントを取る）

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 キリシタン資料とは

第3回 発表の取り組み方、資料の作り方

第4～14回 発表

・資料の正確な読解

・問題発見

・考察、発表

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)国際平和論演習A

International Peace Study Seminar A

2011年度以前入学生用(文化)国際平和論演習A

International Peace Study Seminar A

学期 前期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 PBL, Moodle

担当教員 児玉克哉

授業の概要 国際・地域に関する情報を自分で集めてきて、編集し、発信する能力の開発を行う。国際化社会、情報化社会の中で、自分を位置づけ、表現できるようにする。具体的には、PBL方式でグループによって課題についてまとめたものをムードルのWikiを活用して、表現する。

学習の到達目標 国際化、情報化社会に対応できる問題発見能力、調査能力、自己表現能力を学ぶことができる。平和、地域、情報、国際などの諸問題に能動的に向う能力を養う。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 特になし

成績評価方法と基準

ゼミへの参加 50%

発表の成果 50%

オフィスアワー

毎週月曜16:30-18:00 児玉研究室または総合研究棟2の2階地域開発研究機構にて

メールして来ると確実。kkodama@human.mie-u.ac.jp

その他 特になし

授業計画・学習の内容

学習内容

1. グローバリゼーションの流れについて
2. 世界のNGO
3. 平和NGO
4. 環境NGO
5. 人権NGO
6. 平和NGOをめぐるPBL
7. PBLグループ学習

8. PBLグループ学習
9. PBLグループ学習
10. 中間報告
11. PBLグループ学習
12. PBLグループ学習
13. PBLグループ学習
14. 発表会
15. 評価

2012年度以降入学生用(文化) **国際平和論演習B**

International Peace Study Seminar B

2011年度以前入学生用(文化) **国際平和論演習B**

International Peace Study Seminar B

学期 後期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 PBL, Moodle

担当教員 児玉克哉

授業の概要 国際・地域に関する情報を自分で集めてきて、編集し、発信する能力の開発を行う。国際化社会、情報化社会の中で、自分を位置づけ、表現できるようにする。具体的には、PBL方式でグループによって課題についてまとめたものをムードルのWikiを活用して、表現する。

学習の到達目標 国際化、情報化社会に対応できる問題発見能力、調査能力、自己表現能力を学ぶことができる。平和、地域、情報、国際などの諸問題に能動的に向う能力を養う。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニ

ケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 特になし

成績評価方法と基準

ゼミへの参加 50%

発表の成果 50%

オフィスアワー

毎週月曜16:30-18:00 児玉研究室または総合研究棟2の2階地域開発研究機構にて

メールして来ると確実。kkodama@human.mie-u.ac.jp

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 地球環境問題
2. PBLグループ学習
3. PBLグループ学習
4. PBLグループ学習
5. PBLグループ学習
6. PBLグループ学習
7. 発表

8. 人権問題
9. PBLグループ学習
10. PBLグループ学習
11. PBLグループ学習
12. PBLグループ学習
13. PBLグループ学習
14. PBLグループ学習
15. 発表

海外ドイツ語文化研修 A

German Culture Program Abroad A

学期 後期 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 2 **対象** 2012年度以降入学生用(文化) **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 ○大河内 朋子 (人文学部)、カン ミンギョン (人文学部)

授業の概要

ドイツ中部にあるエアランゲン大学において、4週間の語学・文化研修を実施します。ドイツ語授業は平日の午前中に3時間行われます。平日の午後や週末は、参加学生の調査テーマにあわせてさまざまな施設を見学したり、あるいは近郊都市へ日帰り遠足に出かけます。宿泊は一人ずつ別の家庭でホームステイします。三重大学で行われる事前研修では、文献講読や発表によって、各自の調査テーマに関する知見を深めます。事後研修では、調査結果について発表し、レポートにまとめます。

学習の目的

ドイツ文化のトピックについて問題意識を深め、現地調査に基づいてレポートをまとめる。ドイツ語でのコミュニケーション能力を向上させる。

授業計画・学習の内容

学習内容

1回目 事前研修 (ホームステイ先で使える会話練習)
2~4回目 事前研修 (現地調査テーマの発表、調査計画立案指導)
5~28回目 エアランゲン・ニュルンベルク大学

学習の到達目標

ドイツ文化のトピックに関して、報告できる。それぞれの語学レベルにおける修了試験に合格する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

後期授業の受講登録をするだけでなく、9月中に参加申し込みをして、面接試験に合格すること
参加時点で、ドイツ語の学習歴が最低1年間あること

成績評価方法と基準 筆記試験とレポート

オフィスアワー

月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室 (人文校舎2階) にて
水曜日、カン研究室 (人文学部2階) にて

での語学研修 (能力別クラス) と現地調査
29~30回目 事後研修 (現地研修での調査結果報告・レポート指導)

平日の午後や週末には、参加学生のテーマに基づく社会見学や遠足等を行う予定です。
宿泊はホームステイです。

2012年度以降入学生用(文化)**日本語学演習B**

Japanese Linguistics Seminar B

2011年度以前入学生用(文化)**日本語学演習B**

Japanese Linguistics Seminar B

学期 後期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

担当教員 川口 敦子 (人文学部)

授業の概要 中世日本語資料としてのキリシタン資料を読解し、その記述から、日本語の諸問題について考察する。

学習の目的

キリシタン資料を読解する力（ローマ字、中世の日本語文法、ヨーロッパ的語学観等）を身につける。中世日本語の諸問題について、多角的に考察することが出来る。質疑応答を含む研究発表に必要な資料作成の知識および基本的姿勢を身につける。

学習の到達目標

キリシタン資料のローマ字を漢字仮名交じり文に翻字することができる。
適切な辞書を用いて語句に適切な註釈を付けることができる。
テキスト本文から問題点をを採してテーマを設定し、論理的な思考力によって解決することができる。

適切な発表資料を作成し、それに基づいた口頭発表ができる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 「日本語学演習A」（同年前期開講）、「日本の言語」、共通教育科目「日本語学」のいずれか

教科書 初回に受講生と相談の上、決定する。

成績評価方法と基準 発表内容とレポート（70%）、授業への貢献度（30%）で総合的に判断する。

オフィスアワー 随時（必ず事前にメール等でアポイントメントを取る）

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス
第2回 キリシタン資料とは
第3回 発表の取り組み方、資料の作り方
第4～14回 発表

・資料の正確な読解
・問題発見
・考察、発表
第15回 まとめ

環境論演習A

Seminar in Environment Geography A

学期 前期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **対象** 2012年度以降入学生用(文化) **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 谷口 智雅 (人文学部)

授業の概要 地域環境の把握・調査を行うため、環境に関する専門的な研究法を修得する。特に、データ・資料の解析をするための関連文献の購読・レビューを行う。また、自然地理学的な卒業研究や現地調査に役立つ基礎的な考え方を学習する。

学習の目的 課題設定からアプローチ、レポート作成までの手順を身につける。また、フィールドサーベイおよび発表・討論の実践を行えることを習得する。

学習の到達目標 自然と人間活動の関わり合いを環境地理学的なアプローチから理解する方法を学習する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 はじめに一授業内容と進め方について
第2～4回 テーマの設定と論文検索
第5～9回 テーマ別論文の講読

教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目

環境学概論 (環境論)

自然環境論A、B

環境特論A、B

教科書 特に使用しない。

成績評価方法と基準 授業内発表60%、授業課題40%を目安として、総合的に評価する。

オフィスアワー 月～木の空いている時間はいつでも可。

第10～14回 自然地理調査法の理解と調査結果の分析法
第15回 まとめ

環境論演習B

Seminar in Environment Geography B

学期 後期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **対象** 2012年度以降入学生用(文化) **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 谷口 智雅 (人文学部)

授業の概要 地域環境の把握・調査を行うため、環境に関する専門的な研究法を修得する。特に、データ・資料の解析をするための調査法や解析法についての関連文献の購読・レビューを行う。また、自然地理学的な卒業研究や現地調査に役立つ基礎的な考え方を学習する。

学習の目的 課題設定からアプローチ、レポート作成までの手順を身につける。また、フィールドサーベイおよび発表・討論の実践を行えることを習得する。

学習の到達目標 自然と人間活動の関わり合いを環境地理学的なアプローチから理解する方法を学習する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求

力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 アジア・オセアニア地誌演習E

予め履修が望ましい科目

環境学概論 (環境論)

自然環境論A、B

環境特論A、B

教科書 特に使用しない。

成績評価方法と基準 授業内発表50%、授業態度50%を目安として、総合的に評価します。

オフィスアワー 月～木の空いている時間はいつでも可。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 はじめにー授業内容と進め方について

第2～5回 基礎から応用までの研究紹介

第6～10回 テーマ設定と自然地理調査

第10～14回 調査結果の整理と分析

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**歴史学概論A**

Introduction to Japanese HistoryA

2011年度以前入学生用(文化)**歴史学概論A**

Introduction to Japanese HistoryA

学期 前期 **開講時間** 水3,4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 山田 雄司 (人文学部)

授業の概要 歴史学とはいかなる学問なのか、これまでの歴史学の方法論を再検討し、歴史学が現在直面している問題について考察していく。そして、歴史学において重要な要素である時代区分論、史料論や周辺諸学問との関連について日本史を中心に講義していく。

学習の目的 日本史教科書を読んでいるだけではわからない日本人の思考のあり方について理解を深めることを目標とする。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：ガイダンス

第2～3回：歴史学とは何か

第4～5回：歴史の時代区分

第6回～7回：日本史の時代区分

第8回：史料とは何か

学習の到達目標 批判的思考力を養い、自らの頭で考える力をつけていく。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

成績評価方法と基準 小テスト20%、期末試験80%、計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 毎週火曜日14:40～16:10、場所山田研究室

第9～10回：近代歴史学の成立

第11回～12回：戦前の歴史学

第13回：皇国史観

第14回：史的唯物論

第15回：戦後の歴史学

2012年度以降入学生用(文化)**中国の文学E**
2011年度以前入学生用(文化)**中国の文学E**

Chinese Literature E
Chinese Literature E

学期 前期 開講時間 水 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 荒井茂夫

授業の概要 主に東南アジアに広がる華文文学世界について、中国現代・当代文学との関わりを中心に、地域研究的視点から論じる。さらに、東アジア世界における華人社会の広がりや華人の役割、多民族国家における文化伝承、民族関係や中国との紐帯などについて、その歴史的变化と発展の経過をたどり、東アジアの将来的展望について論じる。

学習の目的 文学は地域研究になりにくい分野であるが、華文文学を通じて、華僑・華人社会の歴史的形成と異民族との政治的文化的関係などについて他の学問分野の成果とすり合わせて論じることによって、幅広い認識を形成することが出来る。

学習の到達目標 華文文学論を通じて文学の地域研究方法論としての役割を理解し、同時

に華僑・華人の世界が現実には現代中国と密接に関わっていることを認識し、自己の足元から日本および東アジアの理解に関して画期的な視点を得ることができる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 幅広い教養, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 文学関連の授業

発展科目 中国文学演習C, D

教科書 授業時に指示する。

成績評価方法と基準 出席、授業態度、レポート等により総合的に評価する。

オフィスアワー 在室時は可

授業計画・学習の内容

学習内容

前期

現代華文文学世界の構造と方向 I

1~2, 帝国主義と地域研究

3, ライトとラッフルズ

4, ヨーロッパ人中国研究原型

5, 日本人の中国研究原型 I

6~7, 日本人の中国研究原型 II

8, 地域研究と方法としての文学

9, 社会学と文学研究

10~11, 中国古代資料と分科導体の意味 I

12~13, 中国古代資料と分科導体の意味 II

14, 「詩経」と文学社会学 I

15, 詩経と文学社会学 II

授業の概要 オーストラリアあるいはマレーシアの華文文学作品を原書で読む。受講者は割り当てられた文章について、予習し、背景の文化調べて報告する。それに基づいて議論を進め、新たな課題の発見に結びつける。受講者は必ず毎回相当量の原文を読むことになり、中国語検定試験3級のが学力が求められる。尚受講者の中国語の能力によっては、日本を含む南洋文学から題材をとることになる。

学習の目的 この授業は、華文文学作品の原書を読み、華僑・華人の歴史文化や社会と政治を通して、広く東アジアの将来を展望することができるだけの基本的知識を自己形成的に築くものである。

学習の到達目標 中国語読解力の飛躍的向上。また、華文文学を契機として、東アジア的世界の理解を目指す。東南アジアを含めた広い意味での東アジアについての認識を深めることができる。この地域の大国である中国を中心に歴史文化を見がちな通俗的認識のしかたから脱して、相対的にその存在を扱うことによって、大国の問題とASEAN諸国との関

係を相対化して見る、客観的視点を形成することができる。さらに重要なのは、この地域における日本のあり方を自身の将来と合わせて考える視点を形成することができる。華文学を通して東アジアの環境を理解する

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 中国の文学E・F

発展科目 中国の文学E・F

教科書 授業中に適宜指導する

成績評価方法と基準

発表と出席60%

レポート40%

オフィスアワー

基本的に毎日可

研究室在室時は常に可

その他 相当の中国語学力が求められる。

授業計画・学習の内容

学習内容

前期

- 1, 中国語学力の検査、と授業進行の説明
- 2, テキストの説明と、アサインメント
- 3, 発表
- 4, 発表に基づいた討論
- 5, 発表
- 6, 発表に基づいた討論

8, 発表

9, 発表に基づいた討論

10, 発表

11, 発表に基づいた討論

12, 発表

13, 発表に基づいた討論

14, 発表

15, 全体の総括討論

2012年度以降入学生用(文化) 2011年度以前入学生用(文化)

環境学概論 環境論

Introduction of Environmental Studies Environmental Studies

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 谷口 智雅 (人文学部)

授業の概要 自然環境の基本的事項として、地形、水文、気候、生態など多岐にわたる分野の基礎的項目について講義を行う。

学習の目的 環境の捉え方について学び、地域の環境と人間活動の関わりについて理解できることを目的とする。

学習の到達目標 自然環境に関する基本的知識を理解することによって、世界各地で引き起こされている環境問題について関心を持ち、解決に向けた能力を養うことを目指します。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目

自然環境論A、B
環境特論A、B
環境論演習A、B

教科書 特に使用しない。パワーポイント・映像(DVD・ビデオ)等を利用して、講義を進めます。

成績評価方法と基準 授業内課題20%、授業態度10%、レポート70%を目安として、総合的に評価する。

オフィスアワー 月～木の空いている時間はいつでも可

その他 自然地理学の関連項目の講義を行うため、教員免許状の取得する学生は、履修することが望ましい。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 はじめに一授業内容と進め方について
第2回 地圏環境一地球の大きさや形
第3回 地圏環境一地球の内部構造
第4回 地圏環境一地形
第5回 気圏環境一大気循環
第6回 気圏環境一気候区分
第7回 水圏環境一海洋と陸水

第8回 水圏環境一陸水環境
第9回 生物圏環境
第10回 環境問題Ⅰ
第11回 環境問題Ⅱ
第12回 環境と防災
第13回 環境と開発
第14回 国際社会と環境問題
第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)

科学史・科学論C

Science Studies C

2011年度以前入学生用(文化)

科学史・科学論C

Science Studies C

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

担当教員 小川 眞里子

授業の概要

病気、とくに伝染病を扱う。授業の名前は科学史科学論であるが、これには医学史も含まれ、理学や工学の歴史とは別に長い歴史を有する。

人間の歴史において、政治や経済の歴史のみならず、科学の歴史、医学の歴史も重要である。黒死病のことは皆さんもよくご存じのことと思う。天然痘、コレラ、産褥熱を中心に学習し、一般の歴史の中でこのような病気の占める位置を確認しよう。

学習の目的

歴史一般の認識の中で、病気とくに伝染病の及ぼした影響は次第によく理解されるようになってきているが、ペスト以外はまだまだである。ある伝染病に対する免疫を持つか持たないか、あるいは有効な治療薬を持つか持たないかは、文明の発展において重大な問題であることを理解しよう。

今日なお、伝染病の脅威は時に重大である。過去の歴史から学ぼう。

学習の到達目標 伝染病を中心に、医学史の概要を理解すること。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、幅広い教養、専門知識・技術、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

教科書 概要について基本的に関係するプリントを用意する。天然痘、コレラ、産褥熱について、プリントを配布する

成績評価方法と基準 講義後に提出する小レポートの積み重ねを重視する(50%)。期末レポートあるいは中間レポート(50%)。

オフィスアワー 金曜日11時～12時半

授業計画・学習の内容

学習内容

- ① 初めに、授業の全容を説明する。
- ②～⑤ 最初に伝染病と文明の関係をジャレット・ダイヤモンドの思想を通して学び、人類の歴史に伝染病が大きくかかわっていることを認識する。
- ⑥ 伝染病の原因について歴史的説明を行う。
- ⑦ コンタギオン説について詳しく解説を行う。以下は具体的な病名とともにコンタギオン説について解説を行う。
- ⑧ 天然痘Ⅰ(エドワード・ジェンナーについて学び、彼以前の天然痘に関係する人物として、モンタギュー夫人について解説する。)
- ⑨ 天然痘Ⅱ(日本における天然痘の流行や種痘の普及について、解説する。)

- ⑩ 産褥熱Ⅰ(よく知られるゼンメルワイスの業績について、なぜ彼が産褥熱の本質を捉える事ができたのかをテーマとして、解説を行う。)
- ⑪ 産褥熱Ⅱ(歴史の中で産褥熱が占める位置を解説する。)
- ⑫ コレラⅠ(19世紀を代表する伝染病は何と言ってもコレラである。)
- ⑬ コレラⅡ(コレラを巡る衛生学とくに、1831年から1865年までの4回の流行について)
- ⑭ コレラⅢ(コレラと帝国主義の関わりについて解説する。)
- ⑮ まとめ、結核・エイズなどの伝染病について

2012年度以降入学生用(文化)

科学史・科学論D

Science Studies D

2011年度以前入学生用(文化)

科学史・科学論D

Science Studies D

学期 後期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 小川 真里子

授業の概要

人間と自然のかかわりは、科学的探究以外にも、文学や美術、地理や地誌などさまざまに考えられる。この授業では、科学史・科学論の観点から人間と自然のかかわりを捉える。人間は自然に比べて実に小さな存在である。しかし宇宙の構造を明らかにし、地球や生命の歴史も明らかにしてきている。生命の歴史40億年といわれる中の、わずか20万年の歴史しかない人間がその小さな頭脳で、空間的にも時間的にも広大な自然を理解しうること感到することだろう。

学習の目的 宇宙、地球、生命について、宇宙の起源と構造、地球の誕生と歴史、生命の誕生と進化の歴史などの知識を深める。

学習の到達目標 現代の最先端の科学と、科学の歴史の両面から自然について考えられるようになること。

本学教育目標との関連 感性、共感、専門知識・技術、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

成績評価方法と基準 講義後に提出する小レポートの積み重ねを重視する(50%)。期末レポートあるいは中間レポート(50%)。

オフィスアワー

金曜日12時半から14時

事前にメールによる連絡をくださると助かります。

授業計画・学習の内容

学習内容

- ① 自然を観察することについて
- ② 宇宙の誕生
- ③ 宇宙の構造
- ④ 地球の誕生
- ⑤ 地球の歴史
- ⑥ 生命の誕生
- ⑦ ダーウィンの進化論 その1

- ⑧ ダーウィンの進化論 その2
- ⑨ 自然を分類する 植物
- ⑩ 自然を分類する 動物
- ⑪ 私たちの自然である身体
- ⑫ 自然とNature
- ⑬ 自然と人間の距離
- ⑭ 環境科学の歴史、環境問題
- ⑮ 講義のまとめ

2012年度以降入学生用(文化)**日本の言語A**

Japanese Linguistics A

2011年度以前入学生用(文化)**日本の言語A**

Japanese Linguistics A

学期 前期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

担当教員 川口 敦子 (人文学部)

授業の概要 日本語史のうち、総説・音韻史・文字史・語彙史の各分野について概説する。

発展科目

日本の言語B

日本語学演習

学習の目的 日本語史(総説・音韻史・文字史・語彙史)の基礎的事項について、知識を習得し、日本語とその歴史について理解することができる。

教科書 沖森卓也編著『日本語ライブラリー 日本語史概説』(朝倉書店)

学習の到達目標 日本語史(総説・音韻史・文字史・語彙史)の基礎的事項について、現代語に至る流れを理解し、基本的な専門用語を用いてそれぞれの事項について説明することができる。

成績評価方法と基準 期末試験(80%)、提出物や受講態度(20%)で総合的に判断する。

オフィスアワー 随時(必ず事前にメール等でアポイントを取ること)

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力

その他 後期の「日本の言語B」と連続する内容である。

授業計画・学習の内容

学習内容

1: ガイダンス

2: 総説

3: 音韻史①8世紀の日本語

4: 音韻史②音節構造の変遷、子音の変化

5: 音韻史③連声と連濁、アクセント

6: 文字史①漢字

7: 文字史②仮名

8: 文字史③仮名、ヲコト点

9: 文字史④仮名遣い

10: 文字史⑤ローマ字

11: 文字史⑥補助記号

12: 語彙史①語彙体系

13: 語彙史②和語

14: 語彙史③漢語

15: 語彙史④外来語

16: 試験

2012年度以降入学生用(文化)**日本の言語B**

2011年度以前入学生用(文化)**日本の言語B**

Japanese Linguistics B

Japanese Linguistics B

学期 後期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 川口 敦子 (人文学部)

授業の概要 日本語史のうち、文法史・待遇表現史・文体史・位相語史の各分野について概説する。

学習の目的 日本語史(文法史・待遇表現史・文体史・位相語史)の基礎的事項について、知識を習得し、日本語とその歴史について理解することができる。

学習の到達目標 日本語史(文法史・待遇表現史・文体史・位相語史)の基礎的事項について、現代語に至る流れを理解し、基本的な専門用語を用いてそれぞれの事項について説明することができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力

予め履修が望ましい科目 日本の言語A

発展科目 日本語学演習

教科書 沖森卓也編著『日本語ライブラリー 日本語史概説』(朝倉書店)

成績評価方法と基準 期末試験(80%), 提出物や受講態度(20%)で総合的に判断する。

オフィスアワー 随時(必ず事前にメール等でアポイントを取ること)

その他 前期の「日本の言語A」と連続する内容である。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1: ガイダンス
- 2: 文法史①用言と活用
- 3: 文法史②体言
- 4: 文法史③助詞
- 5: 文法史④助動詞・現代語への過程
- 6: 待遇表現史①あらまし
- 7: 待遇表現史②尊敬語
- 8: 待遇表現史③謙讓語・丁寧語

- 9: 文体史①漢文体
- 10: 文体史②和文体・漢文訓読体
- 11: 文体史③和漢混淆文・言文一致体
- 12: 位相語史①地域のことばの位相
- 13: 位相語史②謙讓と経緯の歴史的推移
- 14: 位相語史③男女のことばの差
- 15: 位相語史④雅俗の使い分け
- 16: 試験

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の倫理思想A**

European Ethics A

2011年度以前入学生用(文化) **生命倫理特論A**

Advanced Course in Bioethics A

学期 前期 **開講時間** 金 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

担当教員 相澤 康隆 (人文学部)

授業の概要 アリストテレスの政治思想の概説。特に、市民と国制の概念、民主主義の理念、奴隷制度を中心に説明する。

予め履修が望ましい科目 特になし。

教科書 プリントを配布する。

学習の目的 アリストテレスの政治思想に関する基礎知識を得る。

成績評価方法と基準 期末試験（持ち込みなし）で評価する。

学習の到達目標 政治思想を批判的に考察することができるようになる。

オフィスアワー 毎週月曜日13時～14時 相澤研究室（人文学部校舎3階）

本学教育目標との関連 倫理観, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力

その他 授業中の私語・スマホの使用・常習的遅刻・途中退出などの迷惑行為は厳禁。迷惑行為を繰り返す学生には単位を与えない。

受講要件 特になし。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：ガイダンス
第2回：アリストテレス政治思想の基本的原則
第3回：市民と国制の概念 (1)
第4回：市民と国制の概念 (2)
第5回：市民と国制の概念 (3)
第6回：中間の国制 (1)
第7回：中間の国制 (2)
第8回：中間の国制 (3)
第9回：民主主義の理念とその基本的構造

(1)
第10回：民主主義の理念とその基本的構造 (2)
第11回：民主主義の理念とその基本的構造 (3)
第12回：奴隷論 (1)
第13回：奴隷論 (2)
第14回：奴隷論 (3)
第15回：まとめ
*順序や内容を一部変更する場合もある。

地域文化研究総論

Introduction to the Studies of Regional Culture

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 講義

担当教員 ○永谷健、文化学科教員

授業の概要 文化学科における地域文化研究のあり方と、日本地域、アジア・オセアニア地域、ヨーロッパ・地中海地域、アメリカ地域の概要を学ぶ。

学習の目的 文化学科における地域文化研究とはどのようなものを理解する。そして、日本地域、アジア・オセアニア地域、ヨーロッパ・地中海地域、アメリカ地域に関する概括的な知識を得る。

学習の到達目標 日本地域、アジア・オセアニア地域、ヨーロッパ・地中海地域、アメリカ地域に関する概括的な知識を得て、それをふまえて、自分が専門とする地域を選択す

る。

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

成績評価方法と基準 出席と試験の総合評価

オフィスアワー 開講時に連絡する

その他 1年生の皆さんが自分の所属する地域を選択するに当たって、一番大きな判断材料となるような講義です。また、地域分けの調整が必要な場合には、この授業の成績が判断基準の一つになります。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：文化学科における地域文化研究の概要
第2～4回：日本地域の地理・歴史・言語・文学・社会と民族・思想と哲学、および日本地域の概要
第5～7回：アジア・オセアニア地域の地理・歴史・言語・文学・社会と民族・思想と哲学、およびアジア・オセアニア地域の概要
第8～10回：ヨーロッパ・地中海地域の地理・

歴史・言語・文学・社会と民族・思想と哲学、およびヨーロッパ・地中海地域の概要
第11～13回：アメリカ地域の地理・歴史・言語・文学・社会と民族・思想と哲学、およびアメリカ地域の概要
第14回：美術史、科学史、図書館・情報学の概要。地域希望届けの配布
第15回：総括、地域分けについての説明

学期 後期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 児玉克哉 (人文学部文化学科) 他

授業の概要 平和に関する様々な問題を国際的な視野から考える。紛争や核兵器の問題、環境問題など幅広く取り上げていく。

学習の目的 平和に関する知識とともに、それを実現するための考察を行うことが目的である。学生が主体的に平和の問題に関心を持って取り組めるようにする。

学習の到達目標 紛争や環境破壊などグローバルなレベルで起きている諸問題に取り組む。国際的な知見をえることとともに、それを現実の社会にどう生かしていくかという応用力を学ぶ。PBL型の教育をすることにより、学生が自ら学ぶ力を得る。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力, 指導力・協調性, 感じる力、考える力、コミュニ

ケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 『はじめて出会う平和学』有斐閣

成績評価方法と基準

発表2回 50%づつ (半期)

発表4回 25%づつ (通年)

オフィスアワー

毎週月曜16:30-18:00 児玉研究室または総合研究棟2の2階地域戦略センターにて

メールして来ると確実。kkodama@human.mie-u.ac.jp

その他 特になし

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 日本の防衛問題
2. アジアの防衛問題
3. 自衛隊
4. 憲法
5. 小グループ活動
6. 小グループ活動
7. 小グループ活動

8. 小グループ発表
9. 国連NGO
10. 市民活動
11. グローバル社会
12. 小グループ活動
13. 小グループ活動
14. 小グループ活動
15. 小グループ発表

2012年度以降入学生用(文化)**国際平和論A**
2011年度以前入学生用(文化)**国際平和論A**

International Peace Study A
International Peace Study A

学期 前期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業

担当教員 児玉克哉 (人文学部文化学科) 他

授業の概要 平和に関する知識とともに、それを実現するための考察を行うことができるように講義を進める。学生が主体的に平和の問題に関心を持って取り組めるようにする。そのためにグループ学習なども積極的に取り入れる。

学習の目的 平和に関する知識とともに、それを実現するための考察を行うことが目的である。学生が主体的に平和の問題に関心を持って取り組めるようにする。

学習の到達目標 紛争や環境破壊などグローバルなレベルで起きている諸問題に取り組む。国際的な知見をえることとともに、それを現実の社会にどう生かしていくかという応用力を学ぶ。PBL型の教育をすることにより、学生が自ら学ぶ力を得る。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受

発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 『はじめて出会う平和学』有斐閣

成績評価方法と基準

発表2回 50%づつ (半期)

発表4回 25%づつ (通年)

オフィスアワー

毎週月曜16:30-18:00 総合研究棟2の2階地域戦略センターにて

メールして来ると確実。kkodama@human.mie-u.ac.jp

その他 特になし

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 平和学講義
2. 広島・長崎講義
3. 広島・長崎講義
4. 広島・長崎活動
5. 小グループ活動
6. 小グループ発表
7. 小グループ発表

8. 地球環境問題講義
9. 地球環境問題講義
10. 地球環境問題講義
11. 小グループ活動
12. 小グループ活動
13. 小グループ活動
14. 小グループ発表
15. 振り返り

文化学セミナー（社会学・図書館情報学）

Seminar in Cultural Study (Sociology, Library and Information Science)

学期 後期 **開講時間** 月9, 10 **単位** 2 **対象** 2012年度以降入学生用(文化) **年次** 学部(学士課程): 2
年次 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 児玉克哉、江成幸、○永谷健、三根 慎二

授業の概要 社会学、社会運動論、国際社会学、図書館学・情報学などの分野に関わるセミナーです。各分野でこれから専門的な研究が進められるように、基礎知識や研究手法について理解を深めます。4人の担当者がリレー方式で授業を行います。

学習の目的 社会学、社会運動論、国際社会学、図書館学・情報学などの分野において、各自が専門的な研究に取り組むことができる。

学習の到達目標 それぞれの分野が用いる基礎概念を習得するとともに、研究方法について理解を深める。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力

ン力を総合した力

予め履修が望ましい科目 このセミナーを履修するにあたっては、2年次期末までに、文化学必修科目「社会学概論A～B、国際平和論A～B、比較社会論、学術情報論A～B」の中から最低限4単位を取得していることが望ましい。またこのセミナーと並行して、社会学概論B、国際平和論B、学術情報論Bを履修することが望ましい（ただし未履修の場合）。

教科書 各担当者が授業のなかで指示する。

成績評価方法と基準 授業への取り組み、および、各担当者が課す課題をもとに総合的に評価する。詳細はガイダンスで告知する。

オフィスアワー 詳細はガイダンスで指示する。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 児玉：「社会学の視点」

第3回 児玉：「社会学と世界」

第4回 児玉：「社会学と地域」

第5回 江成：国際社会学から地域を見る1

第6回 江成：国際社会学から地域を見る2

第7回 江成：国際社会学から地域を見る3

第8回 永谷：「格差社会」への社会学的アプローチ1

第9回 永谷：「格差社会」への社会学的アプローチ2

第10回 永谷：「格差社会」への社会学的アプローチ3

第11回 永谷：グループによる成果発表

第12回 三根：図書館・情報学とは、図書館・情報学における調査研究

第13回 三根：グループ発表

第14回 三根：グループ発表

第15回 三根：グループ発表とまとめ

2012年度以降入学生用(文化)**自然環境論A**

Physical Environment Geography A

2011年度以前入学生用(文化)**自然環境論A**

Physical Environment Geography A

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 谷口 智雅 (人文学部)

授業の概要 「水」を取り巻く環境は、水循環に係わる降水・河川・地下水から、水資源・水害に係わる利水・治水のなど多くの面にわたっており、地域の発展にとっても不可欠である。以上の観点から、地域に存在する具体的な「水」について紹介し、水に関する環境の基本を理解するとともに身近にある水に関心・理解を深めることを目的とする。

ニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 環境学概論（環境論）

発展科目

環境論演習A、B

環境特論A、B

自然環境論B

学習の目的 水に関する環境の基本を理解するとともに身近にある水に関心・理解を深めることを目標とする。

教科書 特に使用しない。パワーポイント・映像（DVD・ビデオ）等を利用して、講義を進めます。

学習の到達目標 地域の水に関する現状や問題を学習・理解することによって、各地で引き起こされている環境問題について関心を持ち、解決に向けた能力を養うことを目指す。

成績評価方法と基準 レポート70%を基本として、授業内課題20%、授業態度10%などを考慮して、総合的に評価します。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 感じる力, 考える力, コミュ

オフィスアワー 月～木曜日の空いている時間はいつでも可。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 はじめに一授業内容と進め方について

第2回 地域の水の考え方と陸水環境

第3回 身近な地域の水環境

第4回 都市内の河川

第5回 都市周辺の河川

第6回 河口域（低地）の河川

第7回 農山村地域の水辺環境

第8回 島嶼の水環境

第9回 扇状地の水環境

第10回 火山地域の地下水と河川

第11回 都市の水利用と水資源

第12回 石灰岩地域の水文環境

第13回 日本の湖沼

第14回 湧水と地下水

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**自然環境論B** Physical Environment Geography B
2011年度以前入学生用(文化)**自然環境論B** Physical Environment Geography B

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 谷口 智雅 (人文学部)

授業の概要 水はグローバル・ローカルに関わらず循環し、地域の自然現象・人間活動の基礎を形作っている。21世紀は「水の世紀」とも言われ、水に関わる課題・問題が多く挙げられている。これらを理解するためには水循環・水収支を理解することが重要であり、本科目ではこれらを中心に講義を進める。また、水に関する簡単な実習も行う。

学習の目的 水に関する調査・研究を実践するための基本的知識を獲得することを目標とする。

学習の到達目標 水環境の現状と問題を理解し、水環境調査の基礎を実践できることを目指す。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目

自然環境論A
環境学概論 (環境論)

発展科目

環境論演習A、B
環境特論A、B

教科書 特に使用しない。パワーポイント・映像 (DVD・ビデオ) 等を利用して、講義を進めます。

成績評価方法と基準 授業内課題30%、授業態度10%、レポート60%を目安として、総合的に評価します。

オフィスアワー 月～木曜日の空いてる時間はいつでも可。

その他 フィールドワークを実施予定 (詳細は授業内で説明します)

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 はじめに一授業内容と進め方について
第2回 世界の水循環とその概念
第3回 水の分布と分配-水収支の概念
第4回 水収支-流出
第5回 水収支と水利用
第6回 流域と水系
第7回 河川の基本的事項

第8回 河川の流量と流速
第9回 河川の水質
第10回 身近な水環境調査法
第11回 地域の水環境調査法
第12回 海外の水環境調査法
第13回 湧水と地下水
第14回 湖沼と湿地
第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**日本文化研究**

2011年度以前入学生用(文化)**日本研究総論**

Studies in Japanese Culture

Introduction to Japanese Studies

学期 前期 **開講時間** 月9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次 **授業の方法** 講義

担当教員 日本地域所属教員 (○遠山 敦 (人文学部))

授業の概要 日本の地域・文化についての研究入門

学習の目的 日本の地域・文化に関する各研究分野において、高度な専門研究が可能となるよう、基礎的な知識・技能を身につける。

学習の到達目標 日本の思想・歴史学・考古学・文学・言語学・地誌・社会学・民俗学などについて、基礎的な知識を得る。3年次以降の研究分野・研究テーマを考える手掛かりを得る。

授業計画・学習の内容

学習内容

日本地域所属の教員が、統一テーマに即して、各研究分野の視点から講義を行う。教員によるリレー講義の前に、受講生には統一テーマに関するレポートを課す(5月初旬に提出)。レポートの執筆の仕方、注意事項については、授業中に説明する。カリキュラムの予定は以下の通り。

1～3: オリエンテーション、事前レポートの

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 必要に応じて各教員から指示する場合がある。

成績評価方法と基準 レポート(5月初旬に提出) 30%、期末試験70%。なお、レポート未提出者と4回以上の欠席者は、受験資格を認めない。

取り組み

4～6: 日本史・考古学

7～10: 日本語・日本文学

11: 社会学

12: 地誌学

13: 哲学思想

14: 総括

15: 質疑応答

(※上記予定は、変更する場合があります)

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツ語学演習C** Seminar in German Language C
2011年度以前入学生用(文化)**ドイツ語学演習C** Seminar in German Language C

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 カン ミンギョン (人文学部)

授業の概要 言語学に関するドイツ語のエッセイを読み、それを題材に全員で議論をします。

学習の目的 言語学の様々なテーマに触れることで、言語に関する理解を深めることを目的とします。

学習の到達目標 ①ドイツ語の中・上級文法を習得すること、②ドイツ語の語彙力・読解力を向上させること、③言語学に関する様々な知見を得ることを目標とします。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ドイツ語の基本的な読解力が必要です。

予め履修が望ましい科目 「ドイツ語の言語」をあらかじめ履修しているか、平行して履修することをお勧めします。

発展科目 ドイツ語学演習D

教科書

Ernst/Freienstein/Schaipp (2011): Populäre Irrtümer über Sprache.Reclam.
Guy Deutscher (Autor), Martin Pfeiffer (Übersetzer) (2012): Im Spiegel der Sprache: Warum die Welt in anderen Sprachen anders aussieht. Deutscher Taschenbuch Verlag.

成績評価方法と基準 平常点40%、レポート60%

オフィスアワー 火曜日の3, 4限 (メールで事前に連絡してください)

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 導入

第2～3回 難しい言語とやさしい言語

第4～5回 ことばの乱れ

第6～7回 北ドイツ語と南ドイツ語

第8～9回 ドイツ語の2格と3格の話

第10～11回 名詞の性の話

第12～13回 色の話 (言語と知覚)

第14～15回 総括、ディスカッション

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツの言語D**

German Language D

2011年度以前入学生用(文化)**ドイツの言語D**

German Language D

学期 後期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle **市民開放授業**

担当教員 カン ミンギョン (人文学部)

授業の概要 言語学には、ことばの音を扱う「音韻論」、ことばの形を扱う「形態論」、ことばの構造を扱う「統語論」、ことばの意味を扱う「意味論」や「語用論」などの分野があります。この授業では、前半では「意味論」、後半では「語用論」を概観します。

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ドイツ語の基礎知識が必要です。

発展科目 ドイツ語学演習

学習の目的 ことばの意味に関する言語学の分野—意味論と語用論—の基礎を習得します。

教科書

Peter Ernst (2011): Germanistische Sprachwissenschaft. UTB basics. UTB, Stuttgart.

Meibauer, Jörg, et al. (2007): Einführung in die germanistische Linguistik. Stuttgart, Weimar: Metzler.

学習の到達目標 ①ことばの「意味」についての理解を深めること、②意味論と語用論の基本概念を習得すること、③意味論と語用論の概念を用いて実例を分析できるようになることを目標とします。

成績評価方法と基準 平常点40%、期末試験60%

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力, 実践外国語力, 感じる

オフィスアワー 火曜日の3, 4限 (メールで事前に連絡してください)

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 導入 (意味論と語用論について)

第9~10回 語用論 (1) : 「含意」と「前提」

第2~3回 意味論 (1) : 形式と意味

第11~12回 語用論 (2) : 発話行為論

第4~5回 意味論 (2) : 語彙意味論

第13~14回 語用論 (3) : 会話分析

第6~8回 意味論 (3) : 文意味論

第15回 総括

2012年度以降入学生用(文化) **イギリスの文学A**

British Literature A

2011年度以前入学生用(文化) **イギリスの文学A**

English Literature A

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 Moodle

担当教員 吉野 由起 (人文学部)

授業の概要 イギリス児童文学・ファンタジー概論：19世紀から20世紀に至るイギリス児童文学・ファンタジーの系譜を、各時代の個別の作品例に基づき、俯瞰検証する。

学習の目的

- (1)イギリス児童文学・ファンタジーの系譜とその特徴を把握する。
- (2)様々な時代に様々な作者によって書かれた作品原典に触れ、主題・構成・文体・表現等の読解分析の練習を行う。

学習の到達目標

- (1)「こども」を対象あるいは主題とする読み物の系譜、および、「不思議」を巡る想像力の系譜を把握することができるようになる。
- (2)各時代の個別の作品の原典抜粋の観察を踏まえ、イギリスにおける児童文学・ファンタジーというジャンルの特性を多角的に考察することができるようになる。
- (3)上記を通してイギリス文学・文化・社会史を垣間見るとともに、「不思議」の表現法―架空の物語の叙述に使用される様々な英語表現・レトリック・モチーフを観察する。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対

話力、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 「イギリス文学・歴史・文化・社会」「英語」に関連する科目、もしくは地域を問わず「文学」に関連する科目

発展科目 「イギリス文学・歴史・文化・社会」「英語」に関連する科目、もしくは地域を問わず「文学」に関連する科目

教科書 授業時に指示します

成績評価方法と基準

授業時のコメント・ペーパーなど 20%
学期末レポート 80%

オフィスアワー 月曜9, 10限 吉野研究室

その他

イギリス文学史上、児童文学・ファンタジーは「名作」として読み継がれる作品に富み際立って豊饒なジャンルです。特に「黄金時代」とされる19世紀から20世紀に焦点を絞り、具体的な作品例を参照つつ、イギリス文学において「こどものための読み物」がどのような歴史を辿り、「不思議」がどのように想像され、表現され、物語化されているかを考えながら、その全体像を捉えてみたいと思います。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：イントロダクション

(1)児童文学とは何か、ファンタジーとは何か―イギリスにおける児童文学・ファンタジー文学の起源と位置付け(2)スケジュールの相談、参照すべき辞書・辞典の解説等

第2回：おとぎ話の時代、イギリスにおける「グリム童話」の受容、「本物のおとぎ話」を巡る論争と

おとぎ話の「童話化」：Fairytale and Folklore, Mother Goose

第3回：文豪の手による児童文学：William Thackeray & Charles Dickens

第4回：黄金時代の幕開けと変容する縮尺：Carroll, Lewis. Alice's Adventures in Wonderland

第5回：「自然」を描く：Potter, Beatrix. A Tale of Peter Rabbit.

第6回：異界と社会の合わせ鏡：George Mac-

Donald. The Princess and Goblin; At the Back of the North Wind

第7回：子供部屋からの逸脱、冒険物語と拡がる時空? : Barrie, James Mathew. Peter Pan.

第8回：試練と成長の物語 : Burnet, Francis. The Secret Garden; A Little Princess

第9回：都市ロンドンと子供部屋の神話的小宇宙 : Traverse, P.L. Mary Poppins.

第10-11回：クロニクルを描く (I) : Lewis, C.S.

The Chronicle of Narnia.

第12回：クロニクルを描く (II): Tolkien, J.R.R. The Lord of the Rings.

第13回：もう一つの湖水地方 : Ransome, Arthur. Swallows and Amazons.

第14回：日常的空間と「見えない」場所 : Norton, Mary. The Borrowers.

第15回：まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **日本考古学特講A**

Lecture on Japanese Archaeology A

2011年度以前入学生用(文化) **日本考古学特講A**

Lecture on Japanese Archaeology A

学期 前期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 毛利光俊彦(非常勤講師)

授業の概要 古代の日本・中国・朝鮮から出土した食事具や生活具などを文献・絵画資料とも比較し、食・住生活の歴史を辿る。

学習の目的 日本文化の成り立ちを考える。

学習の到達目標 食・住生活の歴史について、具体的で深い知識を取得し、教育の場や博物館展示などに役立つ実力を付ける。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 日本考古学特講C～H

教科書 毎回1～2枚の資料を配布(資料に主要参考文献を注記)

成績評価方法と基準 食・住生活に関するレポート(自分で疑問を抱き、謎解きする点を重視)60%、受講態度(4回不定期に出欠をとる)40%

オフィスアワー 木曜日14:30～15:00、非常勤講師控室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 古代東アジア史概説

第2回 古代食生活入門

第3回 貴族の食復元

第4回 金属製食器の歴史Ⅰ

第5回 金属製食器の歴史Ⅱ

第6回 ガラス器の製作と流通Ⅰ

第7回 ガラス器の製作と流通Ⅱ

第8回 箸と匙の歴史

第9回 茶と酒の歴史

第10回 発火具と灯の歴史

第11回 椅子・机及び礼儀作法の歴史Ⅰ

第12回 椅子・机及び礼儀作法の歴史Ⅱ

第13回 お香の歴史

第14回 風呂・トイレの歴史

第15回 天文・暦と時計の歴史

2012年度以降入学生用(文化) **日本考古学実技演習A**

Practice in Japanese Archaeology A

2011年度以前入学生用(文化) **日本考古学実技演習A** Practice in Japanese Archaeology A

学期 前期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **対象** 考古学を専攻する者、または学芸員資格を取得するために博物館学関連科目を受講ないし受講予定の者に限る。 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 小澤 毅(人文学部)

授業の概要 考古学に不可欠な基礎的技術を実習をつうじて修得する。

実技演習Aの履修者のみ、日本考古学実技演習Bの受講を認める。

学習の目的 遺構や遺物の記録と資料化のために必要な基礎的実技を学習する。

予め履修が望ましい科目

考古学・文化財学概論A・B
博物館学関連科目

学習の到達目標 測量や遺構・遺物の実測の目的と原理を理解し、それらを適切に遂行できる知識と技術を身につける。

発展科目 日本考古学特講A～H

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 問題解決力, 情報受発信力

教科書 『発掘調査のてびき一集落遺跡発掘編一』同成社、2010年

受講要件 日本考古学実技演習A・Bのどちらかだけの受講は認めない。また、日本考古学

成績評価方法と基準 受講態度60%、実技成果40%

オフィスアワー 火曜日15:00～16:00

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 測量の意義と使用機器
第2回～第4回 水準測量
第5回 三角測量と三辺測量

第6回～第9回 多角測量
第10回 GNSSと三次元レーザー測量
第11回～第15回 遺構実測と地形測量

2012年度以降入学生用(文化) **日本考古学実技演習B**

Practice in Japanese Archaeology B

2011年度以前入学生用(文化) **日本考古学実技演習B** Practice in Japanese Archaeology B

学期 後期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **対象** 考古学を専攻する者、または学芸員資格を取得するために博物館学関連科目を受講ないし受講予定の者に限る。 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 小澤 毅(人文学部)

授業の概要 考古学に不可欠な基礎的技術を実習をつうじて修得する。

実技演習Aの履修者のみ、日本考古学実技演習Bの受講を認める。

学習の目的 遺構や遺物の記録と資料化のために必要な基礎的実技を学習する。

予め履修が望ましい科目

考古学・文化財学概論A・B
博物館学関連科目

学習の到達目標 測量や遺構・遺物の実測の目的と原理を理解し、それらを適切に遂行できる知識と技術を身につける。

発展科目 日本考古学特講A～H

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 問題解決力, 情報受発信力

教科書 『発掘調査のてびき—整理・報告書編一』同成社、2010年

受講要件 日本考古学実技演習A・Bのどちらかだけの受講は認めない。また、日本考古学

成績評価方法と基準 受講態度60%、実技成果40%

オフィスアワー 火曜日15:00～16:00

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 遺物整理概説

第2回～第9回 遺物の観察と実測

第10回～第15回 拓本と製図・写真

2012年度以降入学生用(文化) **日本考古学特講C**

Lecture on Japanese Archaeology C

2011年度以前入学生用(文化) **日本考古学特講C**

Lecture on Japanese Archaeology C

学期 前期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業 **市民開放授業**

担当教員 山中 章(非常勤講師)

授業の概要 日本古代木簡と出土遺跡に関する講義

講義の講義を受講していることが望ましい。

学習の目的 日本古代宮都を中心に出土する木簡の内容を解説しながら、木簡を出土した遺跡・遺構の性格、機能、成立年代などを分析し、それらが日本の古代史にどのような影響(役割)を果たしたかについて考える。

発展科目 日本考古学特講A～H

教科書 授業に必要な資料はプリントして配布するが、基本テキストとして、今泉隆雄『古代木簡の研究』(吉川弘文館、1998年)を用いる

学習の到達目標 日本古代木簡及び木簡出土遺跡の歴史的意義を理解する。

成績評価方法と基準 受講態度50%、レポート50%

本学教育目標との関連 主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

オフィスアワー 申し出があれば別途時間を指定する。

予め履修が望ましい科目 他の日本考古学特

その他 期間中に一度、出土木簡の現物観察のため、奈良または京都で課外授業を行う。開講日は調整して決める。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス①—日本古代木簡について—
第2回 ガイダンス②—日本古代木簡の製作技法—

神遺跡と蝦夷饗応—

第8回 日本古代木簡④ 新城の木簡と天武朝の造都

第3回 中国古代木簡概説①—「居延漢簡」と長城管理—

第9回 日本古代木簡⑤ 藤原宮の木簡1

第10回 日本古代木簡⑥ 藤原宮の木簡2

第4回 中国古代木簡概説②—「居延漢簡」と封緘機能—

第11回 日本古代木簡⑦ 藤原京の木簡1

第12回 日本古代木簡⑧ 藤原宮の木簡2

第5回 日本古代木簡① 飛鳥時代の木簡1—日本最古の木簡と難波長柄寺礎宮—

第13回 日本古代木簡⑨ 7世紀の地方木簡—東日本の木簡—

第14回 日本古代木簡⑩ 7世紀の地方木簡—西日本の木簡—

第6回 日本古代木簡② 評制・五十戸一里制下の木簡—郡評論争の決着—

第15回 まとめ

第7回 日本古代木簡③ 飛鳥諸遺跡の木簡—石

2012年度以降入学生用(文化) **日本考古学特講D**

Lecture on Japanese Archaeology D

2011年度以前入学生用(文化) **日本考古学特講D**

Lecture on Japanese Archaeology D

学期 後期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業 **市民開放授業**

担当教員 山中 章(非常勤講師)

授業の概要 日本古代の宮都出土木簡や地方官衙出土木簡の内容や検出遺構を分析し、古代史研究にどのような研究材料を与えたかについて学習する。

学習の目的 日本古代木簡を通して日本古代国家の政治・経済・文化を理解する。

学習の到達目標 古代日本木簡の全体像を学習し、古代木簡が古代国家においてどのような役割を果たしたのかを学習するとともに、木簡から明らかになった古代国家の政治・経済・文化について学ぶ。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 情報受発信力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 前期・後期ともに受講すること

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 ガイダンス① 8世紀の日本古代木簡について
- 第2回 ガイダンス② 日本古代木簡と考古学—木簡籌木論を検証する—
- 第3回 日本古代木簡① 平城宮の木簡1—文書木簡—
- 第4回 日本古代木簡② 平城宮の木簡2—木簡と宮城内官衙—
- 第5回 日本古代木簡③ 平城宮の木簡3—貢進物付札木簡—
- 第6回 日本古代木簡④ 平城京の木簡1—長屋王家木簡—
- 第7回 日本古代木簡⑤ 平城京の木簡2—二条大路木簡—

予め履修が望ましい科目 考古学・文化財学概論A・B、日本考古学特講A～H

発展科目 日本考古学特講A～H

教科書 今泉隆雄『古代木簡の研究』（吉川弘文館、1998年）を基本テキストとして使用し、必要に応じて関係論文のコピーを配布する。

成績評価方法と基準 日常受講態度60%、レポート40%

オフィスアワー 求めに応じて時間を設定する。

その他 学期中に一度、平城宮跡資料館の木簡展示を見学する。見学日は相談の上、土曜日または日曜日とする。

- 第8回 日本古代木簡⑥ 長岡京の木簡1—太政官厨家木簡と地子—
- 第9回 日本古代木簡⑦ 長岡京の木簡2—太政官厨家木簡と造宮官司—
- 第10回 日本古代木簡⑧ 長岡宮の木簡3—春宮坊木簡—
- 第11回 日本古代木簡⑨ 8世紀の地方木簡1—多賀城木簡—
- 第12回 日本古代木簡⑩ 8世紀の地方木簡2—大宰府木簡—
- 第13回 日本古代木簡⑪ 8世紀の地方木簡3—但馬国府木簡—
- 第14回 日本古代木簡⑫ 8世紀の地方木簡4—長登木簡—
- 第15回 まとめ

文化学セミナー（文化資源学）

Seminar in Cultural Study (Cultural-resources Study)

学期 後期 **開講時間** 火1, 2 **単位** 2 **対象** 2012年度以降入学生用(文化) **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 小澤毅、山田雄司、○塚本明、川口敦子、吉丸雄哉、坂堅太、高井悠子

授業の概要 日本文化を通時的に考察する能力と、古文書・出土文字資料・金石文・古典籍・絵画資料などの文化的資料を扱える能力とを修得する。語学・文学と史学との垣根を越えて、さまざまな体裁の資料を横断し、それらを吟味する基礎的な力を養う。

学習の目的 今後学んでいくこととなる考古学・日本史・日本文学・日本語学の基本的技術を習得する。

学習の到達目標 考古学・日本史・日本文学・日本語学の資料の扱い方について習得する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術

予め履修が望ましい科目 このセミナーを履

修するにあたっては、2年次前期末までに、文化学必修科目「文学概論E～H」の中から最低限2単位、または「歴史学概論A～B、考古学・文化財学概論A～B」の中から最低限2単位を取得していることが望ましい。

発展科目 考古学・日本史・日本文学・語学に関する基礎的技法

成績評価方法と基準 期末試験100%。欠席4回以上は不可。

オフィスアワー 塚本明 木曜日4コマ目、人文学部資料室（要予約）。その他各教員については、各自連絡のこと。

その他 日本史、考古学、日本文学、日本語学を専門に学習することを希望する学生向けの授業である。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2・3回 小澤毅 考古学

第4・5回 山田雄司 日本中世史

第6・7回 塚本明 日本近世史

第8・9回 高井悠子 中古文学

第10・11回 吉丸雄哉 近世文学

第12・13回 坂堅太 近代文学

第14・15回 川口敦子 日本語学

2012年度以降入学生用(文化)**アジア・オセアニアの歴史C**
History of Asia and Oceania C
2011年度以前入学生用(文化)**アジア・オセアニアの歴史C** History of Asia and Oceania C
学期 前期 開講時間 火 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 酒井 恵子 (人文学部)

授業の概要 前近代中国において女性はどうの
ような状況に置かれ、どうあるべきだと考え
られていたのか。操を守った多くの女性が地
方志に立伝された清代に焦点をあて、当時の
社会状況および伝の執筆者である知識人のお
かれていた状況を概観したうえで考察する。

学習の目的 史料や通説を当時の状況や執筆
目的を理解したうえで批判的にみる能力を身
につける。

学習の到達目標 時代の特徴を理解したうえ
で、清代の女性観について説明することがで
きる。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 幅広い

教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 情報受発
信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーショ
ン力を総合した力

受講要件 特になし。

教科書 教科書は使用せず、毎回プリントを
配布する。

成績評価方法と基準 小テスト2回30%、レ
ポート50%、リアクションペーパー20%、計
100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 月曜日13:00~14:00、木曜日
10:00~11:00、酒井研究室(共通教育4号館5
階)

授業計画・学習の内容

学習内容

第1~2回 元明時代の女性
第3~6回 清代の国家と社会

第7~10回 清代の知識人
第11~14回 女性観
第15回 まとめ

2011年度以前入学生用(文化)**日本の文学L**

Japanese literature L

2012年度以降入学生用(文化)**日本の文学L**

Japanese literature L

学期 前期集中 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

担当教員 柳瀬 善治 (非常勤講師)

授業の概要 戦前の文学作品と文芸評論、及び「近代の超克」と呼ばれる同時代の思想状況、並びに当時の植民地や戦争などの歴史的状況について概説し、その特質と歴史性を明らかにする。それぞれの作家や思想家の研究状況についても随時触れる。

学習の目的 日本近代文学を研究する基本的な知識と手法を修得する。

学習の到達目標

日本近代文学および比較文学の文学史を追いながら、歴史的社会的背景と関連づけて考える。

日本近代文学および比較文学を研究する基本的な知識と手法を修得する。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 感

じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 特に指定しないが、戦前の文学作品をいくつか読んでおくことが望ましい。

成績評価方法と基準 授業でのACTIVITY 50%
筆記試験50%

オフィスアワー 授業の休憩時間に質問等を受け付ける。

その他 本講義は担当教員のオリジナルの観点を数多く含むので、答案・レポート作成の際に、ネット上の知識をコピーしても対策とはならない。授業の内容を踏まえて、必ず参考文献の出典を明記し、かつ自分独自の考察をなすようにすること。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 内容説明

第2回 前提1 マルクス主義と転向

第3回 前提2 ロマン主義—理論と歴史

第4回 前提3 ナショナリズム—理論と歴史

第5回 前提4 ポストコロニアリズム

第6回 小林秀雄と『文学界』

第7回 『日本浪漫派』の動向

第8回 転向小説と私小説

第9回 小説の実験とその帰結

第10回 日本文学と戦争1—植民地と文学 横光利一を中心に

第11回 日本文学と戦争2—イスラム圏との対応

第12回 「近代の超克」1—京都学派

第13回 「近代の超克」2—文学者の発言

第14回 「近代の超克」3—映画・宗教論など

第15回 筆記 試験

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア史演習C**
Seminar in History of Asia and Oceania C
2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア史演習C**
Seminar in History of Asia and Oceania C

学期 前期 **開講時間** 火 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **履修の方法** 演習
担当教員 酒井 恵子 (人文学部)

授業の概要 前近代中国への理解を深めるために、漢文史料の読み方を学ぶ。

学習の目的 前近代中国の漢文史料を読解する技術を習得する。

学習の到達目標 前近代中国の漢文史料の大意を読み取れるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

教科書 教科書は使用せず、講読史料は印刷して配布する。漢和辞典は必ず持参すること。

成績評価方法と基準 平常点(予習状況と史料読解度) 80%、レポート20%、計100%。
(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 月曜日13:00~14:00、木曜日10:00~11:00、酒井研究室(共通教育4号館5階)

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2~14回 史料講読

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **イギリス文学演習K**

Seminar in English Literature K

2011年度以前入学生用(文化) **イギリス文学演習**

Seminar in English Literature

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

担当教員 赤岩隆

授業の概要 シェイクスピアの『リア王』を読む

予め履修が望ましい科目 特になし

学習の目的 シェイクスピアの代表作のひとつを読むことを通じて、近代以前のイギリスについて知見を深める

発展科目 イギリス文学演習L

教科書 King Lear(Penguin)

学習の到達目標 近代以降とは異なる美の有り様を知る

成績評価方法と基準 レポート及び研究ノート

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

オフィスアワー 火曜12:00~13:00

受講要件 特になし

その他 馴れない英語を目にすることになるが、翻訳等を十分に活用しつつ諦めずに続ける

授業計画・学習の内容

学習内容

毎回、ハンドアウトを配る。次回の予定を伝え、その分の予習をしてくる。あわせて、研究ノートを作成してゆく。

第1回 導入

第2回～第14回 作品精読

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **イギリス文学演習L**

Seminar in English Literature L

2011年度以前入学生用(文化) **イギリス文学演習**

Seminar in English Literature

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

担当教員 赤岩隆

授業の概要 シェイクスピアの『マクベス』を読む

予め履修が望ましい科目 イギリス文学演習K

学習の目的 シェイクスピアの代表作のひとつを読むことを通じて、近代以前のイギリスについて知見を深める

発展科目 特になし

教科書 Macbeth(Penguin)

学習の到達目標 近代以降とは異なる美の有り様を知る

成績評価方法と基準 レポート及び研究ノート

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

オフィスアワー 火曜12:00~13:00

受講要件 特になし

その他 馴れない英語を目にすることになるが、翻訳等を十分に活用しつつ諦めずに続ける

授業計画・学習の内容

学習内容

毎回、ハンドアウトを配る。次回の予定を伝え、その分の予習をしてくる。あわせて、研究ノートを作成してゆく。

第1回 導入

第2回～第14回 作品精読

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **文学概論B**

Introduction to English and American Literature

2011年度以前入学生用(文化) **英米文学概論B**

Introduction to English and American Literature

学期 後期 **開講時間** 水 1, 2 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 赤岩隆

授業の概要 イギリス文学について、ときにアメリカやフランスの文学と比較しながら、その歴史を概観する

受講要件 文学概論A

予め履修が望ましい科目 特になし

学習の目的 イギリス文学の概要を知る

発展科目 特になし

学習の到達目標 一般的なイギリス史の中にイギリス文学を定着させる

教科書 適宜指導

成績評価方法と基準 レポート及び研究ノート

本学教育目標との関連 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

オフィスアワー 火曜12:00~13:00

その他 特になし

授業計画・学習の内容

学習内容

毎回、ハンドアウトを配る。適宜読むべき作品を案内する。あわせて、受講生各自が研究ノートを作成してゆく。

第1回イントロダクション

第2回～第8回 近代

第9回～第14回 近代以前

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**中国の文学C**
2011年度以前入学生用(文化)**中国の文学C**

Chinese Literature C
Chinese Literature C

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 花尻奈緒子 (人文学部)

授業の概要 「モダナイゼーションと雅俗」をキーワードとし、中国近現代文学史上の重要な論争・運動、文学作品に関わる作品・評論等を通して考察する。回によっては映像も使用する。

学習の目的 近代中国文学のあゆみをまず知識として把握し、「現代化(近代化)」の文学・文学史との関わりを理解したうえで、自身の興味に関連して論じられるようになる。

学習の到達目標 文学関連の論文・資料および作品を通して、多角的視点から問題を認識・表現できるようになる。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2～3回 中国の近現代通俗文学概説

第4～6回 五四新文化運動、現代化と雅俗

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力

予め履修が望ましい科目 中国、文学関連の科目・中国語

発展科目 中国文学演習C, D

教科書 授業時に指示する。

成績評価方法と基準 レポート50%、受講時の取り組み50%

オフィスアワー 在室時は可

第7～8回 「兩個翅膀論」論争

第9～11回 文芸講話と十七年文学の通俗性

第12～14回 「金庸現象」と雅俗の問題

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**中国の文学D**
2011年度以前入学生用(文化)**中国の文学D**

Chinese Literature D

Chinese Literature D

学期 後期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 花尻奈緒子 (人文学部)

授業の概要 「モダン／ポストモダン」「民間文化」「脱政治」をキーワードとし、文化大革命後の重要な論争・運動、文学作品に関わる作品・評論等を通して考察する。回によっては映像も使用する。

学習の目的 文化大革命以降の中国文学のあゆみをまず知識として把握し、イデオロギー／脱イデオロギーの文学・文学史との関わりを理解したうえで、自身の興味に関連して論じられるようになる。

学習の到達目標 文学関連の論文・資料および作品を通して、多角的視点から問題を認識・表現できるようになる。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2～3回 文化大革命と収束後の文学（傷痕文学）

第4～5回 尋根文学

本学教育目標との関連 感性、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力、情報受発信力

予め履修が望ましい科目 中国、文学関連の科目・中国語

発展科目 中国文学演習C, D

教科書 授業時に指示する。

成績評価方法と基準 レポート50%、受講時の取り組み50%

オフィスアワー 在室時は可

第6～7回 文化熱・『河殤』まで

第8～9回 「重写文学史」・激進主義批判

第10～12回 人文精神討論・民間文化再提起

第13～14回 ポスティズム

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**中国文学演習C** Seminar Chinese Literature C
2011年度以前入学生用(文化)**中国文学演習C** Seminar Chinese Literature C

学期 前期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 花尻奈緒子 (人文学部)

授業の概要 主に中国語で書かれた中国近現代文学・文学史に関わる資料を精読し、回ごとの担当者が概要と問題点を発表する。資料は第一回で配布するものを使用するが、特に希望の資料がある場合はこれに限らない。

学習の目的 自身の発表準備およびディスカッションを通して、中国語読解能力を高め、中国近現代文学への理解を深める。

学習の到達目標 中国語で書かれた論文を精読し、関連資料を探す作業を通して、文学研究の基礎的な方法を習得する。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション,

主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力

受講要件 辞書を用いて中国語が読解可能なレベルの中国語能力があること。

予め履修が望ましい科目 中国語 I 文法・講読、中国の文学C、D

発展科目 中国の文学C, D

教科書 授業時に指示する。

成績評価方法と基準 出席50% 発表50%

オフィスアワー 在室時は可

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス、受講者の能力確認

第2回 担当資料の説明およびデモンストレー

ション

第3回～第14回 担当者による発表および討論

第15回 総括討論

2012年度以降入学生用(文化)**中国文学演習D** Seminar Chinese Literature D
2011年度以前入学生用(文化)**中国文学演習D** Seminar Chinese Literature D
学期 後期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習
授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 花尻奈緒子 (人文学部)

授業の概要 主に中国語で書かれた中国近現代文学・文学史に関わる資料を精読し、回ごとの担当者が概要と問題点を発表する。資料は第一回で配布するものを使用するが、特に希望の資料がある場合はこれに限らない。

学習の目的 自身の発表準備およびディスカッションを通して、中国語読解能力を高め、中国近現代文学への理解を深める。

学習の到達目標 中国語で書かれた論文を精読し、関連資料を探す作業を通して、文学研究の基礎的な方法を習得する。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション,

主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的
思考力, 情報受発信力, 実践外国語力

受講要件 辞書を用いて中国語が読解可能なレベルの中国語能力があること。

予め履修が望ましい科目 中国語Ⅰ文法・講読、中国の文学C、D

発展科目 中国の文学C、D

教科書 授業時に指示する。

成績評価方法と基準 出席50% 発表50%

オフィスアワー 在室時は可

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス、受講者の能力確認

第2回 担当資料の説明およびデモンストレー

ション

第3回～第14回 担当者による発表および討論

第15回 総括討論

2012年度以降入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海文化研究**
Studies in European & Mediterranean Cultures
2011年度以前入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海研究総論**
Introduction to European and Mediterranean Studies

学期 前期 **開講時間** 月9,10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次 **授業の方法** 講義

担当教員 ヨーロッパ・地中海地域所属の教員

授業の概要

ヨーロッパ・地中海文化研究入門
それぞれの専門分野の観点からみたヨーロッパ・地中海地域の文化の特徴について

本学教育目標との関連 感性, 課題探求力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

発展科目 ヨーロッパ・地中海地域の諸科目

学習の目的 ヨーロッパ・地中海という地域について認識を深め、自身の研究課題を見つける

教科書 特になし

成績評価方法と基準 平常点とレポート

学習の到達目標 3年次以降の課題を見つける

オフィスアワー 水曜10:30-11:30 服部研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

ヨーロッパ・地中海地域所属の教員がリレー方式でそれぞれの専門分野の観点から、ヨーロッパ・地中海地域の文化の特徴について講義を行う。

第1回～第15回 リレー講義

*第1回目の始めに全体の流れについて説明する。

*各講義の担当教員については、開講日に案内する。

文化学セミナー（西洋哲学・西洋思想）

Seminar in Cultural Study (European Philosophy & European Thought)

学期 後期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 2

年次 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 相澤康隆 (人文学部)

田中綾乃 (人文学部)

○薄井尚樹 (人文学部)

授業の概要 哲学であつかわれる、自由、心、幸福といったトピックは、そのままではとても抽象的で、なかなか理解することが難しいものです。そんなときにしばしば使われるのが「思考実験 thought experiment」と呼ばれる方法です。思考実験では、ある状況を想像し、そこでどんな事態が生じるかを考えてみることで、なかなか理解しづらいトピックの実質を明らかにしようとしています。本講義では、さまざまな思考実験を考察しながら、哲学の基本問題についての理解を深めていきます。

学習の目的

- ・西洋哲学の基礎知識を獲得する。
- ・論理的思考力、批判的思考力を向上させる。

学習の到達目標

- ・思考実験に関する基礎知識を得る。
- ・哲学的な思考法を身につける。

授業計画・学習の内容

学習内容

各回の発表者が作成したレジュメをもとにして、参加者全員で討論を行う。詳細は初回の授業時に説明する。

第1回：イントロダクション

第2回：思考実験の概説

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 セミナーであるため、受講者同士の自発的な対話、討論が求められる。

予め履修が望ましい科目 このセミナーを履修するにあたっては、2年次前期末までに、またはこのセミナーと並行して、文化学必修科目「哲学概論A~B、倫理学概論A~D、比較思想、生命倫理論A~B」の中から4単位程度を取得することが望ましい。

教科書 テキストは初回時に指示する。

成績評価方法と基準 レジュメの質と授業中の積極的発言によって評価する。

オフィスアワー 水曜日12:00~13:00 思想資料室 (人文学部校舎三階)

第3回~第6回：倫理学における思考実験

第7回~第10回：心の哲学における思考実験

第11回~第14回：ひとのありかたに関わる思考実験

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの民族と文化A**

Ethnology of Asia and Oceania A

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの民族と文化A**

Ethnology of Asia and Oceania A

学期 前期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

担当教員 深田淳太郎(人文学部)

授業の概要 オセアニア地域研究についての入門講義。人間の移動、居住を拒む大海原「太平洋」は、いつ、どのように人類の歴史に登場してきたのか、また我々が現在生きているヨーロッパ中心の世界にいかに取り込まれてきたのかについて、特に「他者との接触」という点に注目して考える。

学習の目的 オセアニア地域における人々の移動と接触について学ぶ。「原住民」である太平洋諸島民はどのようにして「絶海の孤島」にたどり着いたのか。また彼らは島によって異なる多様な環境にどのように対応して生活を築いていったのか。さらに、そこにヨーロッパ人がどのように訪れ、異なる文化の間での接触がいかなる状況を生み出したのか。具体的な事例を多く取り上げ、人間が「他者」をどのように眺め、また捉えようとするのかについて学ぶ。

学習の到達目標

- ・現在オセアニア地域に暮らしている人々の生活について知る。
- ・オセアニア地域の歴史的な成り立ちを理解

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1 導入
- 2 人類はいかに太平洋の孤島にたどり着いたか？コンチキ号とホクレア号
- 3 人類はいかに太平洋の孤島にたどり着いたか？太平洋を渡った航海民族
- 4 多様な環境の中で生きる：珊瑚の島から火山島まで
- 5 言語の多様性：600万人の人口に800の言葉？
- 6 ヨーロッパ人による「発見」：世界地図に太平洋はいつあらわれた？
- 7 ヨーロッパ人との接触史：捕鯨、お香、ココ

する。

- ・民族が移動する中で「他者」との接触が、それぞれの人々の文化や生活にどのような影響を与えているのかを理解する。

本学教育目標との関連 感性、共感、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、批判的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

発展科目 アジア・オセアニアの民族と文化、アジア・オセアニアの社会、文化人類学関係、アメリカの民族と文化など

教科書 特定の教科書は用いない

成績評価方法と基準

コメントシートなど平常点30%
期末試験(もしくはレポート)70%

オフィスアワー

木曜3-4限は研究室にいますようにしますので、なにか相談があれば遠慮無く来て下さい。それ以外の時間も研究室に灯りがついていれば訪ねて来てもらって構いません。

ナツ、性病

- 8 ハワイの歴史と文化：カメハメハ王朝の盛衰
- 9 オーストラリアの歴史と文化1：アボリジナルの大地
- 10 オーストラリアの歴史と文化2：囚人の島からゴールドラッシュ
- 11 オーストラリアの歴史と文化3：裸足の1500マイル
- 12 観光産業1 南の島の楽園
- 13 観光産業2 「食人族」を見に行こう？
- 14 観光産業3 元祖!? バンジージャンプ
- 15 まとめ
(各回の内容はあくまでも予定です。)

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの歴史D**

History of Asia and Oceania D

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの歴史D History of Asia and Oceania D**

学期 後期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義
担当教員 酒井 恵子 (人文学部)

授業の概要 近代化を進める中国において女性の位置づけも変化する。清末民国期の社会状況および知識人のあり方を概観したうえで、女性への評価がどのように変化していったのか、女性自身がどうあるべきだと考えたのかを考察する。

学習の目的 史料や通説を当時の状況や執筆目的を理解したうえで批判的にみる能力を身につける。

学習の到達目標 清末民国期の状況を理解したうえで、女性の位置づけの変化を説明することができる。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 幅広い

教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

教科書 教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。

成績評価方法と基準 小テスト2回30%、レポート50%、リアクションペーパー20%、計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 月曜日13:00~14:00、木曜日10:00~11:00、酒井研究室(共通教育4号館5階)

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 現在の中国の女性

第2~5回 王朝から国民国家へ

第6~10回 近代化と知識人

第11~14回 女性解放運動

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**アジア・オセアニア史演習D**
Seminar in History of Asia and Oceania D
2011年度以前入学生用(文化)**アジア・オセアニア史演習D**
Seminar in History of Asia and Oceania D

学期 後期 **開講時間** 火 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **履修の方法** 演習
担当教員 酒井 恵子 (人文学部)

授業の概要 前近代中国への理解を深め、史料にもとづいた議論ができるようになるために、漢文史料の読解力を向上させる。

学習の目的 前近代中国について史料にもとづいた議論ができるようになるために、漢文史料を読解する技術を習得する。

学習の到達目標 前近代中国の漢文史料を正確に読解できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 アジア・オセアニア史演習C

教科書 教科書は使用せず、講読史料は印刷して配布する。漢和辞典は必ず持参すること。

成績評価方法と基準 平常点(予習状況と史料読解度)80%、レポート20%、計100%。
(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 月曜日13:00~14:00、木曜日10:00~11:00、酒井研究室(共通教育4号館5階)

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2~14回 史料講読

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**アジア・オセアニアの民族と文化B**
Ethnology of Asia and Oceania B
2011年度以前入学生用(文化)**アジア・オセアニアの民族と文化B**
Ethnology of Asia and Oceania B

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 深田淳太郎(人文学部)

授業の概要 アジア・オセアニア地域には実に多様な形で人間の生が営まれている。これは多様な人間が存在しているだけでなく、同時に多様な「人間観」が存在しているということでもある。本講義では、様々な地域における多様な人間観について知り、その上で私たち自身がいかなる人間観を持っているのかについて改めて考え直してみたい。

学習の目的 人間観という、それぞれの個人としての人間をどのような存在として捉えるかという問題設定であるようにも思えるが、実際にそこで問題となっているのは人間と人間、人間ともの、人間と社会の間の関係である。人間は、特定の社会的状況の中におかれて、初めて「人間」たり得る。さて、ではその社会的状況とはどのようなものか？これはおそらくは地域や時代によって異なるものであり、従ってなにかが「人間」であるのかは多様なものでありうるということが予測される。この講義ではこのような人間存在の多様なあり方について、アジア・オセアニアの緒社会の事例を数多く挙げながら考えていく。

学習の到達目標

- ・アジア・オセアニア地域を含む世界には、

多様な「人間」と「人間観」が存在していること理解できる。

・その上で自分自身がどのような「人間」観を持っているのかについて考えることができ、そのような「人間」のあり方を相対化することができる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 アジア・オセアニアの民族と文化、アジア・オセアニアの社会、文化人類学関係、アメリカの民族と文化

教科書 特定の教科書は使用しない

成績評価方法と基準

コメントシート、発言など平常点が30%
期末試験（あるいはレポート）が70%

オフィスアワー

木曜3-4限は研究室にいるようにしますので、なにか相談があれば遠慮無く来て下さい。それ以外の時間も研究室に灯りがついていれば訪ねて来てもらって構いません。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1 導入
- 2 人間の条件
- 3 私の心1：現代日本
- 4 私の心2：フィジーの自分探し
- 5 責任の配分1：パプアニューギニア高地における浮気の責任
- 6 責任の配分2：インドネシア、フローレス島における「天罰」
- 7 責任の配分3：
- 8 討論：自己決定論、自己責任論から考える
- 9 私の身体1：臓器移植の人類学

- 10 私の身体2：移植される臓器と人格
- 11 私の身体3：インドにおける生殖医療ツーリズム
- 12 私の生命1：「人間」はいつ生まれるのか？の文化的多様性
- 13 私の生命2：「人間」はいつ死ぬのか？「脳死」から考える。
- 14 討論：「尊厳死」から考える。人間の生命は誰のものか？
- 15 まとめ
(あくまでも予定ですので変更することもおおいにあります)

2012年度以降入学生用(文化)**アジア・オセアニアの社会E**
Asian and Oceanian Societies E
2011年度以前入学生用(文化)**アジア・オセアニアの社会E**
Asian and Oceanian Societies E

学期 前期 **開講時間** 木 1, 2 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義
担当教員 深田淳太郎(人文学部)

授業の概要 人間は一人では生きていけない。自らを取り巻く自然環境を利用し、周囲にいる人々と様々な形で関係し、いろいろなモノを交換し、助け合うことではじめて生きていくことが出来る。経済史家カール・ポランニーはこのような、人間が生きていくための周囲の環境との様々なやり取りを指して「実体的な経済」と呼んだ。本講義では、アジア・オセアニア地域で暮らしているさまざまな社会について、この「実体的な経済」の観点から見ていく。

学習の目的 アジア・オセアニア地域におけるいくつかの社会の事例を取り上げ、「実体的な経済」の観点から捉え直していく。当該地域における人々の多様な生のあり方について学ぶと同時に、より普遍的な意味で人間の社会がどのように成り立っているのかについて考える。

学習の到達目標

- ・アジア・オセアニアに暮らす多様な人々の生活について知る。
- ・われわれ自身の社会も含めて、人間の社会

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 導入
- 第2回 生業の多様性：狩猟採集民、農耕民、牧畜民、漁労、
- 第3回 「石器時代の経済学」
- 第4回 トロブリアンド島1：多様な生業と人々の生活
- 第5回 トロブリアンド島2：クラ交換
- 第6回 トロブリアンド島3：交換が作る社会
- 第7回 ヤップ島1：石貨の島
- 第8回 ヤップ島2：助け合いと市場経済
- 第9回 ニューギニア高地1：階層社会と酋長制

が「実体的な経済」の観点からはどのように捉えることができるのかについて考えることができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、批判的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

発展科目

アジア・オセアニアの社会Fはこの授業と直結していますので、合わせて受講することをおすすめします。

アジア・オセアニアの民族と文化、アジア・オセアニアの社会、文化人類学関係、アメリカの民族と文化

教科書 特定の教科書は用いない

オフィスアワー

木曜日3-4限の時間は研究室にいるようにします。

それ以外の時間も、部屋に灯りがついていれば相談に来ていただいて構いません。

社会

- 第10回 ニューギニア高地2：儀礼交換とビッグマン社会
- 第11回 西ティモール1：貧しいとはどういうことか？
- 第12回 西ティモール2：村の経済と町の経済
- 第13回 モラルエコノミー1
- 第14回 モラルエコノミー2
- 第15回 まとめ
(あくまでも予定ですので変更の可能性は大きいにあります)

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの社会F**

Asian and Oceanian Societies F

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの社会F**

Asian and Oceanian Societies F

学期 後期 **開講時間** 木 1, 2 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

担当教員 深田淳太郎(人文学部)

授業の概要

地域社会における連帯感や相互扶助の組織を作り出すために、貨幣や財のやりとりといった「経済的」な仕組みが用いられることは、アジア・オセアニア地域に限らず世界中で古くから見られるものである。農繁期における労働交換や、葬儀のための資金を集団で貯蓄し融通し合う葬儀講など。これらはすべて「経済的」な目的を持った実践であると同時に、共同体や地域集団の求心力、アイデンティティを生成するものでもある。

この講義では、この「経済」の仕組みを用いて、相互扶助の連帯を地域社会に作り出す仕組みについて、アジア・オセアニア地域での具体的な事例を取り上げて考えていく。

学習の目的

一般的に、伝統的な相互扶助のシステムは、資本主義市場経済がグローバルに浸透していく中で消えつつあると言われる。労働交換ではなくアルバイトが、葬儀講ではなく生命保険がより「効率的」なやり方として支配的になっている。

とはいえ、世界中を見回せば、このようなローカルな相互扶助の経済システムが現在でも重要な役割を果たしているところも少なくない。また1980年代以降、先進国においてもグローバルな市場経済による地域社会の解体への危機感から、新しい相互扶助の試みがアジア・オセアニアの各地でも様々な形で試みられている。たとえば「地域通貨」や「フェアトレード」などは、「経済行為」を介して生産者とサービス提供者と消費者の間に顔が見える関係を作りだし、新しい「連帯」を作るための「経済」活動である。

本講義では、この地域社会の連帯を作り出す「経済的」な枠組みについて、その原理的な

仕組みを明らかにし、歴史的な展開を学び、その上で現在のグローバリゼーションの状況下にあるアジア・オセアニアの各地で再び地域社会の連帯を作り出すために行なわれている「経済」活動をいくつか取り上げ、比較・分析してみたい。

学習の到達目標

- ・人間が社会を作り出す際に、様々な形で「交換」を利用していることを理解し、
- ・その方法がいくつかの基本的なパターンに分類できることを理解し、
- ・われわれが暮らす世界が、どのような社会的連帯で成り立っているのかを考えられるようになること。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 前期の「アジア・オセアニアの社会E」を受講していること。「E」での講義内容を前提として話を展開する部分もあります。

発展科目 アジア・オセアニアの民族と文化、アジア・オセアニアの社会、文化人類学関係、アメリカの民族と文化

教科書 特定の教科書は使用しない

成績評価方法と基準

- ・コメントシート、発言などの平常点が30%
- ・期末試験（あるいはレポート）が70%

オフィスアワー 木曜日3-4限は研究室にいるようにします。それ以外の時間も灯りがついていれば、相談に来ていただいて構いません。

授業計画・学習の内容

学習内容

1 導入

2 交換の二つの意味：私が交換を通して得ようとしているものはなにか？

3 助け合いとしての経済

4 経済としての助け合い

5 交換としての結婚

6 交換の三類型1

7 交換の三類型2

8 交換と政治組織：王様はなぜ偉い？ヤップ島とインドネシア・トラジャ社会

9 貨幣と地域社会の連帯1：貝殻貨幣を使う人々、パプアニューギニア・ラバウル

10 貨幣と地域社会の連帯2：地域通貨が作り出す社会のつながり

11 保険と社会性の創出1：バングラデシュのマイクロクレジットを事例に

12 保険と社会性の創出2：生命保険と「あるべき人間像」との関係について

13 公正さを作り出す①：フェアトレードが作り出す新たな連帯

14 公正さを作り出す②：現在のフェアトレードの実際と問題点について。

15 まとめ

(あくまでも予定であり、変更の可能性はおいにあります)

比較文化論

2012年度以降入学生用(文化)

2011年度以前入学生用(文化)

Comparative Study of Cultures

Comparative Study of Cultures

学期 後期 開講時間 火 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 深田淳太郎(人文学部)

授業の概要 現代社会は複数の文化が混じり合って存在している多文化社会であると言われる。多文化社会とは、複数の文化や言語、民族、宗教が入り交じった状況とも、逆にそれらの指標が人々が異なるカテゴリーに分類した状況とも言える。人々の間に差異をもうけ、集団を形作る、これらの「文化」や「民族」といった概念についての再検討を通して、「文化を比較する」ということがどういうことであるのかについて考えていく。

学習の目的 世界には多くの文化が存在しており、それらが相互に影響を与え合う中で現在の私たちの生活は営まれている。着ている服、食べているもの、使っている道具など、私たちを取り巻く様々なものの中で、複数の文化が混ざり合わずに存在しているものは何もないと言ってもよい。本講義で考えたいのは、この「複数の文化」というときの「文化」という語についてである。「複数の文化が混ざっている」というとき、私たちは何を持って「一つ一つの文化」を区別しているのだろうか？その「一つの文化」は本当に何も混ざらない「一つの文化」なのか？文化と文化を分かちつものはなんなのか？あるいは文化

を区別するというは何を意味しているのか？これらの「文化」という語で、私たちが何気なく語っている「なにか」について考えてみたい。

学習の到達目標 多様な人々が共に暮らしている現代社会において、文化や民族という概念が何を名指し、どういった役割を果たしているのかについて考察を深める。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 幅広い教養, 論理的思考力, 討論・対話力

発展科目 アジア・オセアニアの民族と文化、アジア・オセアニアの社会、文化人類学関係、アメリカの民族と文化

教科書 特定の教科書は使用しない

成績評価方法と基準

- ・コメントシート、発言などの平常点が30%
- ・期末試験（あるいはレポート）が70%

オフィスアワー 木曜3-4限は研究室にいるようにしますので、なにか相談があれば遠慮無く来て下さい。それ以外の時間も研究室に灯りがついていれば訪ねて来てもらって構いません

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1) 導入
- 2) 文化という言葉で意味するいくつかのこと
- 3) 日本文化とはなにか？1
- 4) 日本文化とはなにか？2
- 5) 討論：「日本食」の世界文化遺産登録から考える
- 6) 文化と境界線1
- 7) 文化と境界線2

8) 文化が「違う」とはどういうことか？1

9) 文化が「違う」とはどういうことか？2

10) 討論：移民問題から考える

11) 多文化主義における「文化」1

12) 多文化主義における「文化」2

13) 異文化コミュニケーションは可能か1

14) 異文化コミュニケーションは可能か2

15) まとめ

(あくまでも予定ですので、変更の可能性はおおいにあります)

文化学セミナー（欧米文学）

Seminar in Cultural Study (European & American Literature)

学期 後期 **開講時間** 火1,2 **単位** 2 **対象** 2012年度以降入学生用(文化) **年次** 学部(学士課程): 2年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 赤岩隆、井上稔浩、大河内朋子、○小田敦子

授業の概要 イギリス、アメリカ、ドイツ、フランスの文学を中心に題材を取り、欧米文学並びに文学研究方法の基礎について、多面的に修得する。

学習の目的 欧米文学・文化研究における概念や理論を理解し、各国の文化的・社会的背景を学習することによって、自分の研究を自立的に進めることができる。

学習の到達目標 欧米文学・文化研究における概念や理論を理解し、各国の文化的・社会的背景を学習することによって、自分の研究を自立的に進めることができる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 討論・対話力

予め履修が望ましい科目 文学概論A～D

発展科目 英米文学論、ドイツ文学論他、文学系科目

教科書 授業時に指示する。

成績評価方法と基準 授業への取組み50%、レポート50%

オフィスアワー 月曜日12:10～12:50 小田研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

文学には大きく分けて詩、劇、小説、エッセイなどのジャンル(表現形式の種類)があります。それぞれのジャンルにはどのような特徴があるのか、どのようなことを表現するのに力を発揮するのかなど、時代や文化的・社会的背景との関連のなかで、表現形式を意識しながら作品を読むことで、言葉の読み方についての理解を深めます。今年度は以下のようにイギリス、アメリカ、ドイツの作品を取り上げます。

火曜日1・2限

10月6日 オリエンテーション (小田)

10月13日 小説とは何か：発生と近代 (赤岩)

10月20日 小説とは何か：長篇、中篇、短篇 (赤岩)

10月27日 小説とは何か：サブ・ジャンル(1) (赤岩)

11月10日 小説とは何か：サブ・ジャンル(2) (赤岩)

11月17日 アメリカの詩：詩作の原理について (井上)

11月24日 アメリカの詩：詩とアメリカ拡張主義について (井上)

12月1日 アメリカの詩：詩と死（肉体と言語）について(1) (井上)

12月8日 アメリカの詩：詩と死（肉体と言語）について(2) (井上)

12月15日 アメリカのエッセイ：宗教・政治・文学における伝統 (小田)

12月22日 ネイチャー・ライティング：ソローの『ウォールデン：森の生活』 (小田)

1月5日 ネイチャー・ライティング：ソローの『ウォールデン：森の生活』 (小田)

1月19日 ドイツの詩：ゲーテとロマン派の詩（18～19世紀前半） (大河内)

1月26日 ドイツの詩：リアリズムの詩（19世紀後半） (大河内)

2月2日 ドイツの詩：表現主義とダダの詩（20世紀前半） (大河内)

2011年度以前入学生用(文化)

イギリスの文学B

British Literature B

2011年度以前入学生用(文化)

イギリスの文学B

English Literature B

学期 後期 開講時間 月7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 吉野 由起 (人文学部)

授業の概要

イギリス詩(エリザベス朝期・ロマン派期・モダニズム期)を読みます。

イギリス文学史上の時代区分のうち、際立った対照を為す三つの時代(エリザベス朝期・ロマン派期・モダニズム期)を代表する詩人(Shakespeare, Wordsworth, T.S.Eliot等)によって多様な発想、動機、表現とともに書かれた作品の原典を丁寧に読んでいきます。

また、詩論・詩人論・作品論等の二次資料を随時参照し、英詩にまつわる基礎事項・伝統的な批評で検討されてきた論点を知り、様々な時代・文化における詩のあり方・詩の読み方を考えながら英詩の通史的・体系的な理解を深めていきます。

学習の目的

(1)16世紀から20世紀前半までイギリスで書かれた詩のうち、三つの文学史的時代区分(エリザベス朝期・ロマン派期・モダニズム期)を代表する詩人による作品に触れ、英詩の読解に慣れる。

(2)英詩の形式・ジャンル・韻律法・詩語、各期の芸術運動の特徴、各詩人と作品、背景等、英詩を理解する上で助けとなる基礎的な知識・着眼点の一端を習得する。

(3)上記を通して、受講生各自の詩の読み方・考え方を涵養するとともに英詩の通史的な理解、英文学史および文化史の体系的な理解を深める。

学習の到達目標

(1)16世紀から20世紀前半までの英語・詩語で書かれた韻文・詩の読解に慣れる。

(2)受講生各自が各作品の主題・構成・モチーフ・発想・奇想・表現の特徴を踏まえつつ、詩を論じることができるようになる。

(3)イギリス文学史上の時代区分のうち、際立った対照を為す三つの時代(エリザベス朝期・ロマン派期・モダニズム期)を代表する詩人による作品の比較検証を通して、英詩の通史的・体系的な理解を深める。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報発信力、討論・対話力、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 「イギリスの文学・歴史・社会・文化」「英語」に関連する科目、もしくは地域を問わず「文学」に関連する科目

発展科目 「イギリスの文学・歴史・社会・文化」「英語」に関連する科目、もしくは地域を問わず「文学」に関連する科目

教科書 初回授業時に指示します

成績評価方法と基準

授業時のコメント・ペーパー等 20%
学期末レポート 80%

オフィスアワー 月曜9,10限(吉野研究室)

その他

「詩しか書けなくてほんとはよかった(…)やれやれ」「詩はときに我を忘れてふんわり空に浮かぶ」(谷川俊太郎「詩の擁護」)
イギリスでは18世紀に小説の時代が始まり、以降散文が文学史において大きな比重を占めていったといわれています。

現代を生きる私たちが日常的に読み、書く文章は主に散文であると言われる、もっぱら散文的な言語空間を生きているということが可能かもしれません。それでも短歌・俳句を詠む訳でもないのに無意識に「五・七・五」で語調を整え、気が付くと「韻文」的に文章を綴っていたり、「詩的な表現」で文章やメールを書いた経験のある人も多いのではないのでしょうか。ジャンルとしてはしばしば擁護が必要とされる絶滅危惧種でありつつも、詩、あるいは詩的な何かに対する希求が、現代の言語文化の底流にも潜み続けていると考えることは可能でしょうか。

イギリス文学の歴史上、口承で伝えられたと考えられる古い時代の叙事詩やバラッドに始まる、「韻文」から成る「詩」というジャンルは、より古く長い歴史を持ち、イギリス文学史・英語史・文化史の基層を為していると考えられます。特に際立った特徴が

あり、興味深い対照を為す三つの時代（エリザベス朝期、ロマン派期、モダニズム期）に焦点を絞り、風雪を耐え読み継がれた英詩の読解を通して、詩のあり方、詩の読み方を考えてみたいと思います。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：イントロダクション

(1)英詩を読み始める前にー前史：BeowulfとThe Canterbury Tales

(2)参照すべき辞書・辞典・文献の解説、スケジュールの相談等

第2回：英詩の形式・ジャンル・韻律法・詩語

第3-4回：エリザベス朝期(1): Edmund Spenser

第5回：エリザベス朝期(2): William Shakespeare

第6回：エリザベス朝期(3): Michael Drayton

第7回：ロマン派期(1): William Wordsworth

第8回：ロマン派期(2): Samuel Taylor Coleridge

第9回：ロマン派期(3): Robert Burns

第10回：ロマン派期(4): William Blake

第11回：ロマン派期(5): Percy Bysshe Shelley

第12回：ロマン派期(6): George Gordon Byron

第13-14回：モダニズム期: T.S.Eliot

第15回：まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の倫理思想B**

European Ethics B

2011年度以前入学生用(文化) **生命倫理特論B**

Advanced Course in Bioethics B

学期 後期 **開講時間** 金 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

担当教員 相澤 康隆 (人文学部)

授業の概要 アリストテレスの政治思想の概説。特に、プラトンの国家論の批判、内紛、経済と倫理、政治思想における教育の意味を中心に説明する。

学習の目的 アリストテレスの政治思想に関する基礎知識を得る。

学習の到達目標 政治思想を批判的に考察することができるようになる。

本学教育目標との関連 倫理観, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

教科書 プリントを配布する。

成績評価方法と基準 期末試験(持ち込みなし)で評価する。

オフィスアワー 毎週月曜日13時~14時 相澤研究室(人文学部校舎3階)

その他 授業中の私語・スマホの使用・常習的遅刻・途中退出などの迷惑行為は厳禁。迷惑行為を繰り返す学生には単位を与えない。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回: ガイダンス

第2回: 国制の分類

第3回: プラトンの国家論の批判 (1)

第4回: プラトンの国家論の批判 (2)

第5回: プラトンの国家論の批判 (3)

第6回: 内紛 (1)

第7回: 内紛 (2)

第8回: 内紛 (3)

第9回: 経済と倫理 (1)

第10回: 経済と倫理 (2)

第11回: 経済と倫理 (3)

第12回: 政治思想における教育の意味 (1)

第13回: 政治思想における教育の意味 (2)

第14回: 政治思想における教育の意味 (3)

第15回: まとめ

*順序や内容を一部変更する場合もある。

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ文学演習K**

Seminar on American Literature K

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ文学演習K**

Seminar on American Literature K

学期 前期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野田 明

授業の概要 とともに19世紀の小説家であるE. A.Poe及びN.Hawthorneの作品から、現代のSF的な側面を持つ短篇を講読します。

学習の目的 原文の精緻な理解に基づき、さらに作品に関する和文・英文の批評を読むことにより、自分自身の論を展開することができる。

学習の到達目標 作品のテーマ・筋を理解し、問題点を指摘できる。言葉遣い、会話のニュアンスを日本語に訳すことができる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 実践外国語力

予め履修が望ましい科目 文学概論AB (同時履修も可)

教科書 原文テキストを使用

成績評価方法と基準 授業中の発表40%、期末の試験及びレポート60%

オフィスアワー 毎週月曜12:00～12:50 人文学部3階野田研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：イントロダクション

第2回～第4回：Poe I

第5回～第7回：Poe II

第8回～第10回：:Hawthorne I

第11回～第13回：Hawthorne II

第14回～第15回：まとめ

英米文学論

British and American Literature

【学期】後期 【開講時間】火3,4 【単位】2 【対象】2012年度以降入学生用(文化) 【年次】学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 【授業の方法】講義, 演習 【授業の特徴】能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

【担当教員】野田 明

授業の概要 英米文学から幻想性を有する作品、主に詩を毎週一篇ずつ精読し、それぞれの作品のテーマ及び特徴について考えます。授業ではグループワークにより、意見交換の時間を設けます。

学習の目的 作品のテーマ、問題点について、英米の違いも踏まえつつ、正確に記述することができる。和文及び英文の批評を読み、それに基づいて、作品を評価することができる。

学習の到達目標 作品の内容を理解し、日本語に訳すことができる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 幅広い教

養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 実践外国語力

予め履修が望ましい科目 文学概論AB (同時履修可)

発展科目 イギリス文学演習、アメリカ文学演習

教科書 原文ハンドアウトを使用する予定ですが、詳細は初回の授業で説明します。

成績評価方法と基準 授業中の発表40%、期末の試験及びレポート60%

オフィスアワー 月曜12:00~12:50 人文学部3階野田研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：イントロダクション、詩について
第2回～第4回：イギリスの詩Ⅰ
第5回～第7回：アメリカの詩Ⅰ

第8回～第10回：イギリスの詩Ⅱ
第11回～第13回：アメリカの詩Ⅱ
第14回～第15回：まとめ

学期 前期 開講時間 火 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 菅 利恵

授業の概要

「女性的なもの」と近代

18世紀半ばから20世紀のドイツ語圏文学に描かれたさまざまな女性像をとりあげ、「女性」の表象を通して近代化の諸問題がどのように表現されてきたのかを考察する。

学習の目的

- ・ドイツ語圏のさまざまな文学作品に親しむ。
- ・近代化の過程で生じた諸問題について知識を深める。

学習の到達目標 ・文学作品や文化現象について、歴史的背景を分析しながら論じることができる。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

教科書 プリント配布

成績評価方法と基準 授業中の課題や発表5割、レポート5割

授業計画・学習の内容

学習内容

- ・テーマにそくしてドイツ語圏のさまざまな文学作品を紹介し、論じる。
 - ・学期中に2回ほど「読書会」を行う。
 - ・参加者が発表する機会ももうける。
 - ・講義中に扱うテーマ等は以下の通りである。(予定)
1. 導入 ファム・ファタールの表象～近代化の過程における「恐怖」と「女性」
 2. 社会史的背景～市民社会の発展にともなう家族観、ジェンダー観の変化
 3. 二つの女性像～「白い首」と「石の女」
 4. 同上
 5. 両義的な女性像(フケー『ウンディーネ』)

6. 同上
7. 「混沌の器」としての女性像(クライスト『ペンテシレイア』)
8. 「隠された情念」をめぐる物語～社会主義の女性論
9. 同上(シュトルムの短編)
10. 「男女の対立」をめぐる物語(マゾッホの小説)
11. 同上(ヴェーデキント『春の目覚め』)
12. 同上
13. 女性の不在(トーマス・マン『ヴェニスに死す』)
14. 同上
15. まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**ドイツ文学演習L Seminar on German Literature L**
2011年度以前入学生用(文化)**ドイツ文学演習L Seminar on German Literature L**

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 菅 利恵 (人文学部)

授業の概要 卒業論文準備のためのゼミを行う。

学習の目的

卒業論文を執筆するために必要な知識を得る。

発表や討論を通して、自らの論文テーマについて考察を深める。

学習の到達目標 卒業論文のテーマを見つけ、その研究を深める。

授業計画・学習の内容

学習内容

卒業論文執筆のためのゼミを行う。

毎回参加者による発表や文献紹介を行い、そ

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

教科書 プリント配布

成績評価方法と基準 発表や、討論への積極的な参加を評価する。

オフィスアワー 金曜日 1:00~2:00

の後全員で討論する。

討論を通して、各自が自分のテーマを見つけ、テーマについての考察を深める。

ドイツ文学論A

学期 後期 開講時間 火5,6 単位 2 対象 2012年度以降入学生用(文化) 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 菅利恵

授業の概要

ヨーロッパの近代化の過程では、「子ども」が開かれた可能性の持ち主としてとらえなおされ、それとともに人間の「成長」に大きな期待が寄せられることになった。この新しい人間観は、近代文学の形態や内容に大きな影響を与えている。

この授業では、「子ども」「若者」「成長」というキーワードのもとに、18世紀後半から19世紀までのドイツ語圏文学史について学ぶ。さまざまな文芸流派の特徴をおさしつつ、ドイツ語圏の児童文学の発展を概観する。

学習の目的 「子ども」というキーワードから、18世紀後半から19世紀までのドイツ語圏における文学作品に親しみつつ、啓蒙主義か

らシュトルム・ウント・ドランクへ、ロマン派へという文芸史の流れを把握する。

学習の到達目標

ドイツ語圏の様々な文学作品について知識を得る。

ドイツ語圏の児童文学の歴史について知識を得る。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

教科書 プリントを配布する。

成績評価方法と基準 平常点とレポートで評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

講義と参加者による発表を組み合わせて授業を進める。

参加者には、講義中に出て来た文献や事項について調べ、発表する機会を持ってもらう。

課題図書を読み、グループ討論する「読書会」の機会も設ける。

全体的な流れは以下の通りである。(予定)

1 導入

2 「子ども期」の発見/近代初期の教育論

3 「成長」に対する新しいまなざしと、文学ジャンルの変化

4 「エミール」～子ども期の新しい意味付け

5～6 新しい若者像の登場～シュトルム・ウント・ドランク

7～8 「教養小説」の登場

9～10 ロマン派における「成長」とメルヒェンノヴァーリス、ホフマン

11 ビーダーマイヤー期における家庭と子どもシュティフター

12～14 子どものためのジャンルの発展

ドイツ語圏における児童文学の発生と展開

15 まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ文化研究** Studies in American Culture
2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ研究総論** Introduction to American Studies

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次 授業の方法 講義

担当教員 アメリカ研究所属の教員

授業の概要 本講義では、アメリカについて、哲学、地理学、歴史学、社会学、文化人類学、言語学、文学等の様々な分野から考える。2014年度は、「他者」というテーマで、アメリカについて様々な分野・視点から考察する。

学習の目的 ある特定のテーマについて様々な視点・分野から考察することで、学際的な視点を身につける。

学習の到達目標 アメリカ研究を行う上での基本的な考え方を身につけることができる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コ

ミュニケーション力を総合した力

受講要件 主として、文化学科アメリカコースの2年生が対象である。

発展科目 アメリカ研究にかかわる専門科目・演習

教科書 なし。

成績評価方法と基準 10名の教員がそれぞれの授業の最後に、小テストを実施するか、レポート課題を出す。各10点×10人=100点で、評価とする。

オフィスアワー 各教員が授業の前に知らせる。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 導入 カリキュラム代表
- 第2回 野田 前編
- 第3回 野田 後編
- 第4回 中川 前編
- 第5回 中川 後編
- 第6回 吉田
- 第7回 井上

- 第8回 森脇
- 第9回 江成 前編
- 第10回 江成 後編
- 第11回 薄井
- 第12回 立川
- 第13回 澤田 前編
- 第14回 澤田 後編
- 第15回 小田

2012年度以降入学生用(文化)

日本の文学N

Japanese literature N

2011年度以前入学生用(文化)

日本の文学N

Japanese literature N

学期 後期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 森田 貴之

授業の概要 中世に多数作られた和漢翻訳文学を読む。具体的には、中国の説話を歌物語風に翻訳した『唐物語』、史記などの中国の歴史を鏡物風に翻訳した『唐鏡』、中国の幼学書『蒙求』を百首歌風に翻訳した『蒙求和歌』を取り上げ、漢文学の世界がどのように和文学の世界に置き換えられていくのかを探究する。

学習の目的 文学作品を通して中世の日中文化交流の具体的事例を知り、日本文学を内側・外側両面から見つめる視点を育てる。

学習の到達目標

和漢比較文学の基本的手法を学び、日本文学の背景に流れる中国文学の影響を理解する。中世の漢学者の知識や志向を知り、翻訳文学の様式や達成を知る。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力

受講要件 積極的な態度で受講するもの

教科書 特に指定しない。毎回講義プリント配布して進める。

成績評価方法と基準 期末レポート試験
60%、受講態度40%

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 授業方法・各作品・作者概説
2. 『唐物語』について1
3. 『唐物語』について2
4. 『唐物語』について3
5. 『唐物語』について4
6. 『唐鏡』について1
7. 『唐鏡』について2

8. 『唐鏡』について3
9. 『唐鏡』について4
10. 『蒙求和歌』について1
11. 『蒙求和歌』について2
12. 『蒙求和歌』について3
13. 『蒙求和歌』について4
14. 周辺作品への影響
15. まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**文化環境論C**
2011年度以前入学生用(文化)**文化環境論C**

Cultural Geography C
Cultural Geography C

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 北川 真也 (人文学部)

授業の概要 本授業では、イタリアの様々な社会的・政治的・文化的・経済的現象を学習します。特に、イタリアという「ローカル」な現場のなかで生起している、もしくは提示されている「グローバル」な問いかけ、批判的な問いかけに着目します。

学習の目的 1つ目の目的は、イタリアの様々な社会的・政治的・文化的・経済的現象について知識を得、イタリア社会へのより複合的なまなざしを獲得することにあります。2つ目の目的は、イタリアという「ローカル」な場所のなかから「グローバル」な問いかけを引き出し、それを自らの社会において共有し、さらには展開させられるような地理的想像力を身につけることにあります。

学習の到達目標 目標は、授業で得られたイタリアについての知識を用いて、「ローカル」な場所のなかから「グローバル」な問い

かけ、批判的な問いかけを引き出せるようになることです。そして、そのようなローカルかつグローバルな地理的想像力を的確に文章化できることです。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 批判的思考力

発展科目 ヨーロッパ・地中海の風土と地誌, ヨーロッパ・地中海地誌演習

教科書 特にありません、

成績評価方法と基準 レポート50点×2回=100点

オフィスアワー 木曜日の12時~13時、研究室

その他 授業中に、必ず自分なりのメモを自由に作成してください。それが前提となります。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 はじめに

第2回~第4回 北と南

第5回~第8回 労働と資本

第9回~第11回 記号資本主義、都市、プレカリアート

第12回~第14回 戦争、植民地、記憶

第15回 おわりに

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの民族と文化演習**

A

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの民族と文化演習A**

学期 前期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 深田淳太郎 (人文学部)

授業の概要 本演習はアジア・オセアニア地域に関心を持つ学生を対象とする。この地域に関するのであれば基本なんでも構わないので、履修者それぞれが自ら「面白い」と思うものを見つけ出し、その対象について関連する文献を集め、あるいはフィールドワークなどを実施して調べ上げる。そしてその結果をまとめ、発表する。また自分の発表だけをすればよいのではなく、他の受講者の発表を聴いて、積極的にコメントすることも求められる。

学習の目的

アジア・オセアニア地域には極めて多様な人々の生活がある。私たちと似たような生活をしている人々もいれば(もちろん私たちもアジア・オセアニアの一員だ)、まったく異なった環境でびっくりするような生活スタイルを持つ人々もいる。これらの多様な人々、および人々が使っているモノ、やっているコトの中から、なにかひとつ「面白い」と思うものを見つけ、それについて調べ上げ、「深みにはまって」欲しい。

調べてみれば分かるが、驚くべきことに自分が「面白い」と思ったことは、必ず他の誰かが既に「面白い」と思って調べたことと関連している。それらの先行研究を紐解き、先人の踏み跡を辿ることによって、なぜ自分がそれを面白いと思ったのかを分析して欲しい。これはその事象について深く知るといふことと同時に、自分について改めて知り直すということにもつながるだろう。

授業計画・学習の内容

学習内容

1、導入：授業の進め方などについて説明

学習の到達目標

- ・調査対象を選定し、その「面白さ」を他人に説明することができる。
- ・調査において、適切に文献を収集し、読み込むことができる。
- ・発表において、自分の考えていることを適切な方法で他の受講者に伝えることができる。
- ・アジア・オセアニアについて、あるいはその中の特定の地域において起こっている何らかの事象について、理解を深める。

本学教育目標との関連 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 アジア・オセアニアの民族と文化、アジア・オセアニアの社会、文化人類学関係、アメリカの民族と文化

教科書 特定の教科書は使用しない

成績評価方法と基準

- ・調査結果の発表が60%
- ・平常点、他の受講者の発表についての討論での発言など40%

オフィスアワー 木曜3-4限は研究室にいるようにしますので、なにか相談があれば遠慮なく来て下さい。それ以外の時間も研究室に灯りがついていれば訪ねて来てもらって構いません。

2-14、受講者による発表&討論

15、まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの民族と文化演習** **B**

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの民族と文化演習B**

学期 後期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 深田淳太郎 (人文学部)

授業の概要 本演習はアジア・オセアニア地域に関心を持つ学生を対象とする。この地域に関するものであれば基本なんでも構わないので、履修者それぞれが自ら「面白い」と思うものを見つけ出し、その対象について関連する文献を集め、あるいはフィールドワークなどを実施して調べ上げる。そしてその結果をまとめ、発表する。また自分の発表だけをすればよいのではなく、他の受講者の発表を聴いて、積極的にコメントすることも求められる。

学習の目的

アジア・オセアニア地域には極めて多様な人々の生活がある。私たちと似たような生活をしている人々もいれば(もちろん私たちもアジア・オセアニアの一員だ)、まったく異なった環境でびっくりするような生活スタイルを持つ人々もいる。これらの多様な人々、および人々が使っているモノ、やっているコトの中から、なにか「面白い」と思うものを見つけ、それについて調べ上げ「深みにはまって」欲しい。

そして驚くべきことに自分が「面白い」と思ったことは、必ず他の誰かが既に「面白い」と思って調べたことと関連している。それらの先行研究を紐解き、先人の踏み跡を辿ることによって、なぜ自分がそれを面白いと思ったのかを分析して欲しい。これはその事象について深く知るといふことと同時に、自分について改めて知り直すということにもつ

ながるだろう。

学習の到達目標

- ・調査対象を選定し、その「面白さ」を他人に説明することができる。
- ・調査において、適切に文献を収集し、読み込むことができる。
- ・発表において、自分の考えていることを適切な方法で他の受講者に伝えることができる。
- ・アジア・オセアニアについて、あるいはその中の特定の地域において起こっている何らかの事象について、理解を深める。

本学教育目標との関連 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 アジア・オセアニアの民族と文化、アジア・オセアニアの社会、文化人類学関係、アメリカの民族と文化

教科書 特定の教科書は使用しない

オフィスアワー 木曜3-4限は研究室にいるようにしますので、なにか相談があれば遠慮無く来て下さい。それ以外の時間も研究室に灯りがついていれば訪ねて来てもらって構いません。

授業計画・学習の内容

学習内容

1、導入：授業の進め方などについて説明

2-14、受講者による発表&討論

15、まとめ

2011年度以前入学生用(文化)**倫理学概論D**

An Introduction to Ethics D

2012年度以降入学生用(文化)**倫理学概論D**

An Introduction to Ethics D

学期 後期 開講時間 火 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 遠山 敦 (人文学部)

授業の概要 日本の倫理思想 (和辻倫理学) に対する理解を手掛かりに、倫理への問いを深める。

本学教育目標との関連 倫理観, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

学習の目的 和辻倫理学の理解を通じて、自らの生き方に対する自覚を深めることができる。

教科書 コピー資料を配付する。

成績評価方法と基準 中間リポート20%、期末筆記試験80%

学習の到達目標 和辻倫理学に関する基本的な知識を得ることができる。

オフィスアワー 火曜日5-6限。共通教育2号館2階遠山研究室。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス (第1回)
2. 和辻倫理学の基本的な立場～『人間の学としての倫理学』を手掛かりに～ (第2～3回)
3. 和辻倫理学の概要～『倫理学』の考察～
 - a) 人間の個人的契機と全体的契機 (第4～6

- 回)
 - b) 人間存在の根本構造 (第7～8回)
 - c) 人間存在の空間的・時間的構造 (第9～11回)
 - d) 信頼と真実 (第12～14回)
4. まとめ (第15回)

2012年度以降入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海の風土と地誌A**
European and Mediterranean Geography A
2011年度以前入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海の風土と地誌A**
European and Mediterranean Geography A

学期 前期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義
担当教員 北川 真也 (人文学部)

授業の概要 現代のヨーロッパを人の移動という観点から考察します。特に、昨今の移動研究の知見を参照しながら、ヨーロッパ社会が「移民」や「難民」と呼ばれる人びととどのような関係を築いているのかに着目します。

学習の目的 目的は、現代のヨーロッパにおける移民・難民をめぐる様々な社会的・政治的・文化的・経済的現象について知識を得るのみならず、場所や境界に着目する人文地理学的観点や移動研究の理論を用いて学習することで、ヨーロッパという地域に対するより複合的なまなざしを獲得することです。

学習の到達目標 授業で得られたヨーロッパについての知識や理論を理解するのみならず、ヨーロッパという地域に対する自身のまなざしがどのように変化したのかを的確に文

章化できることです。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

発展科目 ヨーロッパ・地中海地誌演習

教科書 必要に応じてプリントを配布します。

成績評価方法と基準 レポート 50点×2回 = 100点

オフィスアワー 木曜日 12時から13時 研究室

その他 授業中に、必ず自分なりのメモを自由に作成してください。それが前提となります。また関連文献の読書も、積極的に行ってもらいたいと思っています。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 はじめに

第2回～第4回 ヨーロッパ各国の状況（フランス、ドイツ、イギリス、オランダ、イタリアなど）

第5回～第7回 シェンゲン空間と移動する境界（地中海と東欧）

第8回～第9回 ヨーロッパ、難民、庇護申請

第10回～第11回 イスラーム、ヨーロッパ、移民

第12回～第13回 移民、運動、シティズンシップ

第14回 モビリティ、統治性、そして歓待

第15回 おわりに

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の風土と地誌B**
European and Mediterranean Geography B
2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の風土と地誌B**
European and Mediterranean Geography B

学期 後期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義
担当教員 北川 真也 (人文学部)

授業の概要 授業では、ポストコロニアル研究の知見を用いながら、ヨーロッパという空間的・文化的アイデンティティの形成が、過去においても現在においても、ヨーロッパの外部との関係、とりわけ、植民地主義と密接に関係してきたことを学習します。

学習の目的 目的は、ヨーロッパという空間的・文化的アイデンティティの形成が、過去においても、そして現在においても、植民地主義と密接に関係してきたことを理解するのみならず、境界や地理的想像力といった人文地理学的概念やポストコロニアル研究の理論を用いて学習することで、ヨーロッパという地域に対するより複合的なまなざしを獲得することが目的となります。

学習の到達目標 授業で得られた知識や理論を理解することに加えて、それらを用いながら、ヨーロッパという地域に対する自身のま

なざしがどのように変化したのかを的確に文章化できることです。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

発展科目 ヨーロッパ・地中海地誌演習

教科書 必要に応じてプリントを配布します。

成績評価方法と基準 レポート 50点×2回＝100点

オフィスアワー 木曜日 12時から13時 研究室

その他 授業中は、必ず自分なりのメモを自由に作成してください。それが前提となります。また関連文献の読書も、積極的に行ってもらいたいと思っています。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 はじめに
第2回～第3回 サイド、パレスチナ／イスラエル、ヨーロッパ
第4回～第5回 スピヴァク、サバルタン、ヨーロッパ
第6回～第7回 フェミニズム、第三世界、ヨーロッパ
第8回～第9回 ネグリチユード、クレオール、

大西洋 ヨーロッパ
第10回～第11回 ファノン、アルジェリア、地中海、ヨーロッパ
第12回～第13回 マルクス、ヨーロッパ、ネオコロニアリズム、ポストコロニアル資本主義
第14回 ポストコロニアル・ヨーロッパ、ヨーロッパを地方化する
第15回 おわりに

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海地誌演習A**
Seminar in European and Mediterranean Geography A
2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海地誌演習A**
Seminar in European and Mediterranean Geography A

学期 前期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 北川 真也 (人文学部)

授業の概要 卒業論文を作成するために、ヨーロッパに関する様々なトピックを学び、自らの研究課題を設定すること。またその課題に取り組み解決するための、理論・方法論を学習すること。

学習の目的 一定水準の卒論を仕上げるために、ヨーロッパの空間・場所・景観・境界について学習し、それを文章、発表、議論などを通じて的確に表現すること。

学習の到達目標 3年生は、主に文献読解、そのプレゼンテーションや小レポート作成などを行うことで、卒論作成の手順を学習すること。その手順をふまえて、4年生は卒業論文の作成に取り組むこと。

授業計画・学習の内容

学習内容

3年生 卒論作成入門

4年生 卒論作成実践

授業は基本的に受講生による発表と討議に基づきます。

前半は、受講生自身が選んだ文献についての

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、論理的思考力、課題探求力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性

受講要件 前後期(ヨーロッパ・地中海地誌演習AとB)をセットで履修することが望ましい。

予め履修が望ましい科目 ヨーロッパ・地中海の風土と地誌

教科書 特になし。

成績評価方法と基準 授業での発表40点 課題・議論への参加40点 小レポートの作成20点

オフィスアワー 木曜日 12時から13時 研究室

発表が中心となります。

後半は、共通の文献を読解していくことで、自身の問題意識を深めると同時に、卒論作成に必要な理論・方法論について学習します。

2012年度以降入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海地誌演習B**
Seminar in European and Mediterranean Geography B
2011年度以前入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海地誌演習B**
Seminar in European and Mediterranean Geography B

学期 後期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 北川 真也 (人文学部)

授業の概要 卒業論文を作成するために、ヨーロッパに関する自らの研究課題を設定すること。またその課題に取り組み解決するための、理論・方法論を学習すること。

学習の目的 一定水準の卒論を仕上げるために、ヨーロッパの空間・場所・景観・境界について学習し、それを文章、発表、議論などを通じて的確に表現すること。

学習の到達目標 3年生は、主に資料収集・分析、そのプレゼンテーションや小レポート作成などを行うことで、卒論作成の手順を学習すること。その手順をふまえて、4年生は卒業論文を作成すること。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体

授業計画・学習の内容

学習内容

3年生 卒論作成入門

4年生 卒論作成実践

授業は基本的に受講生による発表と討議に基づきます。

前半は、共通の文献を読解していくことで、

的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性

受講要件 前後期(ヨーロッパ・地中海地誌演習AとB)をセットで履修することが望ましい。

予め履修が望ましい科目 ヨーロッパ・地中海の風土と地誌

教科書 特にありません。

成績評価方法と基準 授業での発表40点 課題・議論への参加40点 小レポートの作成20点

オフィスアワー 木曜日 12時から13時 研究室

自身の問題意識を深めると同時に、卒論作成に必要な理論・方法論について学習します。

後半は、受講生自身が選んだ文献、あるいはすすめている研究についての発表が中心となります。

2012年度以降入学生用(文化)中国語学演習A

2011年度以前入学生用(文化)中国語学演習A

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

担当教員 福田和展 (人文学部)

授業の概要 中国、台湾の言語、文字、言語政策に関する原書を読み進めながら、中国語の文法事項を整理し、同時に中国語の読解力をレベルアップする。また、授業で取り上げられたテーマについて調査し、問題点を確認する。

学習の目的 中国語学に関する知識だけでなく、言葉の背景にある中国や台湾の歴史、文化、社会について理解を深める。また、中国語学とそれに付随するテーマについて問題意識を持ち、それについて調査、発表をする能力を養う。

学習の到達目標 中国語学とそれに付随する知識を得る。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1 中華人民共和国の言語政策
「普通話」の成立と漢字音注音の変遷
- 2 少数民族政策と言語政策
中華人民共和国の少数民族言語政策 成果と問

力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語Ⅰ文法、講読4単位取得者、中国語検定試験4級取得者。

予め履修が望ましい科目 中国語Ⅰ文法、中国語Ⅰ講読

発展科目 中国語学演習EF、中国の言語BCD

教科書 プリントを配布。

成績評価方法と基準 おおよそ授業での発表60%、授業態度40%

オフィスアワー 月～金の授業、会議時間以外。

その他 福田ゼミの学生は必ず履修。

題点

- 3 中華民国の言語政策
遷台以前と遷台以降
前期開講の「中国語学演習C」には期続き上記3つのテーマについて、15回の授業を行う。

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ文学演習A**

Seminar in American Literature A

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ文学演習A**

Seminar in American Literature A

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 小田敦子

授業の概要 Nathaniel Hawthorneの短編を読み、その特質について考えるとともに、小説の技法、19世紀のアメリカ文化への考察を深める。

学習の目的 長い文章を追っていきける英語力をつける。小説の技法を知ること、人の意識の動きへの洞察を深める。19世紀アメリカの空気や生活を読み取り、それに対する作家の批判精神について理解する。

学習の到達目標 少なくとも論理的に、長い文章を読むことができる。小説の構成要素を理解する。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 19世紀前半のアメリカ文学

第2回～第9回 "Rappaccini's Daughter" 講読

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力

発展科目 アメリカ文学演習、イギリス文学演習、英米文学論

教科書 Nathaniel Hawthorne, 『Rappaccini's Daughter その他』 (研究社小英文叢書)

成績評価方法と基準 授業への取り組み 50%、レポート50%

オフィスアワー 月曜日12:10～12:50

第10回 期末レポートの書き方

第11回～第15回 "Wakefield" 講読

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ文学演習B**

Seminar in American Literature B

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ文学演習B**

Seminar in American Literature B

学期 後期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 小田敦子

授業の概要 Nathaniel Hawthorneの短編を読み、その特質について考えるとともに、小説の技法、19世紀のアメリカ文化への考察を深める。

学習の目的 長い文章を追っていける英語力をつける。小説の技法を知ることで、人の意識の動きへの洞察を深める。19世紀アメリカの空気や生活を読み取り、それに対する作家の批判精神について理解する。

学習の到達目標 少なくとも論理的に、長い文章を読むことができる。小説の構成要素を理解する。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力

発展科目 アメリカ文学演習、イギリス文学演習、英米文学論

教科書 Nathaniel Hawthorne, 『Rappaccini's Daughter その他』(研究社小英文叢書)

成績評価方法と基準 授業への取り組み 50%、レポート50%

オフィスアワー 月曜日12:10～12:50

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 19世紀前半のアメリカ文学

第2回～第8回 ”My Kinsman, Major Molineux”

講読

第9回 期末レポートの書き方

第10回～第15回 ”The Great Stone Face”講読

2012年度以降入学生用(文化)**文学概論A**

An Introduction to English and American Literature A

2011年度以前入学生用(文化)**英米文学概論A**

An Introduction to English and American Literature A

学期 前期 **開講時間** 水 1, 2 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 小田 敦子 (人文学部文化学科)

授業の概要 アメリカの詩と散文を読み、英語とアメリカ文学・文化について理解を深める。

実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 英語そのものと文学の表現について知識を得、言葉を読むおもしろさや楽しさを知る。そうして読み取ったひとの思考や感情の豊かさを、自分の理解力や判断力に活かす。

発展科目 文化学セミナー(欧米文学)、アメリカの文学、アメリカ文学演習、イギリスの文学。イギリス文学演習

教科書

亀井俊介・川本皓嗣編『アメリカ名詩選』岩波文庫

他は授業中にプリントを配布。

学習の到達目標 文学表現の読み方を知ること、言葉と文化への読解力を高めることができる。

成績評価方法と基準 レポート 60%、授業への取り組み 40%

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 批判的思考力, 討論・対話力,

オフィスアワー 月曜日 12:10~12:50

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 英詩の構造

第2回 19世紀以前の詩

第3回~第5回 Emily Dickinsonの詩

第6回~第8回 Walt Whitmanの詩

第9回~第10回 Imagismの詩人

第11回~第15回 Ralph Waldo Emerson, "The American Scholar"

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニアの文学A**
Literature in Asia and Oceania A

2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニアの文学A**
Literature in Asia and Oceania A

学期 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 川口洋史

授業の概要 タイ古典文学について学んでいく。タイ文化に大きな影響を与えた上座部仏教に関係する作品を主に取り上げるとともに、タイ族固有の精霊信仰の要素やヒンドゥー教の影響が見られる文学にも触れ、それらを通してタイの伝統的な世界観や思考について考えていく。

学習の目的 前近代タイの文学について学ぶことを通して、タイの文学史や伝統的な文化や思想の概要を理解することを目標とする。同時にタイの文学と他のアジア・オセアニア地域の文学と比較できる基礎をつくることを目指す。

学習の到達目標 タイの前近代の文学の概要について説明できるようになること。またタイの前近代の文学と他のアジア・オセアニア

地域の文学とを比較できるようになること。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 アジア・オセアニアの文学B

教科書 使用しない。

成績評価方法と基準 小レポートと学期末のレポートによって評価する。

オフィスアワー 授業終了後に対応します。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 タイ前近代史と文化史概略1
- 第3回 タイ前近代史と文化史概略2
- 第4回 ブラ・ロー』に見る原初タイ文化1
- 第5回 『ブラ・ロー』に見る原初タイ文化2
- 第6回 タイ古典文学に見えるヒンドゥー教的要素
- 第7回 『三界経』とタイ仏教の世界観1
- 第8回 『三界経』とタイ仏教の世界観2
- 第9回 『三界経』とタイ仏教の世界観3

- 第10回 『マノーラー』とタイに渡った古代インド仏教文学1
- 第11回 『マノーラー』とタイに渡った古代インド仏教文学2
- 第12回 『パタマサンボーディ』に見る釈尊の生涯1
- 第13回 『パタマサンボーディ』に見る釈尊の生涯2
- 第14回 『パタマサンボーディ』に見る釈尊の生涯3
- 第15回 まとめ

比較社会学論

2012年度以降入学生用(文化)

2011年度以前入学生用(文化)

Comparative Sociology

Comparative Sociology

学期 後期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 前川 真裕子 (人文学部)

授業の概要 前半の講義では、西洋社会と非西洋社会の「思考の仕方」について考察していく。西洋社会では長らく、「ヨーロッパ人に特有の考え方」が存在し、それは時に非西洋社会の思考よりも合理的で優れたものだとして認識される傾向にあった。本講義では、西洋中心主義という概念に着目しつつ、両者の思考に違いがあるとするとする見解を批判的に考察することを目的にしている。特に、西洋的思考と非西洋的思考をめぐる多くの著作を残したレヴィ=ストロースの理論に注目していく。講義では彼の残した古典『親族の基本構造』『今日のトテミズム』『野生の思考』を紹介していきたい。また後半の講義では、西洋社会と非西洋社会の政治体制について、植民地主義の問題にも触れながら概観していきたい。特に非西洋社会が、植民地主義という暴力的な異文化接触の結果、西洋社会の影響を受けながら、国家、国民、人種、民族といった概念をどのように構築してきたかを理解していく。授業ではその他に、ジェンダーといったテーマを扱いながら、西洋社会と非西洋社会について考察を深めていきたい。(上記の著作をあらかじめ読解しておく必要はない)

学習の目的

・われわれ個々人が様々な人々との出会いを通じて存在しているように、それぞれの社会もけっして自律的に存在してきたわけではなく、周囲の多種多様な社会と接触するなかで自集団のアイデンティティを構築してきたのだということを学べる。

・他集団の価値観、制度、規範を考察するとき、自集団の視点から一方的に相手を眼差し

評価を下すことが、客観性を欠いた独我論的な関係性を導くことを理解できる。

・講義を通して、物事を多面的に捉えて、現代の世界で起きている諸事象を批判的に読み解く力を養うことができるようになる。

・近年、日本の企業も国際的に活躍する場が増え、多様な社会的背景を持つ人々との共同作業が要求される。本講義は、その際の標としても役立つ。

学習の到達目標

・西洋世界を中心とした文化的価値観(西洋中心主義)の拡大がどのような問題点を持つものかを理解できるようになる。

・経済的および軍事的に圧倒的な権力を保持してきた抑圧者としての西洋社会と、それに従属する被抑圧者としての非西洋社会のいびつな関係性を説明することができる。

・植民地主義の時代から現代までの長期的視野のもとに両者の関係性が概観できるようにする。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 私語を固く禁ずる

教科書 授業内で指示する。

成績評価方法と基準

中間テスト30%、期末テスト70%、計100%とする(合計60%以上で合格とする)

オフィスアワー

毎週水曜日11:00~12:00

場所: 第1回授業で指示する

授業計画・学習の内容

学習内容

講義

第1回 西洋社会と非西洋社会

第2回 西洋中心主義と進化論

第3回 眼差す側としての西洋社会と眼差される側としての非西洋社会

第4回 野生の思考と西洋近代の思考

第5回 映像資料を見る

第6回 伝統的政治体制と近代国家

第7回 植民地主義による支配体制

第8回 植民地における「人種」の問題

第9回 映像資料をみる

第10回 中間試験

第11回 西洋社会と非西洋社会における女らし
さと男らしさ

第12回 西洋社会と非西洋社会におけるセク
シャリティー

第13回 多様な性と現代社会

第14回 映像資料をみる

第15回 全体のまとめ

(期末試験)

2012年度以降入学生用(文化) **アメリカ文学演習L**

Seminar on American Literature L

2011年度以前入学生用(文化) **アメリカ文学演習L**

Seminar on American Literature L

学期 後期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野田 明

授業の概要 『白鯨』で名高い19世紀の小説家H.Melvilleの作品から、「文明」「貧困」「女性」に関わる、一風変わった短篇を講読します。

学習の目的 原文の精緻な理解に基づき、さらに作品に関する和文・英文の批評を読むことにより、自分自身の論を展開することができる。

学習の到達目標 作品のテーマ・筋を理解し、問題点を指摘できる。言葉遣い、会話のニュアンスを日本語に訳すことができる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 実践外国語力

予め履修が望ましい科目 文学概論AB (同時履修も可)

教科書 原文テキストを使用

成績評価方法と基準 授業中の発表40%、期末の試験及びレポート60%

オフィスアワー 毎週月曜12:00～12:50 人文学部3階野田研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：イントロダクション

第2回～第5回：Melville I

第6回～第9回：Melville II

第10回～第13回：Melville III

第14回～第15回：まとめ

2012年度以降入学生用(文化)

哲学概論 B

Introduction to Philosophy B

2011年度以前入学生用(文化)

哲学概論 B

Introduction to Philosophy B

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 田中 綾乃 (人文学部)

授業の概要 ヨーロッパの哲学史を概観する。主に近代の西洋哲学の思想を中心に、主要な哲学者の理論を紹介しながら、西洋哲学の基本的な思考法やものの見方を学ぶことを目論見とする。

学習の目的

西洋哲学における主要な主題を歴史的かつ体系的に基礎づける。

物事をじっくり考察するという哲学的思考法や哲学的態度を学ぶ。

先人たちの思想を考察することで、多角的なものの方見方や価値観を養う。

学習の到達目標

西洋哲学のそれぞれの哲学者の理論を体系的に把握する。

西洋哲学史の流れを概観する。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

第一回 イントロダクション

第二回 哲学とは何か

第三回 古代哲学の特徴

第四回 中世哲学の特徴

第五回 近代哲学の特徴

第六回 デカルトのCogito ergo sum

第七回 デカルトの二元論

第八回 ライブニッツの世界観

第九回 イギリス経験論

受講要件

・哲学は「自分自身で考える」学問である。それゆえ、受動的ではなく、能動的に授業に参加すること。

・毎回の授業で、レスポンス・ペーパーを配布、回収する。

・哲学ワークショップ（哲学カフェ・対話式授業）を採り入れる。

予め履修が望ましい科目 哲学・倫理学の授業

発展科目 ヨーロッパ・地中海の思想

教科書

岩崎武雄『西洋哲学史』（有斐閣）

貫成人『哲学マップ』（ちくま新書）

成績評価方法と基準 授業時のレスポンスペーパー（レポート）、平常点から総合的に評価する。

オフィスアワー 毎週木曜日12時～13時

第十回 ロックのタブラ・ラサ

第十一回 バークリーの存在論

第十二回 ヒュームの懐疑論

第十三回 カントの哲学

第十四回 カントの認識論

第十五回 まとめ

ただし、受講生の関心や理解度に応じて授業を進めるので、

必ずしもスケジュール通りに進むとは限らない。

2012年度以降入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海思想演習 A**
Seminar in European Philosophy A
2011年度以前入学生用(文化)**ヨーロッパ・地中海思想演習 A**
Seminar in European Philosophy A

学期 前期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **履修の方法** 演習

担当教員 田中 綾乃

授業の概要 近代哲学の金字塔と言われるカントの『純粹理性批判』を中心に、カントの著作をじっくりと精読する。「コペルニクスの転回」と言われるカントの認識論の箇所を読解することで、私たちが世界をどのように認識し、また、世界とどう向き合っているのかを省察する。

学習の目的 難解だと言われるカントのテキストに対峙することで、テキストを深く読み込む読解力、物事を論理的に考える思考力、自分の考えを他者に伝えるためのコミュニケーション能力、そして、何より自分自身で考え抜くという哲学の基本的な態度を身につけることを目標とする。

学習の到達目標 カントのオリジナルテキストを読解する。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学

授業計画・学習の内容

学習内容

第一回 イントロダクション

第二回 各回の担当者の決定、基礎的文献の紹介など

第三回目以降は、担当者の発表形式によっ

習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

演習であるので、受講者同士の自発的な対話、討論が求められる。

後期科目「ヨーロッパ・地中海思想演習B」を受講すること。

予め履修が望ましい科目 哲学・倫理学科目

教科書 カント『純粹理性批判』（岩波文庫）

成績評価方法と基準 ゼミ発表、授業への積極的参加、レポートなどから総合的に評価する。

オフィスアワー 毎週水曜日12時～13時

て、ディスカッションを進める。

担当者は、担当箇所のレジュメを作成し、発表を行う。

それを踏まえて、参加者全員が議論、討論を行う。

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海思想演習 B**
Seminar in European Philosophy B
2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海思想演習 B**
Seminar in European Philosophy B

学期 後期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次 **履修の方法** 演習
担当教員 田中 綾乃

授業の概要 近代哲学の金字塔と言われるカントの『純粹理性批判』を中心に、カントの著作をじっくりと精読する。後期は、カントの認識論を中心にして、カントが時間や空間をどう捉えていたのか、カントの世界観を明らかにする。

学習の目的 難解だと言われるカントのテキストに対峙することで、テキストを深く読み込む読解力、物事を論理的に考える思考力、自分の考えを他者に伝えるためのコミュニケーション能力、そして、何より自分自身で考え抜くという哲学の基本的な態度を身につけることを目標とする。

学習の到達目標 カントのオリジナルテキストを読解する。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考

授業計画・学習の内容

学習内容

第一回 イントロダクション
第二回 各回の担当者の決定、基礎的文献の紹介など
第三回目以降は、担当者の発表形式によっ

力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

演習であるので、受講者同士の自発的な対話、討論が求められる。

前期科目「ヨーロッパ・地中海思想演習A」を受講すること。

予め履修が望ましい科目 哲学・倫理学科目

教科書 カント『純粹理性批判』（岩波文庫）

成績評価方法と基準 ゼミ発表、授業への積極的参加、レポートなどから総合的に評価する。

オフィスアワー 毎週水曜日12時～13時

て、ディスカッションを進める。
担当者は、担当箇所のレジメを作成し、発表を行う。
それを踏まえて、参加者全員が議論、討論を行う。

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の思想 A**

European Philosophy A

2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の思想 A**

European Philosophy A

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 田中 綾乃 (人文学部)

授業の概要

ヨーロッパ近代哲学における根本思想を考察することで、近代から現代に至るまでの思考法の基礎を学ぶことを目論見とする。

前期は、<私>をテーマにしながら、近代哲学において確立された<私>の概念を巡り、<私とは何か?>という問いを考えた哲学者たちの思想を紹介する。

身近な問いから、哲学的なものの見方とは、どのような見方であるのかを学び、クリアに考える力をゼロから学ぶ。

学習の目的

西洋哲学における主要な主題を歴史的かつ体系的に基礎づける。

物事をじっくり考察するという哲学的思考法や哲学的態度を学ぶ。

先人たちの思想を考察することで、多角的なもの見方や価値観を養う。

学習の到達目標 「私とは何か?」という問いを深めながら、「自我」や「アイデンティティ」と言われる近代的なもの見方・思想を再考する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第一回 イントロダクション
- 第二回 <私>を巡る哲学の旅
- 第三回 <私>とは何か?
- 第四回 デカルトによる<私>の存在
- 第五回 <私のこころ>と<私のからだ>
- 第六回 主体としての<私>
- 第七回 individualと<私>
- 第八回 ライブニッツの個体概念
- 第九回 ロックの自己同一性

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

- ・哲学は「自分自身で考える」学問である。それゆえ、受動的ではなく、能動的に授業に参加すること。
- ・毎回の授業にレスポンス・ペーパーを配布、回収する。
- ・哲学ワークショップ（対話型授業）を採り入れる。

予め履修が望ましい科目 哲学・倫理学の科目

発展科目 ヨーロッパ・地中海思想演習

教科書 プリント配布

成績評価方法と基準 授業時のレスポンスペーパー（レポート）の内容、平常点などから総合的に評価する。

オフィスアワー 毎週木曜日12時～13時

第十回 自我論

第十一回 カントのI think that～

第十二回 カントの統覚

第十三回 <私>と<他者>

第十四回 <私>という不可思議な存在

第十五回 総括

ただし、受講生の関心や理解度に応じて授業を進めるので、必ずしもスケジュール通りに進むとは限らない。

2012年度以降入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の思想 B**

European Philosophy B

2011年度以前入学生用(文化) **ヨーロッパ・地中海の思想 B**

European Philosophy B

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 田中 綾乃 (人文学部)

授業の概要

ヨーロッパ近代哲学における根本思想を考察することで、近代から現代に至るまでの思考法の基礎を学ぶことを目論見とする。

後期は、主に〈啓蒙〉をテーマにしなが、近代哲学において発展した〈啓蒙〉の概念に着目しながら、現代の私たちの基本的な発想や歴史認識へと繋がる近代の思考法を理解する。

身近な問いから、哲学的なものの見方とは、どのような見方であるのかを学び、クリアに考える力をゼロから学ぶ。

学習の目的

西洋哲学における主要な主題を歴史的かつ体系的に基礎づける。

物事をじっくり考察するという哲学的思考法や哲学的態度を学ぶ。

先人たちの思想を考察することで、多角的なものの見方や価値観を養う。

学習の到達目標 18世紀のドイツの哲学者カントは『啓蒙とは何か』の中で、「啓蒙」とは「自分自身で考えること」であると述べている。このカントの「啓蒙」の定義を理解し、哲学や倫理学の主題について自ら思考できるような実践力を身につける。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

・哲学は「自分自身で考える」学問である。それゆえ、受動的ではなく、能動的に授業に参加すること。

・毎回の授業にレスポンス・ペーパーを配布、回収する。

・哲学ワークショップ（対話型授業）を採り入れる。

予め履修が望ましい科目 ヨーロッパ・地中海の思想A、哲学・倫理学の科目

発展科目 ヨーロッパ・地中海思想演習

教科書 カント『啓蒙とは何か』（光文社古典新訳文庫）

成績評価方法と基準 授業時のレスポンスペーパー（レポート）の内容、平常点などから総合的に評価する。

オフィスアワー 毎週木曜日12時～13時

授業計画・学習の内容

学習内容

第一回 イントロダクション

第二回 〈啓蒙〉とは何か？

第三回 20世紀における〈啓蒙〉批判

第四回 啓蒙の世紀－17世紀の自然科学の発展－

第五回 光としての理性

第六回 啓蒙時代の思考形式－合理主義－

第七回 啓蒙時代の倫理

第八回 啓蒙時代の美術・芸術

第九回 カントの啓蒙思想

第十回 三つの格率

第十一回 人間の尊厳

第十二回 コスモポリタンの世界

第十三回 永遠平和に向けて

第十四回 ヘーゲル以降の啓蒙思想

第十五回 総括

ただし、受講生の関心や理解度に応じて授業を進めるので、必ずしもスケジュール通りに進むとは限らない。

2012年度以降入学生用(文化) **日本の文学M**

Lecture in Japanese Literature M

2011年度以前入学生用(文化) **日本の文学M**

Lecture in Japanese Literature M

学期 前期 開講時間 火 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **選必** 選択

授業の方法 講義

担当教員 岡本 聡 (非常勤講師)

授業の概要 中学や高校の授業でも採用されていて有名な古典文学である『おくのほそ道』に関して、「綱吉時代」という歴史的視野を取り入れて、元禄版本『おくのほそ道』を読解していく。

学習の目的 固定観念(通説)に新しい視点の一つ取り入れると別の世界が広がっている事を体験し、芭蕉研究というものから少しでも視点をずらすと、更に未知の領域や残された問題が多い事に気付く事を一般目標とする。

学習の到達目標 前半部は、くずし字で版本『おくのほそ道』を読解していくので、くずし字で版本レベルの字を読解出来るようになる事を第一の目標とする。また後半では『お

くのほそ道』を取り巻く歴史的背景を説明するので、それを理解する事を第二の目標とする。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力

予め履修が望ましい科目 くずし字を学習する授業

教科書 『『おくのほそ道』と綱吉サロン』(おうふう 2014年9月)

成績評価方法と基準 学期末の試験により行う。60点以上を合格とする。また、出席率も考慮に入れる。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1 ガイダンス
- 2 『おくの細道』読解 その一
- 3 『おくの細道』読解 その二
- 4 『おくの細道』読解 その三
- 5 『おくの細道』読解 その四
- 6 『おくの細道』読解 その五
- 7 『「おくの細道」と綱吉サロン』読解 その六
- 8 『「おくの細道」と綱吉サロン』読解 その一
- 9 『「おくの細道」と綱吉サロン』読解 その二
- 10 『「おくの細道」と綱吉サロン』読解 その

- 三
- 11 『「おくの細道」と綱吉サロン』読解 その四
- 12 『「おくの細道」と綱吉サロン』読解 その五
- 13 『「おくの細道」と綱吉サロン』読解 その六
- 14 『「おくの細道」と綱吉サロン』読解 その七
- 15 『「おくの細道」と綱吉サロン』読解 その八

2012年度以降入学生用(文化)**特殊講義（台湾の政治と社会の発展）**
Special Lecture Taiwan's Political and Social Development
2011年度以前入学生用(文化)**特殊講義（台湾の政治と社会の発展）**
Special Lecture Taiwan's Political and Social Development

学期 前期 開講時間 水 9, 10, 11, 12 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

選/必 選択 授業の方法 講義

担当教員 許 家豪

授業の概要

この授業では、台湾の民主主義への移行の過程を追うことで、台湾の政治と社会の発展を概観しようと思っています。まず台湾の民主化の歴史的軌跡を学びます（第一部）。次に台湾の政党政治・憲法改正・独自政策・経済発展及びアジアにおける台湾の役割といった、台湾の政治的・社会的発展のさまざまな側面を、台湾の民主化の前と後に関して、学びます（第二部）。次に、台湾の民主主義の目立った特徴とその可能性について議論します（第三部）（第四部）。

This course offers a condensed yet comprehensive overview of Taiwan's political and social development through following the process of Taiwan's democratic transition. Based on the historical trajectory of Taiwan's democratization process (Part I), students will learn different aspects of Taiwan's political and social development before and after Taiwan's democratization, including party politics, constitutional reforms, identity politics, economic development, and Taiwan's role in Asia-Pacific regional politics (Part II). We will then discuss the distinct features of Taiwan's democracy (Part III), and its possible challenges (Part IV).

学習の目的

この授業は、東アジア地域での台湾の政治と社会の発展および未来における役割について総合的に学ぶことを目的とします。

This course aims to offer students a comprehensive understanding of Taiwan's political and social development and its (future) roles in the East Asian region.

学習の到達目標

- A. アジア太平洋地域における台湾の民主化と、その影響と意義の総合的な理解。
- B. 台湾の民主化のもつ様々な側面とその論理

の理解。

C. 台湾の民主主義の研究と、国際政治・地域の研究の現状。

以上の3つをを学んだ上で、授業内で議論を行い、期末にレポートが書けるようになる。

The course proposes to enable students to:

A. Acquire a comprehensive understanding of the trajectory of Taiwan's path to democracy and its characteristics by reviewing historical narratives and empirical studies on Taiwan's democratic transition, consolidation, and its consequences and significance in the Asia-Pacific region.

B. Learn different perspectives and theoretical explanations of Taiwan's democratic transition, democratic practices, and evaluations of Taiwan's democratic consolidation.

C. Conduct independent studies on democracy in Taiwan and related research topics in international politics and regional studies.

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、課題探求力、情報発信力、討論・対話力、実践外国語力

教科書

教科書は使いません。授業でそのつどプリントを配ります。

Textbook does not use. I will distribute the printed each time in the classroom.

成績評価方法と基準

出席二割、議論への参加三割、期末レポート（英語か中国語）五割。

Attendance: 20%、Class participation and discussion: 30%、Final paper(English or Chinese): 50%。

オフィスアワー

水曜日の7・8限より前の時間。なるべく予約してください。

Wednesday before 16:00. Please be as much as possible reservation.

その他

台湾の中山大学からいらっしゃった客員の先生です。授業は英語で行いますが、中国語でも質問やレポートの提出が可能です。シラバ

スの日本語訳は人文学部吉丸雄哉が要約して載せております。

It is a visiting professor who came from Taiwan of Sun Yat-sen University. Teaching is done in English, but can be submitted questions and reports in Chinese. Katsuya Yoshimaru has a Japanese translation of this syllabus.

授業計画・学習の内容

学習内容

* 論題ひとつごとに90分

第一部 台湾の政治の歴史と文化の背景

第一週 4月15日

論題1: 導入「台湾の何が問題か?」。論題2: 初期の接触「オランダ・中国・日本」。

第二週 4月22日

論題1: 台湾の独立「国民党独裁下での台湾」。論題2: 民主化と台湾化「台湾での中華民国」。

第二部 台湾の民主化の様々な面とその過程

第三週 5月13日

論題1: 憲法改正。論題2: 台湾の政党。

第四週 5月20日

論題1: 経済成長と民主化。

第三部 東アジアでの台湾の苦しい状況は何か独特なのか?

論題2: 中国の台頭と台湾の政治における“中国要因”

第五週 5月27日

論題1: 台湾の安全保障と外交政策

論題2: 独自の政策とワン中国国家建設

第四部 近未来での台湾の挑戦

第六週: 6月3日

論題1: 分断国家での民主主義の統合?

論題2: 儒教的民主主義?

第七週: 6月10日

論題1: 多文化台湾? : 移行、移民や台湾の先住民

論題2: 結語: 台湾の民主主義のゆくえ?

第八週: 6月17日

論題1: どのように、またなぜ、台湾は日本と関わっているのか。

論題2: 学習の振り返り

*90 minutes per topic one

Part I: Historical and Cultural Background of Taiwanese Politics

Week 1: 4/15

Topic 1: Course introduction: Why Taiwan Mat-

ters?

Topic 2: Early Encounters: The Dutch, the Chinese, and the Japanese

Week 2: 4/22

Topic 1: "Free China": Taiwan Under KMT Authoritarian Rule

Topic 2: Democratization and Taiwanization: Republic of China (ROC) on Taiwan

Part II: Aspects and Process of Democratization in Taiwan

Week 3: 5/13

Topic 1: Constitutional Reforms

Topic 2: Party Politics in Taiwan

Week 4: 5/20

Topic 1: Economic Growth and Democratization

Part III: What's So Unique About Taiwan's Predicament in East Asia?

Topic 2: China's Rise and the "China Factor" in Taiwanese Politics

Week 5: 5/27

Topic 1: Taiwan's Security and Foreign Policy

Topic 2: Identity Politics and Nation-building in Taiwan

Part IV: Taiwan's Challenges in the Near Future

Week 6: 6/3

Topic 1: Consolidating Democracy in a Divided Nation?

Topic 2: A Confucian Democracy?

Week 7: 6/10

Topic 1: Multicultural Taiwan? : Migration, Immigration and Aborigines in Taiwan

Topic 2: Concluding Remarks: Whither Taiwan's Democracy?

Week 8: 6/17

Topic 1: How and Why Does Taiwan Matter to Japan.

Topic 2: Course Summary and Discussions

比較社会学論

2012年度以降入学生用(文化)
2011年度以前入学生用(文化)

Comparative Sociology
Comparative Sociology

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 前川 真裕子 (人文学部)

授業の概要 前半の講義では、西洋社会と非西洋社会の「思考の仕方」について考察していく。西洋社会では長らく、「ヨーロッパ人に特有の考え方」が存在し、それは時に非西洋社会の思考よりも合理的で優れたものだと認識される傾向にあった。本講義では、西洋中心主義という概念に着目しつつ、両者の思考の違いがあるとするとする見解を批判的に考察することを目的にしている。特に、西洋的思考と非西洋的思考をめぐる多くの著作を残したレヴィ=ストロースの理論に注目していく。講義では彼の残した古典『親族の基本構造』『今日のトテミズム』『野生の思考』を紹介していきたい。また後半の講義では、西洋社会と非西洋社会の政治体制について、植民地主義の問題にも触れながら概観していきたい。特に非西洋社会が、植民地主義という暴力的な異文化接触の結果、西洋社会の影響を受けながら、国家、国民、人種、民族といった概念をどのように構築してきたを理解していく。授業ではその他に、ジェンダーといったテーマを扱いながら、西洋社会と非西洋社会について考察を深めていきたい。(上記の著作をあらかじめ読解しておく必要は無い)

学習の目的

- ・われわれ個々人が様々な人々との出会いを通じて存在しているように、それぞれの社会もけっして自律的に存在してきたわけではなく、周囲の多種多様な社会と接触するなかで自集団のアイデンティティを構築してきたのだということを学べる。
- ・他集団の価値観、制度、規範を考察するとき、自集団の視点から一方的に相手を眼差し評価を下すことが、客観性を欠いた独我論的な関係性を導くことを理解できる。

- ・講義を通して、物事を多面的に捉えて、現代の世界で起きている諸事象を批判的に読み解く力を養うことができるようになる。
- ・近年、日本の企業も国際的に活躍する場が増え、多様な社会的背景を持つ人々との共同作業が要求される。本講義は、その際の標としても役立つ。

学習の到達目標

- ・西洋世界を中心とした文化的価値観（西洋中心主義）の拡大がどのような問題点を持つものかを理解できるようになる。
- ・経済的および軍事的に圧倒的な権力を保持してきた抑圧者としての西洋社会と、それに従属する被抑圧者としての非西洋社会のいびつな関係性を説明することができる。
- ・植民地主義の時代から現代までの長期的視野のもとに両者の関係性が概観できるようにする。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 私語を固く禁ずる

教科書 授業内で指示する。

成績評価方法と基準 中間テスト30%、期末テスト70%、計100%とする（合計60%以上で合格とする）

オフィスアワー

毎週水曜日11:00~12:00

場所：第1回授業で指示する

その他

2014年度未開講分の振替開講となります。
※2015年度限りの特別開講です。

授業計画・学習の内容

学習内容

講義

- 第1回 西洋社会と非西洋社会
- 第2回 西洋中心主義と進化論
- 第3回 眼差す側としての西洋社会と眼差される側としての非西洋社会
- 第4回 野生の思考と西洋近代の思考
- 第5回 映像資料を見る
- 第6回 伝統的政治体制と近代国家
- 第7回 植民地主義による支配体制
- 第8回 植民地における「人種」の問題

第9回 映像資料をみる

第10回 中間試験

第11回 西洋社会と非西洋社会における女らしさと男らしさ

第12回 西洋社会と非西洋社会におけるセクシャリティー

第13回 多様な性と現代社会

第14回 映像資料をみる

第15回 全体のまとめ

(期末試験)

2012年度以降入学生用(文化)**特殊講義「海外ドイツ語文化研修 A」**
German Culture Program Abroad A

2011年度以前入学生用(文化)**特殊講義「海外ドイツ語文化研修 A」**
German Culture Program Abroad A

学期 後期 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 2 **対象** 面接試験に合格した学生のみ **年次** 学部(学士課程): 2
年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 ○大河内 朋子 (人文学部)、カン ミンギョン (人文学部)

授業の概要

ドイツ中部にあるエアランゲン大学において、4週間の語学・文化研修を実施します。

ドイツ語授業は平日の午前中に3時間行われます。平日の午後や週末は、参加学生の調査テーマにあわせてさまざまな施設を見学したり、あるいは近郊都市へ日帰り遠足に出かけます。

宿泊は一人ずつ別の家庭でホームステイします。

三重大学で行われる事前研修では、文献講読や発表によって、各自の調査テーマに関する知見を深めます。

事後研修では、調査結果について発表し、レポートにまとめます。

学習の目的

ドイツ文化のトピックについて問題意識を深め、現地調査に基づいてレポートをまとめる。

ドイツ語でのコミュニケーション能力を向上させる。

学習の到達目標

ドイツ文化のトピックに関して、報告できる。

それぞれの語学レベルにおける修了試験に合格する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

後期授業の受講登録をするだけでなく、9月中に参加申し込みをして、面接試験に合格すること

参加時点で、ドイツ語の学習歴が最低1年間あること

成績評価方法と基準 筆記試験とレポート

オフィスアワー

月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室 (人文校舎2階) にて

水曜日、カン研究室 (人文学部2階) にて

授業計画・学習の内容

学習内容

1回目 事前研修 (ホームステイ先で使える会話練習)

2~4回目 事前研修 (現地調査テーマの発表、調査計画立案指導)

5~28回目 エアランゲン・ニュルンベルク大学

での語学研修 (能力別クラス) と現地調査

29~30回目 事後研修 (現地研修での調査結果報告・レポート指導)

平日の午後や週末には、参加学生のテーマに基づく社会見学や遠足等を行う予定です。

宿泊はホームステイです。

2012年度以降入学生用(文化) **環境特論A**

A method and practice on Environmental Studies A

2011年度以前入学生用(文化) **環境特論A**

A method and practice on Environmental Studies A

学期 前期 **開講時間** 火 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 谷口智雅 (人文学部)

授業の概要 地域には自然環境と共に、そこに住む人々が創造してきた文化・風土も存在し、その結果として各地域にはその個性的な姿や事物を映し出された景観を見ることが出来る。本講義では、地理景観の概念と捉え方、および地域の個性を創り出すあるいは創り出してきた地理的事象を視点に、人間活動と自然環境について講義する。

学習の目的

- 1.人間活動と景観との係わりを理解する。
- 2.自然環境と景観との係わりを理解する。
- 3.地理景観としての土地利用の観察法・把握法を身につける。
- 4.地理景観を視点に各地域のフィールドワークを実施する。

学習の到達目標

- 1.景観から地域の人間活動の特徴を把握できる。
- 2.景観から地域の自然環境の特徴を把握できる。
- 3.地理景観としての土地利用の観察・把握ができる。
- 4.地理景観を視点に各地域のフィールドワーク

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1-3回 地域の特徴と環境
第4-6回 景観による地域・環境の理解
第7-9回 景観の捉え方と景観記録

を効果的に行うことができる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目

環境学概論
自然環境論A、B

発展科目

環境特論B
環境論演習A、B

成績評価方法と基準 授業内課題40%、発表20%、レポート40%

オフィスアワー 月～木の空いている時間は研究室にて随時受付。

その他 授業は特にテキストは使用せず、パワーポイント・DVDなどの画像・映像をプロジェクターからスクリーンに投影して講義を進めます。また、授業内で景観に関する簡単な実習を行います。

- 第10-11回 地域変容と景観変化
第12-13回 景観による環境評価
第14回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **環境特論B**

A method and practice on Environmental Studies B

2011年度以前入学生用(文化) **環境特論B**

A method and practice on Environmental Studies B

学期 後期 **開講時間** 火、7、8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 谷口智雅 (人文学部)

授業の概要 本講義では、都市地域を対象として、「地域性・地域的特徴とは何かとは」、「地域における自然環境資源、観光資源とは何か」について講義します。地域へのアプローチとして、地理学の体系と地誌の位置付けについて学び、さらに、地域調査・理解の基本となる地形図の見方と利用について学びます。また、地域理解の認識と手法についても併せて講義します。最終的に各自が地域調査を実践できるようになることを目指します。

学習の目的

- 1.人々が生活する地域・風土・環境の基礎的な知識について理解する。
- 2.地理学の概念・研究方法を学ぶことによって、課題探求と解決能力を身につける。
- 3.地域観察のための地域調査法を身につける。
- 4.環境調査のための地形図読解法を身につける。

学習の到達目標

- 1.地域・風土・環境についての概説ができる。
- 2.統計資料および現地観察によって地域の特徴

が理解できる。

3.地域性・地域差を理解できる。

4.基本的な地域調査のための地域観察ができる。

5.基本的な環境調査のための環境計測ができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 環境特論A

発展科目 環境論演習A、B

成績評価方法と基準 レポート 40%、実習 20%、発表20%

オフィスアワー 月～木の空いている時間は研究室にて随時受付。

その他 授業は特にテキストは使用せず、パワーポイントの画像をプロジェクターからスクリーンに投影して講義を進めます。また、野外実習を実施予定。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 授業ガイダンス

第2～4回 地域調査法

第5～8回 地域の環境把握と地域性に関する発表

第9-11回 野外調査法

第12-14回 地域の環境評価と地域性に関する調査

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化) **アジア・オセアニア文化研究**
Studies in Asian and Oceanian Cultures
2011年度以前入学生用(文化) **アジア・オセアニア研究総論**
Introduction to Asian and Oceanian Studies

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次 授業の方法 講義

担当教員 アジア・オセアニア地域の教員 (代表: 片倉望)

授業の概要 アジア・オセアニア地域についての入門的・総合的な科目として、思想・歴史・文学・言語・地誌・文化人類学・美術史などの各分野の教員が分担して講義する。授業では、担当教員が自分の専門分野を研究する際に読んでおくとよい書籍を紹介すると同時に、当該分野の基礎知識や方法論などについても触れていく。

学習の目的

アジア・オセアニア地域の研究を進めるための入門的知識を得る。

学習の到達目標

アジア・オセアニア地域の研究を進めるための入門的知識を得る。

授業計画・学習の内容

学習内容

アジア・オセアニア地域の担当教員が、専門とする研究分野の視点からアジア・オセアニア地域での研究について、リレー形式で概説する。2年次生が後期以降にアジア・オセアニア地域で、どのようなテーマに関して研究するのか、そのためにはどの教員を指導教員に

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書

必要に応じて、各教員から指示される。

成績評価方法と基準

出席とレポートの総合評価。レポートは、授業で紹介された各分野の書籍のうち2つを選んで「書評」を書く。

オフィスアワー

各教員の指定時間。

その他

アジア・オセアニア地域の2年次の学生は必ず受講すること。

選ぶのがよいか、などを検討する際の参考となる。具体的な講義日程と講義概要は、初回講義の際にプリントを配布して説明する。

第1回 この講義についての諸説明

第2回～14回 各担当教員による講義

第15回 総括

2012年度以降入学生用(文化)**日本文学演習Ⅰ** The seminar of Japanese literature I
2011年度以前入学生用(文化)**日本文学演習Ⅰ** The seminar of Japanese literature I

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習
担当教員 坂 堅太

授業の概要 日本近代文学の研究書を一章ずつ輪読しながら、文学と社会との関係について考察する。

学習の目的 日本近代文学を研究するための基本的な知識と手法を修得する。

学習の到達目標 日本近代文学を研究するための基本的な知識と手法を修得する。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 イントロダクション (研究関心の紹介、発表分担の決定、レジュメの作り方など)
第2～9回 受講者による報告 (『「戦後」とい

教科書

高榮蘭 『「戦後」というイデオロギー 歴史／記憶／文化』 (藤原書店、2010年)
大澤聡 『批評メディア論——戦前期日本の論壇と文壇』 (岩波書店、2015年)

成績評価方法と基準 レポート 40%、報告 40%、発言など授業への積極的な参加態度 20%

オフィスアワー 火曜日12～13時、場所：研究室

その他 日本文学演習Ⅰと通年で履修することが望ましい。

うイデオロギー』)

第10～15回 受講者による報告 (『批評メディア論』)

2012年度以降入学生用(文化)**日本の文学B**
2011年度以前入学生用(文化)**日本の文学B**

Lecture in Japanese literature B

Lecture in Japanese literature B

学期 後期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 高井 悠子

授業の概要 中古の文学作品のうち、特に『源氏物語』以後に成立した物語作品について、物語本文を読解しながら学習する。

学習の目的 王朝物語といわれる作品の内容を吟味し、その作品世界を理解する。

学習の到達目標 物語個々の特徴を知るとともに、その文学史的意義を理解する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力

教科書 教科書は指定しない。授業でプリントを配布する。

成績評価方法と基準 授業中に課す課題、ミニレポート及び学期末レポート (80%) と受講態度 (20%) で総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週火曜日の昼休み

その他 第1回目の授業は必ず出席してください。

授業計画・学習の内容

学習内容

物語文学のいくつかの作品を取り上げ、原文を丁寧に解釈しながら、それぞれの作品の特徴や文学史的な位置づけを解説する。受講者は授業で指示されるミニレポートや課題に取り組む。

第1回 イントロダクション

第2回 物語文学史概論

第3回 『源氏物語』を読む①

第4回 『源氏物語』を読む②

第5回 『源氏物語』を読む③

第6回 『源氏物語』を読む④

第7回 『源氏物語』古注釈の世界

第8回 『狭衣物語』を読む①

第9回 『狭衣物語』を読む②

第10回 『浜松中納言物語』を読む

第11回 『夜の寝覚』を読む

第12回 『堤中納言物語』を読む

第13回 中世王朝物語を読む①

第14回 中世王朝物語を読む②

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**日本の文学A**
2011年度以前入学生用(文化)**日本の文学A**

Lecture in Japanese literature A
Lecture in Japanese literature A

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 高井 悠子

授業の概要 中古の文学作品のうち、特に『源氏物語』より前に成立した物語作品について、物語本文を読解しながら学習する。後期の日本の文学Bでは『源氏物語』以降の物語作品について学習する。

教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

教科書 教科書は指定しない。授業でプリントを配布する。

学習の目的 王朝物語といわれる作品の内容を吟味し、その作品世界を理解する。

成績評価方法と基準 授業中に課す課題、ミニレポート及び学期末レポート(80%)と受講態度(20%)で総合的に判断する。

学習の到達目標 物語個々の特徴を知るとともに、その文学史的意義を理解する。

オフィスアワー 毎週火曜日の昼休み

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い

その他 第1回目の授業は必ず出席してください。

授業計画・学習の内容

学習内容

物語文学のいくつかの作品を取り上げ、原文を丁寧に解釈しながら、それぞれの作品の特徴や文学史的な位置づけを解説する。受講者は授業で指示されるミニレポートや課題に取り組む。

第1回 イントロダクション

第2回 物語文学史概論

第3回 『竹取物語』を読む①

第4回 『竹取物語』を読む②

第5回 『伊勢物語』を読む①

第6回 『伊勢物語』を読む②

第7回 『伊勢物語』古注釈の世界

第8回 『大和物語』を読む①

第9回 『大和物語』を読む②

第10回 『平中物語』を読む

第11回 『宇津保物語』を読む①

第12回 『宇津保物語』を読む②

第13回 『宇津保物語』を読む③

第14回 『落窪物語』を読む

第15回 まとめ

2012年度以降入学生用(文化)**日本文学演習B** The seminar of Japanese literature B

2011年度以前入学生用(文化)**日本文学演習B** The seminar of Japanese literature B

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習

担当教員 高井 悠子

授業の概要 『和泉式部日記』を読む。翻刻や注釈など研究の基礎的な作業に取り組む。

学習の目的 『和泉式部日記』を正確に読解する力を養うとともに、『和泉式部日記』研究をする上での基礎的な知識と方法を学ぶ。

学習の到達目標 読解力を養うとともに、研究する上での基礎的な知識と方法を学ぶ。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解

決力, 批判的思考力

教科書 『和泉式部日記』(古典影印叢書、武蔵野書院、鈴木知太郎解説)

成績評価方法と基準 発表内容とレポート(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週火曜日の昼休み

その他 第1回目の授業は必ず出席してください。

授業計画・学習の内容

学習内容

『和泉式部日記』を影印本で読む。

初めの数回は講義形式で、『和泉式部日記』の諸問題や発表方法について講義し、その後、受講者に発表してもらおう。発表者は担当箇所を翻字し、諸本と比較し、用例を挙げながら語釈をつけ、全体を解釈して現代語訳をつけることが要求される。くずし字を読む、諸本を比較する、辞書を引く、用例を踏まえて精読するといった、研究をする上での基礎的な知識と方法を身につける。

第1回 イントロダクション

第2回 『和泉式部日記』について

第3回 発表の方法

第4回 発表①

第5回 発表②

第6回 発表③

第7回 発表④

第8回 発表⑤

第9回 発表⑥

第10回 発表⑦

第11回 発表⑧

第12回 発表⑨

第13回 発表⑩

第14回 発表⑪

第15回 発表⑫

2012年度以降入学生用(文化)**日本文学演習A** The seminar of Japanese literature A
2011年度以前入学生用(文化)**日本文学演習A** The seminar of Japanese literature A

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 演習
担当教員 高井 悠子

授業の概要 『和泉式部日記』を読む。翻刻や注釈など研究の基礎的な作業に取り組む。

学習の目的 『和泉式部日記』を正確に読解する力を養うとともに、『和泉式部日記』研究をする上での基礎的な知識と方法を学ぶ。

学習の到達目標 読解力を養うとともに、研究する上での基礎的な知識と方法を学ぶ。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求

力, 問題解決力, 批判的思考力

教科書 『和泉式部日記』(古典影印叢書、武蔵野書院、鈴木知太郎解説)

成績評価方法と基準 発表内容とレポート(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週火曜日の昼休み

その他 第1回目の授業は必ず出席してください。

授業計画・学習の内容

学習内容

『和泉式部日記』を影印本で読む。

初めの数回は講義形式で、『和泉式部日記』の諸問題や発表方法について講義し、その後、受講者に発表してもらおう。発表者は担当箇所を翻字し、諸本と比較し、用例を挙げながら語釈をつけ、全体を解釈して現代語訳をつけることが要求される。くずし字を読む、諸本を比較する、辞書を引く、用例を踏まえて精読するといった、研究をする上での基礎的な知識と方法を身につける。

第1回 イントロダクション

第2回 『和泉式部日記』について

第3回 発表の方法

第4回 発表①

第5回 発表②

第6回 発表③

第7回 発表④

第8回 発表⑤

第9回 発表⑥

第10回 発表⑦

第11回 発表⑧

第12回 発表⑨

第13回 発表⑩

第14回 発表⑪

第15回 発表⑫

政治学原論

modern politics

学期 前期 開講時間 火1,2;木7,8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程):2年次,3年次,4年次 授業の方法 講義

担当教員 岩本美砂子

授業の概要 現代政治が営まれる場としての制度やその具体的な担い手について講義する。さらに現代政治の抱える諸問題についても扱う。なお本講義は公務員試験の「政治学」の内容をカバーする。

学習の目的 複雑で多様な現代政治について、多様な角度から分析を行い、正確な知識を獲得するとともに、それを動す諸原理を掴むことによって、現代政治についての体系的な理解へと到達する。

学習の到達目標 現代政治の実際を理解するにとどまらず、それを批判的に見つめ、そこに内在している問題に対して自覚的に関わっていくため見識の素地を作る。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、情報

受発信力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 教養科目の政治学

発展科目 行政学、政治過程論、政治学特論、政治思想史、現代政治理論、国際関係論、西洋政治外交史、政治社会学、政治学特論（女性と政治）

教科書 プリントを配布する。

成績評価方法と基準 中間試験と期末試験（持ち込み不可）の総計で評価します。比率はそれぞれが50%。形式は記述式。

オフィスアワー 前期：火曜3～4限

その他 新聞の購読を勧める。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1)オリエンテーション、現代政治とは何か
- 2)民主主義
- 3)有権者
- 4)選挙・投票行動
- 5)選挙Ⅱ
- 6)利益団体、NPO
- 7)福祉国家
- 8)、9)政党Ⅰ、Ⅱ
- 10) 政党制
- 11)議会
- 12)、13)議員・政治家Ⅰ、Ⅱ
- 14) 15)首相・内閣・大統領

- 16) 中間試験
- 17)公務員・官僚
- 18)行政改革
- 19) メディア
- 20)、21) 国際関係Ⅰ、Ⅱ
- 22)、23)政策過程
- 24) 司法
- 25) 地方政治
- 26) 多様な参加・熟議民主主義
- 27)環境政治
- 28)ナショナリズム
- 29) 30) ジェンダーと政治Ⅰ、
- 31) 試験

政治学特論

Women and Politics

学期 後期 開講時間 木7,8 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 岩本美砂子 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 日本における政治を、ジェンダーの観点から分析する

学習の目的 「政治」が、ジェンダーに深く関わっていることを理解する。

学習の到達目標 政治としてメディアに現れる情報を、各自がジェンダーの観点から批判的に考察できるようになる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 批判的思考力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 政治学関連の科目を履修しておくことが望ましい。

教科書 特になし。毎回プリントを配布するので、バインダーを用意すること

成績評価方法と基準 レポート2回70%、出席30%

オフィスアワー 木曜3~4限

その他 新聞・テレビ・雑誌・ネットなどを通じ、政治現象に接することが必須である。

授業計画・学習の内容

学習内容

- ①オリエンテーション 伝統的社会と女性：民俗集合体 家族国家
- ②日本政治史と女性(1) 明治大正、青鞥「良妻賢母」
- ③日本政治史と女性(2) 戦前・戦中・戦後
- ④日本政治史と女性(3) 戦後改革 新憲法・参政権
- ⑤日本政治史と女性(4) 60年安保、高度経済成長, Noと言えない私
- ⑥日本政治史と女性(5) ウーマンリブ マドンナブーム 雇用均等法
- ⑦日本政治史と女性 (6) 政治改革・郵政選挙・政権交代 女性政治家
- ⑧ ジェンダーと政策過程(1) 日本の政策過程か

らの女性の排除

ジェンダー関連立法と議員立法

- ⑨ジェンダーと政策過程(2) リプロダクティブ・ライツ(上) 戦前
- ⑩ジェンダーと政策過程(3) リプロダクティブ・ライツ(中) 70~80年代
- ⑪ジェンダーと政策過程(4) リプロダクティブ・ライツ (下) 避妊
- ⑫ジェンダーと政策過程(5) ドメスティック・バイオレンス(上)
- ⑬ジェンダーと政策過程(6) ドメスティック・バイオレンス (下)
- ⑭女性政策マシナリー
- ⑮女性の政治参加の国際比較 クォータ制 日本の地方議会

国際法総論

Public International Law

学期 前期 開講時間 月 7, 8, 9, 10 単位 4 対象 法律経済学科専用 (年次) 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 坂本一也

授業の概要 グローバル化が進み、ますます複雑化する国際社会において、国家間の関係が円滑に進むためには国家が従うべき規則(国際法)が重要な意義を持つようになってきています。そうした国際法がどういった性質や特徴を持ち、どういった役割を果たしているのかを理解すれば、現在の様々なニュースで取り上げられる国際問題を法的な視点から考えることができるようになります。そこで、この授業では、国際法に関する基本的知識を理解するとともに、現代の国際関係において国際法が果たす役割について考えることにします。また、授業を通して、法的な視点から国際問題を考える基礎的な能力を養ってもらいたいと思っています。

学習の目的 国際法に関する基本的知識を身につけ、より専門的な内容を考える能力を涵養すること。

学習の到達目標

国際法の性質や特徴、基本的な内容を理解すること。
現在起こっている様々な国際問題を国際法の視点から考える基礎となる力を身につけること。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 講義ガイダンス(授業の進め方、国際法とはどのようなか)
第2回 国際法の歴史的展開
第3回 国際社会の構造と国際法の特徴①
第4回 国際社会の構造と国際法の特徴②
第5回 国際法の法源(国際慣習法と条約)
第6回 条約法①
第7回 条約法②
第8回 国際法と国内法の関係
第9回 国際法主体
第10回 国家の成立(国家の構成要件と国家承認)
第11回 国家承継・国家の基本的権利義務

本学教育目標との関連 共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

発展科目 「国際法各論」「国際組織法」「国際関係論」

教科書

教科書は特に指定しません。
国際条約集(いずれの出版社のものでも構いません)は持参してください。

成績評価方法と基準 筆記試験(中間試験: 25%、定期試験 50%)、コメントシート(25%)で評価します。

オフィスアワー 授業終了後またはメール(kazs@gifu-u.ac.jp)で受け付けます。

その他 授業中への質疑応答に積極的に関わってください。また、新聞などの国際面に目を通して、現代の国際問題に関心を持ってください。

①(主権・主権平等・不干涉原則)
第12回 国家の基本的権利義務②(国家管轄権・国家免除)
第13回 外交・領事関係法(国家機関)
第14回 中間試験
第15回 国家領域とその機能(領域主権)取得権原①
第16回 国家領域の取得権原②
第17回 海の国際法①
第18回 海の国際法②
第19回 国際化地域と空の国際法
第20回 国家責任①
第21回 国家責任②
第22回 国際法上の個人の地位(国籍・外国

人・難民)

第23回 国際人権法

第24回 紛争の平和的解決

第25回 国際司法裁判

第26回 戦争・武力行使の違法化（武力不行使

原則)

第27回 自衛権と国連における集団安全保障

第28回 国際人道法①

第29回 国際人道法②

第30回 総まとめ

国際組織法

Law of International Organization

学期 前期 開講時間 火 5, 6; 木 5, 6 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 洪恵子 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 まず、国際組織と国際法との関係や国際組織と国家の法的関係の基本を理解する。次に今日最大の普遍的国際組織である国際連合(国連)を取り上げて、その国際社会における意義を考える。さらに国家間の紛争を法的に解決するための国際組織である国際裁判所についても検討する。このような検討を通じて、国際社会における国際組織の意義を考える。

学習の目的 現代の国際社会に対する理解を深め、国際組織法に関する専門的な知識を身につける。

学習の到達目標 国際組織の法的特徴を理解することによって、その機能を把握し、緊密化する国際社会における国際組織の意義を明らかにする。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 社会人としての態度

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回から第3回 国際組織法とは何か-国際法と国際組織
第4回から第6回 国際組織と国家の法関係(加盟、代表権、特権免除、表決手続など)
第7回から第8回 国際社会の組織化(1)
第9回から第11回 国際社会の組織化(2)
第12回から第13回 国連の目的(国際の平和と安全の維持)

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 国際法総論・国際法各論・国際関係論

発展科目 国際法総論・国際法各論・国際関係論

教科書

[テキスト]

特に指定しないが、学習に必要な文献については授業で適宜紹介する。
なお、授業にはかならず条約集(出版社は問わない)を持参すること。

成績評価方法と基準 筆記試験(中間テストおよび定期試験の2回を予定)(リアクション・ペーパーなどで加点することもある。)

オフィスアワー 火曜日午後14:40~16:10

その他 受講者は国際法総論(国際社会の原理Ⅰ[国際法])の授業をすでに履修した学生または履修予定の学生であることが望ましい。

第14回から第15回 国連の目的(人民の自決権)

第16回から第18回 国連の目的(国際的な人権保障)

第19回から第23回 国連の現代的課題

第24回から第26回 国際裁判制度: 概論

第27回から第30回 国際裁判制度: 国際司法裁判所を中心に

国際組織法演習

Seminar on Law of International Organization

学期 通年 開講時間 木 9, 10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習

担当教員 洪恵子 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 国境を越えて展開される国際組織の諸活動の法的特点を学ぶ

学習の目的 国際組織法(国際法)の専門的知識を学ぶのみならず、演習における議論を通じて法的思考様式を身につける。また報告の準備や実施際の報告を通じて、専門的情報をいかにして収集・整理するか、他の人に何かを説得力を持って説明するためには何が必要かを学ぶことになる。

学習の到達目標 国際紛争と法の接点を発見する能力が高まり、国際紛争の解決に対する国際組織の意義について深い理解が得られる。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話

授業計画・学習の内容

学習内容

各自関心のあるテーマを決めて、グループなし個人で報告を行ってもらう。

力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 国際組織法を2年次または3年次に同時に履修すること。

予め履修が望ましい科目 国際法総論、国際法各論、国際関係論

教科書

授業の際は、国際条約集を持参して下さい。個別資料や文献は開講時に指示します。国際条約集はいずれの出版社のものでも可。

成績評価方法と基準 出席および授業態度(報告の内容を含む)

オフィスアワー 火曜日14:40~16:10

その他 国際法(国際社会の原理I)をすでに履修していることが望ましい。

報告者以外の演習参加者は、報告について積極的に質問・意見を述べてもらう。

国際法各論

Contemporary Issues of Public International Law

学期 後期 開講時間 火5,6;金3,4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程):2年次,3年次,4年次 授業の方法 講義

担当教員 洪 恵子(人文学部法律経済学科)、竹村仁美(愛知県立大学)

授業の概要 国際法各論では、検討の対象の領域を絞って、国際社会が直面する問題の解決に国際法はどのように貢献できるのかを考えることを目的とする。受講生はあらかじめ(または同時に)国際法総論や国際組織法を受講していることが望ましい。この講義は2名の教員で担当する。火曜日は国際刑事法・国際人道法を主として講義し、金曜日は国際人権法(人権の国際的保障)を講義する。

学習の目的 国際法・国際社会について幅広く且つ深い知識を得る。

学習の到達目標 国際法の理論的枠組みを理解し、具体的問題に関する法的論点を発見する思考様式を身につける。国家間の法的協力の必要性や武力紛争における法の重要性、さらに人権問題について国際法の視点から考察する能力を身に着ける。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観,モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

国際刑事法・国際人道法(火曜日)
第1回: イントロダクション(授業の概要・目的・進め方)
第2回: 国家管轄権とは何か
第3回: 刑事分野における国際協力の必要性
第4回: 刑事分野における国際協力の具体的内容(犯罪人引渡制度)
第5回: 刑事分野における国際協力の具体的内容(国際捜査共助)
第6回: 国際法上の犯罪とは何か(海賊概念の意義)
第7回: 国際テロリズムと法(ハイジャックや爆弾テロの規制)

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 国際法総論・国際組織法・憲法を履修しておくこと(ないし同時履修)が望ましい。

発展科目 国際法総論、国際組織法、国際関係論

教科書 横田洋三編『国際人権入門』(第2版、法律文化社、2013年)。授業には条約集(いずれの出版社でも可)を必ず持参すること。

成績評価方法と基準 受講生は週2回の授業の両方に参加することが求められる。成績評価は複数回の筆記試験、リアクションペーパーなどで総合的に判断されるが、目安として筆記試験が約70%、その他が約30%である。

オフィスアワー

洪 恵子:(後期) 火曜日16:20-17:00
竹村仁美: 授業終了後、およびメールなどで対応する。

その他 できるだけ最新の国際情勢を交えて講義を行う。そのためにシラバスにあるスケジュールを若干変更する場合もある。

第8回: 普遍的管轄権の意義
第9回: 武力紛争と法(国際法と戦争)
第10回: 国際人道法(国際人道法とは何か)
第11回: 国際人道法(国際人道法の基本原則)
第12回: 国際人道法(履行確保)
第13回: 戦争犯罪とは何か
第14回: 国際刑事裁判
第15回: まとめ
第16回: 定期試験
国際人権法(水曜日)
第1回 講義ガイダンス 国際法の基礎に関する復習と国際人権法の国際法上の位置づけ
第2回 国際人権の意味と意義

第3回 人権保護促進のための国際的取組み

第4回 国際人権章典

第5回 人身の自由と拷問等の禁止

第6回 少数者・先住民族の人権

第7回 女性の権利

第8回 子どもの権利 中間試験

第9回 難民・国内避難民及び移民と人権

第10回 障がい者・病者の人権

第11回 経済活動と人権

第12回 国際人道法と国際人権

第13回 平和と人権

第14回 国際人権法の国内実施 ～日本の判例を
中心に～

第15回 国際人権と今後の課題

第16回 定期試験

日本政治史

History of japan politics

学期 前期 開講時間 水 7, 8, 9, 10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 奈良岡 聡智

授業の概要 本講義は、近代日本の政治・外交を通史的に検討するものである。東アジア国際関係における日本、日本の国内政治システムの変容、政治家のリーダーシップなどを講義の柱とする。

学習の目的 近代日本の政治・外交に関する基礎的な知識を身につけること。歴史を通して、現代の政治・外交について考える視点を養うこと。

学習の到達目標 毎回講義に出席し、自らの頭で考えながら受講すること。講義中に示した参考文献にできるだけ目を通すこと。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

第1部 前近代の日本政治と東アジア国際関係
1. 前近代の東アジア国際秩序と日本 2. 幕藩体制とは何か 3. ウェスタン・インパクトと開国 4. 世界史のなかの明治維新
第2部 明治期の日本政治と東アジア国際関係
1. 明治国家の出発 2. 明治初期の東アジア外交 3. 明治憲法の制定 4. 政党政治の発展 5. 日清・日露戦争と東アジア 6. 条約改正と日露戦後の東アジア 7. 財閥と産業革命
第3部 大正・昭和初期の日本政治と東アジア国

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 政治学原論、国際関係論

発展科目 政治思想史

教科書 指定しない

成績評価方法と基準 授業中に数回行う小テストおよび学期末の試験によって成績を評価する。学期末の試験では、用語問題および論述式問題を出題する。前者で一定の得点を得られなかった答案については、後者の採点を行わない。

オフィスアワー

質問などは、授業の前後およびメールによって受け付ける。

(連絡窓口教員 古瀬啓之)

国際関係

1. 大正政変と二大政党政治の形成 2. 日本にとっての第一次世界大戦 3. 二大政党政治の展開と崩壊 4. 陸軍の台頭と翼賛体制 5. 日本にとっての第二次世界大戦

第4部 戦後の日本政治と東アジア国際関係

1. 終戦と日本国憲法の制定 2. 講和と占領改革 3. 55年体制の形成と展開 4. 55年体制の崩壊とポスト55年体制の日本政治 5. 戦後日本の領土問題 6. 戦後日本の歴史問題

政治思想史

History of Political Thought

学期 前期 開講時間 火 7, 8; 金 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 麻野雅子 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 授業では、古代ギリシアから近代に至る西洋政治思想史において、どのような問題をめぐってどのような思想が展開してきたのかを説明します。

学習の目的 西洋政治思想史の基本的な知識を得ることが学習の目的です。

学習の到達目標 西洋政治思想史の基本的な知識を得ることによって、現代の政治制度や法制度の思想的背景とともに、それらの制度の設立根拠や意義などについての理解を深めてもらうことが学習の到達目標です。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受

発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありません。

予め履修が望ましい科目 特にありません。

発展科目 現代政治理論、社会思想史、法哲学。

教科書 教科書は指定しません。

成績評価方法と基準 2回の試験で評価します。成績の内訳は、それぞれの試験50%ずつです。

オフィスアワー 火曜日12:00~13:00、場所は人文学部棟麻野研究室です。

授業計画・学習の内容

学習内容

以下のように、年代順に講義を進めていきます。

1. 政治思想史講義概略の説明等、ヨーロッパ古代の政治思想史
- 2~3. ヨーロッパ古代の政治思想
4. ヘレニズム時代の政治思想
- 5~6. ヨーロッパ中世の政治思想 (キリスト教の思想)
- 7~8. ルネッサンスの政治思想
- 9~11. 宗教改革の政治思想・宗教戦争の政治思想
- 12~16. 社会契約論の政治思想 (ホッブズ・

ロックの思想)

17~19. フランス革命をめぐる政治思想 (ルソーの思想他)

20~23. 功利主義と自由主義の政治思想 (ベンサム・ミルの思想他)

24. 試験

25~26. ドイツ観念論の政治思想 (カント・ヘーゲルの思想他)

27~28. 社会主義の政治思想 (マルクスの思想他)

29~30. ファシズムの政治思想 (シュミットの思想他)

政治思想史演習

History of Political Thought

学期 通年 開講時間 火9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 麻野雅子 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 まず政治理論・政治思想の諸テーマ(正義・自由・平等・権力・公共性・民主主義など)をとりあげたテキストを講読することからはじめます。テキストを講読し、議論をするなかで、現代の政治理論や政治思想が、現代社会をどのように捉え、どのような視点から問題を掘り下げているのかを、受講生に理解してもらいます。その過程で、受講生の関心が広がれば、政治思想の古典を読んでいくこともあります。

学習の目的 政治理論・政治思想に関する文献を読み、基本的な知識を身につけることが学習の目的です。また文献の内容を適切に紹介できる能力をも身につけられるようにします。

学習の到達目標 政治理論・政治思想の基本的な知識を得たうえで、政治理論や政治思想が何を問題しているかを理解し、現代社会で起こっている具体的な政治問題を自分なりの視点から分析できるようになることが学習の到達目標です。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報

受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありません。

予め履修が望ましい科目 必ずというわけではありませんが、2年生前期に政治思想史、後期に現代政治理論を受講していることが望ましいです。

発展科目 特にありません。

教科書 サンデル『これからの「正義」の話をしてしよう』(早川書房)、川崎修・杉田敦(編)『現代政治理論』(有斐閣)、小川仁志『はじめての政治哲学』(講談社現代新書)、森政稔『変貌する民主主義』(ちくま新書)ほかを予定していますが、受講生と相談の上、変更することもあります。

成績評価方法と基準 適切な報告をしているか、積極的に発言や提案をしているかなど、文献の理解度や報告の的確さの程度、演習への積極性や貢献度によって評価します(100%)。

オフィスアワー 火曜日12:00~13:00、場所は人文学部棟麻野研究室です。

授業計画・学習の内容

学習内容 演習の形態は、受講生の一人ないし複数の者が、報告者として、レジメを作り内容について説明をしたあと、全員で報告内容について討議するというオーソドックスなものです。後期は、受講生と相談のうえ、古

典的な政治思想の文献を読むか、引き続き、現代政治理論に関する文献を読むかを、決めます。また演習の最後には、受講生自らがテーマを選定して、そのテーマに関して勉強・研究し、報告する機会を設けます。

現代政治理論

Contemporary Political Theory

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 麻野雅子 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 授業では、民主主義を考察の対象とする現代政治理論の内容を紹介します。

学習の目的 民主主義を考察の対象とする現代政治理論に関する基本的理解を得ることが学習の目的です。

学習の到達目標 民主主義を考察の対象とする現代政治理論の基本的理解を得たうえで、現実の政治を理論的に分析する能力を身につけることが学習の到達目標です。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 感じる

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありません。

予め履修が望ましい科目 政治思想史

発展科目 法哲学、社会思想史

教科書 教科書は指定しません。

成績評価方法と基準 2回の試験で評価します。成績の内訳は、それぞれの試験50%ずつです。

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00、場所は人文学部棟麻野研究室です。

授業計画・学習の内容

学習内容

以下のようなテーマに沿って、授業を進めていきます。

1. 講義の概要説明、民主主義論の導入
2. 民主主義とは何か
3. 民主主義の歴史
4. 民主主義と自由主義1
5. 民主主義と自由主義2
6. 民主主義と自由主義3

7. 民主主義とファシズム1
8. 民主主義とファシズム2
9. 戦後の自由民主主義1
10. 戦後の自由民主主義2
11. 試験
12. 現代民主主義の課題1
13. 現代民主主義の課題2
14. 現代民主主義の課題3と展望
15. まとめ

行政法総論

Administrative Law

学期 後期 開講時間 火3,4; 金5,6 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 前田 定孝 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 日本国憲法に基づいて、行政権はどのように位置づけられているのか。行政が果たすべき役割、その国民主権に基づく民主主義的な行政統制のありかた、その権限行使に対する統制のあり方について、先人たちがつくりあげてきた理論体系を一瞥しつつ、今後の未来志向的な「行政法というものの考え方」をともに考える。

学習の目的 行政法総論の体系を学ぶことで、国家権力に対する民主主義的統制とその権限濫用統制の法理について、人類がどのような努力をしてきて、現在どのような到達状況にあり、そしていかなる課題に直面しているのかを学ぶことができる。

学習の到達目標 国民・住民は、何を目的として〈行政〉などというものをつくりだし、そこで実施されるさまざまな公共的役務をどのようにして適正なものとするべく、〈法的に〉責務を負わせているのか。そこでは、法律の制定を通じて行政に対する権限配分と、権利保護過程を通じた救済システムが問題となる。その全体像を把握することによって、国民・住民と国家権力の関係の適切なあり方について考えることができ、さらにその統制

法理をみずから創造的に考えることができるようになる。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書 [テキスト] 紙野健二・市橋克哉編 『資料現代行政法〔第3版〕』(法律文化社、2008年)

成績評価方法と基準 中間レポートおよび期末レポートによって評価する。

オフィスアワー 第1回目の授業時に情報提供する。

その他 特になし。

授業計画・学習の内容

学習内容

現代における国民生活と行政、および法の関係は、大きく変動しつつある。なかでも国レベルで重要な行政法規の制定・改正が相次ぐ一方で、地方自治体におけるさまざまなとりくみも相次いでいる。そこでは、これまで政府が実施してきた活動を民間組織に委ねる傾向も指摘される。その一方で、裁判においても、行政の活動を通じて実現される国民の人権または権利をめぐって次々と重要な判決例が出されている。そしてこれらの展開は、都市開発、環境、社会保障、教育など、あらゆる分野におよんでいる。

それでは、国民は、なにを意図して〈行政〉

などというものをつくりだしたのであろうか。また、そこで法律を通じて担わせられる行政上の責務とは、国民がほんとうに意図したとおりに果たされているのであろうか。果たされていないとしたら、どのようにして是正されるのであろうか。

本講義では、これらの答えを自分たちなりに見いだそうと、あえて果敢にとりくむものである。とりわけ、行政情報や不服審査などに関連して、新しい制度が年々誕生するなかで、かかるツールも駆使しつつ、国民・住民の権利実現のために行政は何ができるのか、何をすべきであるのかなどを、ともに考える機会としたい。

〔授業計画〕

- (1/2) 行政と行政法の意義
- (3/4) 行政法の基本原理—法治主義
- (5/6) 行政権限の委任—組織法関係
- (7/8) 行政活動の法体系—その作用、特殊性、および法関係
- (9/10) 行政活動の法体系—その手続的側面と行政過程
- (11/12) 民主主義的局面における法治主義 (その1 行政計画)
- (13/14) 民主主義的局面における法治主義 (その2 行政立法)
- (15/16) 民主主義的局面における法治主義 (その3 情報公開)
- (17/18) 権限行使局面における法治主義 (その1 行政行為①権限行使)
- (19/20) 権限行使局面における法治主義 (その2 行政行為②効力)
- (21/22) 権限行使局面における法治主義 (その4 行政契約)
- (23/24) 権限行使局面における法治主義 (その5 行政指導)
- (25/26) 権限行使局面における法治主義 (その3 権限行使の前提としての情報収集)
- (27/28) 権限行使局面における法治主義 (その6 義務履行確保と強制)
- (29/30) レポート解説、まとめ、行政法各論・行政救済法への道筋

行政法演習

Administrative Law

学期 通年 開講時間 火9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習

担当教員 前田 定孝 (人文学部法律経済学科)

授業の概要

昨年度は、津市内における地域格差の原因とその解決方法について、交通と産業を素材にみんなで考察した。そのなかで、法的論点も検討した。また、市町村合併によるさまざまな影響も検討した。その成果が、学生論集掲載論文である。

しかしながら、検討する素材は、地域格差に限定されない。その前には福島第一原発の事故をきっかけに、エネルギー供給とそこで果たす政府の役割を検討した。

それぞれ、ゼミ生が主体的に報告課題を企画し、自主的に分担し、そして集团的に検討を進めることを目標としている。

そのことを通じて、現代社会に生きる主権者としてのものの見方をみんなでつくっていく。

学習の目的 国民生活において行政の果たす役割について考える方法を、実践的に身につける

学習の到達目標

- ・国民生活と人権、法、そして行政の関係について理解する。
- ・時代の変化とともに変容する法と行政が担う課題を発見し、認識する。

授業計画・学習の内容

学習内容

役所というものは、何をするとところだろうか。われわれの日常とどのように関係しているのだろうか。

日頃気にすることのない〈行政〉は、実はわれわれの日常生活を下から支えるものでありつつも、国民・住民のあいだの利害調整に際しては強大な権力をともなうものでもある。それでは、行政とは、そもそも何をするためにつくりだされたものであろうか。その担う役務とは、どのようにして形成し、どのように展開しているのであろうか。それらはいかなる範囲で権限行使されるのであろうか。

・現代の国家・行政の変容が提起する法的課題について考え、現代行政を見る眼を養う。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 新聞、雑誌、ネットニュース、書店などはこまめにチェックしてほしい。

成績評価方法と基準 毎回の出席、報告および発言などの平常点を総合して評価する。とくにレジュメのできばえには評価の重点を置く。

オフィスアワー 第1回目のゼミの際に情報提供します。

その他 特になし

このゼミは、このような行政が担う役務とそのあり方について、できるだけわれわれの身のまわりの事象から出発し、そしてあれこれと議論しながら問題点をみずから見つけ出し、そして学問的高みにいたろうとする場所である。

たとえばこの間、救急車のたらい回し事件に端を発して地域における救急医療のあり方、タクシーという公共交通機関のあり方、そして福島第一原子力発電所事故を踏まえて今後のエネルギー供給のあり方などを、それぞれ法的問題点がどのように関連するのかなどをはじめとして、議論した。

これらの諸論点には、かならずしも学会レベルでも十分に検討されていないものもある。しかし、これらの作業を通じて、社会生活を営むうえでも、問題発見から解決の道筋の模索、そして解決策の発見という一連の作業方法を、自分なりに身につけることにもつなが

るものとする。

これらのプロセスを踏まえて導き出された検討の過程や結果をまとめあげたものが、参加者にとってかけがえのない学生生活の記念品となることを期待したい。

行政救済法

Law of Administrative Remedy

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 前田 定孝 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 国民がその代表者を通じて制定した法律に基づく行政活動とは、その本来の国民の意思どおりに行われているのだろうか。行われていない局面があればそれはどのようにして整理されるのだろうか。それらの点につき、過去の裁判例などを振り返ることで追体験する。

学習の目的 日本国憲法に基づいて制定された、それぞれの行政活動を根拠づける法律が、裁判所が発見したその上位概念たる〈法〉というものに適合的に運用されているのかどうかにつき、個別事案および裁判例を通じて過去に私たちの先輩たちがつくってきた理論をたずね、そのことを通じて自分で考える能力を身に付ける。

学習の到達目標 行政訴訟、国家賠償訴訟、住民訴訟、さらには行政不服審査制度をはじめとするさまざまな方法を概観することで、国民・住民の権利主張が行政運用上の解釈と食い違った場合の解決方法を理解し、さらによりよい行政制度のあり方を展望することが

授業計画・学習の内容

学習内容

行政をそのうちに含む国家機構は、憲法で保障された基本的人権を実現するために存在する。そこでは、国民の意思としてのその実現のプログラムが、立法を通じて行政に組み込まれ、行政はそれを実施する。しかし、国会で制定された法律といえども、国民の人権を充分に実現しえないことや、個々の国民が期待した結果がもたらされないこともある。それは、当該国民と行政との、解釈上の齟齬による紛争として立ち現れる。かかる状況において、本来予定されていたはずの人権または権利とは何か、それは法律の目的、さらには憲法の目的との関係で、どのように評価されるのが、そこで問われることになる。そして出された結論は、再び行政上の、場合によっては立法上の手続におい

でできる。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書 岡田正則他編『判例から考える行政救済法』（日本評論社、2014年）

成績評価方法と基準 中間レポートおよび期末レポートによって評価する。

オフィスアワー 第1回目の授業時に情報提供する。

その他 特になし。

て、当該制度をより適切なものへと修正するきっかけとなる。

現行の制度は、この一連の大きなサイクルを通じて、人権を適切に実現するものとなっているのだろうか。なっていないとすれば、そこにはいかなる問題点が存在し、いかなる変更が求められているのだろうか。行政救済法は、そのことをともに考えることを課題とする。

なお、行政法は、入るにはハードルが高く見えがちである。しかし、その内容全体を単純化して把握しなおすと、それほど難しくないことがわかる。ともにそのハードルを越えて、語りあう機会としたいと考えている。

〔講義計画〕それぞれの項目を1回または2回の講義で行う

第1回 行政不服審査制度

第2回 行政事件訴訟法①訴訟要件

第3回 行政事件訴訟法②司法判断方法

第4回 行政事件訴訟法③義務づけ訴訟と差止訴訟

第5回 行政事件訴訟法④その他（仮の権利保護、無名抗告訴訟など／当事者訴訟／民衆訴

訟／機関訴訟)

第6回 損失訴訟

第7回 国家賠償法①公権力行使

第8回 国家賠償法②営造物責任／結果責任

第9回 住民訴訟

地方自治論

Theory of Local Government

学期 前期 開講時間 月3, 4; 木 1, 2 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 岩崎 恭彦 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 地方自治の基本的しくみを学び、地域社会におけるそのはたらきを考察する。

学習の目的 地方自治の法原理と制度を理解した上で、分権型社会において自治体が果たすべき役割を主体的に考えてみる。

学習の到達目標

- ・地方自治の法としくみを体系的に理解し、系統立てて説明できるようになる。
- ・自治体と住民との現実的・具体的なかわりに即しながら、地方自治の重要性や地方分権の意義を評価できるようになる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

地方自治の法としくみは、大きな変動期の最中にある。これらが最終的にどういう形で決着するかはまだ予測ができないが、地方自治の行方は、まちづくり、地域福祉、環境保全といった地域の具体的・現実的な課題として、私たちの日々の生活にも直接かかわってくることになる。そのため、地方自治・地方分権をめぐる近年の動向や今後の展望を、これからの地域に生きる自分自身の関心事として注意深く見守ってもらいたい。

以上を踏まえつつ、本講義では、地方自治の法としくみを学んでいくこととする。

〔授業計画〕

【前半部：地方自治の法としくみ】

前半部の講義では、私たち自身が地方自治の今後をきちんと見据え、更には、地方自治のあるべき姿を主体的に考える上で不可欠となる知識や技術の修得をめざしていく。

ここでは、おおむね次の項目について取り扱う予定である。

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書 自学自習用のテキストとして、人見剛＝須藤陽子編著『ホーンブック地方自治法 [改訂版]』（北樹出版、2013年）を掲げておく。

成績評価方法と基準 筆記試験をもとに評価する。

オフィスアワー

月曜日13:00-14:30

なお、その他の時間においても質問等は常時受け付けるので、研究室を訪ねてほしい。

その他 講義に際して、レジュメ（「講義案」）等を配付し、それに沿って講義を進める。

1. 地方自治の基礎理論
2. 「地方公共団体」と「自治体」
3. 自治体の事務
4. 自治体の立法
5. 自治体の組織
6. 自治体における住民参政・住民参加
7. 地方自治法制の課題

【後半部：地方自治・地方分権の諸課題】

後半部の講義では、地方自治の法としくみが、現実の地域社会ではいかなる機能を果たしているか、そして、私たち住民の生活とはどのように関わっているかを学んでいく。

ここでは、おおむね次の項目について取り扱う予定である。

1. 地方自治と財政
2. 市町村合併と道州制
3. まちづくりの法と地方自治行政
4. 地域福祉の法と地方自治行政
5. 情報公開・住民参加の法と地方自治行政
6. 地方自治・地方分権の諸課題

地方自治論演習

Seminar in Theory of Local Government

学期 通年 開講時間 月9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 岩崎 恭彦 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 まちづくりの法的課題について、地方自治・地方分権というものの見方に軸足を置いて検討することで、地方自治の法としくみへの理解を深めていく。

学習の目的 まちづくりの法的課題を素材にとりつつ「地方自治と法」の理論と実際を検討し、それを通じて地方自治論の研究上の視点を確立することをめざす。

学習の到達目標

- ・地方自治の法としくみについての理解を前提に、まちづくりおよびその対応のための自治体法政策をめぐる諸論点の検討においてそれを応用できるようにする。
- ・地方自治のあるべき姿を主体的に考え、自らの見解を論理的に述べられるようになる。
- ・演習における議論に積極的に参加する。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解

決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書 適時紹介する。

成績評価方法と基準 演習にのぞむ姿勢を評価する。

オフィスアワー

月曜日13:00-14:30

なお、その他の時間においても質問等は常時受け付けるので、研究室を訪ねてほしい。

その他 演習時間は延長が予想されるので、この点を念頭に置いてほしい。

授業計画・学習の内容

学習内容

2015年度の演習では、近年の「まちづくり」の動きと、それに対応するための自治体における法政策を素材として、地方自治のあるべき姿を法的観点から検討する。

まちづくりは、きわめて豊富な意味・内容を持つ概念である。土地・建物の乱開発の防止やマンション建築紛争の解決、あるいは都市基盤の整備といったことだけが、そこでの目標とされるのではない。たとえば、良好な自然環境の保全、快適な生活環境の整備、景観の保全や創造、歴史的建造物の保護、災害の予防といったことは、従来からまちづくりの目標に掲げられてきたし、更に最近では、犯罪の少ないまちづくりやひとにやさしいまちづくりをめざした地域活動もみられるなど、その意味・内容はますます豊かなものになっている。まちは、人間の居住、生活、労働の場であるから、まちづくりには、これからの

地域社会に暮らす私たち自身の生き方を考えるための格好の素材が数多く存在すると言ってよいだろう。

そこで、本演習では、まちづくりをめぐる「地方自治と法」を主題にとりあげて、まちづくりの法的課題について、地方自治・地方分権というものの見方を中心に据えて検討したい。そして、まちづくりという特定のテーマに焦点を合わせつつも、最終的には、自治体の政策活動がどのような法的規律のもとに行われているか、自治体と住民との関係は法的にはどのようなものとして把握されるのか、等々、地方自治の核心部分についての理解を得ることを目的とする。私たちの日常生活にも密接なかかわりのある問題を、自分で調べ、考えていくことを通じて、地方自治の法としくみに関する現状と課題が的確にとらえられるようにしたい。

国際関係論

International Relations

学期 後期 開講時間 月 5, 6; 木 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 古瀬啓之 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 現代の国際関係における諸問題(安全保障、グローバル化等)とその歴史的背景を考察する。

学習の目的 国際的な諸問題の歴史的背景や構造的な問題を複眼的な視点から見られるようになる。

学習の到達目標 現代の国際関係を理解する上での枠組みを知り、現在の国際問題に対する判断力を高める。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, モチ

ベーション, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 国際法総論、国際組織法、政治学原論、日本政治史

成績評価方法と基準 中間テスト50点+期末テスト50点=100点満点

オフィスアワー 木曜日の授業後

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2～3回 国際政治の概念

第4～6回 第一次世界大戦の衝撃

第7～10回 第一次世界大戦後の国際秩序の形成と崩壊

第11～13回 第二次世界大戦後の国際秩序

第14～18回 冷戦

第19～25回 冷戦後—グローバル化

第26～30回 国際関係の理論—「現実主義」と「理想主義」

国際関係論演習

International Relations Seminar

学期 通年 開講時間 木9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習

担当教員 古瀬 啓之

授業の概要 現代の国際関係の歴史的、構造的背景を知る。戦争と平和、紛争解決、環境問題などを中心に考察する。

学習の目的 国際政治史の文献講読を行い、自分の興味のあるテーマを見つけ、自分の力で調べ、それについて自らの見解を他のゼミ生の前で示す。これにより、自分の考えを根拠に基づいて他者につたえる能力が身に付く。

学習の到達目標 自らの関心に基づく学習と、その成果の発表、そして議論を通して、国際関係における諸問題を複眼的に見ることができる。

本学教育目標との関連 感性, 専門知識・技術,

論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 国際関係論、西洋政治外交史、政治学原論、日本政治史、政治思想史

発展科目 国際法総論、国際組織法、国際法各論、行政学

教科書 演習の初回の話し合いにより決める。

成績評価方法と基準 個人発表50% + 議論への参加の態度50%、計100%

オフィスアワー ゼミ終了後

授業計画・学習の内容

学習内容 第一回 文献決定、発表担当者決定、第二回～三〇回 担当者による発表、それ

に基づく議論

特殊講義【アジア政治論Ⅰ】

Special Lecture Asian Politics1

学期 前期集中 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 外山 文子 (非常勤講師)

授業の概要 東南アジアの民主化の状況について、各国の実態を学ぶことより理解する。本講義では、タイ、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ミャンマー、ベトナム等を取り上げる。

学習の目的 東南アジア各国の政治体制、政治的課題について基本的な知識を習得する。

学習の到達目標 講義で学んだ知識をもとに、先進国とは異なる、アジアにおける民主化の条件、特徴、今後の課題等について理解する。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 国際関係論

教科書

片山裕・大西裕(編)『アジアの政治経済・入門 新版』有斐閣ブックス、2010年
清水一史・横山豪志・田村慶子(編著)『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年

成績評価方法と基準 出席50%、筆記試験50%

オフィスアワー 授業後

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 アジア民主化の状況について(概説)
第2回 政治体制の変動に関する分析枠組み
第3回～第4回 タイ
第5回～第6回 インドネシア
第7回～第8回 マレーシア

第9回 シンガポール

第10回 ミャンマー

第11回 ベトナム

第12回～第13回 東南アジア諸国を結ぶ横軸

第14回 ASEAN

第15回 総合討論

特殊講義 [政治社会学Ⅰ]

Political sociology

学期 前期 開講時間 水 5, 6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 岡田宏太郎

授業の概要 まず、講義全体の前提として、人間の社会的行為、社会関係とはいかなるものか考察する。これに基づき、日本の政治社会に関する古典的文献にも親しみながら、日本社会の構造的特質、日本政治の変動のダイナミズム等のテーマにとりくむ。具体的事例として、自民党長期政権時代から今日に至る政治変動と、昭和ファシズムの時期をとりあげたい。

学習の目的 なるべく原理的、根本的なレベルから考え、日本の政治・行政の構造的特質、動態の特質を把握していく。原理的、根本的なレベルから考えることにより、マクロな社会現象から身近な人間関係まで、自分なりに分析する手がかりを得られるようにしたい。

学習の到達目標

- 1、人間の社会的行為を把握する視点、方法について一定の理解を得る。
- 2、1に基づき、日本の政治、社会の安定期のメカニズムについて一定の理解を得る。
- 3、1に基づき、日本の政治、社会の変動期の

メカニズムについて一定の理解を得る。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にないが、講義のテーマに関心をもっていることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 全学共通教育「政治学」(岡田担当)

発展科目 後期の政治社会学Ⅱ

教科書 教科書は使用しない。

成績評価方法と基準 評価は、基本的に期末試験により決定する(90%)。出席点を加味する(10%)。

オフィスアワー 非常勤講師なので質問等は授業の前後をお願いします。

その他 各回の講義内容には、系統性、連続性があるので、規則的な出席が重要である。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1、社会的行為とはなにか
- 2、社会的行為と言葉
- 3、「甘え」の構造
- 4、「母性社会」としての日本
- 5、集団主義
- 6、自民党の利益政治と「五五年体制」
- 7、集団主義のパラドクス
- 8、集団主義とタテ社会

- 9、日本官僚制のパラドクス
- 10、日本社会の変動のダイナミズム
- 11、「超国家主義」のダイナミズム
- 12、「超国家主義」の「抑圧委譲」と「下剋上」
- 13、1990年代以降の日本政治のダイナミズム
- 14、日本政治の変動のパターンとその変容
- 15、まとめ

特殊講義 [政治社会学Ⅱ]

Political sociology

学期 後期 開講時間 水 5, 6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 岡田宏太郎

授業の概要

まず講義全体の前提として、人間の社会的行為、社会関係とはいかなるものか考察し、その上で、宗教改革、絶対王政の成立、主権国家、産業資本主義等、近代の諸制度の成立と展開、さらに現代社会の行方についての展望を試みる。この中で、社会科学の古典的文献にも親しんでいく。

学習の目的 社会的存在としての人間について、なるべく原理的、根本的な次元から考察を加え、近現代の社会の成立と構造的特質についての概略的理解を得ると同時に、マクロな社会現象から身近な人間関係まで、自分なりに分析する手がかりを得たい。またこの中で、社会科学の古典的文献の基本的論点、基本的概念を知り、社会を見る新たな視点を獲得していきたい。

学習の到達目標

- 1、人間の社会的行為を把握する視点、方法について一定の理解を得る。
- 2、1に基づき、近代社会の成立と展開、その特質について基礎的理解を得る。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1、西欧における近代の成立
- 2、社会的行為と言葉
- 3、近代における「合理化」
- 4、ピエテートの抑圧とプロテスタンティズム
- 5、宗教改革と主権国家
- 6、国際的システムの中の主権国家
- 7、宗教改革と資本主義
- 8、カルヴァンの「予定説」

3、1に基づき、今日の社会の危機の諸相と、それをのり越えていくポスト・モダンの展望についての基礎的理解を得る。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にないが、講義のテーマに関心をもっていることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 全学共通教育「政治学」（岡田担当）、前期の「政治社会学Ⅰ」。

教科書 教科書は使用しない。

成績評価方法と基準 評価は、基本的に期末試験により決定する（90%）。出席点を加味する（10%）。

オフィスアワー 非常勤講師なので質問等は授業の前後にお願いします。

その他 講義内容には、系統性、連続性があるので、規則的な出席が重要である。

- 9、市民革命と近代社会の諸様相
- 10、労働の疎外
- 11、ケインズ主義的経済政策と福祉国家
- 12、戦後日本政治のパラドクス
- 13、モダンの展開とセルフ・アイデンティティ
- 14、モダンとポスト・モダン
- 15、まとめ

特殊講義（英語） 国際社会と法 Law in International Community

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 担当教員 洪 恵子 (人文学部)

授業の概要

この授業は英語で行われる。

Lecture in English on important topics of International Law.

学習の目的

This course aims to provide the students with the opportunity to learn International Law in English. While the style of the class will be a 'lecture', there will be time for discussion in each class and the students are expected to prepare and to participate in the discussions. Since the possible participants are not native-English speakers, I will base my lectures on the textbook written in Japanese.

学習の到達目標

Hopefully by the end of the semester, the students will be able to understand the basic concepts and institutions of international law and to express his/her ideas in English.

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション

授業計画・学習の内容

学習内容

1. Introduction to Legal Studies
2. Basic concepts of International Law
- 3-5. State and International Law
- 6-8. Diplomatic Relationship
- 9-11. United Nations and International Law

ン, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力

受講要件 It would be preferable that the participating students have already taken some classes pertaining to International Law, however, this is not a requirement. I welcome any students who are interested in international community and law.

予め履修が望ましい科目 国際組織法総論、国際法各論、国際組織法

教科書 中谷和弘ほか『国際法（アルマ）第2版』（有斐閣）

成績評価方法と基準

Examination at the end of the semester 40%
Participation in classroom discussions 40%
Short papers maybe required 20%

オフィスアワー Tuesday 16:20-17:00

その他 この講義は国際法に関する英語の講義ですが、日本語の教科書を用いて、受講生の理解の助けにします。

12. Sources of International Law
 13. Territory and International Law
 - 14-15. Sea and International Law
- These are the topic to be covered, however, depending on the understanding of the participants, the schedule and content are subject to change.

民法総則

学期 後期 開講時間 月 7, 8; 水 1, 2 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 上井長十

授業の概要 民法は、人の日常生活関係を規律する私法の要である。本講義では、民法全体の概説および民法の第一編総則（第一条～第一七四条の二）を扱う。市民間の生活関係は、財産・取引関係と身分（家族・相続）関係とに大別できるが、民法総則は、主に前者の關係に共通する基本原則を定めている。すなわち、それは「権利の主体」、「権利の客体」、「権利関係の変動の原因・結果」である。日常生活における権利義務関係をめぐる基本原則を理解することが本講義の目的である。

学習の目的 民法典の構造把握、および、民法総則編で定める規定の基本的知識を理解する。

学習の到達目標 民法総則における基本的な諸概念および諸原理を理解し、条文解釈の意義および方法を習得する。

本学教育目標との関連 主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

発展科目 物権法、債権総論、債権各論、家

族法、民事訴訟法、債権回収法、労働法、商法総則、会社法、など

教科書

〔テキスト〕未定

〔参考書〕

池田真朗『スタートライン民法総論』（日本評論社）

平野裕之『民法総則』（日本評論社）

我妻栄『新訂民法総則』（岩波書店）

内田貴『民法1』（東京大学出版会）

山本敬三『民法講義1 総則』（有斐閣）

佐久間毅『民法の基礎1 総則』（有斐閣）

川井健『民法概論1 民法総則』（有斐閣）

石田穰『民法総則』（悠々社）

四宮＝能見『民法総則』（弘文堂）

など、

成績評価方法と基準 成績評価は、定期試験によりおこなう。

オフィスアワー 日時を指定するかたちでのオフィスアワーは設けない。質問等は、気軽に研究室に来てください。

その他 六法（判例付きが望ましい）は必ず持参するように。

授業計画・学習の内容

学習内容

以下の項目を講義する。

1. 民法の全体像
2. 民法の基本原則
3. 権利の主体（人・法人等）
4. 権利の客体（物）
5. 法律行為
6. 意思表示
7. 代理
8. 期間、時効

具体的には、以下のような諸項目を扱う予定である。

1 導入、民法とは

2 民法の指導原理、私権の意義・種類、私権行使の一般原則

3 自然人—その1（権利能力）

4 自然人—その1（住所、失踪宣告）

5 権利の客体（物）

6 法律行為総論（法律行為の意義）

7 法律行為総論（公序良俗等）

8 意思表示1（意思の欠缺：心裡留保、虚偽表示、94条2項類推適用）

9 意思表示2（瑕疵ある意思表示：詐欺、強迫）

10 自然人—その2（意思能力、行為能力：制限能力者保護）

- 11 無効と取消
- 12 代理1 総論
- 13 代理2 (代理権：代理権の範囲、代理人の義務)
- 14 代理3 (代理行為：顕名、代理行為の瑕疵)
- 15 代理4 (無権代理、表見代理)
- 16 条件・期限
- 17 期間
- 18 時効1 時効総論
- 19 時効2 消滅時効
- 20 時効3 取得時効
- 21 法人 (法人の意義・種類・本質)
- 22 法人 (法人の設立, 権利能力なき社団・財団, 法人格否認の法理)
- 23 法人 (法人の能力、法人の機関・公示・監督・解散)

民法A演習

seminar(civil law A)

学期 通年 開講時間 火9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習

担当教員 上井長十

授業の概要 民法財産法に関する事例問題の検討および裁判例分析を行う。

学習の目的 講義で習得した民法の知識をもとに、実際に生じている民事紛争の解決策を導く。

学習の到達目標 判例等を用いた事例研究を通じ、民法の基本的理解を深め、法的思考力の養成を目指す。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケー

ション力を総合した力

教科書

『民法判例百選Ⅰ（総則・物権）第五版』
（別冊ジュリスト有斐閣）、

『民法判例百選Ⅱ（債権）第五版』（別冊ジュリスト有斐閣）、

その他

成績評価方法と基準 評価は、報告およびゼミに対する取り組み姿勢により評価する。

その他 ゼミには必ず六法（コンパクトなものでよい）を持参すること。

授業計画・学習の内容

学習内容

判例報告、および事例問題をゼミ員各自またはグループに割り振り、レポーターの報告を基に、ゼミ員全員で議論し検討する。

扱う対象は、民法財産法全般（総則、物権、

債権）にわたる。

ゼミ員の報告、議論が中心となる。したがって、レポーター以外の諸君も各自予習は欠かせぬよう心がけてもらいたい。

物権法

property law

学期 前期 開講時間 月 7, 8; 水 1, 2 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 上井長十

授業の概要 民法の物権編（物権、担保物権）に関する諸問題の考察

学習の目的 物の支配関係から生じる法的諸問題の把握と解決法の理解、および、金融担保制度に関する諸論点の把握と理解

学習の到達目標 物権関係をとおした民法の条文解釈の習得、および、金融担保制度の理解

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニ

ケーション力を総合した力

発展科目 民法総則、債権総論、債権各論、民事訴訟法、破産法、民事執行法

教科書 [テキスト] 未定

成績評価方法と基準 定期試験による

オフィスアワー 月曜日から水曜日の10:00～17:00

その他 六法を持参すること（コンパクトサイズのものでよいが、判例付きであるものが望ましい）

授業計画・学習の内容

学習内容

以下のような項目を予定している。前半は、所有権を中心とした物権の移転に関わる法的論点の考察が中心となる。後半は、抵当権、質権、譲渡担保を中心とした金融担保制度の考察が中心となる。

1. 物権とは
2. 物権的請求権
3. 物権変動序論
4. 物権変動—民法176条の意思
5. 物権変動—不動産の権利移転：民法177条の対抗要件
6. 物権変動—動産の権利移転：民法178条の即時取得
7. 所有権
8. 共有
9. 建物区分所有
10. 地上権、地役権、永小作権、入会権

11. 占有
12. 物的担保制度
13. 抵当権の意義
14. 抵当権の効力—総論
15. 抵当権の効力—物上代位
16. 抵当権と不動産利用関係
17. 抵当不動産の第三取得者
18. 抵当権の処分
19. 共同抵当
20. 根抵当
21. 抵当権の実行
22. 質権
23. 譲渡担保
24. 所有権留保、代理受領
25. 留置権
26. 先取特権
27. まとめ

債権各論

obligations, contract, tort law

学期 後期 開講時間 木 5, 6, 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 白石 友行

授業の概要 この授業は、民法の講学上「債権各論」と呼ばれている部分のうち、契約各論、事務管理、不当利得、不法行為を対象とする（契約総論の部分は、「債権総論」の授業で扱われる）。とりわけ、契約と不法行為が本授業の中心となる。契約、不法行為は、日常生活や取引活動と密接に関わる法制度であるから、この授業では、豊富な具体例、判例や裁判例、取引実務などを素材として、契約や不法行為に関する法的規律が現実の社会においてどのような意味を持っているのかを確認する。また、契約、不法行為は、民法のみならず、私法の根幹に関わる法領域であると同時に、市民社会の基本的な仕組みを構成する部分であるから、これらの基礎にある理念、原理、思想等から説き起こすことになる。なお、この授業は、民法あるいは法学についての知識が全くないことを前提に進める。また、この授業と前期集中講義期間に開講される債権総論は、通常の「総論」「各論」とは異なるので、どちらの授業を先に受講しても問題はない。

学習の目的 契約、不法行為の基本原則、基礎理論を体系的に理解する。日常生活や取引活動の中で起こる様々な事実や紛争の中から法的問題を抽出する能力を身に付ける。契約、不法行為に関する法的ルールを使いこなす能力を身に付ける。契約、不法行為についての見方、それらの法的規律のあり方を問う能力を養う。民法の中で市民社会の基本的な仕組みがどのように形成されているのかを理解する。

学習の到達目標 契約、不法行為についての基本的な考え方を説明することができる。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 ガイダンス、序論、契約総論
- 第2回 売買①
- 第3回 売買②

事実を詳細かつ正確に検討し、そこから、法的に意味のある事実を抽出することができる。習得した知識を用いて、法的問題へとアプローチすることができる。契約や不法行為の制度のあり方について、一定の見方を表明することができる。自らの考えを自らの言葉で表現することができる。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 物権法、債権総論、家族法、会社法、商法総則、商取引法、労働法

教科書 池田真朗『スタートライン債権法（第5版）』（日本評論社・2010年）

成績評価方法と基準

中間試験50%、定期試験50%、計100%
（試験後に特別のレポート提出を認めることがある）

オフィスアワー 質問・相談などがあれば、授業の前またはメールで受け付けるので、納得いかないこと、分からないこと、どこが分からないか分からない状況、授業に対する意見など、些細なことでも構わないので、遠慮なく質問して下さい。

その他 小型のものでよいので、授業には必ず六法を持参すること。

- 第4回 売買③
- 第5回 売買④
- 第6回 贈与
- 第7回 消費貸借

第8回 使用貸借、賃貸借①

第9回 賃貸借②

第10回 賃貸借③

第11回 賃貸借④

第12回 賃貸借⑤、役務提供契約総論

第13回 請負①

第14回 請負②

第15回 委任、事務管理

第16回 寄託、和解

第17回 中間のまとめ

第18回 組合

第19回 典型契約論、不法行為①総論

第20回 不法行為②要件1

第21回 不法行為③要件2

第22回 不法行為④要件3

第23回 不法行為④要件4

第24回 不法行為⑤効果1

第25回 不法行為⑥効果2

第26回 不法行為⑦効果3、人に関する責任1

第27回 不法行為⑧人に関する責任1、物に関する責任

第28回 不法行為⑨共同不法行為

第29回 不当利得①総論、要件

第30回 不当利得②効果、特殊な不当利得

家族法

Family Law

学期 後期 開講時間 月 1, 2; 水 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 稲垣 朋子

授業の概要 民法典の中の親族・相続法（第4編、第5編）を扱い、法律が身近な家族というものに、いかに結びついているのかを知る。また、少子・高齢化、晩婚・未婚化、生殖補助医療技術の発展など、民法制定時には想定されていなかった問題が家族法にどのように反映されているかを学ぶ。あわせて、時事トピックスには新聞記事・資料等で適宜ふれる。

学習の目的 家族法の学説・判例の基礎に対する理解を深めることが第一の目標である。そのうえで、家族に関わる問題について法的思考力をもって自ら解決法を考える力を身につける。

学習の到達目標 親族法、相続法のそれぞれについて、基本事項を説明することができる。

る。事案を見て、何が法的に問題となっているかを指摘し、それに関する自らの意見を述べることができる。

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 民法関連科目

教科書 高橋朋子＝床谷文雄＝棚村政行『民法7親族・相続[第4版]』（有斐閣、2014年）

成績評価方法と基準 中間試験30%、期末試験70%

オフィスアワー 木曜日7・8限 人文棟4階研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 家族法の基本原理

第3～5回 婚約、婚姻、内縁

第6～7回 離婚

第8～9回 実親子関係

第10～11回 養親子関係

第12～13回 親権、未成年後見

第14～15回 成年後見

第16回 扶養

第17回 相続法の基本体系

第18～19回 相続人と相続分

第20～22回 相続の効力

第23～24回 遺産分割

第25回 相続の承認・放棄

第26～27回 遺言

第28回 遺贈

第29～30回 遺留分

家族法演習

Family Law (Seminar)

学期 通年 開講時間 木 9, 10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 稲垣 朋子

授業の概要 家族法に関して判例研究を行ったり、特定のテーマを掘り下げ、報告・議論を行う。

学習の目的

家族法の諸論点・課題について、先行研究を踏まえたうえで各自問題意識を持って考察することにより、法的思考力を高める。

学習の到達目標

家族法の諸論点に関する様々な立場・考え方を説明することができる。そして、その問題解決のためには何が必要とされるかについて、意見を述べたり、議論をすることができる。

授業計画・学習の内容

学習内容

詳細については演習第1回目のガイダンスで説明する。

前期は、家族法や民法全般の基礎知識の定着に重点を置く。重要なテーマや判例について報告者に調査・報告してもらい、その後、全

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 家族法、その他民法関連科目

教科書 初回の授業で紹介する。

成績評価方法と基準 出席状況、報告内容、議論への参加を総合的に評価する。

オフィスアワー 木曜日7・8限 人文棟4階研究室

員で予備知識を確認し、問題を整理しながら討論を行う。

後期は、各受講生の興味・関心に沿って各回のテーマを決定し、報告を行う形式をとる予定である。

刑法総論

Criminal Law 1

学期 前期 開講時間 火3, 4; 金5, 6 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 田中 亜紀子

授業の概要

刑法とは犯罪と刑罰を定めた法律である。

刑法総論では、刑法の基礎知識ならびに基本的な考え方を身に付けることを目標とし、各犯罪や刑罰に共通する通則を定めた総則部分を学ぶ。講義では必要に応じて適宜判例、時事問題を取り上げる。

学習の目的 刑法の基本原則ならびに犯罪論に関する基礎知識を修得すること、さらには現代社会における犯罪現象に対する分析力ならびに法的思考能力を身につけることができるようになること。

学習の到達目標 刑法の基本原則ならびに犯罪論に関する基礎知識を得ること。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.刑法について
- 2.刑法の歴史
- 3.刑罰について
- 4.刑法の基本原則
- 5.犯罪論・刑法理論
- 6.構成要件（行為論、構成要件、不作為、因果関係、故意、錯誤、過失）

的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 法学概論、日本国憲法

発展科目 刑法各論、刑事訴訟法、刑事政策、少年法等

教科書

『刑法判例百選Ⅰ 総論 [第7版]』山口厚・佐伯仁志編・有斐閣・2014年
六法全書

成績評価方法と基準 中間試験40%、期末試験60%、計100%。（合計が60%以上で合格）

- 7.違法性（違法性論、正当防衛、緊急避難、被害者の同意、安楽死・尊厳死）
- 8.責任論（責任主義、責任能力、原因において自由な行為）
- 9.未遂犯（未遂犯・中止犯・不能犯）
- 10.共犯
- 11.罪数と量刑

刑法演習

Criminal Law 1 (Practice)

学期 通年 開講時間 火9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業,

Moodle

担当教員 田中亜紀子

授業の概要

刑法の学習に際しては、条文の内容を正確に理解するとともに、刑法が制定された背景ならびその内容を理解することが重要である。また、刑法の内容を理解するためには、判例分析などを通じて、現実が発生した事件に対して刑法がどのように適用されたかを検討することが必要である。さらに、刑法をより深く理解するためには、刑法の基本知識を習得することは勿論、現時点における刑法の問題点、そして変化し続ける社会の動向と関連して刑事法領域で注目されている諸問題（犯罪の国際化、犯罪被害者、少年事件、虐待問題やDVに関する諸法など）について知識を習得することも必要である。

以上の必要性から当演習では、刑法の基本知識を習得するとともに、刑法の現状ならびに問題点の検討を行う。

学習の目的 刑事法領域の近年の動向について理解を深めるとともに、特に自分が興味を持ったテーマについて調査し、発表を行うことを通じて主体的な研究力をつける。

学習の到達目標 刑事法領域の近年の動向について、基本的な知識に基づいて議論ができるようになる。

授業計画・学習の内容

学習内容

詳細は最初の授業時に、参加者の希望を踏まえた上で決定するが、全体としては以下の通りである。

1:オリエンテーション

2:刑事法分野から選んだテーマについてグルー

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 裁判傍聴、シンポジウム・講演会などの刑事司法関係イベントへの参加が可能であること。

予め履修が望ましい科目 日本国憲法、刑法総論

発展科目 刑法各論、刑事訴訟法、少年法、刑事政策

教科書 授業中に適宜紹介する。

成績評価方法と基準 出席・報告・発言など、授業への参加状況により評価を行う。

オフィスアワー 火曜日 14:40-16:10、研究室（訪問に際しては予めメールで予定を問い合わせること）

その他 特になし

プ報告

3:『学生論集』テーマならびに分担決定

4:『学生論集』中間報告、最終報告および原稿執筆

5:模擬裁判シナリオ執筆

6:卒業論文に向けた個別研究

刑事訴訟法

criminal procedure and evidence

学期 前期 開講時間 火 7, 8; 金 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 伊藤 睦 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 刑事訴訟の基本理念を踏まえながら、刑事事件における捜査・裁判手続全体の流れを概観し、その現状と問題点につき個別具体的に検討する

学習の目的 刑事訴訟における人権の意味を理解する。また、報道等で得られる情報についても、鵜呑みにするのではなく、きちんと科学的に検証し、犯罪現象とそれを取り巻く司法の現状について正しく認識することができるようになる。

学習の到達目標

刑事裁判に関する基本的知識を得る。

犯罪報道等で得られる情報につき、法律的な観点から疑問を持つことができるようになる

授業計画・学習の内容

学習内容

憲法が厳格に定める刑事人権規定の趣旨に照らし合わせながら、刑事手続の全体につき概観し、憲法の理念に合わないと考えられる捜査・裁判上の問題点につき個別に検討を加えていく。

各回の授業内容はおよそ下記のとおりである。

第1回 刑事訴訟の基本原則

第2回 捜査の端緒

第3回 おとり捜査

第4～7回 逮捕・勾留

第8～10回 被疑者取調と黙秘権

第11回 任意同行と取調

る。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 刑法総論、刑法各論

発展科目 刑事政策、少年法

教科書 教科書は特に指定しない。

成績評価方法と基準 中間テスト50%、期末試験50%の計100%

オフィスアワー 毎週火曜日5～6限、人文学部4階伊藤研究室（前期のみ）

第12回 捜索・押収

第13～14回 強制採尿と盗聴

第15回 弁護人の援助を受ける権利

第16回 中間テスト

第17～18回 公訴の提起と市民的コントロール

第19～20回 審判の対象

第21～22回 公判前整理手続と証拠開示

第23回 証拠法の基本原則

第24回 科学的証拠

第25回 違法収集証拠排除法則

第26～27回 自白

第28～29回 伝聞法則

第30回 共犯者の自白

刑事訴訟法演習

Seminar on Criminal Procedure and Criminal Justice

学期 通年 開講時間 火9, 10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 伊藤 睦 (人文学部社会科学科)

授業の概要 刑事訴訟法の基本原則を理解し、その原則に照らして本来到達すべき手続の在り方とはどのようなものか、それに対して刑事訴訟の現状がどのような問題を孕んでいるかを把握した上で、自分なりの解決策を探索してもらいたい

学習の目的 刑事訴訟の現状と基本原則を正しく理解する。刑事手続に関わる様々な問題に関して主体的に考え、法的な知識を用いながら自らの意見を表明する力を身につける。

学習の到達目標 刑事裁判と冤罪事件についての正しい知識を得る。模擬裁判、冤罪事件の現地調査・報告会等を通じて、刑事裁判の資料を読み解く力と、そこで得た知識を情報として発信する力が身につく。また、他人と協働する力、コミュニケーション力も身につく。

授業計画・学習の内容

学習内容

前半

冤罪事件現地調査の事前準備及び実施

模擬裁判シナリオ作成

裁判傍聴、検察庁見学、刑務所見学、少年院見学等

刑事司法の現状と問題点について実践的に学ぶ

後半

他大学との合同ゼミ（前半の勉強の成果報告

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 刑法総論、刑法各論

発展科目 刑事訴訟法、刑事政策、少年法

教科書 特に指定しない

成績評価方法と基準 報告の内容と議論への参加状況により評価します。

オフィスアワー

(前期) 毎週火曜日5～6時限目

(後期) 毎週火曜日3～4時限目

人文学部棟4階伊藤研究室

を兼ねる)

個別報告

刑事裁判をめぐる課題について、様々な角度から検討を加える。

なお、個別報告では、各自の関心に合わせて、刑事訴訟法上の論点に限らず、少年法、刑事政策上の論点（犯罪被害者、触法精神障害者、死刑問題）や犯罪報道等に関するものなどの中から、自由にテーマを選択して頂きます。

会社法

Corporate Law

学期 後期 開講時間 火7, 8; 金3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 名島利喜

授業の概要 会社に関する法規制および条文の解釈についての判例・学説の状況について概説を行なう。

学習の目的 会社の組織と行動に関する基本ルールについて学び、現代経済社会を構造的に理解できるようになる。

学習の到達目標 会社制度の存在と活動に法的枠組みを提供している会社法の全体像について知り、その基本的な骨格と機能を理解できるようになる。

本学教育目標との関連 共感, 専門知識・技術, 社会人としての態度

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 民法総則、商法総則

発展科目 商取引法

教科書 森淳二郎＝吉本健一編『会社法エッセンシャル [補訂版]』(有斐閣、2009年)

成績評価方法と基準 中間の小テスト30%、期末試験60%、平常点10%、計100%。

オフィスアワー 毎週火曜日16:20～17:20、場所 名島研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

講義:

第1回 ガイダンス 第17回 会社の機関
第2回 会社制度の意義 第18回 株主総会①
第3回 会社の概念 第19回 株主総会②
第4回 会社の種類 第20回 業務執行機関
第5回 会社の能力 第21回 取締役
第6回 持分会社 第22回 取締役会
第7回 株式会社の意義・特質 第23回 代表取締役

第8回 株式会社の設立① 第24回 会計参与
第9回 株式会社設立② 第25回 監査役
第10回 株式① 第26回 委員会設置会社
第11回 株式② 第27回 役員等の損害賠償責任
第12回 株式③ 第28回 会社の計算
第13回 株式④ 第29回 組織変更・組織再編行為
第14回 株式⑤ 第30回 後半のまとめ
第15回 前半のまとめ 第31回 期末試験
第16回 中間の小テスト

会社法演習

Corporate Law Seminar

学期 通年 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 4 **対象** 法律経済学科専用 **年次** 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 名島利喜

授業の概要 企業に関する「事件」を素材にして、その事件を法的に分析する。

学習の目的 企業をとり巻く法について知り、現代経済社会における法の仕組みと働きを理解できるようになる。

学習の到達目標 現実に社会に存在する企業の法律問題について、企業法という観点からアプローチできるようになる。

本学教育目標との関連 倫理観, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 会社法を履修済であることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 会社法

発展科目 商法総則 商取引法

教科書 特に指定しない。

成績評価方法と基準 出席50%、報告30%、質疑応答20%、計100%。

オフィスアワー 毎週金曜日 16:20～17:20、場所 名島研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

演習:

第1回 ガイダンス

第2回～6回 企業法の概説

第7回～第30回 報告・質疑応答

法哲学

Legal Philosophy

学期 後期 開講時間 月 5, 6; 木 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle
担当教員 高橋秀治 (人文学部)

授業の概要 法律にはなぜ従わなければならないのだろうか。古来、この問題に対してはさまざまな解答が寄せられてきた。授業ではそれらを、それぞれの時代背景とともに振り返りながら、法律についての理論の展開を辿る。

学習の目的 法の存在および拘束力について、法思想および現代の法理論の観点から理解を深めることができる。

学習の到達目標 歴史上の代表的な論者の法に関する考え方を学び、理解することができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 法政コースの諸科目

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 はじめに
第2回～第3回 法哲学とは何か
第4回～第5回 法の拘束力についての予備的考察
第6回～第9回 古代ギリシア・ローマ時代の自然法理論
第10回～第13回 キリスト教的自然法理論

発展科目 法哲学特論、法思想史

教科書 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000年）、三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂、2002年）、平野仁彦ほか『法哲学』（有斐閣、2002年）、笹倉秀夫『法哲学講義』（東京大学出版会、2002年）、長谷川晃・角田猛之編『ブリッジブック法哲学』（信山社、2004年）、深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）、笹倉秀夫『法思想史（上）・（下）』（東京大学出版会、2007年）、亀本洋『法哲学』（成文堂、2011年）、瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）などの中から適宜指示する。

成績評価方法と基準 各回のmoodleへの書き込み30%、テスト70%

オフィスアワー 毎週月曜日10:30～11:30、高橋研究室

第14回～第17回 社会契約論～近代自然法思想
第18回～第22回 近代の法理論
第23回～第26回 法実証主義
第27回～第29回 法理論としての法解釈学
第30回 まとめ
ただし、内容は暫定的なものであり、変更することがあり得る。

法哲学演習

Seminar on Legal Philosophy

学期 通年 開講時間 月 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 高橋秀治 (人文学部)

授業の概要 演習では、法哲学のテキストなどでしばしば取り上げられる問題について、法哲学的に検討・考察する。具体的な問題としては、古典的な法思想史上の諸理論ということでは、法概念論、法と道徳、自然法理論、正義などがある。また最近のトピック的な問題としては、たとえば、生命倫理関係に関する法的問題から、小さな政府論、ナショナルリズム、など、幅広く考えることができる。

学習の目的 自らの価値観やものの見方を相対化し、その中で新たな社会や生の可能性を探ることができる。

学習の到達目標 法哲学についての基本的な文献の講読や、参加者同士の議論を通じて、法哲学の諸問題の検討を行い、法哲学についての基本的な理解を得ることができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総

合した力

予め履修が望ましい科目 法哲学

発展科目 法哲学特論、法思想史

教科書 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000年）、三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂、2002年）、平野仁彦ほか『法哲学』（有斐閣、2002年）、笹倉秀夫『法哲学講義』（東京大学出版会、2002年）、長谷川晃・角田猛之編『ブリッジブック法哲学』（信山社、2004年）、深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）、笹倉秀夫『法思想史（上）・（下）』（東京大学出版会、2007年）、亀本洋『法哲学』（成文堂、2011年）、瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）などの中から、相談して決める。

成績評価方法と基準 出席や発表の仕方、授業に対する貢献などを総合して判定する。

オフィスアワー 毎週月曜日10:30～11:30、高橋研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

前期は、代表的な法哲学のテキストを一冊ないし何冊かそれぞれ分担を決めて輪読し、それをめぐって、参会者の中で議論する。そしてそれによって、法哲学的に扱われる諸問題

についてある程度の認識を共有する。

後期は、前期の演習を通じて関心を持った問題やその他の関心から考察してみたい問題を各自が個別に発表し、さらにそれらをめぐって、参加者との間で質疑応答を行う。

労働組合法

Labor Union Law

学期 後期 開講時間 火 5, 6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 藤本 真理

授業の概要 労働組合と使用者、労働組合と労働組合員の関係について、法はどのような規制と保護をおこなっているのか、歴史的な背景や理由を踏まえつつ、正確に理解する

学習の目的 集团的労使関係に関する基礎知識を修得し、労働契約、その法規整（前期開講科目「労働基準法」の内容）との連関を理解する

学習の到達目標 労働組合・労働協約が労働条件設定その他労働者の利益保護において果たす役割を理解し、実際に生じうる問題に対し法的解決方法を導く能力を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力、専門知

識・技術、論理的思考力、問題解決力

受講要件 特に要件は課しません。

予め履修が望ましい科目 憲法、債権総論、労働基準法

教科書 水町勇一郎著『労働法（第5版）』（有斐閣）

成績評価方法と基準 小テスト30%、期末試験70%で評価します。

オフィスアワー 第1回の講義で指示します。

その他 六法は労働組合法が抄でしか掲載されていないものは、授業・自宅での復習に差し支えますので注意してください。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 オリエンテーション、労使関係の実態
- 第2回 不当労働行為とは何か
- 第3回 不当労働行為の救済制度
- 第4回 労働組合の組織と運営
- 第5回 組織変動
- 第6回 団体交渉と団交拒否
- 第7回 小テスト

第8回 テスト解説

第9回 労働協約

第10回 組合活動

第11回 争議行為

第12回 不当労働行為：不利益取扱い（1）

第13回 不当労働行為：不利益取扱い（2）

第14回 不当労働行為：支配介入

第15回 問題演習

労働法演習

Labour Law Seminar

学期 通年 開講時間 金 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 Moodle

担当教員 藤本 真理

授業の概要 雇用市場、均等待遇、労働条件設定など、今日の労働環境に関する諸問題について、報告とディスカッションを通じて、法の視点から検討を行う。具体的テーマは受講者の希望や関心に応じて、適宜設定する。

学習の到達目標 労働法全体を見渡すと同時に、自分が選んだ／直面した問題について、論理的に考え解決方法を導く能力を身に付ける

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 特にありません

予め履修が望ましい科目 民法総則、債権総論・各論、憲法

教科書 統一の教科書はありません。資料配布のほか、報告内容等に応じて、各人に適宜指示。

成績評価方法と基準 出席40%、報告内容40%、ディスカッションへの参加度20%

オフィスアワー 事前にアポイントを取って来室してください

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 オリエンテーション、報告テーマ・報告順の決定（書評を予定）

第2回 教員による報告のデモンストレーション

第3回～第10回 受講者による報告とディスカッション

第11回～第15回 論文集の準備

第16回 報告テーマの決定、学術論文の調べ方・まとめ方

第17回～30回 受講者による報告とディスカッション

特殊講義[保険法]

Insurance Law

学期 前期集中 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 松谷 秀祐

授業の概要 保険法（平成20年法律第56号）における諸規定、および関連する重要判例、さらには表には必ずしも表れないが、それらの根底に存する保険法上、私法上の基礎理論について、具体的な事例を用いて、講義を行う。

学習の目的 自分（たち）が保険制度によって守られている世界に生きていることを実感し、将来、身の回りに保険に関する問題が生じたときに、何となくでもよいので、自身で解決の糸口を見出せる能力を養うことを目標とする。

学習の到達目標 保険制度に関して基本的な法的知識と法的思考力を身に付けること

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総

合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 民法総則・物権法・債権総論・債権各論・商法総則・商取引法を履修済みであるか並行履修中であることが望ましい。

発展科目 特になし。

教科書 竹濱修『保険法入門（日経文庫）』（2009年・日本経済新聞出版社）

成績評価方法と基準 課題レポート（20点）、筆記試験（80点）によって評価する。なお、履修者数によっては、授業への参加状況・受講態度（単なる出席率ではなく、授業中およびその前後の発言・質問の回数および内容等）も考慮する。

オフィスアワー 非常勤講師のため、講義の前後のみとなる。開講時期以外において質問等がある場合には、人文教員の名島が窓口となる。

授業計画・学習の内容

学習内容

【第1回】 保険とは何か、保険法の構造、保険法を学ぶ意味

【第2回】 保険の仕組みと登場人物

【第3回】 保険と似て非なる諸制度－貯蓄・自家保険・賭博

【第4回】 保険の貯蓄的性格－養老保険・終身保険

【第5回】 保険法の適用範囲①－共済契約

【第6回】 保険法の適用範囲②－傷害疾病保険契約の特殊性

【第7回】 営利保険と相互保険

【第8回】 保険募集

【第9回】 保険約款

【第10回】 損害保険契約各論①：責任保険

【第11回】 損害保険契約各論②：保険担保

【第12回】 生命保険契約各論①：告知義務

【第13回】 生命保険契約各論②：保険金受取人の変更

【第14回】 全体の復習①

【第15回】 全体の復習②

【第16回】 最終試験

特殊講義〔子どもと法〕

Children and the Law

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 稲垣 朋子

授業の概要 家族に関わる法律・法政策には、夫婦の問題、親子の問題、高齢者扶養・介護の問題など様々な問題があるが、本講義では、そのなかでも特に子どもと法、子の権利擁護に焦点を当てる。必要に応じて外国の法政策との比較も交えつつ講義する。

学習の目的 既存の法制度を子どもの権利の観点から見つめ直し、現状をふまえて問題点・課題を学ぶ。さらに、今後求められる法政策的対応や支援のあり方を検討する。

学習の到達目標 子どもに関わる法律問題を子の保護の側面からも理解し、説明する。そのうえで、他の様々な角度も含めて問題を総

合的に検討し、自らの見解を述べることができる。

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 家族法

教科書 特に指定しない。

成績評価方法と基準 中間試験30%、期末試験70%

オフィスアワー 木曜日7・8限 人文棟4階研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2～3回 離婚後の親権行使・面会交流

第4～5回 養育費

第6～7回 児童虐待

第8～9回 赤ちゃんポスト

第10～11回 養子・里親制度

第12～13回 生殖補助医療と子の出自を知る権利

第14回 学校事故

第15回 総括

特殊講義 労働基準法I

Labor contract and Labor Standard LawI

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 藤本 真理

授業の概要 労働基準法を中核とする、求職中の労働者と企業、企業と従業員の間を規律する法律について、その背景にある理念や法律上の制度を理解する

学習の目的

- ・ 個別的労働契約関係の領域について、歴史や制定経緯を知り、基本的な制度や判例法理を理解する
- ・ それを通じて、具体的問題の解決方法を考える力を身につける

学習の到達目標

- ・ 労働条件の引下げや解雇など、現実の雇用関係上発生する問題を自分で解決する能力を身につける
- ・ 雇用をめぐる社会問題について、情報を分析し自分なりの結論を導く能力を身につける

授業計画・学習の内容

学習内容

労働基準法IIとの連続での講義計画（全30回）は以下ようになります。

- 1 オリエンテーション、労働法の構造
- 2 労働市場と法
- 3 雇用における差別
- 4 労働法の当事者
- 5 労働契約上の権利義務
- 6 就業規則
- 7 問題演習
- 8 採用内定と試用期間
- 9 昇級・昇進・降格・配転
- 10 出向・転籍
- 11 企業組織の変動と労働関係
- 12 企業秩序（職場規律）と懲戒
- 13 雇用関係の終了（1）
- 14 雇用関係の終了（2）

本学教育目標との関連 主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、問題解決力

受講要件 木曜5-6時限の「特殊講義 労働基準法II」とセットで履修してください。

予め履修が望ましい科目 民法総則、債権総論、債権各論

教科書 水町勇一郎著『労働法（第5版）』（有斐閣）

成績評価方法と基準 小テスト30%、期末試験70%で評価します。

オフィスアワー 第1回の講義日に連絡します。

その他 六法は、労働基準法が抄でしか掲載されていないものでは授業・自宅での復習に差し支えますので注意してください。

- 15 小テスト
- 16 テスト解説
- 17 賃金（1）
- 18 賃金（2）
- 19 労働時間（1）
- 20 労働時間（2）
- 21 休暇・休業（1）
- 22 休暇・休業（2）
- 23 問題演習
- 24 安全衛生
- 25 労働災害・通勤災害
- 26 パートタイム・有期契約
- 27 労働者派遣
- 28 問題演習
- 29 雇用形態と社会保障
- 30 個別的労働紛争処理制度

特殊講義 労働基準法II

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 藤本真理

授業の概要 労働基準法を中核とする、求職中の労働者と企業、企業と従業員の間を規律する法律について、その背景にある理念や法律上の制度を理解する

学習の目的

- ・個別的労働契約関係の領域について、歴史や制定経緯を知り、基本的な制度や判例法理を理解する
- ・それを通じて、具体的な問題の解決方法を考える力を身につける

学習の到達目標

- ・労働条件の引下げや解雇など、現実の雇用関係上発生する問題を自分で解決する能力を身につける

- ・雇用をめぐる社会問題について、情報を分析し自分なりの結論を導く能力を身につける

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力

受講要件 「特殊講義 労働基準法I」とセットで履修すること

教科書 水町勇一郎『労働法（第5版）』（有斐閣）

成績評価方法と基準 小テスト30%、定期テスト70%で評価します。

オフィスアワー 第1回講義時に連絡します

授業計画・学習の内容

学習内容

労働基準法Iとの連続での講義計画（全30回）は以下ようになります。

- 1 オリエンテーション、労働法の構造
- 2 労働市場と法
- 3 雇用における差別
- 4 労働法の当事者
- 5 労働契約上の権利義務
- 6 就業規則
- 7 問題演習
- 8 採用内定と試用期間
- 9 昇級・昇進・降格・配転
- 10 出向・転籍
- 11 企業組織の変動と労働関係
- 12 企業秩序（職場規律）と懲戒
- 13 雇用関係の終了（1）
- 14 雇用関係の終了（2）

- 15 小テスト
- 16 テスト解説
- 17 賃金（1）
- 18 賃金（2）
- 19 労働時間（1）
- 20 労働時間（2）
- 21 休暇・休業（1）
- 22 休暇・休業（2）
- 23 問題演習
- 24 安全衛生
- 25 労働災害・通勤災害
- 26 パートタイム・有期契約
- 27 労働者派遣
- 28 問題演習
- 29 雇用形態と社会保障
- 30 個別的労働紛争処理制度

経営学総論

Management

学期 後期 開講時間 火 1, 2; 木 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 青木 雅生 (人文学部)

授業の概要 企業とは何か、マネジメントとはどのようなものかということについての基礎知識を学び考える。

学習の目的 日本経済を支えている会社のおかれている状況を理解するためには、会社というものの全体像をつかみ、その仕組みや運営・働きを知ることが必要である。それゆえ、企業・管理・戦略に関する基礎的知識や理論的枠組みを習得することが本講義の目的である。

学習の到達目標

第一に、企業（会社）についての基本的な概念や制度などについて理解すること。

第二に、それらを通じて現代の企業像が鮮明に活写できるかについて、受講生各自が工夫する力を獲得すること。

第三に、そうして得られた企業像を通して、各自が社会認識を深めること。

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的

思考力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

特になし。
ただし、新聞の産業や経済の欄を日頃から読んでいることを勧める。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 経営史、多国籍企業論、マーケティング論、中小企業論、人的資源管理論、産業経済論総論、金融論

教科書 レジュメを配布する予定

成績評価方法と基準

レポート60% 試験30% 出席10%

講義内容の理解

自分なりの問題意識に基づく課題設定と論理展開（参考文献などの活用を含む）

オフィスアワー 木曜日13:00～14:30

その他 週2回開講されている。両方とも受講すること。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 イントロダクション

第2回～第3回 企業と会社―会社とはどのようなものか―

第4回～第7回 株式会社の仕組みと運営

第8回～第11回 企業の成長と拡大

第12回～第17回 企業間関係の形成と変化

第18回 マネジメントとは何か

第19回～第20回 経営戦略とは何か

第21回～第23回 企業のグローバル化

第24回～第28回 企業の直面する課題

第29回 企業と地域経済

第30回 21世紀における企業経営

経営学総論演習

Seminar in Management

学期 通年 開講時間 火7,8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 青木 雅生 (人文学部)

授業の概要 企業が直面している問題を発見し、解決策を提示できるようになる

学習の目的 21世紀における企業経営の課題をテーマに、企業の問題を発見し、解決策を提示することを目指すとともに、企業を通じて社会の問題について考える視角をもつ。企業が社会に果たす役割を踏まえ、企業を通じて社会がよりよくなることをゼミでは考えていきたい。

学習の到達目標 企業が直面している問題を発見し、解決策を提示できるようになることを目指す。そのために①経営学の基礎を身につける②現実の企業に関する事実や知識を豊富に知る③問題発見と解決策提示の力を磨き、総合的に人間力を上げることを目標とする。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モ

チベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 法律経済学科のゼミ決定手続きによる

予め履修が望ましい科目 経営学総論、経営史

教科書 演習時に指定する

成績評価方法と基準 演習への出席・報告・発表・討論・論文の内容をもとに総合的に評価する

オフィスアワー 研究室に在室中であれば随時対応する

授業計画・学習の内容

学習内容

3年次前期では、経営学に関する共通文献の報告・討論を通じて基礎的知識の習得の機会とする。また共同論文のためのテーマを選定し、具体的な研究対象となる企業について調査し、インターネットや諸文献から情報を収集・分析し、発表・討論を通じて、問題解決へと近づけるよう研究に取り組む。そうした理論研究と事例研究を通じて問題について考

え抜く姿勢や研究方法の確立を目指す。

3年次後期には、共同の研究論文の執筆を行う。研究テーマを詳細に検討するため夏期休暇中に課題に取り組んでもらう予定である。インターカレッジのゼミナール大会へ参加し、そこでの討論を通じて研究を深めていく。さらに、より具体的な専門的関心を深め、個人の研究テーマを決め、卒業論文へとつなげていく。

授業の概要 経営史の対象領域は一般（世界、各国）経営史、産業経営史、個別企業経営史などに分かれるが、本講義ではこの中でも中心をなす一国経営史、とりわけ日本経営史について、所有と統治システム、生産システム、企業の経営戦略と組織、企業と政府の関係の4つに焦点をあてて、その基本的形成・展開過程とその特質を学ぶ。また、それらを踏まえた上で現代的な特徴についても学ぶ。

学習の目的 日本の企業経営がどのように歴史的に形成されてきたのか学ぶことによって、現代の日本の企業経営の特徴と課題を理解する力を養う。

学習の到達目標

日本の経営史に関して、所有と統治システム、生産システム、企業の経営戦略と組織、企業と政府の関係の4つの観点から、日本企業の特徴を形成展開の過程を踏まえて論理を展開できるようになる。

それらについて21世紀の日本の企業のあり方について、自分の見解を示すことができる。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 社会人と

しての態度

受講要件

特になし。

ただし、日本の明治維新以降の近代史をあらかじめ復習しておくことと理解が進むので、奨励する。

また、新聞の産業や経済の欄を日ごろから読んでいることを勧める。

予め履修が望ましい科目 経営学総論

発展科目 多国籍企業論、マーケティング論、中小企業論、日本経済史、産業経済論総論、金融論、日本経済論

教科書 橋本輝彦『新版 現代日本の経営 その歴史的考察』文理閣2003年

成績評価方法と基準

レポート100%

講義内容の理解

自分なりの問題意識に基づく課題設定と論理展開（参考文献などの活用を含む）

オフィスアワー 木曜日13:00~14:30

その他 2007年度以前入学生については「特殊講義 [経営史]」として開講します。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 イントロダクション

第2回~第5回 日本企業の所有と統治システム

第6回~第8回 日本的生産システムの形成

第9回~第11回 日本企業の経営戦略と組織

第12回~第14回 企業と政府の関係

第15回 現代の日本の企業経営の特徴と課題

法律経済学科専用 人的資源管理論

法律経済学科専用 特殊講義 人的資源管理論

Human Resource Management
Human Resource Management

学期 後期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 玉井 信吾 (非常勤講師)

授業の概要

人的資源管理論は、企業の労働力を、他の経営資源と同じく価値を創造する資源であるという見方に基づく人材マネジメントの理論である。大学生諸君が卒業し、社会人としてよりよく生きるためには、様々な働き方と働く環境を充分に知る必要がある。

人それぞれに個性があるように、現実の社会(働く環境)も多様である。今ある自分の状況を確認し、どのように自分の人生やキャリアを切り拓いていくのか、など本講義では、現代日本企業での「働く環境」「働き方」を決定づけている人的資源管理について、具体的な事例を交えながら解説し、働く者の視点から現実の社会に柔軟に対応していける考え方を身に付けることを目指す。

学習の目的 人的資源管理の理論とその実態について学ぶことを通して、人的資源管理の理論の内容・考え方、その理論の下で展開される人事管理諸制度の実態について学び基礎知識を獲得することにある。

学習の到達目標 講義を通して、就職活動時の企業選別の眼や企業組織における人の雇用

において留意すべき点を理解する力を養ってもらうこと。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 社会人としての態度

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 経営学総論、経営組織論など。

発展科目 特になし。

教科書 特に指定しない。

成績評価方法と基準 期末試験70% 映像教材視聴レポート20% 質問感想カード10%

オフィスアワー

特に設けないので、質問があれば講義時間の前後に教室にて担当教員に直接問い合わせたい。

世話人教員：青木雅生

その他 2012年度以前入学生については「特殊講義〔人的資源管理論〕」として開講します。

授業計画・学習の内容

学習内容

- (1) ガイダンス
- (2) 人的資源管理の理念・構造・展開
- (3) 日本への人的資源管理の導入
- (4) 雇用管理
- (5) キャリア開発
- (6) 賃金管理
- (7) 人事考課
- (8) 労働時間管理
- (9) 福利厚生
- (10) 非正規雇用
- (11) ワーク・ライフ・バランス
- (12) 高齢者雇用
- (13) 外国人雇用
- (14) 労使関係と労働組合
- (15) まとめ

授業の概要

マネジメント論が成立してから、既に1世紀以上が経過しているが、組織において目的を達成するための方法を説くものとしての本質は変わっていない。

現代の組織社会においての焦点は、企業をはじめ行政、病院、学校、及びNPOなど様々な組織におけるマネジメントであるといえる。本講義では、マネジメント論における (1) 人間観の変遷、(2) ワーク・モチベーション、及び (3) リーダーシップなどのテーマを中心に、基礎的な理論の説明と共に、様々な組織における実際の具体例を紹介する。

学習の目的 組織体の運営の共通内容となるマネジメント論を理解するため、その前提となる基礎的な考え方の習得を目指す。

学習の到達目標

(1) マネジメントの前提となる人間観の変遷から、マネジメント論の展開を説明することが出来る。

(2) マネジメントの対象であるヒト（従業員）のモチベーションに関する様々な欲求理論を説明することができる。

(3) 組織のリーダーをリーダーシップ理論か

ら理解し、様々な経営環境にどのようなリーダーシップのスタイルが効果的なのかを説明することが出来る。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 経営学総論などの経営学系科目

発展科目 人的資源管理論、経営組織論など

教科書 特に指定しない。

成績評価方法と基準 期末試験70% 映像教材視聴レポート20% 質問感想カード10%

オフィスアワー

特に設けないので、質問があれば講義時間の前後に教室にて担当教員に直接問い合わせたい。

世話人教員：青木雅生

その他 2007年度以前入学生については「特殊講義〔経営管理論〕」として開講します。

授業計画・学習の内容

学習内容

- (1) ガイダンス
- (2) 科学的管理法とフォード・システム
- (3) 官僚制とマネジメント
- (4) 人間関係論①
- (5) 人間関係論②
- (6) モティベーション論①
- (7) モティベーション論②
- (8) リーダーシップ論①
- (9) リーダーシップ論②
- (10) C. I. バーナードの管理論・組織論①
- (11) C. I. バーナードの管理論・組織論②
- (12) H. A. サイモンの意思決定論
- (13) 組織文化論
- (14) 日本の経営とその変遷
- (15) まとめ

Moodle

担当教員 森原 康仁 (人文学部)

授業の概要 経営戦略とは企業の基本的な長期目的を決定し、これらの諸目的を遂行するために必要な行動様式を採用し、諸資源を割り当てることである。本講義ではまず経営戦略論が生まれた背景について解説する。そのうえで主として1970年代以降の主要な経営戦略学説を全社戦略と競争戦略(事業戦略)に分けて解説する。さいごに、経営戦略論のもつ実践性を理解するために戦略計画学派と創発戦略学派の対立を振り返る。

学習の目的 経営戦略論を、目的、概要、理論の実践性という3つの角度から学ぶことで、企業経営をみる目を養う。

学習の到達目標 経営戦略を確立する思考プロセスを習得し、理論の現実適用性(実践性)を認識する。

本学教育目標との関連 感性、主体的学習力、

課題探求力、問題解決力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目

以下の科目の履修をしている／することが望ましい。

経営学総論、経営史、人的資源管理論、中小企業論、マーケティング論、サプライチェーン・マネジメント、産業経済論総論

教科書 とくに指定しない。

成績評価方法と基準 定期試験。

オフィスアワー 随時。メールで予約すること。

その他 この科目は、2012年度以前入学生には「特殊講義 経営戦略論」として開講されません。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回～第3回 経営戦略とはなにか

第4回～第6回 全社戦略と多角化戦略

第7回～第8回 ポジショニングアプローチにも

とづく競争戦略

第9回～第10回 RBVにもとづく競争戦略

第11回～第12回 組織学習と競争戦略

第13回～第14回 戦略策定とプランナーの役割

第15回 まとめ

多国籍企業論

Multinational Corporation

学期 後期 開講時間 月 5, 6; 木 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle

担当教員 森原 康仁 (人文学部)

授業の概要 多国籍企業は主として戦後に発展した比較的新しい現象である。この講義では、前半部で、戦後における企業多国籍化の発展過程を具体的に学ぶ。講義の後半部では、多国籍企業理論を3つの観点——①戦前の理論、②ハイマー以降の多国籍企業理論の本格的発展、③現代多国籍企業の諸理論、から検討する。

学習の目的 多国籍企業の発展過程を理論と現実の観点から学ぶことで、グローバル化を具体的に理解する力を養う。

学習の到達目標 戦後多国籍企業について、その生成と発展の過程、国際経営の現実および世界秩序との関係で理解し、多国籍企業理論の発展史によってそれをあとづけることができるようになる。以上を通じて、グローバルゼーションに対する自らの見解を示すことができる。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回～第6回 多国籍企業の生成と発展
- 第7回～第11回 多国籍企業の経営戦略と組織
- 第12回～第14回 多国籍企業と世界秩序
- 第15回～第16回 戦前の国際生産に関する諸理

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目

関連して以下の科目を履修している／することが望ましい。

経営戦略論、国際経済論、経営学総論、マーケティング論、サプライチェーン・マネジメント、国際金融論

教科書 グラツィア・イエットギリエス [2012] 『多国籍企業と国際生産——概念・理論・影響』井上博監訳、同文館。

成績評価方法と基準 定期試験で評価する。

オフィスアワー 随時。メールで予約すること。

その他 週2回開講されている。どちらも受講すること。

論

- 第17回～第23回 多国籍企業の基本理論
- 第24回～第27回 現代の多国籍企業理論
- 第28回～第30回 多国籍企業とグローバルゼーション

多国籍企業論演習

学期 通年 開講時間 木9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 森原康仁

授業の概要 企業の多国籍展開などの経済グローバル化をはじめ、グローバル化の多様な形態を考えるのが本演習の目的である。

学習の目的 グローバリゼーションの現実のなかから調査・研究テーマを設定し、その分析に必要な調査・研究方法を構築したうえで、みずからの調査・研究結果をわかりやすく報告できるようになる。

学習の到達目標 グローバリゼーションの現実のなかから調査・研究テーマを設定し、その分析に必要な調査・研究方法を構築したうえで、みずからの調査・研究結果をわかりやすく報告できるようになる。

授業計画・学習の内容

学習内容

前期は、多国籍企業論をはじめグローバル化にかんする入門的なテキストを輪読し、この問題について調査・研究するためのアプローチを学ぶ。

後期は、各自ないし共同でテーマを設定し、レポートないし論文を発表する。年明け以降

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 多国籍企業論

教科書 とくに指定しない。

成績評価方法と基準 演習への出席と報告や討論への取り組みによって総合的に評価する。

オフィスアワー 随時。メールで予約すること。

は、各自の卒業論文のテーマを設定し、その進捗を報告する場とする。

なお、正規のゼミの時間以外に、ゼミ内のメンバーのコミュニケーションを図る場を設ける。他大学の関連ゼミナールとの交流も図る。

経済原論

Political Economics

学期 前期 開講時間 月 7, 8; 金 1, 2 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 深井 英喜 (人文学部)

授業の概要 経済学の基礎理論を学ぶことで、経済学の考え方の基礎を修得する。

学習の目的 現在資本主義社会の基本構造の理解。

学習の到達目標

本講義での目標は、経済学の基本的な考え方に慣れるとともに、資本主義社会を構成する基本構造を理解することにある。社会現象や政策を経済理論的に考えることで、自分自身の社会認識を見直したり、それを構築していく力を高めていく。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目

この講義が経済学と経営学の学習を進める際の基盤科目であるため、予め履修の必要な科目はない。
むしろ、経済学や経営学に進むことを考えている学生は、必ず履修すること。

発展科目 経済学・経営学・行政に関連する諸科目

授業計画・学習の内容

学習内容

この講義では、マルクスやケインズを経て発展してきたラディカル派の経済理論を講義する。したがって、公務員試験などに出題される近代経済学の問題にたいして、“テクニカルな側面”では対応しない。しかし、“経済学的な考え方”という点では、近代経済学と同じである。

この講義の重点は、経済学の問題を解くテクニカルな部分ではなく、経済学の考え方の修得し、そして経済学の考え方をういて社会・経済現象を捉える試みにある。

この講義で最終的に考えようとしている課題は、次の3点である。

教科書 基本的にはレジュメを配布して講義を進める。

成績評価方法と基準

中間で行う小テストないしはレポート(30%)と、最終試験(70%)によって評価する。

中間の小テストないしはレポートの課し方は、初回の講義で詳しく解説する。

成績は、講義の受講態度なども含めて、総合的に評価する。

オフィスアワー 初回講義でアナウンスする。基本的に開校日の午後は可能な限り対応する。

その他

理論経済学の科目は、文科系科目の中で特に厳密な論理体系を持っている。講義は、トピックス的な講義の並列で進むのではなく、回を追うごとに次第に内容が深まっていく積み上げ式で進んでいく。そのため、途中で行き詰るとその後が付いて行けなくなる。オフィスアワー等を充実させているので、それらを利用して講義に取り組むように。

①現在の資本制経済社会は歴史的にどのような特徴をもった経済社会であるのか。

②資本制経済社会が維持・再生産される経済メカニズムはいかなるものであるのか。

③資本制経済(市場メカニズム)の限界はどこにあるのか。

(講義で取り上げられる項目)

1. 市場とはなにか 2. 資本とは何か 3. 価格・賃金・利潤の決定

4. 所得分配 5. 資本蓄積と所得分配 6. 技術変化と労働過程

7. 労働市場 8. 金融市場 9. 所得と雇用の決定

10. 景気循環

経済原論演習

Seminar in political economics

学期 通年 開講時間 金 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 深井 英喜 (人文学部)

授業の概要

この講義では、講義で学んだ知識をより深めて実際に使えるようになることを目標にして、少人数での輪読や議論そして論文執筆を通じた学習を行う。

最終的には、卒業研究の指導まで行う。

学習の目的

この演習が目的とするところは、次の3点である。

- ・理論経済学の基礎をしっかりと習得することを目指す。
- ・理論経済学の考え方を使って現代資本主義社会の諸現象や諸問題について考える、応用力を高める。
- ・“論理的思考”や“コミュニケーション力”といった力を高めることを目指す。

学習の到達目標

この演習の1つ目の目的は、理論経済学の基礎をしっかりと習得することにある。とは言っても、経済学のテキストにある経済モデルを単にわかった気になったのでは応用力はつかない。この演習では、経済モデルが前提にし

ている社会の特徴を考察してこれを検討することで、その理論がどのような特徴を持つとともに限界を持っているかを理解することを目標にする。

また、この演習では合宿なども行い、ゼミ生間の議論を行ってもらおう。その中で、社会に出る際に必要な諸力(“how to”ではなく、論理的思考やコミュニケーション力)とは何かを自分なりに考えて、その力を高めていくことを目標にする。

受講要件 積極的に演習の活動に参加すること

予め履修が望ましい科目 経済原論ないしは近代経済学を事前に履修していることが望ましい

教科書 輪読形式が中心になるが、テキストについては参加者との相談の上で決めていく。

成績評価方法と基準 授業参加度100%

オフィスアワー 私が研究室にいれば、いつでもよい。

授業計画・学習の内容

学習内容

● 夏semester

理論経済学のテキストの輪読を中心に進め、経済学の基礎的な考え方の習得と定着を目指す。

また、『学生論集』やインゼミ(日本学生経済ゼミナール)に向けてゼミ共通のテーマを設定し、ゼミ内研究会を行っていく。具体的には、テーマに関する著書や論文を探し、そ

の内容をゼミ内に紹介していってもらう。

● 冬semester

『学生論集』やインゼミで設定したテーマに即して、専門書の輪読を中心に進める。夏semesterで学んだ経済理論の知識を具体的な問題にあてはめて用いることで、理論経済学がもつ意味をより具体的に理解する契機になるとともに、論理的思考の力を高めることを目標にする。

マーケティング論演習

Seminar in Marketing

学期 通年 開講時間 木 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 後藤 基 (人文学部)

授業の概要 マーケティングの基礎理論を通して、現代社会、企業経営を考える

学習の目的

演習によって

- ・マーケティングの基礎的な概念と理論・技法を理解できる。
- ・マーケティング理論・技法を通して、現代経営、社会の諸問題を考える力を養える。
- ・現代社会、企業等の諸問題を解決する力を身につけることができる。
- ・企業行動をマーケティング理論によって現状を把握し、問題点を発見し、問題解決の意思決定ができる。

学習の到達目標

- ①マーケティングの基礎的な概念と理論・技法を理解できます。
- ②マーケティング理論・技法を通して、現代経営、社会の諸問題を考える力が身につきます。
- ③現代社会、企業等の諸問題を解決する力が身につきます。

授業計画・学習の内容

学習内容

本演習では、3点の目標に基づいて、以下の構成で進めます。

- ①マーケティングの基礎的な概念と理論・技法を理解します。
基礎的理論の理解のために、教科書をもとに精読します
- ②マーケティング理論・技法を通して、現代経営、社会の諸問題を考える力を身につけま

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 法律経済学科の演習決定手續による

予め履修が望ましい科目 経営学総論、マーケティング論、

発展科目 SCM、経営管理論、会計学、ベンチャービジネス論

教科書

F.コトラー「マーケティング・マネジメント」

その他、演習時に随時指定します

成績評価方法と基準 演習への出席、報告、討論への参加などを通じて、総合的に評価します

オフィスアワー 研究室在室時はいつでも可能です

- す。
経営分野全体に強くなるため、時事問題を取り上げ議論します
- ③現代社会、企業等の諸問題を解決する力を身につけます。
全国経済系ゼミナールに参加するため、協働論文の作成と討論準備を行います
個人研究テーマを決定し、卒業論文作成の準備を行います

サプライチェーン・マネジメント

Supply Chain Management

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 中西大輔 (非常勤)

授業の概要

サプライチェーン・マネジメント (SCM) とは、原材料の調達から最終消費者に販売するまでの物流を1つの大きな供給の連鎖と捉えて管理することであり、その中心はロジスティクスであると言われています。そこで、本講義では、やがてロジスティクス・マネジメントを導くことになる物流管理について学び、ロジスティクスについて考察した上で、SCMについて、その契機は何かということを念頭に置きながら検討します。

学習の目的

- ・ 物流についての基礎的な概念と理論を理解する。
- ・ ロジスティクスについての基礎的な概念と理論を理解する。
- ・ SCMについての基礎的な概念と理論を理解する。
- ・ SCMの契機を検討することで、経済・経営に関する現代的な問題を把握する。

学習の到達目標

まず、やがてロジスティクス・マネジメントを導くことになる物流管理について理解します。次に、SCMの中心となるロジスティクス・マネジメントについて理解します。そして、SCMについての理解を深めます。今なぜSCMなのかということを理解し、企業

の経営戦略が新しいフェーズに入っていることを把握することが、本講義の到達目標です。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

新聞や雑誌、経済的な特集番組などから、講義内容に関連する情報を積極的に収集して下さい。

予め履修が望ましい科目

マーケティング論、経営学総論

教科書

レジュメを配布して講義を行うため特に指定しませんが、下記参考書を適宜活用します。

成績評価方法と基準

期末試験60%、レポート40%

オフィスアワー

授業の前後に質問を受け付けます。

その他

本講義は現代経済コース、企業経営履修プログラムに属します。

2005～2007年度入学生については「特殊講義 [サプライチェーン・マネジメント]」として開講します。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 SCMとは何か
- 第2回 物流という経営機能
- 第3回 物流管理と物流システム
- 第4回 マーケティング戦略と物流政策
- 第5回 物流機能の拡大
- 第6回 物流管理とロジスティクス
- 第7回 ロジスティクス・ネットワーク

- 第8回 ロジスティクス・マネジメントの概念
- 第9回 ロジスティクス・マネジメントの基本
- 第10回 ロジスティクス・マネジメントの展開
- 第11回 ロジスティクスとSCM
- 第12回 SCMの実際
- 第13回 SCMの進展
- 第14回 延期・投機の原理と製販統合
- 第15回 まとめ

中小企業論

Small Business

学期 後期 開講時間 水 1, 2 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 岩坂 和幸 (非常勤講師)

授業の概要 日本経済における中小企業の現状と役割・課題、産業集積における中小企業の役割と課題、起業や創業の現状と役割などを理解する。

学習の目的 日本経済の屋台骨である中小企業がモノづくりの分野ではたしている役割、「3K」や「前近代的」と呼ばれてきた従来の中小企業の存在、及び近年生まれている「革新的」ベンチャーなどの実態と動向を理解し、それらの存立する意義や条件について理解していただく。

学習の到達目標 地域のモノづくりや地産地消といった循環型社会、地域文化などにおいて中小企業が果たす役割について積極的に関心を持ち、起業や創業に積極的にかかわってほしい。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回講義紹介、「中小企業基本法」(1963)の制定とその体系、新「中小企業基本法」(1999)の理念と柱
第2回「小規模企業基本法」(2014年6月制定)の概要と意義
第3回中小企業の現状と役割(1)―中小製造業(『2015年度中小企業白書』より)
第4回中小企業の現状と役割(2)―中小小売業(『2015年度中小企業白書』より)
第5回経済発展と中小企業
第6回経済構造の変化と中小企業
第7回中小企業と生産分業システム(下請制)

受講要件 経営学の基礎的理解を必要とするため経営学総論は出来るだけ受講して下さい。

予め履修が望ましい科目 経営学総論

発展科目 特になし

教科書 レジューメ・資料を配布して講義を行うので教科書は特に指定しないが、『2015年度中小企業白書』については受講者各自でダウンロードして目を通してほしい。

成績評価方法と基準 レポート 40%、試験 60%

オフィスアワー

本務校ではないため講義終了後。それ以外はメールで問い合わせ下さい。

メールアドレス: iwasaki@gifu-keizai.ac.jp

メールでは、件名に、氏名(三重大学)を記入してください。

世話役教員: 青木雅生

第8回産業集積の類型(都市型集積・産地型集積・城下町型集積)と中小企業
第9回中小企業と金融
第10回グローバル化と中小企業
第11回ベンチャー企業、企業家の定義、ベンチャー企業の分類、ベンチャーブームの歴史
第12回日本における起業の現状と課題
第13回ベンチャー支援の制度的環境と育成の仕組み
第14回ベンチャー・キャピタルと支援インフラ
第15回ベンチャー企業の成長とマネジメント

日本経済史

Economic History of Japan

学期 前期 開講時間 火 7, 8; 金 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 堀内義隆

授業の概要 現在の日本社会を理解するために必要な歴史的知識を、経済的側面から学ぶ。日本経済の歩んできた道を通史的に概説すると同時に、特に重要と思われるテーマについては詳しく説明し、歴史的な思考力を鍛えるための素材を提供する。

学習の目的 現在の日本経済の構造が歴史的に形成されたものであることを具体的事象とともに理解し、個々の事象のタイムスケール（何が変化し、何が変化しないか）を見極めようとする態度を身につける。

学習の到達目標 日本経済の歴史に関する基

本的な知識を習得することを第一の到達目標とし、歴史的な知識を背景として現状分析をおこなう態度を身につけることを第二の到達目標とする。

発展科目 近現代アジア経済史、日本経済論、金融論、産業経済論

教科書 特に指定しない。

成績評価方法と基準 授業での提出物30%、小テスト30%、期末試験40%、計100%

オフィスアワー 金曜日13:00～14:00、人文学部棟5階堀内研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

通史の概説については以下のような構成で進める。

1. 古代・中世の日本経済
2. 近世社会の形成と発展
3. 近世社会の衰退
4. 「西洋の衝撃」と日本経済
5. 明治維新と殖産興業
6. 日本の産業革命
7. 第一次世界大戦と日本経済

8. 戦間期の日本経済
9. 昭和恐慌と景気回復
10. 戦時期の統制経済
11. 戦後改革と経済復興
12. 高度経済成長
13. 安定成長
14. 平成不況

このほかに適宜、重要テーマについて取り上げて解説する。

日本経済史演習

Seminar in Economic History of Japan

学期 通年 開講時間 木7,8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 堀内義隆

授業の概要 日本(場合によってはアジア・世界)経済の発展過程を学ぶことを通じて、日本社会が抱えている諸問題を知り、長期的観点からその解決の道を探る。

学習の目的 歴史的思考とは、時間軸に沿って社会現象の因果的連関を捉えつつ、現象同士の共時的・構造的関連性を見つけ出す認識方法である。この授業では、歴史あるいは社会現象は、単なる事実の羅列ではなく、学生が自らの問題関心に即して再構成することによって初めて「使える」ものになるということを学ぶ。

学習の到達目標

(1) 日本と世界の過去200年間の経済発展に

ついて知ること。

(2) 社会科学における歴史的思考法を身につけること。

(3) これからの日本社会を生き抜く方法を考えること。

受講要件 法律経済学科の専門演習決定手続きによる。

教科書 受講生と相談のうえで決定する。

成績評価方法と基準 出席を前提としたうえで、発表・討論への参加・レポートなど演習への参加態度を総合的に評価する。

オフィスアワー 随時対応する。

授業計画・学習の内容

学習内容

前期は、共同体(コミュニティ)に関する文献を輪読し、ゼミでの議論をふまえてレポートを作成し、学習成果の定着を図る。また、特定のテーマを設定して集団研究を行い、ゼ

ミで報告する。

後期は、前期の学習をふまえつつ、一層深めながら、集団研究の成果をゼミ論文としてまとめる。

近現代アジア経済史

Modern and Current Economic History of Asia

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 堀内義隆

授業の概要 現在のアジア経済を理解するためには、東アジア経済の資本主義化の歴史に関する理解が不可欠である。この授業では、西洋起源の資本主義的な世界システムがアジアに拡大・浸透してくる中で、東アジアの各国・地域がその衝撃にどのように対応してきたか、そしてそれによって東アジアにどのような経済構造が形成されてきたかを学ぶ。

学習の目的 近代から現代に続く東アジア経済の歴史を深く理解することを通じて、今後のアジアにおける日本の経済的役割について考える力を身につける。

学習の到達目標 東アジアの諸国家・地域の経済発展が資本主義の拡大・発展を主軸として相互に関連しながら進んできたこと、さら

に、日本がその構成要素として重大な役割を果たしてきたことを理解する。

教科書 初回の授業で指示する。

成績評価方法と基準 授業での提出物50%、レポートまたは期末試験50%、計100%

オフィスアワー 金曜日13:00~14:00、人文学部棟5階堀内研究室

その他

本講義は、現代経済コース、企業経営履修プログラムに属します。

2008年度以前入学生については「特殊講義 [近現代アジア経済史]」として開講しません。

授業計画・学習の内容

学習内容

以下のような3部構成で、基本的には時系列に沿って、東アジア経済の資本主義化の過程を説明してゆく。

1. 近代ヨーロッパとアジアの接触：東アジア

の伝統経済と近代資本主義の受容

2. 戦前日本とアジアの経済関係：日本帝国の拡大と東アジアの資本主義的発展

3. 戦後アジアの経済成長：資本主義のグローバル化とアジアの工業化

金融論

Monetary and Financial Economics

学期 前期 開講時間 火 3, 4; 金 5, 6 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選必 選択 授業の方法 講義
担当教員 野崎 哲哉 (人文学部)

授業の概要 ☆講義では毎回新聞記事や視聴覚教材等を用いて問題意識の形成や現実感覚の豊富化を重視し、質問カードを用いることで理解が深まるようにしたい。

学習の目的 経済・金融の知識が深まり、日々生起する経済的事象のイメージが瞬時にわくとともに、今後の課題が考えられるようになることを目的とする。

学習の到達目標 現代経済社会を理解する上で不可欠な金融に関する基礎的知識の習得を目的とし、加えて今後の日本経済の方向性と金融のあるべき姿についても考えていく。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

☆講義の流れは以下の通り。
4月のテーマ：現代の金融のしくみを理解する！
第1回～第2回 講義紹介およびガイダンス
第3回～第4回 わが国金融システムの概観～金融の基礎知識の習得～
第5回～第6回 銀行および証券の機能と役割について
第7回～第8回 貨幣および金融の歴史について
5月のテーマ：日本経済の発展と金融の役割を理解する！
第9回～第11回 戦後金融制度の確立と高度経済成長における金融の役割
第12回～第13回 低成長下およびバブル経済下の日本経済と金融の役割
第14回～第15回 バブル経済崩壊と平成不況下

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目

特になし
なお、特殊講義〔社会経済論〕を同時履修していることが望ましい。

発展科目 証券経済論

教科書 なし（プリントを配布）

成績評価方法と基準 期末テスト（40%）、レポート（30%）、毎回の講義での意見カード等（30%）で総合的に評価。

オフィスアワー 火曜日、金曜日の昼休み。

その他 今年度は講義への出席を特に重視したい。

の日本経済と金融の役割
6月のテーマ：現代の金融問題について強くなる！
第16回～第17回 バブル崩壊後の金融機関の経営破綻
第18回～第19回 不良債権問題と金融再生のあり方
第20回～第21回 現代日本の金融政策
第22回～第24回 金融システム改革（日本版ビッグバン）と金融再編
7月のテーマ：金融のあるべき姿を考える！
第25回～第27回 現代の世界金融危機・アベノミクス
第27回～第30回 金融のあるべき姿および年間講義のまとめ
第31回 テスト

金融論演習

Seminar in Monetary and Financial Economics

学期 通年 開講時間 金7,8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習

担当教員 野崎 哲哉 (人文学部)

授業の概要 金融、経済の基本的理解を得られるようにする。

学習の目的 経済・金融に関する理解が深まるとともに、今後の課題を自ら考えられるようになることを目的とする。

学習の到達目標 現実の経済の大まかな動きがわかるようになることを第一の目標とします。第二に経済の中でも若干分かりにくい金融知識の習得を目標とし、第三に今後の社会で必要とされる経済に対する考え方を身につけることを目標とします。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話

授業計画・学習の内容

学習内容

本演習では、上記に掲げた3つの目標を達成するために以下のような構成で進めます。

まず第1部として経済・金融の基礎的な理解が得られる文献を精読します。これは前期に集中的に行う予定であり、具体的には3冊程度の入門的文献にチャレンジします。

(⇒上記の第2目標の達成)

次に第2部として現実の経済・時事問題に強くなるために、毎回1つのテーマを決め、みんなで議論します。具体的には、その週に起こった経済社会に関する出来事について、担当者が新聞記事等を活用し、その内容・背景等を具体的に報告します。その際、演習参加者も各自で調べてきて、その問題をみんなで議論します。

力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 法律経済学科のゼミ決定手続きによる。

予め履修が望ましい科目 金融論、特殊講義〔社会経済論〕

発展科目 証券経済論

教科書 演習時に指定します

成績評価方法と基準 演習への出席、報告、討論への参加など通じて総合的に評価します。

オフィスアワー 研究室在室時はいつでもOK。

⇒ (上記の第1目標の達成)

なお、重要な経済問題については、ディベートを取り入れるなど今後の経済社会で必要とされる経済に対する考え方を身に付けられるよう工夫します。

⇒ (上記の第3目標の達成)

また、後期には全国の経済系ゼミナールの討論会へ出席するために共同論文を作成し、討論の準備を行います。さらに、具体的な専門への興味関心が深まってくる時期に個人の研究テーマを決め、卒業論文への準備を進めていきます。なお、こうした取り組みは就職活動の際にも具体的な研究テーマを自信をもって語れることに繋がるとともに、上記3つの目標の達成とも合致するものであることを理解していただきたいと思います。

証券経済論

Economics of Capital Market

学期 後期 開講時間 金 5,6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選^必 選択 授業の方法 講義
担当教員 野崎 哲哉 (人文学部)

授業の概要 ◇講義では毎回新聞記事や視聴覚教材等を用いて問題意識の形成や現実感覚の豊富化を重視し、質問カードを用いることで理解が深まるようにしたい。

学習の目的 現代経済社会において、証券市場で生起している経済的事象についてイメージできるようにすることを目的とする。

学習の到達目標 現代経済社会において証券の果たすべき役割は大きくなっている。本講義では証券に関する基礎的知識の習得を目的としたい。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 情報発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

◇講義の流れは以下の通り。

10月のテーマ：現代の証券の仕組みを理解する！

第1回 講義紹介・ガイダンス

第2回～第4回 証券についての基礎知識

11月のテーマ：証券の歴史を理解する！

第5回～第6回 株式について

第7回～第8回 公社債について

第9回～第10回 証券の歴史および日本経済の発

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 金融論、特殊講義〔社会経済論〕

発展科目 特になし

教科書 なし（プリントを配布）

成績評価方法と基準 テスト（40%）、レポート（30%）、毎回の講義での意見カード等（30%）で評価。

オフィスアワー 金曜日の昼休み（※ただし研究室に在室時はいつでもOK）

その他 現代の証券問題を理解するためには基礎的知識が重要であるため、毎回の講義に出席していただきたい。なお、金融論を履修していることが望ましい。

展と証券の役割について

12月のテーマ：現代の証券に関する問題を考察する！

第11回 バブル崩壊後の証券会社経営問題

第12回 日本版ビッグバンと証券市場改革

第13回 現代の証券市場をめぐる諸問題

1月のテーマ：今後の証券のあり方を考える！

第14回～第15回 今後の世界および日本の経済の方向性と証券のあるべき姿

第16回 テスト

日本経済論

Japanese Economy

学期 後期 開講時間 火 5, 6; 木 5, 6 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 森久綱 (人文学部)

授業の概要 現在の日本経済をとりまく諸問題について、日本経済発展のプロセスと関連させながら理解を図ることを目的とする。講義の前半では1980年代以降のグローバリゼーションとの関連で発現した諸問題をとりあげ、昨今発現している諸問題の経済的背景について解説を行う。後半では、人類の生物としての生存に不可欠な農業・食料問題をとりあげ、世界的な食糧生産条件の悪化と中進国経済の台頭にもなう食料需要増大という状況のもとでの日本における食料生産・流通・消費のあり方について、日本経済発展のプロセスと関連させながら考察を行う。

学習の目的 履修者の問題・関心が日本経済においてどのような位置にあるのかを理解し、相互関係から考察を行うための基礎的知識を得る。

授業計画・学習の内容

学習内容

巨額の財政赤字、産業の空洞化、地域経済の疲弊、資源枯渇にもなう資源価格の上昇等、現在の日本経済が直面する問題は複雑かつ多岐にわたっている。これら諸問題については、研究者のみならず、政財界からも様々な見解が示されており、日夜、新聞・ニュース報道等を通じて私たちに伝えられている。しかしながら、それらの多くは紙面や放送時間等の様々な制約、あるいは発言者の立場等から表層的・一面的になることが多い。本講義では、そうした表層的・一面的理解にとどまることなく、日本経済発展のプロセスについての整理・検討を通じて、現在の日本経済が直面している諸問題についての理解を図りたい。

第1回

ガイダンス

第2-6回

現在の日本経済を取り巻く諸問題について

一日本経済にながら起こっているのか 新聞記事にみる社会経済問題の所在一

識を得る。

学習の到達目標 日本経済に発現している諸問題と背景の理解及び批判的検討を行うための知識や理論的枠組の習得。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 なし (プリント配布)

成績評価方法と基準 レポート又は小テスト 30% 期末テスト 70%

オフィスアワー オフィスアワーについては講義内で提示する (場所: 人文学部専門校舎 5F518研究室)

第7-14回

日本経済の展開とグローバリゼーション
貿易自由化の論理 リカードの比較生産費説再考

バブル経済とグローバリゼーション

GATT, WTO, FTA/EPA, TPPまでのプロセスと日本経済

第15回

講義の整理

第16-19回

農産物輸出国における生産条件の変化

輸入依存の陰で何が起きているのか 一 資源枯渇と貧困問題

第20~29回

農業部門における生産と流通の変化

食糧自給率40%はいかにして生み出されたのか 一 生産, 流通, 消費システムの視点から

第30回

講義の整理

第31回

試験

日本経済論演習

Seminar in Japanese Economy

学期 後期 開講時間 木 7, 8, 9, 10 単位 4 対象 法律経済学科専用 (年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習, 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 森久綱 (人文学部)

授業の概要 持続可能な経済発展において如何なる課題が存在しているのか。「食料・農業」及び「資源循環・環境保全」の観点から日本経済発展の枠組みを再考することで、この問題への接近を図ることを目的とする。また、知識及び理論的枠組の習得のため、論文等の解説・検討だけでなく、テーマに応じてフィールドワークを実施する。

学習の目的 持続可能な経済システムのあり方についての基礎的理解及び批判的考察力の習得

学習の到達目標 現代日本経済における問題の発見、批判的検討を行うための知識や理論的枠組みの修得

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的

授業計画・学習の内容

学習内容

基本的にテーマは学生の関心に基づいて決定するが、下記のテーマを予定している。また、決定したテーマについて前後期ともそれぞれ15回の報告・討論を行う(企業訪問・工場見学を実施する場合は報告・討論と代替する)。

1. 日本経済と環境問題を考える

京都議定書の締結・発行、容器・包装、食品、家電、自動車etcに関するリサイクル法の制定・施行に代表されるように、国内外を問わず環境に関しての様々な法制度が整備されつつある。これらは、最近における環境問題の顕在化を背景としており、従来の「大量生産・大量消費・大量廃棄を前提とした経済発展」の枠組みから、「物質循環に基づく持続可能な経済発展の枠組み」への転換を迫るものである。そこで、「物質循環に基づく持

続可能な経済発展の枠組み」とは何か、日本における経済発展の枠組みのそれへの転換において何が問題となるのか等について考えていきたい。

受講要件 本演習のテーマに関心を持っていること

予め履修が望ましい科目 日本経済論, 日本経済論特論

教科書 学生の問題意識や関心にあわせて選択したい。ゼミ開始時期に希望調査を行ったうえで決定する。

成績評価方法と基準 ゼミナールでの報告、質疑、討論の内容で評価する

オフィスアワー 毎週木曜日演習終了後、人文学部専門校舎5F518研究室

続可能な経済発展の枠組み」とは何か、日本における経済発展の枠組みのそれへの転換において何が問題となるのか等について考えていきたい。

2. 日本経済と食料・農業問題を考える

日本の食料自給率は、先進諸国において最低の水準にある。政府は2010年までに45%へと引き上げることを目標として諸政策を実施してきたが、事態が好転することなく今日に至っている。中国等における経済発展にともなう食料需要増大、途上国における人口爆発と飢餓の拡大、地球温暖化による生態系の変化等の要因によって、今後、食料・農業を巡る問題はますます深刻化するものと考えられる。そこで、日本の食料自給率が低下してきた要因、この低さには如何なる問題があるのかということに関して、日本経済発展の論理と関連させながら考えていきたい。

法律経済学科専用 **会計学**
法律経済学科専用 **特殊講義 会計学**

Accounting
Accounting

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 赤塚尚之 (非常勤講師)

授業の概要 簿記の知識をふまえ、初歩的な財務諸表分析について学習する。

発展科目 なし

学習の目的 財務諸表の作り方から視点を変え、財務諸表の読み方について学習を行う。

教科書

Yahoo!ファイナンスで速攻決算書分析
※2初回授業時までに入手し、初回講義時に持参すること。

学習の到達目標 初歩的な財務指標の算定、および解釈スキルを身に付け、証券投資のほか、就職活動における企業選定に資する。

成績評価方法と基準

課題と定期試験によって行う。
課題20%、定期試験80%を予定している。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力

受講要件 授業のみならず、必ず自身で課題に取り組めること。

オフィスアワー

授業開始前後
世話役教員：青木雅生

予め履修が望ましい科目 簿記（厳格な履修制限は行わないが、簿記を学習せずに履修することは困難と考えてください）

その他 2012年度以前入学生については「特殊講義 [会計学] 」として開講します。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 会計情報の役割
2. 会計制度と社会
3. 会計の仕組み
4. 貸借対照表
5. 在庫の会計
6. 生産設備の会計
7. 金融資産の会計

8. 負債と資本の会計
9. 損益計算書
10. 営業活動の会計
11. 儲かる仕組みの分析
12. 利益構造の分析
13. 経営管理と会計
14. 会計を活用する仕事
15. まとめ

授業の概要 日商簿記検定3級の基礎レベルの複式簿記について、その原理を理解し、技術を習得することを目的とする。

学習の目的 社会人にとって必須とされる会計スキルの入門である、初歩的な簿記の技術を身に付ける。

学習の到達目標 授業においては基礎的なインプット・アウトプットを行い、授業後の検定試験において日商簿記検定3級に合格する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力

受講要件 授業のみならず、必ず自身で復習(問題集を繰り返し解く)ができること。

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 会計学

教科書

- ①みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級商業簿記 TAC出版
- ②みんなが欲しかった 簿記の問題集 日商3級商業簿記
※2冊とも、初回授業時までに入手し、初回講義時に持参すること。

成績評価方法と基準

課題と定期試験によって行う。
課題20%、定期試験80%を予定している。

オフィスアワー

授業開始前後
世話役教員：青木雅生

その他 2012年度以前入学生については「特殊講義 [簿記] 」として開講します。

授業計画・学習の内容

学習内容

- CHAPTER 01 簿記の基礎
- CHAPTER 02 商品売買
- CHAPTER 03 現金預金
- CHAPTER 04 手形
- CHAPTER 05 有価証券と固定資産
- CHAPTER 06 その他の取引

- CHAPTER 07 帳簿
- CHAPTER 08 試算表
- CHAPTER 09 伝票会計
- CHAPTER 10 決算手続 I
- CHAPTER 11 決算手続 II
- CHAPTER 12 決算手続 III
- CHAPTER 13 参考

授業の概要 金融機関職員により、身近な中小企業におけるコーポレートファイナンスを中心とした講義を行う。

学習の目的 中小企業の特徴や資金調達および経営分析、創業（ビジネスプランなど）の基礎的な知識や考え方を学ぶ。

学習の到達目標 中小企業の実態、経営分析や創業についての基礎知識の習得。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術

受講要件 特に指定しない。

予め履修が望ましい科目 簿記の知識があれば望ましい。

発展科目 中小企業論、会計学

教科書 特に指定しない。

成績評価方法と基準 小テスト（無予告）、出席等で総合的に評価。

オフィスアワー 講義時間内

その他

- ・講義は日本政策金融公庫の複数の職員で担当する。
- ・講義は隔週水曜日の5-8時限（3・4コマ目）である。
- ・本講義は、現代経済コース、企業経営履修プログラムに属します。
- ・2012年度以前入学生については「特殊講義 [コーポレートファイナンス] 」として開講します。

授業計画・学習の内容

学習内容

- ①企業の資金調達方法（総論）
- ②中小企業の特徴と担い手
- ③中小企業金融における融資
- ④企業の財務分析①決算書
- ⑤企業の財務分析②経営分析Ⅰ
- ⑥企業の財務分析③経営分析Ⅱ
- ⑦企業の財務分析④経営分析Ⅲ

- ⑧企業の財務分析⑤キャッシュフロー分析
- ⑨成長過程の企業と財務（中堅企業融資）
- ⑩中小企業金融における信用保証
- ⑪日本の農業の概要
- ⑫農業ビジネスの動向
- ⑬第二創業と中小企業
- ⑭創業の現状
- ⑮創業とビジネスプラン

特殊講義【生産管理論】

Production Management

学期 前期 開講時間 水 1, 2 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 岩坂 和幸 (非常勤講師)

授業の概要 20世紀の大量生産を主導したフォード・システム、1970年代の石油危機以後世界お注目を集めた日本のフレキシブル生産方式、そして90年代以降ITとグローバルゼーションの進展を背景に大量生産に現れた共通化と多様化を実現する新しい動向を理解してもらう。また、ものづくりにおいて進むモジュラー化戦略を取り上げ、近年ものづくり論の中で大きな位置を占めるアーキテクチャ論、及びアーキテクチャと組織能力の関係を理解してもらう。

学習の目的 市場の変化に生産方式がどのように対応してきたのか理解できる。擦り合せ型の製品設計思想の典型であり日本のものづく理の高さの象徴であった自動車でもPC生産のような生産（モジュラー化）の波が押し寄せている。その最近の変化の核心部分を理解してもらう。

学習の到達目標 大量生産とは何か、大量生産というのは市場の変化のなかでどのように変わってきたのかを理解するとともに最近あらわれている生産方式の変化をもたらしている要因や技術などの関係を理解する。また複雑なものを単純化するモジュラー化について理解してもらう。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 講義の紹介・導入 生産方式の発展と特質①～注文生産と市場生産
2. 生産方式の発展と特質②～注文型作業組織と市場生産型作業組織(組別生産方式、大量生産方式)
3. 画一的大量消費市場とフォード・システム
4. coffee break! [テイラー・システム～標準作業量(課業)の設定と計画にもとづく統制～]
5. 市場の多様化とフレキシブル生産方式～多品種・多仕様・大量生産と生・販売統合システムの成立～

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 経営学の基礎的理解を必要とするため経営学総論は出来るだけ受講して下さい。

予め履修が望ましい科目 経営学総論

発展科目 特になし

教科書 特に指定しないが、藤本隆宏編『ものづくり経営学』(光文社新書 2007年)の購入をすすめる。

成績評価方法と基準 レポート40%、定期試験60%

オフィスアワー

本務校ではないため講義終了後。それ以外はメールで問い合わせて下さい。

メールアドレス: iwasaka@gifu-keizai.ac.jp

メールでは、件名に、氏名(三重大学)を記入してください。

世話役教員: 青木雅生

その他 本講義は現代経済コース、企業経営履修プログラムに属します。

6. ジャスト・イン・タイム(JIT)生産方式
7. 生産・販売統合システムの意義
8. 生産・販売統合システム～オーダー・エントリー・システム(トヨタ)～
9. カスタム化市場(顧客対応型市場)の成立と変種変量生産～セル生産方式～
10. カスタム化市場(顧客対応型市場)のグローバル的広がりとはモジュラー化戦略プラットフォームの共通化と多様化～VWのMQB (Modulen Quer Baukasten) 戦略～
11. ものづくりにおける競争力と組織能力
12. モジュラー化戦略とは
13. アーキテクチャとものづくり(擦り合わ

せ型アーキテクチャとモジュラー型アーキ
テクチャ①)

14. アーキテクチャとものづくり(擦り合わ
せ型アーキテクチャとモジュラー型アーキ

テクチャ②)

15. アーキテクチャの変化と統合化・モ
ジュラー化の関係

特殊講義 [社会経済論]

Social Economy

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択 授業の方法 講義
担当教員 野崎 哲哉 (人文学部)

授業の概要 ☆講義は毎回VTRを用いて、経済問題全般に関する諸テーマについて検討する。講義の進め方は、VTRの解説を行うとともに受講生とのディスカッション(参加型授業)を重視する。また、毎回出席カードに意見・感想を書いてもらうことで、そのテーマについての理解が深められる工夫を行う。

学習の目的 現代社会において生起している経済的事象について、問題意識を持って接し、その現状と課題を考えられるようになることを目的とする。

学習の到達目標 複雑な現代経済の様々なテーマを扱った映像を活用しながら、経済・金融に関するイメージを豊かにするとともに、現実に生起している日本の経済・金融問題に対する広い視野からの理解を深めることを目的とする。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、課題探求力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

☆取り上げるテーマは講義開始時までには放映された映像もいくつか加える予定にしているが、現段階で取り上げるテーマは以下の通りである。なお、放映順については変更あり。また受講生の要望で新たにテーマを付け加えることも考えている。

2015年度に予定しているテーマ

- ・アベノミクスに関する問題(金融緩和と政策、財政問題、成長戦略)
- ・地域金融再編
- ・マネー資本主義に関する問題
- ・欧米経済に関する問題
- ・新興国経済に関する問題
- ・雇用問題
- ・社会保障に関する問題
- ・エネルギーと環境問題
- ・消費者被害に関する問題
- ・インフラに関する

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目

金融論、証券経済論、日本経済論、経済原論、産業経済論総論

*なおこれらの科目は、特殊講義[社会経済論]と同時履修でも可。

教科書 なし

成績評価方法と基準 レポート60%、意見カード・講義への参加状況等40%

オフィスアワー 火曜日および金曜日の昼休み(※ただし研究室に在室時はいつでもOK)

その他

受講に際しては、講義への参加の意志を強く持っていただきたい。

今年度は特に金融論との同時履修(または既修得)が望ましい。

本講義は現代経済コース、企業経営履修プログラムに属します。

る問題 etc.

2014年度 社会経済論の講義内容

第1回 講義ガイダンス *放映予定ビデオ紹介(冒頭部分のみ)

第2回 量的金融緩和と下の世界経済はどうなっていくのか?

第3回 日本のインフラは大丈夫か?

第4回 現代のアメリカ経済はどうなっているのか?

第5回 巨大メディア企業はいかにして情報操作を行っているのか?

第6回 税金を払わない企業の実態はいかなるものか?

第7回 国家に敵対する新富裕層の実態はいかなるものか?

第8回 日本のグローバル企業の戦略はいかなる

ものか？

第9回 グローバル企業の生産現場でいったい何
が起きているのか？

第10回 マイクロファイナンス

第11回 新しい金融の取組みの可能性について

第12回 ビットコイン

第13回 女性の貧困

第14回 豊かさの追求と資源問題&経済成長と
環境問題

第15回 本年度講義のまとめ

近代経済学

Introduction to Economic Theory

学期 後期 開講時間 火 1, 2; 木 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle

担当教員 嶋 恵一 (人文学部法律経済学科)、落合 隆(人文学部法律経済学科)

授業の概要 『入門：経済学』伊藤元重著 (日本評論社) を用いて入門レベルの経済学の講義を行います。

学習の目的 経済学的な考え方が理解できる

学習の到達目標 現実の経済の見方を習得し、経済メカニズムの基本原則が理解できる

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 ミクロ経済学、マクロ経済学、国

際経済論、経済政策、財政学

教科書

[テキスト] 『入門経済学』伊藤元重著 (日本評論社)

現在第3版を使用しているが、新たに第4版が利用可能であればそれを利用する。

成績評価方法と基準 定期試験および小テストの点数で評価します。

オフィスアワー 授業の最初に指示します。

その他 テキストは各自必ず購入してください。

授業計画・学習の内容

学習内容

詳しい内容は以下のとおりです。

ミクロ経済学 (木曜日)

1 ミクロ経済学とは

2 需要と供給

3~4 需要曲線と消費者行動

5~6 費用の構造と供給行動

7~8 市場取引と資源配分

9~10 ゲームの理論入門

11 競争と独占の理論

12 市場の失敗

13~15 消費者の理論

マクロ経済学 (火曜日)

1 経済をマクロからとらえる

2~3 有効需要と乗数メカニズム

4~5 貨幣の機能

6~7 マクロ経済政策

8~9 インフレと失業

10~11 財政政策のマクロ経済分析

12~13 経済成長と発展

14~15 国際経済学

マクロ経済学

Macroeconomics

学期 前期集中 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 橋本浩幸

授業の概要 マクロ経済の動きや問題を捉えて理解するための「マクロ経済理論」を講義します。具体的には、マクロ経済の状態を捉える代表的なデータであるGDPを理解するところから始めて、経済成長と景気循環のメカニズム、金融政策と財政政策の方法と経済への影響、金融の仕組みなどを解説する。

学習の目的

経済成長のメカニズムを理解すること。
経済成長を促進する政策と景気対策としての政策の違いを理解すること。
マクロ経済を身近なものとして捉えられるようになること。

学習の到達目標 講義で学んだマクロ経済理論を用いて、経済成長に必要な政策、景気対策の効果、財政再建の行方を学生自ら論じることができるようになること。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1講 ガイダンス+プロローグ
- 第2講 マクロ経済学の課題と視点
- 第3講 所得を測る
- 第4講 何が生産性を決めるのか?
- 第4講 物価を測る
- 第5講 経済成長の様子
- 第6講 経済成長のメカニズム
- 第7講 経済成長の理論モデル
- 第8講 資本蓄積と生産性
- 第9講 社会インフラと生産性
- 第10講 金融とは
- 第11講 金融システムの機能
- 第12講 金融システムの課題
- 第13講 貨幣とは
- 第14講 金融政策

探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力

受講要件 毎回、数学を使うわけではないし、極力計算をしないで済むテキストを指定しているが、高校文系数学程度の知識を持っていることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 近代経済学を履修していることが望ましい。

教科書 『いまこそ学ぼうマクロ経済学』 初版 (日本評論社、2008)

成績評価方法と基準 授業時間内に実施するテストにより評価する。ただし、出席点を評価に加えることもある。尚、テストの実施は事前に授業時に通知する。第一回目の講義時間にて、評価方法の詳細をお知らせします。

オフィスアワー 質問がある場合はe-mailにてhiro@biz.u-hyogo.ac.jpまで問い合わせてください。連絡窓口は川地先生です。

- 第15講 国際収支表
- 第16講 貿易と資本移動のマクロ経済学
- 第17講 消費理論
- 第18講 投資理論
- 第19講 景気循環とは
- 第20講 景気循環の考え方
- 第21講 失業の種類
- 第22講 物価と失業について
- 第23講 物価変動と経済厚生
- 第24講 生産変動と経済厚生
- 第25講 財政の仕組み
- 第26講 財政赤字の様子
- 第27講 課税分析
- 第28講 課税の効率性
- 第29講 累積債務とプライマリーバランス
- 第30講 財政の維持可能性

ミクロ経済学

Microeconomics

学期 後期 開講時間 火 7, 8; 金 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 森俊一 (非常勤講師)

授業の概要 ミクロ経済学の基本的な理論について講義する。ミクロ経済学では数学による手法を用いて議論を展開することが一般的であるが、講義では、数学的手法を用いることを最小限にとどめ、かつそれについても解説することにする。

学習の目的 経済問題を理論的に考えることができるようになり、他の経済系諸科目を学ぶための基礎が理解できるようになることを目的とする。

学習の到達目標 ミクロ経済学の分析手法と理論構造を理解できるようになることを目標とする。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 近代経済学、経済数学

発展科目 マクロ経済学、財政学、地方財政論

教科書 特に指定しない。

成績評価方法と基準 期末テストの成績で評価する。

オフィスアワー 授業の後、教室にて対応する。連絡の窓口は豊福先生。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ミクロ経済学とは何か

第2回～第5回 市場の働き；純粹交換経済

・市場メカニズムとパレート最適な配分

第6回～第10回 消費者行動

・効用関数、効用最大化と最適消費計画、スルツキー分解、

第11回～第15回 企業の行動

・生産関数、費用関数、利潤最大化、結合生産

第16回～第18回 市場均衡

・完全競争、生産を含む経済での一般均衡、生産要素市場の均衡

第19回～第21回 不完全競争

・独占、クールノー＝ナッシュ均衡、独占的競争

第22回～第26回 厚生経済学

・厚生経済学の基本定理、外部性、公共財、課税

第27回～第30回 不確実性、その他

国際経済論

International Economics

学期 後期 開講時間 火 5, 6; 木 5, 6 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle
担当教員 落合隆(人文学部法律経済学科)

授業の概要 国際貿易と貿易政策がある国の経済に与える影響を理解すること。

学習の目的 国際貿易の現状と制度についてわかり、基本的な貿易が生じる理由が理解できる。

学習の到達目標 現実の複雑な国際経済現象を抽象化し、問題点を抽出してモデル化し、分析する能力を身につける。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 近代経済学、ミクロ経済学

教科書 『国際経済学』阿部顕三、遠藤正寛 著 有斐閣アルマ

成績評価方法と基準 中間・期末テスト70%、授業中の問題あるいは宿題のレポート30%、計100%

オフィスアワー 火曜日7~8限 場所: 人文学部棟5階落合研究室

その他 受講生の理解度により、進め方を変えていく。必ずしもテキスト通りには進めるとは限らない。

授業計画・学習の内容

学習内容

1~2 国際貿易の概観: 自由化への歩みと現状
3~5 国際貿易の基本分析: 基本的枠組み
6~7 生産技術と貿易パターン: リカード・モデル
8~11 生産要素の供給と貿易パターン: ヘクシャー=オリーン・モデル
12~15 産业内貿易と新貿易理論

16 中間試験
17~18 関税政策の基礎分析
19~21 関税政策の応用分析
22~23 数量制限と補助金政策
24~26 国際要素移動
27~30 国際貿易システム
31 授業のまとめ

国際経済論演習

学期 通年 開講時間 木 9, 10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習

担当教員 落合隆(人文学部法律経済学科)

授業の概要

経済学を利用して経済社会における諸問題を考察する。

前期においては、問題の背景や既存の理論においてどのような見解がとられて

きたかを知るためにテキストを輪読する。取り上げる問題としては環境経済学、資源経済学、国際経済学、国際金融論、企業と組織の経済学、法と経済学など

から受講者の興味により選択する予定である。

後期においては、受講者の希望するテーマについてのレポートを報告してもらう。

学習の目的 国際経済における諸問題を理解する

授業計画・学習の内容

学習内容

経済学を利用して経済社会における諸問題を考察する。

前期においては、問題の背景や既存の理論においてどのような見解がとられて

きたかを知るためにテキストを輪読する。取り上げる問題としては環境経済学、

学習の到達目標

経済社会における諸問題について理解するとともにその解決法について考察する能力を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 履修希望者と相談の上決定する。

成績評価方法と基準 出席とゼミにおける積極的な姿勢を重視する。特に無断欠席は認めない。

オフィスアワー 前期木曜日14:30~16:10、後期火曜日12:00~13:00 人文学部棟5階落合研究室

資源経済学、国際経済学、国際金融論、企業と組織の経済学、法と経済学などから受講者の興味により選択する予定である。

後期においては、受講者の希望するテーマについてのレポートを報告してもらう。

財政学

Public finance

学期 前期 開講時間 火 1, 2; 木 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 川地 啓介

授業の概要 財政学の基礎的な理論について講義する。政府が行う経済活動について、理論的な側面から考察する。

学習の目的 財政学の諸理論について理解し、実際の財政に関わる問題を経済学的な視点から考えられるようになることを目的とする。

学習の到達目標 財政学について学び、その理論の構造を理解できるようになることを目標とする。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力

予め履修が望ましい科目 近代経済学

発展科目 ミクロ経済学、マクロ経済学、地方財政論

成績評価方法と基準 中間試験、期末試験またはレポート、提出課題等により総合的に判断する。

オフィスアワー

毎週火曜日12:00~13:00

場所 人文学部5階川地研究室

その他 授業の進行状況により、講義内容を一部変更する場合がある。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス
2. 財政学のための準備
- 3-4. 消費者の行動
- 5-6. 課税と消費者の選択
- 7-8. 企業の行動
- 9-10. 課税と企業の選択
- 11-12. 市場の理論
- 13-14. 租税の帰着

- 15-17. 外部効果
18. 中間試験
- 19-21. 公共財
- 22-23. 社会的決定
- 24-25. 独占と規制
- 26-27. 所得再分配
- 28-29. 社会保険
30. まとめ

財政学演習

Seminar on Public Finance

学期 通年 開講時間 火9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習

担当教員 川地 啓介

授業の概要 中央及び地方政府の役割や問題点について考察する。受講者には、報告を行い、ディスカッションに参加することが求められる。

学習の目的 中央政府や地方政府の抱える諸課題について、経済学の観点から議論することができるようになることを目的とする。

学習の到達目標 財政理論や政府の役割について理解できるようになることを目標とする。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケー

ション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 近代経済学

発展科目 財政学、地方財政論、ミクロ経済学

教科書 必要に応じて演習時に提示する。

成績評価方法と基準 報告、レポート（論文）、討論、授業への参加姿勢等により総合的に評価する。

オフィスアワー

毎週火曜日12:00～13:00

場所 人文学部5階川地研究室

その他 受講者の状況や進行状況により、講義内容を一部変更する場合がある。

授業計画・学習の内容

学習内容

本演習では、経済学の理論的な視点から、中央政府や地方政府を取り巻く経済問題について考察していきたい。具体的な演習の運営内容としては、以下を予定している。

- 1-10.財政学・公共経済学に関するいくつかのテーマについて、理論的な側面から考察
- 11-20.学生論集の執筆
- 21-30.各自の希望テーマについての報告

地方財政論

Public Finance of Local Government

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 川地 啓介

授業の概要 地方の財政構造を経済学的な観点から捉えることで、中央及び地方政府の役割や問題点について理解することを目的とする。

学習の目的 中央政府と地方政府の役割・現状・問題点を理解し、望ましい地方分権のあり方について理論的に考察できるようになることを目的とする。

学習の到達目標 地方財政について学び、財政理論やわが国の財政構造について理解できるようになることを目標とする。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術

識・技術

予め履修が望ましい科目 近代経済学、ミクロ経済学

発展科目 財政学

成績評価方法と基準 期末試験またはレポート、提出課題等により総合的に判断する。

オフィスアワー

毎週火曜日12:00~13:00
場所 人文学部5階川地研究室

その他 授業の進行状況により、講義内容を一部変更する場合がある。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス
2. 市場経済と政府
- 3-4. 国と地方の財政状況
- 5-6. 地方政府の役割

- 7-8. 地方公共支出
- 9-10. 地方税
- 11-12. 政府間関係
- 13-14. 地方政府を取り巻く経済環境
15. まとめ

法律経済学科専用

地域経済論

法律経済学科専用

特殊講義 地域経済論A・B

Regional Economics

Regional Economics

学期 前期 開講時間 火5,6; 木5,6 単位 4 対象 2010年度以降の入学生用 年次 学部(学士課程):

2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle

担当教員 朝日 幸代 (人文学部法律経済学科)

授業の概要

地域における経済現象とその主要な経済理論・モデルについて学ぶ。

経済のグローバル化のもとで、先進工業国の産業は付加価値の高い技術革新のための競争を行っている。その中で地域の産業政策、地域政策は大変重要である。また地方分権の進展で、地域の自立可能な方策や地域間連携によって地域の役割が重視されてきている。地域内、地域間という空間の中でヒト、モノ、カネ、情報の移動、大都市と農村など様々な地域特性を踏まえた形態により地域を把握する必要がある。地域経済に関わる諸活動や地域の構造を理論的な観点から学び、地域の事例も加えながら、地域の経済構造や経済成長、地域経済問題の考え方を学ぶ講義である。

学習の目的

経済学の基礎理論・モデルに基づいた地域経済の実態と地域政策について理解する。地域経済の問題に対する多面的な見方を培い、それに対処するための考えを検討できる能力を養う。さらに、日常での生活でも地域経済に関する疑問を経済学視点で捉える。

学習の到達目標

経済学の基礎理論・モデルに基づいた地域経済の実態と地域政策について理解したことを、説明することができる。そして、地域経済の問題に対する多面的な見

方をすることができることによって、地域の経済問題について、分析するモチベーションを得ることができる。また、地域経済におけるテーマ設定や問題点の指摘をする能力を得る。

本学教育目標との関連

モチベーション、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目

統合科目：社会、経済学C(II)等、専門科目：経済政策、マクロ経済学、ミクロ経済学、環境経済学

発展科目

地域経済分析

教科書

第1回講義中に指示する。

成績評価方法と基準

レポート(20%)、期末試験(50%)、講義中の小テスト(30%)
出席は一定回数に達しないもの、および期末試験を受けない場合は単位を認定しないので注意すること。

オフィスアワー

第1週水曜日、第4週水曜日

12:00~13:00

その他

地域経済論AとB、「地域経済論」は同一時限・同一内容の開講である、また、地域経済論AとBをセット履修のこと

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 イントロダクション 地域とは何か

第2回 ~3回 都市と都市化の概念、都市集積の理論

第4回 都市規模と都市システム

第5回 ~6回 住宅の立地、都市の空間構造

第7回 ~9回 産業の立地、地価と土地政策

第10回 住宅市場の理論と政策

第11回 地域経済の基本構造

第12回~13回 地域経済の成長理論、地域の経済成長と社会資本

第14回 地域間格差と人口移動

第15回 地域間交易と空間経済学

第16回 都市と地域の交通

第17回 社会資本の整備

第18回 公共部門と都市・地域政策

第19回 地方財政と地方分権

第20回 市町村合併と地方分権

第21回 都市集中のメカニズム

第22回 都市集積の経済性

第23回 経済立地の理論第15回 地域の産業構造

第24回 地域経済循環と産業連関

第25回 産業連関表の考え方

第26回 産業間のつながり

第27回 地域と観光

第28回 地域の持続的発展と環境問題

第29回 四日市公害と地域政策

第30回 まとめ総括

地域経済論演習

Seminar on Regional Economics

学期 通年 開講時間 木9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 朝日 幸代 (人文学部法律経済学科)

授業の概要

地域経済に関する現状と地域経済政策の基礎となる理論を理解し、経済や環境や観光に対する数量分析を行える能力を養うための講義とする。各地で行われているイベントの経済波及効果の分析や観光および経済における環境問題についても逐次取り扱う。また、学生の皆さんが興味を持つテーマにあわせて、レポート作成やプレゼンテーション技術のサポートを行う他、学生の皆さんが地域経済研究するために必要な体験をしていただける場の提供を検討し、進めていく予定である。

学習の目的

経済発展や観光や環境の地域経済に関する知識を増やすことによって、現在直面する多様な問題を解決するために必要な考え方・そのための能力を養うことである。

学習の到達目標 地域経済に関する現状と地域経済政策の基礎となる理論を理解し、数量分析を行える。分析とそれにあわせたレポート作成を行う知識を得る。

本学教育目標との関連 共感, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

講義項目とそれぞれの講義方法は以下通りである。

講義項目は4つに分けられる。

3年生ゼミは全員が関心あるテーマに対するレポート報告を行う。

研究目的に合わせた文献の輪読や実習の講義を状況にあわせて行う。

1. 学生が関心のあるテーマに対するレポート報告

学生はレポートを作成し、講義中に発表す

予め履修が望ましい科目 計量経済学、統計学、地域経済論、経済政策、マクロ経済学、ミクロ経済学、環境経済学

教科書 主要テキストは講義中に指示する。

成績評価方法と基準 出席の状況、講義への積極的な参加、研究報告の内容やレポート内容等について総合的に評価する。

オフィスアワー 第1水曜日と第4水曜日12:00～13:00

その他

経済に関する数多くの授業を積極的に履修して下さい。特に関連授業科目の履修はゼミで学ぶ内容をより充実することにつながるため、ぜひ履修をお願いしたいと思います。また、ゼミは毎週授業に参加することによって学べる内容も多いため必ず出席をして下さい。

地域経済論のゼミは、学生の皆さんが主役です。学生同士の協力、学ぶことで刺激し合える仲間、ともに学ぶことを共有できることの楽しさを味わえる、そんなゼミに参加したい方を歓迎します! この時、そして同じ場を共有できる出会いを大切に、経済を学ぶ楽しさを学生の皆さんに提供できるように、教員として出来る限りのサポートをする予定です。

る。

教員はレポート作成に必要な文献、コンピューター操作に対するアドバイスをするとともに、

パワーポイントを利用したプレゼンテーション方法も講義中に提供する。

2. 地域経済に関する文献の輪読

地域経済理論や観光および環境経済の文献を読み、その内容についてディスカッションを行う。

3. 計量経済手法を学ぶための実習授業

エクセルや計量経済分析用アプリケーションを用いた計量経済分析および産業連関分析を学ぶ

ために、実習する（各自ノートパソコンを持参）。

自らがデータ分析を経験し、分析結果としてとりまとめる。

4. 地域経済を学ぶことのできる機関への訪問研修

教員と学生が地域への訪問を行うことを相

談した上で、最終的に本研修の有無を決めるが、

可能であれば集客に成功している観光地域や学生が興味を持っている地域への訪問研修を行う予定である。

ただし、3年生は後期に就職活動が始まることもあり、夏休みまでに研修が実施可能であれば

行うこととする。

地域経済分析

Regional Economic Analysis

学期 後期 開講時間 木 3, 4 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

担当教員 朝日 幸代 (人文学部法律経済学科)

授業の概要

この講義では、地域経済データを用いて、計量経済学的方法で分析する方法を解説し、地域経済の現状把握が可能になる分析事例や地域経済データや地域環境関連データを統計学的に処理することをまなぶものである。

地域経済データや地域産業データ、地域の環境関連データについては、テレビや新聞など数多くのメディアに取り上げられているデータを用いる他、地域産業連関表を用いた分析も行う。

学習の目的 受講生が独自に地域の経済および環境、産業分析を行え、地域経済について、自ら研究を行えることになることを第1の目的とする。

学習の到達目標

地域経済データを自ら用意し、統計学、計量経済学的手法を活用することによって分析することを理解する。様々な地域問題について、データから考える。地域経済の現状を理解し、議論するための分析手法の習得を目指す。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 地域経済データの特性と種類
- 第2回 地域特性の分析
- 第3回 地域比較 記述統計 (1)
- 第4回 地域比較 記述統計 (2)
- 第5回 地域の所得格差の分析
- 第6回 地域における生産関数
- 第7回 地域における人口の予測

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力

受講要件 EXCEL操作やインターネットの利用、PC上でデータおよび文章入力などができる学生を対象とする。

予め履修が望ましい科目 計量経済学

教科書 テキストは使用せず、課題のファイルを提供する。

成績評価方法と基準

2回の課題のレポート、出席状況により総合評価する。

出席しない学生や講義中に課す課題を行なわない学生は評価の対象としない。

オフィスアワー 第1週水曜日、第4週水曜日の12:00~13:00

その他 実習形式の講義のため、欠席をすると講義内容が理解できなくなります。必ず出席してください。

第8回 地域調査の概要

第9回 調査結果単純集計とクロス集計

第10回 地域工業統計利用、特化係数

第11回 地域産業連関分析の概要

第12回 地域産業連関表の利用方法(1)

第13回 地域産業連関表の利用方法(2)

第14回 産業間の関係性を見出す

第15回 その他 地域経済の波及効果分析

産業経済論総論

学期 前期 開講時間 月7,8; 金1,2 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 豊福裕二 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 日本の産業構造及び日本を代表する産業について、その歴史と現状を理解するのが本科目の目的である。講義では、日本の代表的産業をいくつか取り上げ、その産業特性と、歴史的な展開過程、及び現状と課題について考察する。

学習の目的 日本の産業構造が形作られてきた歴史的な発展過程に関する知識に基づき、今日の日本の産業構造の特性を理解するとともに、日本の産業構造全体及び各産業の抱える課題を分析することができる。

学習の到達目標 日本の産業構造が形作られてきた歴史的な発展過程に関する知識に基づき、今日の日本の産業構造の特性を理解することができるようになる。

授業計画・学習の内容

学習内容

講義は、①日本産業の発展過程を概観するとともに、産業構造分析を行ううえでのキーワードを理解する総論、②代表的産業の発展過程と現状について考察する各論、③それらを受けて今日の産業構造についての分析を行う総論、の3部構成で進めていく。各回の予定は以下の通り。

第1回 イントロダクション

第2～8回 総論（戦前～バブル崩壊・現況まで）

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,幅広い教養,専門知識・技術,論理的思考力,感じる力,考える力,コミュニケーション力を総合した力

受講要件 とくにない。

発展科目 産業経済論各論

教科書 特に用いない。

成績評価方法と基準

定期試験および講義中に行う小テストの成績によって評価する。

(小テスト30%、期末試験70%、計100%)

オフィスアワー 毎週金曜日3～4限、場所：豊福研究室

第9・10回 各論：鉄鋼業

第11・12回 化学工業

第13・14回 農業

第15～18回 エレクトロニクス産業

第19～21回 自動車産業

第22・23回 小売業

第24・25回 サービス業

第26・27回 総論：日本の中小企業

第28・29回 総論：日本経済のグローバル化

第30・31回 総論：現代日本の産業構造

第32回 定期試験

産業経済論総論演習

学期 通年 開講時間 金 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 豊福裕二 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 現代の産業と生活・居住の諸問題を、具体的な地域を対象として考究するのが本演習の目的である。そのため、演習では、三重県内の特定の市町をフィールドに設定し、アンケート調査やヒアリング調査等のフィールドワークを行うとともに、調査結果を報告書やプレゼンテーションにまとめる。

学習の目的 地域の現実の中から調査・研究テーマを設定し、その考究に必要なヒアリング調査、アンケート調査等のフィールドワークを自ら設計できるとともに、調査結果をわかりやすくプレゼンテーションできるようにする。

学習の到達目標 地域の分析に必要な文献、資料の収集方法や、ヒアリング調査、アンケート調査等のフィールドワークの手法を習得するとともに、統計データやアンケート調

査結果を分析し、その結果をプレゼンテーションできるようにする。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 産業経済論総論、産業経済論各論

教科書 演習内で適宜指定する。

成績評価方法と基準 演習への出席と報告や討論への取り組みによって総合的に評価する。

オフィスアワー 毎週金曜日10:30～12:00 場所: 豊福研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

演習の年間スケジュールの概要は以下の通りである。

まず前期中は、産業経済に関する入門的なテキストを読み、基本的な分析視角や方法について学んだ上で、次に三重県内の特定の市町村を対象として、当該地域の産業や生活・居住の諸問題について、資料・文献等を用いてサーベイし、具体的な調査テーマを確定す

る。その後、夏期休業等を利用しながら現地でのヒアリング調査等を実施し、年内にその成果を共同論文にまとめる。年明け以降は、ゼミ生各自の卒論テーマを決め、その研究報告の場としてゼミを活用したい。

なお、通常のゼミとは別に、ゼミ主催の工場見学や調査合宿、4年生との合同合宿等を行う予定である。

産業経済論各論

学期 後期 開講時間 月7,8 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 豊福裕二 (人文学部法律経済学科)

授業の概要

住宅産業という1つの産業に焦点をあて、詳しく考察することで、住宅という商品の供給に関わる諸問題（住宅問題）を経済学及び産業論的視点から捉えることの意義を理解する。なお、本科目は産業経済論総論の発展科目である。

学習の目的 日本における住宅問題の背景を、住宅の商品特性と住宅産業の産業特性およびその日本的特徴といった経済学及び産業論的視点から理解し、同様の視点から住宅問題の解決策と政策的諸課題を導出することができるようになる。

学習の到達目標 住宅の商品特性と住宅産業の産業特性およびその日本的特徴を理解するとともに、それらが住宅に関する諸問題と住

宅政策のあり方に関わっているかを理解することができる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 産業経済論総論

教科書 特に用いない。

成績評価方法と基準

レポート及び定期試験の結果によって総合的に評価する。

(レポート30%、期末試験70%、計100%)

オフィスアワー 毎週金曜日3～4時限、場所：豊福研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

各回の予定は以下の通り。

第1回 イントロダクション

第2～4回 日本の住宅の歩み

第5～8回 住宅産業（戸建住宅業界）

第9～11回 住宅産業（マンション業界）

第12・13回 住宅金融（サブプライムローン問題）

第14回 住宅市場の国際比較

第15回 住宅の公共性と住宅政策の課題

第16回 定期試験

計量経済学

Econometrics

学期 前期 開講時間 火7,8; 金3,4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 嶋恵一

授業の概要 計量経済学は現実のデータを用いて経済の仕組みを分析し、経済理論が与える仮説の正しさを検証する学問です。計量経済学が果たすべき役割に光を当て、計量経済学への入門を図ります。

学習の目的 統計データを用いた経済分析の理論を学び、活用できるようになることが目的です。

学習の到達目標 経済モデルに含まれる未知の係数をどのように推定するか、またその推定結果をどのように解釈すればよいかについて理解できるようになることを目標とします。特に、回帰分析の習熟を目指します。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力

受講要件 ありません。

予め履修が望ましい科目

共通教育：統計学入門、経済学

専門教育：近代経済学

発展科目 専門教育：統計学、経済統計、地域経済分析

教科書 『入門計量経済学（Excelによる実証分析へのガイド）』山本拓・竹内明香、新世社

成績評価方法と基準 講義中に課題を複数回出します。課題を採点し、その合計点によって単位を評価します。

オフィスアワー 火曜日、金曜日の講義後、教室で質問を受けます。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 計量経済学とは（教科書、第1章）
2. データの整理：平均、分散（第2章）
3. 相関係数、ヒストグラム（第2章）
4. 最小二乗法の考え方（第3章）
5. 最小二乗推定値の求め方（第3章）
6. 回帰直線の理論値と残差（第3章）
7. 実証例：スターバックスラテ指数（第3章）
8. 統計的推論入門：標準化と偏差値（第4章）
9. 統計的推論入門：正規分布（第4章）
10. 仮説検定（第4章）
11. t分布による検定（第4章）
12. 実証分析の進め方（第4章）
13. BLUE（第4章）
14. 実証例：株価分析（第4章）
15. その他の実証例（資料）
16. 多重回帰分析（第5章）
17. 例：消費関数の推定（第5章）
18. 決定係数の修正（第5章）
19. 実証例：株価と経済変数の関係他（第5章）
20. 価格指数（第6章）
21. デフレーター（第6章）
22. 多重回帰分析の拡張：フィリップス曲線の推定（第7章）
23. ダミー変数（第7章）
24. ラグ変数（第7章）
25. F検定：係数をまとめてテストする（第8章）
26. 回帰係数に制約を課す（第8章）
27. 経済の構造変化（第8章）
28. 撓乱項の系列相関（第9章）
29. 撓乱項の不均一分散（第10章）
30. 加重最小二乗法（第10章）

計量経済学演習

Econometrics Seminar

学期 通年 開講時間 月7,8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習

担当教員 嶋恵一

授業の概要 計量経済学の教科書を精読し、数学で書かれた計量経済学の理論を研究する。

学習の目的 計量経済学の基本的な知識と方法を習得し、日本のマクロ経済動態、企業や個人のミクロ的行動がどのような特徴を持つのかを知る。

学習の到達目標

数学による経済理論、数理統計学に基づき経済データを客観的に分析する手法を習得し、日本経済の現状や市場行動の特性を説明できるようにすることを旨とする。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話

授業計画・学習の内容

学習内容

計量経済学の教科書を一年かけて読み、各章の報告と質疑応答を経て正確な理解に達することを旨とする。その間、具体的な経済データを選んで計量経済分析を行い、教科書から学

力

受講要件 定めない。

教科書

以下より抜粋して精読する：

基礎コース・計量経済学、森棟公夫、新世社、2005年

Introductory Econometrics: A Modern Approach, 5th, Jeffrey M.Wooldridge, Cengage Learning, 2012.

成績評価方法と基準 演習での報告40%と提出資料30%、課題分析30%を合算評価する。

オフィスアワー Walk-in に関しては研究室で随時行う。電子メールによる予約も可能。

んだ手法を随時試してゆく。

TSPなどの計量経済分析ソフトウェアを使い、日本のマクロ経済成長や、消費者、企業のミクロ的行動を実際の経済統計データを用いて研究する。

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 2 対象 2013年度以降入学生用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選/必 選/必 授業の方法 講義
担当教員 渡辺茂

授業の概要 伝統的経済政策と公共選択的経済政策について、さらにはポリシー・ミックス、裁量的経済政策などについても説明する。また、重要と思われる政策的諸課題（環境、医療、教育、労働、地下経済）などについても言及する。

学習の目的 政策的インプリケーションを意識しながら思考する能力を養うことを目的とする。その際、法と経済学の視点からも考察できる能力を養うことも目的とする。

学習の到達目標 重要と思われる政策的諸課題について、学問的に自ら考えを持ち、クリエイティブに行動できる能力を養うことを目的とする。また、何が重要な政策課題であるのかを自らが見つけ出すのに必要な感性を養

うことも目的とする。

本学教育目標との関連 感性、モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 特になし 授業で講義資料を配布する

成績評価方法と基準 期末テスト70%、平常点30%で評価する。

その他 特になし

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1 はじめに
- 2 伝統的経済政策について
- 3 公共選択的経済政策について
- 4 ポリシー・ミックスについて
- 5 裁量的経済政策とビルトイン・スタビライザーについて
- 6 効率と公正をめぐる政策について
- 7 法と経済（地下経済）をめぐる政策について

- 8 環境をめぐる政策について
- 9 医療をめぐる政策について
- 10 教育をめぐる政策について
- 11 国および地方の労働をめぐる政策について
- 12 観光をめぐる政策について
- 13 エネルギーをめぐる政策について
- 14 文化とNPOをめぐる政策について
- 15 まとめ

外書講読B

Reading B (Law and Politics)

学期 前期 **開講時間** 月 1, 2 **単位** 2 **対象** 法律経済学科専用 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 高橋秀治 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 社会科学についての、欧米の基本的な書籍を講読する。具体的には、現在の資本主義や経済学の基礎を築いたアダム・スミス (1723-1790)の著書を取り上げる。彼の著書としては『国富論』が有名であるが、授業では、もう一つの主著『道徳感情論』を取り上げ、同書の2010年版への序文として、ノーベル経済学賞 (1998年)を受賞したアマールティア・センが書いた文章を中心に、講読する。

学習の目的 英語文献の読解力を身につけ、英語の専門用語に慣れ親しむ。

学習の到達目標 英文を正確に理解する力を養い、社会科学的な英語についての知識を得る。

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回～第14回 文献の講読

ン, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書

さし当たり、Adam Smith, "The Theory of Moral Sentiments" (Penguin Classics, 2010)を取り上げる予定です。詳細は、第1回授業で受講者と相談の上決定し、コピーを配付します。

辞書については特に指定はありません。

成績評価方法と基準 予習50%、授業への参加50%

オフィスアワー 毎週木曜日 13:00～14:30、高橋研究室

第15回 まとめ

(ただし、内容は暫定的なものであり、変更することがあり得る。)

特殊講義 [就職支援講座]

Course for Employment Support

学期 後期 開講時間 水 5, 6, 7, 8 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 代表 森久綱 (人文学部)

授業の概要 就職活動に直接必要な情報に加えて、自らのライフプランを考えていくために必要となる知識の習得を目指す。

学習の目的 就職活動を始める前に役立つ情報に接し、就職後に必要な知識を得る。

学習の到達目標 現代の産業構造や企業・会社の位置関係を理解し、あわせて必要最低限の法律や経済、および社会的知識を身につける。

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,幅広い教養,専門知識・技術,情報受発信力,討論・対話力,社会人としての態度,感じる力,考える力,コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 特に指定しない(法律経済学科の関連科目)

教科書 講義中に指示

成績評価方法と基準 出席(40%)、レポート(20%×3回)

オフィスアワー 講義担当教員の専門科目のオフィスアワーの時間帯

その他 時間割・時限は水曜日5~8限であるが、変則開講(第2、第5水曜日には講義なし)であり、講義内・掲示等で開講スケジュールを案内するので、開講日・時限に注意すること。本講義はすべてのコース、すべてのプログラムに属します。

授業計画・学習の内容

学習内容

学習内容

講義は隔週開講2コマ連続を予定している。

開講スケジュールについては第1回講義日に提示する。また第1回開講日については掲示にて案内する。

民間企業だけでなく公務員志望者も履修することが望ましい。

第1回 科目のねらいと就職活動の状況&キャリア形成について

第2回 現代社会総論・現代日本の企業社会および地域社会の概況

第3回 現代社会と私たちの進路・卒業生からみた現代社会

第4回 企業社会の現状と人事政策

第5回 企業とは何か・労働とは何か・卒業生からみた現代社会

第6回 企業研究その1

第7回 企業研究その2

第8回 企業研究その3

第9回 企業研究その4

第10回 現代企業社会と法

第11回 会社の犯罪と企業内の犯罪

第12回 企業社会の現状と福利厚生制度

第13回 男女共同参画社会・働く女性の現状(結婚子育て)

第14回 2015年春の就職戦線と経済動向分析・現4年生からのメッセージ

第15回 本講義のまとめ・現4年生からのメッセージ

行政学

Public Administration

学期 前期 開講時間 火 5, 6; 木 5, 6 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 樹神 成

授業の概要 現代社会における行政の意義と役割を考える。

学習の目的 法律・政治・経済・経営の諸分野を広く学び、学際的視点で問題を探求できる。

学習の到達目標 現代行政の課題と問題点について考えることができるようになる。とくに行政の個々の制度を記述し、それらの実態が分析ができるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 専門知識・技術,

論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 社会人としての態度

予め履修が望ましい科目 政治学原論、憲法

発展科目 政策過程論、行政法、地方自治論

教科書 村松岐夫『行政学教科書: 現代行政の政治分析. 第2版』

成績評価方法と基準 レポート (30パーセント) および期末試験 (70パーセント)

オフィスアワー 火曜日7・8限

授業計画・学習の内容

学習内容

1.日本の行政官僚制

a.近代化と行政官僚制

a-1.政官関係

a-2.地方自治

b.戦後日本の行政官僚制.

b-1.官吏制度から現代公務員制度

b-2.現代日本の官僚制の作動

b-3.社会変動と行政官僚制

b-4.政官関係と政治主導論

b-5.地方分権改革

c.日本における行政官僚制の統制と行政責任

2.比較のなかの日本の行政官僚制

a.近代化と開発独裁のなかの行政官僚制

b.グローバル化のなかの行政官僚制

c.地方自治改革の諸類型

d.行政学説史と比較行政学

商法総則

Commercial Law

学期 前期 **開講時間** 火 7, 8 **単位** 2 **対象** 法律経済学科専用 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 名島利喜

授業の概要 商法を企業に関する法とする立場から、商法総則に規定されている諸制度について概説を行なう。

学習の目的 商法を、民法とは別個・独立の、企業に特有な法システムとして理解できるようにする。

学習の到達目標 商法上の法規制の存在・内容を正確に理解できるようになる。

本学教育目標との関連 共感, 専門知識・技術, 論理的思考力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 民法総則、債権総論

発展科目 会社法、商取引法

教科書 落合誠一・大塚龍児・山下友信『商法Ⅰ—総則・商行為(第5版)』(有斐閣、2013年)

成績評価方法と基準 小テスト20%、期末試験70%、平常点10%、計100%。

オフィスアワー 毎週火曜日16:20~17:20、場所 名島研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

講義:

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 商法の形成
- 第3回 企業および企業法
- 第4回 商法の特質
- 第5回 商法の法源
- 第6回 商人および商行為
- 第7回 商号

- 第8回 名板貸し
- 第9回 商業帳簿
- 第10回 商業使用人
- 第11回 代理商
- 第12回 商業登記制度
- 第13回 商業登記の効力
- 第14回 営業譲渡
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末試験

経済思想史

History of Economic Thought

学期 後期 開講時間 月 7, 8; 水 1, 2 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 深井 英喜 (人文学部)

授業の概要 この講義では、経済学の歴史において画期的な発展や変化があったポイントを取り上げ、その時代に社会が直面していた諸問題に経済学者がどのような理論的回答を生み出して行ったかを見ていく。

学習の目的 経済学は、時代が直面する社会経済問題に答えようとする中で発展してきた。この講義では、その歴史を講義する。経済学の歴史の中には、現在の政策論争で行われている論点をそのまま見ることができ、現在の現経済学を学ぶ上でも、論点の整理をする機会となり、有益である。

学習の到達目標

この講義の目標は、経済学の変遷の過程を理解することによって、一見抽象的で無味乾燥なものに見られがちな、現代の経済理論のもつ意義や限界について理解を深めることにある。また、それは同時に、近代資本主義社会の発

展過程や、そこに暮らす私たちの基本的な社会認識の特徴が形成される過程を理解することにつながる。

予め履修が望ましい科目

経済原論ないしは近代経済学の履修が望ましい
政治思想史や法哲学の履修も望ましい

発展科目 経済学および経営学のもろもろの科目

教科書 特になし。講義は、レジュメを配布して進める予定です。

成績評価方法と基準 期末試験 60%、中間レポート 40%、受講態度 +10点

オフィスアワー 初回の講義で示します。

その他 この講義は「隔年開講講義」です。来年度は開講されませんので、受講計画を立てる際に注意してください。

授業計画・学習の内容

学習内容

この講義で取り上げるトピックスは次のとおり。

- ① アダム・スミスの時代と経済学
- ② リカードとマルサスの時代と経済学
- ③ マルクスの時代と経済学
- ④ 限界革命の経済学
- ⑤ ケインズの時代と経済学

⑥ 現代の経済学の潮流-1 (新古典派経済学)

⑦ 現代の経済学の潮流-2 (制度経済学)

この講義では、特に貧困問題や福祉について、それぞれの経済学者がどのような考え方をしているのかに焦点を当てる。それによって、資本主義社会において福祉に対する考え方がどのように形成され変遷してきたかを考える。

環境法

Environmental Law

学期 後期 開講時間 月3,4 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 岩崎 恭彦 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 環境行政との関連に重点を置きつつ、環境保全のための法と政策について学ぶ。

学習の目的 環境にかかわる法理論や法制度がどのように形成され、また発展しつつあるかを理解する。

学習の到達目標

・環境行政の法理論および法制度、主要裁判例を体系的に理解し、系統立てて説明できるようになる。

・わが国の環境法制度の全体像と特徴を把握するとともに、あるべき法理と制度を検討するための前提として、現行法制度の機能の限界を見極められるようになる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、

コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書 高橋信隆編著『環境法講義』（信山社、2012年）

成績評価方法と基準 筆記試験をもとに評価する。

オフィスアワー

月曜日13:00-14:30

なお、その他の時間においても質問等は常時受け付けるので、研究室を訪ねてほしい。

その他 講義に際して、「参照法令集」および「資料集」を配付し、随時参照しつつ講義を進める。

授業計画・学習の内容

学習内容

環境問題に対しては、かねてより、それに対応するための政策の整備が進められており、さまざまな法的手法を用いることによって、政策目標としての環境保全の実現が試みられている。今日の環境問題においては、その領域が広がりを増すとともに複雑化しており、それに伴って環境問題に対する法的対応のあり方も著しい展開を遂げているが、ここでは、国における各種の立法措置が果たす役割の重要性もさることながら、自治体による先導的取組みと、裁判を通じた権利救済とが、大きく貢献していることも看過することができない。

そこで、この講義では、環境行政との関連に重点を置きつつ、環境にかかわる基本的な法理論や法制度、主要裁判例などについて学んでいくこととする。

[授業計画]

おおむね次の項目について取り扱う予定である。

1. 「環境行政の法理と制度」総説
2. 「公害対策」から「環境管理」へ
3. 公害規制の法理と制度
4. 地方分権時代の環境法
5. 廃棄物・リサイクルの法と行政
6. 自然保護の法と行政

特殊講義〔法制史Ⅰ〕

Legal History I

学期 前期 開講時間 水 5, 6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択 授業の方法 講義

担当教員 久禮旦雄

授業の概要 日本古代における法制度の歴史を概観する。日本古代国家は在来の社会規範の上に大陸から律令法を導入し、独自の法体系を構築していた。歴史の展開における法典と社会との緊張関係を見ていくことで、日本古代社会において、また現在社会に生きる我々にとって「法」がいかなるもので、どのような役割を果たすかを考える一助としたい。

学習の目的 日本古代社会における「法」の位置づけとその果たした役割を理解する。

学習の到達目標 単なる制度としての「法」の歴史ではなく、社会・政治との関係の中で日本法史を理解し、その上で今日の「法のあり方」について考えることが出来る。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報

受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。ただし、日本史の基本的な事項について、大学受験レベルの知識を習得していることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 日本政治史、政治思想史、法哲学

教科書 なし。毎回配付するレジュメにもとづいて授業を行う。

成績評価方法と基準 レポート試験による。

オフィスアワー 講義時間終了後の休憩時間（講義時間以外は高橋秀治教授に相談されたい）。

その他

この科目は、法政コース生活法システム履修プログラムに配置されています。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 導論—法制史を学ぶ意義
- 第2回 中国史料にみる倭国の法と規範—邪馬台国と倭の五王
- 第3回 祓と国造—日本在来の規範と地方豪族の法
- 第4回 盟神探湯と氏姓制度—大和朝廷の支配
- 第5回 憲法十七条と推古朝の政治
- 第6回 大化改新の社会的意義
- 第7回 中国律令の歴史と東アジア世界
- 第8回 日本律令の成立 (1) -近江令と飛鳥浄御

原令

- 第9回 日本律令の成立 (2) -大宝律令と養老律令
- 第10回 日本律令の体系と特質 (1) -律の体系
- 第11回 日本律令の体系と特質 (2) -令の特質
- 第12回 律令制の展開 - 注釈書と格式
- 第13回 延喜式と王朝国家
- 第14回 中世法への道—公家法・武家法・本所法
- 第15回 まとめ—古代法とは何か

マーケティング論

Marketing

学期 後期 開講時間 金 1, 2, 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 中西大輔 (非常勤)

授業の概要

マーケティングとは、商品の価値実現にかかわる体系的な対市場活動であり、一連の技法と思想体系から成っています。そこで、本講義では、特に寡占製造企業が、その価値実現のために、どのようなマーケティングを展開しているのかということについて、マーケティング論の基礎というべき4P (Product, Price, Place, Promotion) を中心に学びます。また、リレーションシップ・マーケティングやブランド・マーケティングなど、より現代的なマーケティング戦略についても概観し、そこに残された課題を検討します。

学習の目的

- ・マーケティングの思想体系について理解する。
- ・マーケティングの一連の技法について理解する。
- ・現代的なマーケティング戦略について検討し、マーケティングに固有の社会的問題を把握する。
- ・マーケティングを通して社会を見る眼を養い、見出された問題の解決に向けて主体的に行動できる力を培う。

学習の到達目標

まず、マーケティングが、いかにして、なぜ、何によって成立したかを理解します。次に、マーケティングの一連の技法と思想体系を理解します。そして、リレーションシッ

プ・マーケティングやブランド・マーケティングなど現代的な問題について検討しながら、マーケティングは消費者をより重視して展開されなければならないということについての理解を深めます。消費者重視のマーケティング・センスを培うことが、本講義の到達目標です。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

新聞や雑誌、経済的な特集番組などから、講義内容に関連する情報を積極的に収集して下さい。

予め履修が望ましい科目 経営学総論

発展科目 サプライチェーン・マネジメント

教科書

レジュメを配布して講義を行うため特に指定しませんが、下記参考書を適宜活用します。

成績評価方法と基準

期末試験70%、レポート30%

オフィスアワー

授業の前後に質問を受け付けます。

その他 2007年度以前入学生については「マーケティング」として開講。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回～2回 マーケティングの概念
- 第3回～4回 消費者行動とマーケティング・リサーチ
- 第5回～6回 STP+C (セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、コンセプト)
- 第7回～9回 製品政策 (Product)
- 第10回～12回 価格政策 (Price)

- 第13回～15回 流通チャネル政策 (Place)
- 第16回～18回 販売促進政策 (Promotion)
- 第19回～20回 国際マーケティング
- 第21回～22回 街づくりのマーケティング
- 第23回～24回 マーケティングの神話
- 第25回～26回 リレーションシップ・マーケティング
- 第27回～28回 ブランド・マーケティング
- 第29回～30回 まとめ

少年法

juvenile justice

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 伊藤 睦 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 この授業では、まず少年法の理念と法の目的を理解してもらった上で、少年司法制度を概観し、その現状と課題について具体的に検討していきます。

学習の目的 少年司法を取り巻く現状について正しく理解し、少年司法が直面している本当の問題とは何か、解決策は何か、ということをきちんと認識して考える力が身に付く。

学習の到達目標

少年法についての基本的知識を獲得する。
少年非行に関する議論の意味を理解し、報道等の内容を批判的に検討できるようになる。

授業計画・学習の内容

学習内容

この授業では、次のような順序で話を進めます。各テーマについて、1~2回の授業時間を割り当てます。

- 1 少年司法制度の概観と、少年司法制度を取り巻く重要課題
- 2 少年事件の捜査
- 3 少年事件の調査

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法

発展科目 刑事政策

教科書 教科書は開講時に指定する

成績評価方法と基準 期末試験100%

オフィスアワー 毎週火曜日3~4時限（後期のみ）、伊藤研究室（人文学部棟4階）

- 4 少年事件の審判
- 5 少年事件の処遇
- 6 少年の適正手続
- 7 少年事件と付添人
- 8 少年に対する刑事処分と刑事手続
- 9 少年事件報道
- 10 少年事件における被害者

基礎総合科目A（法政コース）

Introduction of Law and Politics

学期 後期 開講時間 木 1, 2 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 1年次

授業の方法 講義

担当教員 人文学部法律経済学科法政コース教員

授業の概要 1年生後期から始まる書く教員が担当する専門科目講義の内容に関するテーマを講義する。

学習の目的 現代社会には解決を迫られている様々な問題が存在する。社会科学はこれらの問題にどう取り組むかを明らかにし、社会科学への入門とする。

学習の到達目標 社会科学、とりわけ、政治学と法律学に関する基礎知識を学ぶ。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニ

ケーション力を総合した力

教科書 各担当教員から、授業中に指示する

成績評価方法と基準 次の方法で総合的に評価する。1：出席。2：定期試験（統治および生活法の2つのグループから各1つの講義に関する問題をあらかじめ提示する予定）。なお、定期試験の評価は講義担当教員が行う。

オフィスアワー

代表：藤本真理（後期木曜3-4時限）

その他の教員についてはその指定する時間帯。

その他 法律経済学科の必修科目

授業計画・学習の内容

学習内容

詳細は最初の講義時に説明を行う。

法哲学特論

Topics on Legal Philosophy

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 高橋秀治 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 近代社会を形作った17世紀イギリスおよび18世紀フランスの社会契約論について、その代表的な論者であるトマス・ホッブズ (Thomas Hobbes, 1588～1679)、ジョン・ロック (John Locke, 1632～1704)、ジャン＝ジャック・ルソー (Jean-Jacques Rousseau, 1712～78) の著作からの抜粋 (邦訳) を取り上げて、近代自然法論、社会契約論の内容について検討する。

学習の目的 ホッブズ、ロック、ルソーの代表的な著作 (邦訳・部分) に触れ、近代自然法論、社会契約論の内容を理解する。

学習の到達目標 社会契約論の内容について理解を深めながら、近代社会を形作っている所有権理論、近代立憲主義思想、国民主権論などについて学び、現代社会の諸問題と関連づけて考察することができる。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 17世紀イギリスの社会状況
- 第3回 ホッブズの自然状態論
- 第4回 ホッブズの自然法論、
- 第5回 ホッブズの社会契約論
- 第6回 ホッブズの国家論
- 第7回 ロックの自然状態論
- 第8回 ロックの所有権論
- 第9回 ロックの社会契約論

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 法政コースの諸科目

教科書 授業で使用する文献をmoodleにより配付するので、各自でダウンロードして、予習した上で、授業に持参すること。(詳細は、授業で説明します。)

成績評価方法と基準 テスト55%、授業への参加30%、moodleへの書き込み15%

オフィスアワー 毎週月曜日10:30～11:30、高橋研究室

- 第10回 ロックの抵抗権論・寛容論
- 第11回 ルソーの生涯と自然状態論 (その1)
- 第12回 ルソーの自然状態論 (その2)
- 第13回 ルソーの社会契約論
- 第14回 ルソーの一般意志論・国民主権論
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

(ただし、内容は暫定的なものであり、変更することがあり得る。)

民事訴訟法

Civil Procedure

学期 前期 開講時間 金 5, 6, 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 田中 誠人

授業の概要

私人の社会生活における権利・義務関係は、民法・商法などのいわゆる実体法によって規律されている。そして、そのような権利・義務関係が全うされない場合には、民事紛争が生ずることとなる。

民事紛争は、私人間の紛争であることから、当事者同士の話し合いによって解決できるものではあるが、解決が見出せない場合には、自力救済（紛争解決のための実力行使）を禁じられた当事者の救済のため、あるいは未解決紛争の堆積がもたらすであろう社会的混乱の回避のためと、その目的には諸説あるが、ともかく、国家がその解決を引き受けることが必要となる。民事訴訟法は、そのような、国家による紛争解決の手続を定めた法律（手続法）であり、実体法上の権利を実現するにあたって、我々の社会生活と間接的に深く関わるものである。

本講義は、この民事訴訟法を概説するものであり、講義は手続の流れに沿って行う。

学習の目的 民事訴訟法とはどのような法律なのかを中心として、民事紛争がどのような手続により解決へと導かれるのかを理解する。

学習の到達目標 大学で法学教育を受けたと言える法律知識獲得の一環として、社会生活の中で紛争が生じた場合にどのような対応がありうるか、どのような流れで紛争が解決されるかについて学習する。

受講要件 講義を聴く意欲が高く、私語をしないこと。

予め履修が望ましい科目 民法・商法において規定されている権利が侵害され紛争が生じた時に問題となるのが民事訴訟（法）なので、これらの科目を予め、もしくは並行して履修することが望ましい。

発展科目 民事執行法・倒産法・その他、民事系科目

教科書 レジュメを配布する

成績評価方法と基準 試験による（100%）

オフィスアワー 非常勤のため講義の前後

その他

※六法を携行すること。

※2コマ連続の授業であるため、履修の際には注意すること。

授業計画・学習の内容

学習内容

序回ガイダンス・授業方針

第1回民事訴訟法とその周辺

第2回民事訴訟制度の目的と理念

第3回民事訴訟手続のアウトライン

第4回受訴裁判所

第5回訴え

第6・7回当事者

第8・9回訴訟物

第10～12回訴訟の審理

第13回弁論主義

第14回訴訟行為

第15～17回証拠

第18・19回判決効

第20回当事者による訴訟の終了

第21回複数請求訴訟

第22～24回多数当事者訴訟

第25回上訴・再審

第26回略式訴訟手続

※レジュメの項目が1回に収まらない回もあり、テストの予告解説なども含め、全30回を予定している。

基礎総合科目B（現代経済コース）

Introduction to Economics and Management

学期 後期 開講時間 金 1, 2 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 1年次

授業の方法 講義

担当教員 現代経済コース教員

授業の概要 現代経済コースに所属する教員が、それぞれの専門分野から現在経済社会の諸問題について解説していく。

学習の目的 法律経済学科で経済学や経営学を学ぶことの意味を考える。

学習の到達目標 経済学や経営学のそれぞれの分野に、どのような課題や論点があるかを知ることによって、1年次後期から始まる専門科目へと進んでいく上での、問題意識や課題意識を形成する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 法律経済学科の必修科目である。

授業計画・学習の内容

学習内容 詳細は最初の講義時に説明を行う。

予め履修が望ましい科目 特にないが、同時期に開講される専門必須科目である近代経済学や経営学総論を受講することが望ましい。

発展科目 経済学・経営学科目全般

教科書 なし

成績評価方法と基準

成績評価方法と基準 次の方法で総合的に評価する。

1: 出席。

2: 定期試験（各回を担当する教員からその講義に関する問題を予め呈示する予定、定期試験の評価もその講義の担当教員が行う）。

オフィスアワー

各回の講義の内容については、それぞれの回を担当する教員に質問をして下さい。

講義全体に関わることは青木まで質問に来て下さい。

日本語と日本社会A

Japanese Language and Society A

学期 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **対象** 法律経済学科専用 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 藤本久司(人文学部文化学科)

授業の概要 日本の社会システム、文化背景、日本人の思考や行動様式、ルールや習慣などの理解を深めるための教材を選んで読み、討論し、考えを書き、発表する。

学習の目的 日本語が母語でない留学生が、授業を受け、大学生として十分な知識を得、意思や意見を伝達するため、必要にして十分な日本語理解力と日本語での伝達能力を高める。

学習の到達目標 日本語や日本社会についての知識を増やし認識を深め、日本語運用能力を高める。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力,

情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

留学生を対象とする。

「日本語コミュニケーションA」との同時受講はできない。

教科書

[テキスト] なし

[参考書] 授業で適時コピーを配布する。

成績評価方法と基準 授業態度20%、授業での課題・発表内容80%、計100%（合計が60%以上で合格）

オフィスアワー 基本的に授業時間以外、訪問、質問等は自由とする。

授業計画・学習の内容

学習内容 1～15回 日本の言語、社会、文化、習慣などに関する記事、解説、レポートなど

を読み、討論、作文、発表等を行う。

日本語と日本社会B

Japanese Language and Society B

学期 後期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **対象** 法律経済学科専用 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 藤本久司(人文学部文化学科)

授業の概要 日本の社会システム、文化背景、日本人の思考や行動様式、ルールや習慣などの理解を深めるための教材を選んで読み、討論し、考えを書き、発表する。

学習の目的 日本語が母語でない留学生が、学部授業に必要な日本語理解力、日本語での意思伝達能力を高めるため、日本語力の能力向上を図る。

学習の到達目標 日本語や日本社会についての知識を増やし認識を深め、日本語運用能力を高める。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感

じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

留学生を対象とする。
「日本語コミュニケーションB」との同時受講はできない。

教科書

[テキスト] なし
[参考書] 授業で適時コピーを配布する。

成績評価方法と基準 授業態度20%、授業での課題・発表内容80%、計100%（合計が60%以上で合格）

オフィスアワー 基本的に授業時間以外、訪問、質問等は自由とする。

授業計画・学習の内容

学習内容 1～15回 記事、解説、レポートなど使われている様々な表現から、現代日本語

と社会背景を考え、討論、作文、発表等を行う。

日本語コミュニケーションA

Japanese Communication A

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業 担当教員 藤本久司 (人文学部文化学科)

授業の概要 毎回のテーマにそった講義の後、練習問題等の応答がある。また、授業時間中に課題文の作成や小テストを行う。

学習の目的 日本語表現と背景の文化から、日本語上級レベルの留学生、及びネイティブである日本人学生双方が、日本語の再発見、再認識を進める。

学習の到達目標 留学生、日本人学生双方が日本語表現について学び、日本語運用能力を高めるとともに、背景の日本社会と文化への認識を高めることができる。また、異文化の視点からも日本語表現への造詣を深めることができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、課題探求力、情報受発信力、討論・対話力、社会人とし

ての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

留学生以外も受講対象。

「日本語と日本社会A」との同時受講はできない。

教科書

[テキスト] なし

[参考書] 授業で適時コピーを配布する。

成績評価方法と基準

授業態度1：授業での課題作品（数回分）2の割合で評価、計100%（合計60%以上で合格）
なお、課題作品にはレポートを含む場合もある。

オフィスアワー 基本的に授業時間以外、訪問等は自由とする。

授業計画・学習の内容

学習内容

テキスト、新聞、雑誌など、様々な種類の文章を教材にして、日本語表現とその背景にある文化を考える。また、ジャンル別に多様なタイプの文章を書き分けることで表現力のレベルアップを目指す。

1～15回

- ・現在仮名遣いと表記のルール
- ・日本の表現

- ・言語表現の基本的な心構え
- ・言語行動と非言語行動
- ・最適な用語、漢字の書き分け
- ・句読点、首尾一貫した文章
- ・文章の書き分け
- ・事実を書く
- ・考えを書く
- ・気持ちを書く
- ・用件を書く

日本語コミュニケーションB

Japanese Communication B

学期 後期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **対象** 法律経済学科専用 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 藤本久司 (人文学部文化学科)

授業の概要 毎回のテーマにそった講義の後、練習問題の応答がある。また、授業時間中に課題文の作成や小テストを行う。

学習の目的 日本語表現と背景の文化から、日本語上級レベルの留学生、及びネイティブである日本人学生双方が、日本語の再発見、再認識を進める。

学習の到達目標 留学生、日本人学生双方が日本語表現について学び、日本語運用能力を高めるとともに、背景の日本社会と文化への認識を高めることができる。また、異文化の視点からも日本語表現への造詣を深めることができる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求

力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

留学生以外も受講対象。

「日本語と日本社会B」との同時受講はできない。

教科書

[テキスト] なし

[参考書] 授業で適時コピーを配布する。

成績評価方法と基準 出席状況1: 授業での課題作品 (数回分) 2の割合で評価、計100% (合計60%以上で合格)

オフィスアワー 基本的に授業時間以外、訪問等は自由とする。

授業計画・学習の内容

学習内容

日本語の様々な場面での具体的なコミュニケーションを取り上げ、日本語上級レベルの留学生、及びネイティブである日本人学生双方が、日本語の再発見、再認識を通じて、表現力の向上を目指す。

1~15回

- ・敬語表現
- ・依頼の表現
- ・勧めの表現
- ・断りの表現
- ・感謝の表現
- ・謝罪の表現

西洋政治外交史

history of western politics and diplomacy

学期 前期 開講時間 月 5, 6; 木 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 古瀬 啓之

授業の概要 ヨーロッパ、アメリカの外交史。安全保障問題をめぐる欧米関係史を考察する。

学習の目的 現在の国際関係の枠組みを生み出したヨーロッパとアメリカの対外関係史の考察により、現在の国際関係の枠組みをより明確に知ることができる。

学習の到達目標 現在の国際関係の方向性を、大きな歴史的な流れの中で認識することができるようになる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 感じる

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 国際関係論、政治学原論、日本政治史

発展科目 国際法総論、国際組織法、国際法各論、政治思想史

教科書 特になし。

成績評価方法と基準 出席20%、中間レポート30%、期末レポート50%

オフィスアワー 木曜日12:00~13:00

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 外交とは何か？

第3~4回 19世紀末~20世紀初頭のヨーロッパ秩序体制と外交

第5~10回 第一次世界大戦後の秩序と外交

第11~13回 第二次世界大戦後の秩序構想

第14~20回 冷戦期における外交

第20~30回 グローバル化の進む世界と外交

統計学

Statistics

学期 前期集中 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 渡邊 隆俊(愛知学院大学経済学部教授)

授業の概要 経済データの統計的分析をする際には、統計理論の基礎を修得することが必要不可欠である。本講義では、統計学の基礎的概念について、Excelを用いた実習形式で概説する。

学習の目的 計量経済学を学習する際に必要な統計理論の基礎知識を修得する。

学習の到達目標 計量経済学などの応用科目履修のための統計学の基礎を理解し、それらを経済分析に活用できる能力を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 授業全体の概観
2. Excelによる統計学の基礎1(平均, メディアン, モード)
3. Excelによる統計学の基礎2(変化率, 幾何平均)
4. Excelによる統計学の基礎3(移動平均, 範囲)
5. Excelによる統計学の基礎4(分散, 標準偏差)
6. Excelによる統計学の基礎5(変動係数, 尖度・歪度, 標準化変量)

受講要件 特になし。ただし、Excelを利用して統計処理を行うので、Excelの基礎的知識があれば好ましい。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 「計量経済学」

教科書 白砂堤津耶(2007)『例題で学ぶ 初歩からの計量経済学 第2版』日本評論社。

成績評価方法と基準 レポート(100%)。複数回の提出を予定。

オフィスアワー 講義終了後、教室にて対応。

その他 担当者へ連絡は、渡邊のメールアドレス(twata@dpc.aga.ac.jp)まで。

7. Excelによる統計学の基礎6(散布図, 共分散)
8. Excelによる統計学の基礎7(相関係数)
9. Excelによる統計学の基礎8(まとめと練習問題)
10. 単純回帰モデル1(最小2乗法(OLS))
11. 単純回帰モデル2(決定係数)
12. 単純回帰モデル3(練習問題1)
13. 単純回帰モデル4(練習問題2)
14. 単純回帰モデル5(練習問題3)
15. まとめ

債権総論

obligations

学期 前期集中 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 白石 友行

授業の概要 この授業は、民法の講学上「債権総論」と呼ばれている部分と、契約総論の部分を対象とする。前半部分は契約、後半部分は主として金融取引や債権回収に関わるものである。これらは、日常生活や取引活動と密接に関わる法制度であるから、この授業では、豊富な具体例、判例や裁判例、取引実務などを素材として、契約や金融に関する法的規律が現実の社会においてどのような意味を持っているのかを確認する。また、債権総論の内容は、民法のみならず、私法の根幹に関わる法領域であると同時に、市民社会の基本的な仕組みを構成する領域であるから、各条文や制度の基礎にある理念、原理、思想等から説き起こすことになる。なお、この授業は、民法あるいは法学についての知識が全くないことを前提に進める。また、この授業と後期に開設される債権各論は、通常の「総論」「各論」とは異なるので、どちらの授業を先に受講しても問題はない。

学習の目的 契約法、債権法の基本原理、基礎理論を体系的に理解する。日常生活や取引活動の中で起こる様々な事実や紛争の中から法的問題を抽出する能力を身に付ける。債権法に関する法的ルールを使いこなす能力を身に付ける。契約法、債権法についての見方、それらの法的規律のあり方を問う能力を養う。民法の中で市民社会の基本的な仕組みがどのように形成されているのかを理解する。

学習の到達目標 契約法、債権法についての基本的な考え方を説明することができる。事実を詳細かつ正確に検討し、そこから、法

的に意味のある事実を抽出することができる。習得した知識を用いて、法的問題へとアプローチすることができる。契約法や債権法の制度のあり方について、一定の見方を表明することができる。自らの考えを自らの言葉で表現することができる。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 物権法、債権各論、家族法、会社法、商法総則、商取引法、労働法

教科書 池田真朗『スタートライン債権法(第5版)』(日本評論社・2010年)

成績評価方法と基準 理解を確認するための小テスト40%、期末試験または期末レポート60%

オフィスアワー 質問・相談などがあれば、授業の前後またはメールで受け付けるので、納得いかないこと、分からないこと、どこが分からないか分からない状況、授業に対する意見など、些細なことでも構わないので、遠慮なく質問して下さい。

その他 小型のものでよいので、授業には必ず六法を持参すること。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 序論、ガイダンス、契約総論
- 第2回 契約の成立①
- 第3回 契約の成立②、債権の種類・内容①
- 第4回 債権の種類・内容②、債権の効力(総論)

- 第5回 履行請求、事情変更
- 第6回 危険負担、履行の強制
- 第7回 債務不履行(総論)、損害賠償①
- 第8回 損害賠償②
- 第9回 損害賠償③、解除①
- 第10回 解除②

第11回 受領遅滞、第三者のためにする契約

第12回 債権者代位権①

第13回 債権者代位権②

第14回 詐害行為取消権①

第15回 詐害行為取消権②

第16回 分割債権・債務、不可分債権・債務、
連帯債務①

第17回 連帯債務②

第18回 保証債務①

第19回 保証債務②

第20回 保証債務③

第21回 債権譲渡①

第22回 債権譲渡②

第23回 債権譲渡③

第24回 債務引受、契約譲渡

第25回 弁済①

第26回 弁済②

第27回 弁済③

第28回 弁済④、弁済供託、代物弁済

第29回 相殺①

第30回 相殺②、更改、混同、免除

民事執行法

Civil Execution and Provisional Remedies

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 田中 誠人

授業の概要 判決によって訴訟手続が終了しても、判決において義務者とされた当事者がその判決に従った行動を実行しなければ、紛争は終結しないこととなる。そのような場合に権利者は、自己の権利の強制的な実現を求め、民事執行手続を利用することとなる。本講義は、この民事執行手続を規律する民事執行法を中心として、効率的な債権回収システムの確立に不可欠な、担保権実行手続、および、民事保全手続について概説するものである。

学習の目的 民事執行法とはどのような法律なのかを中心として、任意に履行されない債権がどのような手続により実現へと導かれるのかを理解する。

学習の到達目標 権利の実現過程を学ぶことで、民事実体法、及び民事手続法のより深い理解につなげる。

受講要件 講義を聴く意欲が高く、私語をし

ないこと。

予め履修が望ましい科目

社会において生じた民事紛争や、その他、民事的な問題ををどのように解決へと導くのか、というのが民事手続法における共通の視点なので、民法や商法といった実体法についても基本的な知識を持っていることが望ましい。

また、民事訴訟手続についても基礎的な理解が必要であるため、3・4年次を対象とする民事訴訟法の講義も履修済であることが望ましい。

発展科目 民事系科目

教科書 レジュメを配布する。

成績評価方法と基準 試験による (100%)

オフィスアワー 非常勤のため講義の前後

その他 ※六法を携行すること。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス・授業内容・単位条件・授業方針

第2回 民事執行手続の構造・執行手続の主体

第3回 強制執行の要件・強制執行手続の構造—金銭執行を中心として

第4回 担保権実行の要件と構造および財産開示制度

第5回 執行関係訴訟

第6回 金銭執行 (不動産)

第7回 金銭執行 (動産船舶その他)

第8回 金銭執行 (債権・少額訴訟債権)

第9回 非金銭執行

第10回 担保権実行

第11回 民事保全の意義・構造

第12回 保全命令手続と不服申立て手続

第13回 保全執行

※レジュメの項目が1回に収まらない回もあり、テストの予告解説なども含め、全15回を予定している。

現代裁判論

Society and Judicial System

学期 後期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 内田典夫 (弁護士: 非常勤講師)、出口崇 (弁護士: 非常勤講師)、飯田聡 (弁護士: 非常勤講師)、森一恵 (弁護士: 非常勤講師)

授業の概要 民事裁判、刑事裁判を中心に、現実に行われている裁判の運用状況を理解し、法律とのギャップや課題を考える。

学習の目的 民事裁判、刑事裁判を中心に、現実に行われている裁判の運用状況を理解し、法律とのギャップや課題を考える。

学習の到達目標 民事裁判、刑事裁判の手続きを理解することにより、将来、裁判に抵抗感を抱かず、法的紛争に巻き込まれた場合、早期に解決できる能力・感覚を身につける。

本学教育目標との関連 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コ

授業計画・学習の内容

学習内容 刑事裁判に対しては、保釈金や量刑の相場などを紹介するとともに、逮捕から判決に至るまでの実務的問題を人権保障の観点から考察する。民事裁判に対しては、司法研修所や実務で重視されている要件事実論や、訴状や答弁書の作成、立証方法、損害・

コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 憲法、民法の各科目

発展科目 民事訴訟法、刑事訴訟法

教科書 レジュメを配布する。

成績評価方法と基準 期末試験100%

その他 例年、刑事裁判の傍聴や三重刑務所の見学を企画している。実施は例年とおり水曜日の午後を予定している。

慰謝料の基準などを紹介するとともに、紛争解決としての機能を果たしているか否かの観点から課題を考察する。その後、人事訴訟 調停、支払督促、少額訴訟 労働訴訟 行政訴訟 倒産手続などの特殊な裁判手続きを扱う予定である。

福祉経済論演習

学期 通年 開講時間 月9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 和田 康紀 (人文学部)

授業の概要 社会保障制度が適切に機能するためには、医療、介護、年金等の給付に必要な財源を国民の合意を得ながらどのように確保するかという視点も重要であるが、そこで確保した財源を用いて、どのように実際の現場で国民生活に役立てていくのかという視点も重要である。本ゼミにおいては、医療、介護をはじめとして社会保障に関する実際の現場を訪問し、実際に自身の目で実態を確かめ、生の声を聞くことにより、制度のあり方等について考察を深める。

学習の目的 我が国の社会保障制度が抱えている課題を、第一線の現場で働いている方とのコミュニケーションの中からくみ取り、なぜ、このような問題が起こっているのかを理解するとともに、それらを解決するためにはどのようにすればよいかについて、文献等の調査結果も踏まえながら、自分自身で考え抜き、他の学生や指導教官とのディスカッションを通じて、自身の考えを整理できる能力を身につけることを目指す。

学習の到達目標

社会保障の現場が抱える問題点を、肌で感じられる感性を身につけること

授業計画・学習の内容

学習内容

具体的スケジュールは未定だが、
・医療、介護、福祉等の現場を8か所程度視察し、その結果を踏まえたディスカッション

それらの問題点について、さらに自分で文献等に当たって主体的に調査をする好奇心を身につけること

それを踏まえ、自分の頭で解決策を考え、それを他人とのディスカッションの中で、磨きあげながら、最終的に納得できる解決策に落とし込んでいく論理的思考力を身につけること

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 福祉経済論

教科書 講義の都度、当方で用意するか、あらかじめ指示する。

成績評価方法と基準 出席及び積極的な関与50%、資料・レポートの作成50%

オフィスアワー 毎週月曜日13:00～14:30、場所 人文学部5階和田研究室

・最新の社会保障政策の動向についての紹介、ディスカッションなどにより進めていく予定。具体的な視察箇所は、履修学生の関心に応じて決めていく。

福祉経済論

学期 後期 開講時間 月 1, 2; 水 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 和田 康紀 (人文学部)

授業の概要 少子高齢化や経済のグローバル化の進展の中で、我が国の社会保障制度は大きな曲がり角に来ているが、本講義では、これら社会保障制度の背後にある思想及び仕組み、並びにそれぞれの制度の概要や抱える課題について解説し、今後の社会保障制度のあり方について考察を深める。

学習の目的 これから数年の間に行われる社会保障制度改革の議論の中で、政党や国民各層から提示されてくる様々な改革案について、自らそれぞれの課題を発見し、考察を深め、自身の立場を決定し、政治的な意思表示(投票等)を行うことができる能力を身につける。

学習の到達目標 各社会保障制度の背景にある基本的な思想と制度の基本的な枠組みを理解するとともに、それらを基にして、与えられた関連する情報データ等を活用しながら、

現在、制度が抱えている課題と今後の制度のあり方についての自身の考えを論じられる能力を身につける。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 特になし。毎回レジュメを配布予定。参考図書は適宜紹介。

成績評価方法と基準 初回の講義で詳しく説明します。

オフィスアワー 毎週月曜日13:00~14:30、場所 人文学部5階研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 社会保障を取り巻く社会状況
- 第3回 社会保障の概念、範囲、機能
- 第4回 社会保障の必要性
- 第5回 社会保障の歴史
- 第6回 社会保障の費用と財源
- 第7回 社会保険と社会扶助、公的保険と民間保険
- 第8回~第12回 年金制度

- 第13回~第17回 医療制度
- 第18回~第20回 介護保険制度
- 第21回 雇用保険制度
- 第22回 労災保険制度
- 第23回~第24回 障害者福祉・雇用制度
- 第25回~第28回 子ども・子育て支援制度
- 第29回 生活保護制度
- 第30回 まとめ
- 第31回 定期試験

社会保障論

学期 前期 開講時間 月 1, 2 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業,

Moodle

担当教員 和田 康紀

授業の概要 年金、医療、介護、雇用問題をはじめとして、社会保障の分野の動向からは目が離せない状況になっている。本講義では、この数年の間に問題になった社会保障関係の個別分野（問題）に焦点を当て、その現状や具体的に生じている課題について掘り下げて解説するとともに、それら課題の解決方法について講義を通じて考察することで、当該問題について理解を深める。

学習の目的

学生が、講義で取り上げられた問題の現状や具体的に生じている課題等について理解した上で、社会的にもっとも望ましいと思われる解決策について考察し、自分自身の意見として論じることができる能力を身につけることを目的とする。

さらに、当該問題に関連する分野の他の問題についても関心を広げ、同様の意思表示ができるようになることを目指す。

学習の到達目標 学生が、講義で取り上げられた問題の現状等についての資料を参考にしながら、社会的に最も望ましいと思われる解決策について、自身の考えを根拠とともに論

じられる能力を身につけることを到達目標とする。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 特になし。毎回レジュメを用意する予定。関連書籍については、適宜紹介する。

成績評価方法と基準 コミュニケーションペーパーの提出状況40%、レポート60%

オフィスアワー 毎週月曜日13:00～14:30、場所 人文学部5階和田研究室

その他 グループディスカッションや受講生からの発表を取り入れながら、考察を進めていきます。受講生は受け身ではなく、授業に積極的に参加すること。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 イントロダクション

第2回～第15回 毎回一話完結方式で、年金、医

療、介護、雇用等についての個別問題を取り上げる。

行政学演習

Seminar of Public Administration

学期 通年 開講時間 火9,10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習

担当教員 樹神成 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 現代日本の地方政治について検討する。前期に日本の政治および地方自治についての文献を多読し、後期に地方自治または地方政治についてテーマを決めて検討する。

学習の目的 現代社会の課題に挑戦する積極性を備える。

学習の到達目標

- ①地域を取り巻く社会の変化について理解を深める。
グローバル化と地域社会の関係
- ②地域をめぐる制度の変化について理解を深める。

地方分権、市町村合併、道州制、三位一体改革、国土総合開発法、国土形成計画法

③各地方公共団体の現状と課題について評価する。

④地方政治について考える方法論を身につける

予め履修が望ましい科目 行政学

教科書 適宜、指示する。具体的なテーマについては協議して決める。

成績評価方法と基準 出席・発表・発言・討論

オフィスアワー 木曜日7・8限

授業計画・学習の内容

学習内容 前期に、地方政治を考えるために必要なテーマに沿って全体で検討する。後期に、参加者それぞれがテーマをもって報告す

る。なお、新書程度の本を毎月1冊程度読む予定

刑法各論

Criminal Law 2

学期 後期 開講時間 火3, 4; 金5, 6 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle

担当教員 田中亜紀子

授業の概要 刑法第2編「罪」を対象とし、個々の犯罪の内容・成立要件ならびにその法的効果等の解説を通じて、受講者が刑法各論の内容を正確に理解することを主たる目的とする。その他、現時点における刑事法の諸問題について検討を行う。

学習の目的

刑法が規定する諸犯罪に関する基礎知識を習得すること。
現代社会における犯罪現象に対する分析力ならびに法的なものの考え方を身につけること。

学習の到達目標 刑法が規定する諸犯罪に関する基礎知識を習得すること

授業計画・学習の内容

学習内容

刑法各論は、第2編「罪」の刑罰法規の解釈を通じて、個々の犯罪の内容・成立要件ならびにその効果等を明らかにしようとしたものであり、本講義はそれぞれの刑罰法規の保護法益、すなわち、個人的法益に対する罪、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪の分類に従って講義を進める。

具体的には以下の通りである。

1. 個人的法益に対する罪1
(殺人の罪・墮胎の罪・傷害の罪・遺棄の

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 日本国憲法、刑法総論など

発展科目 刑事訴訟法、少年法、刑事政策、現代裁判論など

教科書 『刑法判例百選II 各論 [第7版]』山口厚・佐伯仁志編 有斐閣 2014年

成績評価方法と基準 中間試験50%、期末試験50%、計100% (合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 火曜日 14:40-16:10。その他の詳細は第1回目の授業時に説明する。

罪・脅迫の罪・逮捕及び監禁の罪・略取、誘拐及び人身売買の罪・名誉に対する罪等)

2. 個人的法益に対する罪2

(窃盗及び強盗の罪・詐欺及び恐喝の罪・横領の罪・毀棄及び隠匿の罪等)

3. 社会的法益に対する罪

(放火及び失火の罪・偽造罪・わいせつ罪等)

4. 国家的法益に対する罪

(国家の存立に対する罪・外交に関する罪・公務の執行を妨害する罪等)

憲法

Constitution (general provision, human rights)

学期 後期 開講時間 月 3, 4; 金 7, 8 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 内野 広大

授業の概要

憲法 (constitution) は、あなたの外にあってあなたを都合よく救ってくれるものではない。そして崇拜する対象でもない。それは、ほかならぬ「あなた」という実存の場を通じて、限定され創造されていくものである。

本講義では、このようにして創造されていく憲法を、憲法上の権利論及び憲法総論の観点から見ていくことにしたい。具体的には、まず、丸刈り法の事案を手がかりとして、①憲法上の権利をどのようにして実現していくのか——いわゆる憲法訴訟——について概説したうえで、②憲法上の権利の種類、内容及び限界——憲法上の権利論——について説明していく。次に、以上の検討が深まることにより生じる問題を念頭に置きながら、憲法上の原理、とりわけ「法の支配」について考察を深めていく。

学習の目的 憲法上の権利の用い方を習得し、憲法を自己に引き付けて考える姿勢を涵養する。

学習の到達目標

- ① 憲法上の権利の種類・内容・限界及び憲法訴訟論の骨格を知る。
- ② 憲法上の権利論の争点において、通説・判

例がどのような立場に立つものであるのかを理解する。

③ 憲法上の権利論の領域において、基本的知識を身につけるとともに、初歩的な法的(憲法的)思考力を身につける。

④ 「評論家」としてではなく「当事者」として憲法に関わる姿勢を身につける。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、専門知識・技術、論理的思考力、討論・対話力

予め履修が望ましい科目 共通教育科目の日本国憲法

教科書 伊藤正己『憲法入門〔第4版補訂版〕』(有斐閣、2006年)

成績評価方法と基準 期末試験100%

オフィスアワー 毎週月曜日14:00~15:30を指定しますが、講義後に直接質問いただいても結構ですし、オフィスアワー以外の時間帯にもメールで予約のうえ研究室に来室し質問くださっても結構です。

その他 講義レジュメに予習課題を明示するようにしますので、予習課題を考えてから講義に臨むようにしてください。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 はじめに——憲法上の権利論・憲法総論を学ぶにあたって

第1部 憲法上の権利論

① 憲法訴訟の基本 概ね次の順序で憲法訴訟を俯瞰する。

第2回 付随的違憲審査制の基本

第3回 憲法的思考の基本と憲法訴訟①

第4回 憲法的思考の基本と憲法訴訟②

② 個別の権利 概ね次の順序で各権利の内容・限界及び違憲審査基準を説明する。

第5回 思想・良心の自由——基本

第6回 思想・良心の自由——応用①

第7回 思想・良心の自由——応用②

第8回 信教の自由——基本

第9回 信教の自由——応用①

第10回 信教の自由——応用②

第11回 政教分離原則

第12回 表現(言論・出版)の自由——総論

第13回 表現の自由——事前抑制

第14回 表現の自由——内容規制・内容中立規制

第15回 表現の自由——内容規制(名誉毀損・せん動等)

第16回 表現の自由——内容中立規制

第17回 集会の自由——基本

第18回 集会の自由——応用

第19回 経済活動の自由——職業選択の自由①

第20回 経済活動の自由——職業選択の自由②

第21回 経済活動の自由——職業選択の自由③

第22回 幸福追求権

第23回 プライバシー権

第24回 人身の自由

③ 意義と通則 憲法上の権利を享有する主体、

憲法上の権利の名宛人について説明する。

第25回 「憲法上の権利」通則——享有主体

第26回 「憲法上の権利」通則——到達範囲

第27回 「憲法上の権利」通則——制限原理

第2部 憲法総論

第28回 憲法総論①——憲法の意味と分類

第29回 憲法総論②——憲法上の原理

第30回 憲法総論③——憲法源論

憲法制度論

Constitution (Government)

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義 担当教員 内野 広大

授業の概要

憲法 (constitution) は、あなたの外にあってあなたを都合よく救ってくれるものではない。そして崇拜する対象でもない。それは、ほかならぬ「あなた」という実存の場を通じて、限定され創造されていくものである。

本講義では、このようにして創造されていく憲法を、統治機構論及び憲法の基礎理論の観点から見ていくことにしたい。具体的には、まず、①丸刈り法の事案を手がかりとして、国家の国民支配作用及び各作用の担い手である各統治部門について説明し、それに引き続いて②国家の大権行使に関わる事案を手がかりとして、国家の総合的政策形成作用について検討していく。次に、憲法上の原理、とりわけ国民主権及び権力分立について概説する。本年度は議会制について深く検討を加える予定である。

学習の目的 憲法が定めた統治機構をどのようにして動かしていくのか、その方法を習得し、憲法を自己に引き付けて考える姿勢を涵養する。

学習の到達目標

① 統治機構論の骨格を知るとともに、憲法の基礎理論のあらましを知る。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 はじめに——憲法制度論を学ぶにあたって

第1部 統治機構

第2回～第10回 国民支配作用

各作用 (立法・行政・司法) の意味を簡潔に説明したのち、各統治部門 (国会・内閣・裁判所・有権者団) の性格、権能、構成等を検討する。とりわけ議会制について深く検討を

② 統治機構論上の争点において、通説・判例がどのような立場に立つものであるのかを理解する。

③ 統治機構論の領域において、基本的知識を身につけるとともに、基本的な法的 (憲法的) 思考力を身につける。

④ 「評論家」としてではなく「当事者」として憲法に関わる姿勢を身につける。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 専門知識・技術, 論理的思考力, 討論・対話力

予め履修が望ましい科目 共通教育科目の日本国憲法

教科書 伊藤正己『憲法入門〔第4版補訂版〕』(有斐閣、2006年)

成績評価方法と基準 期末試験100%

オフィスアワー 毎週月曜日14:00～15:30を指定しますが、講義後に直接質問いただいても結構ですし、オフィスアワー以外の時間帯にもメールで予約のうえ研究室に入室し質問くださっても結構です。

その他 各講義前になるべく予習課題を提示するようにしますので、課題を考えた上で講義を受講するようにしてください。

加える予定である。

第11回～第13回 総合的政策形成作用

国権の最高機関性についての議論、執政権論及び天皇の権能論についての議論を手がかりとして、政治部門間の関係を検討し、それに続いて、統治行為論を手がかりとして、政治部門と法原理部門との関係を検討する。

第2部 基礎理論

第14回～第15回 憲法上の原理

憲法演習

Constitutional Law

学期 通年 開講時間 金 9, 10 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 3年次

授業の方法 演習

担当教員 内野 広大

授業の概要

人々の間にあって他者を活かすと同時に自らを活かす存在としてはたらくためには、ほんとうの意味で「自己を知る」ことが不可欠です。そのためには何よりもまず、自らの足跡を丹念に辿り、無意識の裡に染みついた価値観を見つめ、自らの立脚地を絶えず省みていくほかはないと考えています。

そしてそのためには、常に具体的現実の中にある矛盾に身を置くことが必要になりますが、憲法判例はその導き手としての役割を果たすものであるといえます。それというのも、憲法判例は、人の抱えざるをえない矛盾が最も顕在化してしまう個人及び国家の根源に関わる問題に対して、回答を提示しようと努めるものだからです。参加者は、憲法判例との対話を重ね、他の参加者との意見交換を経ることにより、自らが実は矛盾の内に身を置いていたことに気づき、自らの立脚地の姿にも関心を向けるようになるのではないでしょう。

本演習は、このような理由により、憲法判例を考察の素材とし、その一つ一つについて以下のような順序で検討を加えていきます。

① 私人側弁護士あるいは国側弁護士（検察官）の立場に立って、事件の具体的な事実を目を凝らし、当事者の思いをくみ取って、その思いに言葉でかたちを与え、お互いに意見交換を行う。

② 一回目に提示された判例・学説を使って、各々の立場から説得力のある法的主張を展開する。

③ 二回目に与えられたヒントを頼りに作り上げた法的主張を報告レジュメにまとめ報告する。

演習形式は参加人数にもよりますが、憲法判例ごとに、私人側弁護士、国側弁護士、裁判官等のグループを結成し、議論を深めていきます。

一年を通した流れとしては、前期に「憲法上の権利」に関する憲法判例を検討し、後期に「統治機構」に関する憲法判例を検討する予

定です。なお、前期には『学生論集』執筆のための検討会を実施し、後期には卒業論文のテーマについての報告会も実施する予定です。

学習の目的 憲法判例の検討を通じて自己の主張を論理的に組み立てる基礎力を養成する。

学習の到達目標

① 講義で教示される抽象的な知識が、具体的な事例の中でどのように働いているのかを実感することができる。

② 憲法と、それ以外の法分野の法とが訴訟の中でどのように結び合っているのかを知ることができる。

③ 具体的事例の中で、どのようにして憲法判例が紡ぎだされていくのか、そのメカニズムを知ることができる。

④ 具体的事例との対話を通じて、自らの立脚地の姿を見つめ直すことができる。

本学教育目標との関連 共感、倫理観、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、討論・対話力、指導力・協調性

受講要件

① 中学生でも一読してすぐわかるような明晰な文章を書くための作法をあらかじめ身につけてください。木山泰嗣『弁護士が書いた究極の文章術』（法学書院、2009年）という本を参考にされるとよいと思います。

② あなたが興味関心をもった事柄について、なぜ興味関心をもったのかを自分との対話を通じて発見してください。

予め履修が望ましい科目 人文学部で開講されている憲法関連以外の科目

教科書 伊藤正己『憲法入門〔第4版補訂版〕』（有斐閣、2006年）

成績評価方法と基準 報告内容とゼミに対する積極的な取り組み具合に基づき評価します。

オフィスアワー 毎週月曜日14：00～15：30 定時間外は予約をしていただければ確実に応
を指定しますが、柔軟に対処いたします。指 対できます。

授業計画・学習の内容

学習内容

前期及び後期とも、重要な最高裁判例を5つほど指定しますが、参加者の問題関心等を踏まえ、開講直前に判例を指定する予定です。一年を通した大まかな流れは次のようなものです。

○ 前期——憲法上の権利に関する最高裁判例の検討

1～3回 最高裁判例①

4～6回 最高裁判例②

7～9回 最高裁判例③

10～12回 最高裁判例④

13～15回 最高裁判例⑤

○ 後期——統治機構に関する最高裁判例の検討

1～3回 最高裁判例⑥

4～6回 最高裁判例⑦

7～9回 最高裁判例⑧

10～12回 最高裁判例⑨

13～15回 最高裁判例⑩

外書講読B

reading English journal B

学期 前期 開講時間 水 1, 2 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 深井 英喜 (人文学部)

授業の概要 2年生を対象に、経済関連の英語文献を読む。

学習の目的 経済英語の基礎を学ぶことを目的にする。

学習の到達目標 経済学の専門用語の英語表記に触れ、それを覚えることが目標である。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 経済原論または近代経済学を履修していることが望ましい

発展科目 経済学の諸科目

教科書

受講生と相談の上で決める。

予定しているのは、英語メディアの経済記事等を用いる。

成績評価方法と基準 出席と受講姿勢で評価する。

オフィスアワー 最初の授業の際にアナウンスする。

その他 英語が得手不得手は問わず、受講生の英語力に合わせるが、予習にしっかり取り組むこと。

授業計画・学習の内容

学習内容 イギリスやアメリカのメディアの経済記事を教材として、経済用語について学ぶ。

授業の概要 国際金融取引の仕組み、戦後の国際金融システムの変遷、アジア通貨危機など現代グローバルゼーションによって引き起こされた金融危機の背景などの解説

学習の目的 上記のテーマを学ぶことで、今後の国際金融システムの改善方向を考察する能力を身に付ける

学習の到達目標 国際金融に関して各自が興味を抱いたテーマでレポートを作成してもらい、具体的・論理的に考察する能力や視座を身に付けられているかを確認する

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い

教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 金融論

教科書 特に定めない。毎回、講義レジュメを配布する。

成績評価方法と基準

レポート提出80%、出席20%
レポート課題は最初の講義で発表する。

オフィスアワー 授業の前後

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 国際収支統計
2. 外国為替市場① コルレス勘定と外国為替取引
3. 外国為替市場② 外国為替取引の仕組み
4. 外国為替市場③ 外国為替相場の決定要因と理論
5. 国際通貨制度の歴史
6. ブレトンウッズ機関① IMFと世界銀行の成立
7. ブレトンウッズ機関② ブレトンウッズ体制崩壊後のIMF・世銀の役割

8. ユーロ市場の発展
9. 新自由主義経済の台頭と金融市場のグローバル化
10. アジア通貨危機① 東アジア新興国の高度成長と投機マネーの流入
11. アジア通貨危機② アジア通貨危機発生の要因
12. アジア通貨危機③ 危機への対応策
13. アジア通貨危機④ 再発防止に向けた東アジア金融協力
14. 今後の国際金融システム改善への課題
15. 講義のまとめ。定期試験は実施しない。

外書購読A

Reading English Journal A

学期 後期 **開講時間** 火 1, 2 **単位** 2 **対象** 法律経済学科専用 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義, 演習
担当教員 川地 啓介

授業の概要 経済に関する諸問題について英語で書かれた文献を講読する。

学習の目的 経済に関して英語で記述された資料や文献を理解できるようになることを目指す。また、英語の読解能力を高めることで、日本語以外の情報源から必要な情報を入手できるようになることを目的とする。

学習の到達目標 英語で書かれた経済文献を読み、英語の読解能力を向上させることを目指す。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 実践外国語力

予め履修が望ましい科目 近代経済学

教科書 随時配布する予定。

成績評価方法と基準 報告内容、提出課題、授業への参加姿勢等により総合的に判断する。

オフィスアワー

毎週火曜日12:00~13:00

場所人文学部5階川地研究室

その他

受講者の状況や進行状況により、講義内容を一部変更する場合がある。

課題に基づいて報告や討論を行う場合には、積極的な参加が期待される。

授業計画・学習の内容

学習内容

経済に関連した欧米の新聞記事、雑誌、専門図書等を題材として使用する予定である。英語の習得を目的としているわけではなく、外書の購読を目的としているため、英語が得

意である必要はなく、英語に関心があれば受講を歓迎する。

1. ガイダンス
- 2-14. 演習を予定
15. まとめ

経済数学

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 森俊一 (非常勤講師)

授業の概要 微分を取り上げ、経済学への応用を考える。

学習の目的 数学を使った経済学のテキストが読めるようになり、経済学の理解が一層深まることを目的とする。

学習の到達目標 多変数関数の微分に習熟し、経済学での最大化問題への微分の適用を理解できるようになることを目標とする。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 近代経済学

発展科目 ミクロ経済学、財政学、国際経済学

教科書 西原健二『経済系のための微分積分』共立出版(2007)

成績評価方法と基準 期末テスト100%

オフィスアワー 授業後に教室にて対応する。連絡の窓口は豊福先生。

その他 講義では、受講者の数学的素養を考慮して、丁寧な解説を行う。

授業計画・学習の内容

学習内容

経済学にとって重要な最適化問題の解法を中心に、微分の考え方から説きおこし、大学入学以前では未学習であった多変数関数の微分、その応用としての最適化の解法であるラグランジュの未定乗数法を解説する。

主な内容

(第1回～5回) 一変数関数の微分

1. 関数とは何か
2. 一変数関数の微分可能性

3. テイラーの定理
4. 一変数関数の極値問題
(第6～15回) 多変数関数の微分
5. 偏微分
6. 多変数関数の微分可能性
7. 多変数関数の極値問題
8. 陰関数の定理
9. ラグランジュの未定乗数法
10. ミクロ経済学への応用

政策過程論

Political Process

学期 後期 開講時間 火 5, 6 単位 2 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

担当教員 樹神成 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 政策立案の過程を理念と利益の対立と調整の過程として説明するとともに、このような視点から政権交代について考える

学習の目的 現代社会について、専門的知識に基づいて論理的に考え、総合的に判断できる。

学習の到達目標 政治と行政を見る目を養う

予め履修が望ましい科目 政治学、行政学、憲法、行政法、地方自治論

教科書

[テキスト]

[参考書] 講義のときに紹介する。

成績評価方法と基準 試験による

オフィスアワー 木曜日の7・8限。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 地方自治の制度変化を政策過程として捉える
2. 政策過程の捉え方(1)政策循環
3. 政策過程の捉え方(2)利益団体
4. 地方自治制度の形成 - イギリス
5. 地方自治制度の形成 - アメリカ
6. 戦前の日本の地方自治
7. 第一次地方分権改革への課題設定
8. 第一次地方分権改革の立案過程

9. 第一次地方分権改革の決定過程
10. 市町村合併、三位一体改革
11. 第二次分権改革の課題設定
12. 第二次分権改革の立案過程
13. 第二次地方分計画の決定過程・民主党「地域主権改革」
14. 安倍政権の目指す地方自治
15. まとめ

福祉経済論

学期 後期 開講時間 月 1, 2; 水 3, 4 単位 4 対象 法律経済学科専用 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 石塚 哲朗 (人文学部)

授業の概要 少子高齢化や経済のグローバル化の進展の中で、我が国の社会保障制度は大きな曲がり角に来ているが、本講義では、これら社会保障制度の背後にある思想及び仕組み、並びにそれぞれの制度の概要や抱える課題について解説し、今後の社会保障制度のあり方について考察を深める。

学習の目的 これから数年の間に行われる社会保障制度改革の議論の中で、政党や国民各層から提示されてくる様々な改革案について、自らそれぞれの課題を発見し、考察を深め、自身の立場を決定し、政治的な意思表示(投票等)を行うことができる能力を身につける。

学習の到達目標 各社会保障制度の背景にある基本的な思想と制度の基本的な枠組みを理解するとともに、それらを基にして、与えられた関連する情報データ等を活用しながら、

現在、制度が抱えている課題と今後の制度のあり方についての自身の考えを論じられる能力を身につける。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 特になし。毎回レジュメを配布予定。参考図書は適宜紹介。

成績評価方法と基準 初回の講義で詳しく説明します。

オフィスアワー 毎週月曜日13:00~14:30、場所 人文学部5階研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 社会保障を取り巻く社会状況
- 第3回 社会保障の概念、範囲、機能
- 第4回 社会保障の必要性
- 第5回 社会保障の歴史
- 第6回 社会保障の費用と財源
- 第7回 社会保険と社会扶助、公的保険と民間保険
- 第8回~第12回 年金制度

- 第13回~第17回 医療制度
- 第18回~第20回 介護保険制度
- 第21回 雇用保険制度
- 第22回 労災保険制度
- 第23回~第24回 障害者福祉・雇用制度
- 第25回~第28回 子ども・子育て支援制度
- 第29回 生活保護制度
- 第30回 まとめ
- 第31回 定期試験

2012年度以降入学生用
2011年度以前入学生用

英米事情A

英米事情A

UK and USA Today A

UK and USA Today A

学期 前期 開講時間 水 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 This course introduces key concepts in anthropology and intercultural communication.

学習の目的 Students will explore the link between language and culture, focusing on English language and U.K.& U.S.cultures. Students will also learn about the issues that arise in intercultural communication from the perspective of translation and interpretation.

学習の到達目標 Students will learn how to think critically about the relationship between language and culture as well as intercultural and interlingual communication.

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力,

授業計画・学習の内容

学習内容 Topics to be covered include defining culture, cultural frames, levels of culture,

心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 Translating Cultures: An Introduction for Translators, Interpreters, and Mediators (2nd Edition) by David Katan

成績評価方法と基準 Students will be evaluated based on in-class participation, class preparation, and a final paper

オフィスアワー By appointment

その他 All reading and classroom instruction in English.

language and culture, cognition and culture, and chunking.

2012年度以降入学生用
2011年度以前入学生用

英米事情B

UK and USA Today B
UK and USA Today B

学期 後期 開講時間 水 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 This course introduces key concepts in anthropology and intercultural communication.

学習の目的 Students will explore the link between language and culture, focusing on English and U.K. & U.S. cultures. Students will also learn about the issues that arise in intercultural communication from the perspective of translation and interpretation.

学習の到達目標 Students will learn about the skills necessary to negotiate between cultures as a cultural mediator, especially from the perspective of translation and interpretation.

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力,

授業計画・学習の内容

学習内容 Topics to be covered include cultural orientation, contexting, transactional

心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 Translating Cultures: An Introduction for Translators, Interpreters, and Mediators (2nd Edition) by David Katan

成績評価方法と基準 Students will be evaluated based on in-class participation, class preparation, and a final paper.

オフィスアワー By appointment

その他 All reading and classroom instruction in English.

communication, interactional communication, and intercultural competence.

2012年度以降入学生用 **図書館サービス概論** Introduction to Library Services
2011年度以前入学生用 **図書館サービス概論 (図書館サービス論)**
Introduction to Library Services

学期 前期 開講時間 火 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 長澤 多代 (附属図書館・研究開発室)

授業の概要 知識基盤社会, 生涯学習社会の到来により, 人々が情報を主体的に活用しながら, それぞれの立場での生活の充実を図ることがますます重視されるようになった。図書館では, 利用者が, 図書館が提供する多様な資料を効果的に利用できるように支援するために, 図書館サービスを提供している。この授業科目では, 基本的な図書館サービスについて学習することにより, 図書館員として, 多様な利用者の特徴を把握し, これをもとに効果的な図書館サービスを設計し運用するための基礎的な知識と考え方を習得する。

学習の目的 図書館サービスの考え方と構造の理解を図り, 資料提供, 情報提供, 連携・協力, 課題解決支援, 障害者・高齢者・多文化サービス, 著作権, 接遇・コミュニケーション等の基本についての理解を深める。

学習の到達目標

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 図書館サービスの意義: 説明: 授業科目の概要説明 (各回の学習内容, 成績評価の方法など)
講義: 図書館の機能とサービス, 図書館サービスの役割, 図書館サービスの種類, 図書館サービスとネットワーク
2. 来館者へのサービス: 講義: サービス計画の立案
講義: 貸出サービス, 閲覧サービス, フロアワーク
3. 利用空間の整備: 講義: フロア構成, 書架の配置, 図書館家具の選択, 排架の原理と工夫, サインシステム
4. 貸出サービス: 講義: 貸出サービス, 利用登録の意義, 貸出手続, 貸出方式の種類, 返却と督促, プライバシーへの配慮
5. 資料提供の展開 I: 講義: リクエスト・サー

- ・ 図書館が提供する図書館サービスの全体像を簡潔に説明することができる。
- ・ 図書館サービスに関する基本的な用語を説明することができる。
- ・ 基本的な図書館サービスについて, 意義, 経緯と現状, 具体例について説明することができる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術

教科書 未定

成績評価方法と基準 各回の学習の振り返り, 調査課題, 読書課題による。

オフィスアワー 火曜12:00~13:30 (学期中)

その他

各回の学習内容 (課題を含む), 成績評価の基準については, 第1回の授業で説明する。
担当教員のHP: http://www.lib.mie-u.ac.jp/r_and_d/info/nagasawa.html

- ビス, 図書館相互貸借, 複写サービス, 著作権
6. 資料提供の展開 II: 講義: 読書案内, 団体貸出
7. 利用対象に応じたサービス I: ゲスト・スピーカー
8. 利用対象に応じたサービス II: 講義: 児童サービス
9. 利用対象に応じたサービス III: 講義: 乳幼児サービス, ヤングアダルト・サービス
10. 利用対象に応じたサービス IV: 講義: 障がい者サービス, 高齢者サービス, 多文化サービス
11. 多様な利用者サービス I: 講義: 集会文化・活動, 図書館サービスのデリバリー
12. 多様な利用者サービス II: 講義: 問題解決学習, 学校教育活動の支援
13. 多様な利用者サービス III: 講義: 利用目的

に応じた支援，課題解決型サービス
14.利用者との交流: 講義：利用者とモラル，
コミュニケーション，利用案内資料，図書館

ツアー
15.新しい図書館サービス: 講義：ビブリオバ
トル，共読

2011年度以前入学生用 **情報資源組織論** Organization of Information Resources
2011年度以前入学生用 **情報資源組織論 (資料組織法A・B)**
Organization of Information Resources (Organization of Library Resources A・B)

学期 前期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

授業の特徴 Moodle

担当教員 櫻木 貴子 (非常勤講師)

授業の概要

図書館における情報資源組織化の概念と理論, および技術について, 書誌コントロール, 記述法, 主題分析, メタデータ, 書誌データの活用法等を理解し, 実践に備える基礎知識を身につける。

本講義では, 電子資料やネットワーク資料を含む様々な情報資源を念頭に置き, その組織化業務の標準化と統一化の動向を把握し, 目録や分類について学ぶ。

学習の目的 情報資源の組織化に関する概念と専門用語を理解し, 図書館における情報資源組織化の概要と流れを把握することを目標とする。

学習の到達目標

- 1) 情報資源組織化の概念を理解する
- 2) 件名, シソーラスに関する基礎知識を身につける

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 「情報資源の組織化」とは
- 第2回 図書館における目録(1): 目的・機能
- 第3回 図書館における目録(2): 作成過程・種類
- 第4回 図書館における目録(2): 歴史
- 第5回 書誌コントロール(1): 概要
- 第6回 書誌コントロール(2): 歴史とツール
- 第7回 書誌ユーティリティ: 目的・機能・種類
- 第8回 記述目録法(1): 目的・機能・枠組み・国際標準書誌記述

- 3) 分類に関する基礎知識を身につける

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 日本図書館協会編『図書館資料の目録と分類』増訂第4版. 日本図書館研究会, 2008.

成績評価方法と基準 小テスト (複数回) 60% レポート (複数回) 40% 合計100% (60%以上で合格)

その他 履修希望者は第1回授業に必ず出席し, 本授業の内容や進め方について説明を受けること。

- 第9回 記述目録法(2): 記述内容・情報源
- 第10回 主題目録法(1): 意義・種類・過程
- 第11回 主題目録法(2): 索引法・検索における評価法
- 第12回 主題目録法(3): 件名標目表・『基本件名標目表』
- 第13回 主題目録法(4): 分類の目的・知識の分類と図書分類法
- 第14回 主題目録法(5): 分類表・『日本十進分類法』
- 第15回 これからの目録

2012年度以降入学生用 **情報資源組織演習B**

Practice for organization of Information Resources B

2011年度以前入学生用 **情報資源組織演習B (資料組織演習B)**

Practice for organization of Information Resources B (Practice for organization of library mater

学期 後期 **開講時間** 金 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の特徴**

Moodle

担当教員 櫻木 貴子 (非常勤講師)

授業の概要 情報資源を主題から効果的に検索するために必要な「主題目録法」による情報資源の組織化について、『基本件名標目表』および『日本十進分類法』を用いた演習を行い、その理解と技術の定着を図る。

学習の目的 主題分析、および件名標目や分類記号の付与演習を通して、情報資源組織業務における実践的な能力を養成する。

学習の到達目標

- 1) 情報資源組織化の概念を理解する
- 2) 件名標目および分類に関する基礎的技術、およびその利用方法を身につける

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 社会人としての態度

教科書 日本図書館協会編『図書館資料の目録と分類』増訂第4版. 日本図書館研究会, 2008.

成績評価方法と基準 課題 (複数回) 100% (60%以上で合格)

その他 履修希望者は第1回授業に必ず出席し、本授業の内容や進め方について説明を受けること。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 「情報資源の組織化」とは(復習)・標目の概要・記述演習(タイトル標目)
- 第2回 標目の記述演習(著者標目)
- 第3回 標目の排列・演習
- 第4回 件名標目(1): 『基本件名標目表』の詳細
- 第5回 件名標目(2): 『基本件名標目表』付与過程・細目
- 第6回 件名標目(3): 『基本件名標目表』件名規定
- 第7回 件名標目付与演習(1)

- 第8回 件名標目付与演習(2)
- 第9回 分類記号(1): 『日本十進分類法』の詳細・「各類概説」
- 第10回 分類記号(2): 『日本十進分類法』付与過程・分類規定
- 第11回 分類記号(3): 『日本十進分類法』補助表
- 第12回 分類記号付与演習(1)
- 第13回 分類記号付与演習(2)
- 第14回 分類記号付与演習(3)
- 第15回 ローカル情報: 請求記号の構造と図書記号の付与

2012年度以降入学生用 **博物館経営論**
2011年度以前入学生用 **博物館経営論 (博物館学各論B)**

Museum Management
Museum Management

学期 後期 **開講時間** 水 9, 10 **単位** 2 **対象** 改正博物館法に基づく学芸員資格取得対象者 改正前博物館法に基づく学芸員資格取得者は「博物館学各論B」として受講 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義 **他学部**の学生の受講可 **他学科**の学生の受講可
担当教員 清水 みぎ(非常勤講師)

授業の概要 まず学芸員が博物館経営を学ぶ必要性について理解し、次に博物館経営の手法と運用、関連法規や現代の博物館を取り巻く社会状況について基本的な知識を得る。

学習の目的 博物館の使命、歴史的役割と管理運営について総合的に理解する。

学習の到達目標 学芸員資格の取得

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 博物館実習を受講予定で、学芸員

資格を取得する意志のある者。

予め履修が望ましい科目 博物館資料保存論

発展科目 博物館展示論、博物館実習

教科書

『博物館経営・情報論』放送大学教材。

その他の授業に必要な資料はプリントして配布する。

成績評価方法と基準 授業への参加度20%、小レポート提出物20%、期末テスト60%

オフィスアワー 申し出があれば別途時間を指示する。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 オリエンテーション

第2回 博物館になぜ経営が必要か

第3～4回 博物館の持つヒト・モノ・カネ

第5～6回 博物館経営の手法—マーケティング

第7～8回 博物館経営の手法—事業評価

第9～10回 社会とともにある博物館をめざして

第11～12回 新たな事業展開

第13回 博物館と法—指定管理者制度

第14回 新しい博物館の創造

第15回 まとめ

第16回 試験

2012年度以降入学生用

博物館資料保存論

2011年度以前入学生用

博物館資料保存論

Museum Materials

Museum Materials

学期 前期 開講時間 水 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

他学部[○]の学生の受講可 他学科[○]の学生の受講可

担当教員 清水 みき(非常勤講師)

授業の概要 博物館の保存・展示環境に関する基礎的事柄を科学的に把握し、博物館資料の保存について学ぶ。

学習の目的 博物館のもつ資料(モノ)の保存について、基本的な知識を学びまた技術の一端にも触れ、博物館の世に伝えるべき歴史的役割を理解する。

学習の到達目標 学芸員資格の取得

本学教育目標との関連 専門知識・技術

受講要件 博物館実習を受講予定で、学芸員資格を取得する意志のある者

予め履修が望ましい科目 考古学・文化財学
概論A・B

発展科目 博物館展示論、博物館実習(学内実習)

教科書 本田光子・森田稔編『博物館資料保存論』放送大学教材(2012年)

成績評価方法と基準 授業への参加度・課題に取り組む姿勢20%、提出物20%、期末試験60%

オフィスアワー 申し出があれば別途時間を指定する。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 オリエンテーション

第2回 資料保存の基礎

第3回 明治以降の文化財の危機(廃仏毀釈、海外流失、戦争)と博物館

第4回 文化財保護法の成立に至る過程

第5回 地震・津波一大災害に学ぶ教訓と対策

第6回 博物館資料の収蔵と保管

第7回 正倉院宝物の保存システム

第8回 曝涼と装潢

第9回 保存修理と技術・材料の開発

第10回 文化財の生物被害-カビ、害虫

第11回 収蔵庫、展示施設の温湿度管理

第12回 劣化と褪色-空調、照明、

第13回 IPM:総合的有害生物管理

第14回 博物館の危機管理

第15回 まとめ

第16回 試験

2012年度以降入学生用

博物館展示論

2011年度以前入学生用

博物館展示論

Museum Exhibition

Museum Exhibition

学期 後期 **開講時間** 水 7, 8 **単位** 2 **対象** 3年次編入生やかつて大学で学芸員に関する単位の一部を取得した学生は単位の取得に複雑な事情があるため、必ず事務と相談すること。 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** グループ学習の要素を加えた授業

他学部の学生の受講可 **他学科の学生の受講可**

担当教員 清水 みき(非常勤講師)

授業の概要 博物館に関する法律、各種博物館の資産(資料、コレクション)の取り扱いとその展示方法、展示に関して必要な演示具・照明・映像などについて学ぶ。企画展示案をグループで協力して作成する。

学習の目的 各種博物館の成り立ちと歴史的役割を総合的に理解し、博物館展示の目的と手法を考える。

学習の到達目標 学芸員資格の取得

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 指導力・協調性

受講要件 博物館実習を受講予定で、学芸員

資格を取得する意志のある者。

予め履修が望ましい科目 博物館資料保存論、考古学文化財学概論A・B

発展科目 博物館実習(学内実習)

教科書 授業に必要な資料はプリントして配布する。

成績評価方法と基準 授業への参加度20%、提出物・実践的課題に取り組む姿勢40%、期末試験40%

オフィスアワー 申し出があれば別途時間を指定する。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 オリエンテーション

第2回 日本の博物館

第3回 世界の博物館

第4回 博物館の種類と展示方法

第5回 博物館の映像展示と視聴覚メディア

第6～9回 MY企画展作り

第10～13回 企画展示案の発表と討論

第14回 新しい博物館の創造

第15回 まとめ

第16回 試験

授業の概要

日本の高度成長期の最終的段階には、新しい博物館施設が続々と各地に誕生した。これらの後発博物館は博物館存在の根本的意義である実物資料の豊富な所蔵が叶わないことが多く、一面でレプリカ模型や映像による展示法が普及した。

こうした現実的対応の中で、博物館機能としての資料収集と永続的保管、調査研究、公開展示とそれらを活かした様々な学習機会の提供、教育機関との連携や広報活動を含む運営において、新しい博物館活動の在り方が模索されつつ、工夫努力が続けられてきたところである。

授業では、博物館利用の基本的意義と今日的な課題を学び、これからの博物館利用者にとっての学習・教育面での在り方を考える。

学習の目的

今日の博物館は社会的役割として、教育的な活動が重視されている。博物館利用・活用の教育的意義と今日的な課題を学ぶ。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 博物館教育の基礎理論と理念
- 第3回 博物館教育の歴史と今後の方向性
- 第4回 展示の教育的意義
- 第5回 情報の伝達メディアとしての展示—二次的資料
- 第6回 展示評価と学習評価
- 第7回 人文科学系博物館のプログラム
- 第8回 自然科学系博物館のプログラム

学習の到達目標 これからの博物館利用者にとっての学習・教育面での在るべき姿についての考え方を深める。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 情報受発信力

受講要件 博物館実習を受講予定で、学芸員資格を取得する意志のある者

予め履修が望ましい科目 考古学・文化財学概論A・B

教科書

- ・佐々木亨他編『博物館経営・情報論』（放送大学教材、2008年）
- ・他に授業に必要な資料はプリントして配布する。

成績評価方法と基準 授業への参加度・課題に取り組む姿勢20%、提出物20%、期末試験60%

オフィスアワー 申し出があれば別途時間を指定する。

- 第9回 学校との連携
- 第10回 地域との連携—社会教育施設としての博物館
- 第11回 ボランティア
- 第12回 博物館資源の蓄積と公開
- 第13回 データベースの構築と情報公開の体制整備
- 第14回 博物館教育における学芸員の役割
- 第15回 まとめと課題
- 第16回 試験

2012年度以降入学生用 博物館情報・メディア論

2011年度以前入学生用 博物館情報・メディア論

学期 前期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 須曾野 仁志

授業の概要 博物館における情報とはどのようなものがあるか、情報化社会での博物館の役割、博物館活動を進める上でのメディア活用について、講義だけでなく、学習者が実際にプレゼンテーションを行ったり、デジタルストーリーテリングの手法で作品制作することにより、体験的に学んでいく。

学習の目的 博物館における情報活用や博物館におけるメディア活用の方法と技術について知り、メディア社会に積極的に参画できる実践的な知を身につける。

学習の到達目標

・博物館における情報とはどのようなものが

あるかを知る。

・情報化社会での博物館の役割、博物館活動を進める上でのメディア活用についてわかるようになる。

・博物館教育におけるプレゼンテーションやデジタルストーリーテリングの技法を具体的に習得する。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 指導力・協調性

教科書 特に使用しない。

オフィスアワー 毎週月曜日 16:20-17:50、教育学部附属教職支援センター須曾野研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 講義 博物館における情報

博物館における情報提供は、近代的な博物館設立当初からの主要な役割であり、情報化社会の中ではますます重要となっている。「博物館における情報とは」という問いを考えてみる。

第2回 講義・実習 「1枚の写真の提示方法と情報提示機器の活用」

「小さな1枚の写真をどのように大勢の人に見せるか」についてアイデアを出し合い、情報をどのように提示するかについての方法と技法について学ぶ。

第3回 講義・演習 博物館におけるプレゼンテーションの方法と技術

博物館において、どのように展示物を見せるかや、情報を提示するかについて、プレゼンテーションの方法や技術を知り、実際にグループでミニプレゼンテーションを行う。

第4回 講義 博物館活動の情報化とメディアの活用

博物館活動における情報化の進展とメディアの活用について講義する。

第5回 講義 メディア論の系譜

19世紀、20世紀と、メディアがどのように発展し、活用されてきたかを振り返り、21世紀におけるメディア社会において、新しい時代に対応したメディア論について講義する。

第6回 講義 静止画と動画の活用

博物館教育において、静止画と動画をどのように活用するかについて考え、グループでそれらのメリットとデメリットについて話し合う。また、それらを博物館活動でどのように活かすかを検討する。

第7回 講義 博物館と情報通信技術

博物館において、どのような情報通信技術が活用されているか、実例を知る。

第8回 講義・演習 博物館における情報発信

博物館において、どのように情報発信されているかや、来館者による発信型学習をできるかを考え、情報発信のあり方や内容を知る。

第9回 講義・演習 デジタルストーリーテリングとは何か

コンピュータ上で静止画(写真や絵など)を自分自身のナレーションでつないでいくデジタルストーリーテリングの手法について紹介

し、制作方法について学ぶ。

第10回 演習 デジタルストーリーテリングの制作(1)

博物館に関すること（例「私の博物館の思い出」「おすすめの博物館」等）で、約2分間のデジタルストーリー作品を作る

第11回 演習 デジタルストーリーテリングの制作(2)

第10回の続き、特に、デジタルストーリーテリングにとり組む上での著作物や著作権について留意する。

第12回 演習 デジタルストーリーの発表

制作したデジタルストーリー作品の発表会を開き、授業参加者同士で作品から学び合う。

第13回 講義・演習 博物館とメディアリテラシー

博物館学芸員が必要とするメディアリテラシーについて考える。博物館における著作権問題や情報モラルについても取り上げる。

第14回 講義・演習 博物館教育とメディア

博物館における教育活動を進める上で、メディアが果たす役割と利用について考える。

第15回 講義 21世紀メディア社会における学習
授業全体をふり返り、メディア論の構図を整理した上で、博物館における「学習」を振り返る。21世紀メディア社会で、いかに学ぶかについて、考え、学習してきたことをまとめる。

2012年度以降入学生用 **博物館実習（学内実習）**

Museum Practice (Preliminary and follow-up guidance)

2011年度以前入学生用 **博物館実習（学内実習）（博物館実習（事前・事後指導））**

Museum Practice (Preliminary and follow-up guidance)

学期 前期 **開講時間** 水 5, 6, 7, 8 **単位** 2 **対象** 3年次以降に受講可能であるので、2年次の資格単
位取得希望者は来年度以降当該科目を受講すること。 **年次** 学部(学士課程): 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

他学部の学生の受講可 **他学科の学生の受講可**

担当教員 清水 みき(非常勤講師)

授業の概要 博物館学芸員として必要な心構えと知識を、博物館見学や技術実習を通して学ぶ。

学習の目的 学芸員として身につけておくべき基礎的な知識・技術を習得する。

学習の到達目標 学芸員資格の取得

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 指導力・協調性

受講要件 学芸員資格を取得する意志のある者。

予め履修が望ましい科目 考古学・文化財学概論A・B、博物館資料保存論、博物館経営論を受講済みであることが望ましい。

発展科目 各博物館における実習

教科書 授業に必要な資料はプリントして配布する。

成績評価方法と基準 授業・実習への参加度、課題に取り組む姿勢、レポートの総合評価。

オフィスアワー 申し出があれば別途時間を指定する。

その他

学外実習を土・日曜に行うことがある（3回程度）。

人文科学系と自然科学系に分かれて授業を行うことがある。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 オリエンテーション

第2回 学芸員に求められるもの

第3回 三翠会館の見学と資料の取り扱い実習（その1）

第4～14回 博物館施設の見学と事前・事後学習

・必要に応じて人文科学系と自然科学系に分かれて実習することがある

・各博物館施設の見学後にテーマに沿ったレポートを提出すること

第15回 資料の取扱実習（その2）

第16回 試験

2012年度以降入学生用 **図書館制度・経営論** Library Policy & Management
2011年度以前入学生用 **図書館制度・経営論 (図書館経営論)**

Library Policy & Management (Library Administration)

学期 前期集中 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴**
グループ学習の要素を加えた授業 **他学部の学生の受講可**

担当教員 星野 雅英(非常勤講師)

授業の概要 経営のより多くの事例、統計的な数値を元にした分析例を示しながら、図書館の経営計画から日常的な運営までを概観し、図書館制度の解説と図書館経営の理論と実際について基本的な解説を行う。さらに、現在の図書館制度や図書館経営の課題、今後の図書館の展開なども解説する。

学習の目的 図書館経営の具体的な事例や統計的な数値の分析例から、図書館制度や図書館経営における課題、今後の図書館の望ましい展開を考察できることを目標とする。

学習の到達目標 図書館の経営は図書館制度としての国や自治体の行政・政策の強い影響を受けること、何よりも利用者のための図書館経営であることを理解し、幅広い視野を養うことを目指す。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力

受講要件 図書館について基礎的な知識があること。EXCELで基本的なグラフであれば自在に作成できること。

予め履修が望ましい科目 図書館・情報学概論A・B

教科書 なし。プリント及び統計データ(CD)を配布する。

成績評価方法と基準

60点以上が合格。配点(共同討議 30点 レポート・試験 70点)
6回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。

オフィスアワー 授業開始時に示す。

その他 統計データを使った演習と分析を行うのでUSBドライブを持参すること(ただし、総合処理センター等の個人フォルダを使用してもよい)。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 授業の進め方 転換期の図書館
- 第2回 図書館経営の資源 (1) 現状 予算
- 第3回 図書館経営の資源 (2) 組織と職員/資源の課題
- 第4回 統計データからみた中規模図書館の実態
- 第5回 図書館制度と図書館経営 (1) 図書館法 図書館制度
- 第6回 図書館制度と図書館経営 (2) 著作権法と図書館サービス
- 第7回 図書館ネットワークの構築と実際
- 第8回 図書館経営の実際 (1) 課題の分析

- 第9回 図書館経営論 (基礎) (1) 経営論の意義と概要
- 第10回 図書館経営論 (基礎) (2) 経営論入門 / 評価とマーケティング
- 第11回 図書館施設と設備
- 第12回 図書館経営の実際 (2) 課題解決の提案
- 第13回 図書館経営の実際 (3) 課題解決の提案と討議 (1)
- 第14回 図書館経営の実際 (4) 課題解決の提案と討議 (2)
- 第15回 試験(資料持ち込みなし)
- 第16回 まとめ

2012年度以降入学生用 **情報メディアの活用**

Information literacy and information media

2011年度以前入学生用 **情報メディアの活用** Information literacy and information media

学期 前期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 三根 慎二 (人文学部)

授業の概要

高度情報通信社会において、学校図書館には、児童・生徒が学習に必要な情報を収集・選択・活用できる機能を有した学習情報センターとしての役割が期待されている。そして、この学校図書館を運営する司書教諭には、学校図書館を活用したさまざまな学習活動の中心的な役割が期待されるのと同時に、コンピュータの活用をはじめとする学校の情報化の担い手としての役割も求められている。

本授業では、司書教諭のこうした新しい役割を認識し、コンピュータをはじめとする学校図書館における多様な情報メディアの特性とその活用方法について、総合的に学習する。

学習の目的 到達目標に上げた各項目について、相互に結びつけ体系的に理解することを目的とする。

学習の到達目標

学校および学校図書館における情報メディアの特性とその活用法について、総合的に理解する。具体的には、次に掲げることを到達目標とする。

- 1) 学校および学校図書館における司書教諭の役割を理解する。
- 2) 学校および学校図書館で扱う情報メディアの種類と特性を理解する。
- 3) 情報検索の基本的技術を身につける。
- 4) 検索エンジンを利用した情報検索法を身につける。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1) オリエンテーション
- 2) 学校教育における学校図書館と司書教育の役割
- 3) 情報メディアの特性

- 5) インターネット上の情報源の特徴を理解する。
- 6) インターネットを基盤とする情報社会の利点と課題を理解する。
- 7) 学校および学校図書館における著作権の基礎的知識を身につける。
- 8) プレゼンテーションの方法を身につける。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 特に使用しない。

成績評価方法と基準 期末レポート、授業中に行う小テスト、課題の達成状況などにより、総合的に評価する。

オフィスアワー 第1回目の授業で指示する。

その他

第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、履修を希望する者は、必ず出席すること。

講義で使用したスライドや講義関連の連絡は全てMoodleで行うで、受講生はオリエンテーションでの配布資料に基づいて必ず登録を行うこと。

- 4)-5) 学校図書館と情報技術1
- 7) 学校図書館と情報リテラシー
- 8) 学校図書館からの情報発信
- 9) 学校図書館と著作権
- 10) インターネットの仕組み

11)データベースの検索と利用1
12)データベースの検索と利用2

13)-14)個人発表
15) まとめ

2012年度以降入学生用 **図書館情報技術論**

Library Services and Information Technology

2011年度以前入学生用 **図書館情報技術論**

Library Services and Information Technology

学期 後期 開講時間 水 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 三根 慎二 (人文学部)

授業の概要 現在, 図書館の運営管理およびサービス提供において, コンピュータやインターネットに代表される情報技術は必要不可欠なものになっている。本講義では, 図書館運営管理・サービスの基盤となっている各種情報技術およびサービスを解説するとともに, 最近の動向を紹介する。さらに, 実際に, 図書館における情報技術の扱いが問題となったいくつかのケースをもとに, 図書館における情報技術の位置づけや図書館員の役割についても検討を行う。

学習の目的

- ・図書館の運営管理およびサービス提供において必要不可欠な情報技術について基本的特性を体系的に理解する
- ・実際に提供されている様々な情報技術を活用した図書館サービスを評価できる知識を獲得することを目的とする

学習の到達目標

- ・図書館の運営管理およびサービスにおいて利用されている各種情報技術の基本的特徴・役割を理解する
- ・これらの知識に基づき, 実際に提供されている各種サービスを比較検討し評価できるようになる
- ・自ら情報技術を活用した新しいサービスを提案できるようになる

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門

知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 本科目は, 2012年以降入学者を対象としたものである。対象外の学生が単位を取得しても司書科目の単位としては認められないので, 注意すること(受講自体は可能)。

予め履修が望ましい科目 図書館・情報学概論A, 図書館サービス論

教科書 上田修一, 倉田敬子編. 図書館情報学. 勁草書房, 2013

成績評価方法と基準 講義内容に対するコメント・質問 (10%), 授業内課題 (30%), 期末試験 (60%) により, 総合的に評価する(合計が60%以上で合格)。

オフィスアワー 最初の授業で指示する

その他

コンピュータ, データベース, インターネットなど情報通信技術について基本的内容を扱うが, 授業内容を理解し進行について行くためには, 教科書および参考情報源を用いて予習復習を必ず行うことが求められる。

本授業は, 図書館司書科目の必修科目であり, 原則として隔年開講である。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス
2. 図書館と情報技術
図書館の電算化の歴史
図書館業務システム, OPAC, ディスカバリーサービスなど

- 電子コンテンツ
オンラインデータベース, 電子書籍, 電子ジャーナルなど
3. ウェブ関連技術・サービスの基盤とサービスの代表例
ハードウェア

コンピュータ，スマートフォン，タブレット
ネットワーク
インターネット，WWW
利用者
デジタルネイティブ，Generation Y
サービス
検索エンジン，クラウド，ソーシャルメディア
(Facebook，Twitter，Youtube)，機関リ

ポジトリ

4.図書館/情報技術/社会との接点

以下のような図書館と情報技術との関係が問
われた実例をもとに，受講者による発表形式
でディスカッションを行う

1.Librahack事件，2.三重県立図書館 個人情報
漏洩事件など

2012年度以降入学生用 **学校経営と学校図書館**

School Administration and School Library

2011年度以前入学生用 **学校経営と学校図書館**

School Administration and School Library

学期 後期 **開講時間** 月 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

授業の特徴 Moodle **他学部の学生の受講可**

担当教員 木幡 智子(非常勤講師)

授業の概要 学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、具体的な成功事例を紹介し学習する。

学習の目的 学校で行われる教育活動全体の中で学校図書館が担う役割や位置づけを理解し、学校経営における学校図書館の重要性について考察する。

学習の到達目標 学校図書館に関わる基礎的な知識を習得する必要がある。学校図書館の理念、学校図書館政策、教育行政、歴史的な展開等を踏まえ、学校図書館を学校教育・学

習指導において活用するための方策について考え、提案できる力を養成する。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 使用しない。適宜教材資料等を配布する。

成績評価方法と基準 筆記試験およびレポート等により総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 ガイダンス：学校図書館像
- 第2回 学校図書館の理念と教育的意義
- 第3回 生涯学習社会における学校図書館
- 第4回 学校図書館の歴史的経緯 (1)
- 第5回 学校図書館の歴史的経緯 (2)
- 第6回 教育行政と学校図書館
- 第7回 学校図書館経営
- 第8回 学校図書館専門職員 (1)：資質・役割・法的位置づけ

- 第9回 学校図書館専門職員 (2)：養成・研修
- 第10回 メディアセンターとしての学校図書館
- 第11回 学校図書館活動 (1)：図書館利用教育、読書教育
- 第12回 学校図書館活動 (2)：調べ学習、教科との連携
- 第13回 学校図書館プログラム
- 第14回 図書館協力とネットワーク
- 第15回 課題と展望

2012年度以降入学生用 **学校図書館メディアの構成**
Collection development and management for school libraries
2011年度以前入学生用 **学校図書館メディアの構成**
Collection development and management for school libraries

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義

授業の特徴 Moodle 他学部の学生の受講可

担当教員 木幡 智子(非常勤講師)

授業の概要 高度情報社会における児童生徒の学習環境は変化している。学校図書館メディアを活用する機会がより多くなっていることから、司書教諭としての責務を認識する必要がある。そのようなことから、本科目では、学校図書館メディアの構成に関する理解と実務能力の育成を目的とする。

学習の目的 学校図書館に優れたコレクションを構築するために、資料の選択・収集をはじめとして、維持・発展のための適正な更新・廃棄といった基本的事項の理解を図る。また、資料の組織化に関する意義を認識し、その構築に向けた意欲的な取り組みが行えるようにする。

学習の到達目標

- 1 学校図書館のメディアが児童生徒の学習活動や教員の学習指導に果たす教育的意義と役割を認識する。
- 2 各種メディアの種類と特性を知る。

3 学校図書館メディア構成の維持と発展を支えるものとして、その選択・収集・更新・廃棄について、基準内容を理解する。

4 学校図書館メディアの組織化の意義と分類法、目録法および装備、排架について理解する。”

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 使用しない。適宜教材資料等を配布する。

成績評価方法と基準 筆記試験およびレポート等により総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 情報化社会における学校図書館メディア
2. 学校図書館におけるメディアの種類と特性
3. 学校図書館メディアの構築
4. 学校図書館メディアの収集方針と選択
5. 学校図書館メディアの組織化の意義と展開
6. 学校図書館メディアの組織化 (1) 記述目録法
7. 学校図書館メディアの組織化 (2) 記述目録法
8. 学校図書館メディアの組織化 (3) 主題目録法: 分類

9. 学校図書館メディアの組織化 (4) 主題目録法: 分類
10. 学校図書館メディアの組織化 (5) 主題目録法: 件名
11. 学校図書館メディアの組織化 (6) 主題目録法: 件名
12. 学校図書館メディアの組織化 (7) メタデータ
13. 学校図書館メディアのコンピュータ目録
14. 情報ファイル資料の構成
15. これからの学校図書館メディアの組織化

授業の概要 行書の基本と応用

学習の目的 行書の基本技法の習得及び古典の臨書や鑑賞を通していろいろな書風を学び、正しい知識と技法で書写指導ができる力を養う。

本学教育目標との関連 感性, 専門知識・技術, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

【前期】

- ・オリエンテーション
- ・行書の歴史について
- ・用具を知ろう
- ・基本線を学ぼう①
- ・基本線を学ぼう②
- ・基本線を学ぼう③
- ・基本線を学ぼう④
- ・目標を一文字に表そう
- ・字形を学ぼう①
- ・字形を学ぼう②
- ・字形を学ぼう③
- ・古典を学ぼう①
- ・古典を学ぼう②
- ・古典を学ぼう③
- ・落款印を作ろう

【後期】

受講要件 個人が準備するもの...書道用具一式【半紙、筆〈大・小〉、硯、文鎮、下敷、墨〈墨液も可〉】

教科書 毎時、私製の教材資料を配付する。

成績評価方法と基準 提出作品、レポート、出席状況、授業態度等で総合的に評価する。

オフィスアワー 授業開始前・後に質問を受ける時間を設ける。

- ・古典を学ぼう①
- ・古典を学ぼう②
- ・古典を学ぼう③
- ・木札に書こう
- ・仮名を学ぼう①
- ・仮名を学ぼう②
- ・大字に挑戦しよう
- ・行書と仮名を調和させて書こう①
- ・行書と仮名を調和させて書こう②
- ・書き初めに挑戦しよう
- ・細字を学ぼう①
- ・細字を学ぼう②
- ・揭示物を書こう
- ・作品を書こう①
- ・作品を書こう②

○中学校書写の教科書に準じた実技学習と指導方法・評価のあり方など

2011年度以前入学生用 **児童サービス論**

2012年度以降入学生用 **児童サービス論**

学期 前期集中 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 4年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **他学部**の学生の受講可

担当教員 増田喜昭(非常勤講師)

Children's service

Children's service

授業の概要 児童の発達と学習における読書の役割を考える。絵本、児童文学の歴史や理念、作家論、作品論などを通して、現代の読書教育につなげる。国内や海外で行われている、読書指導の在り方、サービスとしての図書館の活用など、絵本と児童文学の必要性を学ぶ。

学習の目的 児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と読書の役割を知る。年齢に応じた読書のサービス、その方法や選書について学ぶ。絵本・児童文学の現状を知り、図書館や学校における読書活動（読み聞かせや、ブックトークの実践）の演習を

体験する。

学習の到達目標 児童文学の知識と子どもと本をつなぐ必要性と方法を身に付ける。

本学教育目標との関連 共感、専門知識・技術、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 絵本、児童文学、小説等、本に興味関心を持ち、手にとる習慣をもつ。

教科書 松岡享子 著 『子どもと本』（岩波新書）

成績評価方法と基準 論文、またはレポート

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.言葉の発達と読書①
- 2.言葉の発達と読書②
- 3.絵本と遊び①遊びとしての読書
- 4.絵本と遊び②読み聞かせの実践
- 5.絵本の歴史①外国編
- 6.絵本の歴史②国内編
- 7.幼年文学について

- 8.児童文学について①
- 9.児童文学について②
- 10.子どもと本をつなぐ①
- 11.子どもと本をつなぐ②
- 12.学校・学校図書館の活動①
- 13.学校・学校図書館の活動②
- 14.総論①
- 15.総論②

日本語読解演習

Seminar of Japanese Reading

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤本 久司 (人文学部文化学科)

授業の概要 人文科学、社会科学に関する多様な文章を読み、理解・考察を深め、要約・意見・感想を述べ、必要に応じてレポートにまとめる。

学習の目的 留学生が日本語で、人文科学、社会科学に関する参考文献、資料、論文などを読み解く力、その理解に必要な知識、適切な表現法を身につけることを目的とする。

学習の到達目標 当研究科で専攻する分野の調査研究と文章作成に必要で十分な日本語力をつける。

本学教育目標との関連 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 留学生を対象とする。

教科書

[テキスト] なし

[参考書] 授業でコピーを配布する。

成績評価方法と基準 授業態度20%、授業におけるレポート・その他の課題作成80%、計100% (合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 基本的に授業時間以外、訪問等は自由とする。

その他 受講院生の専門や希望を考慮し、教材を選ぶ。

授業計画・学習の内容

学習内容

1~10回 各専門分野のテーマを含んだレポート、論文、随筆、WEB資料、新聞雑誌の記事等を読む。理解レベル・要約能力の確認と

ディスカッション、意見発表など。

11~15回 専門分野に関する文章を基にしたタスク。提示した文章を題材にして、レジュメ、要約文、説明文、意見文などの作成と発表。

日本語会話演習

Seminar of Japanese Conversation

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤本 久司 (人文学部文化学科)

授業の概要 日本語上級会話の教材を主に用い、大学院生が実際の授業や研究生生活の中で要求される日本語の表現力、理解力を高める内容とする。

学習の目的 専門分野の質疑、討論、意見交換、発表など様々な場面に必要な表現能力とともに、研究や日常生活で不可欠の自然な日本語会話を身につける。

学習の到達目標 当研究科や学会などでの研究や発表、また大学院生としての生活全体に必要な日本語での口頭表現能力を伸ばし、ネイティブに近い会話を身につける。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・

技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報発信力、討論・対話力、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 留学生を対象とする。

教科書

[テキスト]なし

[参考書] 適時コピーを配布する。

成績評価方法と基準 授業態度20%、授業における課題作成・発表など80%、計100% (合計60%以上で合格)

オフィスアワー 基本的に授業時間以外、訪問等は自由とする。

授業計画・学習の内容

学習内容

1~5回 専門分野に関わる教材を基にした討議、発表など

6~15回 上記、及び、様々な場面によって使われる日常的な日本語上級レベルの会話

日本近世史特講

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義
担当教員 塚本明 (人文学部文化学科)

授業の概要 近世社会の特質を、村で作成された古文書の分類、機能、伝来などの理解を通して検討する。

学習の目的 古文書を解読し、内容を理解する。近世の社会構造の理解を深める。

学習の到達目標 古文書を解読し、内容を理解する能力を得る。近世の社会構造の理解を深められる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 崩し字の基礎的な解読能力を有すること。

授業計画・学習の内容

学習内容 1～15 近世社会の構造、古文書の分類、機能、伝来に関する分析。

日本近世史料論特講

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 塚本明 (人文学部文化学科)

授業の概要 近世古文書学の観点から、史料の作成過程・機能・伝来について検討する。

学習の目的 古文書を解読し、内容を理解する。江戸時代の史料の特質を検討する。

学習の到達目標 古文書を解読し、その内容及び江戸時代の史料の特質を理解できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モ

チベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 崩し字の基礎的な解読能力を有すること。

授業計画・学習の内容

学習内容 1～15 近世の古文書の作成過程・機能・伝来についての検討。

日本中世史特講

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 山田 雄司 (人文学部)

授業の概要 『続日本後紀』の輪読を行います。

学習の目的 どのようなことが問題なのか自ら問題を発見し、厳密な史料解読により問題を解決していく能力を養います。

学習の到達目標 修士論文を書くにあたっての、史料読解力、論理的思考力を養います。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

成績評価方法と基準 授業での発表

オフィスアワー 木曜日13:30~14:30、場所山田研究室

その他 夜間の授業は隔週で行います。

授業計画・学習の内容

学習内容 前年に引き続き『続日本後紀』の輪読を行います。

日本中世史演習

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 山田 雄司 (人文学部)

授業の概要 日本中世史の諸問題、とりわけ宗教史について、修士論文作成に資するような論文の講読を行います。

学習の目的 どのようなことが問題なのか自ら問題を発見し、厳密な史料解読により問題を解決していく能力を養います。

学習の到達目標 修士論文を書くにあたっての、史料読解力、構成能力、論理的思考力を養います。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

成績評価方法と基準 授業での発表

オフィスアワー 木曜日13:30~14:30、場所山田研究室

その他 何をしていくかは、参加者の興味で決定します。夜間の授業は塚本先生の授業と隔週で行います。

授業計画・学習の内容

学習内容 修士論文作成に向けて、先行論文を精読し、その問題点について検討してい

ます。毎回発表レジュメの準備をしてもらいます。

アメリカ史特講

American History

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義
担当教員 森脇由美子 (人文学部)

授業の概要 アメリカ史研究の課題と方法

専門知識・技術, 批判的思考力, 実践外国語力

学習の目的 アメリカ史研究の現状と課題について理解を深め、自らの研究の中で応用する能力を養う。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 アメリカ史演習

学習の到達目標 アメリカ史研究を行う方法論を身につける。

教科書 授業中に指示する。

成績評価方法と基準 平常点

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力,

オフィスアワー 火曜日12:00~12:30

授業計画・学習の内容

学習内容

アメリカ史上の諸問題について、近年の研究

動向に触れながら考察していく。

テキストは最初の時間に指示する。

ヨーロッパ史演習

Seminar on European History

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一

授業の概要 メタヒストリーや歴史思想について検討する。

学習の目的 歴史学の研究における実証、理論、歴史観の関係について認識する。

学習の到達目標 研究の到達状況や論点を把握する。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探

求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 欧州の歴史に関する基本的知識を有していること。

教科書 別途指示する。

成績評価方法と基準 授業への貢献度（研究発表の内容、発言の水準等）を総合的に判断する。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 受講者との打ち合わせ

第2回～第15回 指名した研究発表担当者によるプレゼンテーションを中心に、参加者全員で

議論する。

研究対象としての歴史というものへの向き合い方について、欧州や日本などにおける思索を通じて共に考える。

ヨーロッパ史特講

European History

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一

授業の概要 ドイツ語文献を手がかりに、第二帝政期以降のドイツ行政史について検討する。

学習の目的 ドイツ官吏制度の仕組みと発展を理解する。

学習の到達目標

ドイツ語で書かれた史学文献の読解に習熟する。

近現代ドイツ行政史の基本構造を把握する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力

受講要件

ドイツ近現代史の基礎知識を有していること。

専門文献を読むことができるドイツ語能力を有していること。

教科書 Hans Hattenhauer, Geschichte des Beamtentums, 1980 など。

成績評価方法と基準 研究発表の内容、発言の水準・頻度などを総合的に判断する。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 参加者との打ち合わせ

第2回～第15回 文献の輪読

ヨーロッパ史料論特講

European Historical Materials

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一

授業の概要 メタヒストリーや歴史思想について検討する。

学習の目的 歴史学の研究における実証、理論、歴史観の関係について認識する。

学習の到達目標 研究の到達状況や論点を把握する。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 受講者との打ち合わせ

第2回～第15回 指名した研究発表担当者によるプレゼンテーションを中心に、参加者全員で

受講要件

欧州の歴史に関する基本的知識を有していること。

原則として、本年度前期開講の「ヨーロッパ史演習」を履修済であること。

教科書 別途指示する。

成績評価方法と基準 授業への貢献度（研究発表の内容、発言の水準等）を総合的に判断する。

議論する。

歴史というものに向き合うということに関して、どのような思索が行われてきたかを、欧州や日本における業績を通じて共に学ぶ。

ヨーロッパ史料論演習

Seminar on European Historical Materials

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一

授業の概要 ドイツ行政史について、ドイツ語の史料集を題材に共に考える。

学習の目的 近代ドイツ行政史について専門的知識を得る。

学習の到達目標 ドイツ語史料へのアクセス力を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力

受講要件

ドイツ近現代史に関する基礎知識。
専門文献を読むことができるレベルのドイツ語力。

教科書 Grundriss zur deutschen Verwaltungsgeschichte 1815-1945, 22 Bde.等。

成績評価方法と基準 レジユメの内容、発言の水準・頻度など授業への貢献度を総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 参加者との打ち合わせ

第2回～第15回 史料の輪読

美術論特講Ⅰ

Art History

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤田伸也

授業の概要

中国文化を絵画史の視点から理解する。

『中国山水画の誕生』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳）を読みながら、中国美術の諸問題を考察していく。

学習の目的

中国山水画の概略を理解する。

中国文化における絵画の重要性を把握する。

学習の到達目標

中国絵画の特質を理解し、西洋絵画との相違を理解する。

日本絵画に与えた中国絵画の影響を指摘できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

『中国山水画の誕生(原題: The Birth of Landscape Painting in China)』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳, 1995年, 5,040円）を読み、中国絵画史を理解する。受講生の分担発表を中心とし、随時解説講義を加えてい

発展科目 美術論演習Ⅰ

教科書 『中国山水画の誕生』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳, 青土社, 1995年）

成績評価方法と基準 発表と積極性70%、レポート30%。

オフィスアワー 毎週月曜日12:00～14:30、火曜日10:30～12:30／藤田研究室（共通教育2号館2階）

その他

大阪・京都・奈良などの日帰り圏内で、美術館や寺院の見学を行う場合がある。

その際の交通費・入館料等は各自の負担となる。また学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

く形式で授業を進める。

〔授業計画〕

第1回 授業の概要説明

第2～3回 中国絵画史入門

第4～14回 テキスト講読（学生発表）

第15回 まとめ

美術論演習Ⅰ

Art History

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤田伸也

授業の概要

中国文化を絵画史の視点から理解する。

前期科目「美術論特講Ⅱ」に引き続き『中国山水画の誕生』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳）を読みながら、中国美術の諸問題を考察していく。

学習の目的

中国山水画の概略を理解する。

中国文化における絵画の重要性を把握する。

学習の到達目標

中国絵画の特質を理解し、西洋絵画との相違を理解する。

日本絵画に与えた中国絵画の影響を指摘できるようにする。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考

える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 美術論特講Ⅰ

教科書 『中国山水画の誕生』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳、青土社、1995年）

成績評価方法と基準 発表と積極性70%、レポート30%。

オフィスアワー 毎週月曜日12:00～14:30、火曜日10:30～12:30／藤田研究室（共通教育2号館2階）

その他

大阪・京都・奈良などの日帰り圏内で、美術館や寺院の見学を行う場合がある。

その際の交通費・入館料等は各自の負担となる。また学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

授業計画・学習の内容

学習内容

前期科目「美術論特講Ⅱ」に引き続き、『中国山水画の誕生(原題：The Birth of Landscape Painting in China)』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳、1995年、5,040円）を読み、中国絵画史を理解する。受講生の分担発表を中心とし、随時解説講義を加えていく形

式で授業を進める。

〔授業計画〕

第1回 授業の概要説明

第2回 中国絵画史の諸相

第3～14回 テキスト講読（学生発表）

第15回 まとめ

日本思想文化論特講 I

Japanese Philosophy I

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義

担当教員 遠山 敦 (人文学部)

授業の概要 伊藤仁斎『孟子古義』を読解し、朱子学との対比などからその思索の特質を理解する。

学習の目的 伊藤仁斎『孟子古義』の読解を通じて、宋学との対比などからその思想的特質を理解することができるようになる。

学習の到達目標 伊藤仁斎の『孟子』解釈の概要について、理解することができるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 中国思想文化論特講、中国思想文化論演習

教科書 開講時に指示する。

成績評価方法と基準 毎時間課すレポートで評価する。

オフィスアワー 金曜日7-8限

授業計画・学習の内容

学習内容

伊藤仁斎『孟子古義』の問題点について解説を加えていく。

なお受講にあたっては漢文の基本的な読解力を求める。

日本思想文化論演習 I

Seminar in Japanese Philosophy I

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 遠山 敦 (人文学部)

授業の概要 伊藤仁斎『孟子古義』を読解し、朱子学との対比などから、その思索の特質を理解する。

学習の目的 伊藤仁斎『孟子古義』の読解を通じて、宋学との対比などからその思想的特質を理解することができるようになる。

学習の到達目標 伊藤仁斎の『孟子』解釈の概要について、理解することができるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 中国思想文化論特講、中国思想文化論演習

教科書 開講時に指示する。

成績評価方法と基準 毎週課すレポートによって評価する。

オフィスアワー 金曜日7-8限

授業計画・学習の内容

学習内容

毎時間、テキストの予め指定された範囲について、発表形式で授業を行う。

なお受講者には漢文についての基本的な読解力を求めるので、受講の際は注意すること。

中国思想文化論特講Ⅰ

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

担当教員 片倉 望 (人文学部文化学科)

授業の概要 先秦諸子の集大成者として登場した荀子の思想を体系的に把握し、先秦諸子研究のための新しい座標軸を模索する。その際、彼の思想の論理構造、とりわけ、西洋論理とは異なる呪術の論理の分析を方法論として用いることとしたい。

学習の目的 漢文が読めるようになる。

学習の到達目標 東洋思想の構造を理解する。

教科書 テキスト：南宋台州刊本『荀子』 参考文献：王先謙『荀子集解』

成績評価方法と基準 授業態度等40%、レポート60%

オフィスアワー 授業の後

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 『荀子』の書誌学的研究
- 第2回 『荀子』の思想Ⅰ 世界観（天と人間）天論篇を資料として
- 第3回 『荀子』の思想Ⅱ 世界観（天と人間）不苟篇を資料として
- 第4回 『荀子』の思想 世界観（性善と性悪）『墨子』との比較
- 第5回 『荀子』の思想 世界観（性善と性悪）『荘子』との比較
- 第6回 『荀子』の思想 人間観（性善と性悪）勸学篇を資料として
- 第7回 『荀子』の思想 人間観（性善と性悪）性悪篇を資料として
- 第8回 『荀子』の思想 人間観（性善と性悪）解

蔽篇を資料として

- 第9回 『荀子』の思想 人間観（性善と性悪）『孟子』及び『性情論』との比較
- 第10回 『荀子』の思想 社会観（礼義と刑罰）礼論篇を資料として
- 第11回 『荀子』の思想 社会観（礼義と刑罰）議兵篇を資料として
- 第12回 『荀子』の思想 社会観（礼義と刑罰）墨家との比較（欲望の把握を巡って）
- 第13回 『荀子』の思想 社会観（礼義と刑罰）法家との比較（欲望の把握を巡って）
- 第14回 『荀子』の思想 国家観（王道と霸道）王制篇を資料として
- 第15回 『荀子』の思想 国家観（王道と霸道）『韓非子』の国家観との比較

中国思想文化論演習Ⅰ

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習
担当教員 片倉 望 (人文学部文化学科)

授業の概要 皮錫瑞の『経学歴史』を精読し、中国学研究に必要な知識を広め、同時に、公羊学の思想的位置についても考察を加えていく。なお、本演習は本格的な漢文読解能力をつけることを目的とするため、一回の演習で10ページ程度の漢文を読むことがある。

学習の目的 本格的に漢文が読めるようになる。

る。

学習の到達目標 中国思想史が理解できるようになる。

教科書 参考文献：皮錫瑞『経学通論』

成績評価方法と基準 受講態度等40%、レポート60%

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 『経学通論』の意義、及び演習の進め方について

第2回 『経学通論』序 購読

第3回 『経学通論』第一冊 易論 講読Ⅰ

第4回 『経学通論』第一冊 易論 講読Ⅱ

第5回 『経学通論』第一冊 書論 講読Ⅰ

第6回 『経学通論』第一冊 書論 講読Ⅱ

第7回 『経学通論』第二冊 詩論 講読Ⅰ

第8回 『経学通論』第二冊 詩論 講読Ⅱ

第9回 『経学通論』第二冊 詩論 講読Ⅲ

第10回 『経学通論』第三冊 三礼論 講読

第11回 『経学通論』第三冊 三礼論 講読

第12回 『経学通論』第三冊 三礼論 講読

第13回 『経学通論』第四冊 春秋論 講読Ⅰ

第14回 『経学通論』第四冊 春秋論 講読Ⅱ

第15回 『経学通論』第四冊 春秋論 講読Ⅲ

インド思想文化論特講Ⅰ

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義
担当教員 久間泰賢

授業の概要 専門文献の読解を通じてインド
仏教思想に対する理解を深める

学習の目的 インド唯識思想史を概観する

学習の到達目標 インド唯識思想史について
の基本的な知識の習得

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受
発信力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、
コミュニケーション力を総合した力

教科書 授業開始時に指示する

成績評価方法と基準 平常点100%

授業計画・学習の内容

学習内容

インド唯識思想の基本的典籍である『唯識二十論』を講読しながら、唯識思想の基本的概念について考察する。使用テキスト・参考文献については開講時に指示する（使用テキストについては、受講者の希望に沿って適宜変

更することがある）。

第1回：イントロダクション（授業の進め方や使用するテキストについての説明）

第2回～第5回：唯識思想史概説

第6回～第14回：『唯識二十論』講読

第15回：総括

インド思想文化論演習Ⅰ

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 久間泰賢

授業の概要

専門文献の読解を通じてインド仏教思想に対する理解を深める

識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受
発信力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、
コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 インド唯識思想史の個別的問題
の検討

予め履修が望ましい科目 インド思想文化論
特講Ⅰ（前期開講）

学習の到達目標 インド唯識思想史について
の発展的知識の習得

教科書 授業開始時に指示する

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知

成績評価方法と基準 平常点100%

授業計画・学習の内容

学習内容

弥勒著とされている唯識論書『中辺分別論』
を講読し、インド仏教における「中道」の概
念と唯識思想との関係について検討する。使
用テキスト・参考文献については開講時に指
示する（使用テキストについては、受講者の

希望に沿って適宜変更することがある）。
第1回：イントロダクション（授業の進め方や
使用するテキストについての説明）
第2回～第14回：『中辺分別論』講読
第15回：総括

比較文化概論演習 I

Comparative Culture Seminar I

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 グットマンティエリー

授業の概要 『比較政治学』(粕谷祐子)という教科書を精読し、授業での発表・討論を通じてその図書を批評する。

学習の目的 政治という現象を比較の観点から再認識する。本書を題材にして外国の政治文化・制度と比較しながら日本政治の普遍性及び特殊性を把握する。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 なし

教科書 『比較政治学』、粕谷祐子、ミネルヴァ書房、2014年(2800円(税別))

成績評価方法と基準 平常点 50%、発表 50%、計100%

オフィスアワー ほとんど毎日研究室に来ています(人文学部校舎3階)

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回: 日本と他の国の政治に関する意見交換。各受講者が教材のいずれの箇所を担当するか選択した上で発表の順番を決める。

第2回～第14回: 選択した箇所に関する発表や討論

第15回: 14回までの授業の総合まとめを、教員や各受講生の個別発表を通じて行う

比較文化概論特講 I

General Lecture on Comparative Culture I

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 グットマンティエリー

授業の概要 『比較宗教学』(阿部美哉)という著書を精読し、授業での発表・討論を通じてその図書を批評する。

学習の目的 本書においては様々な角度から世界の宗教を比較しながら現象としての宗教が分析されている。本書を題材にして宗教の普遍性及び個性について徹底して考え直す。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総

合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 比較文化概論演習I

教科書 『比較宗教学』、阿部美哉、大法輪閣、2014年(2200円(税別))

成績評価方法と基準 平常点 50%、発表 50%、計100%

オフィスアワー ほとんど毎日研究室に来ています(人文学部校舎3階)

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回: 西洋や日本の宗教文化に関する意見交換。各受講者が教材のいずれの箇所を担当するか選択した上で発表の順番を決める。

第2回～第14回: 選択した箇所に関する発表や討論

第15回: 14回までの授業の総合まとめを、教員や各受講生の個別発表を通じて行う

フィールドワーク論演習

Seminar on the theory of fieldwork

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 立川 陽仁 (人文学部文化学科)

授業の概要 グローバリズム、近代（資本主義システム）について、文献を読み進めていくことで理解する。

学習の目的 グローバリズムや近代資本主義システムについての人類学的な知見を深められる。

学習の到達目標 世界各地のグローバリズムや近代の浸透状況、現地側の受け入れの姿勢などを民族誌的な見地から理解し、その多様性を理解する。また、世間でいわれている一般的なグローバリズム論などに対して批判的な視点から議論ができるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力

授業計画・学習の内容

学習内容

毎回指定されたテキストの1章ずつ進めていく。

英文テキスト使用の場合は、授業1週間前に全

を総合した力

教科書

Eric Wolf, Europe and the People without Historyを使用する予定だが、場合によっては以下の文献を使う可能性もある。

『日常人類学宣言!』松田素二

『開発の人類学』前川啓治

成績評価方法と基準 英語テキストを使用した場合には、履修者には分担箇所の全訳を課す。日本語テキストの場合は分担箇所のレジュメ作成を課す。その内容によって評価をおこなう。

オフィスアワー 火曜と木曜の午後が中心で、その他電気がついている時間。

訳を教員と他の履修者に提出すること。

テキストを読み進めた上で、関連事項についての議論をおこなう。

文化人類学演習

Seminar on cultural anthropology

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 立川 陽仁 (人文学部)

授業の概要 カナダ北西海岸の先住民文化について、英文テキストを読みながら理解をする。テキストはFranz Boas, Indian Myths and Legendsの予定。

学習の目的 カナダの北西海岸先住民の伝統的な文化、神話について理解が深まる。

学習の到達目標 カナダの北西海岸先住民の伝統文化を理解できるだけでなく、著者ボアズの人類的な政治的背景、北米先住民全体の文化などについても理解を深めることができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 討論・対

話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 文化人類学の学説史を理解しておくことが望ましい

予め履修が望ましい科目 文化人類学関連の講義や演習、英語読解に役立つ講義や演習など

教科書 F.Boas, Indian Myths and Legends

成績評価方法と基準 テキストが英語の著作なので、毎回の授業では事前に訳したものを発表してもらう。その訳と議論で評価。

オフィスアワー 木曜の7限目以後

授業計画・学習の内容

学習内容

毎回の授業では、1章ごと進めていく。

担当者が全訳を提示してプレゼンをおこな

い、他の履修者はその訳の成否をチェックする。これらの作業が終わったら内容についてのディスカッションをおこなう。

ミクロ社会論特講

Social Interaction

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 村上直樹 (人文学部)

授業の概要 ミクロな社会的相互作用の中核には、言語的なコミュニケーションがある。

この言語的なコミュニケーションは、一般的には、言語という道具を使用した〈意味〉の交換であると考えられている。しかし、クワインは、単語やそれによって構成される文には、一定の〈意味〉があり、その〈意味〉によって言語はコミュニケーションを可能にしているのだという考え方を否定し、言語的なコミュニケーションに関する新たな見方を提示した。本講義は、このクワインの理論、及びクワインと同じ立場に立っているデイヴィッドソンの言語的コミュニケーションについての理論を検討しようとするものである。

学習の目的 受講院生が、クワインとデイヴィッドソンの理論に関する十分な理解を獲得し、それをふまえて、社会的相互作用に関する自分の理論を展開できるようにする。

学習の到達目標 受講院生が、クワインとデイヴィッドソンの理論に関する十分な理解を獲得できるようにする。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対

話力

受講要件

社会的相互作用や言語的コミュニケーションに関する専門的な知識を前提とした講義なので、登録する前に必ず担当教員に相談すること。

クワイン、デイヴィッドソンの理論に関する基本的な知識、理論的な英語の文章を読みこなす読解力も必要とされる。

発展科目 ミクロ社会論演習

教科書

Quine, Word and Object, MIT Press.

Quine, From a Logical Point of View, Cambridge.

Davidson, Inquiries into Truth and Interpretation, Clarendon Press.

Davidson, Subjective, Intersubjective, Objective, Clarendon Press.

成績評価方法と基準 報告50%、期末レポート50%

オフィスアワー 毎週火曜日12:00～13:00

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：講義の概要説明

第2回～第7回：院生によるQuine, Word and Objectに関する報告

第8回～第13回：院生によるDavidson, In-

quiries into Truth and Interpretationに関する報告

第14回～第15回：クワイン、デイヴィッドソンの理論と社会的相互作用の理論

現代社会論演習

Seminar on Modern Society

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 江成 幸 (人文学部文化学科)

授業の概要

「時間の社会学」の理論書を英語で購読する。

現代社会における時間の概念と文化について、他の時代との比較および相対化により考察する。

学習の目的 原典講読を通じて、社会学理論の枠組みを理解する。

学習の到達目標 西欧における時間概念の理論化を通じ、抽象的対象の分析方法を学ぶ。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力

授業計画・学習の内容

学習内容 1回～15回 原典読解の報告と検討

受講要件 社会学理論にかかわる知識を要する。

予め履修が望ましい科目 社会学の専門科目

教科書

Eviatar Zerubavel. Hidden Rhythms: Schedules and Calendars in Social Life. University of California Press, 1981.

その他、社会学理論の英語文献。

成績評価方法と基準 授業での報告40%、授業での討論30%、期末レポート30%、計100%

オフィスアワー 木曜日7～8限、江成研究室

国際社会学特講

Special Lecture on Transnational Sociology

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 江成 幸 (人文学部文化学科)

授業の概要 グローバル化する現代社会の諸問題について、人の移動と地域社会の再編に関わる分野を中心に概観し、理解を深める。

学習の目的

国際社会学の視点を手がかりに、修士論文の準備を進める。

修士論文に必要な研究手法を学ぶ。

学習の到達目標

国際社会学の課題を探求する能力を身につけることができる。

修士論文の具体的な方向性を授業およびレポートで報告することができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対

話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 社会学および関連分野の基礎知識を備えた者が望ましい。

発展科目 国際社会学演習

教科書

講読テキスト:

玉野和志・三本松正之編『地域社会の政策とガバナンス』東信堂、2006年。

成績評価方法と基準 授業での報告40%、授業での討論30%、期末レポート30%、計100%。

オフィスアワー 木曜日7～8限、江成研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回～第2回 授業の進め方と文献紹介

第3回～第10回 学生の報告にもとづくテキスト

講読

第11回～第12回 レポート作成の方法

第13回～第15回 修論テーマに関する学生の報告

地域構造論演習

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 安食 和宏

授業の概要 人文地理学的な視点より、地域調査（フィールドワーク）をもとにして研究をまとめるための方法論を学ぶ。調査研究の発想、企画、実行、集約、執筆という一連の流れ（プロセス）を、参考文献や学術論文を基に検討する。

学習の目的 人文地理学的な地域調査、フィールドワークの手法を身につける。そして、自分の研究テーマにあわせて具体的な調査を企画できるようになる。

学習の到達目標 人文地理学的な地域調査・研究に必要な基礎的な能力、心構えを身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 地域調査に関する文献・論文の検討

第2回～第8回 参考文献の輪読・・・担当を決めて受講生が内容を紹介する。質疑応答含む。

思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 梶田真・仁平尊明・加藤政洋編 (2007) : 「地域調査ことはじめーあるく・みる・かくー」ナカニシヤ出版。必要部分をコピーして読む。また、とりあげる論文については、学生と相談の上で決める。

成績評価方法と基準 発表内容、参加態度、レポートの総合評価

オフィスアワー 質問は随時受け付ける。

第9回～第14回 学術論文の批判的検討・・・担当を決めて受講生が内容を紹介する。質疑応答含む。

第15回 レポートの発表

文化空間論演習

Seminar in culture and space

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習
担当教員 森 正人

授業の概要 修士論文執筆のための理論構築をめざすために、英語で執筆された理論的文献を講読する

学習の目的 近現代社会の自明化された世界を批判的に読み解くために、英語の理論文献を読んで理解できるようになる。

学習の到達目標 一定水準以上の修士論文を書く、あるいはそのための方法論と理論を理解する。

授業計画・学習の内容

学習内容 発表と討議

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力

教科書 英語で執筆された専門の著書、論文を読む。

成績評価方法と基準 発表内容を考慮する

オフィスアワー とくに設けないが、事前にアポイントメントを取ることが求められる。

文化地理学演習

Seminar of Cultural Geography

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 中川 正

授業の概要 文化地理学の専門研究を行ううえで必要となる手法を学び、各自の研究テーマに適用する方法を実践的に検討する。

探求力

受講要件 特になし

学習の目的 文化地理学の基礎的な方法論を学び、自分の研究テーマに適用することができる。

発展科目 文化地理学特講

教科書 授業で指定する

学習の到達目標 感じる力：20%、考える力：30%、生きる力：30%、コミュニケーション力：20%

成績評価方法と基準 授業における課題40%、報告40%、ディスカッションへの参加度20%

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 課題

オフィスアワー 毎週水曜12:00～13:00

授業計画・学習の内容

学習内容 受講生は、各自文化地理学的研究テーマを設定し、実際に研究を行ううえで必要になってくる文献収集、観察、聞き取り、

データ分析、レポート作成、口頭発表に関する技能をその研究テーマ追求の過程で身につける訓練をする。

地域社会論演習

Seminar of Study on Local Society

学期 前期 開講時間 月 11, 12 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義 授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業,

Moodle

担当教員 児玉克哉 (人文学部文化学科)

授業の概要 地域社会について学んでいく。地域の福祉政策、環境政策、人権政策、多文化社会政策などについて考察する。

学習の目的 学生が社会環境について自ら考え、行動できる力をつける。

学習の到達目標 地域の社会を学習することにより、応用力を高める。三重県のみならず東海地域の実情を学ぶことにより、日本の将来を展望する力をつける。

本学教育目標との関連 共感, モチベーション, 主体的学習力, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 特になし

成績評価方法と基準

出席 40%

発表 60%

オフィスアワー

毎週月曜16:30-18:00 場所：児玉研究室または総合研究棟2の2階児玉共同研究室
念のためメールをしてきてください。kko-dama@human.mie-u.ac.jp

その他 特になし

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス
2. 三重県の社会
3. 三重県の社会
4. 三重県の社会
5. 討論
6. 東海地域の社会
7. 東海地域の社会

8. 東海地域の社会
9. 討論
10. 日本の社会
11. 日本の社会
12. 日本の社会
13. 討論
14. 討論
15. 討論

社会構造論特講

Social Structure

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 永谷 健

授業の概要 「格差社会」の進展やそれにかかわる現代日本の諸問題を考察するには、日本の産業社会の成り立ちやその特質を理解することが重要である。この授業では、とくに経済エリート（富裕な企業経営者や資産家など）に関わるいくつかの社会的なトピックを検討することを通じて、産業社会および「格差社会」の多角的な理解を目指す。講義・解説に受講者の報告も交えた授業形式を予定している。

学習の目的 産業化や工業化を推進してきたこれまでの企業家やトップマネジメントと呼ばれる人たちは、そもそもどのような野心や関心を内面に抱いた人々なのか。また、近現代の社会のなかで、彼らはどのようなポジションを占め、どのような影響力を持ちえるのか。事業経営以外の分野（たとえば文化）と彼らのかかわりは、どのようなものか。彼

らはどのような文化を築き上げようとするのか。様々な社会・経済的事実を参照しながら、これらの点について考察する。

学習の到達目標 産業社会・格差社会に関するいくつかの基本的なトピックについて理解を深める。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 社会構造論演習

教科書 授業の中で指示する。

成績評価方法と基準 レポート 50%、発表 50%、計100%。

オフィスアワー 水曜日12:00~13:00

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 近代社会における実業家・経営者の輩出（心理学的説明）
- 第3回 近代社会における実業家・経営者の輩出（社会学的説明）
- 第4回 冒険的実業家の時代から専門経営者の時代へ1
- 第5回 冒険的実業家の時代から専門経営者の時

- 代へ2
- 第6回 中間まとめ
- 第7回 経営者支配の理論
- 第8回 新しい経済エリート論1
- 第9回 新しい経済エリート論2
- 第10回~第12回 研究報告
- 第13回~第14回 研究報告
- 第15回 総括

社会構造論演習

Seminar on Social Structure

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 永谷 健

授業の概要 現代日本の諸問題を考察するには、日本の階層社会の特徴や歴史的な成立経緯を理解することが重要である。この授業では、とくに近代以降の日本の社会階層（富裕層や中間層、サラリーマン階層など）に関わるいくつかの社会的なトピックを検討することを通じて、日本の階層社会に関する多角的な理解を目指す。受講者による先行研究（専門性の高いもの）の報告、および、受講者による独自の研究報告を中心的に行なう。

学習の目的 近現代日本の社会階層にかかわる重要な論点を知り、その論点をどのように学術的な研究へと発展させていくかについて考察を深める。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 日本の社会階層

第3回～第7回 専門文献の報告

学習の到達目標 近現代日本の階層社会について研究するために必要な知識を習得し、また、研究の方法について具体的に理解する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 地域社会論特講

教科書 授業の中で指示する。

成績評価方法と基準 発表（文献報告あるいは調査報告）50%、レポート50%。

オフィスアワー 水曜日12:00～13:00

第8回 中間まとめ

第9回～第14回 研究報告

第15回 総括

地域社会論演習

Seminar of Local Society

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業

担当教員 児玉克哉 (人文学部文化学科)

授業の概要 この講義では社会環境や国際社会の問題を主として取り上げる。社会環境や国際社会の課題について考察していく。

学習の目的 学生が自ら社会環境について考えることができ、また社会変革への実践力をつけることができるようにする。

学習の到達目標 本授業により、学生は国際的なバランス感覚を養う。グローバル化が進む現代においては、国際社会に対する理解は不可欠であり、そうした理解を学生同士で議論しながら得ていく。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス
2. 日本における環境の状況
3. 日本における環境の状況
4. 三重における環境対策の状況
5. 討論
6. スウェーデンにおける環境対策の状況
7. ヨーロッパにおける環境対策の状況

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 特になし

成績評価方法と基準

授業参加 40%

発表 60%

オフィスアワー

毎週月曜 16:30-18:00 場所：児玉研究室または総合研究棟2の2階児玉共同研究室にてメールをしてくるのが確実。 kko-dama@human.mie-u.ac.jp

その他 特になし

8. 討論
9. 国際社会について
10. 国際社会について
11. アジアの社会の状況
12. 中国の社会の状況
13. 韓国の社会の状況
14. 討論
15. 討論

地域社会論特論

Special Lecture of Study on Local Society

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業,

Moodle

担当教員 児玉克哉 (人文学部文化学科)

授業の概要 国際社会の問題を環境問題や企業文化の視点から取り上げていく。様々な文化的環境の中で、労使関係や労働環境が変化していくのかなどについて考える。

学習の目的 学生が社会環境について自ら考え、社会変革への実践ができる力をつけることができるようにする。

学習の到達目標 学生は、国際社会の中での応用力を身につける。企業が外国人の増加に対してどのような対応策をとっているのかを理解し、国際的バランス感覚を得る。

本学教育目標との関連 共感, モチベーション, 主体的学習力, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 特になし

成績評価方法と基準

出席 40%

発表 60%

オフィスアワー

毎週月曜16:30-18:00 場所: 児玉研究室または総合研究棟2の2階児玉共同研究室の部屋にてメールをしてくと確実。kkodama@human.mie-u.ac.jp

その他 特になし

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス
2. ヨーロッパ型社会
3. アメリカ型社会
4. アジア型社会
5. 討論
6. 討論
7. 学生発表

8. 学生発表
9. 学生発表
10. 学生発表
11. フィールドワーク
12. フィールドワーク
13. フィールドワーク
14. フィールドワーク
15. 討論

中国古典文学演習

Seminar in Chinese Classical Literature

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 湯浅陽子 (人文学部文化学科)

授業の概要 四部叢刊所収の『宛陵先生集』により、北宋の詩人梅堯臣の詩を読む。白文のテキストを用いて現代中国語音での音読、ならびに訓読、日本語訳を求める。必ず予習をした上で出席すること。漢和辞典必携。前期は昼間、後期は有職者向けの夜間開講。

学習の目的 中国の古典詩文についての理解を深める。

学習の到達目標 漢文を読解する能力を身につける。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力,

幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

発展科目 中国古典文学作品論演習

教科書 授業中に資料を配布する。

成績評価方法と基準 日常の授業での担当による。

オフィスアワー 金曜日12:00~13:00 場所: 共通教育4号館4階 湯浅研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

① ガイダンス

②~⑭ 四部叢刊所収の『宛陵先生集』によ

り、北宋の詩人梅堯臣の詩を読む。

⑮ まとめ

中国古典文学作品論演習

Seminar in the Theory of Works of Chinese Classical Literature

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 湯浅陽子 (人文学部文化学科)

授業の概要

六朝期を代表し、後世の文学にも大きな影響を与えた詞華集『文選』を、胡克家刻本の李善注テキストに基づいて読む。

前期は有職者向け夜間開講。後期は昼間開講。

学習の目的 中国の古典文学に対する理解を深める。

学習の到達目標 古典籍を読むための基本的な技法を習得する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- ① ガイダンス
- ②～⑭ 『文選』を、胡克家刻本の李善注テク

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 実践外国語力

発展科目 中国古典文学演習

教科書 授業中に資料を配布する。

成績評価方法と基準 日常の授業での担当による。

オフィスアワー 金曜日12:00～13:00 場所: 共通教育4号館4階 湯浅研究室

ストに基づいて読む。

- ⑮ まとめ

現代中国語演習 I

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習
担当教員 福田和展 (人文学部文化学科)

授業の概要 中国語中級以上のレベルを持つ学生を対象とする。履修者は中国語の音声、文法、語彙等、与えられたテーマについて、中国語教育の場でどのように解釈し、教えるのかという観点から発表を行う。

学習の目的 中国語の音声、文法、語彙に対する深い理解を得る。中国語教授法の知識獲得。

学習の到達目標 中国語教授法を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的

思考力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語初級レベルの学生は受講できない。中国語を初歩から学びたい学生は、共通教育の授業を聴講すること。

教科書 授業中に指示。

成績評価方法と基準 発表回数・発表内容及びレポート。

オフィスアワー 月から金の授業、会議時間以外。

授業計画・学習の内容

学習内容

以下の計画に沿って15回の授業を進める。

第1回～第5回：現代中国語の発音教育

第6回～第10回：現代中国語の文法教育

第11回～第15回：現代中国語と日本語の比較を通じた教授法

現代中国語特講 I

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習
担当教員 福田和展 (人文学部文化学科)

授業の概要 中国少数民族言語である彝語を学ぶ。彝語はシナ・チベット語族チベット・ビルマ語派口語支に属する言語で、音声は頭子音43、母音10、声調4からなり、子音にはある有気・無気・有聲の対立、無声・有聲の対立があり、母音には緊喉、非緊喉の対立がある、比較的複雑な音韻体系を持つ言語である。また、中国の一少数民族言語である彝語は、これまで文法の面で体系的な規範文法が確立されていない。さらに、独特な固有の文字を持つことでも知られている。この言語を学ぶことによって、彝語の習得は無論、言語学、文字学の体系的な知識を身につける。

学習の目的 彝語の習得、言語学、文字学の知識習得。

学習の到達目標 彝語の習得、言語学、文字

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回～第7回：涼山彝語の文字と音声

学の知識習得。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語検定4～3級取得者が望ましい。

教科書 授業中に指示

成績評価方法と基準 出席回数、授業での発表内容などから成績を出す。

オフィスアワー 月～金の授業、会議を覗く時間。

その他 中国語で書かれたテキストを使用しますので、現代中国語のある程度の読解力が必要です。

第8回～第15回：涼山彝語の語彙

現代中国語特講 II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習
担当教員 福田和展 (人文学部文化学科)

授業の概要 引き続き、現代中国語学特講 I と同様のテーマを学ぶ。

学習の目的 現代中国語学特講 I に同じ。

学習の到達目標 現代中国語学特講 I に同じ。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、

コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語初級者は受講できない。中国語中級以上の学生に限る。

教科書 授業中に指示。

成績評価方法と基準 発表, 出席で評価。

オフィスアワー 月～金の授業・会議時間以外。

授業計画・学習の内容

学習内容

現代中国語学特講 I に引き続き、15回の授業を行う。

第1回～第10回：涼山彝語の文法

第11回～第15回：中国の少数民族に対する言語政策から見る彝語

英米言語構造論演習Ⅳ Seminar on the Structure of English Sentences IV

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 杉崎 鉦司 (教養教育機構)

授業の概要 生成文法理論に基づいた言語獲得研究のこれまでの主な成果を概観し、今後の研究課題について考えます。瞬時的モデルという理想化の上に建てられた言語獲得理論と、実際の時間軸に沿った言語獲得過程とを結びつける要因に関して中心的に議論します。

学習の目的

[1] 生成文法理論に基づいた言語獲得研究の主要文献のいくつかについて、理解できるようになる。

[2] これまでの研究において、どのような課題が残されているかを理解できるようになる。

学習の到達目標

[1] 英語で文献を読み、内容を整理できるようになる。

[2] 言語獲得研究における新たな研究トピック

を1つ、立てることができるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 人文学部文化学科において開設されている「言語科学概論A・B」「英語学演習」を履修済みであること。

予め履修が望ましい科目 「英米言語構造論特講Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。

教科書 授業において読むべき文献を指定します。

成績評価方法と基準 授業における発表100%

オフィスアワー 毎週月曜日・火曜日 12:10～12:50 杉崎研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第01回 生成文法理論の言語獲得観

第02回 普遍文法と瞬時的言語獲得モデル

第03回～第05回 言語獲得における「原理」の早期発現

第06回～第10回 発達要因 (1) : 媒介変数の

設定

第11回～第12回 発達要因 (2) : 言語知識における「成熟」

第13回～第15回 発達要因 (3) : 談話知識の獲得の遅れ

英米言語構造論演習 I

Seminar on English Linguistics I

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義

担当教員 綾野 誠紀 (人文社会科学研究科地域文化論専攻)

授業の概要 本講義では、言語獲得という観点から、人間言語の普遍的な特性について考察する。講義では、抽象的な議論に終始することなく、理想的な言語演算システムとは一体どのようなものであるか、ということについて、主に前置詞を中心とした言語事実に基づき検討する。

学習の目的 理論言語学の統語論における議論の仕方を身につけることができる。

学習の到達目標 理論言語学の統語論における議論の仕方を身につけることができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 授業において配布する資料

成績評価方法と基準 レポート100%

オフィスアワー 初回の授業の際に配布する詳細なシラバスを参照のこと

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回～3回 前置詞というカテゴリーについて (先行研究概観)

第4回～7回 英語の前置詞の統語的特徴について (前置詞句の統語構造も含む)

第8回～11回 英語の前置詞句の文内での文法的振る舞いについて

第12回～15回 比較統語論の視点からのさらなる考察

英米言語文化論特講II

English Language and Culture (lecture) II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 吉田悦子 (人文学部文化学科)

授業の概要

言語学の理論と実践について概観し、研究テーマの設定とアプローチの方法について学ぶ。

とくにことばの意味とコミュニケーションを扱う分野を扱う。

学習の目的 研究テーマを設定して、言語研究を進めるための基本的な知識と研究方法を身につけることができる。

学習の到達目標 特定の言語現象をよく観察し、その現象の特徴をつかみ、明らかになっていること、なっていないことを整理して、問題解決のためにはどんな研究のアプローチが適切かについて判断し、分析や考察を進め

ることができる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 言語学の基礎的な知識があること。

予め履修が望ましい科目 とくになし。

教科書 受講者と相談の上決める。

成績評価方法と基準 授業への参加50%、レポート50%

オフィスアワー 木曜日5・6限 教員研究室

授業計画・学習の内容

学習内容 受講生と相談の上決める。

英米言語構造論特講 I

Special Lecture on the Structure of English Sentences I

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 杉崎 鉦司 (教養教育機構)

授業の概要 英語で書かれた文献を読みながら、ヒトの「こころ」の研究としての現代言語研究（「生成文法理論」）の目的と方法について学びます。ヒトの持つ言語知識の研究がなぜヒトの「こころ」の仕組みの解明につながるのか、ヒトの持つ言語知識をどのように研究するのかについて理解し、自ら言語研究を行う際の基礎を身につけます。

学習の目的

- [1] 現代言語研究の目的と方法に関する知識を得る。
- [2] 現代言語研究と「こころ」の研究との関係に関する知識を得る。

学習の到達目標

- [1] 英語で文献を読み、内容を整理できるようになる。
- [2] 現代言語研究の目的が説明できるようになる。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第01回 生成文法理論の基本的な考え方
- 第02回 Chapter 1: Mind Matters: Chomsky's Dangerous Idea
- 第03回 Chapter 2: The Mechanization of the Mind Picture
- 第04回 Chapter 3: How the Mind Glows: From Meno to Noam
- 第05回 Chapter 4: Mental Chemistry
- 第06回 Chapter 5: The Variety of Linguistic Experience: The Towers of Babel and Pisa
- 第07回 Chapter 6: All Roads Lead to Universal

[3] 現代言語研究と「こころ」の研究との関係が説明できるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 人文学部文化学科において開講されている「言語科学概論A・B」「英語学演習」を履修済みであること。

発展科目 英米言語構造論演習IV

教科書 Boeckx, Cedric. 2009. Language in Cognition: Uncovering Mental Structures and the Rules Behind Them. Wiley-Blackwell.

成績評価方法と基準 授業における発表 100%

オフィスアワー 毎週月曜日・火曜日 12:10 ~ 12:50 杉崎研究室

Grammar

- 第08回 Chapter 7: Making Sense of Meaning: An Instruction Manual
- 第09回 Chapter 8: Wonderful Mental Life: Unthinkable without Language
- 第10回 Chapter 9: Grammar Caught in the Act
- 第11回 Chapter 10: The (Mis)Measure of Mind
- 第12回 Chapter 11: Homo Combinans
- 第13回 Chapter 12: Computational Organology
- 第14回 まとめ: 生成文法の思考法(1)
- 第15回 まとめ: 生成文法の思考法(2)

現代英語演習 I

Present-day English I

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 野田 明

授業の概要 現代英語で書かれた論説文、エッセイなどを精読し、それぞれの専門分野での研究を進めるのに必要な読解力の向上を目指します。

学習の目的 論説文やエッセイなどを、正確かつ迅速に読み取るとともに、必要に応じて要約、また、重要箇所を適切な日本語に訳すことができる。

学習の到達目標 辞書を用いて原文を正確に理解できる。辞書が手元にない場合でも、お

よその内容が分かる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 実践外国語力

教科書 ハンドアウトを使用する予定。

成績評価方法と基準 授業中の発表50%、期末試験50%。

オフィスアワー 月曜12:10~12:50、人文学部3階野田研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：イントロダクション

第2回～第5回：論説文 I

第6回～第10回：論説文 II

第11回～第15回：エッセイ

第16回：総括

英米言語文化論演習 II

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 服部範子

授業の概要 英語音声学について専門的知識を深める。

専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 実践外国語力

学習の目的 英語音声学に関する文献(英文)を講読する。

教科書 授業において指示します。

学習の到達目標 英語音声学に関する先行研究について十分な知識を得て、今後の課題を検討し、自ら研究テーマを設定できるようになることを目指す。

成績評価方法と基準 授業中の発表と議論、80%、レポート20%。合計が60%以上で合格。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力,

オフィスアワー 水曜日10:30-11:30 服部研究室

授業計画・学習の内容

学習内容 英語音声研究について英文で書か

れた文献を講読する。

現代英語特講III

Seminar on Present-Day EnglishIII

学期 前期 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義, 演習
担当教員 綾野 誠紀 (人文社会科学研究科地域文化論専攻)

授業の概要 現代英語のデータを詳細に検討することにより、現代英語の特徴について知る。

思考力, 課題探求力, 問題解決力

受講要件 特になし

学習の目的 現代英語の特徴についての知識を得る。

予め履修が望ましい科目 特になし

学習の到達目標 言語の分析手法を身に付けることができるようになるのと同時に、論理的な議論の仕方も修得できる。

教科書 授業の各回において配布する資料

成績評価方法と基準 レポート100%

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的

オフィスアワー 初回の授業で配布する詳細なシラバスを参照のこと

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回～3回 現代英語の特徴について

第4回～7回 現代英語の文の構造について

第8回～11回 現代英語における移動と局所性に

ついて

第12回～15回 現代英語の名詞句の構造について

言語情報論特講

Language Information

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 井口 靖 (人文社会科学研究所・教養教育機構)

授業の概要 言語学の基礎的知識を基にコーパスを用いた言語分析の基礎を学ぶ。

受講要件 言語学の基礎的知識を持っていること。

学習の目的 コーパスを分析して、言語現象のメカニズムを読み取ることができるようになる。

予め履修が望ましい科目 ドイツ語学特講または言語学関係科目

学習の到達目標

コーパスについての基礎的知識を得る。
これまでのコーパスを用いた研究結果を理解する。
自らのテーマに沿ってコーパスを分析する。

発展科目 言語情報論演習

教科書 Power Pointによる講義を行う。資料はプリントで配布する。

成績評価方法と基準 レポート50% 期末試験50%

本学教育目標との関連 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力

オフィスアワー 毎週火曜日3・4限 場所：人文学部専門校舎2F研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回～第3回 言語学の基礎知識

第4回～第6回 コーパス言語学の基礎

第7回～第9回 コーパス言語学の現状

第10回～第15回 コーパスによる言語分析の実際

第16回 期末試験

現代ドイツ語特講 II

Present-day German II

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 大河内 朋子 (人文学部文化学科)

授業の概要 ドイツの移民問題について考察する。

学習の目的

ドイツの移民問題に関する知見を得る。
中級程度のドイツ語テキストを正確に読む。

学習の到達目標

ドイツの移民問題に関して、説明できる。
中級程度のドイツ語テキストが正確に読める。

授業計画・学習の内容

学習内容 ドイツの移民問題に関する論文を
読みながら、「ドイツ文化とは何か」につい
て考察します。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 実践外国語力

受講要件 中級程度のドイツ語テキストが読めること

教科書 プリント配布

成績評価方法と基準 平常点50%、レポート50%、計100%

オフィスアワー 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室 (人文校舎2階) にて

現代ドイツ語演習 II

Present-day German II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 大河内 朋子 (人文学部文化学科)

授業の概要

ドイツにおける移民問題に関する論文を読み、現状の大枠を理解します。

併せて、中級程度のテキストを読む力を養成します。

中級程度のドイツ語テキストを正確に読める。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 実践外国語力

学習の目的

ドイツにおける移民問題について、知見を獲得する。

中級程度のドイツ語テキストが正確に読める。

受講要件 中級程度のドイツ語テキストが読めること

教科書 プリント配布

成績評価方法と基準 平常点50%、筆記試験50%、計100%

学習の到達目標

ドイツにおける移民問題について、自分の意見を述べるができる。

オフィスアワー 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室 (人文校舎2階) にて

授業計画・学習の内容

学習内容 ドイツの移民問題に関する論文を

精読し、「ドイツ文化」について考察する。

現代英語演習I

Present-day English Seminar I

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 吉田悦子

授業の概要 現代英語のテキスト、主に評論や新聞コラム、雑誌記事、論考などを素材として、基本的な英語読解力と内容を把握する力を養う。

学習の目的 現代英語のテキストの読解を通して、英語の語彙や文法の知識を深め、構文理解、英文構成と展開について、正確に理解し、解説することができる。

学習の到達目標 英文テキストの内容について、語彙及び文法を正確に理解し、主張されていることとその解釈について解説することができる。

授業計画・学習の内容

学習内容 受講生と相談の上決める。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 受講生を相談の上、決定する

成績評価方法と基準 授業での課題提出50%、レポート50%、計100%

オフィスアワー 木曜日5・6限

フィールドワーク論特講

Special lecture on the theory of fieldwork

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 立川 陽仁 (人文学部文化学科)

授業の概要 グローバリズム、近代化などに関する人類学的な文献を読み、上記テーマについての理解を深める。

学習の目的 グローバリズムや近代資本主義システムの世界的な浸透について、各事例にもとづいた理解を得ることができる。

学習の到達目標 グローバリズムや近代資本主義システムについて、世間でいわれているような一枚岩的な評価だけでなく、実態の多様性を批判的に理解する。とくに各地域が近代やグローバリズムを受け入れる際の、主体的な動きや戦略を理解する。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 専門知識・技術, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力

授業計画・学習の内容

学習内容

テキストを読み進め、それにもとづいた討論

を総合した力

教科書

E.Wolf, Europe and the People without History
を考えているが、場合によっては以下の日本語文献を利用する可能性もある。

『日常人類学宣言!』松田素二

『開発の人類学』前川啓治

成績評価方法と基準

英語テキストを使用した場合には、履修者には分担箇所についての全訳を課す。

日本語テキストを使用した場合には、分担箇所のレジュメを作成する。

この作業で評価する。

オフィスアワー 木曜の7~8時限。

をおこなっていく。

毎回、1章ごと進めていく予定。

国際社会学演習

Seminar on Transnational Sociology

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 江成 幸 (人文学部文化学科)

授業の概要 グローバル化にともない、日本の地域社会が直面する社会学的課題について検討する。

学習の目的

国際社会学の視点から、修士論文の準備を進める。

修士論文に必要な研究手法を学ぶ。

学習の到達目標

国際社会学の課題を探究する能力を身につける。

修士論文の具体的な方向性を授業およびレポートで報告することができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 社会学および関連分野の基礎知識を備えた者が望ましい。

予め履修が望ましい科目 グローバル社会論特講

発展科目 グローバル社会論特講、グローバル社会論演習

成績評価方法と基準 授業での報告40%、授業での討論30%、期末レポート30%、計100%。

オフィスアワー 木曜日7～8限、江成研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回～第2回 授業の進め方と文献紹介

第3回～第10回 学生の報告にもとづくテキスト講読

第11回～第12回 レポート作成の方法

第13回～第15回 修論テーマに関する学生の報告

現代英語特講 IV

Special Lectures in Present-day English IV

学期 前期 **開講時間** 水 1, 2 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 井上 稔浩 (人文学部)

授業の概要 研究に必須となる、様々なタイプの英文を読解する。 思考力

予め履修が望ましい科目 。

学習の目的 英文読解を主体的に行うことができる。

教科書 講義時に紹介します。

学習の到達目標 英文読解の基礎力を養成する。

成績評価方法と基準 講義への参加度、レポート等により評価します。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的

オフィスアワー 毎週木曜12:00~13:00 井上研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

適宜プリントを配布し、以下のタイプの英文をそれぞれ5回ずつ講義します。

- 1・新聞の英語
- 2・論説の英語
- 3・小説の英語

中世近世日本文学論演習

Seminar in Japanese Middle age and Early Modern Literature

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義

担当教員 吉丸 雄哉 (人文学部)

授業の概要 中世・近世のある文芸を選び、報告を行なう。自分が大学教員となって模擬授業を行なうぐらいの気持ちでいて欲しい。作品の選択は自由。

学習の目的 各文芸の特徴を理解し、それに関する従来の説を総括する。既存の説とは違った自分独自の知見を築く。わかりやすい発表の技術を身につける。。

学習の到達目標 中世・近世の文学作品について新しい論点を見つける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知

識・技術, 批判的思考力

受講要件 日本古典文法および漢文法の基礎知識を有すること。

成績評価方法と基準 発表六割、期末レポート四割。

オフィスアワー

木曜日の昼休み。長い時間が必要なものはあらかじめメールで相談の予約をすること。

ほとんどの場合、木曜日の午後が空いている。

授業計画・学習の内容

学習内容

最初にどのように発表すればいいのか、手本を見せる。それで具体的な手順は理解できるはずである。

一回 導入、手本。

二回以降 各人の発表。

十五回 まとめ。

言語情報論演習

Seminar for Language Information

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 Moodle

担当教員 井口 靖 (人文社会科学研究所・教養教育機構)

授業の概要 言語学の基礎的知識を元にコーパスを用いた言語分析の実際を学ぶ。

学習の目的 自分のテーマに従い、コーパスを分析して、言語現象のメカニズムを読み取ることができるようになる。

学習の到達目標 自らのテーマに沿ってコーパスを分析し、発表する。

本学教育目標との関連 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

受講要件 言語学の基礎的知識を持っている

こと。

予め履修が望ましい科目 言語学特講およびドイツ語学特講または言語学関係科目

教科書 Power Pointによる講義を行う。資料は配布する。

成績評価方法と基準 レポート50% プレゼン50%

オフィスアワー 毎週火曜日3・4限 場所：人文学部専門校舎2F研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回～第3回 コーパス分析の基礎知識

第4回～第6回 コーパス分析例の検討

第7回～第9回 自らの問題点の発見

第10回～第14回 コーパス分析結果の検討

第15回 発表

英米言語文化論特講II

English Language and Culture (lecture) II

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 澤田 治 (人文学部)

授業の概要 この授業では、英語と日本語におけるスケール表現の意味を詳細に検討しながら、理論言語学（とりわけ意味論・語用論）の基本的な考え方、分析方法を学ぶ。具体的には、日英語の「程度副詞」、「あいまい表現」、「感情表出表現」、「比較表現」等の意味、機能に焦点を当て、意味と構造の対応関係や「前提」、「推意」、「発話行為」といったコンテキストと深く関わった意味の意味解釈メカニズムについて考察する。

学習の目的 英語、日本語におけるスケール表現の意味を詳細に検討し、ことばの意味解釈の背後にある原理や法則性・体系性を理解する。

授業計画・学習の内容

学習内容

Week1: Introduction (semantics/pragmatics)
Week 2-3: Adjective (vagueness)
Week 4-6: Imprecision

学習の到達目標 具体的な言語現象を言語理論を用いて分析できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 参考書は使用しません。プリントを用意します。

成績評価方法と基準 出席・発表60%、課題40%

オフィスアワー オフィスアワーの時間帯に関しては初回の授業で決めます。

Week 7-9: Intensifiers and exclamatives
Week 10-12: Hedges
Week 13-14: Expressives
Week 15: Presentations

理論言語学特講

Seminar on Theoretical Linguistics

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 澤田 治 (人文学部)

授業の概要 本演習では、ことばの意味を談話構造の観点から考察する。具体的には、モダリティと談話標識 (discourse particles) の意味に焦点を当て、(i) 我々は会話を進めていく中で、どのように聞き手と情報を共有しているのか、(ii) モダリティ、談話標識は情報のアップデートに関してどのような役割を果たしているのか、(iii) 非命題的意味 (前提、慣習的推意) と命題的意味の間には情報のアップデートに関してどのような違いがあるのか、といった問題を、意味論、語用論および言語哲学の観点から考察する。

学習の目的 英語、日本語におけるモダリティ・談話表現の意味を詳細に分析し、ことばの意味解釈の背後にある原理や法則性・体系性を理解する。

授業計画・学習の内容

学習内容

Week 1: Introduction (common ground, update semantics, dynamic semantics)

Week 2-3: Assertion

Week 4-6: Modality

学習の到達目標 具体的な言語現象を言語理論を用いて分析できるようになる。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 言語学についての科目を履修済みであることが望ましいです。

教科書 教科書は使用しません。

成績評価方法と基準 授業参加・発表・課題：60%、レポート：40%

オフィスアワー オフィスアワーの時間帯等については最初の授業で決めます。

Week 7-9: Discourse particles

Week 10-12: Performativity, evidentiality

Week 13-15: At-issue vs. non-at-issue meanings

Week 16: Presentations

ドイツ文学演習I

Seminar on German Literature I

学期 後期 **単位** 2 **対象** 2011年度以前入学生用(文化) **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 菅 利恵 (人文学部)

授業の概要 トーマス・マンThomas Mann の長編小説『ファウスト博士』(Doktor Faustus, 1947)をドイツ語で読む。

学習の目的 ドイツ語の読解力を高める。

学習の到達目標 辞書を用いて、複雑なドイツ語の文章を訳すことができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求

力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

受講要件 中級以上のドイツ語力を有していること。

教科書 プリント配布。

成績評価方法と基準 授業への積極的な取り組みを評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

トーマス・マンの長編小説『ファウスト博士』をドイツ語で読む授業です。

概要

1～3 作者と時代背景

4～14 テキスト読解

15 まとめ

ミクロ社会論演習

Seminar on Social Interaction

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 村上直樹 (人文学部)

授業の概要 ミクロな社会的相互作用の中核には、言語的なコミュニケーションがある。この言語的なコミュニケーションは、一般的には、言語という道具を使用した〈意味〉の交換であると考えられている。しかし、クワインは、単語やそれによって構成される文には、一定の〈意味〉があり、その〈意味〉によって言語はコミュニケーションを可能にしているのだという考え方を否定し、言語的なコミュニケーションに関する新たな見方を提示した。本演習は、「ミクロ社会論特講」でも取り上げるこのクワインの理論、及びクワインと同じ立場に立っているデイヴィッドソンの言語的コミュニケーションについての理論を検討しようとするものである。

学習の目的 受講院生が、クワインとデイヴィッドソンの理論に関する十分な理解を獲得し、それをふまえて、社会的相互作用に関する論文を執筆できるようにする。

学習の到達目標 受講院生が、クワインとデイヴィッドソンの理論に関する十分な理解を獲得し、それに関する自分の見解を展開できるようにする。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：演習の概要説明

第2回～第7回：院生によるQuine, Word and Objectに関する報告

第8回～第13回：院生によるDavidson, Subjec-

tive, Intersubjective, Objectiveに関する報告

受講要件

社会的相互作用や言語的コミュニケーションに関する専門的な知識を前提とした演習なので、登録する前に必ず担当教員に相談すること。

クワイン、デイヴィッドソンの理論に関する基本的な知識、理論的な英語の文章を読みこなす読解力も必要とされる。

予め履修が望ましい科目 ミクロ社会論特講

教科書

Quine, Word and Object, MIT Press.

Quine, From a Logical Point of View, Cambridge.

Davidson, Inquiries into Truth and Interpretation, Clarendon Press.

Davidson, Subjective, Intersubjective, Objective, Clarendon Press.

成績評価方法と基準 報告50%、期末レポート50%

オフィスアワー 毎週火曜日12:00～13:00

第14回～第15回：クワイン、デイヴィッドソンの理論から新しい社会的相互作用の理論を構想する

ミクロ社会論演習

Seminar on Social Interaction

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 村上直樹 (人文学部)

授業の概要 ミクロな社会的相互作用の中核には、言語的なコミュニケーションがある。この言語的なコミュニケーションは、一般的には、言語という道具を使用した〈意味〉の交換であると考えられている。しかし、クワインは、単語やそれによって構成される文には、一定の〈意味〉があり、その〈意味〉によって言語はコミュニケーションを可能にしているのだという考え方を否定し、言語的なコミュニケーションに関する新たな見方を提示した。本演習は、「ミクロ社会論特講」でも取り上げるこのクワインの理論、及びクワインと同じ立場に立っているデイヴィッドソンの言語的コミュニケーションについての理論を検討しようとするものである。

学習の目的 受講院生が、クワインとデイヴィッドソンの理論に関する十分な理解を獲得し、それをふまえて、社会的相互作用に関する論文を執筆できるようにする。

学習の到達目標 受講院生が、クワインとデイヴィッドソンの理論に関する十分な理解を獲得し、それに関する自分の見解を展開できるようにする。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：演習の概要説明

第2回～第7回：院生によるQuine, Word and Objectに関する報告

第8回～第13回：院生によるDavidson, Subjec-

tive, Intersubjective, Objectiveに関する報告

受講要件

社会的相互作用や言語的コミュニケーションに関する専門的な知識を前提とした演習なので、登録する前に必ず担当教員に相談すること。

クワイン、デイヴィッドソンの理論に関する基本的な知識、理論的な英語の文章を読みこなす読解力も必要とされる。

予め履修が望ましい科目 ミクロ社会論特講

教科書

Quine, Word and Object, MIT Press.

Quine, From a Logical Point of View, Cambridge.

Davidson, Inquiries into Truth and Interpretation, Clarendon Press.

Davidson, Subjective, Intersubjective, Objective, Clarendon Press.

成績評価方法と基準 報告50%、期末レポート50%

オフィスアワー 毎週火曜日12:00～13:00

ive, Intersubjective, Objectiveに関する報告

第14回～第15回：クワイン、デイヴィッドソンの理論から新しい社会的相互作用の理論を構想する

日本語史演習

the seminar of Japanese Linguistics

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 川口 敦子 (人文学部)

授業の概要 中世口語資料(キリシタン資料、狂言台本など)を題材に、日本語の諸問題について考察する。

学習の目的 用意されたテキストについて、その資料性を探り、また、そこに見いだせる諸問題を解決するために、適切な資料を収集し、論理的に説明して解決する力を身につける。

学習の到達目標

用意されたテキストを正確の読解することが出来る。

読解したテキストから日本語学に関連する諸問題を見だし、適切な資料と論理的な思考で問題を解決することが出来る。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 初回に受講生と相談の上、決定する。

成績評価方法と基準 発表内容とレポート(70%), 授業への貢献度(30%)で総合的に判断する。

オフィスアワー 随時(必ず事前にメール等でアポイントメントを取ること)

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス、テキストについて
第2回 中世口語資料について
第3～14回

・テキストの読解
・問題発見
・考察, 発表
第15回 まとめ

日本語史資料論演習

the seminar of Materials for Japanese Linguistics

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 川口 敦子 (人文学部)

授業の概要 中世口語資料(キリシタン資料、狂言台本など)を題材に、日本語の諸問題について考察する。

学習の目的 用意されたテキストについて、その資料性を探り、また、そこに見いだせる諸問題を解決するために、適切な資料を収集し、論理的に説明して解決する力を身につける。

学習の到達目標

用意されたテキストを正確の読解することが出来る。

読解したテキストから日本語学に関連する諸問題を見だし、適切な資料と論理的な思考で問題を解決することが出来る。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 初回に受講生と相談の上、決定する。

成績評価方法と基準 発表内容とレポート(70%), 授業への貢献度(30%)で総合的に判断する。

オフィスアワー 随時(必ず事前にメール等でアポイントメントを取る)

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス、テキストについて

第2回 中世口語資料について

第3～14回

・テキストの読解

・問題発見

・考察、発表

第15回 まとめ

情報環境利用論特講

Information environment and use of information

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 三根 慎二(人文学部)

授業の概要 インターネットに代表される情報通信技術によって支えられている今日の情報社会において、情報の利用に関する様々な問題について、海外の文献を読みながら検討し、理解を深める。

学習の目的 今日の情報環境における特徴的な情報利用の種類、パターンなどの実態について知り、理解できるようになることを目的とする

学習の到達目標

本授業を通じて、以下のことを達成してもらいたい。

- 1) 今日の情報環境下における情報利用について、その現状と課題を理解する。
- 2) 本テーマに関する検討を通じて、調査・研究の方法を身につける。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話

力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書

Fuchs, Christian. Social Media: A Critical Introduction. Sage, .2013, 293p.

Case, Donald, O. Looking for Information: A Survey of Research on Information Seeking, Needs and Behavior. Emerald Group Publishing. 2012. 440p.

成績評価方法と基準 授業への取り組み、発表、レポートなどにより、総合的に評価する。

オフィスアワー 特に指定しないが、必要な場合は教員に事前連絡をとること、場所：研究室

その他 第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、履修を希望する者は、必ず出席すること。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 オリエンテーション

第2-14回

・各回で担当者を決め、取り上げた文献について報告を行う。なお、文献は、受講者と相談のうえ決定する。

・報告の内容について、皆で議論を行い、その文献で扱っているテーマ、問題点、課題等を検討する。

・関連文献の調査・収集を行い、話題の発展を図る。

第15回 まとめ

情報システム論特講

Information system

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 三根 慎二(人文学部)

授業の概要

インターネット上には、検索エンジンをはじめ、さまざまなデータベースが存在する。こうした検索システムを支える基本的な技術が、RDBMSやインデクシングなどである。本授業では、情報検索に係る情報の組織化について、文献を読みながら検討し、理解を深める。

学習の目的 現在、図書館やWWWで利用されている代表的な情報検索システムおよび情報の組織化の動向および特徴について知り、理解できるようになることを目的とする

学習の到達目標

本授業を通じて、以下のことを達成してもらいたい。

- 1) 情報の組織化に係る理論と実際を理解する。
- 2) 本テーマに関する検討を通じて、図書館情報

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 オリエンテーション

第2-14回

・各回で担当者を決め、取り上げた文献について報告を行う。なお、文献は、受講者と相談のうえ決定する。

報学研究の方法を身につける

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 授業で指示する。

成績評価方法と基準 授業への取り組み、発表、レポートなどにより、総合的に評価する。

その他 第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、履修を希望する者は、必ず出席すること。

・報告の内容について、皆で議論を行い、その文献で扱っているテーマ、問題点、課題等を検討する。

・関連文献の調査・収集を行い、話題の発展を図る。

第15回 まとめ

現代情報環境論特講

Information environment in the modern age

学期 前期 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義, 演習
授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle
担当教員 三根 慎二(人文学部)

授業の概要 大学、大学図書館、学術情報流通等のしくみ、それが抱える課題、問題点等について、基本文献（海外文献）の輪読、検討を通じて、理解する。

学習の目的 学術情報流通に関する最近の英語文献に基づいて、批判的な読みを通して関連知識について知り、理解できるようになることを目的とする

学習の到達目標

本授業を通じて、以下のことを達成してもらいたい。

- 1) 学術情報流通に関連する情報環境について、現在の状況と課題を理解する。
- 2) 本テーマに関する検討を通じて、図書館・情報学研究の基本的な方法・アプローチを把握する

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話

力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 後期科目：現代情報環境論演習と併せて受講すること。

教科書

Borgman, Christine L. Big Data, Little Data, No Data: Scholarship in the Networked World. The MIT Press. 2015. 400p.

Cope, Bill.; Phillips, Angus. The Future of the Academic Journal. 2014, Chandos Publishing, 478p.

成績評価方法と基準 授業への取り組み、発表、レポートなどにより、総合的に評価する。

その他 第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、履修を希望する者は、必ず出席すること。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 オリエンテーション

第2-14回

・各回で担当者を決め、取り上げた文献について報告を行う。なお、文献は、受講者と相談のうえ決定する。

・報告の内容について、皆で議論を行い、その文献で扱っているテーマ、問題点、課題等を検討する。

・関連文献の調査・収集を行い、話題の発展を図る。

第15回 まとめ

現代情報環境論演習

Information environment in the modern age: seminar

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 三根 慎二(人文学部)

授業の概要 前期科目「現代情報環境論特講」で取り上げた話題について、調査・分析を通じて、内容を深める。

学習の目的 学術情報流通に関する基本的および最新の知識を修得するとともに、これらの領域をテーマとして課題設定から調査、分析、レポート作成までをできるようにする。

学習の到達目標

本授業を通じて、以下のことを達成してもらいたい。

1) 学術情報に係る情報環境について、現在の状況と課題を理解する。

2) 本テーマに関する検討を通じて、図書館情報学研究の方法を身につける。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門

知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 後期科目: 現代情報環境論演習と併せて受講すること。

教科書 授業で指示する。

成績評価方法と基準 授業への取り組み、発表、レポートなどにより、総合的に評価する。

その他 第1回目のオリエンテーションにおいて、本授業の内容及び進め方などについて説明するので、履修を希望する者は、必ず出席すること。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 オリエンテーション

第2-14回

・各回で担当者を決め、取り上げた文献について報告を行う。なお、文献は、受講者と相談のうえ決定する。

・報告の内容について、皆で議論を行い、その文献で扱っているテーマ、問題点、課題等を検討する。

・関連文献の調査・収集を行い、話題の発展を図る。

第15回 まとめ

地球環境論特講

Lecture of Geo-Environmental Science

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 実習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 谷口 智雅 (人文学部)

授業の概要 自然環境の調査・研究の基本に関する講義および簡単な実習を行う。前半は、フィールドサーベイやその調査に関する内容についての基礎について講義を行うとともに受講者が関連論文の発表を行う。後半は調査・研究データの処理法や解析・表現方法についての基礎的な知識や技術を身につけるための実習を行う。

学習の目的 環境データ解析には基礎知識や分析技術を得ることは当然であるが、分析に対する準備や心構えも大切である。このため、単に分析論に留まらず地域環境評価の手順についても学ぶ。

学習の到達目標 自然地理の調査・研究が実践できるための基本的な知識の獲得を目指す。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 はじめにー授業内容と進め方について
第2～5回 基礎から応用までの研究紹介

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報発信力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 自然環境に関する科目を履修していることが望ましい

教科書 特になし

成績評価方法と基準 授業内での発表を含む態度・取り組み50%、レポート50%を基本的に評価する。

オフィスアワー 月～木の空いている時間はいつでも可。

第6～10回 テーマ設定と調査
第10～14回 調査結果の整理と分析
第15回 まとめ

現代英語特講 II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 小田 敦子

授業の概要 英文で書かれた大学院生の必読書を読む。

学習の目的 専門分野を論じるに必要な英語力をつける。

学習の到達目標 語彙が増え、英文を読む速度が速くなる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力,

専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 受講生と相談して決める。

成績評価方法と基準 レポート60%、授業への取り組み40%

オフィスアワー 月曜日12:10~12:50

授業計画・学習の内容

学習内容

第1週 テキスト決定

第2週~第15週 講読

現代英語特講 IV

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 服部範子

授業の概要 現代英語の音声特徴や音声言語と音楽との関係について英語で書かれた文献を読み、英語の特質について考察する。

学習の目的 英語音声学および音声言語と音楽に関する文献(英文)の読解力を高める。

学習の到達目標 現代英語の音声体系および音声学の隣接分野について理解を深める。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力,

専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力

予め履修が望ましい科目 言語学について基本的な概念をすでに学んでいること。

教科書 プリントを使用します。

成績評価方法と基準 授業中の発表と議論 80%、レポート20%。合計60%以上で合格。

オフィスアワー 水曜10:30~11:30 研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

[この授業で取り上げる項目]

調音音声学的記述および音響音声学的分析。

フランス文学演習 I

Seminar in French Literature I

学期 前期 開講時間 火 9, 10, 11, 12 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 山本覚

授業の概要 受講生の研究テーマによって決定する

学習の目的 文献講読と発表を通して、自分の研究テーマ・分野に関する新たな知見を得ること

学習の到達目標 自分の研究テーマ・分野に関する新たな知見を得ること

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理

的思考力, 課題探求力, 批判的思考力

受講要件 フランス語で書かれた専門書を読むのに必要な語学能力を備えていること

教科書 教室で指示する

成績評価方法と基準 平常点60%、レポート40%、計100%

オフィスアワー 月火木の昼休み メールは随時

授業計画・学習の内容

現代フランス語特講 I

Lectures on Present-Day French I

学期 後期 開講時間 火 9, 10, 11, 12 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義

担当教員 山本覚

授業の概要 受講生の研究テーマによって決定する

学習の目的 文献講読と発表を通して、自分の研究テーマ・分野に関する新たな知見を得ること

学習の到達目標 自分の研究テーマ・分野に関する新たな知見を得ること

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理

的思考力, 課題探求力, 批判的思考力

受講要件 フランス語で書かれた専門書を読むのに必要な語学能力を備えていること

教科書 教室で指示する

成績評価方法と基準 平常点60%、レポート40%、計100%

オフィスアワー 月火木の昼休み メールは随時

授業計画・学習の内容

ヨーロッパ思想文化論演習Ⅰ

Seminar in European Ethics I

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 相澤 康隆 (人文学部)

授業の概要 アリストテレスの『政治学』に関する英語文献を精読することを通じて、古代ギリシアの政治思想についての理解を深める。

学習の目的 古代ギリシアの政治思想を学ぶ。

学習の到達目標

- ・古代ギリシアの政治思想についての基礎知識を身につける。
- ・英語文献の精読の仕方を身につける。

授業計画・学習の内容

学習内容

<学習内容>

英語文献の精読を通じてアリストテレスの政治思想を学ぶ。

本学教育目標との関連 倫理観, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

教科書 コピーを配布する。

成績評価方法と基準 平常点70%、レポート30%。

オフィスアワー 毎週金曜日16時～17時 相澤研究室 (人文学部校舎3階)

<授業方法>

各回の担当者の作成した翻訳をチェックした後、参加者全員でディスカッションを行う。

社会構造論演習

Seminar on Social Structure

学期 前期 開講時間 月 11, 12 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 永谷 健

授業の概要 日本の階層社会の特徴や歴史的な成立経緯を理解するには、諸外国の事情との比較が欠かせない。この授業では、明治以降の日本の近代化に関する海外の歴史社会学的研究を原典で精読することを通じて、日本の階層社会に関する比較社会論的な理解を目指す。

学習の目的 専門書の精読を通じて近現代日本の社会階層にかかわる比較社会論上の重要な論点、および、研究の方法論について考察を深める。

学習の到達目標 近現代日本の階層社会について研究するために必要な知識を習得し、また、研究の方法について具体的に理解する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 討論・対話力, 感じる

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 歴史学・社会学の専門知識が要求される外国語文献の講読を行なうので、受講する場合は担当教員まで事前に相談すること。

教科書

使用するテキスト:

Ikegami, E., The taming of the samurai : honorific individualism and the making of modern Japan, Harvard University Press.

Skocpol, T., Social revolutions in the modern world, Cambridge University Press.など

成績評価方法と基準 報告 50%、報告の要約・期末レポートの提出50%。

オフィスアワー 月曜日16:30~17:30

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回~第9回 文献講読

第10回 中間まとめ

第11回~第15回 研究報告

米文学特講I

American Literature I

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 小田 敦子(人文学部)

授業の概要 アメリカ文学選集から、受講生の研究テーマに関連のある作品を読む。

感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 アメリカ文学を広く読み、様々な問題意識、表現技法を知る。

教科書 The Norton Anthology of American Literature

学習の到達目標 小説の技法、表現への意識を高める。

成績評価方法と基準 レポート60%、授業への取組み40%

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 批判的思考力, 実践外国語力,

オフィスアワー 月曜日12:10~12:50

授業計画・学習の内容

学習内容

第1週 作品選定

第2週～第15週 講読

ヨーロッパ思想文化論特講 I

European Ethics I

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 相澤 康隆 (人文学部)

授業の概要 アリストテレスの『政治学』に関するいくつかの英語文献を用いて、古代ギリシアの政治思想を概説する。

学習の目的 古代ギリシアの政治思想について学ぶ。

学習の到達目標 古代ギリシアの政治思想についての基礎知識を得るとともに、英語文献の読解力を向上させる。

本学教育目標との関連 倫理観, 幅広い教養,

論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

教科書 コピーを配布する。

成績評価方法と基準 平常点50%、レポート50%。

オフィスアワー 毎週木曜日16時～17時 相澤研究室 (人文学部校舎3階)

授業計画・学習の内容

学習内容 アリストテレスの『政治学』に関する英語文献を題材にして、古代ギリシアの政治思想の内実と意義を概説する。予習とし

てテキストの要約を課すので、受講者には一定の英文読解力が要求される。

米文学演習 I

Seminar in American Literature I

学期 後期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 大学院(修士課程)・博士前期課程: 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 井上 稔浩 (人文学部)

授業の概要 John Steinbeckの短編小説を研究する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力

学習の目的 Steinbeckの短編小説の特長を知る。

教科書 講義時に紹介します。

学習の到達目標 Steinbeckの作品に関する批評論文等を参考にしながら彼の短編小説を読み解し、作品内容と作品が書かれたアメリカの30年代の特質との関連を理解することを目標とする。

成績評価方法と基準 講義への参加度、レポート等により評価します。

オフィスアワー 毎週月曜12:00～13:00 井上研究室

授業計画・学習の内容

学習内容 毎回John Steinbeckの短編小説を取り上げ、その特質をアメリカ30年代の時代

背景から考察する。

アメリカ史演習

Seminar for American History

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 森脇由美子 (人文学部)

授業の概要 アメリカに関する史資料および文献を通して、アメリカ史の現状および課題について学ぶ。

学習の到達目標 英語文献の読解とアメリカ史研究の方法

授業計画・学習の内容

学習内容 アメリカ史に関する史資料および文献を講読し、近年のアメリカ史研究の動向と課題を検討する。その際、個別的な研究

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 実践外国語力

教科書 授業中に指示する。

成績評価方法と基準 平常点による。

オフィスアワー 火12:00~12:30

事例を取り上げ、具体的な課題を見出していく。

ドイツ語学特講

German Linguistics

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 井口 靖 (人文社会科学研究科・教養教育機構)

授業の概要 Humboldt, Buehler, Wittgenstein, Morrisなどのテキストを読みながら、記号とは何か、言語とは何かについて考える。

学習の目的 さまざまな言語学者の論文を読むことにより、言語に対する多様な見方があることを理解できるようになる。

学習の到達目標

言語学者の論文を正確に理解できるようになる。

言語学者の理論を自分のことばでまとめて説明できるようになる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理

的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件

言語学の基礎的知識があること。
ドイツ語の基本的な読解力があること。

発展科目 ドイツ語学演習

教科書 Ludger Hoffmann(Hrsg.) Sprachwissenschaft.Ein Reader.2., verbesserte Auflage.

成績評価方法と基準 授業中の翻訳50% レポート50%計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 毎週火曜日3・4限 場所：人文学部専門校舎2F研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 言語学の基礎概念

第2回～第3回 Sprachtheorien.Einleitung.

第4回～第5回 Humboldt: Einleitung in das gesamte Sprachstudium.

第6回～第10回 Buehler: Sprachtheorie.

第11回～第13回 Wittgenstein: Philosophische Untersuchungen.

第14回～第15回 Morris: Grundlagen der Zeichentheorie: Semiotik.

ドイツ語学演習

Seminar in German Linguistics

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 井口 靖 (人文学部文化学科)

授業の概要 Trier, Bierwisch, Wunderlich, Fregeなどのテキストを読みながら、意味とは何かについて考える。

学習の目的 さまざまな言語学者の論文を読むことにより、言語に対する多様な見方があることを理解し、それについて批判的意見を述べるができるようになる。

学習の到達目標

学習の到達目標 言語学者の論文を正確に理解できるようになる。

言語学者の理論を自分のことばでまとめて説明できるようになる。

言語学者の理論について意見を述べるができるようになる。

本学教育目標との関連 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件

ドイツ語の読解力

言語学の基礎知識

予め履修が望ましい科目 ドイツ語学特講

教科書 Ludger Hoffmann(Hrsg.) Sprachwissenschaft.Ein Reader.2., verbesserte Auflage.

成績評価方法と基準 授業中の翻訳50% レポート50% 計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 毎週火曜日3・4限 場所: 人文学部専門校舎2F研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 意味論の基礎概念

第2回～第3回 Bedeutung, Einleitung.

第4回～第6回 Trier: Sprachliche Felder.

第7回～第10回 Bierwisch: Strukturelle Seman-

tik.

第11回～第13回 Wunderlich: Grundlagen der Linguistik.Zur Explikation von Sinnrelationen.

第14回～第15回 Frege: Einleitung in die Logik.

中世近世日本文学作品論演習

Seminar in Japanese Middle age and Early Modern Literature Works

学期 前期 開講時間 木 11, 12 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義

担当教員 吉丸 雄哉 (人文学部)

授業の概要 日本の伝統芸能を学ぶ。日本の伝統芸能(能・狂言・人形浄瑠璃・歌舞伎・話芸)を学ぶ。視覚機材を使って、それらを鑑賞する。鑑賞の前に、根本的だがきわめて答えにくい質問をいくつか用意した紙を渡す。鑑賞後に、それらについて、各自の見解を聞かせてもらう。

学習の目的 それぞれ芸能の成り立ちや歴史的な位置づけなど基本的な知識を学ぶ。鑑賞を通じてそれらに親しむ。

学習の到達目標 単に教養として伝統芸能の知識を得るだけでなく、今後の実人生において、継続して興味が持てるようにする。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術

受講要件 日本古典文法の基礎知識を有する

授業計画・学習の内容

学習内容

授業の内容は予定であり、諸君の関心によって、変更することがある。

一回、狂言 狂言の歴史と基本的な上演形態について学習。

二回、狂言 鑑賞。

三回、能 能の歴史と基本的な上演形態について学習。

四回 能 鑑賞 複式夢幻能。

五回 能 鑑賞 現在能。

六回 人形浄瑠璃 人形・太夫・三味線

こと。期間中に実際の観劇体験を要求する。諸経費は自費であり、時間もかかるだろうが受講の絶対条件として了解のこと。また、上演時間の都合で授業の終了が遅くなること、がしばしばあるのも、了解のうえ受講すること。

予め履修が望ましい科目 日本近世史の授業。

教科書 なし。

成績評価方法と基準 テスト100%

オフィスアワー

木曜日の昼休み。長い時間が必要なものはあらかじめメールで相談の予約をすること。

ほとんどの場合、木曜日の午後が空いている。

七回 人形浄瑠璃 鑑賞

八回 歌舞伎 役者・劇場・興行等

九回 歌舞伎 鑑賞 時代物

十回 歌舞伎 鑑賞 世話物

十一回 歌舞伎 鑑賞 舞踊

十二回 落語・講談 成り立ちと演者

十三回 落語と漫才 解説と鑑賞

十四回 講談と浪曲 解説と鑑賞

十五回 まとめ。

期間中、実際の観劇体験を要求する。

欧米思想文化論特講I

Western Philosophy I

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 薄井 尚樹 (人文学部)

授業の概要 伝統的に哲学において「直観」や「概念分析」というものは、方法論上、とても大事な役割を果たしてきました。しかし今世紀に入り、それらを自明視するのではなく、より反省的に捉えようとする「実験哲学」という運動が生まれました。本講義では、実験哲学の現状をまとめた優れた教科書を通じて、実験哲学とはなにか、それは従来の哲学のありかたになにを求めるのかを考えていきます。

学習の目的 実験哲学とはなにかを理解することで、哲学の方法論とその限界を学ぶ。

学習の到達目標 原文のテキストを読むことで、学術論文を読みこなせるだけの哲学の基礎知識を養う。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回の講義では、授業の進めかたについて説明します。そのうえでまず、哲学という営みにおいて「直観」がどう考えられてきたのかを学びます(第2回～第4回)。次に、直観が果たすとされる役割についてどのような疑義が提示されてきたのかを見ます(第5回～第7回)。最後に、実験哲学が従来の哲学にどのような路線変更を迫るのかを考えます(第8

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 英語文献を多数読むこととなりますので、それについていけるだけの読解能力を持っていることが望ましいです。

発展科目 欧米思想文化論演習I

教科書

以下のテキストを参照しつつ、レジュメを配布します。

Alexandar, J.(2012).Experimental Philosophy: An introduction.Polity.

成績評価方法と基準 期末レポート100%

オフィスアワー 講義終了後、1時間程度。

回～第14回)。第15回の授業では、レポートの課題を説明し、講義全体を通じた質問を受け付けます。

第1回：イントロダクション

第2回～第4回：哲学において「直観」はどのような役割を果たしてきたのか

第5回～第7回：「直観」の役割をめぐる攻防

第8回～第14回：実験哲学はなにを求めるのか

第15回：まとめ

欧米思想文化論演習I

Seminar in Western Philosophy I

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 薄井 尚樹 (人文学部)

授業の概要 今世紀に入り、哲学的直観の役割について考え直しを迫る「実験哲学」という運動が生まれました。本演習では、そこで指導的な役割を果たしてきた哲学者たちの論文を精読します。それを通じて、西洋の哲学的伝統そのものに挑戦しようとする、現代の英米哲学の動向を学びます。

学習の目的 実験哲学の問題意識およびその手法の独自性を学ぶ。

学習の到達目標 原文のテキストを読むことで、学術論文を読みこなせるだけの哲学の基礎知識を養う。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 課題

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：イントロダクション

探求力, 批判的思考力

受講要件 英語文献を多数読むこととなりますので、それについていけるだけの読解能力を持っていることが望ましいです。

予め履修が望ましい科目 欧米思想文化論特講I

教科書 演習で扱う英語論文を事前に配布します。

成績評価方法と基準 授業の貢献度50%+期末のレポート50%

オフィスアワー 演習終了後、1時間程度。

第2回～第14回：実験哲学における諸問題

第15回：まとめ

中国古典文学演習

Seminar in Chinese Classical Literature

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 湯浅陽子 (人文学部文化学科)

授業の概要 四部叢刊所収の『宛陵先生集』により、北宋の詩人梅堯臣の詩を読む。白文のテキストを用いて現代中国語音での音読、ならびに訓読、日本語訳を求める。必ず予習をした上で出席すること。漢和辞典必携。前期は昼間、後期は有職者向けの夜間開講。

学習の目的 中国の古典詩文についての理解を深める。

学習の到達目標 漢文を読解する能力を身につける。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力,

幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

発展科目 中国古典文学作品論演習

教科書 授業中に資料を配布する。

成績評価方法と基準 日常の授業での担当による。

オフィスアワー 金曜日12:00~13:00 場所: 共通教育4号館4階 湯浅研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

① ガイダンス

②~⑭ 四部叢刊所収の『宛陵先生集』によ

り、北宋の詩人梅堯臣の詩を読む。

⑮ まとめ

ドイツ語学特講

German Linguistics

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 井口 靖 (人文社会科学研究科・教養教育機構)

授業の概要 Humboldt, Buehler, Wittgenstein, Morrisなどのテキストを読みながら、記号とは何か、言語とは何かについて考える。

学習の目的 さまざまな言語学者の論文を読むことにより、言語に対する多様な見方があることを理解できるようになる。

学習の到達目標

言語学者の論文を正確に理解できるようになる。

言語学者の理論を自分のことばでまとめて説明できるようになる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理

的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件

言語学の基礎的知識があること。
ドイツ語の基本的な読解力があること。

発展科目 ドイツ語学演習

教科書 Ludger Hoffmann(Hrsg.) Sprachwissenschaft.Ein Reader.2., verbesserte Auflage.

成績評価方法と基準 授業中の翻訳50% レポート50%計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 毎週火曜日3・4限 場所: 人文学部専門校舎2F研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 言語学の基礎概念

第2回～第3回 Sprachtheorien.Einleitung.

第4回～第5回 Humboldt: Einleitung in das gesamte Sprachstudium.

第6回～第10回 Buehler: Sprachtheorie.

第11回～第13回 Wittgenstein: Philosophische Untersuchungen.

第14回～第15回 Morris: Grundlagen der Zeichentheorie: Semiotik.

ドイツ語学演習

Seminar in German Linguistics

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 井口 靖 (人文社会科学研究科・教養教育機構)

授業の概要 Trier, Bierwisch, Wunderlich, Fregeなどのテキストを読みながら、意味とは何かについて考える。

学習の目的 さまざまな言語学者の論文を読むことにより、言語に対する多様な見方があることを理解し、それについて批判的意見を述べるができるようになる。

学習の到達目標

学習の到達目標 言語学者の論文を正確に理解できるようになる。

言語学者の理論を自分のことばでまとめて説明できるようになる。

言語学者の理論について意見を述べるができるようになる。

本学教育目標との関連 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件

ドイツ語の読解力

言語学の基礎知識

予め履修が望ましい科目 ドイツ語学特講

教科書 Ludger Hoffmann(Hrsg.) Sprachwissenschaft.Ein Reader.2., verbesserte Auflage.

成績評価方法と基準 授業中の翻訳50% レポート50% 計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 毎週火曜日3・4限 場所：人文学部専門校舎2F研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 意味論の基礎概念

第2回～第3回 Bedeutung, Einleitung.

第4回～第6回 Trier: Sprachliche Felder.

第7回～第10回 Bierwisch: Strukturelle Seman-

tik.

第11回～第13回 Wunderlich: Grundlagen der Linguistik. Zur Explikation von Sinnrelationen.

第14回～第15回 Frege: Einleitung in die Logik.

英文学演習II

Seminar on English Literature II

学期 前期 **開講時間** 火3,4 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 吉野 由起 (人文学部)

授業の概要 Shakespeare's Problem Plays and Criticism: シェイクスピアの 'Problem Play' とされる作品群および批評を読み作品研究を行う。

学習の目的 一次資料・二次資料の読解を通して作品の理解を深め作品分析の練習を重ねるとともに、先行研究の潮流を把握し、受講生各自の研究法論を洗練する。

学習の到達目標 原典の読解を通して作品の理解を深めた上で、受講生各自の論点に基づいた議論ができるようになる。作品および各自の関心に基づいて文献を収集・読解・要約し、どのようなアプローチの研究が可能かを検証できるようになる。上記を通してイギリス・ルネサンス期演劇のジャンルとしての理解を多角的に深化する。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情

報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目

「英米文学」「英語」に関する諸科目、もしくは
地域を問わず「文学」「(舞台)芸術」に関連する諸科目

発展科目

「英米文学」「英語」に関する諸科目、もしくは
地域を問わず「文学」「(舞台)芸術」に関連する諸科目

教科書 授業時に指示します

成績評価方法と基準 授業時のプレゼンテーション等50% レポート50%

オフィスアワー 月曜9, 10限 吉野研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回: Introduction

第2回: Overview: Shakespeare's Problem Plays

第3回: Measure for Measure: Act I

第4回: Measure for Measure: Act II

第5回: Measure for Measure: Act III

第6回: Criticism on Measure for Measure (1)

第7回: Measure for Measure: Act IV

第8回: Measure for Measure: Act V

第9回: Criticism on Measure for Measure (2)

第10回: Criticism on Measure for Measure (3)

第11回: Criticism on Measure for Measure (4)

第12回: Timon of Athens: Act I

第13回: Timon of Athens: Act II

第14回: Criticism on Timon of Athens (1)

第15回: Criticism on Timon of Athens (2)

現代英語特講III

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 吉野 由起 (人文学部)

授業の概要

Early Modern Drama and Criticism:

(1)前期に引き続き、William Shakespeare, Timon of Athensと(2)Ben Jonsonによる喜劇Alchemist及び関連の批評を読み、作品研究を行う。

学習の目的 一次資料・二次資料の読解を通して作品の理解を深め作品分析の練習を重ねるとともに、先行研究の潮流を把握し、受講生各自の研究方法論を洗練する。

学習の到達目標 原典の読解を通して作品の理解を深めた上で、受講生各自の論点に基づいた議論ができるようになる。作品および各自の関心に基づいて文献を収集・読解・要約し、どのようなアプローチの研究が可能かを検証できるようになる。上記を通してイギリス・ルネサンス期演劇のジャンルとしての理解を多角的に深化する。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考

力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目

「英米文学」「英語」に関する諸科目、もしくは地域を問わず「文学」「(舞台)芸術」に関連する諸科目

発展科目

「英米文学」「英語」に関する諸科目、もしくは地域を問わず「文学」「(舞台)芸術」に関連する諸科目

教科書 授業時に指示します

成績評価方法と基準 授業時のプレゼンテーション等50% レポート50%

オフィスアワー 木曜7, 8限 吉野研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回: Introduction; Timon of Athens: Act III
- 第2回: Timon of Athens: Act IV
- 第3回: Timon of Athens: Act V
- 第4回: Criticism on Timon of Athens (3)
- 第5回: Criticism on Timon of Athens (4)
- 第6回: Ben Jonson and Early Modern Drama
- 第7回: Alchemist: Act I

- 第8回: Alchemist: Act II
- 第9回: Alchemist: Act III
- 第10回: Criticism on Alchemist (1)
- 第11回: Criticism on Alchemist (2)
- 第12回: Alchemist: Act IV
- 第13回: Alchemist: Act V
- 第14回: Criticism on Alchemist (3)
- 第15回: Review

日本原始古代文化財学特講

Lecture on Ancient Cultural Heritage in Japan

学期 前期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 小澤 毅(人文社会科学研究科)

授業の概要 『古事記』『日本書紀』を通読し、考古資料などとの比較をつうじて、歴史的事象との関係を考える。

学習の目的 『古事記』『日本書紀』の記事の比較や考古学など関連資料の分析をつうじて、歴史とのかかわりを考察する。

学習の到達目標 文献史料と考古資料のそれぞれの特質や相違点を理解し、歴史的事象と

の関係を判断する材料を得る。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受信力

成績評価方法と基準 研究発表60%、受講態度40%

オフィスアワー 火曜日15:00～16:00

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス
第2回 担当部分の決定

第3回～第5回 研究発表の準備と質疑応答
第6回～第14回 研究発表
第15回 まとめ

日本原始古代文化財学演習

Seminar in Ancient Cultural Heritage in Japan

学期 後期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 小澤 毅(人文社会科学研究科)

授業の概要 『古事記』『日本書紀』を通読し、考古資料などとの比較をつうじて、歴史的事象との関係を考える。

学習の目的 『古事記』『日本書紀』の記事の比較や考古学など関連資料の分析をつうじて、歴史とのかかわりを考察する。

学習の到達目標 文献史料と考古資料のそれぞれの特徴や相違点を理解し、歴史的事象との関係を判断する材料を得る。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力

受講要件 日本原始古代文化財学特講を履修済であること

成績評価方法と基準 研究発表60%、受講態度40%

オフィスアワー 火曜日15:00~16:00

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 担当部分の決定

第2回~第5回 発表の準備と質疑応答

第6回~第14回 研究発表

第15回 まとめ

日本中近世文化財学特講

Lecture on Medieval and Early Modern Cultural Heritage in Japan

学期 後期 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 小澤 毅(人文社会科学研究科)

授業の概要 『発掘調査のてびき』を通読し、日本の墳墓および寺院・官衙遺跡の特性と調査法について理解する。

学習の目的 『発掘調査のてびき』を題材に、日本の墳墓および寺院・官衙遺跡の特性とそれを構成する遺構・遺物の調査法を学習する。

学習の到達目標 日本の墳墓および寺院・官衙遺跡の特性を把握し、それを構成するさまざまな遺構や遺物の調査法についての知識を得る。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 問題解決力, 情報受発信力

予め履修が望ましい科目 日本考古学実技演習A・B

教科書 『発掘調査のてびき—各種遺跡調査編—』同成社、2013年

成績評価方法と基準 研究発表60%、受講態度40%

オフィスアワー 火曜日15:00～16:00

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 題材と発表内容の説明

第2回 担当部分の決定

第3回～第5回 研究発表の準備と質疑応答

第6回～第14回 研究発表

第15回 まとめ

日本中近世文化財学演習

Seminar in Medieval and Early Modern Cultural Heritage in Japan

学期 後期 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 小澤 毅(人文社会科学研究科)

授業の概要 『発掘調査のてびき』を通読し、日本の城館および生産遺跡の特性と調査法について理解する。

学習の目的 『発掘調査のてびき』を題材に、日本の城館および生産遺跡の特性とそれを構成する遺構・遺物の調査法を学習する。

学習の到達目標 日本の城館および生産遺跡の特性を把握し、それを構成するさまざまな遺構や遺物の調査法についての知識を得る。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 問題解決力, 情報受発信力

受講要件 日本中近世文化財学特講を履修済であること

予め履修が望ましい科目 日本考古学実技演習A・B

教科書 『発掘調査のてびき—各種遺跡調査編—』同成社、2013年

成績評価方法と基準 研究発表60%、受講態度40%

オフィスアワー 火曜日15:00～16:00

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 題材と発表内容の説明

第2回 担当部分の決定

第3回～第5回 研究発表の準備と質疑応答

第6回～第14回 研究発表

第15回 まとめ

現代英語特講I

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 赤岩隆

授業の概要 翻訳入門

学習の目的 自主独立して翻訳の作業ができるようになる。

学習の到達目標 英語の成り立ちが解かる。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 適宜指導

成績評価方法と基準 レポート、発表

オフィスアワー 火曜日12:00-13:00

授業計画・学習の内容

学習内容 実践的な翻訳

英文学演習I

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 赤岩隆

授業の概要 シェイクスピア

受講要件 特になし

学習の目的 翻訳

予め履修が望ましい科目 特になし

学習の到達目標 翻訳力の養成

発展科目 特になし

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 適宜指導

成績評価方法と基準 毎回の発表、レポート

オフィスアワー 火曜日12:00-13:00

授業計画・学習の内容

学習内容 毎回、範囲を決めて、訳文を作成し、訂正を加えてゆく

現代中国語演習 II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習
担当教員 福田和展 (人文学部文化学科)

授業の概要 中国語中級以上のレベルを持つ学生を対象とする。履修者は中国語の音声、文法、語彙等、与えられたテーマについて、中国語教育の場でどのように解釈し、教えるのかという観点から発表を行う。

学習の目的 中国語の音声、文法、語彙に対する深い理解を得る。中国語教授法の知識獲得。

学習の到達目標 中国語教授法を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的

思考力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語初級レベルの学生は受講できない。中国語を初歩から学びたい学生は、共通教育の授業を聴講すること。

教科書 授業中に指示。

成績評価方法と基準 発表回数・発表内容及びレポート。

オフィスアワー 月から金の授業、会議時間以外。

授業計画・学習の内容

学習内容

以下の計画に沿って15回の授業を進める。

第1回～第5回：現代中国語の発音教育

第6回～第10回：現代中国語の文法教育

第11回～第15回：現代中国語と日本語の比較を通じた教授法

中世近世日本文学作品論演習

Seminar in Japanese Middle age and Early Modern Literature Works

学期 後期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義

担当教員 吉丸 雄哉 (人文学部)

授業の概要 日本の伝統芸能を学ぶ。日本の伝統芸能(能・狂言・人形浄瑠璃・歌舞伎・話芸)を学ぶ。視覚機材を使って、それらを鑑賞する。鑑賞の前に、根本的だがきわめて答えにくい質問をいくつか用意した紙を渡す。鑑賞後に、それらについて、各自の見解を聞かせてもらう。

学習の目的 それぞれ芸能の成り立ちや歴史的な位置づけなど基本的な知識を学ぶ。鑑賞を通じてそれらに親しむ。

学習の到達目標 単に教養として伝統芸能の知識を得るだけでなく、今後の実人生において、継続して興味が持てるようにする。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術

受講要件 日本古典文法の基礎知識を有する

授業計画・学習の内容

学習内容

授業の内容は予定であり、諸君の関心によって、変更することがある。

一回、狂言 狂言の歴史と基本的な上演形態について学習。

二回、狂言 鑑賞。

三回、能 能の歴史と基本的な上演形態について学習。

四回 能 鑑賞 複式夢幻能。

五回 能 鑑賞 現在能。

六回 人形浄瑠璃 人形・太夫・三味線

こと。期間中に実際の観劇体験を要求する。諸経費は自費であり、時間もかかるだろうが受講の絶対条件として了解のこと。また、上演時間の都合で授業の終了が遅くなること、がしばしばあるのも、了解のうえ受講すること。

予め履修が望ましい科目 日本近世史の授業。

教科書 なし。

成績評価方法と基準 テスト100%

オフィスアワー

木曜日の昼休み。長い時間が必要なものはあらかじめメールで相談の予約をすること。

ほとんどの場合、木曜日の午後が空いている。

七回 人形浄瑠璃 鑑賞

八回 歌舞伎 役者・劇場・興行等

九回 歌舞伎 鑑賞 時代物

十回 歌舞伎 鑑賞 世話物

十一回 歌舞伎 鑑賞 舞踊

十二回 落語・講談 成り立ちと演者

十三回 落語と漫才 解説と鑑賞

十四回 講談と浪曲 解説と鑑賞

十五回 まとめ。

期間中、実際の観劇体験を要求する。

中世近世日本文学論演習

Seminar in Japanese Middle age and Early Modern Literature

学期 後期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義

担当教員 吉丸 雄哉 (人文学部)

授業の概要 中世・近世のある文芸を選び、報告を行なう。自分が大学教員となって模擬授業を行なうぐらいの気持ちでいて欲しい。作品の選択は自由。

学習の目的 各文芸の特徴を理解し、それに関する従来の説を総括する。既存の説とは違った自分独自の知見を築く。わかりやすい発表の技術を身につける。。

学習の到達目標 中世・近世の文学作品について新しい論点を見つける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知

識・技術, 批判的思考力

受講要件 日本古典文法および漢文法の基礎知識を有すること。

成績評価方法と基準 発表六割、期末レポート四割。

オフィスアワー

木曜日の昼休み。長い時間が必要なものはあらかじめメールで相談の予約をすること。

ほとんどの場合、木曜日の午後が空いている。

授業計画・学習の内容

学習内容

最初にどのように発表すればいいのか、手本を見せる。それで具体的な手順は理解できるはずである。

一回 導入、手本。

二回以降 各人の発表。

十五回 まとめ。

美術論特講Ⅰ

Art History

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤田伸也

授業の概要

中国文化を絵画史の視点から理解する。

『中国山水画の誕生』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳）を読みながら、中国美術の諸問題を考察していく。

学習の目的

中国山水画の概略を理解する。

中国文化における絵画の重要性を把握する。

学習の到達目標

中国絵画の特質を理解し、西洋絵画との相違を理解する。

日本絵画に与えた中国絵画の影響を指摘できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

『中国山水画の誕生(原題: The Birth of Landscape Painting in China)』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳、1995年、5,040円）を読み、中国絵画史を理解する。受講生の分担発表を中心とし、随時解説講義を加えてい

発展科目 美術論演習Ⅰ

教科書 『中国山水画の誕生』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳、青土社、1995年）

成績評価方法と基準 発表と積極性70%、レポート30%。

オフィスアワー 毎週月曜日12:00～14:30、火曜日10:30～12:30／藤田研究室（共通教育2号館2階）

その他

大阪・京都・奈良などの日帰り圏内で、美術館や寺院の見学を行う場合がある。

その際の交通費・入館料等は各自の負担となる。また学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

く形式で授業を進める。

〔授業計画〕

第1回 授業の概要説明

第2～3回 中国絵画史入門

第4～14回 テキスト講読（学生発表）

第15回 まとめ

美術論演習Ⅰ

Art History

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 藤田伸也

授業の概要

中国文化を絵画史の視点から理解する。

前期科目「美術論特講Ⅱ」に引き続き『中国山水画の誕生』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳）を読みながら、中国美術の諸問題を考察していく。

学習の目的

中国山水画の概略を理解する。

中国文化における絵画の重要性を把握する。

学習の到達目標

中国絵画の特質を理解し、西洋絵画との相違を理解する。

日本絵画に与えた中国絵画の影響を指摘できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考

える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 美術論特講Ⅰ

教科書 『中国山水画の誕生』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳、青土社、1995年）

成績評価方法と基準 発表と積極性70%、レポート30%。

オフィスアワー 毎週月曜日12:00～14:30、火曜日10:30～12:30／藤田研究室（共通教育2号館2階）

その他

大阪・京都・奈良などの日帰り圏内で、美術館や寺院の見学を行う場合がある。

その際の交通費・入館料等は各自の負担となる。また学生教育研究災害傷害保険には必ず加入していること。

授業計画・学習の内容

学習内容

前期科目「美術論特講Ⅱ」に引き続き、『中国山水画の誕生(原題：The Birth of Landscape Painting in China)』（マイケル・サリヴァン著／中野・杉野訳、1995年、5,040円）を読み、中国絵画史を理解する。受講生の分担発表を中心とし、随時解説講義を加えていく形

式で授業を進める。

〔授業計画〕

第1回 授業の概要説明

第2回 中国絵画史の諸相

第3～14回 テキスト講読（学生発表）

第15回 まとめ

米文学演習 II

Seminar on American Literature II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 野田 明

授業の概要 アメリカの短篇小説、特に19世紀中葉のアメリカン・ルネサンスと呼ばれる時代の作品を講読・研究する。

学習の目的 英文による批評・先行研究を踏まえつつ、作品に対して、自分なりの評価ができるようになる。

学習の到達目標 原文を正確に読むことができる。短篇小説のテーマと構成が理解できる。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：イントロダクション

第2回～第5回：ポーの作品

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力

教科書 原書を使用する予定。

成績評価方法と基準 授業での発表50%、期末試験50%。

オフィスアワー 月曜12:10～12:50、人文学部3階野田研究室

第6回～第10回：ホーソーンの作品

第11回～第15回：メルヴィルの作品

第16回：総括

ドイツ文学特講Ⅰ

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 菅 利恵

授業の概要 啓蒙時代の演劇論について学ぶ。当時の主要な演劇論を講読し、そこにみるフィクション観について考察する。

学習の目的 啓蒙時代のドイツ語圏における演劇論の発展について知識を得る。啓蒙時代におけるフィクション作品の社会的な機能について考察を深める。

学習の到達目標 啓蒙時代の演劇が持った社会的な機能について専門的な知識を得る。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力

受講要件 ドイツ語中級以上の知識があること。

教科書 プリント配布

成績評価方法と基準 平常点とレポート。

オフィスアワー 金曜日1:00~2:00

授業計画・学習の内容

学習内容

啓蒙時代の演劇理論を講読する。内容に関する講義も行う。

概要

1~4 ゴットシェートの演劇論

5~8 レッシングの演劇論

9~10 レンツの演劇論

11~14 シラーの演劇論

15 まとめ

華文文学論特講

Leadings of Overseas Chinese Literature

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 花尻奈緒子 (人文学部)

授業の概要 中国語で書かれた論文の精読を通じて、華文文学研究と中国文学研究者による華文文学評論の両面から、香港・台湾を含む海外華文文学と中国現代・当代文学との関わり、および伝統文化とナショナリズムの関係について論じる。

学習の目的 華文文学と中国文学における伝統文化・文学伝統を知り、自身の研究テーマに照らして問題性を汲み上げ、論じられるようになる。

学習の到達目標 テクストの訳読と関連資料の補足などの作業を通じて、資料調査・プレゼンテーションの基本を習得する。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情

報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語で書かれた学術論文を辞書を用いて訳読する能力があること。

予め履修が望ましい科目 中国当代作作品論特講、中国当代作作品論演習

発展科目 華文文学論演習

教科書 第一回目の講義でプリントを配布する。

成績評価方法と基準 受講時の取り組み 50%、レポート50%

オフィスアワー 在室時は可

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 中国語能力の確認、資料配付、進行の説明

第2～6回 華文文学史と中国文学史の関係

第7～11回 五四新文学伝統と華文文学

第12～14回 90年代ナショナリズムと中国民族伝統意識

第15回 総括

華文文学論演習

Seminar of Overseas Chinese Literature

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 花尻奈緒子 (人文学部)

授業の概要 華文文学と中国文学に関わる中国語で書かれた論文を精読し、受講者が発表を行う。読む資料は受講者が自身の研究テーマにてらして選択する。

学習の目的 華文文学と中国文学における伝統文化・文学伝統を知り、自分の研究テーマに照らして問題性を汲み上げ、論じられるようになる。

学習の到達目標 テクストの訳読と関連資料の補足などの作業を通じて、資料調査・プレゼンテーションの基本を習得する。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情

報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語で書かれた学術論文を辞書を用いて訳読する能力があること。

予め履修が望ましい科目 華文文学論特講

発展科目 中国当代作作品論特講、中国当代作作品論演習

教科書 第一回目の講義で資料を決定する。

成績評価方法と基準 受講時の取り組み50%、発表50%

オフィスアワー 在室時は可

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 中国語能力の確認、進行の説明および参考資料提示

第2回 担当資料の決定および予備講義
第3～14回 担当者の発表と受講者討論
第15回 総括

中国当代作品論特講

Leadings of theory of works in contemporary Chinese literature

学期 前期 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 花尻奈緒子 (人文学部)

授業の概要 中国語で書かれた当代文学作品とその関連資料を精読し、作品の背景についての検討を通じて、中国文学(史)の枠組みを考察する。作品の選択は教員によるが、受講者が持ち込むことも可。

学習の目的 文化・社会・歴史的背景を参照して、作家による作品の意図を読み取ることができるようになる。中国文学(史)の枠組みについて自身のイメージを形成する。

学習の到達目標 中国文化への理解を深め、中国語による表現を中国語のまま理解できるようになる。作品への見解を自身の研究テーマにてらして論じられるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 中国語能力の確認、資料配付、進行の説明

的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語で書かれた文学作品・学術論文を辞書を用いて訳読する能力があること。

予め履修が望ましい科目 華文文学論特講、華文文学論演習

発展科目 中国当代作品論演習

教科書 第一回目の講義で指示する。

成績評価方法と基準 受講時の取り組み50%、レポート50%

オフィスアワー 在室時は可

第2~14回 作品と関連資料の精読および討論
第15回 総括

社会人類学演習

Social Anthropology Seminar

学期 後期 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習 授業の特徴
能動的要素を加えた授業

担当教員 深田淳太郎(人文学部)

授業の概要 人文社会科学において、しばしば対立的に用いられてきた「経済」と「社会」、あるいは「共同体」と「市場」という二つの概念について、1980年代後半以降に書かれた経済人類学の重要文献を精読することを通して考察する。

学習の目的 社会人類学「特講」においてはカール・ポランニーの著作の精読から同様の考察を行なったが、「経済」と「社会」を対置するという思考の枠組みは現在に至るまで、形を変えて続いていると言ってよい。この「演習」では1980年代後半以降に出版された三つの文献の精読を通して、現代における「社会」と「経済」の対立の問題について考察したい。

学習の到達目標 経済人類学の専門知識を深めるとともに、「社会」と「経済」についての新たな見方を獲得する。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力

予め履修が望ましい科目

アジア・オセアニアの民族と文化、アジア・

オセアニアの社会、文化人類学関係、アメリカの民族と文化
社会人類学、フィールドワーク論など

教科書

PARRY, J.and M.BLOCH (eds.) (1989) "Money and the Morality of Exchange."

HANN, C.and K.HART (2011) "Economic Anthropology: History, Ethnography, Critique."

Callon, M.(ed.)(1998) "The Laws of the Markets."

以上の三冊を受講者は入手しておくこと。

成績評価方法と基準

- ・最終レポート50%
- ・講義内での発表、発言50%

オフィスアワー

木曜3-4限は研究室にいるようにしますので、なにか相談があれば遠慮無く来て下さい。

それ以外の時間も研究室に灯りがついていれば訪ねて来てもらって構いません

その他 受け身の姿勢ではなく、この授業で何を学びたいのかを考えて主体的に授業運営に関わってください

授業計画・学習の内容

学習内容 毎週1-2章ずつ、文献を精読していく。発表担当者は、担当部分について演習の二日前までに翻訳を作成し、受講者にメール

等で配付すること。講義当日は担当者に内容の解説してもらい、それをもとに討論を行なう。

社会人類学特講

Special Class in Social Anthropology

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 深田淳太郎(人文学部)

授業の概要 人文社会科学において、しばしば対立的に用いられてきた「経済」と「社会」、あるいは「共同体」と「市場」という二つの概念について、カール・ポランニの著作を精読することを通して考察する。

学習の目的 経済人類学の大家であるカール・ポランニの著作の精読を通し、どのような形で「社会」と「経済」が対立するものとして捉えられるようになったのかを特定の歴史的背景の中に探り、その二つを対立するものとして捉えることによって、いかなる人間理解が達成されたのかについて考察を深める。

学習の到達目標 経済人類学の専門知識を深めるとともに、「社会」と「経済」についての新たな見方を獲得する。

受講要件 後期の「社会人類学演習」も合わせて受講すること

予め履修が望ましい科目 アジア・オセアニ

アの民族と文化、アジア・オセアニアの社会、文化人類学関係、アメリカの民族と文化

教科書

Polany, K.(1944) "The Great Transformation."
Polany, K.(1968) "Primitive, Archaic, and Modern Economics: Essays of Karl Polany."
Polany, K.(1977) "The Livelihood of Man."
以上の三冊を受講者は入手しておくこと。

成績評価方法と基準

- ・最終レポート50%
- ・講義内での発表、発言50%

オフィスアワー 木曜3-4限は研究室にいるようにしますので、なにか相談があれば遠慮無く来て下さい。それ以外の時間も研究室に灯りがついていれば訪ねて来てもらって構いません。

その他 受け身の姿勢ではなく、この授業で何を学びたいのかを考えて主体的に授業運営に関わってください。

授業計画・学習の内容

学習内容 毎週1-2章ずつ、文献を精読していく。発表担当者は、担当部分について演習の二日前までに翻訳を作成し、受講者にメール

等で配付すること。講義当日は担当者に内容の解説してもらい、それをもとに討論を行なう。

中国当代作品論演習

Seminar of theory of works in contemporary Chinese literature

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 花尻奈緒子 (人文学部)

授業の概要 中国語で書かれた文学作品とその関連資料を精読し、受講者が発表を行う。作品の選択は受講者が自身の研究テーマにそって選択する。

学習の目的 文化・社会・歴史的背景を参照して、作家による作品の意図を読み取ることができるようになる。中国文学(史)の枠組みについて自身のイメージを形成する。

学習の到達目標 中国文化への理解を深め、中国語による表現を中国語のまま理解できるようになる。作品への見解を自身の研究テーマにてらして論じられるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判

的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語で書かれた文学作品・学術論文を辞書を用いて訳読する能力があること。

予め履修が望ましい科目 華文文学論特講、華文文学論演習

発展科目 中国当代作品論特講

教科書 第一回目の講義で指示する。

成績評価方法と基準 受講時の取り組み50%、発表50%

オフィスアワー 在室時は可

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 中国語能力の確認、資料配付、進行の説明

第2～14回 担当者による発表と討論
第15回 総括

民族学演習

Ethnology Seminar

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 深田淳太郎(人文学部)

授業の概要 人間は周囲の環境とどのように関わるのか?さまざまな考え方があろうが、たとえば手で周囲にあるモノに触れるということも、世界との接触の一つの経路であると言えるだろう。この演習では、このモノを手に触れ、それを認識する際に発生する「数える」という出来事について考えていきたい。

学習の目的 周囲の環境やモノに手を触れ、それを数えるということを主題化した二つの文献を精読する。一つはアフリカの緒社会における数え方について論じた ethno-mathematics の論考、もう一つがパプアニューギニア高地における数量認識についての民族誌である。

学習の到達目標 人間がモノに手で触れ、その数を数えるということによってどのように周囲の環境を、自らの世界認識の中に整序し、その中で生きていくのかということについて理解出来る。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考

授業計画・学習の内容

学習内容 毎週1-2章ずつ、文献を精読していく。発表担当者は、担当部分について演習の二日前までに翻訳を作成し、受講者にメール

力, 課題探求力, 討論・対話力

予め履修が望ましい科目

アジア・オセアニアの民族と文化、アジア・オセアニアの社会、文化人類学関係、アメリカの民族と文化など
社会人類学演習、社会人類学特講

成績評価方法と基準

Zaslavsky, C.(1999) "Africa Counts: Number and Pattern in African Cultures."

Mimica, J.(1988) "Intimations of Infinity: The Cultural Meanings of the Iqwaye Counting and Number Systems."

以上の二冊を受講者は入手しておくこと。

オフィスアワー 木曜3-4限は研究室にいるようにしますので、なにか相談があれば遠慮無く来て下さい。それ以外の時間も研究室に灯りがついていれば訪ねて来てもらって構いません。

その他 受け身の姿勢ではなく、この授業で何を学びたいのかを考えて主体的に授業運営に関わってください

等で配付すること。講義当日は担当者に内容の解説してもらい、それをもとに討論を行なう。

社会地理学演習

Seminar in society and space

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 北川 真也 (人文学部)

授業の概要 修士論文の執筆へ向けて、問題意識を深め、理論的視座を獲得するために、文献を講読する。

学習の目的 グローバル化時代の社会空間は均質化され統合されるどころか、むしろ様々な異質性によって分断されているようにみえる。昨今の人文地理学の様々な議論、また「ポストコロニアリズム」という研究潮流を参照することで、こうした状況が出現している要因や過程について検討・理解する。

学習の到達目標 一定水準の修士論文を作成するために、批判的な問題意識・理論・方法

論を身につけること。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力

教科書 デヴィッド・ハーヴェイ著、大屋定晴・森田成也・中村好孝・岩崎明子訳、『コスモポリタニズム——自由と変革の地理学』作品社、2013 など

成績評価方法と基準 授業での報告50% レポート50%

オフィスアワー 木曜日 12時から13時 研究室

授業計画・学習の内容

学習内容 毎回テキストを読み進め、そこから討議を行う。各回の担当者はレジュメを作

成してくること。

西洋思想文化論特講Ⅰ

European Philosophy I

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

担当教員 田中 綾乃 (人文学部)

授業の概要 西洋哲学史の流れを、「観念」、「啓蒙」、「言語」、「歴史認識」から再考する。

学習の目的 西洋哲学における基本的な文献にあたることで、西洋哲学の基礎力を養うことができる。

学習の到達目標 西洋哲学における必須文献を原文で読解する。

受講要件 哲学の基本知識を有すること

授業計画・学習の内容

学習内容
基礎的な文献を読解し、解説することで、西洋哲学における基本タームの理解を深める。

教科書

神野慧一郎『イデアの哲学史』（ミネルヴァ書房）

その他、開講時に指示する。

成績評価方法と基準 レポート、平常点から総合的に評価する。

オフィスアワー

毎週水曜日12:00~13:00

あらかじめ、メールでアポイントをとること。

それぞれの概念の成立の背景、歴史的変遷も紹介しながら、西洋思想文化への洞察力を養う。

西洋思想文化論演習 I

Seminar in European Philosophy I

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 田中 綾乃 (人文学部)

授業の概要 オリジナルのテキストを精読することで、西洋近代哲学についての理解をさらに深める。

学習の目的 哲学の古典テキストを正確に読解・理解し、それを的確に発表する表現力を養う。

学習の到達目標

テキストに書かれた一文、一文の理解を掘り下げる。

読む量ではなく、読むく深さ>に重点を置

き、テキストを理解する。

受講要件 哲学の基礎知識を有すること。

教科書 テキストは開講時に指示する。

成績評価方法と基準 演習発表、レポートから総合的に評価する。

オフィスアワー

毎週水曜日12:00~13:00

事前にアポイントをとること。

授業計画・学習の内容

学習内容 西洋近代哲学のオリジナルのテキストを精読していく。担当者を決め、発表形

式で授業を進める。随時、参考文献にも目を通し、テキストの理解を深める。

現代英語演習II

Present-day English Seminar II

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 吉田悦子

授業の概要 現代英語のテキスト、主に評論や新聞コラム、雑誌記事、論考などを素材として、基本的な英語読解力と内容を把握する力を養う。

学習の目的 現代英語のテキストの読解を通して、英語の語彙や文法の知識を深め、構文理解、英文構成と展開について、正確に理解し、解説することができる。

学習の到達目標 英文テキストの内容について、語彙及び文法を正確に理解し、主張されていることとその解釈について解説することができる。

授業計画・学習の内容

学習内容 受講生と相談の上決める。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 受講生を相談の上、決定する

成績評価方法と基準 授業での課題提出50%、レポート50%、計100%

オフィスアワー 木曜日5・6限

日本語史演習

the seminar of Japanese Linguistics

学期 後期 開講時間 火 11, 12 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 川口 敦子 (人文学部)

授業の概要 中世口語資料(キリシタン資料、狂言台本など)を題材に、日本語の諸問題について考察する。

学習の目的 用意されたテキストについて、その資料性を探り、また、そこに見いだせる諸問題を解決するために、適切な資料を収集し、論理的に説明して解決する力を身につける。

学習の到達目標

用意されたテキストを正確の読解することが出来る。

読解したテキストから日本語学に関連する諸問題を見だし、適切な資料と論理的な思考で問題を解決することが出来る。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 初回に受講生と相談の上、決定する。

成績評価方法と基準 発表内容とレポート(70%), 授業への貢献度(30%)で総合的に判断する。

オフィスアワー 随時(必ず事前にメール等でアポイントメントを取る事)

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス、テキストについて
第2回 中世口語資料について
第3～14回

・テキストの読解
・問題発見
・考察, 発表
第15回 まとめ

日本語史資料論演習

the seminar of Materials for Japanese Linguistics

学期 前期 開講時間 火 11, 12 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 川口 敦子 (人文学部)

授業の概要 中世口語資料(キリシタン資料、狂言台本など)を題材に、日本語の諸問題について考察する。

学習の目的 用意されたテキストについて、その資料性を探り、また、そこに見いだせる諸問題を解決するために、適切な資料を収集し、論理的に説明して解決する力を身につける。

学習の到達目標

用意されたテキストを正確の読解することが出来る。

読解したテキストから日本語学に関連する諸問題を見だし、適切な資料と論理的な思考で問題を解決することが出来る。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 初回に受講生と相談の上、決定する。

成績評価方法と基準 発表内容とレポート(70%), 授業への貢献度(30%)で総合的に判断する。

オフィスアワー 随時(必ず事前にメール等でアポイントメントを取ること)

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス、テキストについて
第2回 中世口語資料について
第3～14回

・テキストの読解
・問題発見
・考察、発表
第15回 まとめ

現代英語演習Ⅳ

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 吉野 由起

授業の概要 ロマン派の詩研究 (William Wordsworth, Samuel Taylor Coleridge, Robert Burns)

学習の目的 一次資料・二次資料の読解を通してイギリス・ロマン派の詩人・作品の専門的理解を深めるとともに、先行研究の動向を把握し、受講生各自の研究方法論を洗練する。

学習の到達目標 イギリス・ロマン派の詩人・作品・時代背景について理解を深めた上で、文献を収集・読解・要約し、どのようなアプローチの研究が可能かを検証したうえで、受講生各自の論点に基づいた議論ができるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベー

ション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 「イギリス」および地域を問わず「文学」に関連する諸科目

発展科目 「イギリス」および地域を問わず「文学」に関連する諸科目

教科書 授業時に指示します

成績評価方法と基準 授業時のプレゼンテーション等50% レポート50%

オフィスアワー 月曜9, 10限 吉野研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：イントロダクション

第2-5回：詩を議論する/ロマン派とは何か/先行研究の把握と検証

第6-9回：Wordsworth and Coleridge

第10-14回：Burns

第15回：まとめ

現代英語特講II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習
担当教員 赤岩隆

授業の概要 翻訳入門

学習の目的 翻訳の実践

学習の到達目標 翻訳の実践

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 英語力、日本語力

授業計画・学習の内容

学習内容 翻訳の実践

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 適宜指導

成績評価方法と基準 平常点60パーセント、レポート40パーセント

オフィスアワー 火曜12時から13時

その他 特になし

米文学特講 II

American Literature II

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 小田 敦子(人文学部)

授業の概要 アメリカ文学選集から、受講生の研究テーマに関連のある作品を読む。

感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 アメリカ文学を広く読み、様々な問題意識、表現技法を知る。

教科書 The Norton Anthology of American Literature

学習の到達目標 小説の技法、表現への意識を高める。

成績評価方法と基準 レポート60%、授業への取組み40%

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 批判的思考力, 実践外国語力,

オフィスアワー 月曜日12:10~12:50

授業計画・学習の内容

学習内容

第1週 作品選定

第2週～第15週 講読

現代英語演習 II

Seminar in Present-day English II

学期 前期 **開講時間** 水 11, 12 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 井上 稔浩 (人文学部)

授業の概要 研究に必須となる、様々なタイプの英文を読解する。 思考力

学習の目的 英文読解を主体的に行うことができる。

教科書 講義時に紹介します。

成績評価方法と基準 講義への参加度、レポート等により評価します。

学習の到達目標 英文読解の基礎力を養成する。

オフィスアワー 毎週木曜12:00～13:00 井上研究室

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的

授業計画・学習の内容

学習内容

適宜プリントを配布し、以下のタイプの英文をそれぞれ5回づつ講義します。

- 1・新聞の英語
- 2・論説の英語
- 3・小説の英語

近代現代日本文学作品論演習

the intensive study of the works of the modern Japanese literature

学期 後期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義

担当教員 坂 堅太

授業の概要 1950年代の安部公房の作品を講読しながら戦後日本における文学と政治の問題を考える。

学習の目的 日本近代文学を研究する基本的な手法と知識を身につける。

学習の到達目標 日本近代文学を研究する基本的な手法と知識を身につける。

本学教育目標との関連 感性, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書 別途指示する。

成績評価方法と基準 授業への意欲30%、期末レポート70%。毎回リフレクションシートを配付し、授業の理解度を測定する。

オフィスアワー 毎週火曜日12～13時、場所：研究室

その他 夜間は、前期月11～12限で開講。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 イントロダクション（問題関心の紹介、発表分担の決定など）

第2回～14回 受講者による研究発表
第15回 まとめ

近代現代日本文学論演習

the intensive study of the modern Japanese literature

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 講義

担当教員 坂堅太

授業の概要 1950年代の安部公房の作品を購入しながら戦後日本における文学と政治の問題を考える。

学習の目的 日本の近代文学を研究する基本的な手法と視点を身につける。

学習の到達目標 日本の近代文学を研究する基本的な手法と視点を身につける。

本学教育目標との関連 感性, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書 別途指示する。

成績評価方法と基準 授業への意欲30%、期末レポート70%。毎回リフレクションシートを配付し、授業の理解度を測定する。

オフィスアワー 毎週火曜日12～13時、場所：研究室

その他 夜間は、後期月11～12限に開講。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 イントロダクション（問題関心の紹介、発表分担の決定など）

第2回～14回 受講者による研究発表
第15回 まとめ

上代中古日本文学論演習

the seminar of the theory of the literature in NARA and HEIAN

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 高井 悠子

授業の概要 中古散文作品を読む

学習の目的 中古の散文作品を取り上げ、影印本で読む。本文を精読することを通じて、作品内容を理解するとともに、自ら問題点を見つけ、探究する力を養う。

学習の到達目標 読解力及び自ら問題点を発見し探求する力を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力

受講要件 大学生の時に日本古典文学を勉強したことがある者。

教科書 初回到学生と相談の上、決定する。

成績評価方法と基準 発表内容とレポート(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週火曜日の昼休み

その他 第1回目の授業は必ず出席してください。

授業計画・学習の内容

学習内容

初めの数回は講義形式で行い、その後、受講者には順番に担当箇所について発表してもらう。

第1回 インTRODククション

第2回 発表の方法

第3回 発表①

第4回 発表②

第5回 発表③

第6回 発表④

第7回 発表⑤

第8回 発表⑥

第9回 発表⑦

第10回 発表⑧

第11回 発表⑨

第12回 発表⑩

第13回 発表⑪

第14回 発表⑫

第15回 まとめ

上代中古日本文学論演習

the seminar of hte Japanese literature in the period of NARA and HEIAN

学期 前期 開講時間 水 3, 4 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次

授業の方法 演習

担当教員 高井 悠子

授業の概要 中古散文作品を読む

学習の目的 中古の散文作品を取り上げ、影印本で読む。本文を精読することを通じて、作品内容を理解するとともに、自ら問題点を見つけ、探究する力を養う。

学習の到達目標 読解力及び自ら問題点を発見し探求する力を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力

受講要件 大学生の時に日本古典文学を勉強したことがある者。

教科書 初回到学生と相談の上、決定する。

成績評価方法と基準 発表内容とレポート(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週火曜日の昼休み

その他 第1回目の授業は必ず出席してください。

授業計画・学習の内容

学習内容

初めの数回は講義形式で行い、その後、受講者には順番に担当箇所について発表してもらう。

第1回 インTRODクシヨン

第2回 発表の方法

第3回 発表①

第4回 発表②

第5回 発表③

第6回 発表④

第7回 発表⑤

第8回 発表⑥

第9回 発表⑦

第10回 発表⑧

第11回 発表⑨

第12回 発表⑩

第13回 発表⑪

第14回 発表⑫

第15回 まとめ

犯罪総論特講

Criminal Law

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 田中亜紀子

授業の概要 刑事法における主要論点を確認し、その問題点を検討する。具体的な内容は、受講者と相談の上、決定する。過去の実施例としては、履修者（2名）が自らの修士論文と関連した刑事法上の先行研究に関する報告を交互に行い、その報告に基づいて質疑応答を行った。

学習の目的

刑事法について、大学院生として学部生よりもさらに詳しい知識を身につけること。刑事法に関する論文を読み解き、それに基づいて報告を行う能力を身に付けること。また、最近の刑事法の問題点を理解し、当該問題につき自らの意見を形成すること。

学習の到達目標 刑事法において、選択したテーマについて、自ら主体的に文献などを調査・検討し、基本的な知識を身につけること、そして得た知識を他者に伝えることができること。

授業計画・学習の内容

学習内容 学習内容ならびに課題に関する詳細は、最初の講義時に受講者と相談の上、決

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力

受講要件 刑法総論、刑法各論を履修済であること

予め履修が望ましい科目 刑法を中心とする刑事諸法

発展科目 犯罪総論演習、地域社会と犯罪特講、刑事手続と人権特講、犯罪報道と人権特講等

教科書

最近の刑事法関係論文をとりあげるを予定
*但し、最初の講義時に受講者と相談の上、決定する

成績評価方法と基準 報告ならびに議論への参加状況により評価する

オフィスアワー 火曜日 14:40-16:10。その他の詳細は第1回目の授業時に説明する

定する

刑事手続と人権特講

Criminal Procedure

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 PBL

担当教員 伊藤 睦 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 刑事訴訟法及び憲法上の基本的理念に照らし合わせながら、犯罪及び刑事司法を取り巻く現代的課題につき個別具体的に検討する。検討の対象は、刑事訴訟法の他、少年法、刑事政策等の各分野に関係する問題を含む。

学習の目的 刑事法を取り巻く現状につき、資料等の科学的分析に基づいて正しく理解するとともに、現代的課題について、今本当に論じるべきことは何か、目指すべき正義とは何かを突き止める力を付ける

学習の到達目標

刑事訴訟法、少年法、刑事政策等の各分野における近時の課題について、専門的知識を得る。
現代社会についての刑事法的な考え方と、法

的な意見表明の方法を学ぶ。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 適宜指示する。

成績評価方法と基準 報告内容50%、講義時の受講態度と授業への貢献度50%

オフィスアワー 毎週火曜日5~6時限 人文学部4階伊藤研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

刑事訴訟法及び少年法、刑事政策などの分野にかかわる最近の重要書籍及び参考書を取り上げ、検討する。各回とも、受講生に報告を担当してもらう。

1回目 ガイダンス及び報告者順序等の決定

2~7回目 被害者の手続参加、裁判員制度、公判前整理手続などにまつわる刑事訴訟法の重大課題についての検討

8~12回目 改正少年法の問題点など、少年法にまつわる重大課題についての検討

13~15回目 麻薬犯罪者の処遇、触法精神障害者の処遇等、刑事政策にまつわる重大課題の検討

なお、検討の順序や検討内容については、開講後に受講生との協議の上変更する可能性がある

刑事手続と人権演習

Seminar on Criminal Procedure

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 PBL

担当教員 伊藤睦 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 刑事手続を取り巻く現代的課題につき、受講生による報告と討論を通じて具体的に検討していく。

学習の目的 刑事手続法を取り巻く現状につき正しく理解し、現代的課題に潜む議論の歪みや問題性を把握することができるようになる。また、自分の関心に沿って、議論をまとめ、刑事訴訟法の基本理念や憲法上の理念を用いながら、自分なりの見解を表明する力が身につく。

学習の到達目標

刑事手続に関する近時の最新の議論について、専門的知識を得る。

犯罪報道等に惑わされることのない、刑事法の思考力が身に付く。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス及び報告者の決定
第2～5回 刑事手続と裁判員制度等についての

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 各回のテーマに合わせて授業の中で指示する。

成績評価方法と基準 報告内容50%、討論内容及び受講態度50%

オフィスアワー 毎週金曜日3～4時限 人文学部伊藤研究室

基本書の輪読

第6～15回 刑事手続に関する文献をもとに、任意のテーマで受講者各自に報告してもらう。

法哲学特講

Legal Philosophy

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 高橋秀治 (人文学部)

授業の概要 法哲学の文献や関連する文献の講読を通じて、法についてのいろいろな考え方に触れ、現代的課題を発見するとともに、それらの背景や前提となる諸理論を学ぶ。講読する文献は、受講者として相談して決めるが、たとえば、マーサ・ヌスバウム（河野哲也監訳）『感情と法——現代アメリカ社会の政治的リベラリズム』（慶応義塾大学出版会、2010年）などを取り上げたい。

学習の目的 法についての伝統的な考え方や最近の傾向、法哲学などに関する現代的な諸問題について理解を深めることができる。

学習の到達目標 法の捉え方を切り口にして、現代の諸問題について、それらの背景や解決にむけての理論的糸口などが理解できるようになる。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 はじめに

第2回～第4回 法についての伝統的な考え方

第5回～第7回 法理論の最近の傾向

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 さしあたり、マーサ・ヌスバウム（河野哲也監訳）『感情と法——現代アメリカ社会の政治的リベラリズム』（慶応義塾大学出版会、2010年）。

成績評価方法と基準 出席や発表の仕方、授業に対する貢献などを総合して判定する。

オフィスアワー

毎週木曜日 12:00～13:00 高橋研究室

（事前に、htaka アットマーク human.mie-u.ac.jpまでメールして下さい。）

第8回～第15回 現代の法理論上の諸問題

ただし、参加者の意向や問題関心に応じて内容等を変更することがある。

法哲学演習

Seminar in Legal Philosophy

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 高橋秀治 (人文学部)

授業の概要 法哲学の論文を執筆するために必要な基礎知識を習得し、またその前提となる法哲学のさまざまな文献を講読し、最終的に論文執筆を目指す。

学習の目的 法学などについての知識や理解を駆使しながら、法哲学の論文を執筆することができる。

学習の到達目標 法哲学の論文を執筆するために必要な基礎知識が習得できる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題

解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 法哲学特講

教科書 適宜指示する。

成績評価方法と基準 出席や発表の仕方、授業に対する貢献などを総合して判定する。

オフィスアワー

毎週木曜日 19:30~20:00、高橋研究室
(事前に、htaka アットマーク human.mie-u.ac.jpまでメールして下さい。)

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 はじめに

第2回~第3回 法哲学論文の書き方について

第4回~第10回 モデルとしての法哲学論文を読

む

第11回~第15回 法哲学論文を書く

ただし、参加者の意向や問題関心に依じて内容等を変更することがある。

地域社会と法倫理特講

Topics in Community and Legal Ethics

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 高橋秀治 (人文学部)

授業の概要 地域社会における諸問題について参加者が課題を持ち寄り、それに対して法哲学的な検討を加えるための手掛かりとなるような関連する法哲学の文献を講読し、課題の解決を模索する。今年度は特に、共同体ということを中心に据えて、テキストを講読し、関連する諸問題を取り上げたい。

学習の目的 地域社会と法倫理に関する諸問題について、法哲学的な文献に親しみながら、原理的・哲学的な角度からの理解を深め、その解決の手がかりを得ることが出来る。

学習の到達目標 地域社会に関連する諸問題を取り上げて基本的な文献について理解を深めることができる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門

知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 法哲学特講

教科書 さしあたり、スティーヴン・ムルホール&アダム・スィフト (谷澤正嗣・飯島昇蔵訳者代表) 『リベラル・コミュニタリアン論争』(勁草書房、2007年)。

成績評価方法と基準 出席や発表の仕方、授業に対する貢献などを総合して判定する。

オフィスアワー

毎週木曜日 19:30~20:00、高橋研究室

(事前に、htaka アットマーク human.mie-u.ac.jpまでメールして下さい。)

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 はじめに

第2回~第3回 地域社会と法倫理に関する課題の設定

第4回~第15回 関連する文献の講読

ただし、参加者の意向や問題関心に依じて内容等を変更することがある。

政治思想史特講

History of Political Thought

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 麻野 雅子 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 本授業では、受講生の関心に従って、ヨーロッパ政治思想史が取りあげてきたテーマ（民主主義、正義、権力、平等など）から一つを選び、そのテーマに関して政治思想史の中ではどのように扱われ、どう議論されてきたのかを学習します。

学習の目的 受講生の関心に添って設定したテーマに関して基本的な理解を得ることが学習の目的です。

学習の到達目標 受講生の関心に添って設定したテーマについての理解を深めることにより、現代において政治思想が取り組むべき課題を発見していく能力を養うことが学習の到達目標です。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話

授業計画・学習の内容

学習内容 受講生の関心に応じて、いくつかの文献を選び、講読していきます。具体的な授業計画については、受講生の数によって変

り、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありません。

予め履修が望ましい科目 特にありません。

発展科目 特にありません。

教科書 政治思想史の文献のなかから、受講生の問題意識にあったものを選択します。第1回目の授業時に、講読する文献を決定します。

成績評価方法と基準 報告の内容や質疑応答などの受講態度によって評価します。(100%)

オフィスアワー 火曜日12:00~13:00、場所は人文学部棟3階麻野研究室です。その他必要な場合はメール等で連絡を下されば、迅速に対応します。

わってくるので、第1回の授業時に説明します。

政治思想史演習

History of Political Thought

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 麻野 雅子 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 本授業は、政治思想史についての基本的な知識を持つ受講生が、より深く政治思想を学ぶためのものです。

学習の目的 政治思想史に対する十分な知識と理解を得ることが目的です。

学習の到達目標 政治思想史に対する十分な知識と理解を得ることで、現代において政治思想が取り組むべき課題を発見する能力を養うとともに、それらの課題に対する自分自身の見解を確立することが到達目標です。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容 受講生の関心に応じて、いくつかの文献を選び、講読していきます。具体的な授

受講要件 政治思想史を専攻する院生であることが受講要件です。

予め履修が望ましい科目 特にありません。

発展科目 特にありません。

教科書 受講生との相談の上、第1回授業時に決定します。

成績評価方法と基準 報告の内容や質疑応答などの受講態度によって評価します。(100%)

オフィスアワー 火曜日12:00~13:00、場所は人文学部棟3階麻野研究室です。その他必要な場合はメール等で連絡を下されば、迅速に対応します。

業計画については、受講生と相談の上、第1回の授業時に決定し説明します。

公共政策の政治哲学特講

Political Philosophy of Public Policy

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 麻野 雅子 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 本授業は、公共哲学の重要なテーマである正義や公共性、平等や自由などに関する文献を講読し、今必要とされる公共哲学とは何かについて考えるものです。

学習の目的 公共哲学（あるいは正義論）の基本的な考え方を習得するのが学習の目的です。

学習の到達目標 公共哲学（あるいは正義論）の考え方の学習を通じて、現在の日本社会における望ましい「公」あるいは「公共」のあり方を構想する能力を身につけることが学習の到達目標です。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容 具体的な授業計画については、受講生の数によって変わってくるので、第一回の授業時に説明します。あらかじめ教科書の範囲を指定しておいて、その範囲について、

受講要件 特にありません。

予め履修が望ましい科目 特にありません。

発展科目 特にありません。

教科書 マイケル・サンデル著『公共哲学；政治における道徳を考える』（ちくま学芸文庫）、桂木隆夫『公共哲学とはなんだろうー民主主義と市場の新しい見方』（勁草書房）など、公共哲学の諸テーマに関する文献の中から、受講生の問題関心に応じて選択します。

成績評価方法と基準 報告の内容や質疑応答などの受講態度によって評価します。（100%）

オフィスアワー 毎週火曜日12:00～13:00、場所は人文学部棟3階麻野研究室です。その他必要な場合はメール等で連絡を下されば、迅速に対応します。

報告者が要点の分かるレジユメを作成し、要点について説明したのち、受講生全員で内容について意見を述べ合い、検討していきます。

地方自治論特講

Local Government

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 岩崎 恭彦 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 地方自治の基礎理論について、公法学の見地から検討を行う。

学習の目的 地方自治の基礎理論についての理解をより確かなものにするにより、地方自治・地方分権をめぐる今後の動向を冷静にみつめる視点を確立することをめざす。

学習の到達目標

- ・地方自治の基礎理論に関して、批判的に検証できるようになる。
- ・地方自治の基礎理論についての理解を基に、近年の地方自治・地方分権をめぐる動向を評価できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的

授業計画・学習の内容

学習内容 地方自治の基礎理論にかかわる公法学の諸論稿を素材として、報告・議論を行

思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書 適時紹介する。

成績評価方法と基準 講義にのぞむ姿勢を評価する。

オフィスアワー

月曜日13:00-14:30

なお、その他の時間においても質問等は常時受け付けるので、研究室を訪ねてほしい。

う。具体的なことは、受講者の希望を尊重しつつ決定したい。

地方自治論演習

Seminar in Local Government

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 岩崎 恭彦 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 地方自治の今日的なテーマをとりあげて、主として公法学の観点から、報告および議論を行う。

学習の目的 地方自治の主要論点についての理解を深めるとともに、研究上の視点を確立することをめざす。

学習の到達目標

- ・地方自治のあるべき姿を主体的に考え、自らの見解を論理的・体系的に述べられるようになる。
- ・論文作成の技法を学び取り、それを自らの論文執筆において実践する。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的

思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書 適時紹介する。

成績評価方法と基準 演習にのぞむ姿勢を評価する。

オフィスアワー

月曜日13:00-14:30

なお、その他の時間においても質問等は常時受け付けるので、研究室を訪ねてほしい。

授業計画・学習の内容

学習内容

おおむね次の項目を取り扱う予定であるが、具体的なことは、受講者の希望を尊重しつつ決定したい。

1. 修士論文をはじめとする論文ないしはレポート等の執筆指導
2. 地方自治の主要論点に関する研究

たとえば、

- ・地方自治の本旨
 - ・市町村合併と道州制
 - ・住民参加
 - ・条例制定権
 - ・自治体の法政策
- など

地方分権論特講

Decentralization

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 岩崎 恭彦 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 今後のあるべき自治体の政策活動について、政策法務論の視点から検討する。

学習の目的 地方分権改革（および地域主権改革）の成果をふまえ、自治体独自の政策活動を支える法理論および法制度について考察する。

学習の到達目標

・地方分権改革（および地域主権改革）の到達点について、具体的事例に則して検証できるようにする。

・自治体の政策活動に関する今後の展望を、現状と課題をふまえながら、法的視点から論理的に述べられるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術,

授業計画・学習の内容

学習内容 これまでの地方分権改革（および地域主権改革）の成果を基に、地域特性に適合した自治体独自の政策活動の展開が期待されている。そこで、本講義では、その活動を

論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書 適時紹介する。

成績評価方法と基準 講義にのぞむ姿勢を評価する。

オフィスアワー

月曜日13:00-14:30

なお、その他の時間においても質問等は常時受け付けるので、研究室を訪ねてほしい。

サポートするものとしての自治体政策法務について、重要論点をとりあげて検討することにした。

国際組織法特講

Law of International Organizations

学期 後期 単位 2 年次 大学院(博士課程・博士後期課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 洪 恵子 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 本講義は、国際組織法に関する最近の主要論点を検討することを目的とする。

学習の目的 国際組織法に関する専門的知識を身につける。

学習の到達目標 国際組織法の基礎理論と最近の潮流に関する知識を得られる。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、

コミュニケーション力を総合した力

受講要件 国際法、国際組織法をすでに大学で学んでいることが望ましい。ただし本人の熱意が有れば、初学者でも受講可能である。

発展科目 国際組織法演習

教科書 授業で、適宜紹介する。

成績評価方法と基準 出席と授業態度、報告内容を総合的に判断する。

オフィスアワー 火曜日（後期）16:20-17:00

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回～第5回：国際組織法の基礎理論

第6回～第10回：国際連合の法的課題

第11回～第15回：国際裁判の法的課題

国際組織法演習

Seminar on Law of International Organizations

学期 前期 単位 2 年次 大学院(博士課程・博士後期課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 洪 恵子 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 国際組織法の最先端の議論を学ぶ演習である

学習の目的 国際組織法に関する概念や制度について深い知識を得る。

学習の到達目標 国際組織法における最近の主要論点に関する知識を得ることができる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力

授業計画・学習の内容

学習内容 この授業は演習のため、受講者は毎回指示される文献・判例を熟読し、授業で

受講要件 国際法や国際組織法を大学で学んでいることが望ましい。ただし、本人の熱意があれば、受講は可能である。

予め履修が望ましい科目 国際組織法特講

教科書 授業で適宜紹介する。

成績評価方法と基準 授業態度で総合的に判断する。

オフィスアワー 火曜日14:40-16:10

の議論に積極的に参加することが求められる。

国際刑事法特講

International Criminal Law

学期 後期 単位 2 年次 大学院(博士課程・博士後期課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 洪 恵子 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 本講義では、国際刑事法の基礎理論と最近の潮流を学ぶことを目的とする。

学習の目的 国際刑事法に関する概念や制度について深い知識を得る。

学習の到達目標 国際刑事法に関する知識を得ることができる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話

力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 国際法、国際組織法をすでに大学で学んでいることが望ましい。ただし、本人の熱意があれば、受講は可能である。

教科書 授業で適宜紹介する

成績評価方法と基準 授業態度で総合的に判断する。

オフィスアワー (後期) 火曜日16:30-17:00

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回～第5回 国際刑事法の基礎理論

第6回～第10回 国際刑事法の現代的課題

第11回～第15回 国際刑事裁判の最近の潮流

経済原論特講

Advanced Political Economics

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 深井 英喜 (人文学部)

授業の概要 経済学の考え方をを用いて、受講生の研究の進展と発展を目指す。

学習の目的 マルクス経済学とケインズ経済学の流れをくむラディカル派経済学の理論経済学を基礎から学び、大学院で経済学を専攻するための基礎作りを目指す。

学習の到達目標 経済学および経営学、そして政策に関連する学問領域を学ぶために必要

な、基礎的な経済理論の習得を目標とする。

発展科目 経済原論演習・現代経済特講

教科書 講義の中に指定する

成績評価方法と基準 毎回の講義の受講態度にて採点する

オフィスアワー 初回の講義で通知する

授業計画・学習の内容

学習内容

この講義では、マルクスやケインズの経済学の流れを汲む、ラディカル派経済学 (political economics) の経済理論を学ぶ。

経済理論の基礎を学習し、その後の応用科目への発展のための基礎を作る。
経済学の基礎理論の講義と、受講生の研究報告とを組み合わせる講義を展開する。

経済原論演習

Seminar in Political Economics

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 深井 英喜 (人文学部)

授業の概要 大学院で経済学や経営学を学習する上で基礎となる理論経済学の基礎の修得を目標とする。

学習の目的 マルクス経済学やケインズ経済学の流れをくむラディカル派経済学の理論経済学を基礎から学習し、大学院で経済学を学ぶための基礎を形成する。

学習の到達目標

経済学の考え方の基礎の修得とその定着。
ラディカル派経済理論の修得とその定着。

受講要件 社会調査等に参加してもらうこと

もある。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 現代経済論特講と合わせて履修することが望ましい

教科書 植村・磯谷・海老塚『社会経済システムの制度分析』名古屋大学出版会

成績評価方法と基準 毎回の講義への参加姿勢によって評価する。

オフィスアワー 初回の講義において伝える。

授業計画・学習の内容

学習内容

この講義は理論経済学の基本を扱う。

- ・貨幣、市場、資本主義
- ・資本循環と生産理論

- ・企業組織と雇用システム
- ・資本蓄積（経済成長）
- ・所得分配と社会的再生産
- ・資本蓄積構造の変化と国際経済関係

民法総則・物権法特講

Civil Law (General Provisions, property law and real security)

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 上井長十

授業の概要

民法総則および物権法に関する法的問題点を考察する。受講者との相談の上、以下の内容のうち、いずれか一方をおこなう。

①フランスにおける、上記分野の論文あるいは概説書を講読する。具体的には、合意の瑕疵を中心とした契約の成立における領域を考えている。

②上記分野の、日本における判例分析を行う。

③公務員試験、法科大学院への進学を目指している院生がいる場合は、試験対策的なことも考えている。

学習の目的 民法総則、物権法領域に関する理解をより深める。

学習の到達目標 民法総則、物権法領域に関

する諸論点について、自分で資料収集し、整理し、分析する能力を養う。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 民法全般

発展科目 特になし

教科書 特になし

成績評価方法と基準 普通の演習の取り組みにより評価する。

オフィスアワー 特になし

授業計画・学習の内容

学習内容 判例分析、洋書（フランス法）の読解

民法総則・物権法演習

Civil Law (General Provisions, property law and real security)

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習
担当教員 上井長十

授業の概要 修士論文作成に向けた指導を行う。

学習の目的 修士論文作成

学習の到達目標 修士論文の完成

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容 修士論文作成に向けた資料収集、

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 特になし

成績評価方法と基準 普段の演習における報告の取り組みによる。

オフィスアワー 特になし

整理、分析および修士論文の執筆。

不動産法特講

land law

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 上井長十

授業の概要 不動産の売買あるいは、賃貸借といった契約関係および、不動産に関わる物的支配関係をめぐる法的問題の考察、検討。

識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 不動産取引、不動産の支配関係に関する裁判例分析を行い、それらに関する紛争実態を考察する。

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

学習の到達目標 不動産取引、不動産の支配関係に関する裁判例分析をとおして、裁判例、諸文献、諸論文の収集、整理、分析能力を養う。

発展科目 民法、商法分野。

教科書 演習開始時に指摘する。

成績評価方法と基準 講義時における報告。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知

オフィスアワー 特になし。

授業計画・学習の内容

学習内容 不動産取引、不動産に関する支配

関係をめぐる裁判例分析。

労働法特講

Advanced Studies on Labor Contract and Labor Law

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習
担当教員 藤本真理

授業の概要 文献講読、報告発表等を通じ、労働契約の領域における理論的課題の同定と解決策の検討を行なう。

学習の到達目標 契約論的な解釈と、労働法の観点の交錯と相克を理解したうえで、自分の力で事例を分析することができるようになる

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力

受講要件 特にありませんが、労働法または労使関係論の基礎知識を有していることを前提として講義を進めます。

授業計画・学習の内容

学習内容 労働時間規制のありかた、解雇法理、労働条件変更法理などの中からテーマを選び、報告担当者を決定します。テーマご

予め履修が望ましい科目

人文学部3, 4年次の「労使関係と法」
それを受講していない場合は、憲法、民法についての基礎的な講義

教科書 受講者の関心のあるテーマを聴取した上で決定

成績評価方法と基準 出席・文献講読の予習30%、報告40%、議論への参加度30%で評価します。

オフィスアワー 事前にアポイントをとって来室してください。

とに、現在の労働法理論の基本的な枠組について講義を行なった後、担当者による報告、ディスカッションを行います。

労働法演習

Research on Labor Contract and Labor Law

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 藤本真理

授業の概要 最新の判例の分析及び書評を通じて、分析力を高め、専門知識を深めること、最終的には具体的問題を解決する力を養うことを目的とする。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力

受講要件 特にありませんが、労働法または労使関係論の基礎知識を有していることを前提として講義を進めます。

予め履修が望ましい科目 労働法に関する科目、それを受講していない場合は、憲法、民法についての基礎的な講義

成績評価方法と基準 評価方法：出席と報告準備70%、議論への参加度30%で評価します。

オフィスアワー 第1回の講義日に連絡します。

授業計画・学習の内容

学習内容 第1日に判例、文献等のリストを配布します。毎回1つの判決（または書評1冊

分）を報告者が行い、それに基づいてディスカッションを行います。

労働組合法特講

Advanced Studies on Labor Law and Union

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習
担当教員 藤本真理

授業の概要 これまでの日本の集团的労使関係および法制度の展開を踏まえ、外国の法制度との比較も行いつつ、現在の集团的労使関係システムの問題点を検討し、その解決について議論を行なう。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 討論・対話力

受講要件 特にありません。

予め履修が望ましい科目 特にありません。

教科書 受講者の関心のあるテーマを聴取した上で決定

成績評価方法と基準 出席・文献講読の予習30%、報告40%、議論への参加度30%で評価します

オフィスアワー 第1回の講義日に連絡します。

授業計画・学習の内容

学習内容 参考書・教科書に指定した図書からテーマを選び、それに関する受講者の報

告、教員による補足説明、ディスカッションという流れで講義を進めます。

産業経済論特講

Economics of Industry

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習
担当教員 豊福裕二 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 わが国の代表的な産業をいくつか取り上げ、その構造と動態について、金融市場、国際経済関係、産業政策等の変化との関係に注目しながら考察する。

学習の目的 日本の産業経済の歴史と現状について幅広い知識を得るとともに、先行研究の到達点と論争点をふまえて自ら研究課題を析出できるようになる。

学習の到達目標 日本の産業経済の歴史と現

状について幅広い知識を得るとともに、先行研究の到達点と論争点を理解する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 受講生と相談の上で決定する

成績評価方法と基準 平常点 (出席、受講態度、発表) 100%

授業計画・学習の内容

学習内容

基本的にテキストの輪読で授業を進める。
あらかじめレジュメ作成の分担を決め、報告者の発表をもとに討論を行う。
なお、テキストは複数のものを取り上げる場合もある。
第1回 イントロダクション

第2～8回 日本の産業発展に関する基本文献の検討

*適当な文献がなければ、参考文献の『現代日本経済(新版)』を用いる。

第9～15回 日本の産業経済に関する最新の文献の検討

産業経済論演習

Economics of Industry

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 豊福裕二 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 日本の産業経済に関する研究課題について、その研究手法を習得するのが本演習の目的である。講義は受講生による研究発表が基本となる。

学習の目的 日本の産業経済に関する先行研究の到達点や論争点をふまえて、自ら研究課題を析出するとともに、必要な文献、資料、及び統計データを自ら収集し、分析できるようになる。

学習の到達目標 日本の産業経済に関する研究課題について、先行研究のサーベイや文

献、資料等の収集方法、及び統計データ等の分析手法を習得する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 特に用いない。

成績評価方法と基準 平常点 (出席、受講態度、発表) 100%

授業計画・学習の内容

学習内容

以下のような内容で進める。ただし、受講生の人数や到達点に応じて、講義の進め方を変更することがありうる。

第1回 イントロダクション

第2～8回 産業経済に関する先行研究の検討

*先行研究の検討を通じて、文献・資料の収集方法、統計データの読み方、分析方法等について学習する。

第9～15回 受講生による研究発表

*必要に応じてテキストを輪読することもある。

金融論特講

Monetary and Financial Economics

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 選/必 選択

授業の方法 講義

担当教員 野崎 哲哉

授業の概要 本講義では金融論に関する文献を数冊読み進めながら、現代の金融の役割と課題が理解できるようにします。

学習の目的 現代経済社会における金融の役割を把握することを目的とする。

学習の到達目標 現代経済社会における金融に関する幅広い知識の習得

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総

合した力

受講要件 特になし。ただし、これまでにある程度の金融に関する学習を前提とする。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 現代地域金融論特講

教科書 講義時に指示する。

成績評価方法と基準 毎回の講義時での発表・議論への参加100%

オフィスアワー 木曜日13-14限（ただし、研究室に在室時はいつでもOK。）

授業計画・学習の内容

学習内容

講義の予定は以下の通り。なお、取り上げる文献については第1回目の講義時に決定。

第1回 講義のガイダンス

第2回～第6回 現代金融に関する基本的テキストの読了

第7回～第10回 2014年に出版された現代金融を取り上げた文献の検討

第11回～第16回 2015年前半に出版された現代金融を取り上げた文献の検討

なお、日経新聞等を用いて金融・経済の動向についても毎回ディスカッションする。

金融論演習

Seminar in Monetary and Financial Economics

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 選/必 選択

授業の方法 演習

担当教員 野崎 哲哉

授業の概要 現代金融に求められる役割と解決すべき課題を探る。

学習の目的 現代金融に求められる役割と課題を理解できるようになることを目的とする。

学習の到達目標 現代金融論の直面する課題が何であり、どういう議論が行われているのかを理解する。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

授業計画・学習の内容

学習内容

講義の予定は以下の通り。なお、取り上げる文献については第1回目の講義時に決定。

第1回 講義のガイダンス

第2回～第8回 現代金融に関する論文を毎回2

金融論特講を受講済（または同時受講でも可）であること。

なお、社会科学専攻の履修ルールに従い、担当教員の指導院生が不在、または受講しない場合には、履修希望をお断りすることもあり得る。

予め履修が望ましい科目 金融論特講

発展科目 現代地域金融論特講

教科書 演習時に指示。

成績評価方法と基準 演習への出席50%、発表・討論への参加50%

オフィスアワー 木曜日13-14限（ただし研究室在室時はいつでもOK）。

～3本検討

第9回～第16回 現代金融に関する役割と課題に関する院生のレポート報告

なお、日経新聞等を用いて金融・経済の動向についても毎回ディスカッションする。

現代地域金融論特講

Contemporary Local Finance

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 選/必 選択

授業の方法 講義

担当教員 野崎 哲哉

授業の概要 現代日本における地域経済において金融に求められる役割と課題について検討する。

学習の目的 地域金融の役割と課題に関する知識を得ることを目的とする。

学習の到達目標 今後の地域経済の発展にとって、いかなる金融の役割が求められているかを理解する。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

講義の予定は以下の通り。なお、取り上げる文献については第1回目の講義時に決定。
第1回 講義のガイダンス
第2回～第6回 現代地域金融に関する基本的テキストの読了

受講要件

特になし。
ただし、ある程度の金融に関する基礎的知識の習得を前提としたい。

予め履修が望ましい科目 金融論特講

発展科目 特になし。

教科書 講義時に指示。

成績評価方法と基準 講義への出席50%、講義時の発表・討論への参加50%

オフィスアワー 金曜日昼休み（ただし、研究室在室時はいつでもOK）。

第7回～第10回 2014年に出版された現代地域金融を取り上げた文献の検討
第11回～第16回 2015年前半に出版された現代地域金融を取り上げた文献の検討
なお、日経新聞等を用いて金融・経済の動向についても毎回ディスカッションする。

国際経済論特講

International Economics

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義
担当教員 落合 隆 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 完全競争と収穫一定のもとでの標準的な貿易の純粋理論の説明からスタートし、不完全競争と収穫が変のもとでの純粋理論の解明、国際貿易の厚生経済学の基本定理、不完全競争下の貿易利益、などを考察する。

学習の目的 自由貿易の利益が理解できること

学習の到達目標 国際貿易の要因と貿易政策の厚生に与える影響を理解すること

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コ

ミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 理論経済学特講

発展科目 国際企業経済学特講

教科書

教科書：現代国際貿易論 I カーユウ・ウオン著 多賀出版

参考書：授業において適宜指示する。

成績評価方法と基準 授業への積極的な関与50%、レポート50%、計100%

オフィスアワー 後期 木曜日 18:00～19:00
場所 人文学部棟5階落合研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1 講義の計画と概観
- 2～4 収穫一定と完全競争のもとでの一般均衡
- 3～6 比較優位と貿易の要素含有量

7～9 財の国際貿易と国際貿易理論

10～12 外部的な規模の経済

13～14 独占的競争と差別化財の産業内貿易

15 まとめ

国際経済論演習

International Economics Seminar

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 落合 隆 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 不完全競争下における貿易政策を体系的に理解する

学習の目的 不完全競争下における貿易政策を理解する

学習の到達目標 複雑な現実の経済社会の事象をいかにモデル化し、それに基づいて政策的提言を行なう能力を身に着ける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 国際経済論特講

発展科目 国際企業経済学特講

教科書 教科書: 現代の貿易政策 ヘルプマン クルッグマン著 東洋経済新報社

成績評価方法と基準 授業への積極的な参加 50% レポート50%

オフィスアワー 前期 木曜日 12:00~13:00
場所: 人文学部棟5階落合研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 はじめに

第2回 完全競争下の貿易政策 (1)

第3回 完全競争下の貿易政策 (2)

第4回 保護と国内市場支配力 (1)

第5回 保護と国内市場支配力 (2)

第6回 外国企業による市場支配 (1)

第7回 外国企業による市場支配 (2)

第8回 戦略的輸出政策 (1)

第9回 戦略的輸出政策 (2)

第10回 戦略的輸入政策 (1)

第11回 戦略的輸入政策 (2)

第12回 産業内貿易 (1)

第13回 産業内貿易 (2)

第14回 数量化 (1)

第15回 数量化 (2)

国際企業経済学特講

International Managerial Economics

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

担当教員 落合 隆 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 経営の全般的なトピックスについて体系的に解説

みであること。ゲーム理論の基礎を理解していること。

学習の目的 経営行動の理論を理解できる

予め履修が望ましい科目 理論経済学特講

学習の到達目標 経営行動の背後にある主体のインセンティブを理解できる

教科書

教科書：経営の経済学 丸山雅洋著 有斐閣

参考書：適宜指示する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

成績評価方法と基準 レポート100%

受講要件 中級程度のミクロ経済学を学習済

オフィスアワー 前期 木曜日 18:00~19:30 人文学部棟5階落合研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 授業計画および授業の概観

第8回・第9回 市場支配力

第2回・第3回 市場構造の分析枠組み

第10回・第11回 ゲーム理論

第4回・第5回 需要の特性

第12回・第13回 寡占と競争

第6回・第7回 費用の規定要因

第14回・第15回 競争戦略の分類

経営学総論特講

Management

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

担当教員 青木 雅生

授業の概要 経営組織における意思決定過程の研究

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 経営組織における意思決定過程について検討する

受講要件 特になし。

学習の到達目標 経営組織における意思決定過程について理解する

予め履修が望ましい科目 特になし。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 社会人としての態度, 感じる

教科書 ハーバート・A・サイモン『経営行動』（新版）ダイヤモンド社2009年

成績評価方法と基準 平常点100%

オフィスアワー 火曜日18:00～19:30

授業計画・学習の内容

学習内容

① イントロダクション

②～⑭ 『経営行動』の各章の検討および討論

⑮ まとめ

経営学総論演習

Seminar in Management

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 青木 雅生

授業の概要 企業の組織と経営者の役割について研究する。

学習の目的 C.I.バーナード『経営者の役割』の精読を通じて、企業の組織と経営者の役割を研究する。

学習の到達目標 企業の組織及び経営者の役割の理論的な理解を目指す。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決

力, 批判的思考力, 社会人としての態度, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

教科書 C.I.バーナード『経営者の役割』ダイヤモンド社

成績評価方法と基準 平常点100%

授業計画・学習の内容

学習内容

① イントロダクション

②～⑭ 各章ごとについて議論する

⑮ まとめ

産業構造論特講

Studies on Industrial Structure

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習
担当教員 豊福裕二 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 日本の産業構造や産業発展について論じた代表的な文献を検討し、現代日本の産業構造とその動態について考察する。

学習の目的 日本の産業構造や産業発展に関する過去の論争点と先行研究の到達点をふまえて、自ら研究課題を析出できるようになる。

学習の到達目標 日本の産業構造や産業発展に関する過去の論争点と先行研究の到達点を

理解する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 受講生と相談の上で決定する。

成績評価方法と基準 平常点 (出席、受講態度、発表) 100%

授業計画・学習の内容

学習内容

基本的にテキストの輪読で授業を進める。

あらかじめレジュメ作成の分担を決め、報告者の発表をもとに討論を行う。

なお、テキストは複数のもものを取り上げる場合もある。

第1回 イントロダクション

第2～8回 産業論・産業構造論に関する基本文献の検討

*日本の代表的な産業を取り上げ、先行研究をもとに各産業の歩みや産業特性、産業構造等について学習する。とりあげる産業としては、鉄鋼業、化学工業、自動車工業、電気機械工業などを予定している。適当な文献がなければ、参考文献に挙げたテキストを用いる。

第9～15回 産業論に関する最新の文献の検討

少年非行と少年法特講

Juvenile Justice

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 PBL

担当教員 伊藤 睦 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 少年法の理念と法の目的に照らし合わせながら、少年法をとりまく現代的課題につき個別具体的に検討する。

学習の目的 少年法を取り巻く現状につき、資料等の科学的分析に基づいて正しく理解するとともに、現代的課題について、今本当に論じるべきことは何か、目指すべき正義とは何かを突き止める力を付ける

学習の到達目標

少年法の理念と法制度のしくみを正しく理解する。

また少年法を取り巻く近時の議論につき、議論の本質を正しくとらえ、自分なりに評価す

る力が身につく。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

教科書 教科書・参考書は開講時に指示する。

成績評価方法と基準 報告内容50%、受講態度と授業への貢献度50%

オフィスアワー 毎週火曜日5～6時限（前期のみ）人文学部棟4階伊藤研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

少年法にかかわる近時の重要書籍及び参考書を取り上げ、検討する。

また、少年法をとりまく近時の情勢を比較法的に検討する。

1回目 ガイダンス

報告者・報告順序等の決定

2～8回目 少年法を取り巻く国際法的な動向・

諸外国の情勢などを取り上げ、検討する

（場合によっては英文文書等を取り上げる）

9～15回目 少年法に関する近時の論文を取り上げ、報告者の報告に基づいて議論する

なお、検討の順序や内容については、開講後に受講生との協議の上変更する可能性がある。

財政学特講

Public Finance

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習
担当教員 川地 啓介

授業の概要 財政学に関するいくつかのテーマを取り上げ、政府の果たすべき役割を理論的な側面から考察する。

学習の目的 財政に関して理論的に理解し、現実の財政問題を経済学的な視点から考えられるようになることを目的とする。

学習の到達目標 財政理論を学び、その理論の構造について理解できるようになることを目標とする。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 近代経済学 (学部

開設科目)、理論経済学特講

発展科目 現代地方財政特講

成績評価方法と基準 報告内容、提出課題、授業への参加姿勢等により総合的に判断する。

オフィスアワー

毎週火曜日12:00~13:00

場所 人文学部5階川地研究室

その他 授業の進行状況により、講義内容を一部変更する場合がある。また、参加者の状況により、輪読などを行う演習形式となる場合がある。

授業計画・学習の内容

学習内容

1.Introduction

2.Tools of positive analysis

3.Tools of normative analysis

4.Public goods

5.Externalities

6.Political economy

7.Cost benefit analysis

8.Taxation and income distribution

9.Taxation and efficiency

10.Efficiency and equitable taxation

11.Income redistribution

12.Personal income tax

13.Personal taxation and behavior

14.Corporation tax

15.Federal system

現代地方財政特講

Public Finance of Local Government

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習
担当教員 川地 啓介

授業の概要 地方財政に関するいくつかのテーマについて、理論的な側面から学修する。

学習の目的 政府や地方政府の抱える諸課題について、経済学の見地から理解できるようになることを目的とする。

学習の到達目標 地方財政理論を学び、その理論の構造について理解できるようになることを目標とする。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 近代経済学 (学部

開設科目)、理論経済学特講

発展科目 財政学特講

成績評価方法と基準 報告内容、提出課題、授業への参加姿勢等により総合的に判断する。

オフィスアワー

毎週火曜日12:00~13:00

場所 人文学部5階川地研究室

その他 授業の進行状況により、講義内容を一部変更する場合がある。また、参加者の状況により、輪読などを行う演習形式となる場合がある。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.Introduction
- 2.Assignment of government functions and mobility
- 3.Benefits and problems of fiscal decentralization
- 4.Efficient locational pattern
- 5.Efficiency –supporting tax systems
- 6.Fiscal decentralization with complete tax
- 7.Fiscal decentralization with incomplete tax
- 8.Underprovision of local public goods
- 9.Tax competition and regional size and the ad-

- vantage of small regions
- 10.Restricting the leviathan by interregional tax competition
- 11.Property tax incidence and land taxation
- 12.Tiebout, the theory of clubs, and the Henry George theorem
- 13.Overlapping market areas of local public goods
- 14.Tax export and spillover effects with household mobility
- 15.Tax competition and household mobility

理論経済学特講

Economic Theory

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習
担当教員 川地 啓介

授業の概要 ミクロ経済学に関する諸理論を考察する。

開設科目)

学習の目的 現実の諸課題に対して、ミクロ経済学の見地から理論的に理解できるようになることを目的とする。

発展科目 財政学特講、現代地方財政特講

成績評価方法と基準 報告内容、提出課題、授業への参加姿勢等により総合的に判断する。

学習の到達目標 ミクロ経済学を学び、その理論の構造を理解できるようになることを目標とする。

オフィスアワー

毎週火曜日12:00~13:00

場所 人文学部5階川地研究室

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

その他 授業の進行状況により、講義内容を一部変更する場合がある。また、参加者の状況により、輪読などを行う演習形式となる場合がある。

予め履修が望ましい科目 近代経済学 (学部

授業計画・学習の内容

学習内容

1.Introduction

2.Basic theory

3.Consumer behavior

4.Individual and market demand

5.Production

6.Cost minimization

7.Profit maximization

8.Competitive market

9.General equilibrium

10-11.Monopoly

12.Oligopoly

13.Externalities and public goods

14.Game theory

15.Asymmetric information

マーケティング特講

Special Lecture of Marketing

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 後藤 基

授業の概要

マーケティング理論と手法の基礎的把握を行う。

企業の市場環境への適応行動の分析を通して、現代における市場優位のマーケティング戦略を考える。

学習の目的

企業の経営や経済活動に関する基礎的・基本的な知識得ることができる。

ビジネスの諸活動を知ることができる。

マーケティング戦略の基礎知識・理論を学ぶことができる。

学習の到達目標

マーケティング理論によって、企業行動、消費者行動を把握できる。

問題点を発見し、問題解決のための方法論、

意思決定力を養うことができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 指導力・協調性

予め履修が望ましい科目 経営学総論特講

発展科目 グローバル・マーケティング特講、企業間ネットワーク論特講、国際経営論特講

教科書 『現代のマーケティング戦略』薄井和夫

成績評価方法と基準 出席 40%、レポート 60%

オフィスアワー 在室時はいつでも可能です。

授業計画・学習の内容

学習内容

次の内容について講義を行う。

- 1、マーケティングの戦略、管理、理念
- 2、製品戦略
- 3、価格戦略
- 4、チャネル戦略

- 5、プロモーション戦略
- 6、消費者問題・環境問題とマーケティング
- 7、流通問題・大店法とマーケティング
- 8、企業のグローバル・マーケティング
- 9、マーケティングと労働、ジェンダー

マーケティング演習

Seminar of Marketing

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 後藤 基

授業の概要

マーケティング理論を通して、企業経営を分析する。ビジネスの諸活動に関する知識を持つことは不可欠である。本科目は、企業の経営や経済活動に関する基礎的・基本的な知識を習得し、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と対応力を育てることを目標とする。特に市場のグローバル化が進行する中で、日本企業を中心にマーケティング戦略を学ぶ。

学習の目的

企業の経営や経済活動に関する基礎的・基本的な知識得ることができる。
ビジネスの諸活動を知ることができる。
マーケティング戦略の理論を学ぶことができる。

学習の到達目標

マーケティング理論を通して、現代企業の経営戦略、企業行動を把握することができる。
企業戦略として、マーケティング戦略を学

び、諸問題と問題解決の意思決定を養うことができる。

ビジネスの諸活動を理解し、それら諸活動に対する対応と判断をすることができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 指導力・協調性

予め履修が望ましい科目 マーケティング論特講

発展科目 経営学総論特講、企業間ネットワーク論特講、人的資源管理論特講、国際経営論特講

教科書 『マーケティングと現代社会』薄井和夫、その他演習の中で随時提示

成績評価方法と基準 出席・討論 50%、レポート 50%

オフィスアワー 在室時はいつでも可能

授業計画・学習の内容

学習内容

次の内容で進める。

1、マーケティングとは何か。定義と理論、拡張

2、サービス社会とマーケティング

3、情報社会とマーケティング

4、グローバル社会とマーケティング

5、消費者社会とマーケティング

グローバル・マーケティング特講

Special Lecture of Global Marketing

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 後藤 基

授業の概要 ビジネスのグローバル化が進んでいる現代において、グローバル・ビジネスの諸活動に関する知識を持つことは不可欠である。本科目では、グローバル企業の経営や経済活動に関する基礎的・基本的な知識を習得し、グローバル・ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と対応力を育てることを目標とする。特に市場のグローバル化が進行する中で、日本企業を中心にグローバル・マーケティング戦略を学ぶ。

学習の目的

グローバル企業の経営や経済活動に関する基礎的・基本的な知識得ることができる。

グローバル・ビジネスの諸活動を知ることができる。

グローバル・マーケティング戦略の基礎知識・理論を学ぶことができる。

学習の到達目標

市場のグローバル化にともなう企業戦略として、マーケティング戦略を学ぶことによって、国際的諸問題と問題解決の意思決定を養

うことができる。

グローバル・ビジネスの諸活動を理解し、それら諸活動に対する対応と判断をすることができる。

企業経営・経済事象などをグローバルな観点から理解することができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 指導力・協調性

発展科目 国際経営論特講、企業間ネットワーク論特講、経営学総論特講、国際経済論特講

教科書

『コトラーの戦略的マーケティング』木村達也 訳

『価値ベースのマーケティング戦略論』ピータ・ドイル 著

成績評価方法と基準 出席 40%、レポート 60%

オフィスアワー 在室時はいつでも可能

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1、グローバル経営におけるマーケティングの役割
- 2、国際市場細分化戦略
- 3、グローバル・マーケティング・リサーチ
- 4、グローバル市場参入戦略
- 5、グローバル製品戦略

- 6、グローバル価格戦略
- 7、グローバル広告戦略
- 8、グローバル・ロジスティックス戦略
- 9、グローバル・マーケティングの組織
- 10、グローバル・マーケティングの調整と統制
- 11、グローバル情報システム

国際関係論特講

International Relations Lecture

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

担当教員 古瀬啓之 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 20世紀における国際政治の史的展開を考察

感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 文献の講読を通して、史実ならびに諸学説の見解を知る。それにより国際政治の史的展開を複眼的に見ることができる。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

学習の到達目標 現代国際関係の形成過程を考察し、現在の国際情勢に対する客観的な視点を身につける。

発展科目 国際関係論演習、地域統合論特講

教科書 受講生との相談の上で決める

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 討論・対話力,

成績評価方法と基準 口頭報告、出席で100%

オフィスアワー 木曜13時~14時

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回使用文献の選定

残り：口頭報告とそれに基づく質疑応答

地域統合論特講

regional integration studies

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

担当教員 古瀬 啓之

授業の概要 東アジアにおける国際政治史の展開を理解する。

学習の目的 東アジア国際政治史に関する文献の講読を通して、客観的な史実と各国における認識枠組みの違いを知ることができる。

学習の到達目標 東アジア国際政治史の考察により、現代東アジア国際関係に対する客観的視点を持てるようにする。

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,主体的学習力,専門知識・技術,課題探求力,討論・対話力,感じる力,考える力,コミュニ

ケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 国際関係論特講

発展科目 特になし

教科書 受講生との話し合いの上で決める。

成績評価方法と基準 口頭報告、議論、出席で100%

オフィスアワー 木曜日13時～14時

その他 特になし

授業計画・学習の内容

学習内容

第一回 文献選定

後は、口頭発表

国際関係論演習

International Relations Seminar

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 古瀬 啓之 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 国際政治史研究に関する文献を精読し、高度な内容の理解をめざす。

学習の目的 当該分野の高度な研究書を読み解くことにより、研究史上の論点を整理できるようにする。

学習の到達目標 文献の講読を軸に、議論を行い、受講者が自らの見解を提示できるようにする。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 国際関係論特講、地域統合論特講

発展科目 特になし

教科書 受講生の研究テーマに合わせて決める

成績評価方法と基準 報告内容、議論、出席で計100パーセント

オフィスアワー 木曜日13時～14時

その他 特になし

授業計画・学習の内容

学習内容

初回到文献選定

後は口頭発表および議論

日本資本主義史特講

Economic History of Modern Japan

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 堀内義隆

授業の概要 近年、本格的な経済史研究の対象となりつつある日本の高度経済成長期に関する研究文献を輪読する。

学習の目的 授業での議論を通じて、テーマ（日本の高度経済成長）に関する先行研究を批判的に吸収し、自らの日本資本主義史像を構成する。

学習の到達目標 基本文献の輪読を通じて、テーマ（日本の高度経済成長）に関する論点を把握すると同時に、経済史研究の作法を身につける。

受講要件 学部レベルの日本経済史の基礎知識がない場合は、授業と並行して自習すること。

教科書 初回の授業でいくつかの候補を提示し、受講生と相談のうえで決定する。

成績評価方法と基準 討論への参加態度により評価する。

オフィスアワー 随時。メールで予約してください。

授業計画・学習の内容

学習内容 初回到ガイダンスをおこない、二回目以降でテキストの輪読をおこなう。

日本資本主義史演習

Seminar in Economic History of Modern Japan

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 堀内義隆

授業の概要 日本資本主義史に関する受講生の研究発表を中心として、関連する研究文献の輪読も交えながら、日本経済の歴史に対する理解を深めてゆく。

学習の目的 授業での議論を通じて、自ら設定した研究テーマに関する先行研究を批判的に吸収し、自らの日本資本主義史像を構成する。

学習の到達目標 日本資本主義史に関する論

文を執筆するための基本的な知識、手法、視角などを修得する。

受講要件 経済史の分野で修士論文を執筆する予定であること。

教科書 受講生と相談のうえで決める。

成績評価方法と基準 レポート100%。

オフィスアワー 随時。メールで予約してください。

授業計画・学習の内容

学習内容 初回にガイダンスをおこない、二回目以降で受講生の研究発表、関連文献の輪

読をおこなう。

現代経済論特講

Contemporary Economics

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 深井 英喜 (人文学部)

授業の概要

貧困や社会的排除に関する現代の最先端の論文の検討を行う。主に経済理論を土台にして、これらにアプローチする。

現代の貧困・社会的排除問題は、経済のグローバル化以降の資本蓄積構造の転換が大きな要因となっている。この講義では現代の社会経済構造の特徴について考え、それを通して理論経済学に関する理解を一層深めることを目標とする。

学習の目的 経済理論が応用されている先端研究について学ぶことを通して、理論経済学についての知識や理解を深めることを目指す。

授業計画・学習の内容

学習内容 少人数による輪読を基礎にした討

学習の到達目標 経済学の知識を用いて現実の社会経済問題にアプローチすることで、経済学を応用することを目指す。

予め履修が望ましい科目 経済原論特講を合わせて履修しておくこと。

教科書

参加者との相談で決めるが、トマ・ピケティ『21世紀の資本』みすず書房を考えている。

成績評価方法と基準 毎回の講義での参加姿勢と最終レポートで判断する。

オフィスアワー 初回の講義で伝える

論で講義を進める。

地域経済論特講

Regional Economics

学期 前期 **単位** 2 **対象** 他専攻・他研究科受講可能 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義
担当教員 朝日 幸代 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 地域経済に関する基礎的理論の理解

学習の目的 地域経済の実態を適切に理解し、地域における経済問題に対する解決策を検討するには、まず地域経済の構造を正確に捉える必要がある。そこで、地域経済学、地域財政論、公共経済学、計量経済学を用いて地域経済の構造を理解することが目的である。基本的文献の輪読と議論によって授業を進める。取り上げるテーマは受講生と相談して決める。

学習の到達目標 地域経済の基本的理論を用いて、地域問題を説明し、それに対する対応策を見いだす能力を養う。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力,

問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 計量経済学や経済政策、理論経済学関連の科目をできるかぎり受講すること

予め履修が望ましい科目 計量経済学特講、財政学特講、現代地方財政特講、地域経済政策特講

発展科目 産業構造論特講、応用計量経済学特講

教科書 受講生と相談して決める。

成績評価方法と基準 報告と質疑の内容を考慮する。

オフィスアワー 第2週、第4週水曜日18:00～19:00場所朝日研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

テキストおよび関係の外国文献の輪読を行う。報告担当者は、担当箇所について要約したレジュメを用意し、それに基づいて報告を行う。他の受講生も当該箇所を事前に読んできた上で、当日議論を行う。

第1回 イントロダクション

第2回 ～3回 都市と都市化、都市集積の理論

第4回 都市規模と都市システム

第5回 ～6回 地域間交易と空間経済学

都市と地域の交通

社会資本の整備

第7回 ～9回 公共部門と都市・地域政策

第10回 ～第11回 地域経済の基本構造

第12回～13回 地域経済の成長理論、地域の経済成長と社会資本

第14回 地域間格差と人口移動

第15回 地域間交易と空間経済学, まとめ総括

地域経済論演習

Seminar on Regional Economics

学期 後期 単位 2 対象 他研究科等の受講 受講不可 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 朝日 幸代 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 地域経済の現状を学んだうえで、近代経済学の理論をベースに、地域経済へのアプローチ方法を理解する。

学習の目的 地域経済に対して地域経済学や地方財政学、地域経済政策などを含めた研究方法を習得する。修士論文がこの講義を受講することによって執筆できるように指導する。

学習の到達目標 地域経済に対する研究方法を習得する。修士論文作成のために活用できる内容を理解し、それを実践的に用いることを可能にすること。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解

決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 地域経済論特講, 地域分析論特講

発展科目 三重の文化と社会など

教科書 受講生と相談して決める。

成績評価方法と基準 報告と質疑の内容に基づいて評価する。

オフィスアワー 第1週、第4週水曜日12:00～13:00

その他 文献調査を含め、主体的に取り組んでください。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 研究テーマにあわせた地域経済学の活用
2. 文献調査、データと分析手法分析結果と解釈
3. 専門書および論文の輪読
4. 報告レジュメの作成法
5. 報告の仕方
6. 参加者による報告
- 1回 イントロダクション
- 2回 文献調査 国内論文および著書関連
- 3回 文献調査 国内論文および著書関連
- 4回 文献調査 国内論文および著書関連

- 5回 文献調査 Hand book 等 海外論文
- 6回 文献調査 Hand book 等 海外論文
- 7回 文献調査 Hand book 等 海外論文
- 8回 文献調査 Hand book 等 海外論文
- 9回 文献調査 Hand book 等 海外論文
- 10回 論文テーマとの関連を検討し、報告
- 11回 論文テーマとの関連を検討し、報告
- 12回 論文テーマとの関連を検討し、報告
- 13回 分析方法の検討
- 14回 分析方法の検討、分析結果の報告
- 15回 分析結果の報告 まとめ

地域分析論特講

Regional Analysis

学期 前期 **単位** 2 **対象** 他専攻・他研究科受講可能 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義, 実習
担当教員 朝日 幸代 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 地域経済の分析のための基本的方法を学ぶ。そのため、受講生と相談して特定のテーマ（例えば地域経済の実態把握、他地域との比較、産業構造の変化など）を定め、統計データなどを用いて現状を把握し課題を明らかにするための諸手法を、具体的に学ぶ。コンピュータは（IT講義室の）ノートPCを使用し、表計算ソフトMicrosoft Excelや計量経済分析支援ソフトTSPを操作しながら手法を学ぶ予定である。

学習の目的 地域データを適切に処理し、地域経済の現状分析が実際に行う能力を養う。

学習の到達目標 地域データを適切に処理し、地域経済の現状分析ができるようになる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

学習内容

取り上げるテーマによって内容は変わるが、一般的な内容は以下のようである。

1. テーマの選定
- 2-3. 地域経済データの収集

受講要件 ExcelやTSPの使用経験は問わないが、コンピュータの基本的な操作方法（文字入力やインターネットの利用、Excelの関数の利用）程度はできた方がよい。

予め履修が望ましい科目 地域経済論特講, 地域経済論演習, 計量経済学特講, 財政学特講, 現代地方財政特講, 地域経済政策特講, 産業構造論特講, 応用計量経済学特講

発展科目 三重の文化と社会など

教科書 講義中に指示する。

成績評価方法と基準 課題の達成度、授業への参加度等に基づいて評価する。

オフィスアワー 第1週と第4週水曜日12:00～13:00、場所朝日研究室

その他 実習を含めた講義のため、欠席すると講義内容を理解することができなくなります。かならず出席してください。

4-6. 地域経済の分析（消費、所得、生産、労働）

7-9. 地域構造の分析

10-12. 地域間関係の分析

13-15. 時系列分析

地域社会と犯罪特講

Criminal Law and Community

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 田中亜紀子

授業の概要 国際社会あるいは地域社会における犯罪に関する諸問題を検討する。但し、具体的にどのテーマを選択するかについては、受講者と相談の上、決定する。

学習の目的 国際社会あるいは地域社会における犯罪に関する諸問題から、特に受講者の研究と関連して興味をもったテーマについて、基本文献を調査し、知識を深めることができること。

学習の到達目標 国際社会あるいは地域社会における犯罪に関する諸問題から、特に受講者の研究と関連して興味をもったテーマについて、基本的知識を獲得し、それを他者に説明することができるようになること。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対

授業計画・学習の内容

学習内容 学習内容ならびに課題に関する詳細は、最初の講義時に受講者と相談の上、決

話

受講要件 刑法総論、刑法各論を履修済であること

予め履修が望ましい科目 刑法を中心とする刑事諸法

発展科目 犯罪総論特講、刑事手続と人権特講、犯罪報道と人権特講等

教科書

最近の刑事法関係論文をとりあげるを予定
*但し、最初の講義時に受講者と相談の上、決定する

成績評価方法と基準 報告ならびに議論への参加状況により評価する

オフィスアワー 火曜日 14:40-16:10。

定する

犯罪総論演習

Criminal Law Study

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 田中亜紀子 (人文学部)

授業の概要 刑事法領域における現代的な課題を取り上げ、関連文献を輪読する、あるいは受講者それぞれが関心を有するテーマについて調査・報告を行う。

学習の目的 刑事法領域において受講者が特に関心を有するテーマについて、①基本的な知識を身につけることができる、②基本文献などを調査することができる、③プレゼンおよび質疑応答を通じてさらに知識を深めることができる、④該当テーマに関して得た知識を他のテーマの分析などに応用することができる

学習の到達目標 上記目的①から④の中で、①基本的な知識を身につけることができる、②基本文献などを調査することができる、③プレゼンおよび質疑応答を通じてさらに知識を深めることができる、ができるようになること。

授業計画・学習の内容

学習内容 学習内容ならびに具体的な課題は

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 社会人としての態度

受講要件 演習科目であることから、刑法総論、刑法各論を履修済みであり、場合によっては英文テキストに取り組む意欲があることが必要である。

予め履修が望ましい科目 刑法を中心とする刑事諸法

発展科目 犯罪総論特講、地域社会と犯罪特講、刑事手続と人権特講、犯罪報道と人権特講等

教科書 受講者と相談の上決定する

成績評価方法と基準 報告ならびに議論への参加状況により評価する

オフィスアワー 火曜日 14:40-16:10。その他の詳細は第1回目の授業時に説明する

最初の講義時に受講者と相談の上、決定する

中小企業論特講

small business

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義
担当教員 青木 雅生 (人文学部)

授業の概要 日本の中小企業について研究する

識・技術, 論理的思考力, 社会人としての態度

学習の目的 日本の中小企業について、その発展性と問題性の両面から検討する

受講要件 特になし

学習の到達目標 日本の中小企業の現状と今後についての知識を得る

予め履修が望ましい科目 特になし

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知

教科書 黒瀬直宏『複眼的中小企業論』同友館2012年

成績評価方法と基準 平常点100%

授業計画・学習の内容

学習内容

① イントロダクション

②～⑭ 各章ごとについて議論する

⑮ まとめ

多国籍企業論演習

Seminar in Multinational Enterprise

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 森原 康仁 (人文学部)

授業の概要 多国籍企業論および国際経済論にかんする研究課題について、その研究手法を習得する。受講者による研究報告が基本となる。

学習の目的 多国籍企業論および国際経済論について幅広い知識を獲得し、自らの研究課題を具体化する。

学習の到達目標 関連分野の先行研究の到達点と論争点を理解し、自ら資料を収集し、分析できるようになる。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 講義計画の相談

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 とくに用いない。

成績評価方法と基準 平常点

オフィスアワー 随時。メールで予約すること。

第2～8回 先行研究の検討

第9～15回 受講者による研究報告

企業間ネットワーク論特講

Business Network Theory

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 森原 康仁 (人文学部)

授業の概要 企業多国籍化には資本関係の有無を含めて多様な諸形態がある。とくに資本関係をともなわない国際提携は重要性を増している。本講義では企業多国籍化を事例に、企業間ネットワークの多様な形態を学ぶ。

学習の目的 企業間ネットワークの多様な形態について幅広い知識を獲得し、自らの研究課題を具体化する。

学習の到達目標 企業間ネットワークの多様な形態について幅広い知識を獲得すると同時に、先行研究の到達点と論争点を理解する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識

識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書

受講者と相談のうえ決定するが、さしあたり以下を考えている。

・関下稔 [2006] 『多国籍企業の海外子会社と企業間提携——スーパーキャピタリズムの経済的両輪』文真堂。

成績評価方法と基準 平常点

オフィスアワー 随時。メールで予約すること。

授業計画・学習の内容

学習内容

テキスト輪読を原則とする。報告分担を決め、報告者の発表をもとに討論を行う。

第1回 講義計画の相談

第2～8回 基本文献の検討

第9～15回 発展的文献の検討（各自、関連するテーマを報告する）

多国籍企業論特講

Multinational Enterprise

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 森原 康仁 (人文学部)

授業の概要 多国籍企業論および国際経済論にかんする研究課題について、その研究手法を習得する。テキストの輪読および受講生による先行研究の紹介・報告が基本となる。

学習の目的 多国籍企業論および国際経済論について幅広い知識を獲得し、自らの研究課題を具体化する。

学習の到達目標 関連分野の先行研究の到達点と論争点を理解し、自ら資料を収集し、分析できるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 感じる

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 講義計画の相談

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書

受講者と相談して決めるが、さしあたり以下を考えている。

・関下稔 [2002] 『現代多国籍企業のグローバル構造——国際直接投資・企業内貿易・子会社利益の再投資』文真堂。

成績評価方法と基準 平常点

オフィスアワー 随時。メールで予約すること。

第2～8回 テキストの輪読

第9～15回 受講者による先行研究の紹介・報告

福祉経済論特講

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 和田 康紀 (人文学部)

授業の概要 少子高齢化や経済のグローバル化の進展の中で、我が国の社会保障制度は大きな曲がり角に来ているが、本講義では、これら社会保障制度の背後にある思想及び仕組み、並びにそれぞれの制度が抱える問題点について解説し、今後の社会保障制度のあり方について考察を深める。

学習の目的 これから数年の間に行われる社会保障制度改革の議論の中で、政党や国民各層から提示されてくる様々な改革案について、自らそれぞれの課題を発見し、考察を深め、自身の立場を決定し、政治的な意思表示(投票等)を行うことができる能力を、高レベルで身につける。

学習の到達目標 各社会保障制度の背景にある基本的な思想と制度の基本的な枠組みを理解するとともに、それらを基にして、与えられた関連する情報データ等を活用しながら、

現在、制度が抱えている課題と今後の制度のあり方についての自身の考えを論じられる能力を、高レベルで身につける。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 特になし。毎回レジュメを配布する予定。参考書は適宜紹介。

成績評価方法と基準 授業への出席及び積極的な関与50%、レポート50%

オフィスアワー 毎週月曜日13:00~14:30、場所人文学部5階和田研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 ガイダンス、社会保障を取り巻く社会状況
- 第2回 社会保障の概念、範囲、歴史、機能
- 第3回 社会保障の財源と費用
- 第4回 社会保険と社会扶助、公的保険と民間保険
- 第5回~第6回 年金制度

- 第7回~第8回 医療制度
- 第9回 介護保険制度
- 第10回 雇用保険制度
- 第11回 労働者災害補償保険制度
- 第12回 生活保護制度
- 第13回 障害者福祉・雇用制度
- 第14回 児童家庭福祉制度
- 第15回 履修生からのレポート発表

福祉経済論演習

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 和田 康紀 (人文学部)

授業の概要 我が国の社会保障制度が抱える課題及び今後のあり方について、担当教員による解説、受講生による研究発表とディスカッション、現場視察とその結果を踏まえたディスカッションを通じて、考察を深める。

学習の目的 我が国の社会保障制度が抱える課題を理解するとともに、課題を解決するにはどのようにすればよいかについて、文献調査及び現場視察の結果を踏まえながら、自分自身で考え抜き、他の学生や指導教官とのディスカッションを通じて、自身の考えを整理できる能力を、高レベルで身につける。

学習の到達目標

我が国の社会保障制度が抱える課題を的確に理解すること

社会保障制度が抱える課題について、自分で文献等に当たって主体的に調査する好奇心を身につけること

社会保障の現場が抱える問題点を、肌で感じられる感性を身につけること

文献調査及び現場視察の結果を踏まえ、自分の頭で解決策を考え、それを他の学生や指導

教官とのディスカッションの中で磨きあげながら、最終的に納得できる解決策に落とし込んでいく論理的思考力を、高レベルで身につけること

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 講義の都度、当方で用意するか、あらかじめ指示する。

成績評価方法と基準 授業への出席及び積極的な関与50%、資料・レポートの作成50%

オフィスアワー 毎週月曜日13:00~14:30、場所人文学部5階和田研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回~第15回 担当職員による社会保障政策の動向に関する解説、受講生による研究発表と

ディスカッション、社会保障の現場視察とその結果を踏まえたディスカッションを予定。

具体的内容については、履修生と相談の上、決定する。

社会保障論特講

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 和田 康紀 (人文学部)

授業の概要 年金、医療、介護、雇用問題をはじめとして、社会保障の分野の動向からは目が離せない状況になっている。本講義では、ここ数年の間に問題になった社会保障関係の個別分野（問題）に焦点を当てて、その現状や具体的に生じている問題について掘り下げて解説するとともに、それら課題の解決方法について講義を通じて考察することで、当該問題について理解を深める。

学習の目的

学生が、講義で取り上げられた問題の現状や具体的に生じている課題等について理解した上で、社会的にもっとも望ましいと思われる課題策について考察し、自分自身の意見として論じることができる能力を身につけることを目的とする。

さらに、当該問題に関連する分野の他の問題についても関心を広げ、同様の意思表示ができるようになることを目指す。

学習の到達目標 学生が、講義で取り上げられた問題の現状等についての資料を参考にし

ながら、社会的にもっとも望ましいと思われる解決策について、自身の考えを根拠とともに論じられる能力を身につけることを到達目標とする。

本学教育目標との関連 感性、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 特になし、毎回レジュメを用意する予定。関連書籍については、適宜紹介する。

成績評価方法と基準 授業への出席及び積極的な関与50%、レポート50%

オフィスアワー 毎週月曜日13:00～14:30、場所人文学部5階和田研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回～第15回 講義とディスカッション（毎回

一話完結方式で年金、医療、介護、雇用等についての個別問題を取り上げる）

家族法と政策特講

Special Lecture on Family Law and Policy

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 稲垣 朋子

授業の概要

この授業では、2000（平成12）年にスタートした成年後見制度を取り上げる。制度導入後10年以上が経過し、浮き彫りとなった様々な問題もある。これらの問題を学んだ後、各自テーマを選び、報告・議論を行う。

学習の目的

法定後見、任意後見に対する理解を深め、本人の意思の尊重と保護のバランスを考える。必要に応じて外国の法政策も参照し、高齢化社会の中で重要性を増すわが国の成年後見の今後のあり方について議論する。

学習の到達目標

法定後見、任意後見のそれぞれの制度について、基礎事項および重要な問題を説明することができる。そして、それに関する自らの考

えを述べ、より良い制度とするにはどのような対策が講じられるべきか提示することができる。

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書

特に指定しない。

成績評価方法と基準

平常点（報告・議論）100%

オフィスアワー 木曜日7・8限 人文棟4階研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス、報告テーマの決定

第2～4回 成年後見をめぐる諸問題の概説・検

討

第5～14回 報告・議論

第15回 総括

比較家族法演習

Special Studies on Comparative Family Law

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 2年次 授業の方法 演習 授業の特徴

能動的要素を加えた授業

担当教員 稲垣 朋子

授業の概要

家族法において各自が関心のあるテーマを取り上げ、報告・議論を行う。報告を重ね、最終的にはその結果をレポート（1万字程度）にまとめる。

学習の目的

家族法の諸論点・課題について、国内外の先行研究を踏まえたうえで、各自問題意識を持って考察する。他者の意見を受け、さらに掘り下げて検討する。

学習の到達目標

家族法の諸論点に関する様々な立場・考え方を説明することができる。そして、その問題解決のためには何が必要とされるかについて、意見を述べることができる。

本学教育目標との関連 倫理観,モチベーション,主体的学習力,専門知識・技術,論理的思考力,課題探求力,問題解決力,批判的思考力,情報受発信力,討論・対話力,実践外国語力,感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書

特に指定しない。

成績評価方法と基準

平常点（報告・議論）およびレポートによる。

オフィスアワー 木曜日7・8限 人文棟4階研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス、報告テーマの決定

第2～14回 報告・議論

第15回 総括

比較家族法特講

Special Lecture on Comparative Family Law

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 稲垣 朋子

授業の概要

比較法的な検討も交えて親族法の今後の課題について論じた大村敦志・河上正二・窪田充見・水野紀子編著『比較家族法研究―離婚・親子・親権を中心に』（商事法務、2012）で取り上げられているテーマから、受講者の関心に応じて報告をしてもらい、議論する。

学習の目的

親族法の現行制度と立法に向けた動きを捉え、諸論点を理解し、さらに自らの調査・研究に基づき考察を加える。

学習の到達目標

親族法とその課題を検討することにより、親族法を体系的に理解し、親族法における様々な問題について立法政策を含め、自らの見解を述べるができる。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス、報告テーマの決定

第2～7回 報告・議論

（離婚、実子、養子、親権における諸課題）

本学教育目標との関連

倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書

大村敦志・河上正二・窪田充見・水野紀子編著『比較家族法研究―離婚・親子・親権を中心に』（商事法務、2012）

成績評価方法と基準

平常点（報告・議論）100%

オフィスアワー 木曜日7・8限 人文棟4階研究室

第8～14回 報告・議論

（比較法調査・研究）

第15回 総括

計量経済学特講

Econometrics

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

担当教員 嶋恵一

授業の概要

経済分析の目的は、景気の判断、経済制度をめぐる問題の指摘、経済政策の有効性の吟味に集約できると思います。いずれも、多くのデータに基づく客観的証拠を求めます。計量経済学は経済データを統計学の手法を用いて分析する研究分野です。この特講では初級の計量経済分析を学びます。

学習の目的

初級の計量経済学を学び、統計データを用いた経済分析手法を習得します。

学習の到達目標

回帰分析の応用により、マクロ経済統計を用いた景気判断や経済政策の吟味などができるようになることを目標とします。

授業計画・学習の内容

学習内容

1-2.イントロダクション、講義内容に関する打ち合わせ

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力

予め履修が望ましい科目

統計学、計量経済学、経済学に関する分野の科目（ミクロ経済学、マクロ経済学など）、また応用分野の科目である金融、財政、労働、国際経済学などの履修経験があれば、経済分析に役立ちます。

発展科目

計量経済学演習、応用計量経済学特講

教科書

用いません。

成績評価方法と基準

レポート提出と出席回数に基づき評価します。

3-5.経済分析の基礎：経済モデルと実証分析

6-10.回帰分析：単回帰、重回帰

11-15.回帰分析による経済実証分析

計量経済学演習

Econometrics Seminar

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 嶋恵一

授業の概要

計量経済学の手法による経済分析を演習形式で学びます。分析対象となる課題を選び、必要なデータを準備して、実証分析を行います。以上の一連の作業について、担当教員と相談しながら進めてゆき、計量経済分析の基礎を習得します。

学習の目的 実証分析と呼ばれる計量経済分析の行い方を、担当教員の補助の下で習得し、今後独力で分析が行えるようになることを目的とします。

学習の到達目標

独力で実証分析の課題を設定して、統計データを収集して分析するまでの作業を習得することが到達目標です。

授業計画・学習の内容

学習内容

1-2.イントロダクション、受講者との打ち合わせ
3-5.経済分析：経済モデルと実証分析の関係に

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力

受講要件

計量経済学特講の履修経験、あるいは同等の知識があることを受講要件とします。

予め履修が望ましい科目

特に定めていません。

教科書

用いません。

成績評価方法と基準

課題提出、課題発表の二つを総合して評価します。

関する整理

6-8.経済分析課題の設定

7-12.分析準備、中間報告、改善

13-15.最終課題報告、課題提出

応用計量経済学特講

Applied Econometrics

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

担当教員 嶋恵一

授業の概要 計量経済学を応用し、特定の経済モデルや経済課題に関連した実証分析を行います。分析課題を受講者が特定し、担当教員と一緒に分析手法を考え計量経済分析を行います。講義と演習を織り交ぜます。

学習の目的

計量経済学の応用による経済分析を行います。経済データを用いて科学的な分析結果を示し、現実の経済が抱える問題を客観的に特定する手法の習得が目的です。

学習の到達目標

具体的な課題を定めて実証による経済分析を行い、それを修士論文などで研究報告できるようにすることを到達目標とします。

授業計画・学習の内容

学習内容

1-2.イントロダクション：講義内容の絞り込み、経済分析課題に関する打ち合わせ
3-7.計量経済分析の基礎と応用

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力

受講要件

計量経済学特講の履修経験、あるいは同等の知識があることを受講要件とします。

予め履修が望ましい科目

教科書

用いません。

成績評価方法と基準

課題提出、中間・最終報告を総合して成績評価します。

6-10.分析課題の特定と準備：データの収集と経済モデルの選択
11-15.実証分析：中間報告、最終報告

比較憲法論特講

Comparative Constitutional Law

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 内野 広大

授業の概要

憲法 (constitution) は、あなたの外にあってあなたを都合よく救ってくれるものではない。そして崇拜する対象でもない。それは、ほかならぬ「あなた」という実存の場を通じて、限定され創造されていくものである。

本特講では、このように創造されていく日本国の憲法の現在の姿を、憲法上の権利論の観点から、他国 (イギリス) の憲法との対話を通じて見定めていく。具体的には、まず、日本語で書かれたイギリス憲法に関する体系書を読み、日本法とイギリス法の対応関係・差異について簡単に確認し、基本的知識を習得したのち、次に、受講者が興味関心を抱いたトピックについて英語で書かれた体系書を翻訳していくことにより、日本法とイギリス法の差異がどうして生じているのかを探究していく。

なお、受講者の希望により、日本法の文献を精読していくことも考えている。

学習の目的 学術的な英文を読解する初歩的

な能力を身につけるとともに、日本国の憲法という自己の姿を、他国との比較を通じてより深く見定める。

学習の到達目標

- ① イギリス憲法の権利論につき概要を知ることができる。
- ② 比較法の初歩的な方法論を身につけることができる。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力

受講要件 自己の研究課題に真摯に取り組むこと。

予め履修が望ましい科目 共通教育科目 (日本国憲法) ・人文学部専門科目 (憲法・憲法制度論)

成績評価方法と基準 報告100%

オフィスアワー 毎週月曜日14:00~15:30

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

報告の仕方・形式を簡単に説明し、報告担当者を決める。また、どの程度英語の読解能力を身につけたいのか等、受講者の希望について聞き取りを行う。

第2回~第5回 イギリス憲法に関する日本語の体系書のうち権利論の部分を読解する。

第6回~第15回 イギリス憲法に関する英語の体系書のうち権利論の部分を読解する。

比較憲法論演習

Comparative Constitutional Law

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 内野 広大

授業の概要

憲法 (constitution) は、あなたの外にあってあなたを都合よく救ってくれるものではない。そして崇拜する対象でもない。それは、ほかならぬ「あなた」という実存の場を通じて、限定され創造されていくものである。

本演習では、このように創造されていく日本国の憲法の現在の姿を、統治機構論の観点から、他国 (イギリス) の憲法との対話を通じて見定めていく。具体的には、まず、日本語で書かれたイギリス憲法に関する体系書を読み、日本法とイギリス法の対応関係・差異について簡単に確認し、基本的知識を習得したのち、次に、受講者が興味関心を抱いたトピックについて英語で書かれた体系書を翻訳していくことにより、日本法とイギリス法の差異がどうして生じているのかを探究していく。

なお、受講者の希望により、日本法の文献を精読していくことも考えている。

学習の目的 学術的な英文を読解する初歩的

な能力を身につけるとともに、日本国の憲法という自己の姿を、他国との比較を通じてより深く見定める。

学習の到達目標

- ① イギリス憲法の統治機構論につき概要を知ることができる。
- ② 比較法の初歩的な方法論を身につけることができる。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力

受講要件 自己の研究課題に真摯に向き合うこと。

予め履修が望ましい科目 共通教育科目 (日本国憲法) ・人文学部専門科目 (憲法・憲法制度論)

成績評価方法と基準 報告100%

オフィスアワー 毎週月曜日14:00~15:30

授業計画・学習の内容

学習内容

憲法学に関する修士論文を執筆したい等、最終的には受講者の希望に応じて学習内容を定めることになるが、さしあたり学習内容を例示しておけば以下のとおりである。

第1回 ガイダンス

報告の仕方・形式を簡単に説明し、報告担当

者を定める。また、どの程度英語の読解能力を身につけたいのか等、受講者の希望について聞き取りを行う。

第2回~第5回 イギリス憲法に関する日本語の体系書のうち統治機構論の部分を読解する。

第6回~第15回 イギリス憲法に関する英語の体系書のうち統治機構論の部分を読解する。

基本的人権論特講

Constitution (human rights)

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

担当教員 内野 広大

授業の概要

憲法 (constitution) は、あなたの外にあってあなたを都合よく救ってくれるものではない。そして崇拜する対象でもない。それは、ほかならぬ「あなた」という実存の場を通じて、限定され創造されていくものである。

本特講では、このように創造されていく憲法を、憲法上の権利論の観点から見ていくことにしたい。具体的には、まず、最高裁判所が形成してきた基本的な憲法判例の特徴を、地裁・高裁段階の判断あるいは先行する司法的先例と比較することで浮き彫りにし、次に、憲法判例と学説上の議論とを比較対照することで、憲法判例の背後にある「判例理論」を際立たせていく。

学習の目的 判例理論を析出し、それに対して評価を加え、自らの見解を論理的に組み立てる姿勢を涵養する。

学習の到達目標

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 ガイダンス

報告の仕方・形式を簡単に説明し、報告者が興味関心を抱いた憲法判例について聞き取りを行う。また、報告の順番を決める。なお、受講者数によってはグループによる報告の形態となりうるかもしれませんので、ご了承ください。

第2回～第15回 受講者による報告

① 判決文がどのような構成をしているのかを知ることができる。

② 憲法が実践の場で他の法分野とどのようにかわり、どのようなかたちで訴訟上取り扱われているのかを体得することができる。

③ 基本的な憲法判例の背後にある思考の仕方を習得することができる。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力

受講要件 自己の研究課題について真摯に向き合うこと。

予め履修が望ましい科目 共通教育科目 (日本国憲法) ・人文学部専門科目 (憲法・憲法制度論)

成績評価方法と基準 報告100%

オフィスアワー 毎週月曜日14:00～15:30

主に次のような内容にかかわる憲法判例を検討する。

幸福追求権 法の下での平等 思想・良心・学問の自由 信教の自由と政教分離原則

表現の自由 経済的自由 生存権 教育を受ける権利 勤労者の基本的人権

適正手続を受ける権利と行政手続 人権の享有 主体性 人権の妥当範囲

中小会社法制特講

Special Lecture on Small Company Law

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 名島利喜

授業の概要 小規模閉鎖型の中小企業に対する法的規制のあり方、立法政策的課題について検討していく。

学習の目的 株式会社法の理念と現実との乖離という問題意識を身につける。

学習の到達目標 解決すべき現実的問題を具体的な例に即しながら明確につかむことができるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 課題探

求力, 問題解決力, 情報受発信力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 会社法

教科書 開講時に指示する。

成績評価方法と基準 平常点100%。

オフィスアワー 毎週 火曜日 13:00～14:30、場所 名島研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

講義:

第1回 ガイダンス

第2回～第4回 会社の設立・定款・公告

第5回～第7回 株式・資本制度

第8回～第10回 会社の機関と運営

第11回～第13回 資金調達・投下資本の回収

第14回～第16回 企業形態の選択肢

会社法特講

Special Lecture on Corporation Law

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 名島利喜

授業の概要 株式会社法の問題点を総合的・体系的に検討する。

学習の目的 当たり前とされていることを疑い、執拗に考え抜くことができるようになる。

学習の到達目標 株式会社法上の個々の問題のもつ意味を分析し、どこに本当の問題があるかを理解できるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 会社法

教科書 開講時に指示する。

成績評価方法と基準 平常点100%。

オフィスアワー 毎週 金曜日 16:20～17:20、場所 名島研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

講義:

第1回 ガイダンス

第2回～第10回 教科書を正確にかつ深く読み込む

第11回～第16回 各トピックについて討議する

会社法演習

Special Studies on Corporation Law

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 演習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 名島利喜

授業の概要 会社法の豊富な論点の中から、受講生が選び出した論点について報告してもらい、質疑応答を行なう。

思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 正しいとされていることを疑い、自分が納得できるまで考え続けることができるようになる。

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 会社法

学習の到達目標 会社法の解釈論上の重要論点について、自分の考えを論理的に展開することができるようになる。

教科書 開講時に指示する。

成績評価方法と基準 平常点100%。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的

オフィスアワー 毎週金曜日 16:20~17:50、場所 名島研究室

授業計画・学習の内容

学習内容

講義:

第1回 ガイダンス

第2回~第5回 会社法の基本的な骨格と機能を

概観する

第6回~第16回 担当者の報告と質疑応答を行なう

行政学特講

Public Administration (Lecture)

学期 前期 単位 2 授業の方法 講義

担当教員 樹神 成 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 道州制についての議論を検討する

をつける

学習の目的 社会科学（法律、政治、経済、経営）の諸問題に関して、幅広い視野にもとづく確かな専門知識と深い学識を備えている。

予め履修が望ましい科目 政治学、憲法、行政法および地方自治法

教科書 検討する文献を予め指示する

成績評価方法と基準 出席と発表

学習の到達目標 道州制論について分析能力

オフィスアワー 連絡により随時

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.戦前の道州制論
- 2.戦後の地方自治改革と道州制
- 3.戦後地方自治の定着と広域行政論
- 4.自治省と府県重視

- 5.四全総と圏域論
- 6.地方分権と広域行政
- 7.道州制の具体案
- 8.道州制の課題

地方分権と自治体行政特講

decentralization and local government

学期 後期 単位 2 授業の方法 講義

担当教員 樹神 成 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 戦後日本の行政史を検討する

学習の到達目標 戦後日本の行政史について
分析能力を身につける

学習の目的 社会科学（法律、政治、経済、
経営）の諸問題に関して、幅広い視野にもと
づく確かな専門知識と深い学識を備えてい
る。

教科書 予め文献を指示する

成績評価方法と基準 出席と発表

オフィスアワー 連絡により随時

授業計画・学習の内容

学習内容 金融行政と国土計画行政を取り上
げ、そこにおける、政官財の構造を行政史と

いう視点から分析する

行政学演習

Public Administration (Seminar)

学期 前期 単位 2 授業の方法 演習

担当教員 樹神 成 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 統治機構について基本的な知識を身につける

学習の到達目標 統治機構について基本的知識を身につける

学習の目的 社会科学（法律、政治、経済、経営）の諸問題に関して、幅広い視野にもとづく確かな専門知識と深い学識を備えている。

予め履修が望ましい科目 政治学、憲法、行政法、地方自治法

教科書 山口二郎『内閣制度』他

成績評価方法と基準 出席と発表

授業計画・学習の内容

学習内容 議院内閣制についての政治学、行政学および憲法の基本文献・最新成果を読む